

KYUSHU UNIVERSITY
FACT BOOK 2020



【表紙について】

場所：伊都キャンパス メイン・エントランス

書家の柿沼康二氏が揮毫

銘板「第8回 福岡県屋外広告景観賞」最優秀賞を受賞

IR 室長メッセージ

九州大学インスティテューショナル・リサーチ(IR)室は、平成 28 年 4 月に設置されました。大学の諸活動の自己点検・評価とその結果の分析に基づいた改革・改善は、大学の機能強化に不可欠となっています。このため国立大学法人には、自らが定めた中期目標・計画の達成度に関する法人評価、教育の質保証のための認証評価への対応が法的な義務となっています。本学では、法人化以前の平成 13 年に大学評価を推進する評価情報開発室を設置し、その後、業務の拡張に伴い、平成 16 年に大学評価情報室に改組して体制を強化し、「国立大学法人評価」や「大学機関別認証評価」等の業務を担当してきました。大学評価情報室は、このような評価業務には対応できませんが、自己点検・評価の結果を分析し、数値指標やエビデンスを伴った定性的な指標に基づいて、大学の改革・改善の推進を支援する機能は殆ど備わっていませんでした。九州大学 IR 室は、総長のリーダーシップの下に、大学の運営や経営を戦略的にマネジメントできるガバナンス体制の充実を支援する目的で、評価業務に加え、この機能を強化した部署として設置されたものです。中央教育審議会大学分科会によれば、IR とは、「教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究」とされています。

「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」に基づいて改革・改善の方針を示すことによって、大学の構成員が、改革・改善の必要性を共通に理解でき、また、改革・改善の方針への合意形成も進むと考えられます。このような観点から、IR 室の最も重要な業務の一つは、「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」を集積することです。

これまで大学の各部署には、多種多様で膨大な数のデータが蓄積されてきました。しかも担当部署（時には担当者）が最も収集しやすい形、利用しやすい形、あるいは提出要請先の要求に沿う形などで集積されてきました。さらには、同じ種類の同じ期間を対象にしたデータであっても、データの定義が異なっている場合も少なくありません。このような状況下では、単にデータの提供元から IR 室が収集しただけでは、「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」にはなり得ません。IR 室では、事務部各部署の尽力のもとで、学内に散在するデータを「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」にするべく集積を実施してきました。一方で、データの情報公開には格段の留意が求められます。この点についても、公開範囲の区分を精査し、データの集積元とも協議をしながら区分けを進めてきました。

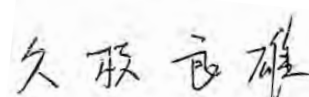
この「KYUSHU UNIVERSITY FACT BOOK 2020」は集積・整理したデータの一部ではありますが、大学や各部局等の現状を把握し、改革・改善や将来計画策定に利用していただくことを目的に作成しており、データを「経年」で表現することで、本学の「これまで」を読み取り、その上で「この先」をある程度推測することが可能となっています。

さらに、大学の研究力分析の一例も掲載しており、これを参考に各部局では SciVal や Pure を活用して、自部局の研究力分析を行っていただきたいと考えています。

また本書は、IR 室 Web サイト上で PDF 版及び Interactive 版として公開しています。中でも Interactive 版は、随時データを更新し、さらには利用者が必要な情報だけを選択・表示することが可能となっておりますので、是非ご活用ください。

前述のとおり本書は Web 上で公開しており、九州大学の構成員はもとより、学外から九州大学を支えていただいているステークホルダーの皆様にも、九州大学の現状をご覧いただけるようになっています。今後 IR 室がなすべき評価と改革・改善支援の機能を充実させるためにも、皆様方からのご協力とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和 2 年 11 月 IR 室長



九州大学教育憲章

第1条（趣旨）

九州大学は、日本国民のみならず、世界中の人々からも支持される高等教育を一層推進するために、この教育憲章を定めることとする。

第2条（教育の目的）

九州大学の教育は、日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献することを目的とする。

第3条（人間性の原則）

九州大学の教育は、秀でた人間性を有する人材を育成し、上記の目的を達成するために、次のことを指向することとする。

- (a) 人間の尊厳を守り、生命を尊重すること。
- (b) 人格、才能並びに精神的及び肉体的な能力を発達させること。
- (c) 真理と正義を愛し、個性豊かな文化の創造をめざすこと。
- (d) 自然環境を守り、次世代に譲り渡すこと。

第4条（社会性の原則）

九州大学の教育は、秀でた社会性を有する人材を育成し、上記の目的を達成するために、次のことを指向することとする。

- (a) 自由な社会に積極的に参加し、勤労を尊び、責任ある生活を送ること。
- (b) 基本的人権を尊重すること。
- (c) 両性の平等を尊重すること。
- (d) 必要な政治的教養を含む市民的公共性を育成すること。

第5条（国際性の原則）

九州大学の教育は、秀でた国際性を有する人材を育成し、上記の目的を達成するために、次のことを指向することとする。

- (a) アジアをはじめ全世界の人々の文化的、社会的、経済的発展に寄与すること。
- (b) 種族的、国民的及び宗教的集団の間の理解、寛容及び友好を促進すること。
- (c) 世界の平和に貢献し、将来の世代を戦争の惨害から守ること。
- (d) 国際連合憲章の謳う原則を尊重すること。

第6条（専門性の原則）

九州大学の教育は、秀でた専門性を有する人材を育成し、上記の目的を達成するために、次のことを指向することとする。

- (a) 人間性の原則、社会性の原則及び国際性の原則並びに実際の生活に即して、専門性を深化、発展させること。
- (b) 科学技術の発達と学術文化の振興を融合させること。
- (c) 独創性、創造性を重視すること。
- (d) 専門家としての職業倫理を育成すること。
- (e) 学問の自由及び専門家の自律性を尊重すること。

第7条（一体性の原則及び職責の遂行等）

- 1 九州大学は、全学一体となって、上記の教育目的及び原則の達成に取り組むこととする。九州大学の教職員及び学生は自己の使命を自覚し、その職責等の遂行に努めなければならない。
- 2 前項の職責を遂行するために、教育研究組織の自治及び構成員の身分は尊重されなければならない。

九州大学学術憲章

第1条（趣旨）

九州大学は、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献し得る研究活動を促進してゆ�ために、この学術憲章を定めることとする。

第2条（研究の使命）

- (1) 九州大学は最高学府として、人類が長きにわたって遂行してきた真理探求の道とそこに結実した古典的・人間的叡知とを尊び、これを将来に伝えてゆくことを使命とする。
- (2) 九州大学はまた、諸々の学問における伝統を基盤として新しい展望を開き、世界に誇り得る先進的な知的成果を産み出してゆくことを使命とする。

第3条（研究の理念と倫理性）

- (1) 九州大学は、伝統に学びそこに見られる知的探求を尊びつつ、現代に生きる我々に相応しい知の深化と発展とを指向する。
- (2) 九州大学は、創造的かつ独創的な学術研究を重視し、学問の自由および研究者の自律性を尊重する。
- (3) 九州大学はさらに、人間的叡知と科学的知識との調和に努めつつ、諸々の知の実践的価値を追求してゆく。
- (4) 九州大学は、科学が自然環境と人類の生存とに重大な影響を与えることをつねに顧慮し、自らの良心と良識とに従って、社会の信頼に応え得る研究活動の遂行に努める。

第4条（研究の社会的・国際的貢献）

- (1) 九州大学は、大学の理念としての真理探求の精神を堅持すると共に、その研究活動を通じて、長期的な視野のもと、人類の福祉と文化の発展、ならびに世界の平和に貢献してゆくべく努める。
- (2) 九州大学の研究はまた、普遍性と汎用性を目指して広く社会の要請に応え、かつその立地する地域社会に貢献するものとなるよう努める。
- (3) 九州大学は、開かれた大学としてその研究成果を学外に開示し、さらには活発な情報発信や人的交流、諸研究機関や産業界との連携に努めながら、学術研究の国際的拠点となることを目指す。

第5条（研究と教育の融合）

九州大学は、世界的に活躍し得る人材を育成し輩出する使命を有しており、研究と教育との機能を調和・融合させながら、人類の未来を託するに足る人材の養成を目指す。

第6条（一体性と職責の遂行）

九州大学は、教職員と学生とが一体となって、上記の事柄の達成に取り組むこととする。九州大学の教職員と学生は自己の使命をよく自覚し、それぞれの責任の遂行に努めなければならない。

目次

目次	1
令和元年度 重点的に取り組んだ事項	6

1. 概要・他大学との比較

1-1.	九州大学の概要	17
1-1-1.	学部等の構成	17
1-1-2.	学生数及び教職員数	17
1-2.	主要キャンパス	18
1-3.	他大学との比較－規模－（国立大学間）	19
1-4.	他大学との比較－教育－（国公立大学間）	23
1-5.	他大学との比較－就職－（国公立大学間）	25
1-6.	他大学との比較－国際－	27
1-7.	他大学との比較－評価－	29
1-8.	他大学との比較－その他－	31
1-9.	他大学との比較－国立七大学間－	32

2. 教職員数等

2-1.	教職員数	34
2-2.	教員数	35
2-2-1.	教員数（全体）	35
2-2-2.	外国籍を有する教員数	36
2-2-3.	女性教員数	38
2-2-4.	主幹教授数	39
2-2-5.	教員組織の年齢構成	39
2-2-6.	教員数（部局別）	40
2-3.	特定有期教員数	49
2-3-1.	特定有期教員数（全体）	49
2-3-2.	特定有期教員数（外国人教員）	49
2-3-3.	特定有期教員数（女性教員）	49
2-4.	特命教授数	50
2-5.	招へい外国人教師等数	50
2-6.	非常勤講師数	50
2-7.	学術研究員等数	51
2-7-1.	学術研究員等数（全体）	51
2-7-2.	学術研究員等数（外国籍及び女性数）	51
2-7-3.	特任教授等数	51

2-8.	事務職員・技術職員等数	52
2-8-1.	事務職員・技術職員等数(全体)	52
2-8-2.	事務職員・技術職員等数(女性数及び女性比率)	52
2-8-3.	事務職員・技術職員等数(部局別)	53
2-9.	特定有期事務・技術系職員数	58
2-10.	事務・技術補佐員等数	58
2-11.	高度専門職員数	58

3. 学生数

3-1.	学士課程	59
3-1-1.	学部(全体)	59
3-1-2.	学部(学部別・在籍学生数)	60
3-2.	修士課程	62
3-2-1.	修士課程(全体)	62
3-2-2.	修士課程(学府別・在籍学生数)	63
3-3.	専門職学位課程	66
3-3-1.	専門職学位課程(全体)	66
3-3-2.	専門職学位課程(学府別・在籍学生数)	67
3-4.	博士後期課程	68
3-4-1.	博士後期課程(全体)	68
3-4-2.	博士後期課程(学府別・在籍学生数)	69

4. 志願状況

4-1.	志願状況(学部)	72
4-1-1.	志願状況推移(学部)	72
4-1-2.	志願状況推移(学部・一般選抜)	73
4-1-3.	志願状況推移(学部別)	74
4-2.	志願状況(大学院)	80
4-2-1.	志願状況推移(大学院_修士課程)	80
4-2-2.	志願状況推移(大学院_専門職学位課程)	84
4-2-3.	志願状況推移(大学院_博士後期課程)	85

5. 入学状況

5-1.	入学状況(学部)	90
5-1-1.	入学者数推移(全体)	90
5-1-2.	入学者数推移(学部別)	91
5-1-3.	出身地域別入学者数推移	93
5-2.	入学状況(修士課程)	96
5-2-1.	入学者数推移(全体)	96
5-2-2.	入学者数推移(学府別)	97

5-3.	入学状況(専門職学位課程)	101
5-3-1.	入学者数推移(全体)	101
5-3-2.	入学者数推移(学府別)	102
5-4.	入学状況(博士後期課程)	103
5-4-1.	入学者数推移(全体)	103
5-4-2.	入学者数推移(学府別)	104

6. 学位取得状況

6-1.	学部卒業者状況	109
6-1-1.	学部卒業者状況(全体)	109
6-1-2.	学部卒業者状況(学部別)	110
6-2.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況	111
6-2-1.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(全体)	111
6-2-2.	修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(学府別)	112
6-3.	専門職学位課程修了者状況	114
6-3-1.	専門職学位課程修了者状況(全体)	114
6-3-2.	専門職学位課程修了者状況(学府別)	115
6-4.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況	116
6-4-1.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(全体)	116
6-4-2.	博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(学府別)	117

7. 進路・就職状況

7-1.	学部卒業者の進路・就職状況	119
7-1-1.	学部卒業者の進路・就職状況(全体)	119
7-1-2.	学部卒業者の進路・就職状況(学部別)	120
7-2.	修士課程修了者の進路・就職状況	122
7-2-1.	修士課程修了者の進路・就職状況(全体)	122
7-2-2.	修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)	123
7-3.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況	126
7-3-1.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(全体)	126
7-3-2.	博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)	127

8. 資格試験等合格状況

8-1.	司法試験合格状況	130
8-2.	各種資格試験・採用試験合格状況	132

9. 研究

9-1.	ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向	137
9-2.	論文の量と質についての比較	139
9-3.	国際共著論文	147

10. 国際

10-1.	海外大学との交流状況	150
10-1-1.	海外大学との交流状況(大学間交流協定)	150
10-1-2.	海外大学との交流状況(部局間交流協定)	150
10-2.	本学学生の海外留学状況	151
10-2-1.	本学学生の海外留学状況(全体)	151
10-2-2.	本学学生の海外留学状況(部局等別)	152
10-2-3.	本学学生の海外留学状況(地域別)	153
10-2-4.	本学学生の海外留学状況(部局等別・地域別)	154
10-3.	外国人留学生の受入状況	157
10-3-1.	外国人留学生の受入状況(全体)	157
10-3-2.	外国人留学生の受入状況(部局等別)	158
10-3-3.	外国人留学生の受入状況(課程別)	158
10-3-4.	外国人留学生の受入状況(出身地域別)	159

11. 産学官連携

11-1.	共同研究の状況	160
11-1-1.	共同研究実績の推移	160
11-1-2.	共同研究実績の推移(分野別)	161
11-2.	受託研究の状況	162
11-2-1.	受託研究実績の推移	162
11-2-2.	受託研究実績の推移(分野別)	163
11-3.	知的財産関連	164

12. 附属病院

12-1.	医師数等	167
12-2.	看護職員等	168
12-3.	病床稼働率	169
12-4.	患者数と手術件数の推移	170
12-4-1.	患者数の推移(入院患者数)	170
12-4-2.	患者数の推移(外来患者数)	171
12-4-3.	手術件数の推移	172
12-5.	平均在院日数の推移	173
12-6.	病床数の比較	173

13. 収入・支出

13-1.	収入・支出予算	174
13-2.	収入予算額の推移	175
13-3.	支出予算額の推移	175
13-4.	科学研究費助成事業・寄附金収入・産学連携等研究収入の推移	176

13-5.	科学研究費助成事業	176
13-5-1.	科学研究費助成事業の推移	176
13-5-2.	科学研究費助成事業の推移(研究種目別)	177
13-5-3.	科学研究費助成事業の比較(各大学)	182
13-6.	寄附金収入の推移	183
13-7.	産学連携研究収入の推移	183
13-7-1.	産学連携研究収入の推移(受託研究)	183
13-7-2.	産学連携研究収入の推移(共同研究)	183

14. 研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

14-1.	研究プログラム採択状況	184
14-2.	教育プログラム採択状況	186



基本理念

自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証し、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の教育研究拠点となる

九州大学アクションプラン2015-2020（骨子）

- I 世界最高水準の研究とイノベーション創出
- II グローバル人材の育成
- III 先端医療による地域と国際社会への貢献
- IV 学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり
- V 組織改革
- VI 社会と共に発展する大学

<重点取組>

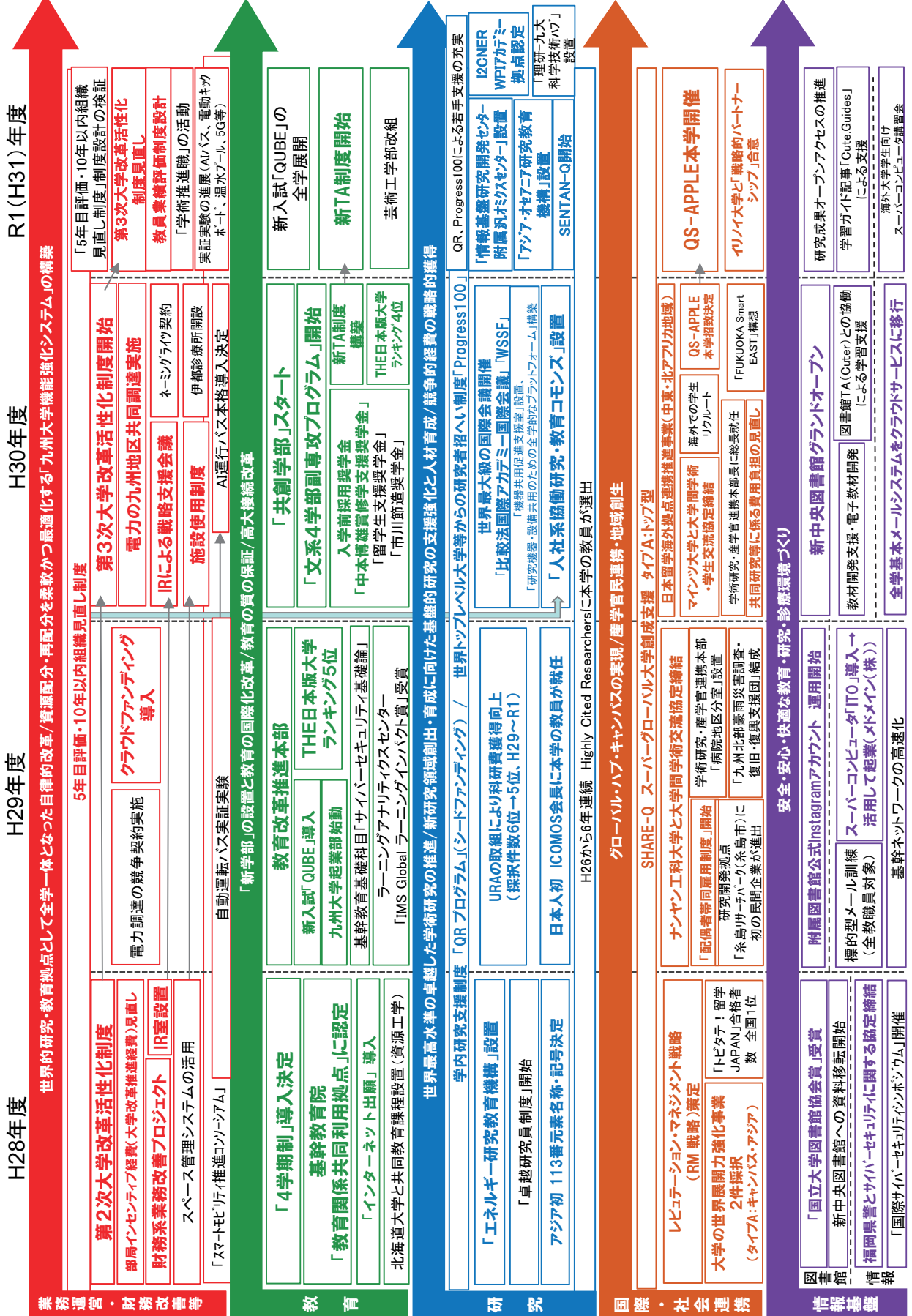
- 研究教育機構創設によるイノベーションの創出
- 新学部設置によるグローバルに活躍する人材の育成
- 人文社会科学分野等の再編成・機能強化による九州大学の更なる活性化

エネルギー研究教育機構
アジア・オセアニア研究教育機構

共創学部

文系4学部専攻プログラム
人文学系協働研究・教育コモンズ







キャンパス移転事業

九州大学アクションプラン2015-2020 IV 1)グローバル・ハブ・キャンパスの実現/3)安全・安心・快適な教育・研究・診療環境づくり

伊都キャンパス移転

**平成30年9月
キャンパス移転事業完了!**

**第Iステージ
(平成17~19年度)**

総数：約5,200人
(学生4,200人、
教職員1,000人)

【移転人数：約5,200人】

工学系（工学部建築
学科を除く）
理系図書館I

**第IIステージ
(平成20~23年度)**

総数：約10,800人
(学生9,500人、
教職員1,300人)

【移転人数：約5,600人】

基幹教育院
比較社会文化研究院
言語文化研究院
数理学部数学科
理学部数学科
マ・フア・イ・タ・ストリ研究所
理系図書館II

**箱崎より移転完了
(~H18年度)
第Iステージ終了**

**大本松より移転完了
(~H21年10月)
第IIステージ終了**



電動キックボード
の実証実験
(R1.8~)
@伊都キャンパス

第Ⅲステージ 平成24~30年度

総数：約18,700人
(学生15,500人、教職員3,200人)

【移転人数：約7,900人】

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
次世代燃料電池産学連携研究センター

椎木講堂

伊都協奏館・ドミトリーⅢ

共進化社会システムイノベーションセンター

理学系

情報基盤研究開発センター

新中央図書館 (H28・H30)

人文社会科学系 (H30)

人文科学研究院、人間環境学研究院（工学部
建築学科を含む）、法学研究院、経済学研究院、

統合新領域学府

農学系 (H30)

農学研究院、附属施設等

その他 (H30)

留学生センター、事務局、

課外活動施設など



未来社会を切り拓く実証実験キャンパス

実証実験キャンパス

○企業・自治体・本学による「スマートモビリティ推進コンソーシアム」を設立し、オンデマンドAI運行バスの本格導入（平成31年4月）

○電動キックボードの実証実験（令和元年8月） aimo

○電動バイクシェアリングの実証実験（令和元年7月）

○実証実験や教育研究を支えるインフラ整備として、5Gのエリア化に向けて覚書に調印（令和元年12月）

○寄附により整備した温水プールにて、電源・温水熱源の一部を燃料電池でまかなう実証実験（平成30年7月）

↑ 多数の実証実験を実施

伊都診療所(平成30年度)・薬局(令和元年度)の設置

○学生・教職員のみならず地域住民等の健康を守る役割も担い、地域医療等、社会に対しても貢献

○学内の既存スペースの有効活用により設置

農場の整備

○生物多様性保全ゾーン付近の土地を活用し、オンキャンパス農場を整備

箱崎キャンパス跡地のまちづくり

箱崎キャンパスの跡地利用

○福岡市が推進する「FUKUOKA Smart EAST」構想の実現に向けた「FUKUOKA Smart EAST推進コンソーシアム」を組織

→福岡市、UR都市機構、大手企業等184社の会員を有する福岡地域戦略推進協議会（FDC）、九大の4者で組織

→スマートシティ勉強会、先進技術の実証実験（日本初の大都市都心部での目視外飛行によるドローン配送、自動運転バスや電動キックボードの試乗体験など）、セミナーを開催

↑ **モビリティやセキュリティ、エネルギーといった最先端の技術革新による、快適で質の高いライフスタイルと都市空間の創出に向けて、世界に誇れるまちづくりに貢献**

○共同研究による汚染土壌の高度な浄化技術の確立

→浄化基準40倍の汚染土まで浄化可能（従来6倍が限度）

○跡地で新たに発見された元寇防塁が国史跡として追加指定(R1)



大学改革活性化制度

九州大学アクションプラン2015-2020 V2)資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

【大学改革活性化制度】自律的な改革を促し組織を活性化する取組 → 2回の見直しを行い、現在「第3次大学改革活性化制度」実施

- 各部署から教員配置に必要な人事ポイントを出し出す→大学の将来構想に向けた改革計画に対して措置する、戦略的な学内資源再配分の制度。
- 平成30年度に第3次大学改革活性化制度を構築、令和元年度には内容を更にブラッシュアップ。【第3次2年間で改革計画29件、32人を配置】

経営改革促進事業（平成30年度採択）

学部教育から研究者育成までを連動させる持続的人材育成戦略 - 若手・女性・外国人研究者を確保・育成する「九州大学ルネッサンスプロジェクト」



第3次大学改革活性化制度の構築（平成30年度）



【第1次大学改革活性化制度 (H23審査-)】

- 全部局から毎年1%ずつ抽出し、組織整備の要求に対し人を再配分する仕組みを構築。

【第2次大学改革活性化制度 (H27審査-)】

- 大学全体の重点取組、分野の別、研究・教育の別を考えられる制度へ改正。大学と力パナンスを強化し、資源を戦略的に投下する仕組みへと進化。

【第3次大学改革活性化制度 (H30審査-)】

- 組織整備中心→「人」重視型への抜本的構造改革。大学全体の取組みや部局の将来構想を表現する人員提案を中心。次代の研究をリードする多様な秀逸な研究者（若手、女性、外国人）の確保・育成を目指す。
- 「統合イノベーション戦略」、「研究力向上改革2019」等にある「若手人材の獲得・育成」を本学の人事の柱に据えて実施する際の中心となる制度の完成。
- 採用する若手・女性・外国人教員はすべてデュアトラック教員（2年で32人配置。7年で200人予定）。（措置する人事ポイント期限は5年間。その間に部局内でデュアトラック教員とすることが前提）
- 研究者育成経費確保、研究環境整備（スタッフ雇用、研究費支援）に毎年9億円以上確保

↑九州大学ルネッサンスプロジェクトのうち、「研究者育成段階」の核となる取組

＜令和元年度に更なる見直し実施＞

- 審査の観点の詳細化・明確化（大学・部局の将来構想が表現可能な内容を精査）、書面とヒアリング両方を動員した総合評価の導入により、制度の趣旨が正確に反映された構想、審査が実現。

大学改革活性化制度

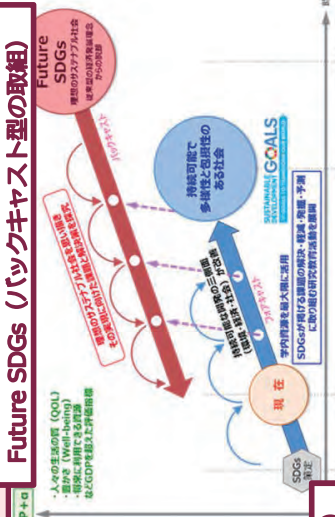
九州大学アクションプラン2015-2020 V2)資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

【大学改革活性化制度の成果】 「九州大学アクションプラン2015-2020」の重点取組を完全実施
 「全学改革推進枠」の設置 → 大学の研究力強化(アジア・オセアニア研究教育機構)、教育力強化(共創学部、人社会協働研究・教育コモンズ、エネルギー研究教育機構)へと繋がる成果 () 内は大学改革活性化制度による人事ポイント措置

アジア・オセアニア研究教育機構 (H31.4設置) 【准教授2措置】

- 学際融合研究教育のプラットフォーム。Q-AOSを構成するクラスター(大括りの社会的課題に基づく領域)で、各部署から参加した研究者(120名)が連携・協働・融合した活動を行う
- オンデマンド・オンサイト研究教育により、現地のニーズに応じた現地機関との協働を行う
- 理想のサステナブル社会である「Future SDGs」の実現に向けた課題と解決策を探索する「バックキャスト」の視点による研究教育活動を開始

オール九大のプラットフォーム

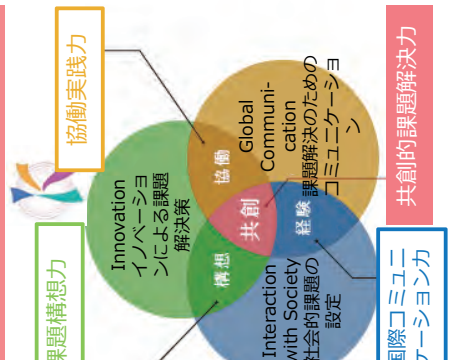


サカサバ・ツバメ(R2.7)、ツバメ(R2.9)

共創学部 (H30.4設置) 【教授1措置】

- 50年ぶりに設置した12番目の学部
- 既存の学問の枠を超え、幅広い知識と高度なコミュニケーション能力により、多様な学知を組み合わせて課題解決を行う人材を育成
- 学府・研究院制度により21部局から多彩な専任教員(50名)を配置

- 課題解決型教育を実施
→ PBL/TBL形式学習を中心とした、「共創」力を涵養するための実践的な協働学習
- 留学必須のため、留学コーディネーター・教員2名配置
→ 優秀な留学生リクルート活動の他学部への波及
- 新入試QUBE(4類型の入試)により多彩な学生獲得
→ QUBEの主要展開へ繋げる



エネルギー研究教育機構 (H28.10設置) 【教授5措置】

- 部局の壁を取り去ったオール九大のプラットフォーム組織
- (ヒシヨ)ン) オール九大で「2100年の社会が理想とするエネルギー」を具現化
- (目標) 未来社会のエネルギーシステムを構想し、技術・産業・社会のパラダイムシフトを先導

<研究面>

- マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校等と連携協定締結、横断的国際共同研究教育を実施。スタンフォード大学、アーバン工科大学等TOP100以内大学とエネルギーシステム開発分野などで研究交流
- 「ナイスステップ」は研究者2019」に選出
- 内閣府補助金(グリーンアジア国際協力総合特区)など、補助金、奨励・共同研究等多数実施
- 再生可能エネルギーに係る研究実績の豊富なハワイ大学との国際共同研究→教育連携にも発展
- 国際シンポジウムエネルギーウィング毎年開催
- 本学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(WPI拠点)とエネルギー関連研究での連携

成果

- 学部生向けのエネルギー教育実施
→ さらに、大学院教育への発展の前段階として学部高次生向け専攻教育を実施し、大学院教育への円滑な橋渡しを加速



人社会協働研究・教育コモンズ (H30.4教育連携開始) 【准教授6措置】

- 【教育連携】 文系4学部型専攻プログラム (平成30年度開始)



- 文系4部局(文・教育・法・経済)の教育連携、研究連携の両輪を担う協働研究教育プラットフォーム

- 4つの研究方針の策定、教育研究連携構築
- (研究連携) 先行している教育連携構築「研究連携人と協働」(平成30年度開始)
- 部局の境分野別による新たな研究分野や研究課題の創発を促す協働研究実施



多様な人材の確保

九州大学アクシヨンプラン2015-2020 I 1)世界最高水準の卓越した学術研究の推進

ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修「SENTAN-Q」
(文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」(令和元年度採択))

- ◆ 優れた研究業績を有する将来有望な本学女性並びに若手教員を、世界と伍して戦える真に実力のある教員として育成
- ◆ 国内外での講習や実践を6のステップに分け、2~3年をかけてステップアップし、国際研究力の向上と早期上位登用を目指す
- ◆ 修了者には認定証を与え、原則1年以内にユニエア付与あるいは1段階内部昇格を実施
⇒十分な業績を持つ女性及び若手教員の中から、部局での実質的昇任審査で合格した者を、透明性の高い厳正な審査により選定
- ◆ 第1期研修生は、部局からの推薦者16名のうちから10名(女性8、若手2)を決定(令和元年12月)



配偶者帯同雇用制度

- ◆ 同居を望む研究者同士の夫婦を本学に同時又は連続して採用することにより、真に優秀な研究者の確保及び定着を図ることを目的とし、平成29年度に全国の大学で初めて導入し、平成30年度に第1号、令和元年度に第2号を認定



JST「第1回 輝く女性研究者活躍推進賞(ジュン アシダ賞)」受賞

- ◆ 2009年度に他大学に先駆けて設定した「女性枠設定」による教員採用・養成システム
- ◆ 配偶者帯同雇用制度
- ◆ IR室による女性研究者の研究力の定量的な検証により、女性の採用や昇任に関する「無意識のバイアス」を可視化・WSSF等の国際会議等で発信 等が評価(令和元年度)

「業績評価制度」、「新たな年俸制」の導入

- ◆ 人事給与マネジメント改革の推進を目的として、令和2年4月からの導入を決定
 - ◆ 業績評価については、明確な基準による評価として、部局や分野の特性への配慮に加え、優秀な若手教員の確保やモチベーション向上に資する基準を設定
 - ◆ 新たな年俸制には、業績評価結果を本俸並びに業績給等の処遇に反映
- 〈参考〉令和2年4月1日現在年俸制教員数：339名

「学術推進職」の創設と活動

- ◆ 高度専門職員の職種のひとつとして、大学の学術活動の推進に必要な分野に、研究をバックグラウンドとした高度かつ特殊な専門性を持った多様な人材を確保するため、平成30年度に創設
- ◆ 令和元年度に、サイエンスコミュニケーションターとして国際広報に携わるネイティブスピーカーの学術推進主幹を1名、IR業務担当者として学術推進専門員を1名雇用。本学の世界的研究・教育拠点としての諸活動に関する国際広報やIR分野の促進にいち早く着手

〈サイエンスコミュニケーションター〉の学術推進主幹>

- ・英語Webサイト「Research」ページリニューアル(アクセス2倍(H31.3とR2.3比較))QS-APPLE2019 Web部門銅賞受賞)
- ・英文プレスリリース「EurekaAlert!」投稿開始
- ・新規Webコンテンツ「Research Close-up」記事執筆(アクセス数9,508件(R2.6.28~8.21))

⇒本学の研究レビュテーション向上に寄与

〈IR担当学術推進専門員〉>

- ・執行部意思決定支援「尖った研究分野の発掘分析」、citationだけによらないAltmetric指標も考慮
- ・Q-RADeSとResearchmapのシステム連携構築

⇒データ分析に基づいたシステム構築で学術研究を支援

財務基盤の強化に向けた取組 (戦略的予算配分、積極的な増収方策・経費削減方策)

九州大学アクションプラン2015-2020 V 2) 資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

【予算配分】 戦略的な予算配分の実施

教員数や学生数等により一律に配分してきた従来の予算構造を、第3期中期目標期間当初から抜本的見直し
→大学のビジョンや戦略に基づき重点配分を行う仕組みに変革

● 総長裁量経費の拡充

従来の「総長裁量経費」に加え、大学のビジョンや戦略の目標達成のための経費を総長裁量経費に位置付け、総長のリーダーシップを発揮できる環境を整備

15.6億円 (H27) ⇒ 40億円 (H28以降)

● 大学改革推進経費 (イノベーション経費) の拡充

大学全体の活性化に貢献する部局への重点配分
・中目・中計や大学ビジョン等に掲げる本学の機能強化の方向性に沿った各部局の活動状況を評価する指標を導入
→指標は毎年見直し。大学の戦略の進捗に直結する部局の活動にインセンティブを与える形を強化。

2.6億円 (H27) ⇒ 10.8億円 (H28以降)

【評価指標】

- ・共同研究、科研費等の獲得状況
- ・博士号授与状況、学生の海外留学状況
- ・若手、外国人、女性教員の在籍状況等

● 若手研究者の研究環境を支援

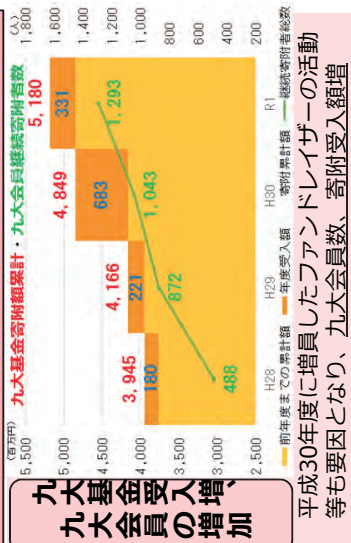
第2期中期目標期間の評価に基づき配分された機能強化経費 (法人運営活性化支援分) を総長裁量経費に位置づけ。
→「人」を重視した大学全体の経営改革方針として取り組む人材育成戦略「九州大学ルネッサンスプロジェクト」の若手研究者支援実現のための予算 (研究支援者雇用経費、研究環境整備経費等) とし、自律的に研究に取り組める環境を整備し大学の機能強化につながるものとして効果的に活用

新たな増収方策

◆クラウドファンディング：財源確保に限らず、大学の教育研究活動の広報・情報発信や、国民の理解増進等の側面を担う。
→平成29年度の導入から令和元年度まで11プロジェクト成立。約3,000万円を獲得。

◆ネーミングライツ：増収の効果と同時に本学学生の就職支援にもつながる取組として、スベースに対する「人事・採用目的」での企業ニーズを活用したネーミングライツ契約公募。
→3年契約・年間約200万円の契約を締結。

令和2年度も同種の公募実施。



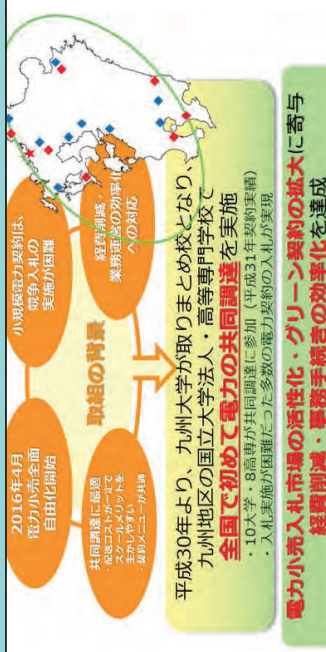
平成30年度に増員したファンドレイザーの活動等も要因となり、九大会員数、寄附受入額増

効果的な資産運用



平成30年度の資産運用範囲拡大を受け、速やかに文部科学大臣の認定を得て戦略的運用を行い、低金利下で約1億800万円の運用益 (運用実施率約87%) を獲得。
令和元年度も収益性の高い金融商品による運用によりさらに上昇し、約1億3,900万円の運用益 (運用実施率約89%) を獲得。

【経費削減方策】九州地区での共同調達、業務改善プロジェクト



電力の複数法人共同調達実施と成果

- ① 入札、グリーン契約の実施
2年間で5,000万kWh, 200契約を入札に移行。
→スケールメリットによる経費削減
平成30年：1億7,500万円削減
令和元年：2億2,500万円削減
→一括方式によるCO₂削減
年間1,440トンのCO₂削減
- ② 事務手続きの効率化
入札及び一括方式によるグリーン契約のノウハウを持つ本学が一元的に契約事務を実施し、参加機関の事務コストを大幅に削減
→約125人日/年の業務量削減
- ③ 「第20回グリーン購入大賞」及び最上位の賞である「環境大臣賞」受賞 (令和元年)
グリーン契約寄与により受賞

業務改善プロジェクトによる業務コスト削減

財務系業務改善プロジェクト (平成28年度発足～30年度まで実施) による業務削減 (年間約2万時間超の削減)
→横展開による人事系業務改善 (平成30年度発足、年間約2千7百時間超の削減)



研究機器・設備共用のためのプラットフォーム構築

九州大学アクションプラン2015-2020

V 2) 資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

課題

- 学内の研究機器・設備の多くが共有されていない
- 学内の共用機器の情報が一括化されていない

効果

- 研究費・研究スペースの有効活用
- 若手研究者への充実した研究環境の提供
- 分野融合・新興領域拡大
- 情報一元化・手続改善による研究時間の確保
- 「タコソボ化」を解消

全学的なプラットフォームの構築

- 最新の研究機器を運用している研究室にチャレあるのか分からない？
- いつも予約が一杯、他の部屋に同様の機器がないかな？
- 機器利用の相談窓口や利用の手続きが分かりにくい
- 使わなくなった機器をどこかで活用してほしい
- 研究機器の共用システムを構築したいが、料金設定などが面倒
- 企業からの利用依頼にどう対応したらいいかわからない
- 共用機器を使って最先端の研究にチャレンジできる！
- 全学の共用機器の情報がポータルサイトで一元的に整理されているので、研究計画が立てやすい
- 他部屋の機器の利用窓口や利用条件もすぐ分かる
- リサイクルシステムで機器の廃棄を受けて、一気に研究が加速した
- 料金設定などの管理をまとめて行うことで、企業からの利用依頼に対応しやすくなった
- 先行事例の紹介やアドバイスを参考に、企業と連携したシステムを構築した

効果的なプラットフォーム構築

- 全学的な研究機器の共同利用による研究力の向上
- 研究室の垣根を越え、「タコソボ化」を解消

「研究機器・設備共用のための全学的なプラットフォーム」構築

研究環境の整備による研究力向上

総長 (本部長)

学術研究・産学連携推進委員会 (施設共用促進推進委員会の立案)

【九州大学アクションプラン2015-2020】

研究機器・設備共用のための全学的プラットフォーム

研究機器・設備共用推進委員会 (施設共用促進推進委員会の立案)

学術研究・産学連携推進本部

機器共用促進支援

委員長: 研究担当副理事

研究機器・設備の共用促進

プラットフォーム連携支援

・ポータルサイト (ShareAid) 運営

・共用機器の情報一元化

・研究機器・設備共用情報提供・体感整備・連携支援

研究機器・設備共用推進委員会 (施設共用促進推進委員会の立案)

研究機器・設備共用推進本部

機器共用促進支援

委員長: 研究担当副理事

研究機器・設備の共用促進

プラットフォーム連携支援

・ポータルサイト (ShareAid) 運営

・共用機器の情報一元化

・研究機器・設備共用情報提供・体感整備・連携支援

研究機器・設備共用推進委員会 (施設共用促進推進委員会の立案)

研究機器・設備共用推進本部

機器共用促進支援

委員長: 研究担当副理事

研究機器・設備の共用促進

プラットフォーム連携支援

・ポータルサイト (ShareAid) 運営

・共用機器の情報一元化

・研究機器・設備共用情報提供・体感整備・連携支援

設備整備の中長期計画策定 (研究環境整備タスクフォース)

- 大学として整備すべき設備を洗い出し、戦略的な設備整備を実施する必要
- 研究環境整備タスクフォースを設置
- 部局作成の共用機器・整備リストを基に、通常の部局研究経費では整備できない大型機器で、研究力強化に繋がる最先端機器の導入であること、若手研究者等が利用しやすい共用体制の整備を前提としていること、等の観点で審査を行い優先順位をつけ、**設備整備の中長期計画策定** (ShareAid) とも連動)

施設使用制度の策定

九州大学アクションプラン2015-2020

V 2) 資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築

「スペース管理システム」の構築

【マップ画面 (平面)】

6. 室の登録

空室を登録

学内ネットワーク上にシステム構築
→ 各教員自身の入力により部局の使用面積・実態を正確に把握

空室 : 登録可能な室
自室 : 自ら登録し、機材の使用登録が完了した部屋
申請中 : 自ら登録し、システムへの登録準備中の部屋
使用中 : 他者が申請し、随時的に使用登録が完了した部屋
申請者有 : 他者が申請し、システムへの登録準備中の部屋

「九州大学における施設等の有効活用に関する指針」に、中期計画で定める「施設使用制度」を制定

- 「施設は大学全体の共有財産」とし、戦略的な施設マネジメントによる効率的スペース管理・運用を行い、大学の中で長い間固定化されてきた部局面積の専有権や取得権をなくす画期的な施策
- 多様化する有効利用により新築や増築をすることなく柔軟に対応することが可能
- 大学改革活性化制度等による新たな組織への対応
- 新たな組織発足による需要への対応 (共創学部、エネルギー研究教育機構、アジア・オセアニア研究教育機構、伊都診療所発足のスペース配分)

「施設使用制度」の制定

教員及び学生一人あたりの標準面積を決定
教員数及び学生数に応じて部局ごとの配分面積を策定

「教育研究基盤スペース」の「使用面積」が「配分面積」を超える場合

使用面積 (教育研究基盤スペース)

超過面積 (教育研究基盤スペース)

配分面積 (教育研究基盤スペース)

超過面積は「全学レンタルスペース」(「全学管理スペース」・「総長裁量スペース」)として確保。戦略的マネジメントに活用、または課金対象。

「使用面積」が「配分面積」に達しない場合

使用面積 (教育研究基盤スペース)

不足面積 (教育研究基盤スペース)

配分面積 (教育研究基盤スペース)

不足している場合、全学レンタルスペースを配分

「全学レンタルスペース」

- ・ 戦略的かつ効率の良いレンタルスペースの管理運営及び運営手続の適正化を図るため、現状の建物毎の管理ではなく、総長にすべての入居者の決定権を付与する形へ見直し

見直し

現状

総長

全学レンタルスペース委員会

建物毎の管理運営委員会

地区ごとの全学レンタルスペース委員会



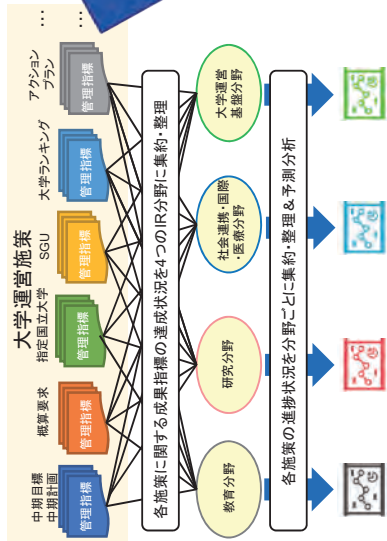
ガバナンスの強化

九州大学アクションプラン2015-2020 V.1)世界的研究・教育拠点として全学一体となった自律的改革

IR (インスティテュショナル・リサーチ) による戦略支援会議

<設置の目的>
総長・執行部への情報提供ルートを確立し、エビデンスに基づいた大学経営に資する仕組みを強化する。

① 管理指標進捗報告



<概要>

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

「ガバナンス」に関する取組

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

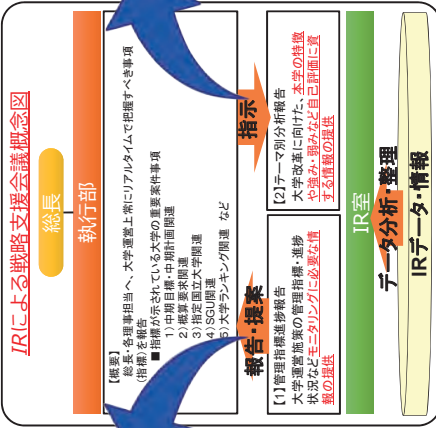
IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」

IR室で実施したデータ分析結果に基づき、総長・執行部に対して定期的に「管理指標進捗報告」



② テーマ別分析報告

■ アジア・オセアニア研究教育機構設立に向けたクラスター候補選定
「アジア・オセアニア研究教育機構」設置を見据え、本学とアジア諸国との間で展開されている研究教育活動の現状把握について分析
→分析結果は本機構を構成するクラスター等と決定する材料として活用され、本機構の設置準備における重要な指標として貢献

■ 研究ラダグシップのモニタリングのためのベンチマーク対象校の選定に資する分析
研究上の強みを維持、向上させるために、分野別のベンチマーク対象校を選定
本学の総合的な研究力をモニタリングするベンチマーク対象校を選定
→指定国立大学法人申請に必要なベンチマーク校選定に資するものとして、指定国立大学法人タスクフォースのメンバーへ情報提供

■ 若手研究者による研究力向上の将来予測分析と今後の制度に向けた提言
現在本学で推進している「九州大学ヘルネスプロジェクト」等の若手支援策の方向性について考察
→研究支援の制度実施担当部署と共同で分析することで、「キャリアパスの保証(デニュアトラック制度)」「論文投稿のための研究費支援(英文校閲費・論文投稿料)」が有効であることがわかり、実効性・有効性の高い施策に反映

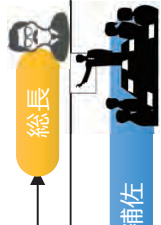
総長補佐体制

<設置の目的>
昨今の大学に対する社会の厳しい声や、内閣府・文部科学省等政府からの大学改革を求める強い意向を踏まえ、本学の経営改革を加速するためには、従来とは異なる発想やスピード感覚を持った取組が重要

- 本学の研究、教育、ガバナンス等全学的な将来構想を検討・企画立案し、具現化するため、総長の下に総長補佐を設置。
- 総長補佐は、総長補佐会議において、全学的な将来構想について議論し、総長に助言。

<効果>

「指定国立大学 構想調書(案)」について協議する等、大学の重要な施策の検討に活かされている



総長補佐会議

国際協働の在り方を中心に議論

指定国立大学法人への指定に向けた構想の検討

各部署の40~50代の若手教授を中心に、12名の総長補佐を総長が指名

次世代の執行部を支える副理事クラスの教員の育成も企画



九州大学アクションプランに基づく資源配分

大学改革活性化制度や概算要求において、部局等が構想する計画や取組が本学のアクションプランを実現させる内容であることをヒアリング等において執行部が確認し、選定及び採択することで、アクションプランの実効性を高めた。

● 大学の機能強化を進めるための意見交換会
総長が、「九州大学アクションプラン2015-2020」の実効性を高めるため、関係理事とともに学内の全研究所・研究所を訪問する「大学の機能強化を進めるための意見交換会」を実施

● 大学の機能強化を進めるための意見交換会
第3次大学改革活性化制度の制定
部局の将来構想に基づき人員提案を中心とする制度とし、向上を図ること
が一層期待できる制度を制定

● 大学の機能強化を進めるための意見交換会
文系4字部の副専攻プログラム構築が加速
(人文社会科学分野の機能強化)
進捗状況報告書を基に、部局の将来構想を実現する上で課題・評価結果への対応内容についてヒアリングを実施し、将来構想に向けた助言を行った結果、平成30年度から文系4字部の副専攻プログラム開始

● 大学の機能強化を進めるための意見交換会
各部署研究力分析の必要性の共有
BI(Business Intelligence)ツールにより可視化したデータ分析(部局毎)資料を基に、各部署における研究力分析の必要性について共有



新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症対策本部（令和2年2月7日設置）
 新型コロナウイルス危機対策本部（令和2年3月17日設置）

【新型コロナウイルス対策行動計画大綱】（R2.2.25）

- ◆ 国内発生早期、感染拡大期、感染まん延期、回復期、小児期における各取組の基本方針を作成

『新型コロナウイルスに係る大学閉鎖措置実施方針』（R2.3.2）

- ◆ 大学の諸活動を通じた感染拡大防止のため、医療活動を除いた大学閉鎖方針を策定

『新型コロナウイルス感染症に関する検討事項及び対応方針（国内発生早期～感染拡大期）』（R2.3.16）

- ◆ 感染拡大抑制、健康被害抑制、感染不安への対応に関する個々の取り組みと検討事項を取りまとめ



総長メッセージ、学内への注意喚起、アンケート

行動指針の策定

- 「研究」「教育」「課外活動」「事務体制」
- 「学外者のキャンパス訪問」

発生状況に応じた学内の諸活動の制約を明文化

九州大学緊急学生支援プラン

- ◆ 緊急授業料免除 ⇒ 高等教育修学支援制度等の支援対象外者に対して授業料免除
- ◆ 緊急学生支援金 ⇒ 学生からの申請に基づき1人3万円の支給
- ◆ 基金の創設 ⇒ 学内、同窓生等に支援の要請
- ◆ 学生への心理的対応 ⇒ キャンパスライフ・健康支援センター



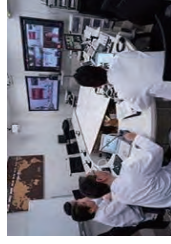
教育・研究・診療分野における取組

教育

- ◆ 春学期は全て遠隔（オンライン）授業として実施（約4,900科目）
- ◆ 教員、学生向けのオンライン授業マニュアルを整備、講習会及び模擬授業を実施
- ◆ 学習支援システム（M2Bシステム）と連携して遠隔会議システムを運用
- ◆ 集まった学習ログデータを活用し教育改善の実施を検討
- ◆ 学生有志によるシステムサポート組織「Quick Q」を整備

研究

- ◆ 農学研究院（カイク研究拠点）⇒ コロナウイルスのワクチン候補となるタンパク質の開発に成功
- ◆ 薬学研究院附属グリーンファーマ研究所 ⇒ 新型コロナウイルス治療薬を既承認薬から探索し、3種まで絞り込みに成功（R2.6時点）
- ◆ アジア・オセアニア研究教育機構（医療・健康クラスター）において、「アジアにおけるCOVID-19への取組」をテーマとした遠隔カンファレンスを実施（R2.3.18）。



遠隔カンファレンスの様子

診療（附属病院）

- ◆ 福岡県、福岡市、保健所と情報をリアルタイムに共有しながら、感染症制御に向けた中心的役割を果たしている。（令和2年4月21日には、福岡市、福岡大学病院と連名により、特区として日本発の新型インフルエンザ薬「アピガン」の投与に関する規制緩和を国に要望）

With Corona & Post Corona 対策検討委員会（令和2年5月26日設置）

新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた、本学における新たな社会の価値観に適応した大学運営の在り方、方向性、考え方等についての検討を全学的な観点で行うための委員会を設置し、各委員会で所掌事項について検討中。

- ◆ 教育 ◆ 研究 ◆ 診療・病院 ◆ 国際戦略 ◆ 業務の在り方 ◆ 管理運営 ◆ キャンパススタイル ◆ 情報環境整備

1. 概要・他大学との比較

1-1. 九州大学の概要

1-1-1. 学部等の構成

学部【12】 共創学部 文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 芸術工学部 農学部	大学院（学府）【18】 人文科学府 地球社会統合科学府 人間環境学府 法学府 法務学府（法科大学院） 経済学府 理学府 数理学府 システム生命科学府 医学系学府 歯学府 薬学府 工学府 芸術学府 システム情報科学府 総合理工学府 生物資源環境科学府 統合新領域学府	大学院（研究院）【16】 人文科学研究院 比較社会文化研究院 人間環境学研究院 法学研究院 経済学研究院 言語文化研究院 理学研究院 数理学研究院 医学研究院 歯学研究院 薬学研究院 工学研究院 芸術工学研究院 システム情報科学研究院 総合理工学研究院 農学研究院
基幹教育院※1		
高等研究院		
附置研究所【4】 生体防御医学研究所※2 応用力学研究所※2 先導物質化学研究所※2 マス・フォア・インダストリ研究所※2		
国際研究所（カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所）		
九州大学病院		
附属図書館		
情報基盤研究開発センター※2		
エネルギー研究教育機構		
アジア・オセアニア研究教育機構		

※1は教育関係共同利用拠点に認定された施設を示す。※2は共同利用・共同研究拠点に認定された施設を示す。

出典：九州大学概要（令和2年4月1日現在）

1-1-2. 学生数及び教職員数

	入学定員	入学者数		総定員	在籍者数		
		計	うち女子学生		計	うち女子学生	
学部	2,554	2,645	770	10,607	11,679	3,370	
学生等数	大学院	1,748	1,839	420	3,486	3,981	977
	修士課程	140	127	53	325	304	121
	専門職学位課程	780	504	122	1,713	2,602	779
	博士(後期)課程						
合計	5,222	5,115	1,365	16,131	18,566	5,247	

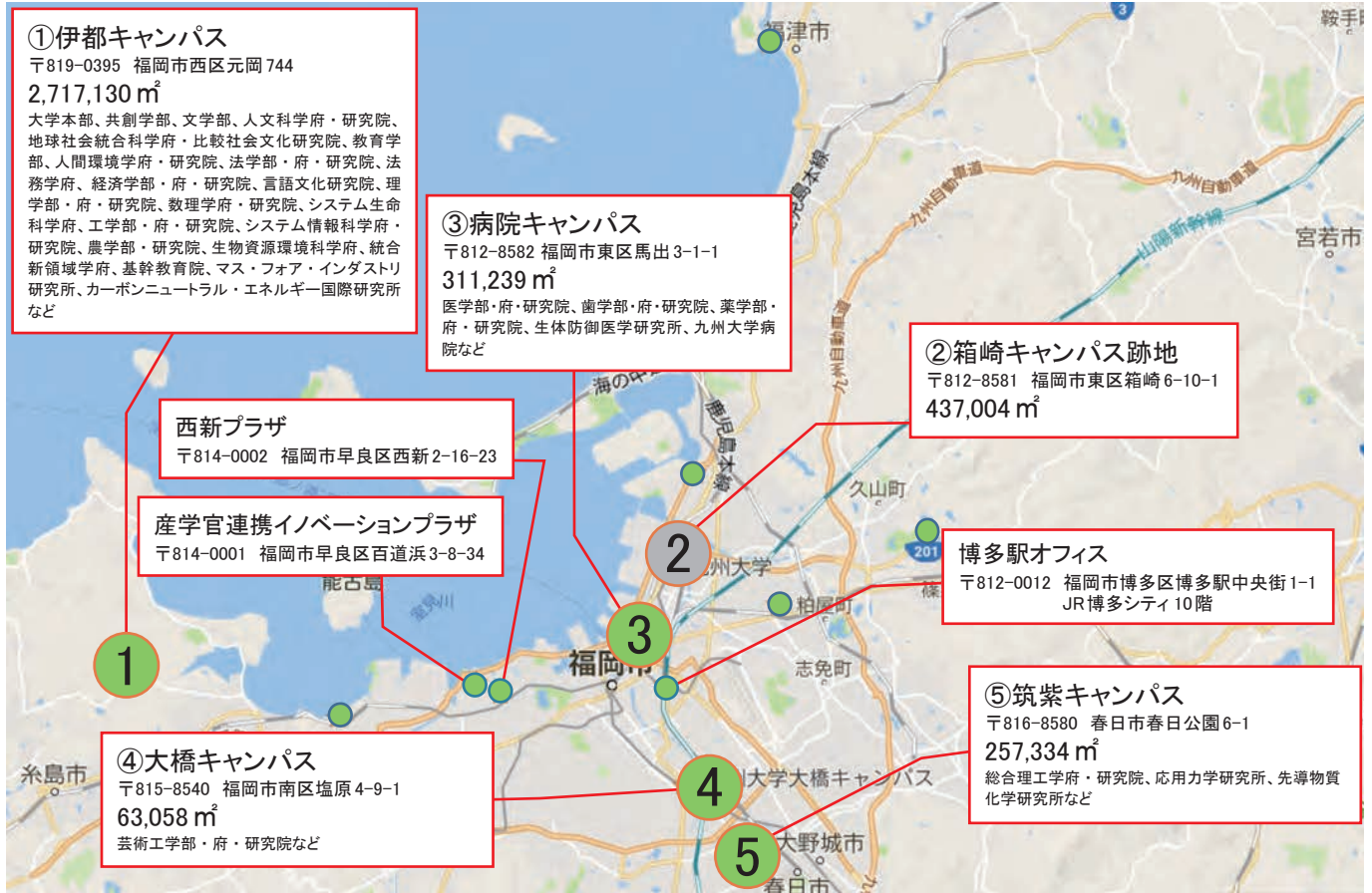
教職員数	教員数		職員数		合計	
	計	うち女性教員数	計	うち女性職員数	計	うち女性教職員数
	2,088	288	2,351	1,436	4,439	1,724

出典：九州大学概要（令和2年5月1日現在（入学者数のみ令和2年4月1日現在））総定員のみ「学部通則」、「大学院通則」

1-2. 主要キャンパス

- 主要キャンパス
- 跡地
- 附属農場・附属演習林等

総キャンパス面積: 75,772,623 m²



出典: 九州大学概要(令和2年5月1日現在)

1-3. 他大学との比較 - 規模 - (国立大学間)

【学部数】

順位	大学名	学部数
1	北海道大	12
1	広島大	12
1	九州大	12
4	大阪大	11
4	岡山大	11
6	東北大	10
6	千葉大	10
6	東京大	10
6	新潟大	10
6	京都大	10
6	神戸大	10

(2019)

【学部入学定員】

順位	大学名	人
1	大阪大	3,255
2	東京大	3,060
3	京都大	2,823
4	神戸大	2,670
5	九州大	2,555
6	北海道大	2,485
7	東北大	2,396
8	広島大	2,338
9	千葉大	2,317
10	新潟大	2,242

(2019)

【学部志願倍率】

順位	大学名	倍率
1	東京工業大	5.35
2	千葉大	4.91
3	筑波大	4.52
4	神戸大	4.35
5	北海道大	4.21
6	東北大	3.49
6	広島大	3.49
8	九州大	3.37
9	東京大	3.16
10	京都大	3.03

(2019)

出典: 各大学HP、大学概要(2019)

【学部 収容定員・在籍学生数・定員充足率】

順位	大学名	収容定員 (人)	在籍学生数 (人)	定員充足率 (%)
1	大阪大	13,546	15,250	112.5
2	東京大	12,588	14,024	111.3
3	京都大	11,783	13,116	111.3
4	神戸大	10,681	11,596	108.6
5	九州大	10,658	11,679	109.6
6	北海道大	10,515	12,013	107.8
7	東北大	10,040	10,881	108.3
8	広島大	9,944	10,810	108.7
9	千葉大	9,882	10,648	107.2
10	新潟大	9,531	10,277	107.8

(2019)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。

・14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大(大学番号順)

(※1) Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2) RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム

出典: 文部科学省 平成30年度業務実績報告書

1-3. 他大学との比較 - 規模 - (国立大学間) (つづき)

【大学院数】

順位	大学名	大学院数
1	北海道大	18
1	九州大	18
1	京都大	18
4	大阪大	16
5	神戸大	15
5	東北大	15
5	東京大	15
8	千葉大	13
8	名古屋大	13
10	広島大	11

(2019)

【大学院入学定員】

順位	大学名	入学定員合計	修士課程	専門職学位課程	博士後期課程
1	東京大	4,925	2,843	385	1,697
2	京都大	3,732	2,287	334	1,111
3	大阪大	3,032	2,025	80	927
4	千葉大	3,008	1,922	160	926
5	九州大	2,668	1,748	140	780
6	東北大	2,667	1,773	120	774
7	名古屋大	2,413	1,634	50	729
8	筑波大	2,396	1,651	66	679
9	北海道大	2,367	1,608	100	659
10	東京工業大	2,151	1,540	44	567

(2019)

出典：各大学HP、大学概要(2019)

【大学院 収容定員・在籍学生数・定員充足率】

順位	大学名	大学院合計			修士課程			専門職学位課程			博士後期課程		
		定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)	定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)	定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)	定員(人)	在籍数(人)	定員充足率(%)
1	東京大	11,995	13,608	113.4	5,686	7,059	124.1	985	834	84.6	5,324	5,715	107.3
2	京都大	8,850	9,367	105.8	4,512	5,036	111.6	663	710	107.0	3,675	3,621	98.5
3	大阪大	7,397	8,043	108.7	4,034	4,582	113.5	190	136	71.5	3,173	3,325	104.7
4	東北大	6,419	6,943	108.1	3,548	4,082	115.0	290	197	67.9	2,581	2,664	103.2
4	九州大	6,419	6,989	108.8	3,594	4,175	116.2	325	286	88.0	2,500	2,528	101.1
6	名古屋大	5,765	6,088	105.6	3,246	3,694	113.8	170	79	46.4	2,349	2,315	98.5
7	筑波大	5,686	6,786	119.3	3,419	4,162	121.7	168	178	105.9	2,099	2,446	116.5
8	北海道大	5,634	6,327	112.3	3,206	3,781	117.9	250	207	82.8	2,178	2,339	107.3
9	東京工業大	4,869	5,384	110.5	3,088	3,856	124.8	80	91	113.7	1,701	1,437	84.4
10	神戸大	4,125	4,660	112.9	2,502	2,709	108.3	378	309	81.7	1,245	1,642	131.9

(2018)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。
 ・14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山山大、広島大、九州大(大学番号順)
 (※1) Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2) RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアム

出典：文部科学省 平成30年度業務実績報告書

1-3. 他大学との比較 - 規模 - (国立大学間) (つづき)

【学部在籍学生のうち留学生数】

順位	大学名	人
1	北海道大	574
2	大阪大	365
3	筑波大	359
4	九州大	289
5	東京大	275
6	名古屋大	261
7	東京工業大	249
8	京都大	237
9	東北大	205
10	岡山大	144

(2018)

【学部在籍学生に占める留学生数の割合】

順位	大学名	%
1	東京工業大	5.1
2	北海道大	4.7
3	筑波大	3.6
4	名古屋大	2.6
5	九州大	2.4
6	大阪大	2.3
7	東京大	1.9
8	京都大	1.8
8	東北大	1.8
10	岡山大	1.4

(2018)

【学部在籍学生に占める女子学生数の割合】

順位	大学名	%
1	岡山大学	43.1
2	筑波大学	39.8
3	千葉大学	39.7
3	新潟大学	39.7
5	広島大学	37.8
6	神戸大学	36.7
7	大阪大学	34.3
8	名古屋大学	30.3
9	九州大学	29.1
10	北海道大学	28.9

(2019)

【大学院在籍学生のうち留学生数】

順位	大学名	人
1	東京大	2,957
2	大阪大	2,115
3	京都大	1,668
4	九州大	1,656
5	筑波大	1,598
6	北海道大	1,527
7	東北大	1,441
8	名古屋大	1,338
9	広島大	1,199
10	東京工業大	1,184

(2018)

【大学院在籍学生に占める留学生数の割合】

順位	大学名	%
1	大阪大	26.2
1	広島大	26.2
3	北海道大	24.1
4	九州大	23.6
5	筑波大	23.5
6	名古屋大	21.9
6	東京工業大	21.9
8	東京大	21.7
9	東北大	20.7
10	京都大	17.8

(2018)

【大学院在籍学生に占める女子学生数の割合】

順位	大学名	%
1	広島大	35.2
2	筑波大	35.1
3	神戸大	33.8
4	千葉大	32.4
5	北海道大	30.5
5	名古屋大	30.5
7	岡山大	30.3
8	大阪大	29.6
9	東京大	29.1
10	新潟大	28.7
⋮		
13	九州大	27.0

(2019)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学> (※1) 及びRU11 (学術研究懇談会) (※2) を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。

・14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大 (大学番号順)

(※1) Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人 (学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2) RU11 (学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学 (北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大) による学術の発展を目的としたコンソーシアム

出典：留学生数、留学生数の割合：文部科学省 平成30年度業務実績報告書
女子学生の割合：各大学HP、大学概要 (2019)

1-3. 他大学との比較 - 規模 - (国立大学間) (つづき)

【教員数】

順位	大学名	人
1	東京大	3,852
2	大阪大	3,541
3	京都大	3,374
4	東北大	3,152
5	九州大	2,412
6	筑波大	2,376
7	名古屋大	2,360
8	北海道大	2,348
9	広島大	1,899
10	神戸大	1,696

(2018)

【教員一人当たりの学生数】

順位	大学名	人
1	千葉大	9.6
2	東京工業大	9.3
2	神戸大	9.3
4	新潟大	8.5
5	岡山大	8.1
6	広島大	7.6
7	北海道大	7.5
7	九州大	7.5
9	東京大	6.8
10	筑波大	6.6

(2018)

【職員数】

順位	大学名	人
1	東京大	4,093
2	京都大	3,471
3	東北大	3,244
4	大阪大	3,113
5	北海道大	3,096
6	筑波大	2,564
7	名古屋大	2,486
8	岡山大	2,442
9	神戸大	2,049
10	千葉大	1,994
:		
14	九州大	1,361

(2018)

【女性教員数】

順位	大学名	人
1	大阪大	318
2	東京大	262
3	筑波大	220
4	名古屋大	184
5	京都大	182
6	九州大	173
7	東北大	171
8	広島大	170
9	千葉大	169
10	神戸大	157

(2019)

【外国人教員数】

順位	大学名	人
1	大阪大	134
2	京都大	113
3	東京大	89
4	九州大	88
5	東北大	86
6	北海道大	72
7	筑波大	66
8	広島大	62
9	神戸大	45
10	名古屋大	40

(2019)

【運営費交付金】

(単位：百万円)

順位	大学名	配分額
1	東京大	84,880
2	京都大	56,656
3	大阪大	50,962
4	東北大	46,908
5	九州大	41,069
6	筑波大	40,307
7	北海道大	39,168
8	名古屋大	31,581
9	広島大	25,333
10	東京工業大	23,248

(2019)

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学> (※1) 及びRU11 (学術研究懇談会) (※2) を構成する国立大学を「14大」と定義し、大学間での順位付けを行った。
 ・14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、広島大、九州大 (大学番号順)
 (※1) Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人 (学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2) RU11 (学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学 (北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大) による学術の発展を目的としたコンソーシアム

出典：教員数、教員一人当たりの学生数、職員数：文部科学省 平成30年度業務実績報告書
 女性教員数、外国人教員数：朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」
 運営費交付金：各大学平成31年度年度計画

1-4. 他大学との比較 - 教育 - (国公立大学間)

【校舎面積】

順位	大学名	m ²
1	日本大	1,029,587
2	九州大	855,035
3	東京大	828,073
4	大阪大	683,907
5	京都大	640,203
6	早稲田大	625,884
7	北海道大	556,680
8	立命館大	527,458
9	東海大	508,926
10	名古屋大	492,246

(2019)

【2、3年次編入学】

順位	大学名	人
1	関西外国語大	495
2	豊橋技術科学大	369
3	長岡技術科学大	340
4	日本大	317
5	国学院大	232
6	武庫川女子大	145
7	帝京大	141
8	東京福祉大	135
9	北陸大	131
10	新潟大	127
⋮		
34	九州大学	59

(2019)

【図書館蔵書冊数】

順位	大学名	冊
1	東京大	9,745,659
2	京都大	7,126,337
3	日本大	5,704,096
4	早稲田大	5,646,950
5	慶應義塾大	4,973,536
6	九州大	4,195,007
7	東北大	4,168,468
8	大阪大	3,884,016
9	神戸大	3,784,027
10	北海道大	3,779,843

(2019)

【指数評価（蔵書、受け入れ、貸し出し、図書館費の指数合計）】

順位	大学名	蔵書	受け入れ	貸し出し	図書館費	指数評価
1	天理大	100.00	84.79	10.92	94.75	100.00
2	国際基督教大	38.24	71.36	100.00	61.39	93.30
3	東京大	52.71	74.50	36.34	95.19	89.08
4	鶴見大	44.25	87.70	26.07	80.75	82.20
5	一橋大	58.50	59.51	36.96	61.02	74.36
6	京都大	48.39	63.09	38.49	65.09	74.04
7	奈良大	34.35	100.00	39.24	38.73	73.10
8	学習院大	29.76	57.72	24.81	100.00	73.09
9	創価大	21.20	61.30	66.59	59.00	71.64
10	九州大	34.62	38.26	22.05	95.57	65.59

(2019)

・ランキングの見方（出典より引用）

2019年11月、全国の国公立大学755校の図書館長にアンケートを送付。2020年1月上旬までに回答のあった727校分を集計した。各項目の数字は、奉仕対象学生一人当たりの蔵書冊数、受け入れ図書冊数、貸し出し数（学生）、図書館費についてそれぞれの最高値を100とし、指数化したもの。総合ランキングの指数評価は、各項目における指数を合計し、その最高値を100として指数で表した。ただし、奉仕対象学生数2,000人未満、および設立4年未満の大学は集計対象から除いている。なお奉仕対象学生については、短大・その他の学校も対象とする場合、その学生数も含む。図書館費とは、資料費総額とその他の図書館経費を足して算出したもの。

出典：朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-4. 他大学との比較 - 教育 - (国公立大学間) (つづき)

【大学院進学率】

工、理工学部		理学部		農、生物系学部	
大学名	%	大学名	%	大学名	%
東北大(工)	89.9(1位)	大阪大(理)	84.8(1位)	京都大(農)	80.4(1位)
長岡技術科学大(工)	86.1(2位)	東京大(理)	83.9(2位)	東北大(農)	79.5(2位)
大阪大(工)	84.9(3位)	東北大(理)	81.3(3位)	名古屋大(農)	74.6(3位)
大阪府立大(工学域)	83.8(4位)	北海道大(理)	79.2(4位)	九州大(農)	74.3(4位)
名古屋大(工)	83.6(5位)	京都大(理)	79.0(5位)	北海道大(農)	73.5(5位)
京都大(工)	83.5(6位)	名古屋大(理)	74.0(6位)	北海道大(水産)	71.4(6位)
九州大(工)	82.6(7位)	九州大(理)	72.2(7位)	筑波大(生命環境学群)	69.2(7位)
東京大(工)	81.2(8位)	岡山大(理)	70.7(8位)	神戸大(農)	63.5(8位)
北海道大(工)	81.0(9位)	広島大(理)	68.6(9位)	東京大(農)	59.9(9位)
大阪大(基礎工)	80.9(10位)	神戸大(理)	67.3(10位)	立命館大(生命科学)	58.2(10位)
法学部		経済、経営、商学部			
大学名	%	大学名	%		
東京大(法)	24.6(1位)	岡山商科大(経済)	24.6(1位)		
京都大(法)	24.3(2位)	北陸大(経済経営)	24.5(2位)		
神戸大(法)	22.3(3位)	東京大(経済)	9.3(3位)		
一橋大(法)	19.1(4位)	京都大(経済)	9.1(4位)		
大阪大(法)	17.3(5位)	大阪経済法科大(経済)	8.8(5位)		
名古屋大(法)	15.8(6位)	城西国際大(経営情報)	7.8(6位)		
北海道大(法)	15.6(7位)	大阪大(経済)	6.8(7位)		
九州大(法)	15.3(8位)	立教大(経済)	6.2(8位)		
東北大(法)	15.3(8位)	東北大(経済)	5.9(9位)		
大阪工業大(知的財産)	14.6(10位)	九州大(経済)	5.5(10位)		
		神戸国際大(経済)	5.5(10位)		

(2019)

【社会人受け入れ実施状況】

順位	大学名	点
1	東洋大	75.2
2	関西大	58.6
3	早稲田大	57.3
4	法政大	57.0
5	北海道大学	49.2
6	九州大	48.2
7	武蔵野大	47.4
8	東北大	46.4
9	同志社大	45.4
10	日本大	44.9

(2019)

・ランキングの見方

大学入学情報図書館RENAが2019年10月から2020年1月に実施した大学へのアンケート調査をもとに作成した。全国の大学の学部1年次、学部2,3年次編入学、学士入学および大学院修士課程、博士課程、専門職学位課程の社会人向け入試制度、社会人向け諸制度などの実施状況について評価した。大学入学情報図書館RENAは、全国の大学、大学院の情報を集めている。社会に開かれている大学・学部、大学院の入学情報として、社会人向け試験実施大学、社会人が学びやすい諸制度、志願者数、合格者数(社会人を含む)などを掲載している。今回のランキング詳細は、下記のURLを参照。
URL <http://www.rena.gr.jp/>

出典: 朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-5. 他大学との比較 - 就職 - (国公立大学間)

◆ 人気企業就職 ◆

【トヨタ自動車】

順位	大学名	人
1	名古屋大	41
2	早稲田大	29
3	大阪大	28
4	名古屋工業大	25
5	慶應義塾大	24
6	九州大	20
7	東京工業大	17
7	立命館大	17
9	北海道大	15
10	東京理科大	14
10	同志社大	14
10	明治大	14

(2019)

【日立製作所】

順位	大学名	人
1	早稲田大	48
2	慶應義塾大	36
3	東北大	35
4	東京工業大	34
5	大阪大	33
6	名古屋大	25
7	北海道大	23
8	上智大	19
9	筑波大	17
9	同志社大	17
9	明治大	17
12	九州大	16

(2019)

【明治グループ

(明治・Meiji Seika ファルマ)】

順位	大学名	人
1	関西学院大	6
2	明治大	5
2	早稲田大	5
4	九州大	4
4	同志社大	4
6	大阪大	3
6	神戸大	3
6	東北大	3
6	北海道大	3
6	大阪府立大	3
6	東京理科大	3
6	立命館大	3

(2019)

【全日本空輸 (ANA)】

順位	大学名	人
1	慶應義塾大	37
2	青山学院大	36
3	関西外国語大	35
3	関西学院大	35
5	早稲田大	29
6	立教大	28
7	上智大	25
8	同志社大	22
8	明治大	22
10	立命館大	21
11	法政大	18
12	東京女子大	15
13	九州大	13
13	成城大	13
13	西南学院大	13
13	東海大	13
13	獨協大	13

(2019)

【伊藤忠商事】

順位	大学名	人
1	慶應義塾大	25
2	早稲田大	20
3	一橋大	7
4	大阪大	6
4	上智大	6
6	神戸大	5
7	九州大	4
8	関西学院大	3
8	明治大	3
8	立命館大	3

(2019)

【カゴメ】

順位	大学名	人
1	大阪大	3
1	神戸大	3
1	明治大	3
4	岡山大	2
4	九州大	2
4	法政大	2
4	立教大	2
4	早稲田大	2

(2019)

・ランキングの見方

掲載企業は、「マイナビ・日経2020年卒業大学生就職企業人気ランキング」(株式会社マイナビ<就職、進学情報をはじめ、人材、生活分野などさまざまな情報サービスを提供>と日本経済新聞社による共同調査)を参考に選んだ。同調査は2020年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生(調査当時)を対象として行われている。有効回答は4万7939人。人気企業就職ランキングは文系・理系それぞれで上位企業(一部除く)の2019年就職者数を大学別に集計した(大学通信調べ)。一部、グループ企業を含む場合がある。また、東京大、京大などアンケートに未回答、または一部企業について未回答の大学は未掲載。

出典: 朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-5. 他大学との比較 - 就職 - (国公立大学間) (つづき)

【富士通】

順位	大学名	人
1	早稲田大	83
2	慶應義塾大	52
3	大阪大	36
4	横浜国立大	32
5	神戸大	31
5	明治大	31
7	九州大	26
7	立命館大	26
9	同志社大	24
10	東京工業大学	21
10	北海道大学	21

(2019)

【アサヒビール】

順位	大学名	人
1	立命館大	6
2	早稲田大	5
3	同志社大	4
3	明治大	4
5	九州大	3
5	関西大	3
5	関西学院大	3
5	京都産業大	3
5	慶應義塾大	3
5	立教大	3

(2019)

【ニトリ】

順位	大学名	人
1	早稲田大	40
2	立命館大	36
3	北海道大	30
4	関西大	27
4	中央大	27
6	九州大	24
6	関西学院大	24
8	東北大	21
9	大阪大	20
9	明治大	20

(2019)

【日清食品】

順位	大学名	人
1	名古屋大	3
1	早稲田大	3
3	大阪大	2
3	九州大	2
3	神戸大	2
3	近畿大	2
3	日本大	2
3	法政大	2
3	明治大	2

(2019)

・ランキングの見方

掲載企業は、「マイナビ・日経2020年卒業大学生就職企業人気ランキング」(株式会社マイナビ<就職、進学情報をはじめ、人材、生活分野などさまざまな情報サービスを提供>と日本経済新聞社による共同調査)を参考に選んだ。同調査は2020年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生(調査当時)を対象として行われている。有効回答は4万7939人。人気企業就職ランキングは文系・理系それぞれで上位企業(一部除く)の2019年就職者数を大学別に集計した(大学通信調べ)。一部、グループ企業を含む場合がある。また、東京大、京都大などアンケートに未回答、または一部企業について未回答の大学は未掲載。

出典: 朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-6. 他大学との比較 - 国際 -

【QS 世界大学ランキング 国内 (2020 年 6 月公表)】

2018/2019 順位	2019/2020 順位	2020/2021 順位	2020/2021 国内順位	大学名	2020/2021 総合スコア
1	1	1	—	マサチューセッツ工科大	100.0
2	2	2	—	スタンフォード大	98.4
3	3	3	—	ハーバード大	97.9
4	5	4	—	カリフォルニア工科大	97.0
5	4	5	—	オックスフォード大	96.7
				⋮	
23	22	24	1	東京大	83.2
27	28	30	—	カリフォルニア大学バークレー校	80.8
35	33	38	2	京都大	78.9
61	55	50	—	ミュンヘン工科大学	73.6
58	58	56	3	東京工業大	70.8
67	71	72	4	大阪大	66.1
77	82	79	5	東北大	64.3
113	103	100	—	メキシコ国立自治大学	58.8
111	115	110	6	名古屋大	55.8
126	132	124	7	九州大	53.7
128	132	139	8	北海道大	52.2
208	196	189	9	早稲田大	44.1
198	200	191	10	慶應義塾大	44.0

【Academic Reputation】

学術評判

国内順位	大学名	スコア
1	東京大	100.0
2	京都大	98.6
3	大阪大	80.1
4	東京工業大	73.3
5	東北大	69.3
6	名古屋大	58.7
7	早稲田大	58.6
8	九州大	54.6
9	北海道大	54.0
10	慶應義塾大	49.5

【Employer Reputation】

雇用者評判

国内順位	大学名	スコア
1	東京大	99.6
2	京都大	96.9
3	早稲田大	93.6
4	東京工業大	90.4
5	慶應義塾大	87.0
6	大阪大	79.6
7	東北大	72.4
8	九州大	62.5
9	北海道大	60.0
10	名古屋大	52.3

【Citations per Faculty】

論文被引用数/教員数

国内順位	大学名	スコア
1	東京工業大	62.6
2	東京大	62.5
3	京都大	42.6
4	大阪大	41.3
5	東北大	39.6
6	名古屋大	35.0
7	北海道大	32.7
8	九州大	31.2
9	筑波大	22.5
10	慶應義塾大	9.6

【Faculty Student】

学生数/教員数

国内順位	大学名	スコア
1	東北大	98.1
2	京都大	95.0
3	東京大	92.3
4	名古屋大	90.0
5	九州大	86.7
6	東京工業大	83.4
7	北海道大	80.0
8	大阪大	78.9
9	筑波大	68.9
10	慶應義塾大	60.8

【International Student Ratio】

外国籍学生数/学生数

国内順位	大学名	スコア
1	早稲田大	36.7
2	東京工業大	28.0
3	筑波大	27.3
4	東京大	26.1
5	九州大	20.4
5	名古屋大	20.4
7	京都大	19.8
8	東北大	16.9
9	北海道大	16.2
10	大阪大	14.0

【International Faculty Ratio】

外国籍教員数/教員数

国内順位	大学名	スコア
1	早稲田大	31.0
2	東京工業大	27.6
3	大阪大	20.3
4	北海道大	17.9
5	筑波大	15.5
6	名古屋大	14.8
7	九州大	14.4
8	慶應義塾大	12.2
9	東北大	11.8
10	東京大	10.7

九州大学成果指標 (スコア)

【QS】



・【Academic Reputation】、【Employer Reputation】、【Citations per Faculty】、【Faculty Student】、【International Student Ratio】、【International Faculty Ratio】は Top300 位以内の日本国内の大学間で比較。

出典: 英国クアクアレリ・シモンズ (Quacquarelli Symonds: QS) Web サイト

1-6. 他大学との比較 -国際- (つづき)

【THE 世界大学ランキング (2020年9月公表)】 ※200位以下の総合スコアは公表されていないため、指標スコアより推計値を算出。

2018/2019 順位	2019/2020 順位	2020/2021 順位	2020/2021 国内順位	大学名	2020/2021 総合スコア
1	1	1	—	オックスフォード大	95.6
3	4	2	—	スタンフォード大	94.9
6	7	3	—	ハーバード大学	94.8
5	2	4	—	カリフォルニア工科大学	94.5
4	5	5	—	マサチューセッツ工科大	94.4
				⋮	
29	30	30	—	エディンバラ大	79.4
42	36	36	1	東京大	76.0
54	52	50	—	セントルイス・ワシントン大	71.1
65	65	54	2	京都大	70.3
190	159	100	—	上海交通大	61.8
251-300 (265)	251-300 (263)	201-250 (215)	3	東北大	53.0
251-300 (264)	301-350 (301)	301-350 (315)	4	東京工業大	47.1
251-300 (300)	301-350 (344)	351-400 (353)	5	大阪大	45.5
301-350 (303)	301-350 (318)	351-400 (364)	6	名古屋大	45.0
—	401-500 (377)	351-400 (400)	7	産業医科大	43.6
401-500 (461)	401-500 (415)	401-500 (444)	8	東京医科歯科大	41.6
401-500 (422)	401-500 (462)	401-500 (453)	9	九州大	41.4
401-500 (496)	401-500 (495)	401-500 (504)	10	筑波大	39.8

【Teaching】
教育 (学習環境)

国内順位	大学名	スコア
1	東京大	87.9
2	京都大	77.9
3	東北大	57.7
4	大阪大	52.0
5	東京工業大	51.8
6	名古屋大	47.7
7	東京医科歯科大	46.1
8	九州大	45.3
9	北海道大	45.0
10	筑波大	43.5

【International Outlook】
国際的な評判 (教授陣と学生の質)

国内順位	大学名	スコア
1	会津大	70.6
2	東北大	46.7
3	筑波大	44.6
4	北海道大	41.9
5	東京工業大	41.1
6	九州大	40.7
7	東京大	40.1
8	大阪大	38.6
9	京都大	37.8
10	名古屋大	34.9

【Industry Income】
産業からの収入 (革新性)

国内順位	大学名	スコア
1	東北大	97.4
2	名古屋大	87.7
3	東京大	82.6
4	九州大	79.0
5	京都大	74.6
6	東京工業大	71.8
7	東京医科歯科大	65.9
8	北海道大	64.6
9	大阪大	64.0
10	筑波大	47.1

【Research】
研究 (ボリューム) / 収益性 / 評価

国内順位	大学名	スコア
1	東京大	90.7
2	京都大	79.9
3	東北大	61.0
4	東京工業大	54.2
5	大阪大	50.6
6	名古屋大	47.8
7	九州大	42.3
8	北海道大	41.5
9	筑波大	39.0
10	東京医科歯科大	26.6

【Citations】
論文の引用度合

国内順位	大学名	スコア
1	産業医科大	100.0
2	帝京大	92.3
3	藤田保健衛生大	85.4
4	関西医科大	72.8
5	横浜市立大	68.7
6	日本医科大	66.8
7	京都大	60.8
8	会津大	58.6
9	慈恵大	58.4
10	東京大	57.7
	⋮	
19	九州大	33.8



・【Teaching】、【International Outlook】、【Industry Income】、【Research】、【Citations】は、Top800位以内の日本国内の大学間で比較。

出典: 英タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) Web サイト

1-7. 他大学との比較 - 評価 -

◆学長からの評価◆

【総合】

順位	大学名	人
1	京都大	124
2	東京工業大	64
3	金沢工業大	63
4	東京大	56
5	国際教養大	53
6	大阪大	49
7	国際基督教大	40
8	東北大	33
9	名古屋大	30
9	近畿大	30
∴		
19	九州大	16

(2019)

【教育面で注目】

順位	大学名	人
1	国際教養大	53
1	金沢工業大	53
3	国際基督教大	40
4	東京工業大	28
5	共愛学園前橋国際大	24
6	立命館アジア太平洋大	22
7	立命館大	18
8	千葉大	15
9	芝浦工業大	14
9	上智大	14
∴		
22	九州大	6

(2019)

【研究面で注目】

順位	大学名	人
1	京都大	112
2	東京大	48
3	大阪大	41
4	東京工業大	36
5	東北大	29
6	名古屋大	25
7	近畿大	19
8	慶應義塾大	13
9	筑波大	12
10	金沢大	10
10	九州大	10
10	金沢工業大	10
10	立命館大	10

(2019)

・ランキングの見方

2019年11月、全国の国公私立大学761校の学長にアンケートを送付し、2020年1月下旬までに回答のあった490校の学長の意見をまとめた。アンケートでは「教育面での制度や成果」、「研究面での制度や成果」で注目している大学について、それぞれ6大学まで名前をあげてもらった。【総合】は「教育面」、「研究面」を足したものである。

◆社会人からの評価◆

【人事採用担当者なら気になる】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,210
2	京都大	852
3	早稲田大	543
4	慶應義塾大	437
5	大阪大	221
6	明治大	150
7	東北大	106
8	九州大	105
9	近畿大	93
10	名古屋大	84

(2019)

【地域貢献に積極的】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	644
2	京都大	487
3	早稲田大	389
4	北海道大	232
5	慶應義塾大	202
6	東北大	200
7	大阪大	175
8	近畿大	169
9	九州大	112
9	明治大	112

(2019)

【卒業生が魅力的】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,167
2	京都大	942
3	早稲田大	684
4	慶應義塾大	560
5	大阪大	199
6	明治大	131
7	青山学院大	107
8	東北大	103
9	九州大	91
10	北海道大	77

(2019)

・ランキングの見方

大学通信調べ。全国の社会人を対象としたインターネット調査を実施し、項目別の大学ランキングをまとめた。調査は2019年。回答者数は1,000人で、大学卒の会社員または公務員が調査対象となる。地域が偏ることなく調査を実施、男女比もほぼ1対1となっている。質問項目では、「全国にある大学の中から3大学」と「あなたの住むエリア及び近隣にある大学から3大学」の最大6校を回答してもらい、回答順にそれぞれ3ポイント、2ポイント、1ポイントとして集計した。

出典：朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-7. 他大学との比較 - 評価 - (つづき)

◆ 高校からの評価 ◆

【総合評価 (全国)】

順位	大学名	指数評価
1	東北大	100.00
2	東京大	70.05
3	明治大	68.65
4	早稲田大	65.72
5	国際教養大	62.38
6	金沢工業大	58.49
7	立命館大	56.73
8	京都大	53.07
9	中央大	44.22
10	近畿大	37.99
⋮		
25	九州大	19.96

(2019)

【高校からの評価

(九州・沖縄 / 地域別)】

順位	大学名	指数評価
1	立命館アジア太平洋大	24.03
2	九州工業大	21.45
3	九州大	19.96
4	福岡工業大	12.01
5	西南学院大	8.72
6	中村学園大	7.18
7	佐賀大	7.14
8	崇城大	7.05
9	北九州市立大	6.96
10	福岡大	5.47

(2019)

【進学先で生徒が伸びた】

順位	大学名	人
1	東北大	147
2	東京大	140
3	京都大	100
4	金沢工業大	62
5	大阪大	60
6	早稲田大	54
7	東京理科大	50
8	国際教養大	45
9	九州大	44
9	名古屋大	44

(2019)

【国際化に力を入れている】

順位	大学名	人
1	国際教養大	264
2	国際基督教大	138
3	上智大	128
4	立命館アジア太平洋大	99
5	早稲田大	78
6	東京外国語大	72
7	千葉大	39
8	東京大	36
9	神田外語大	34
10	立教大	33
⋮		
23	九州大	15

(2019)

・ランキングの見方

2019年10月、全国の進学実績のある高校1191校の進学指導担当教諭にアンケートを送付。2019年12月上旬までに回答のあった717校分を集計した。質問内容は次のとおり。「進学先で生徒が伸びた」、「進路支援が充実」、「留学制度の充実、外国人教員による英語授業など、国際化に力を入れている」「オープンキャンパスなど情報開示に熱心」。これらに該当する大学をそれぞれ6校まで記入してもらい、その件数でランキングを作成した。また、各項目について1位の件数(人数)を100として指数化、さらにそれを合計して1位になった大学を100として総合評価ランキングを作成した。

出典: 朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-8. 他大学との比較 - その他 -

【学長の出身（最終学歴）】

順位	大学名	人
1	東京大	79
2	京都大	45
3	東北大	23
4	慶應義塾大	21
5	九州大	20
5	早稲田大	20
7	大阪大	19
8	広島大	17
9	北海道大	15
10	東京工業大	13

(2019)

【理事長の出身（最終学歴）】

順位	大学名	人
1	東京大	62
2	慶應義塾大	39
3	早稲田大	30
4	京都大	24
5	上智大	14
6	九州大	13
6	東北大	13
8	大阪大	10
8	同志社大	10
8	日本大	10
8	明治大	10
8	立教大	10

(2019)

【国会議員の出身】

順位	大学名	人
1	東京大	129
2	早稲田大	73
3	慶應義塾大	72
4	京都大	32
5	日本大	22
6	中央大	21
7	創価大	17
8	明治大	15
9	上智大	13
9	法政大	13
	∴	
22	九州大	5

(2019)

◆社長の出身◆

【社長の出身（国立大学間）】

順位	大学名	人
1	東京大	3,940
2	京都大	2,505
3	大阪大	2,352
4	北海道大	2,190
5	九州大	1,996
6	東北大	1,939
7	神戸大	1,817
8	広島大	1,760
9	名古屋大	1,410
10	千葉大	1,404

(2019)

【社長の出身・一部上場（国立大学間）】

順位	大学名	人
1	東京大	144
2	京都大	79
3	大阪大	40
4	一橋大	34
5	東北大	30
6	神戸大	28
7	名古屋大	22
8	東京工業大	17
9	九州大	16
9	北海道大	16

(2019)

【社長の出身・女性（国立大学間）】

順位	大学名	人
1	東京大	138
2	広島大	116
3	大阪大	101
4	九州大	98
5	千葉大	78
5	筑波大	78
7	神戸大	66
7	東北大	66
9	京都大	65
9	名古屋大	65

(2019)

・ランキングの見方

東京商工リサーチの企業データベース340万1,136社（2018年12月）の代表者データ（個人企業を含む）のうち、公開されている出身大学を抽出、集計した。一部上場企業は東京証券取引所のみを集計した。同一人物が複数の企業で社長を務めている場合、売上高が高い企業を優先して重複企業を集計対象外とした。出身大学が名称変更、統合している場合、現在の大学名で集計した。

出典：朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

1-9. 他大学との比較 - 国立七大学間 -

◆国立七大学基本情報◆

項目	大学名	九州大	北海道大	東北大	東京大	名古屋大	京都大	大阪大
総長		1	1	1	1	1	1	1
副学長（理事・監事）		10	7	9	9	9	9	10
役員数（R1.5.1 現在）		11	8	10	10	10	10	(※1) 11
教授		699	681	881	1,278	636	1,054	958
准教授		711	602	739	956	508	944	825
講師		143	155	193	286	167	259	310
助教		816	573	1,163	1,310	394	1,142	1,156
准助教		9						
助手			8	151	33	2	2	9
教諭					41			
教員数（R1.5.1 現在）		(※2) 2,378	2,019	(※3) 3,127	3,904	(※4) 1,707	(※5) 3,401	(※6) 3,258
学部生		11,647	11,311	10,814	14,058	9,628	12,992	15,285
大学院生 [博士前期・修士・専門職]		4,312	4,081	4,385	8,000	3,829	5,806	4,700
大学院生 [博士後期・博士]		2,660	2,364	2,543	5,732	2,339	3,671	3,331
学生数（R1.5.1 現在）		18,619	17,756	17,742	27,790	15,796	22,469	23,316
学部数（R1.5.1 現在）		12	(※8) 12	10	10	9	(※8) 10	11
大学院数（R1.5.1 現在）		19	(※8) 35	16	15	13	(※8) 18	16
附置研究所数（R1.5.1 現在）		(※7) 4	(※8) 4	15	(※9) 11	3	(※8) 13	6
共同利用・共同研究拠点数（R1.10.23 現在）		5	8	7	10	4	18	8
教育関係共同利用拠点数（R1.8.15 現在）		1	5	3	1	2	4	1
運営費交付金（R1 年度予算） （単位：百万円）		41,069	39,168	46,908	84,880	31,581	56,656	50,962

(2019)

- (※1) R1.8.26 現在の数値である。
- (※2) 休職者・育児休業者を含まず、休職代替職員を含む。再雇用職員を含む。特定有期教員を含む。
- (※3) 再雇用職員、休職者を含む。
- (※4) 任期付正職員（コ・メディカル、育休代替、特任教授、寄附講座教授、病院教授、リサーチ・アドミニストレーター等）は含まない。
- (※5) 育児休業者・休職者、再雇用者は含まない。特定有期雇用教職員は含む。
- (※6) 派遣・休職・育休は含まない。寄附講座教員、特任教職員（常勤）は含み、非常勤教員（特任教員、特任研究員、医員、医員（臨床研修））は含まない。
- (※7) R1.6.2 現在の数値である。
- (※8) R1.4.1 現在の数値である。
- (※9) R1.6.18 現在の数値である。

出典：九州大学概要 2019/資料編
 北海道大学概要 2019-2020
 東北大概要 2019/令和1年度 国立大学法人東北大 年度計画
 東京大学概要 2019 概要編、資料編、年度計画
 名古屋大学プロフィール 2019/令和1年度 国立大学法人名古屋大学 年度計画
 京都大学概要 2019/平成31年度 国立大学法人京都大学 年度計画
 大阪大学プロフィール 2019
 文部科学省ホームページ（共同利用・共同研究拠点一覧）
 文部科学省ホームページ（教育関係共同利用 認定拠点一覧）

教職員数等

学生数

志願状況

入学状況

学位取得状況

進路・就職

資格試験等

研究

国際

産学官連携

附属病院

収入・支出

研究プログラム及び教育プログラムの実施状況

■その他の他大学との比較項目については、以下をご参照ください。

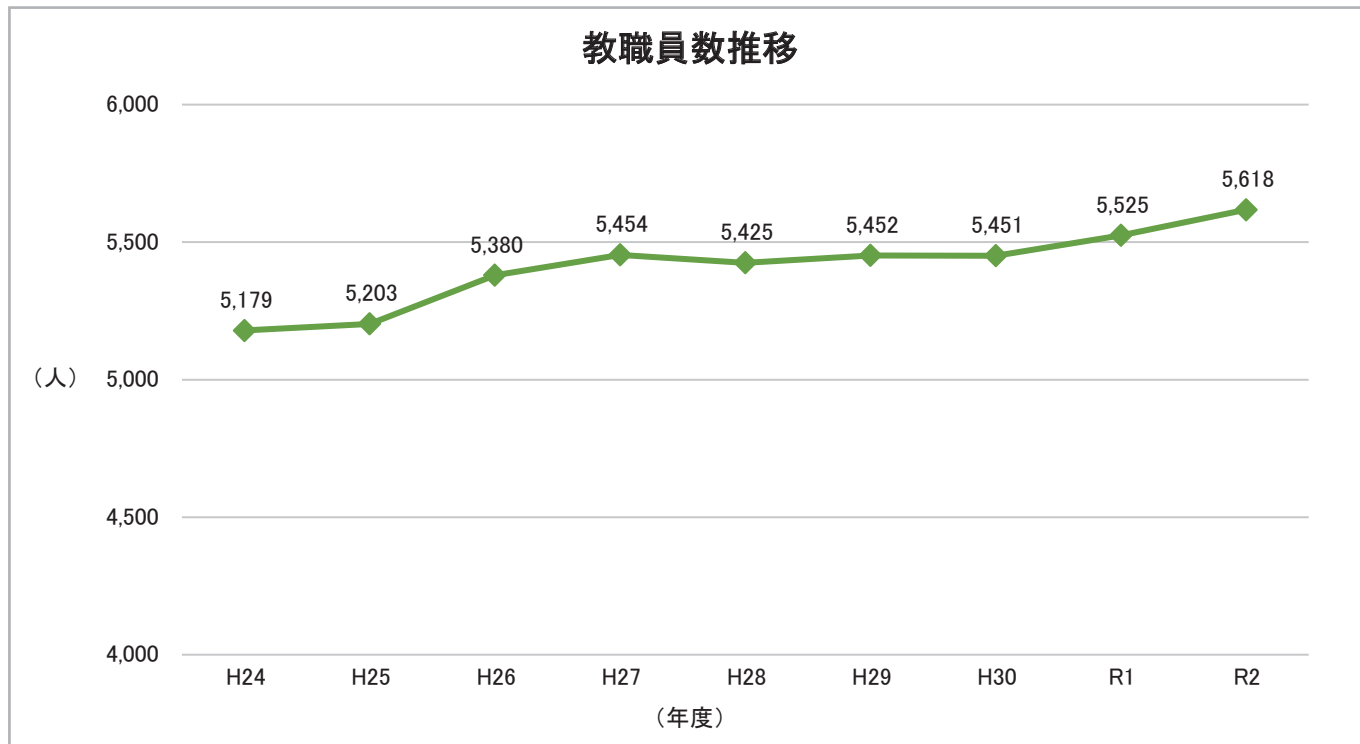
P93	【自分の子どもに入学してほしい】、【一般入試合格者のうち入学者の比率（国立大学）】
P136	【国家公務員総合職】、【国家公務員一般職】、【技術士】、【一級建築士】
P139	【Scholarly Output（論文数）】、【Citation Count（被引用回数）】、【FWCI（論文のインパクト）】
P161	【民間企業との共同研究実施件数（全国 国公立大学間）】、【民間企業との共同研究費受入額（全国 国公立大学間）】、【民間企業との共同研究に伴う一件当たりの研究費受入額（全国 国公立大学間）】
P163	【民間企業からの受託研究実施件数（全国 国公立大学間）】、【民間企業からの受託研究費受入額（全国 国公立大学間）】、【民間企業からの受託研究に伴う一件当たりの研究費受入額（全国 国公立大学間）】
P165	【特許権実施等件数（外国分を含む）】、【特許権実施等収入（外国分を含む）】
P182	科学研究費助成事業の比較（新規＋継続）【採択件数】、【女性比率】、【若手比率】、【配分額】 科学研究費助成事業の比較（新規）【採択件数】、【採択率】

2. 教職員数等 (各年度5月1日現在)

2-1. 教職員数

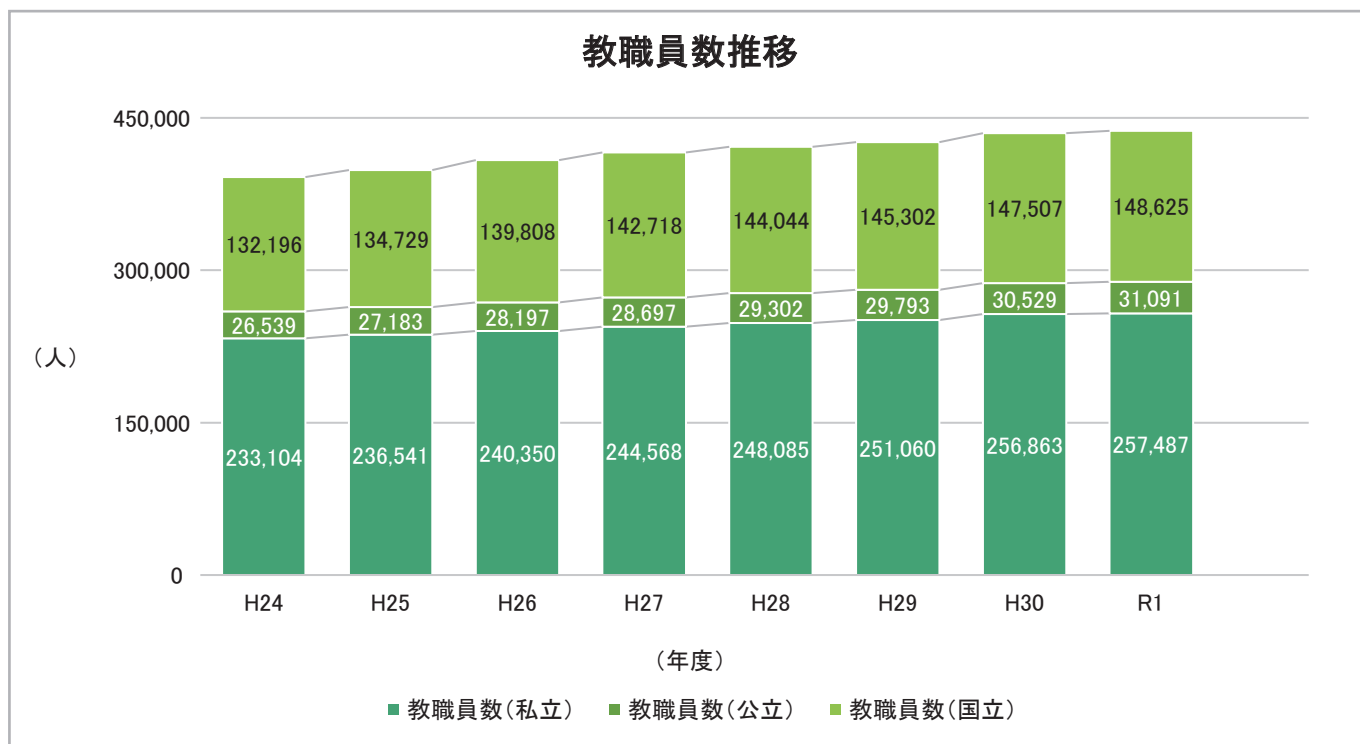
教職員数は本学、全国ともに緩やかに増加傾向である。

◆九州大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国公立大学◆



・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

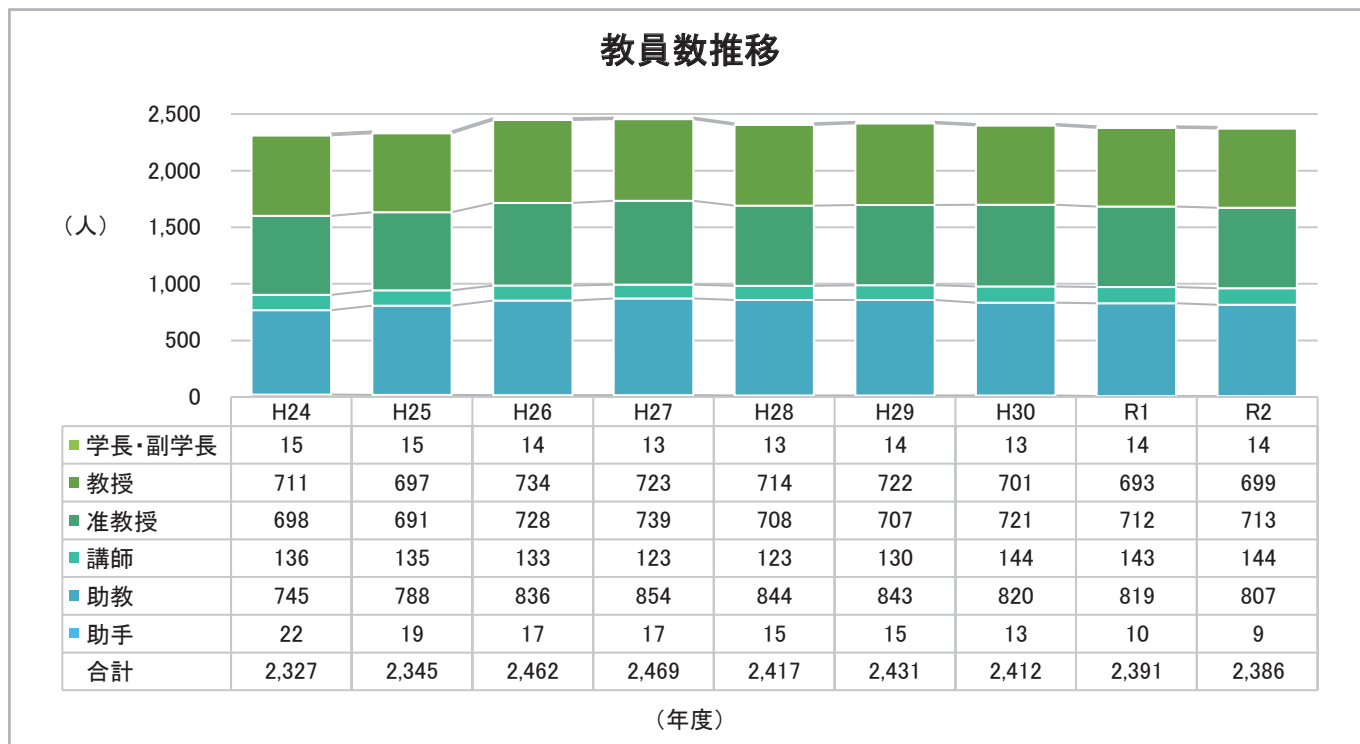
出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」

2-2. 教員数

2-2-1. 教員数(全体)

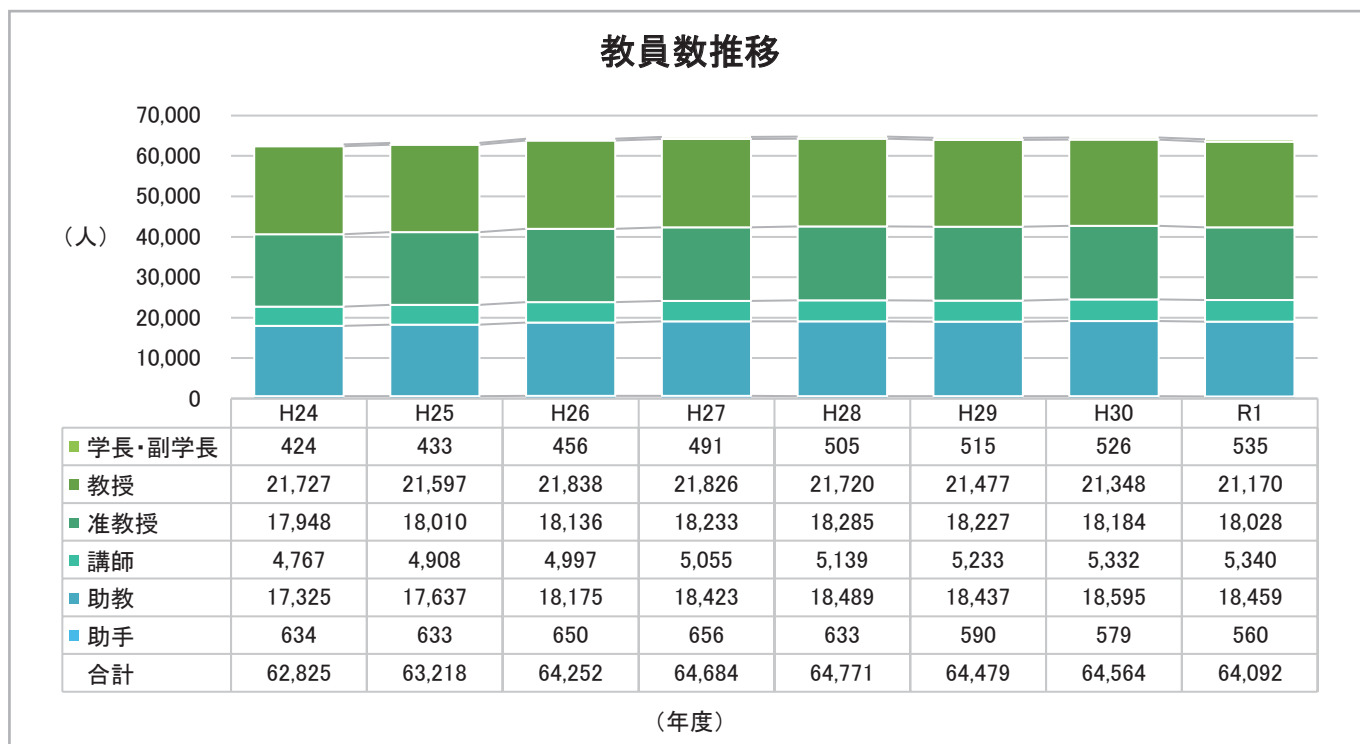
本学、全国共に教員数は横ばい傾向である。

◆九州大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆



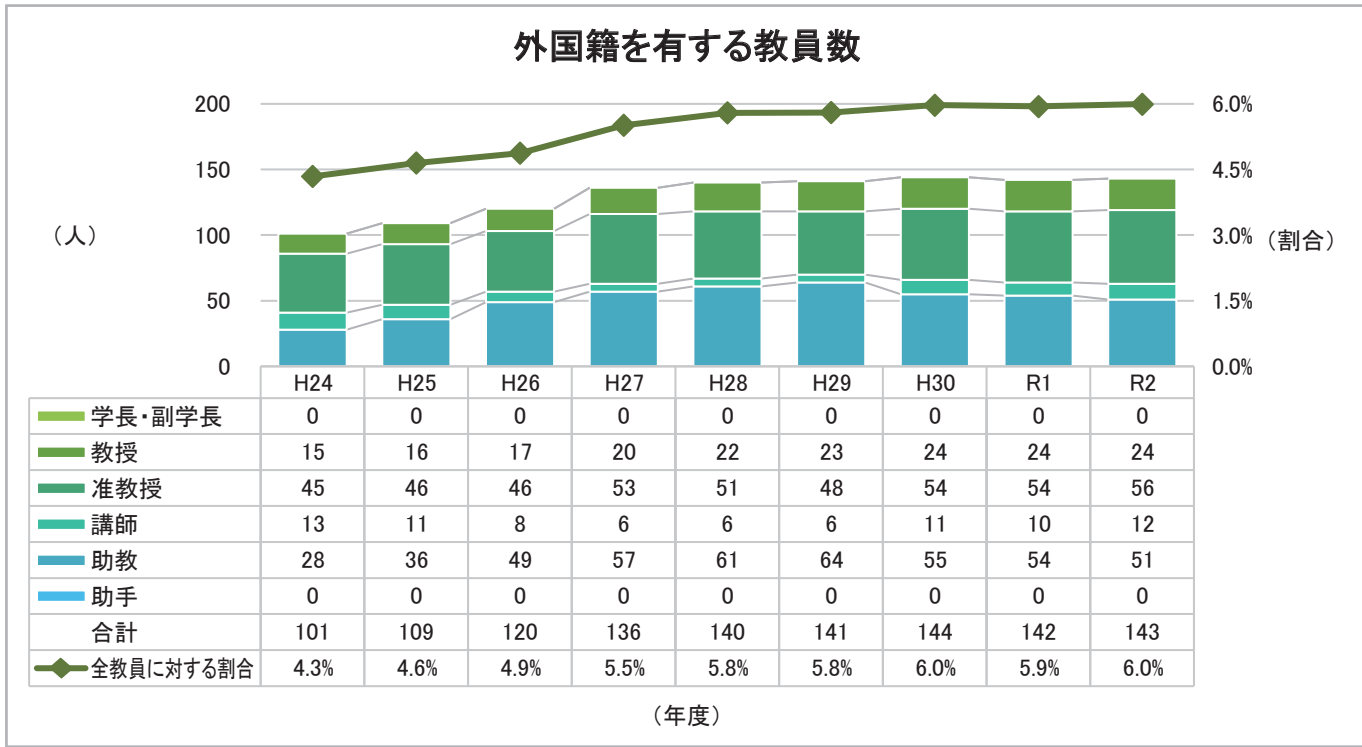
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」

2-2-2. 外国籍を有する教員数 ※2-2-1. 教員数の内数

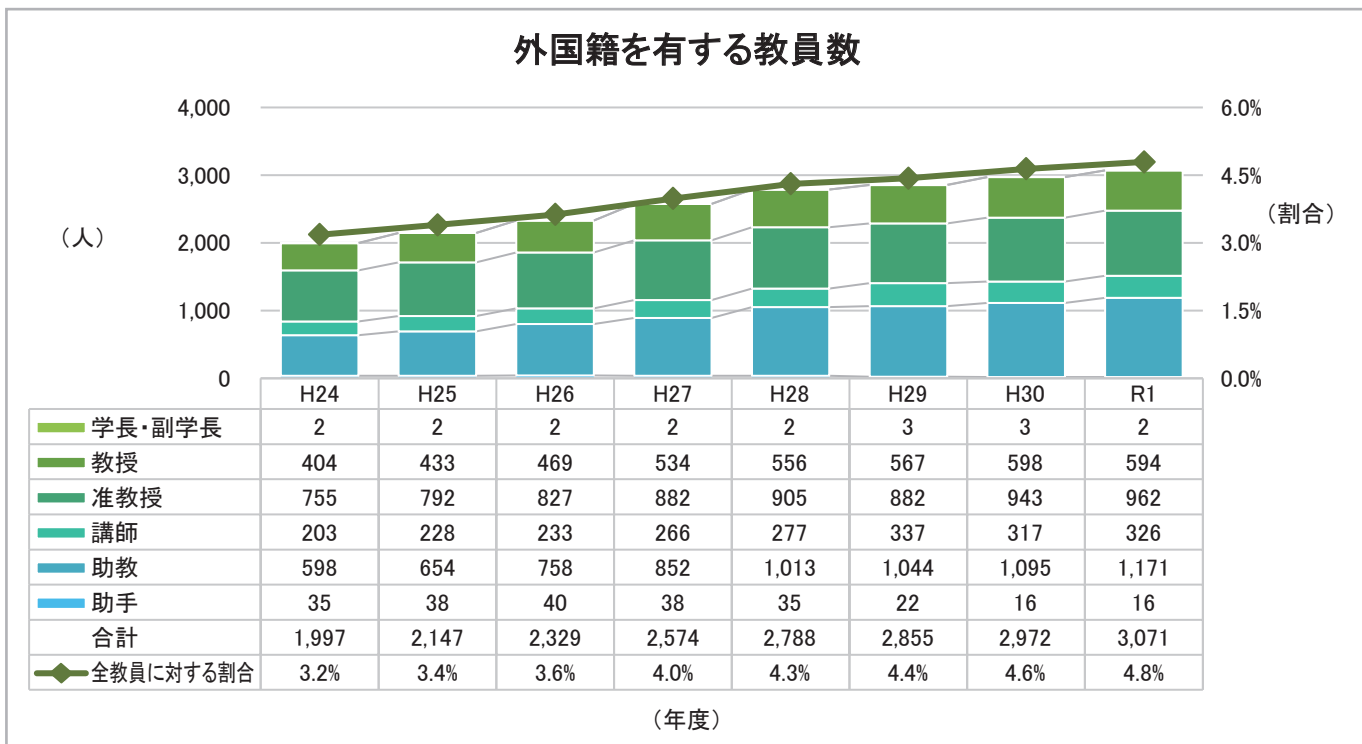
本学、全国ともに、外国籍を有する教員数は年々増加傾向である。

◆九州大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆

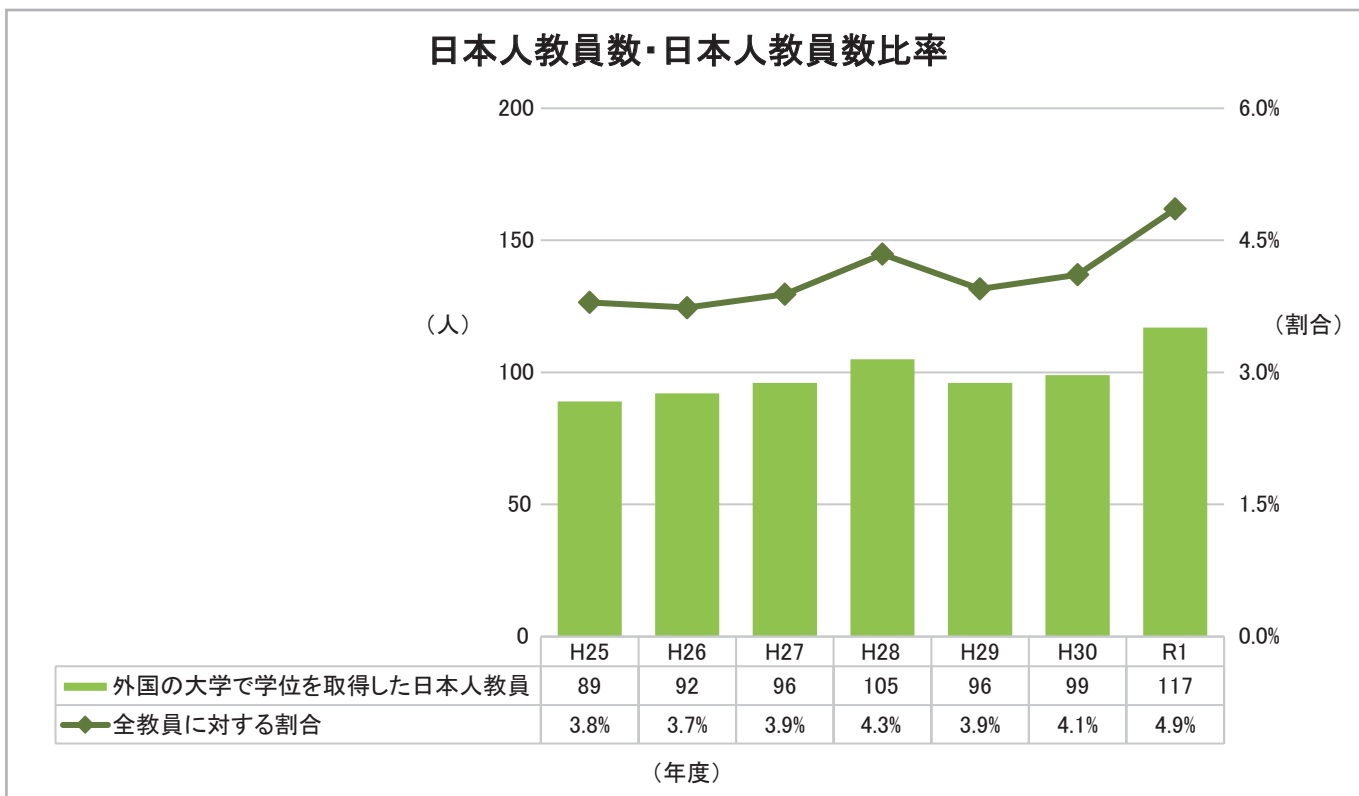


・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別外国人教員数」

【参考】外国の大学で学位を取得した日本人教員数

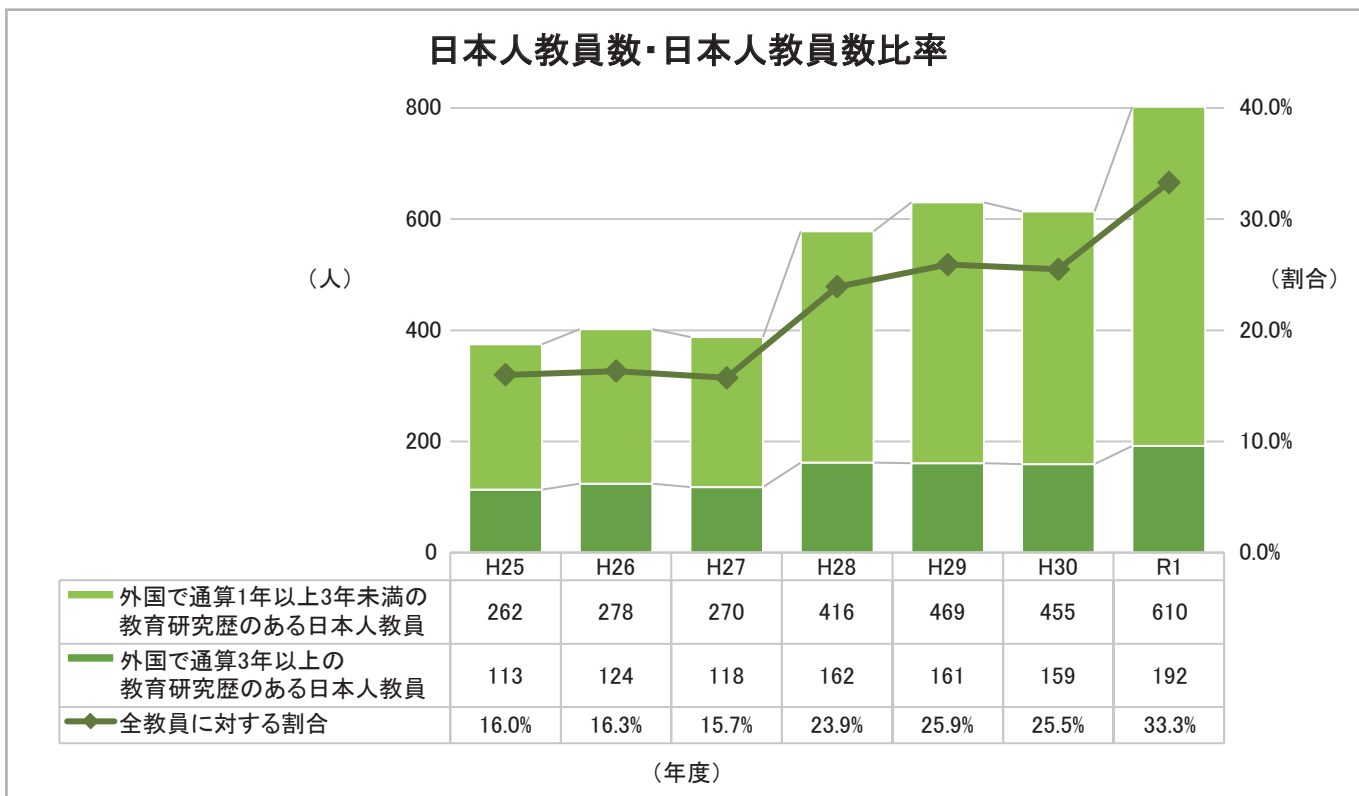
◆九州大学◆



出典: 独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価調査」

【参考】外国で教育研究歴のある日本人教員数

◆九州大学◆

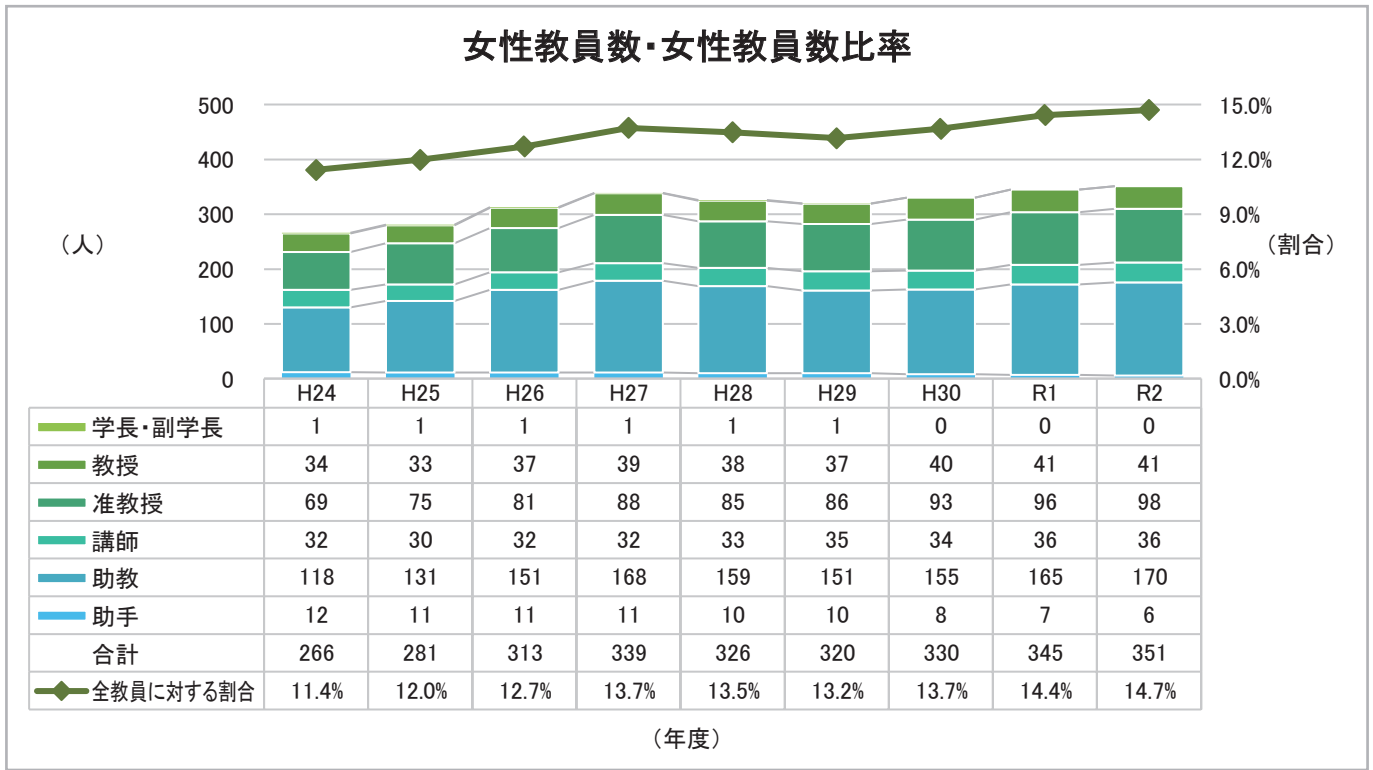


出典: 独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価調査」

2-2-3. 女性教員数 ※2-2-1. 教員数の内数

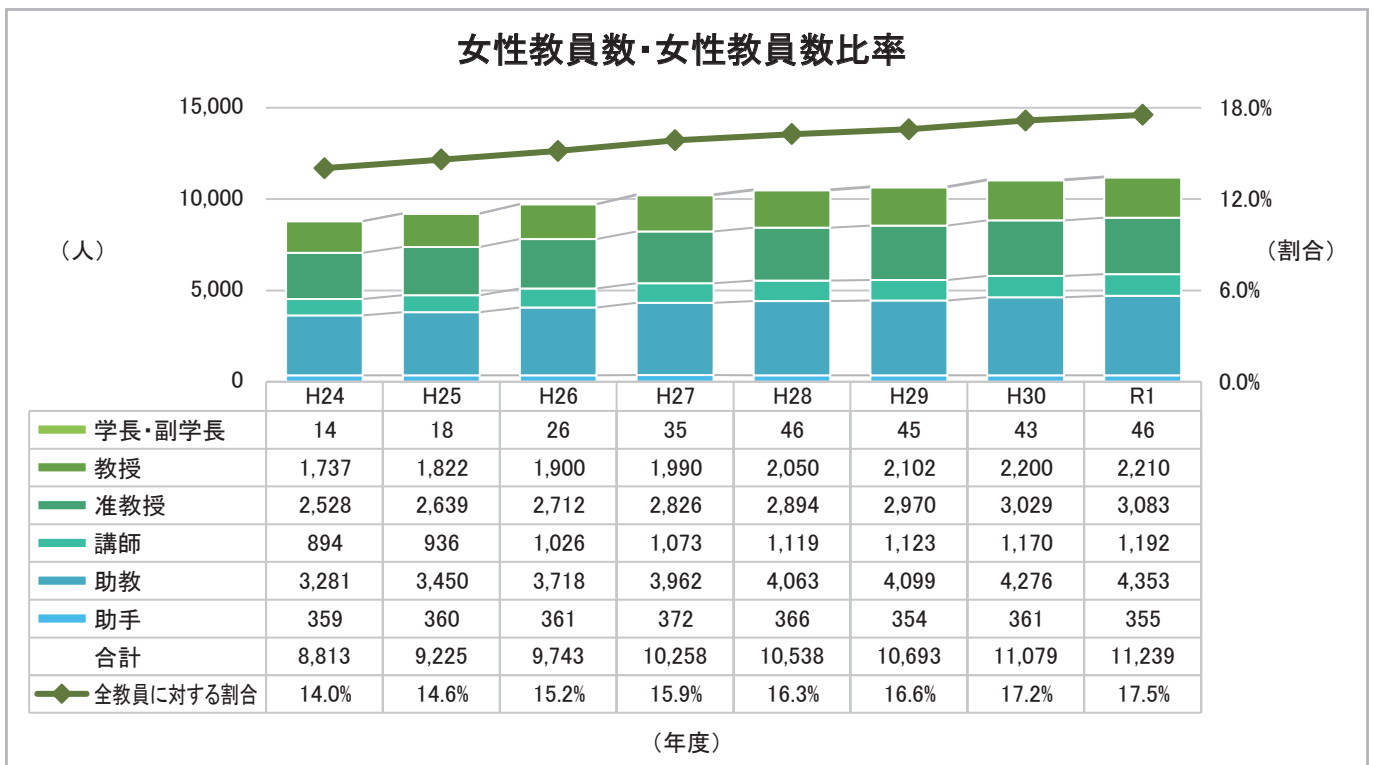
本学、全国ともに、女性教員数は年々増加傾向である。

◆九州大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆

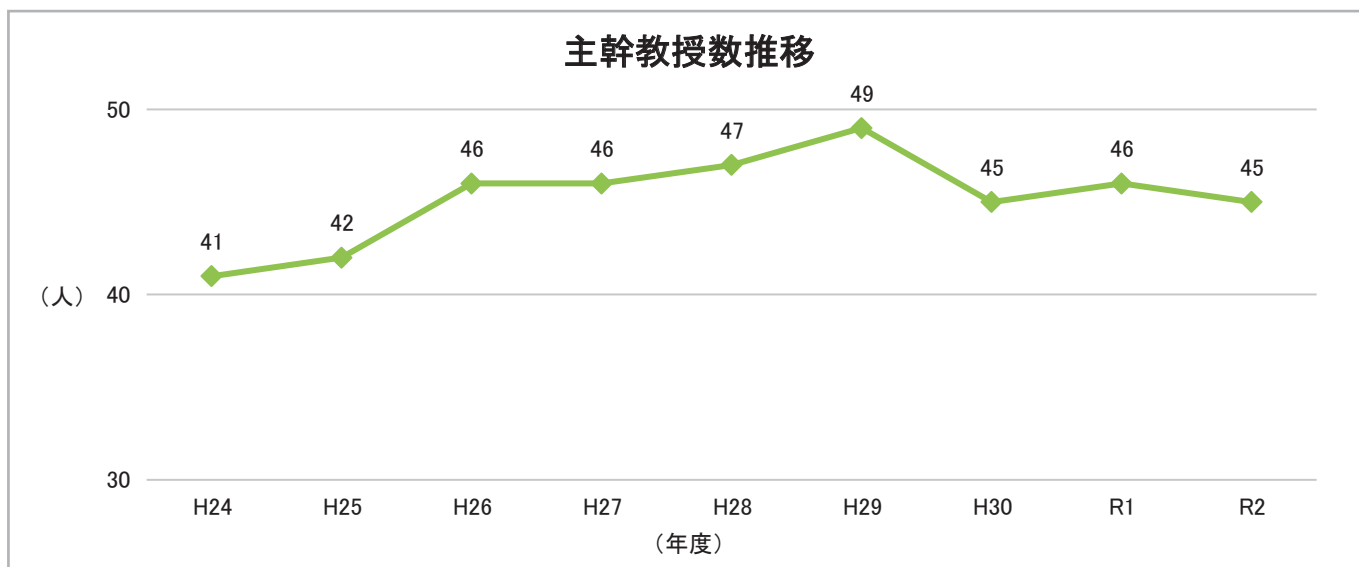


・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職名別教員数」

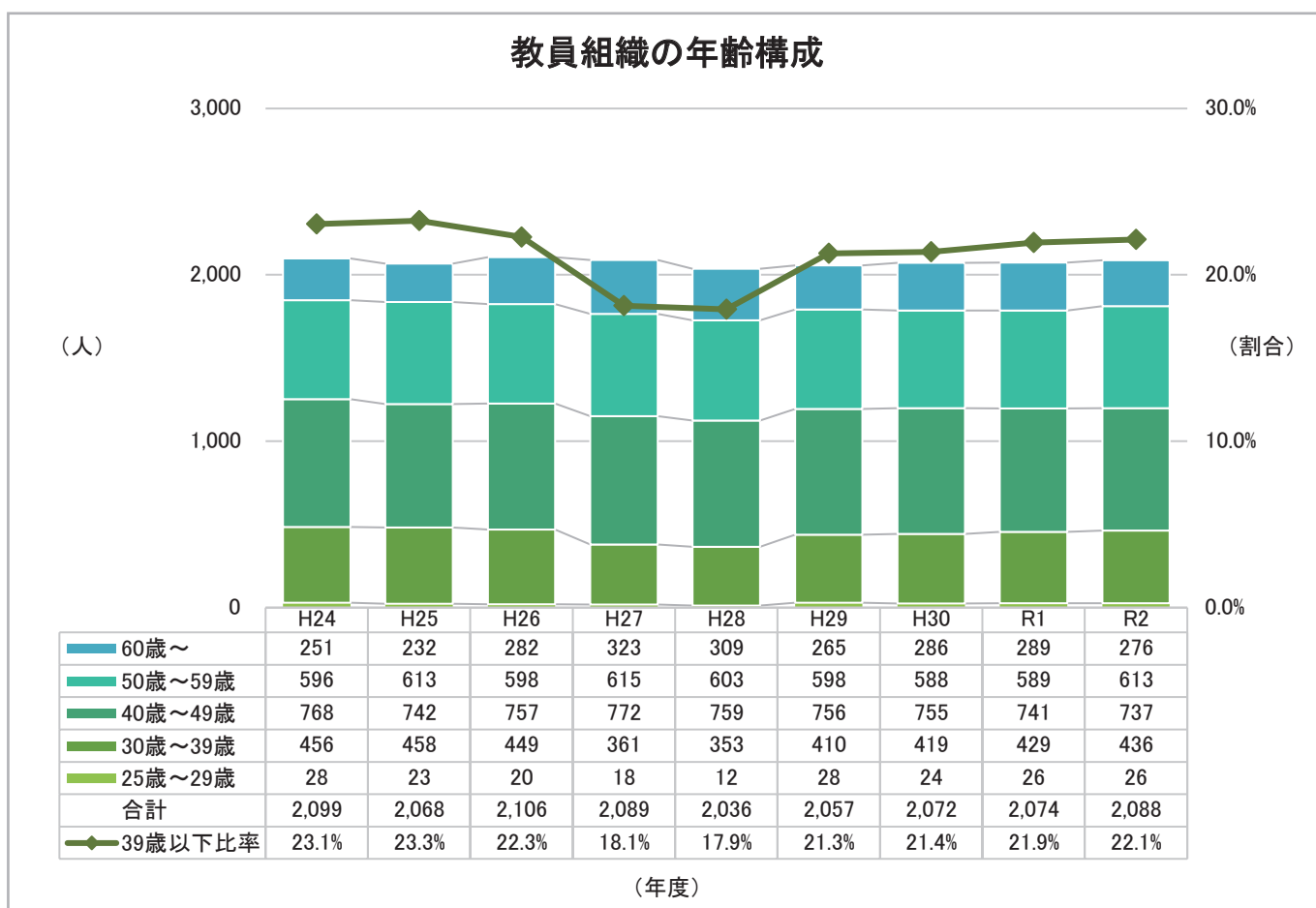
2-2-4. 主幹教授数

主幹教授とは、高度の研究活動を推奨・支援し、さらに活性化させるために、本学の教授のうち、その専門分野において極めて高い業績を有し、本学の研究戦略の先導的な役割を担う者に「主幹教授」の称号を付与する制度である。令和2年度は、昨年度より1人減少した。



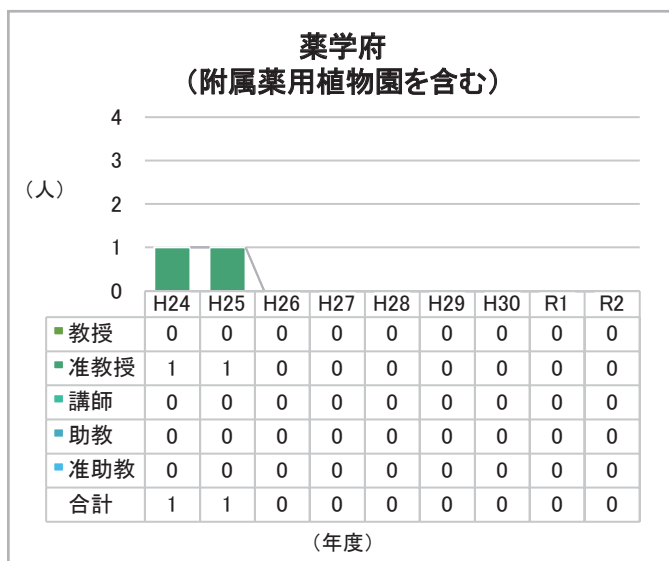
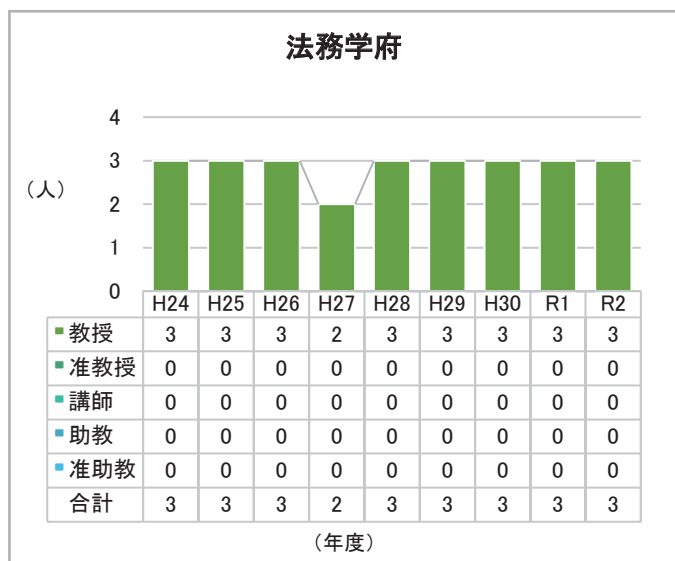
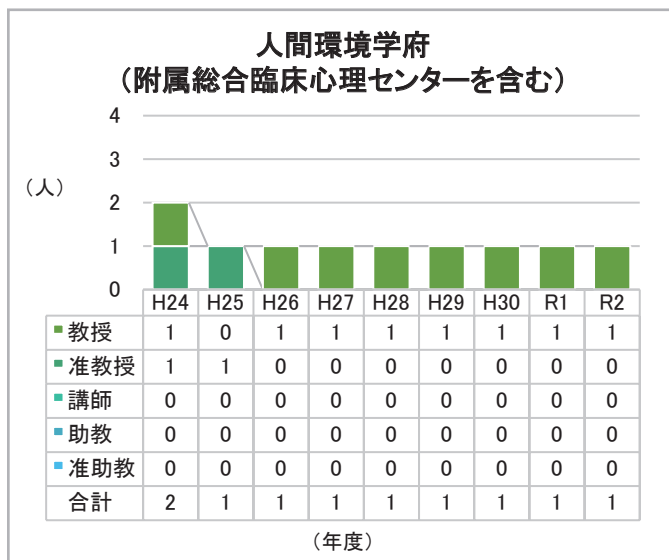
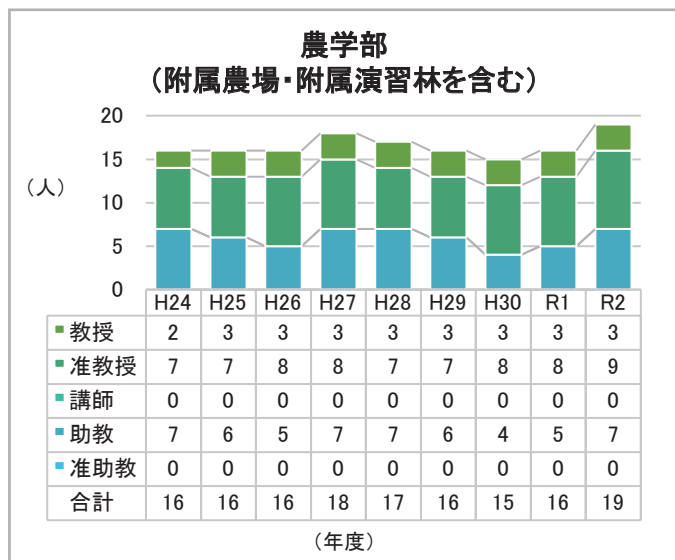
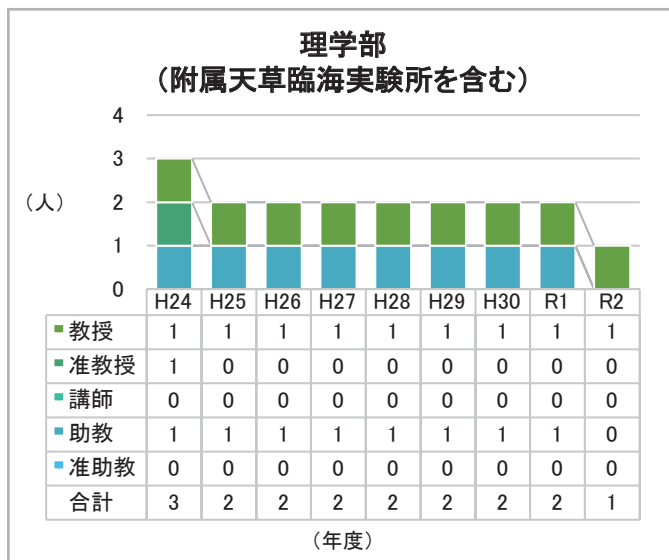
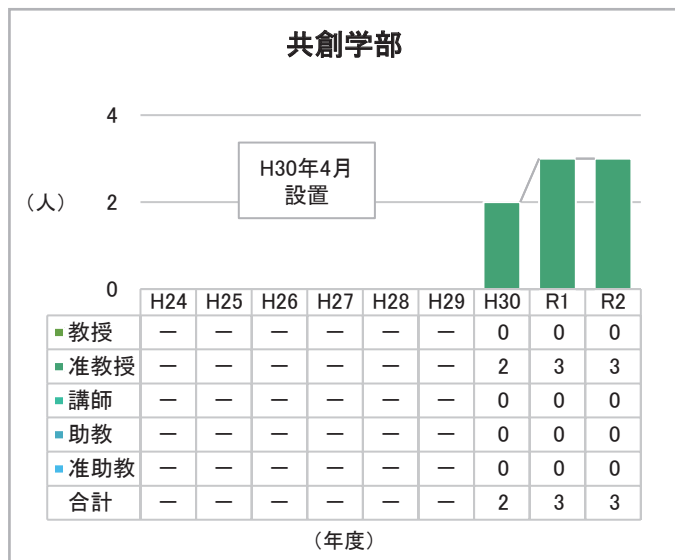
出典：九州大学概要

2-2-5. 教員組織の年齢構成



出典：九州大学概要

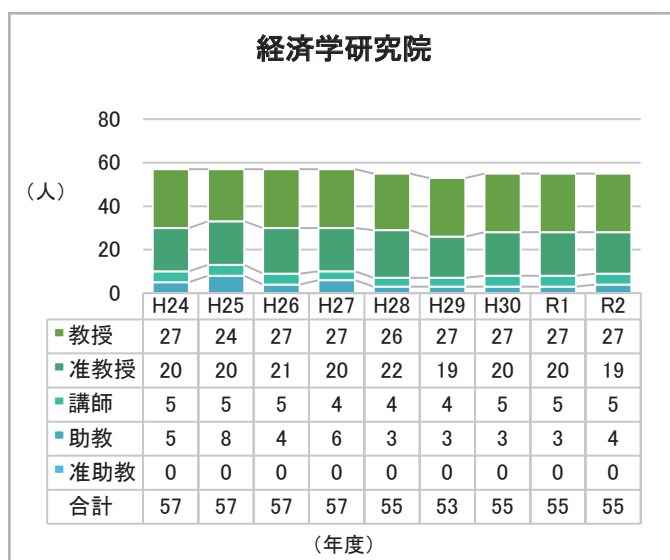
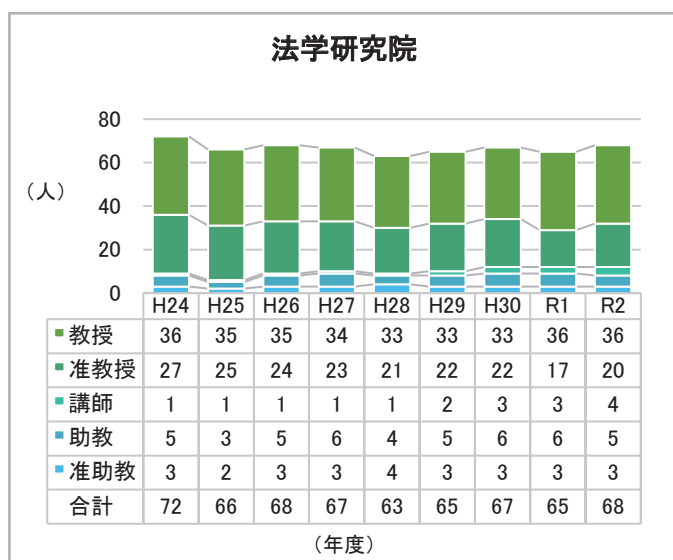
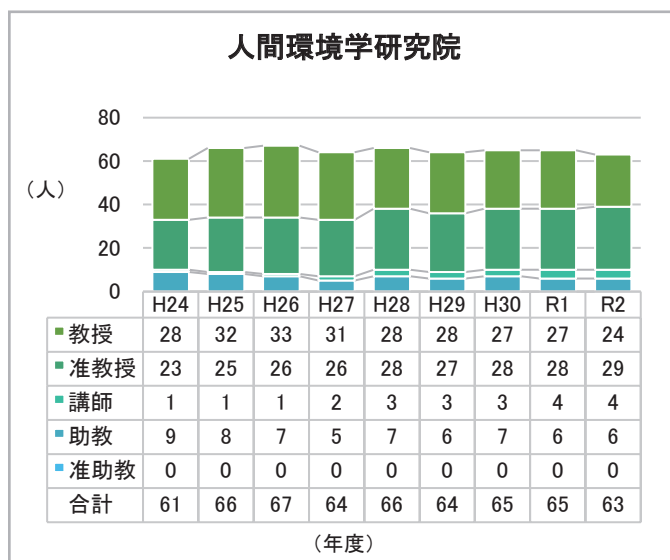
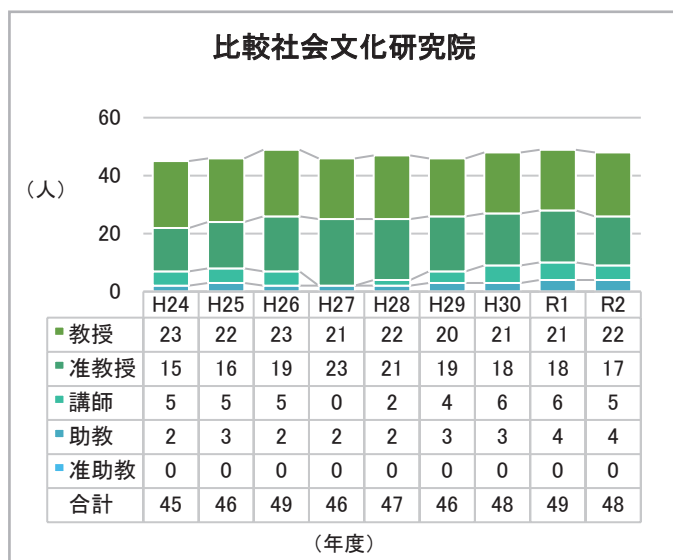
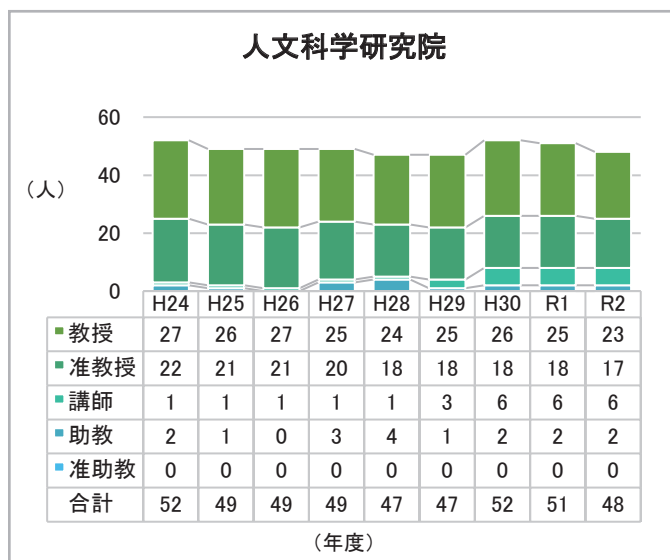
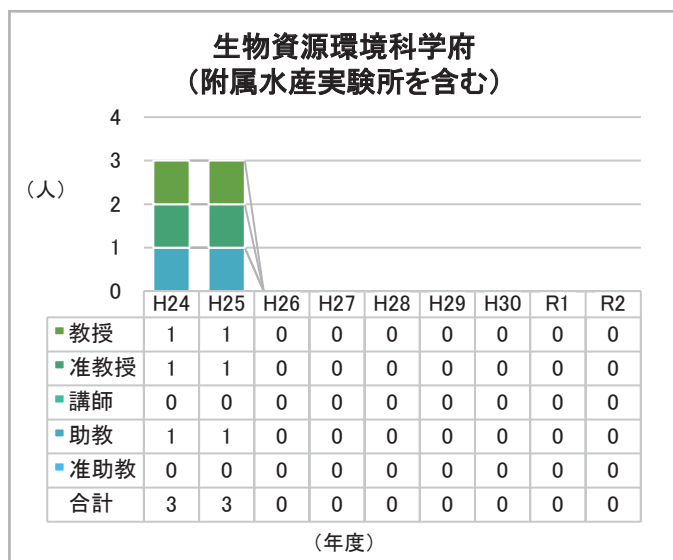
2-2-6. 教員数(部局別)



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

出典：九州大学概要

2-2-6. 教員数（部局別）（つづき）

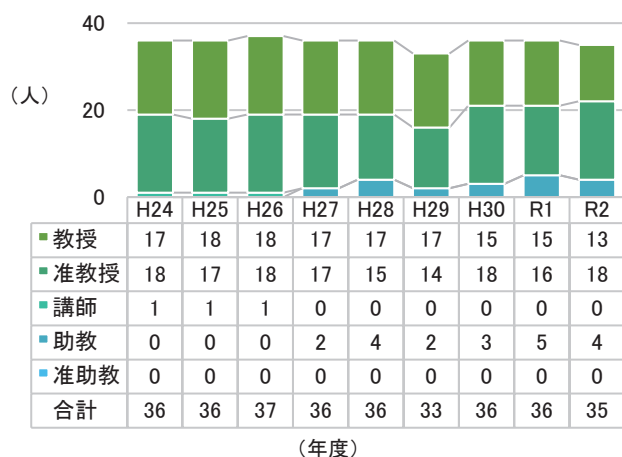


- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

出典：九州大学概要

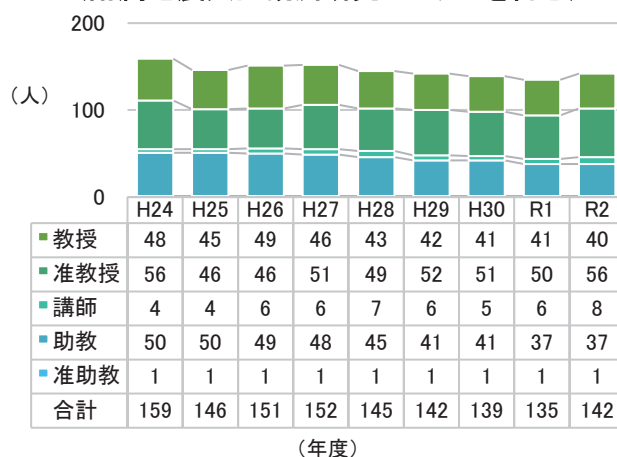
2-2-6. 教員数（部局別）（つづき）

言語文化研究院

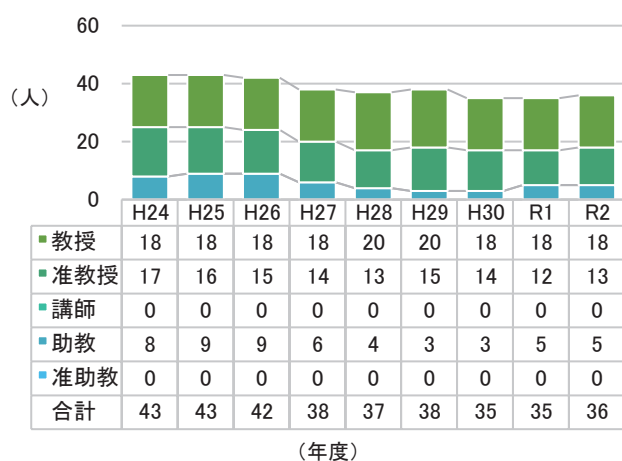


理学研究院

（附属地震火山観測研究センターを含む）

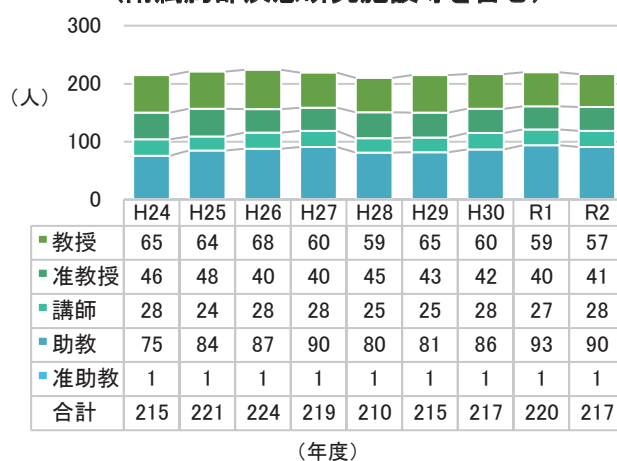


数理学研究院



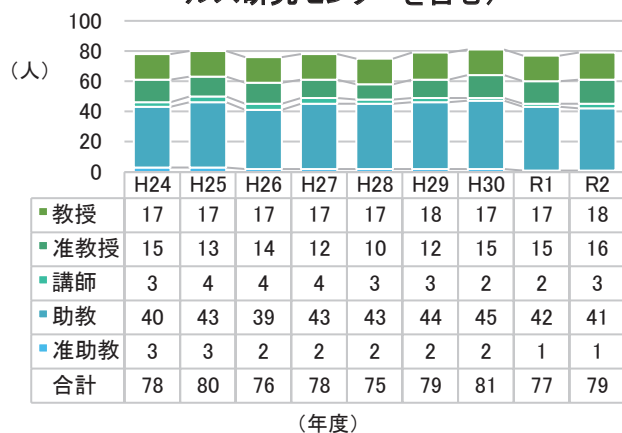
医学研究院

（附属胸部疾患研究施設等を含む）



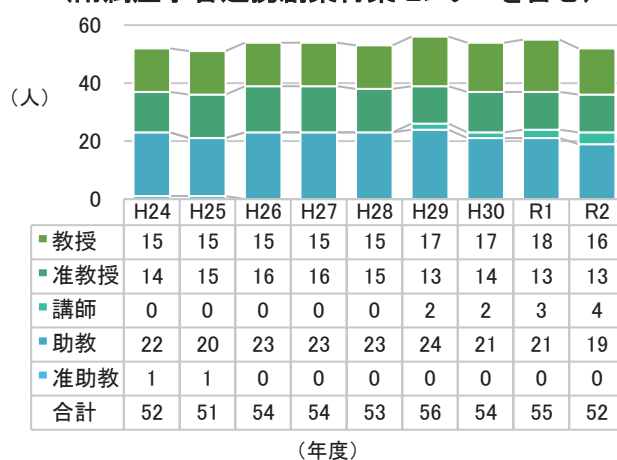
歯学研究院

（附属オーラルヘルス・ブレインヘルス・トータルヘルス研究センターを含む）



薬学研究院

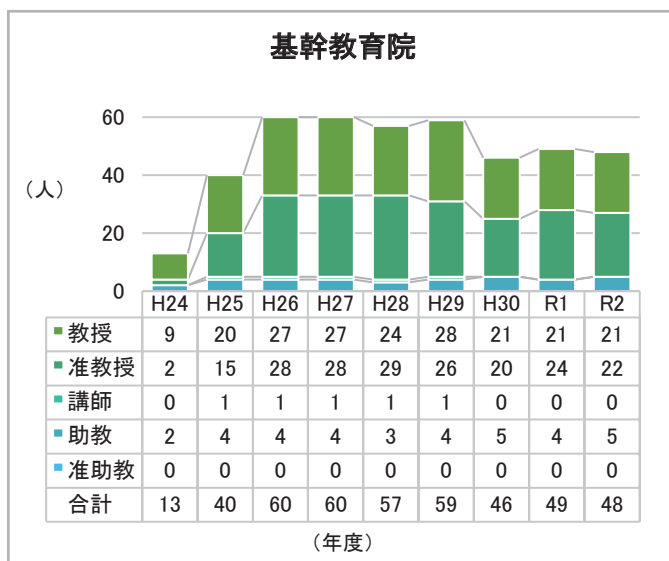
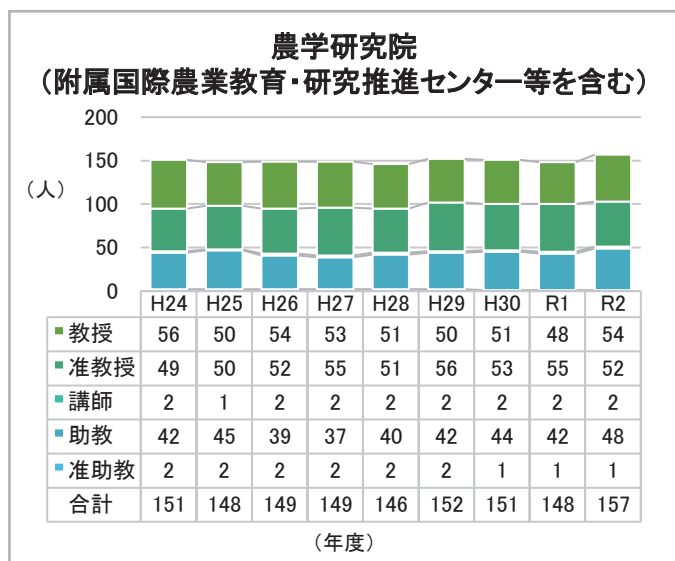
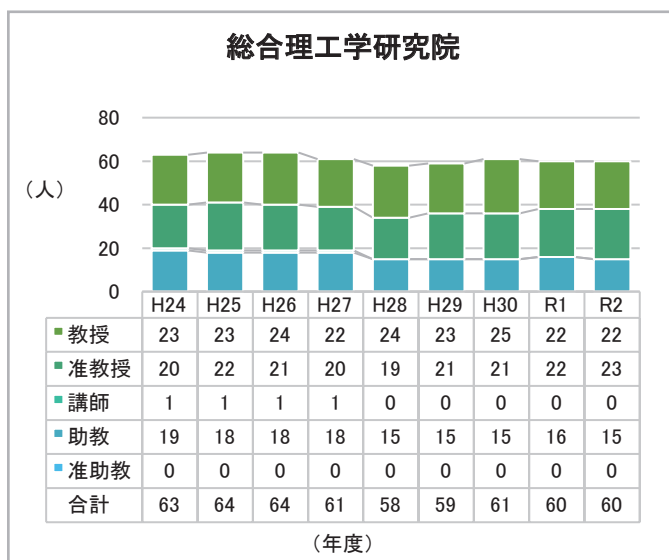
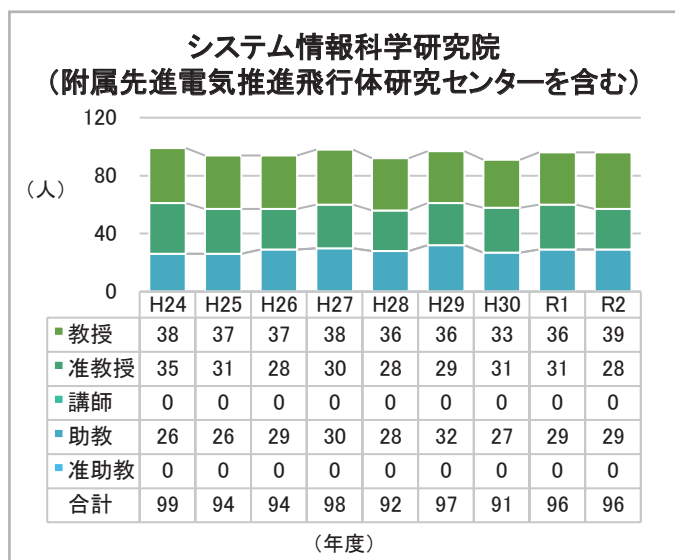
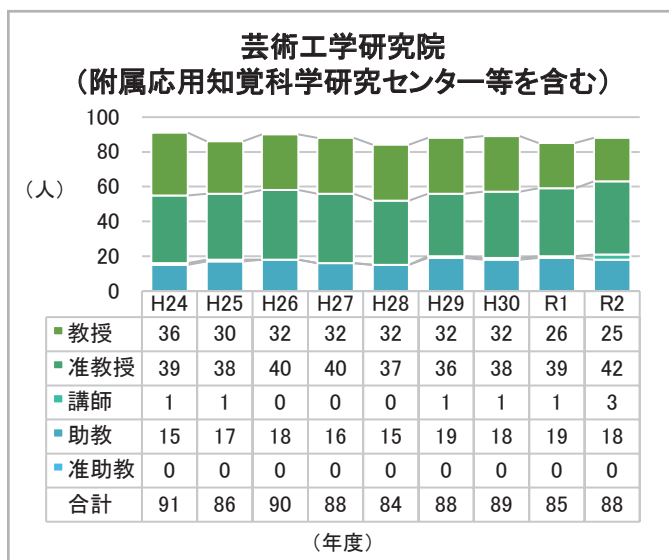
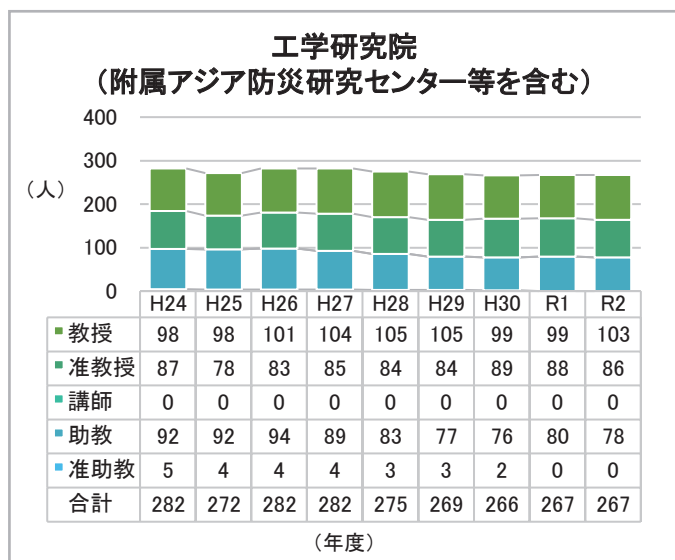
（附属産学官連携創薬育薬センターを含む）



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

出典：九州大学概要

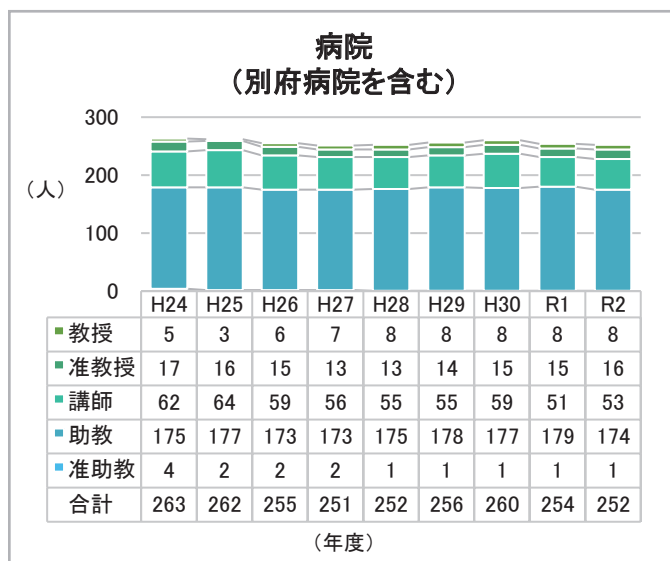
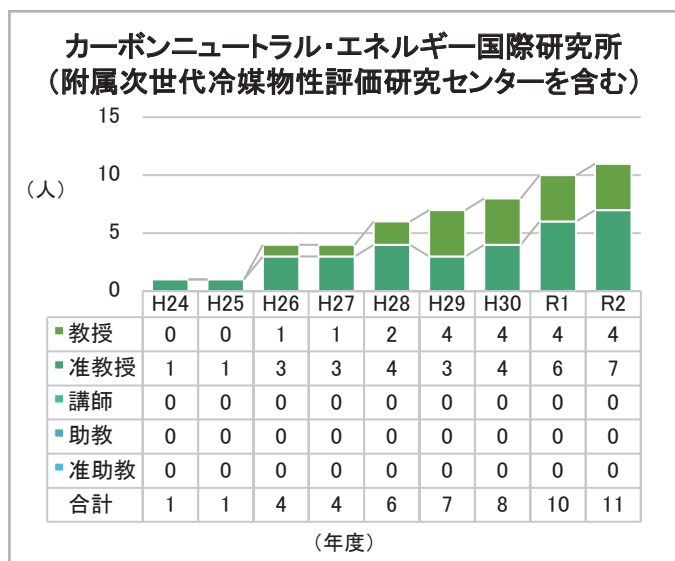
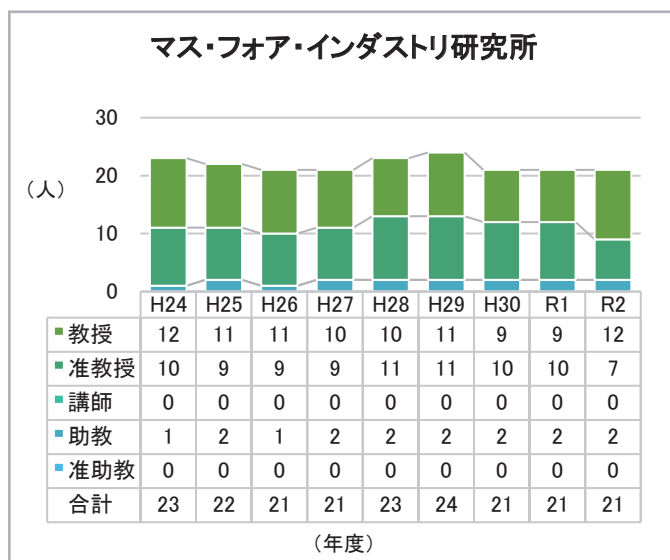
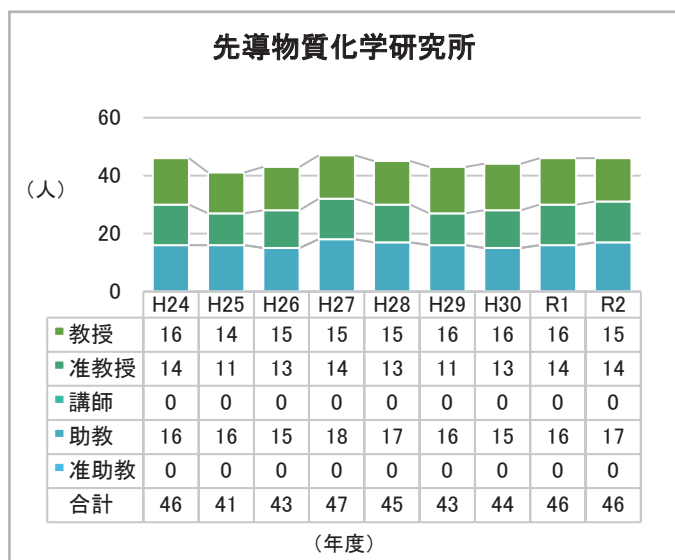
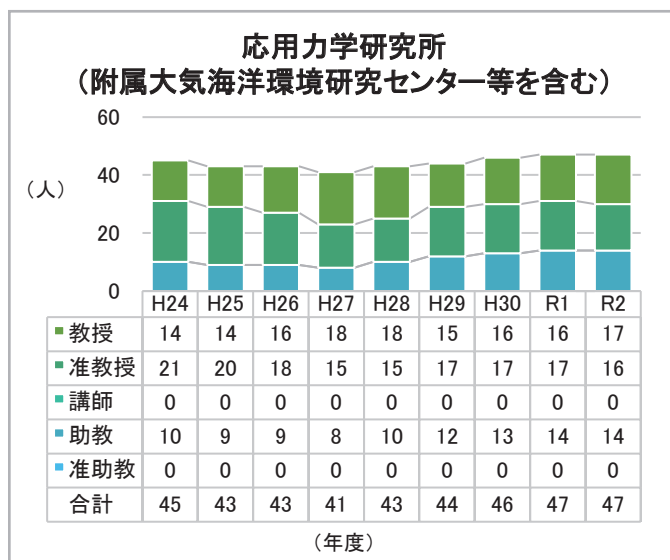
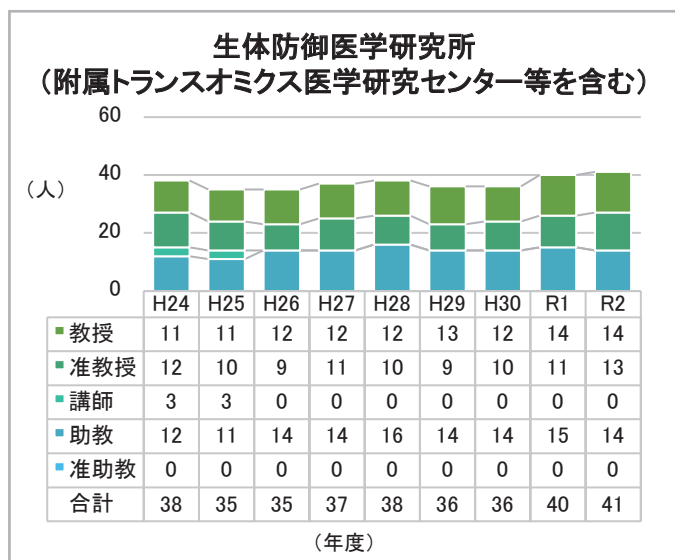
2-2-6. 教員数 (部局別) (つづき)



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

出典：九州大学概要

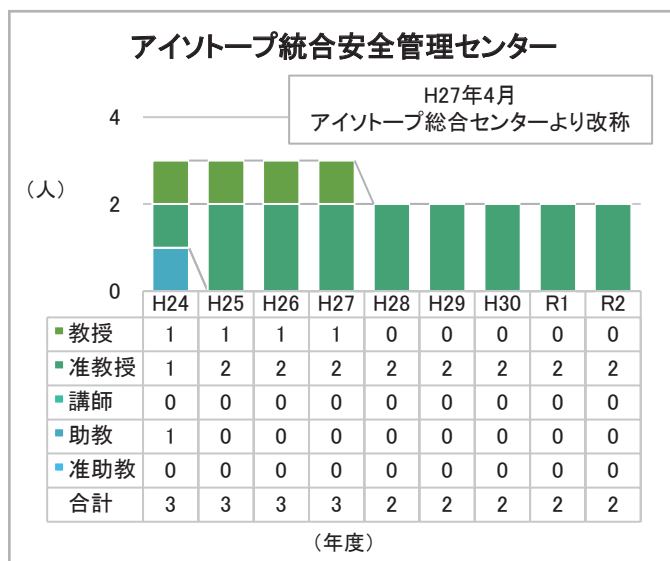
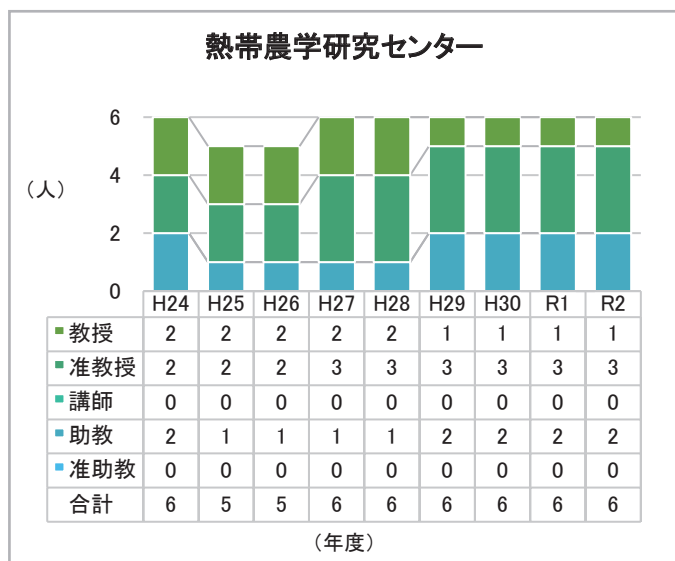
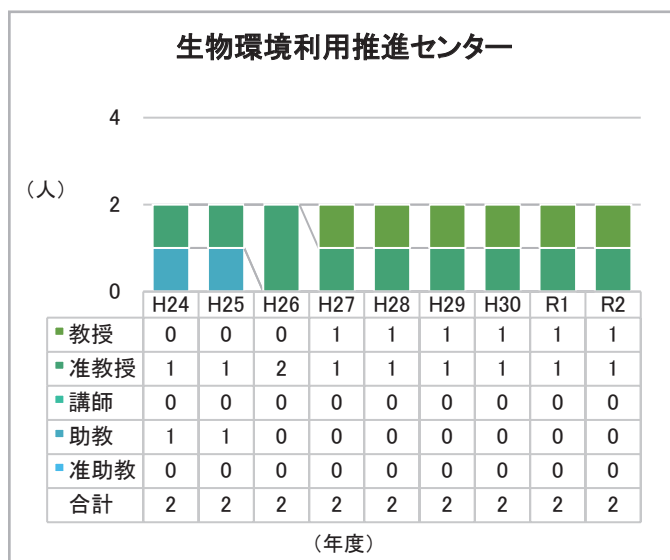
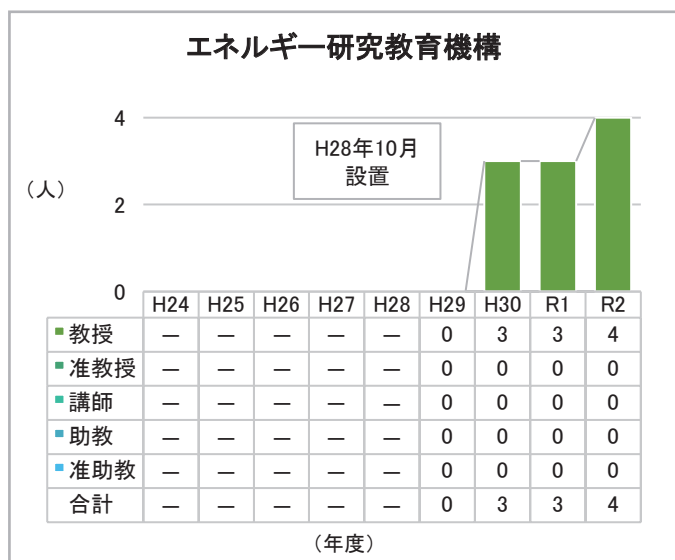
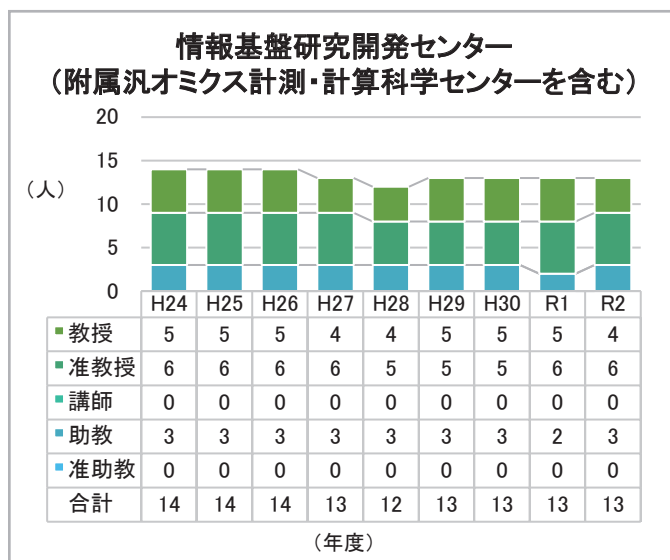
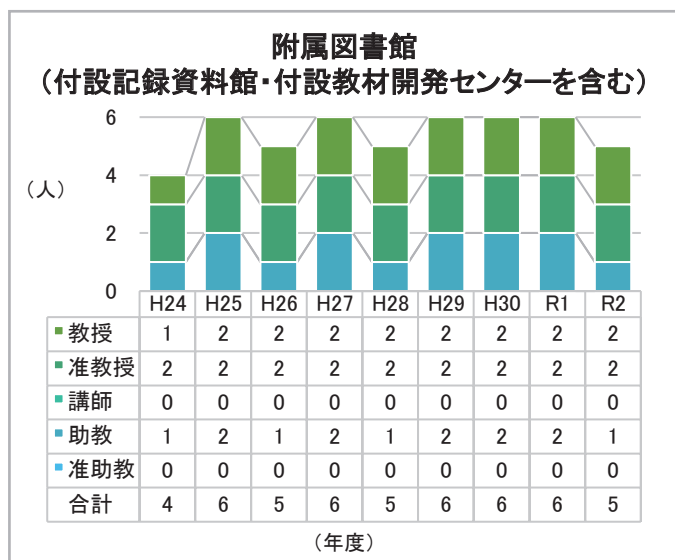
2-2-6. 教員数（部局別）（つづき）



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

出典：九州大学概要

2-2-6. 教員数 (部局別) (つづき)

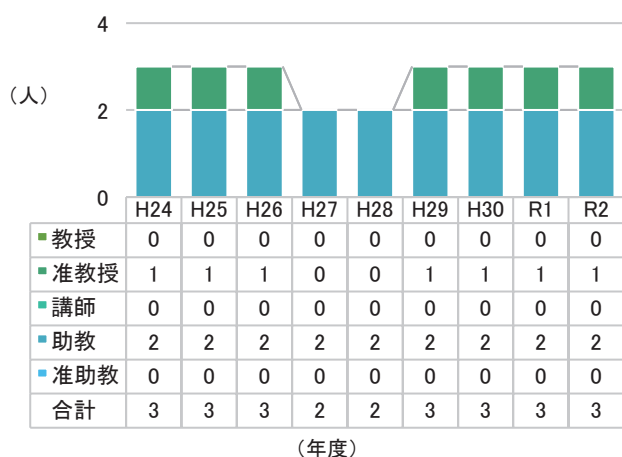


- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

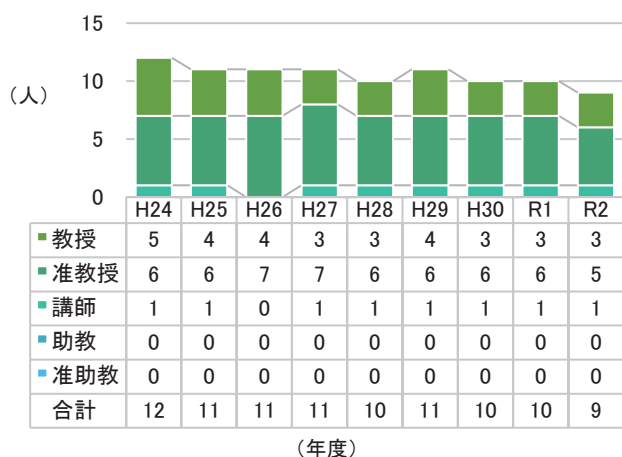
出典：九州大学概要

2-2-6. 教員数（部局別）（つづき）

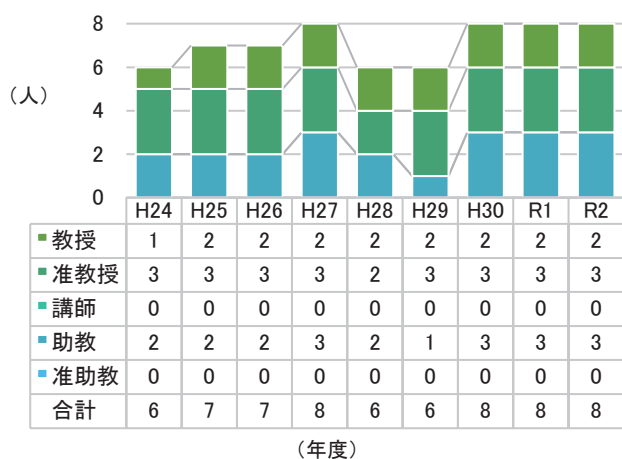
中央分析センター



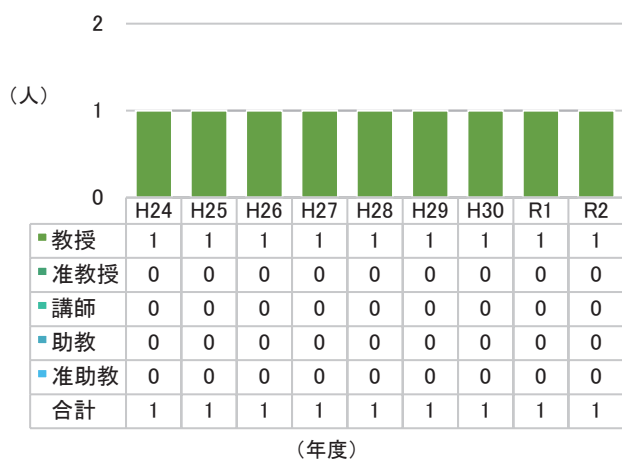
留学生センター



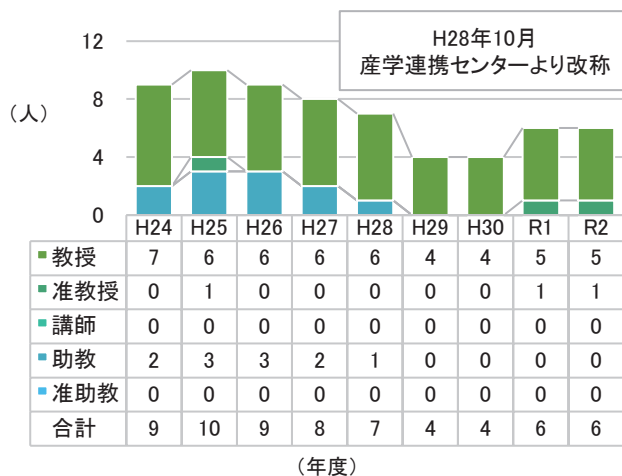
総合研究博物館



韓国研究センター



グローバルイノベーションセンター



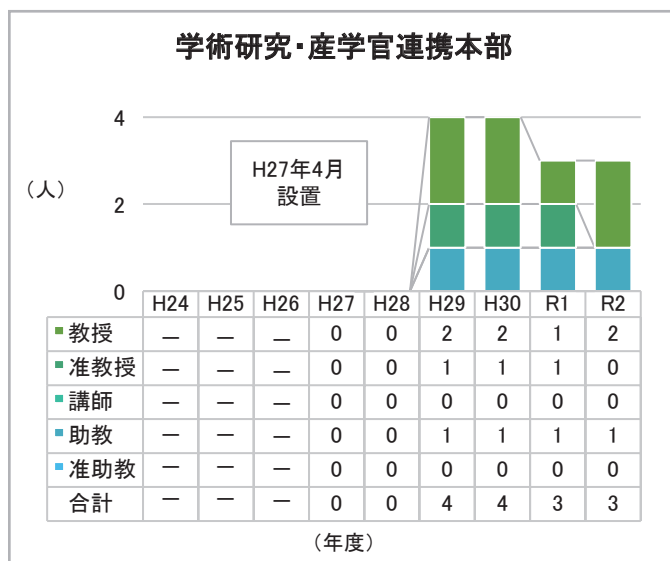
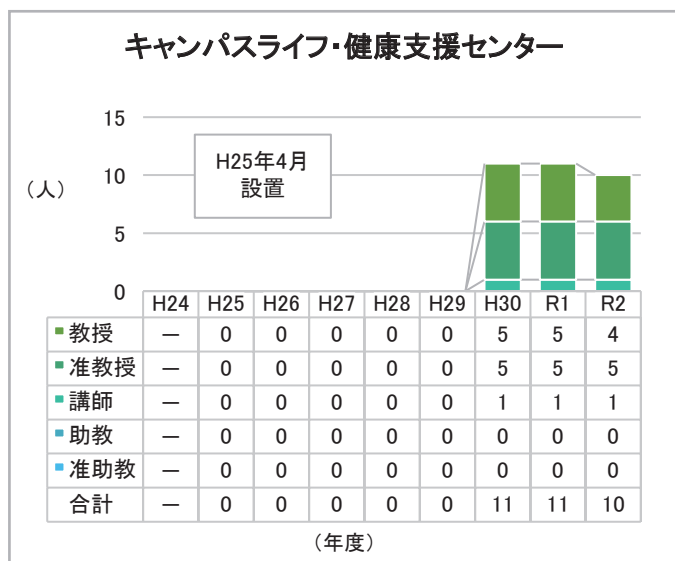
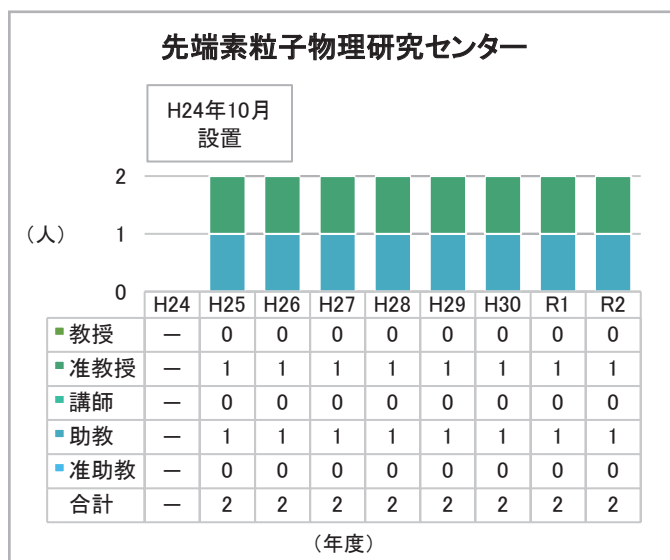
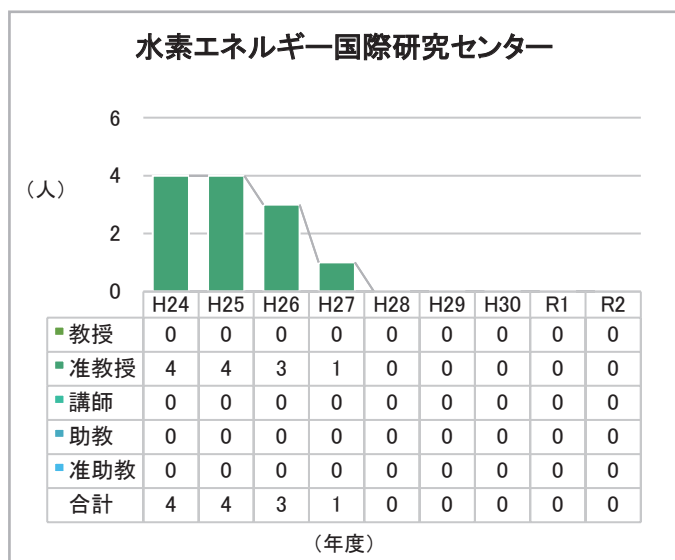
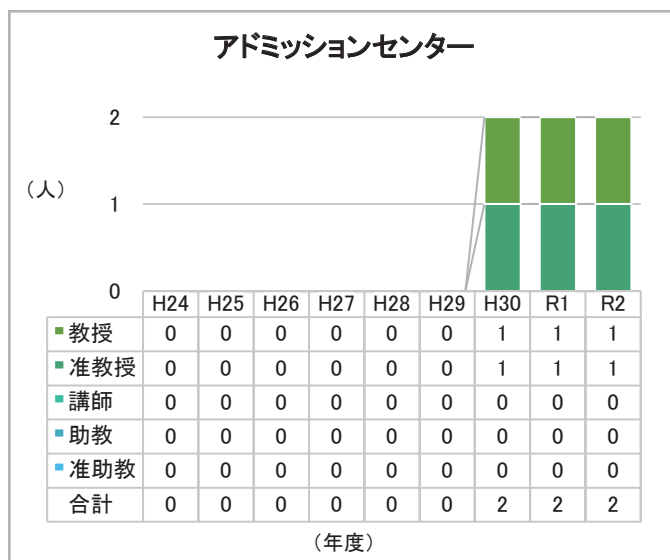
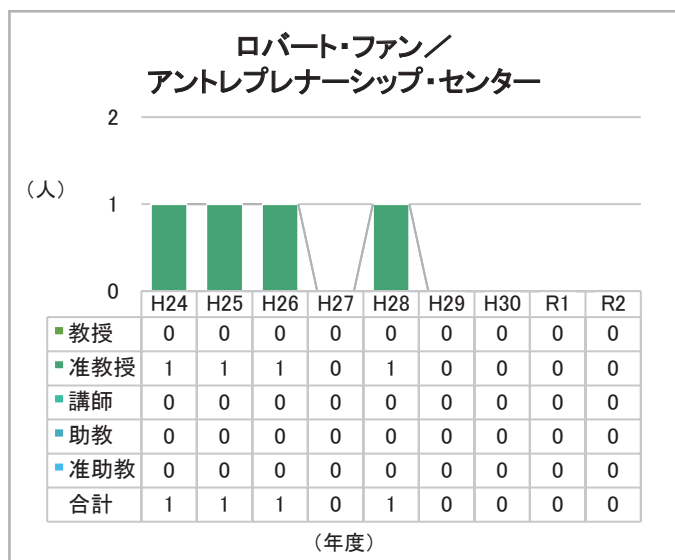
大学文書館



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。

出典：九州大学概要

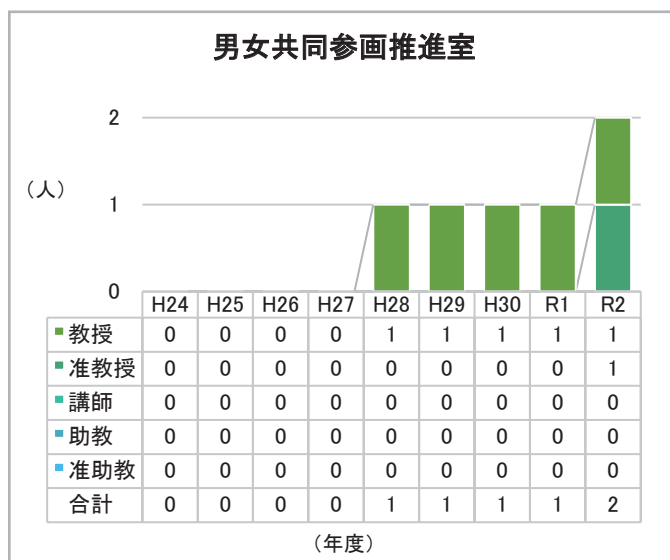
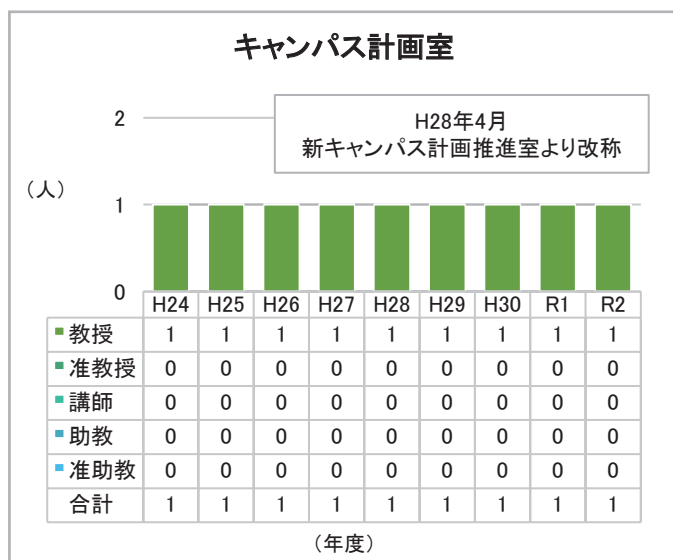
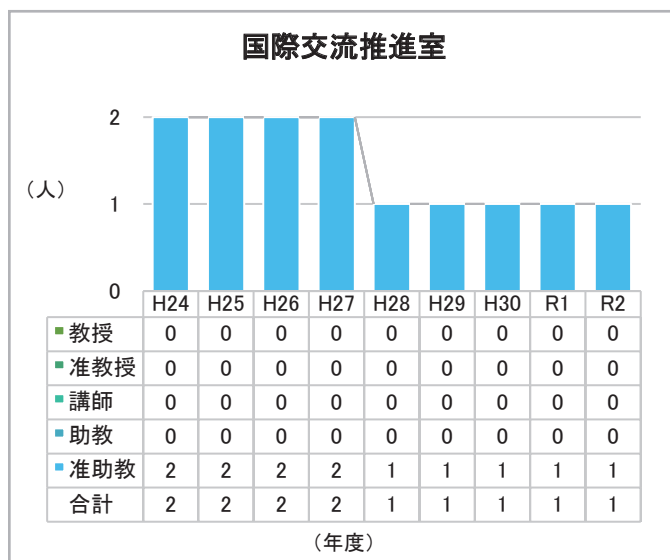
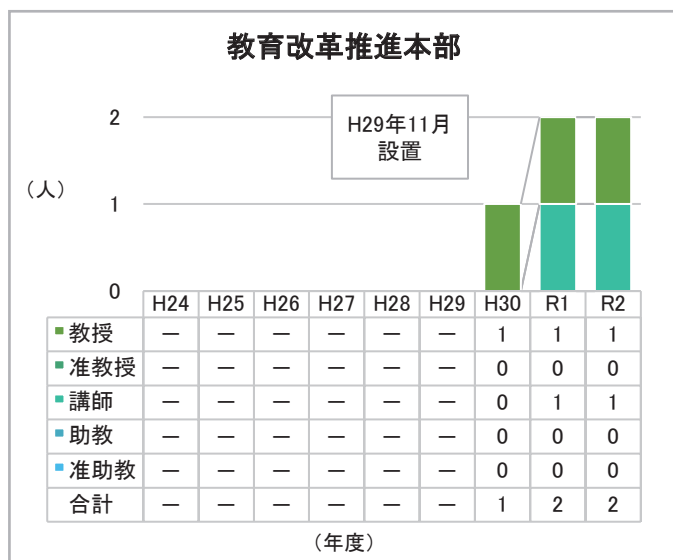
2-2-6. 教員数 (部局別) (つづき)



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。

出典：九州大学概要

2-2-6. 教員数（部局別）（つづき）

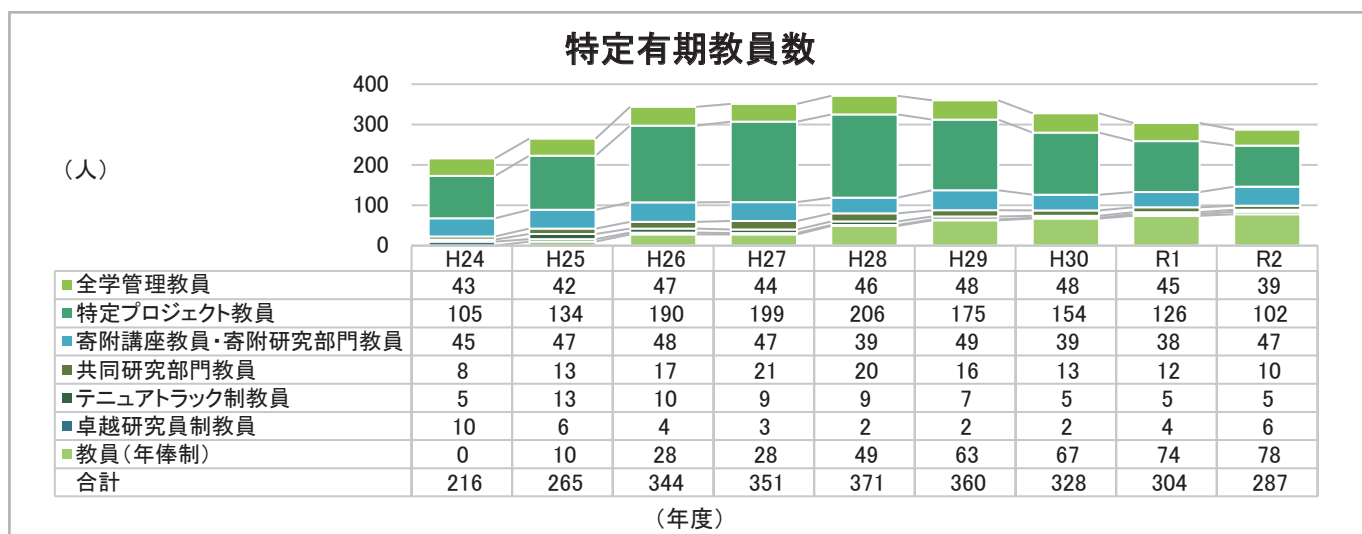


- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ 特定有期教員は除く。
- ・ 一部、本務所属以外に計上。R1年度より、本務のみ計上。

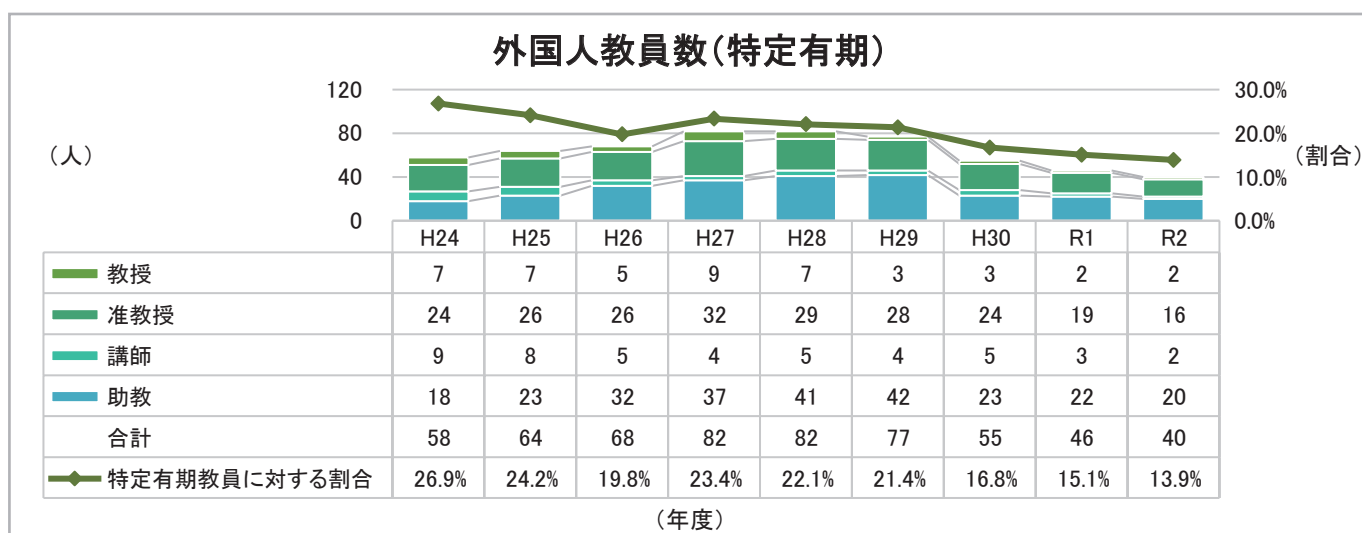
出典：九州大学概要

2-3. 特定有期教員数

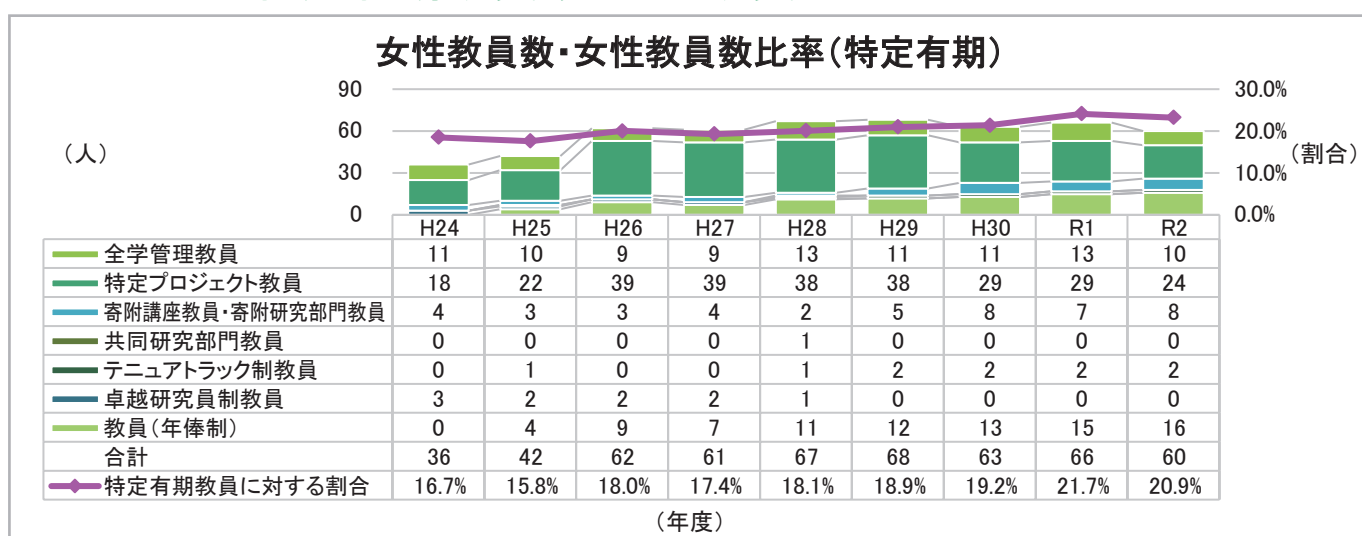
2-3-1. 特定有期教員数(全体)



2-3-2. 特定有期教員数(外国人教員) ※2-3-1. 特定有期教員数(全体)の内数



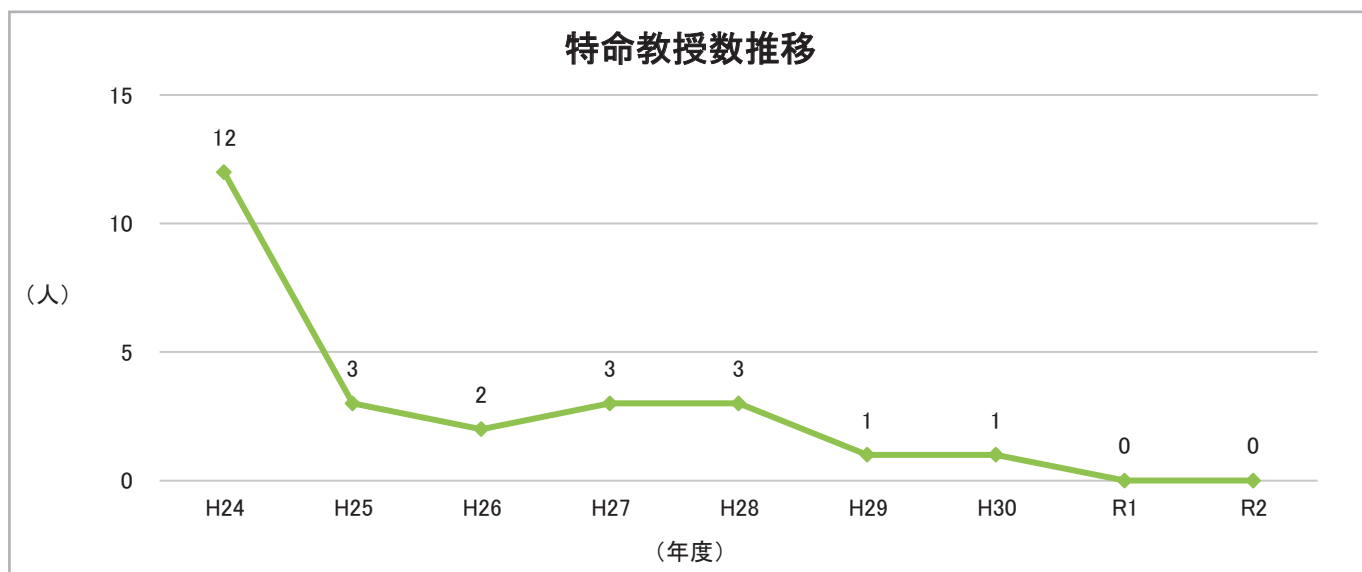
2-3-3. 特定有期教員数(女性教員) ※2-3-1. 特定有期教員数(全体)の内数



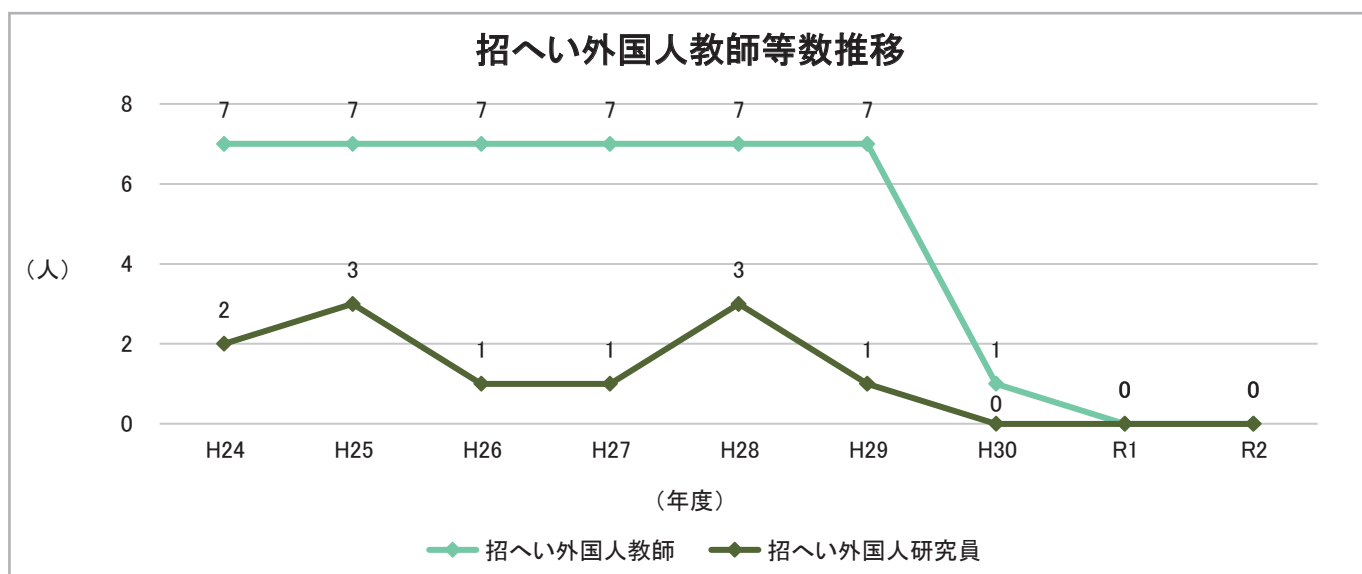
・休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
 ・再雇用職員を含む。

出典：九州大学概要

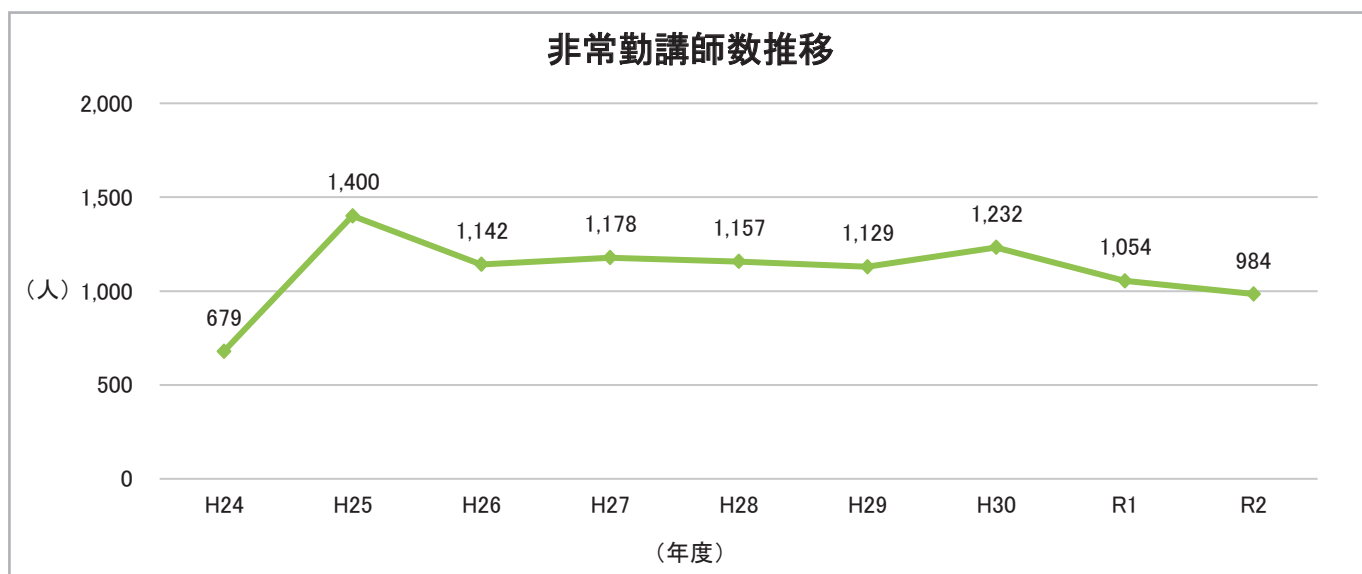
2-4. 特命教授数



2-5. 招へい外国人教師等数



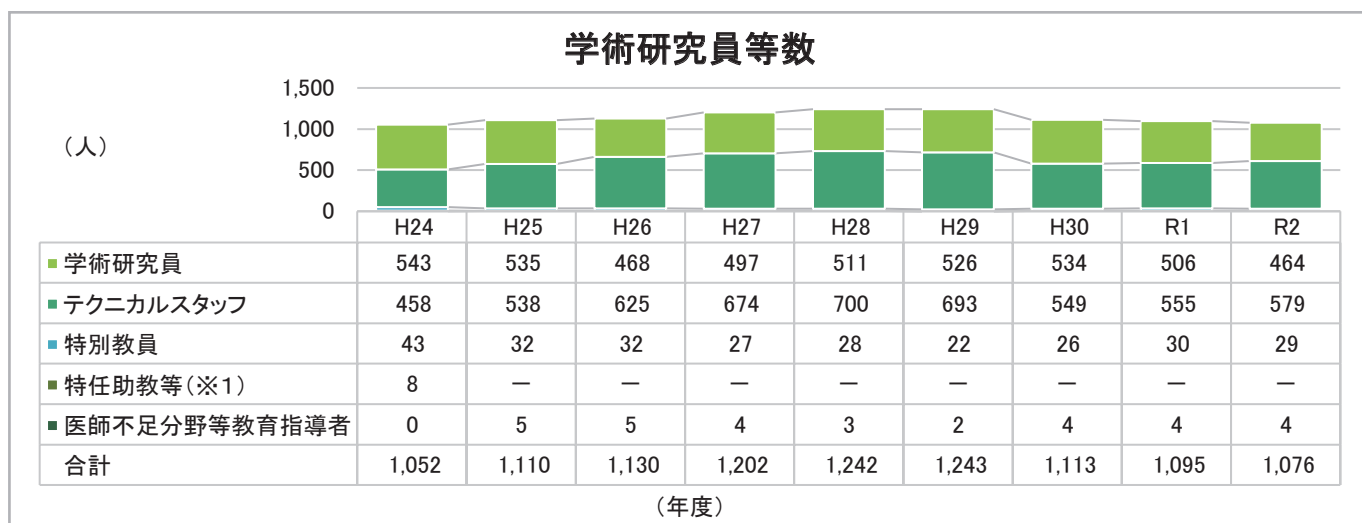
2-6. 非常勤講師数



出典：九州大学概要

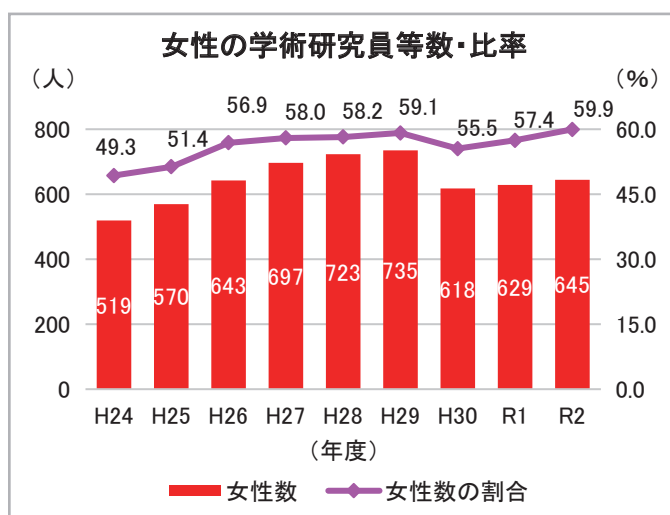
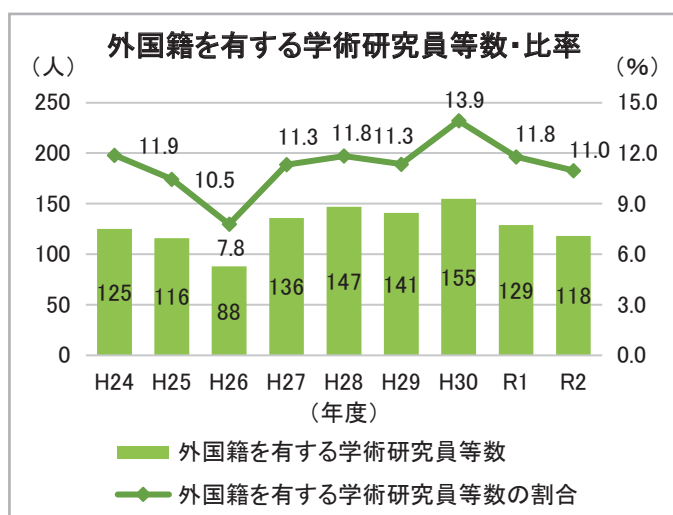
2-7. 学術研究員等数

2-7-1. 学術研究員等数(全体)



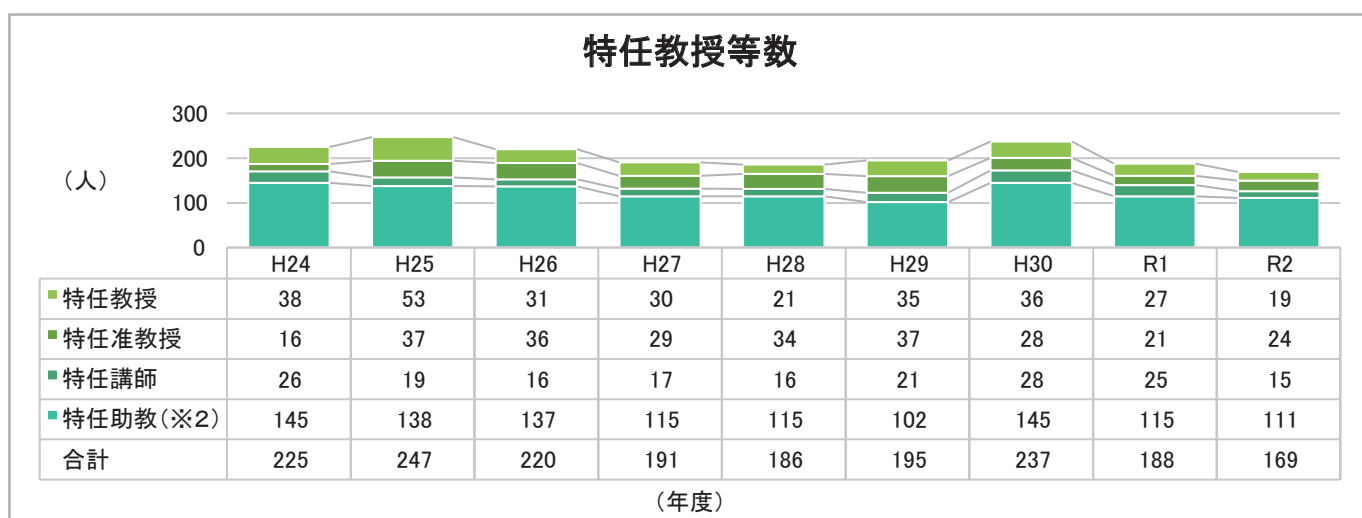
2-7-2. 学術研究員等数(外国籍及び女性数)

※2-7-1. 学術研究員等数(全体)の内数



2-7-3. 特任教授等数

※2-7-1. 学術研究員等数(全体)の内数



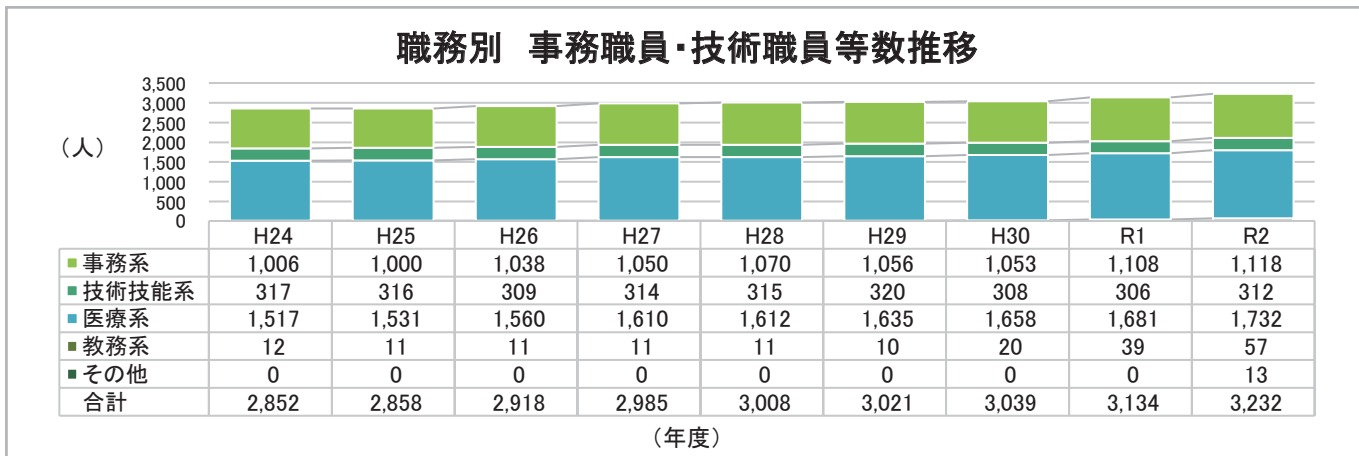
(※1)は「身分」としての「特任助教等」で、(※2)は学術研究員等への「称号付与」としての「特任助教」。H24年頃は制度の過渡期のため両方の「特任助教」が混在する形となっている。H25年以降は「身分」としての「特任助教等」はない。

出典: 九州大学概要

2-8. 事務職員・技術職員等数

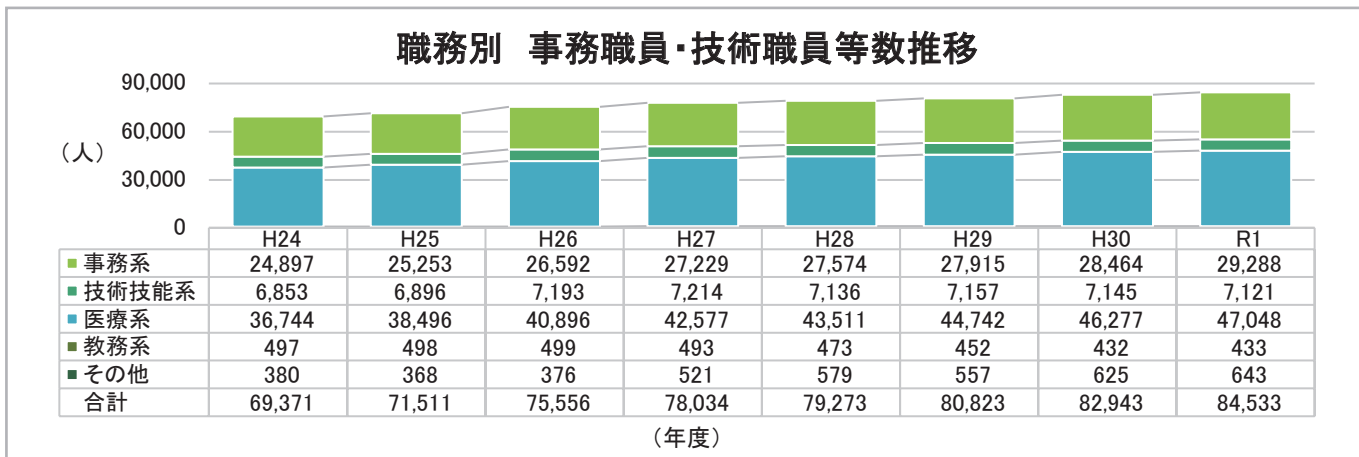
2-8-1. 事務職員・技術職員等数(全体)

◆九州大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

◆全国 国立大学◆



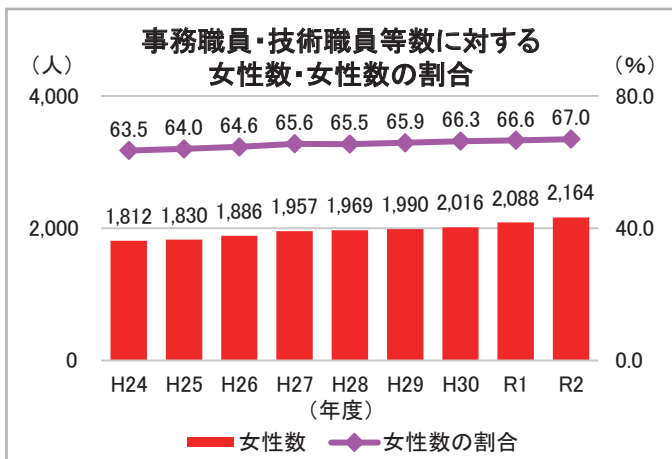
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職務別職員数」

2-8-2. 事務職員・技術職員等数(女性数及び女性比率)

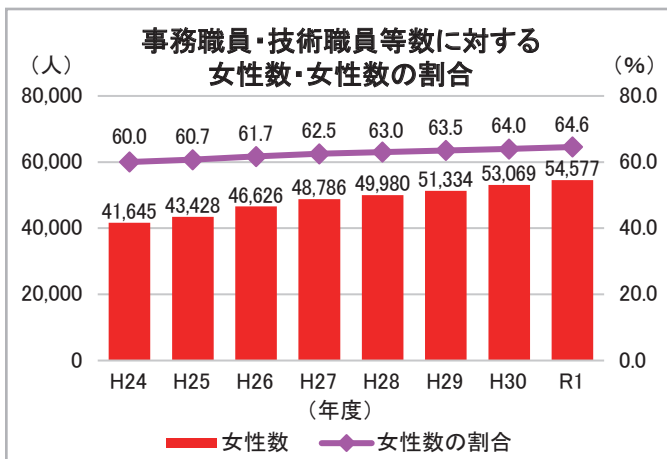
※2-8-1. 事務職員・技術職員等数(全体)の内数

◆九州大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「学生教職員等状況票」

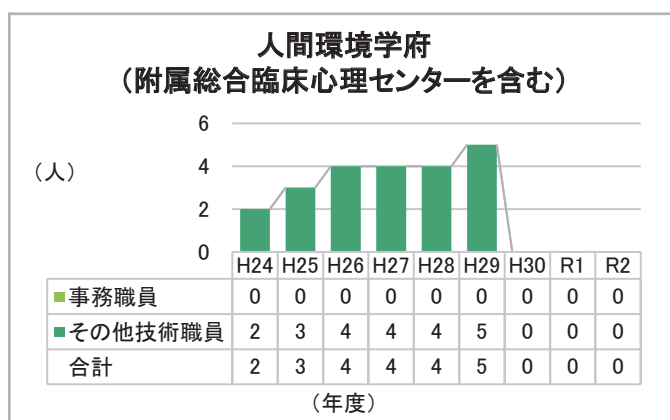
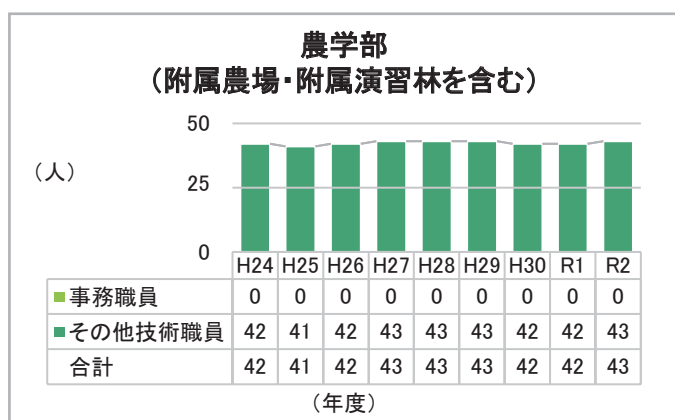
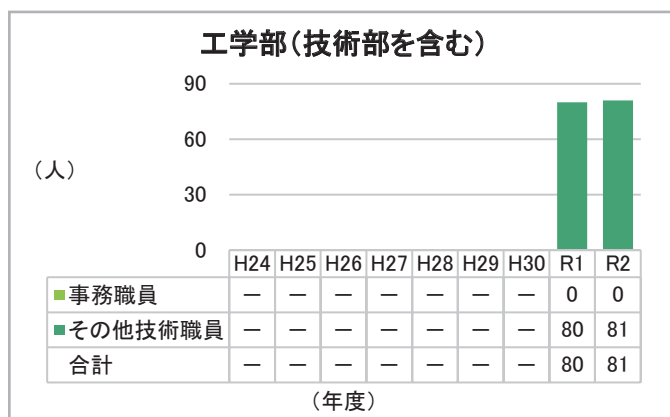
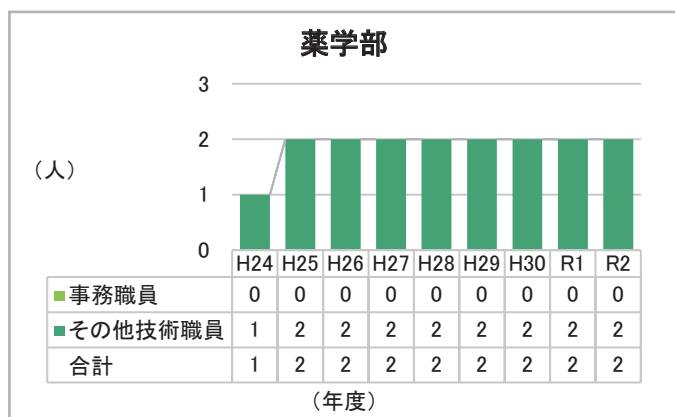
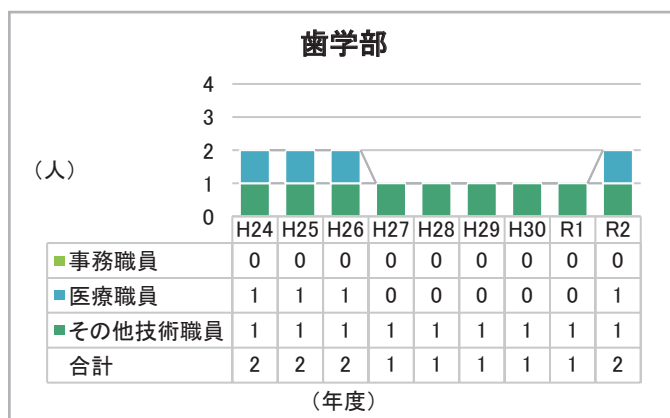
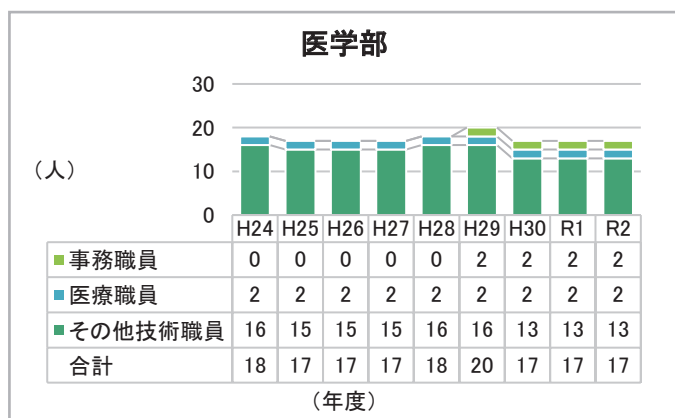
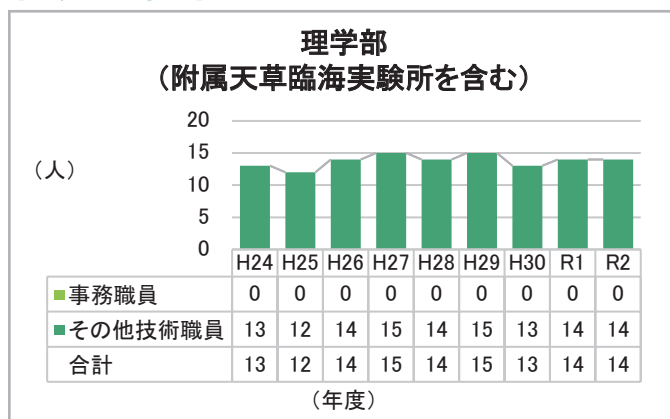
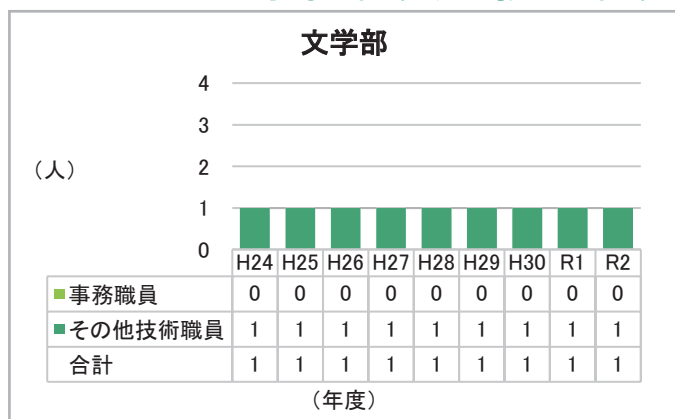
◆全国 国立大学◆



・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典: 文部科学省 学校基本調査 大学・大学院「職務別職員数」

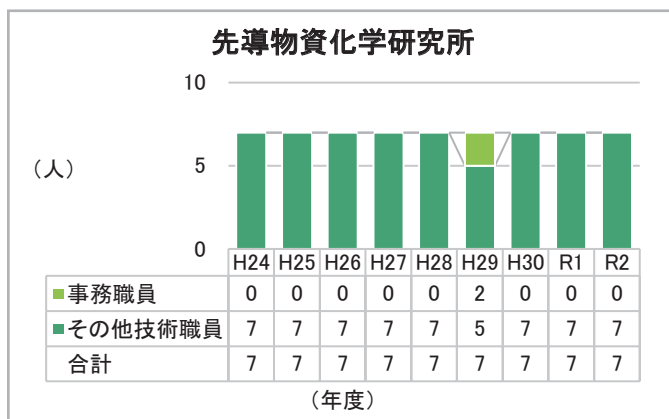
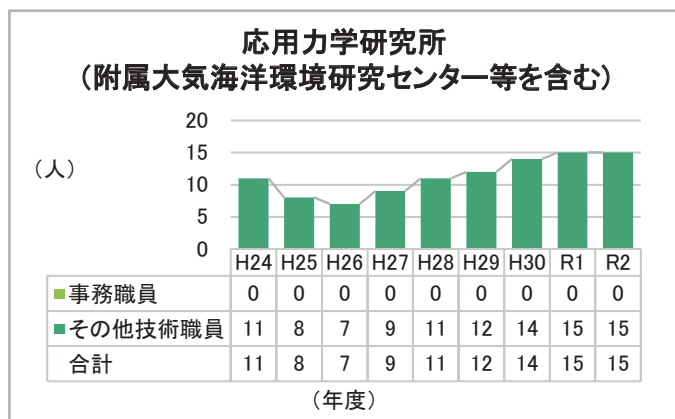
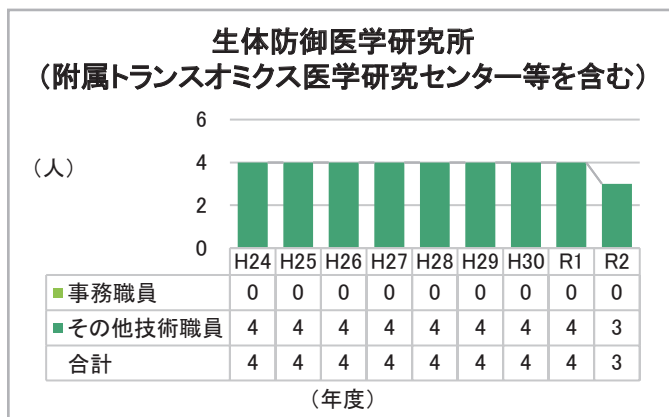
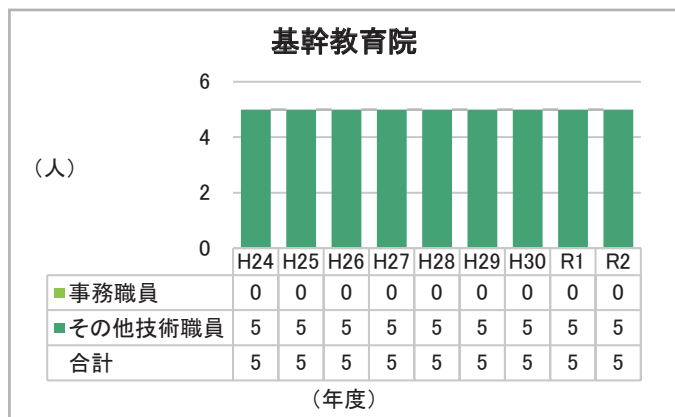
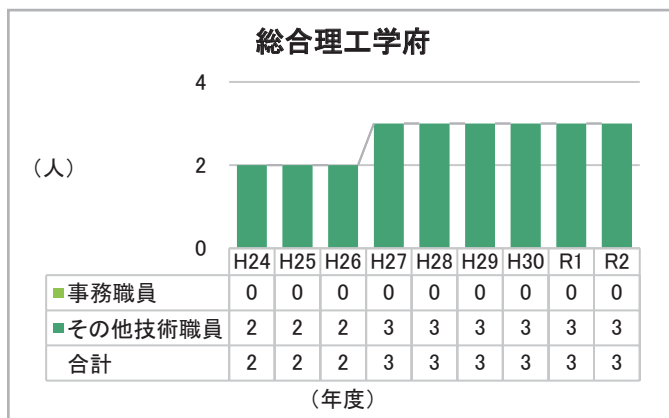
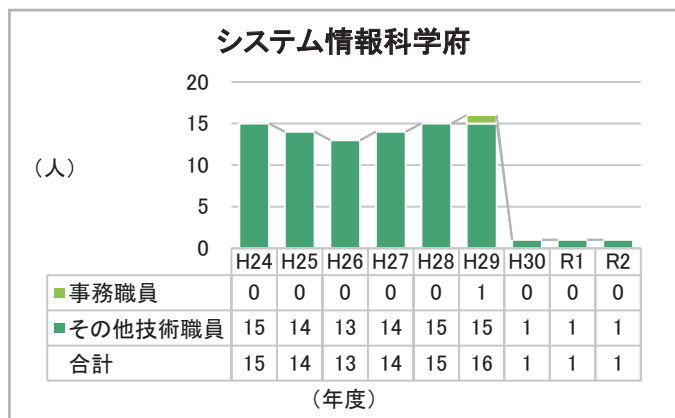
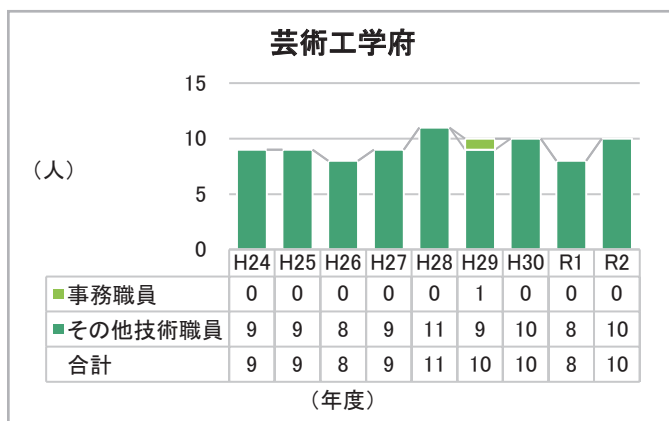
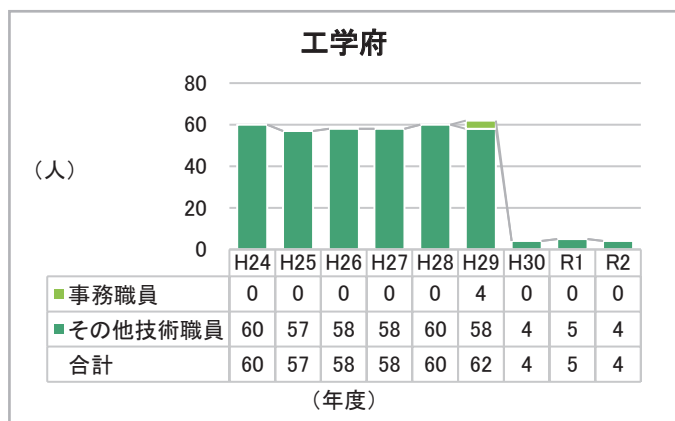
2-8-3. 事務職員・技術職員等数(部局別)



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。
- ・ 工学部(技術部を含む)、その他技術職員の一部は、H24～H29年度は工学部とシステム情報科学府で計上。H30年度は、工学部等事務部で計上。

出典：九州大学概要

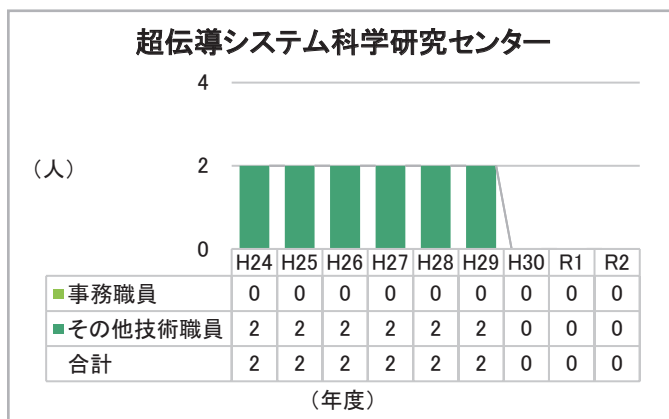
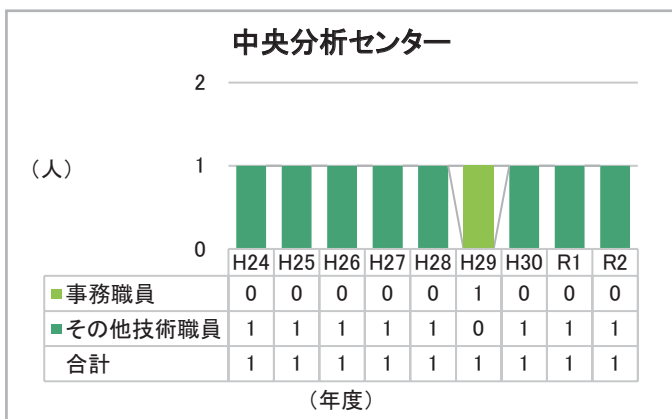
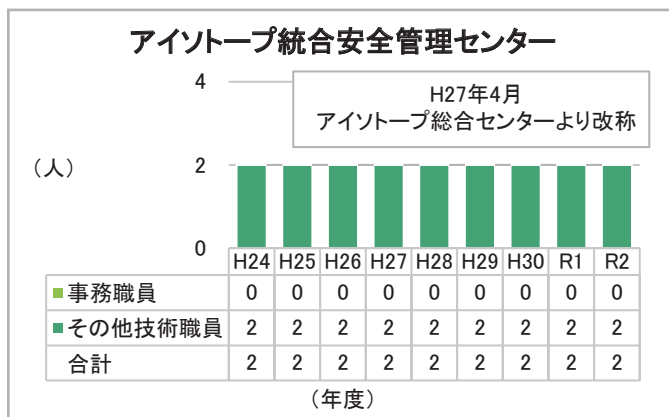
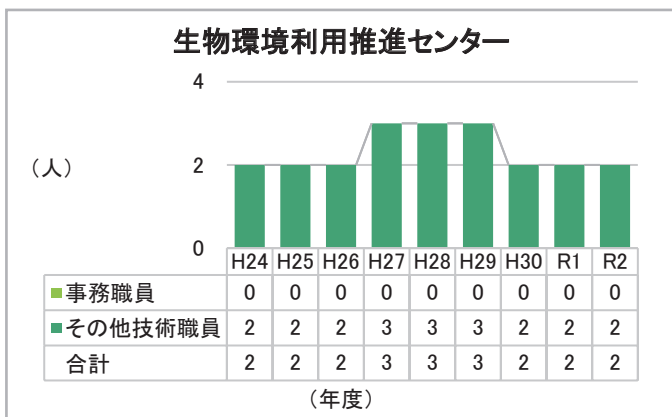
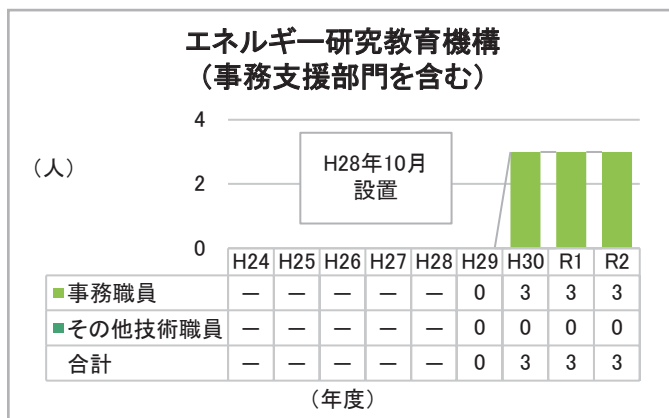
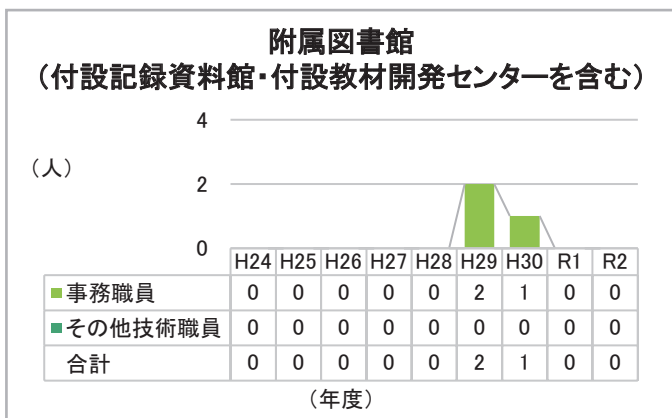
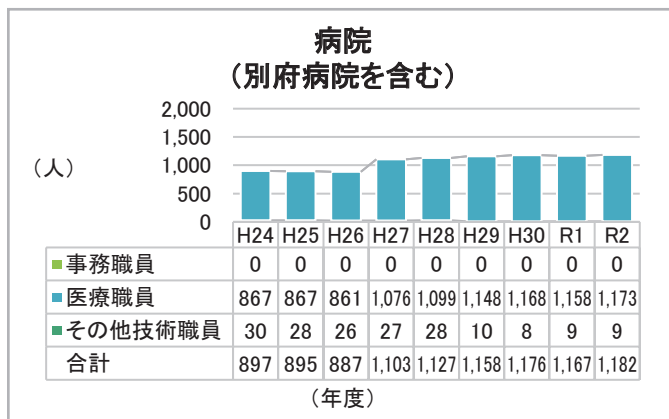
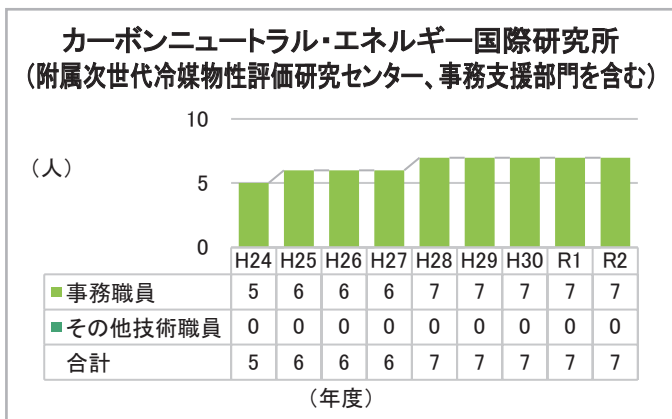
2-8-3. 事務職員・技術職員等数（部局別）（つづき）



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。
- ・ 工学府とシステム情報科学府、その他技術職員の一部は、H30年度は、工学部等事務部で計上。R1年度以降は、工学部(技術部を含む)で計上。

出典：九州大学概要

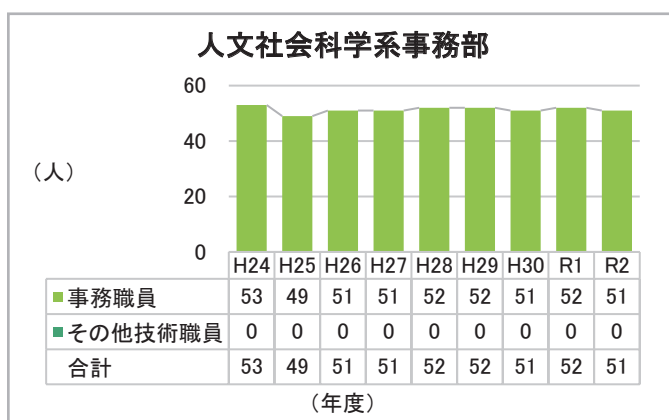
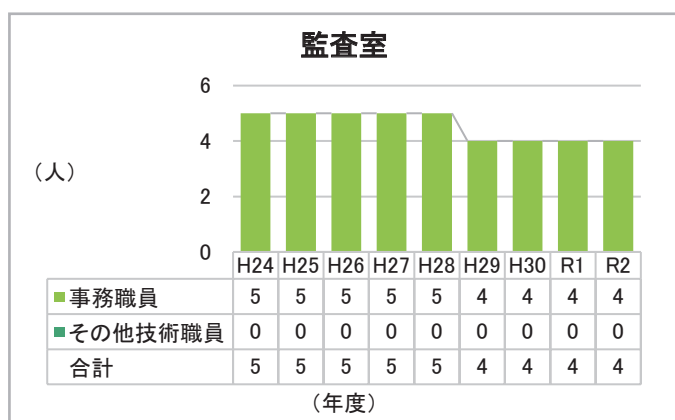
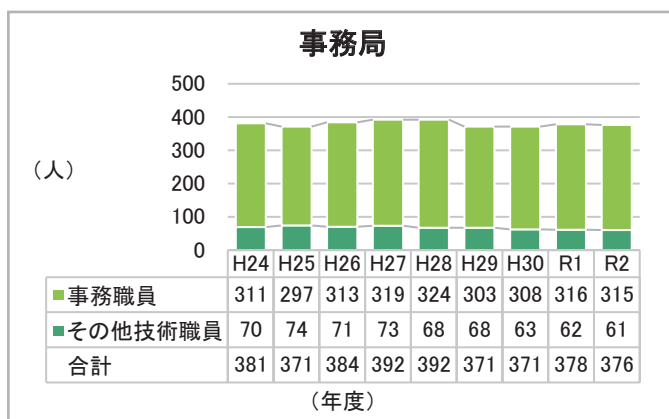
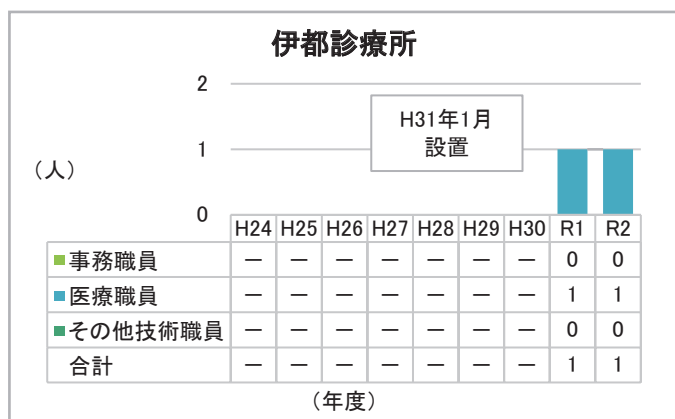
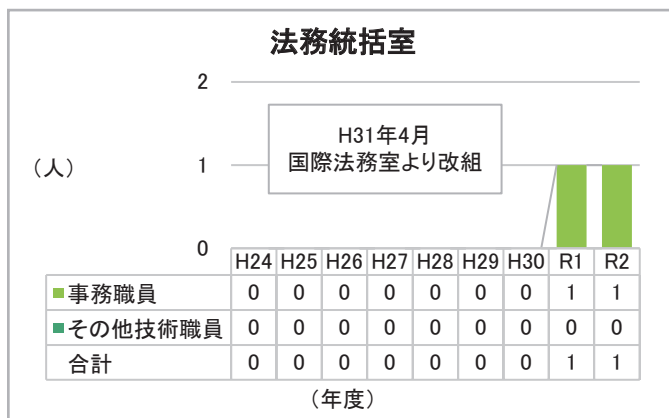
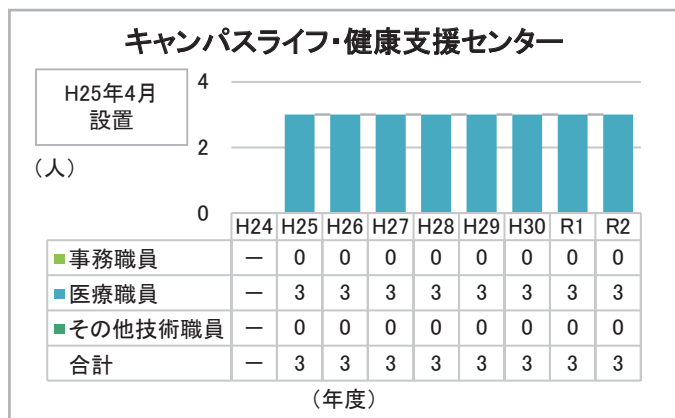
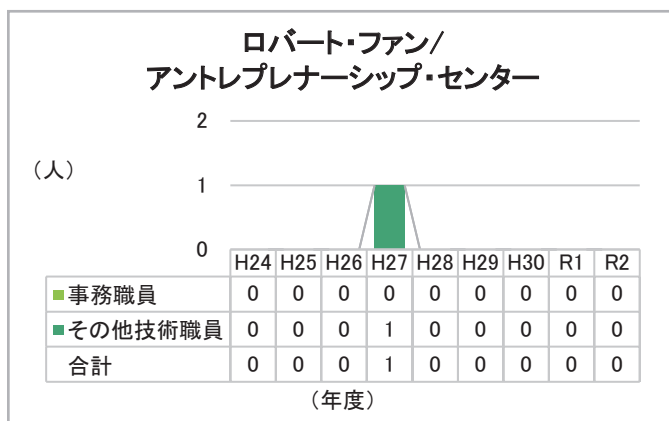
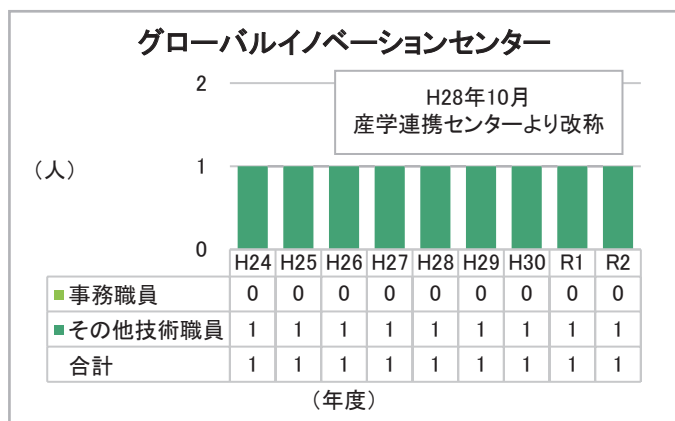
2-8-3. 事務職員・技術職員等数（部局別）（つづき）



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ R1年度より、本務のみ計上。
- ・ R1年度より、附属施設等、附属施設本務を計上。

出典：九州大学概要

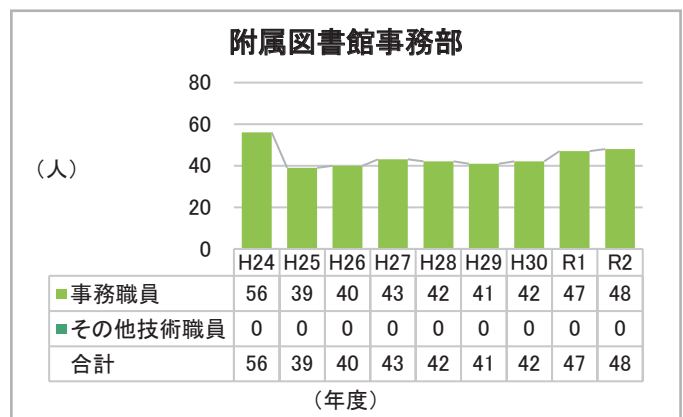
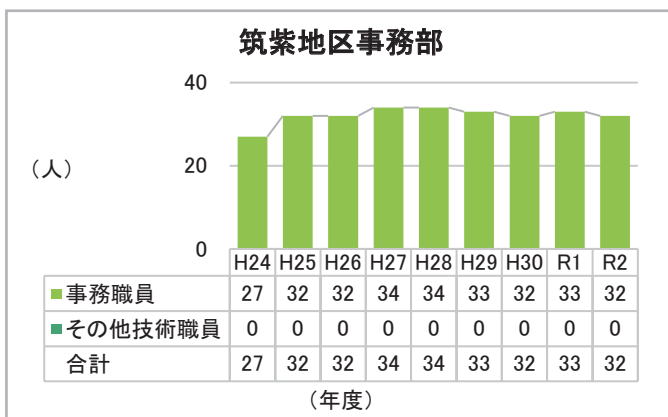
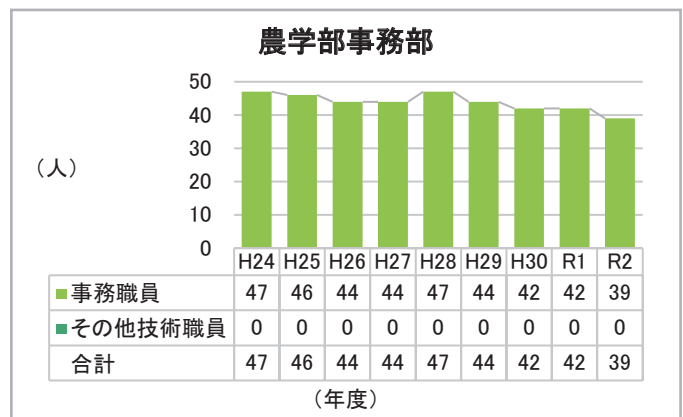
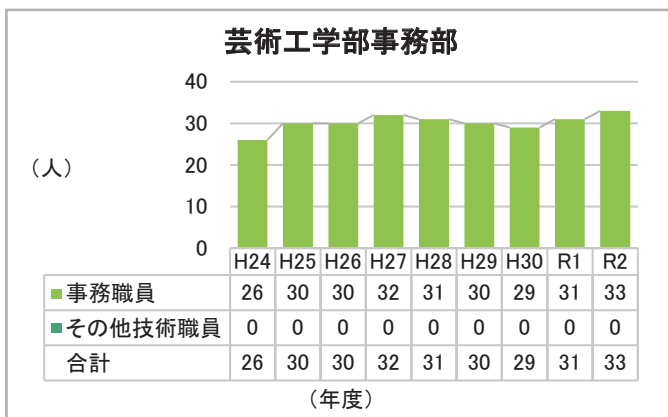
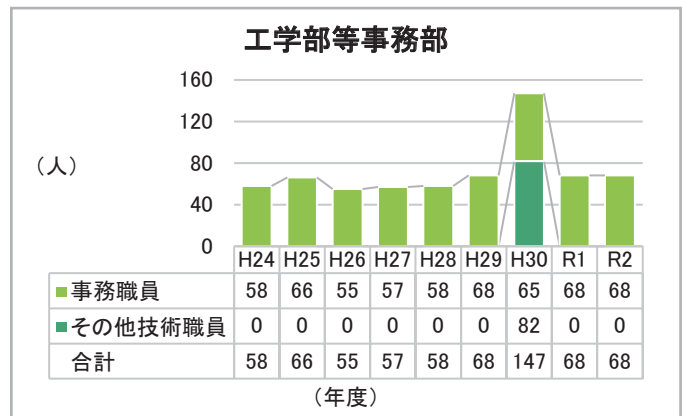
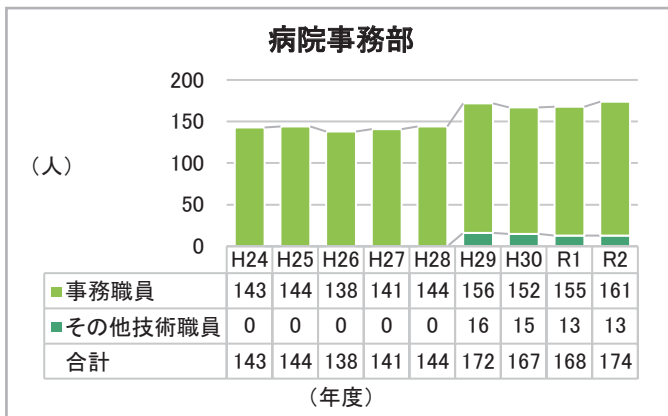
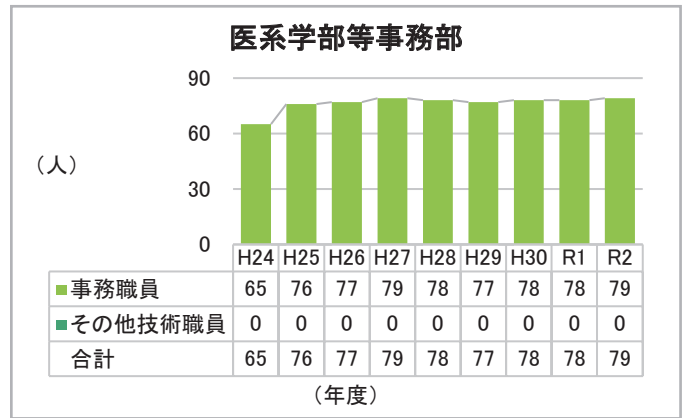
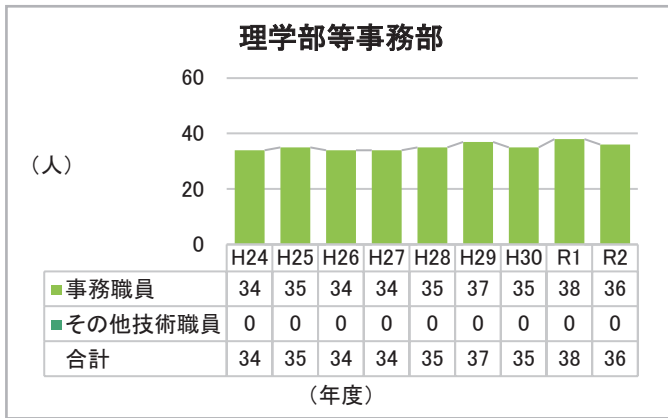
2-8-3. 事務職員・技術職員等数（部局別）（つづき）



- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ R1年度より、本務のみ計上。
- ・ 人文社会科学系事務部、2018年度データ集までは貝塚地区事務部で計上。

出典：九州大学概要

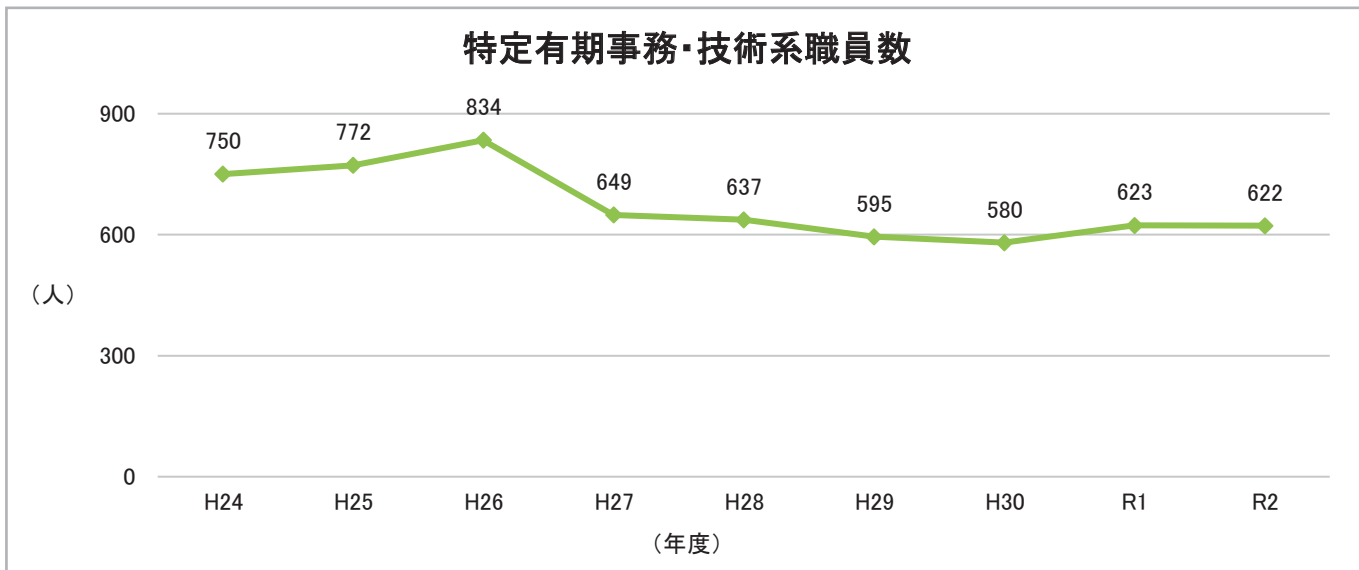
2-8-3. 事務職員・技術職員等数（部局別）（つづき）



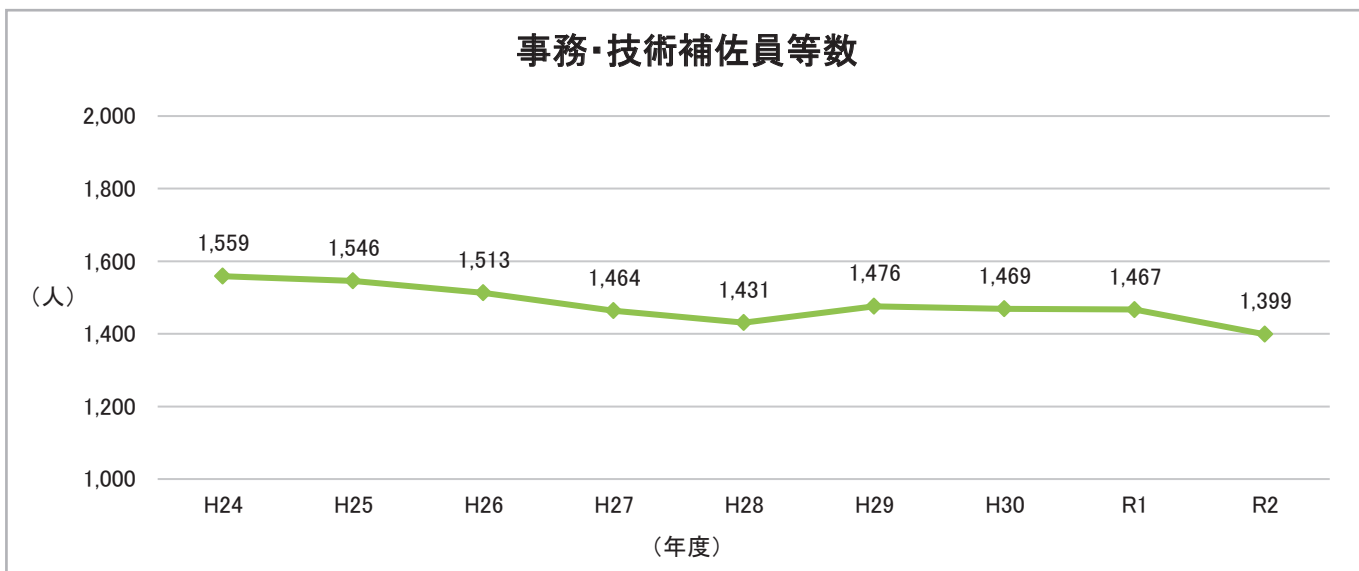
- ・ 休職者・育児休業者を含まず、休職等代替職員を含む。
- ・ 再雇用職員を含む。
- ・ R1年度より、本務のみ計上。
- ・ 工学部等事務部、その他技術職員の一部は、H24～H29年度は工学部とシステム情報科学府で計上。R1年度以降は、工学部（技術部を含む）で計上。

出典：九州大学概要

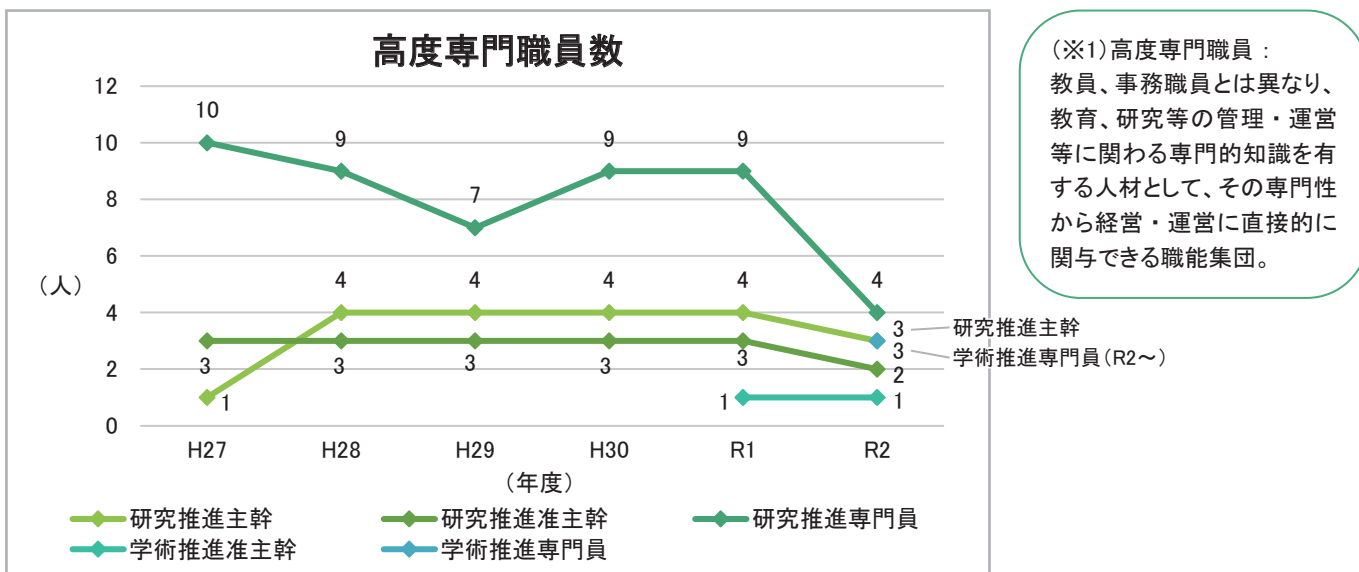
2-9. 特定有期事務・技術系職員数



2-10. 事務・技術補佐員等数



2-11. 高度専門職員数(※1)



出典：九州大学概要

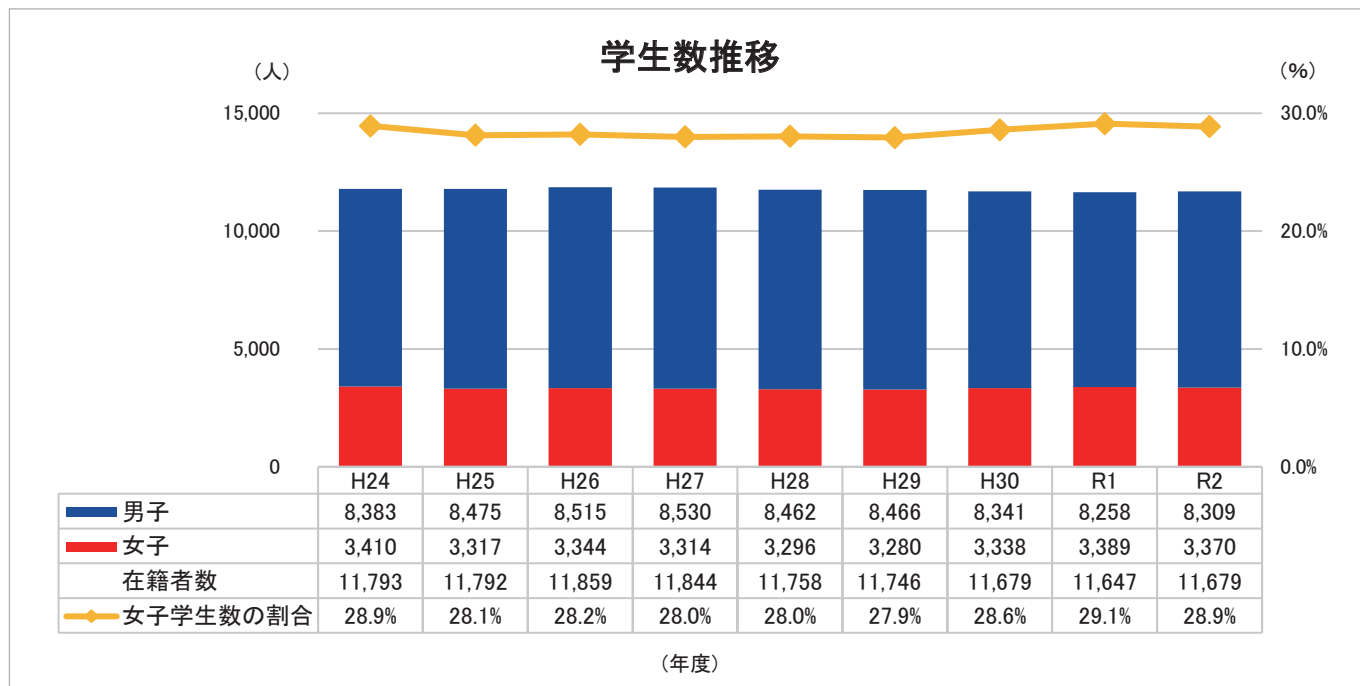
3. 学生数 (各年度5月1日現在)

3-1. 学士課程

3-1-1. 学部(全体)

全国的にみると、男子学生数及び女子学生数の大幅な増減は見られないが、女子学生数割合が年々増加傾向にある。本学では全国と比較すると女子学生数の割合が大きく下回っている。

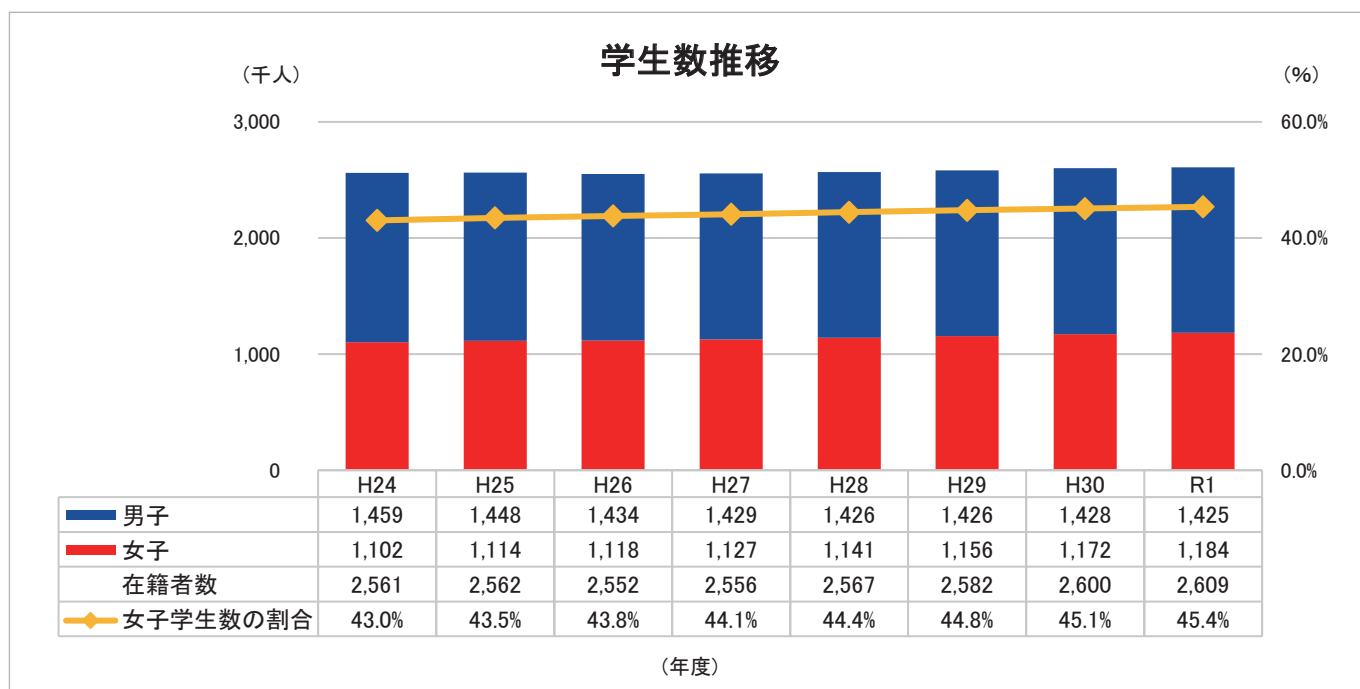
◆九州大学◆



・学生数には、休学者を含む(以下同様)。

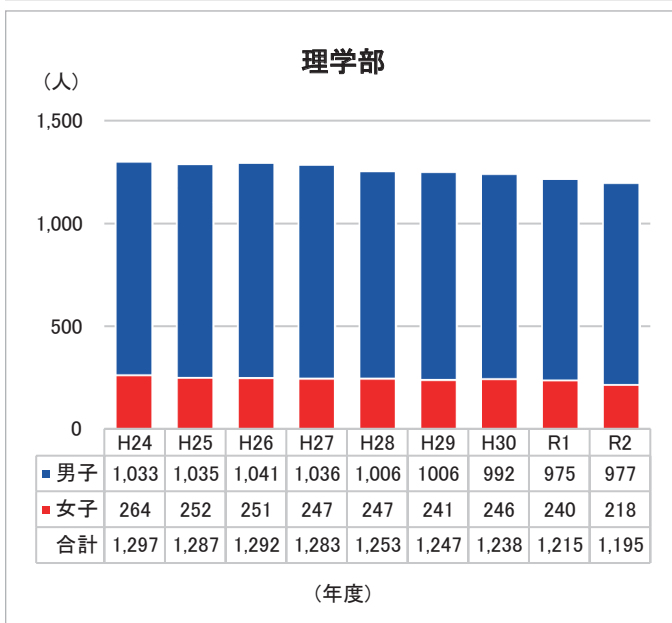
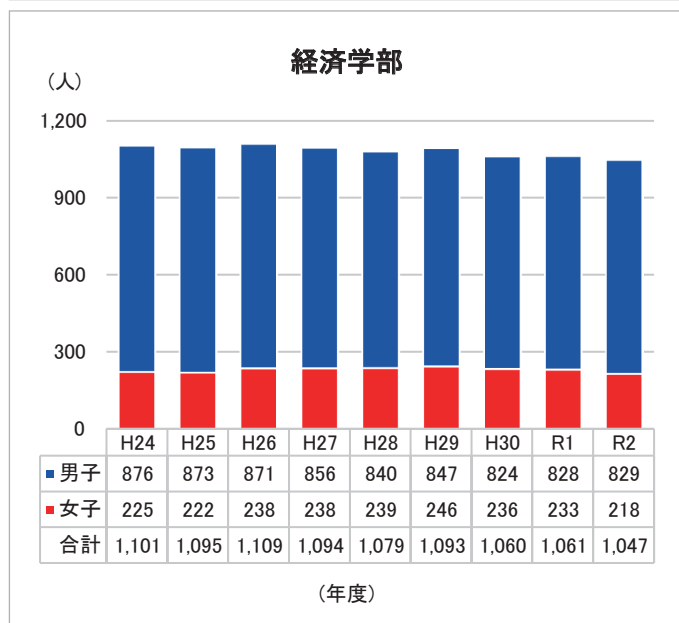
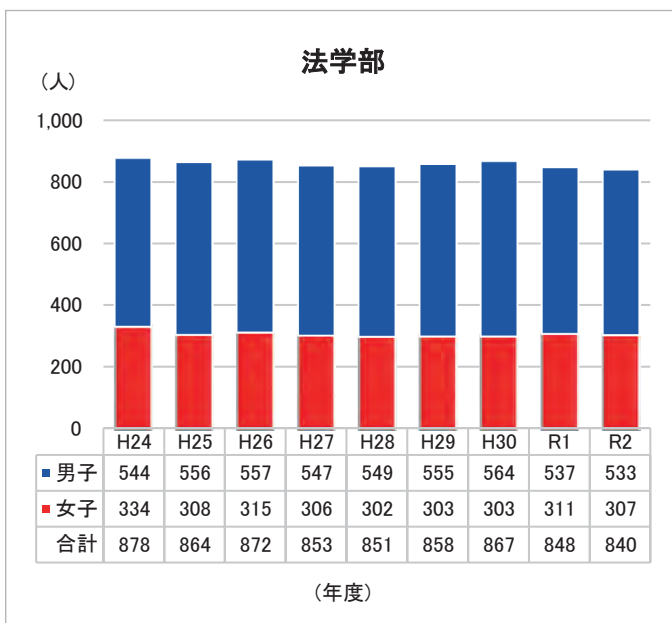
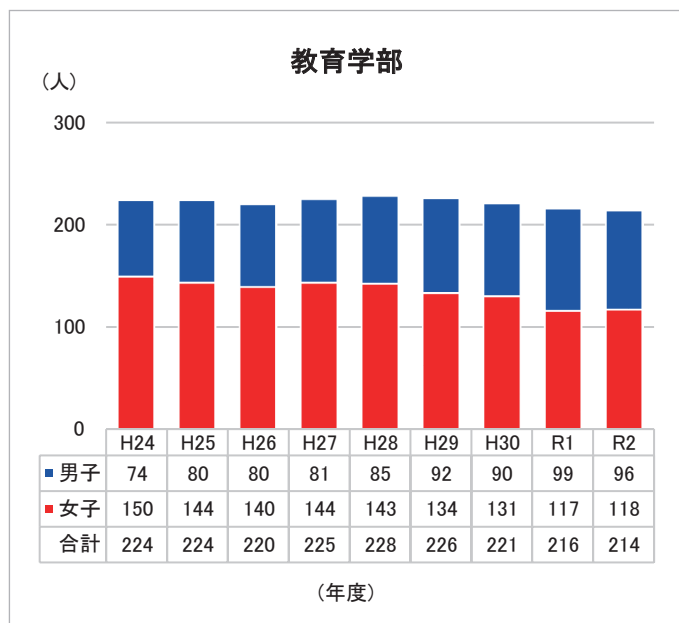
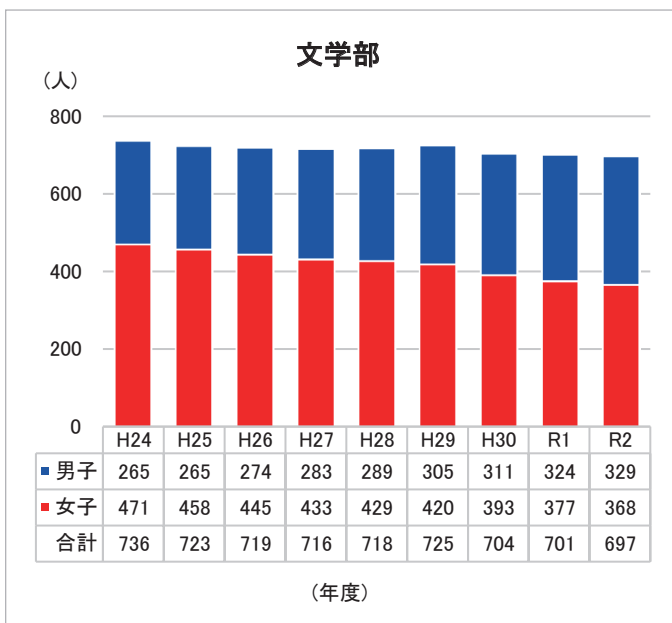
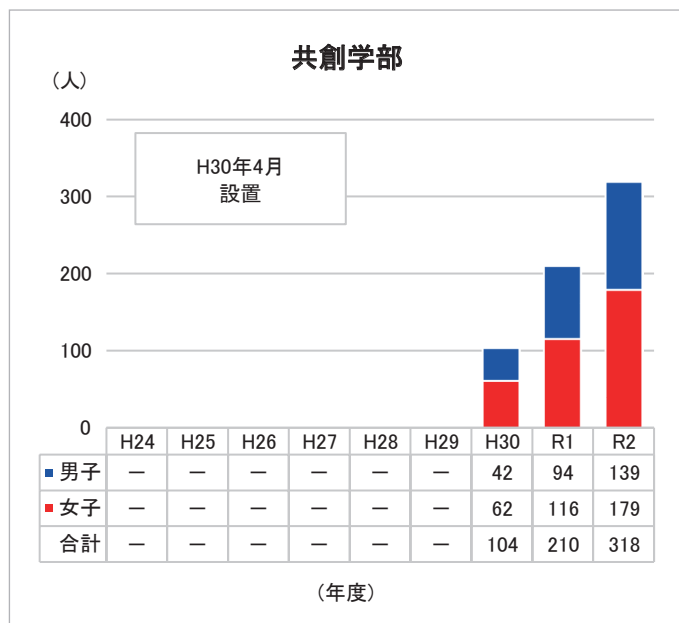
出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆



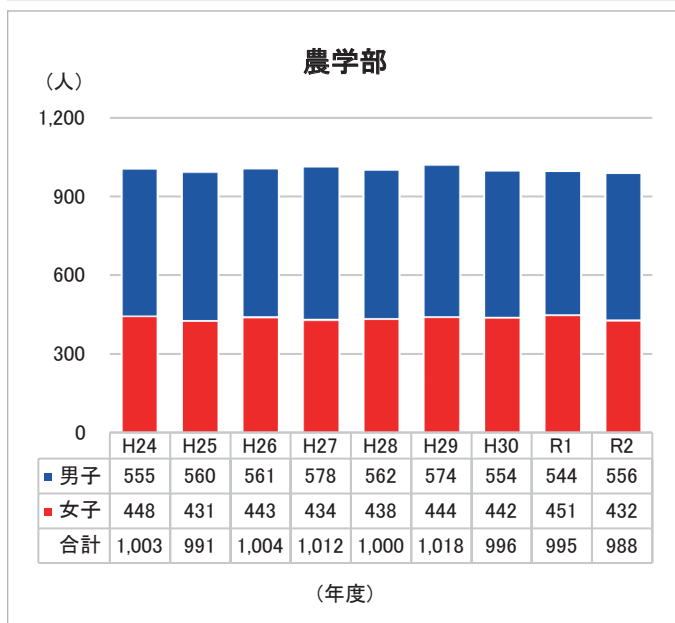
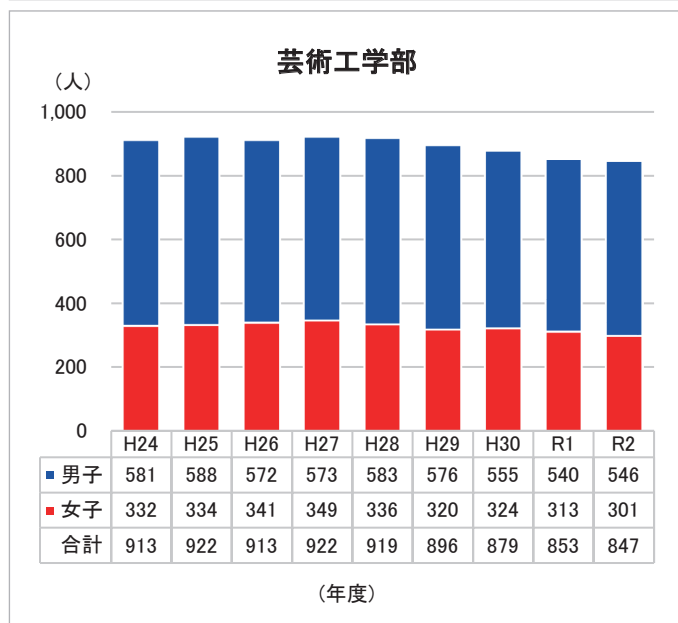
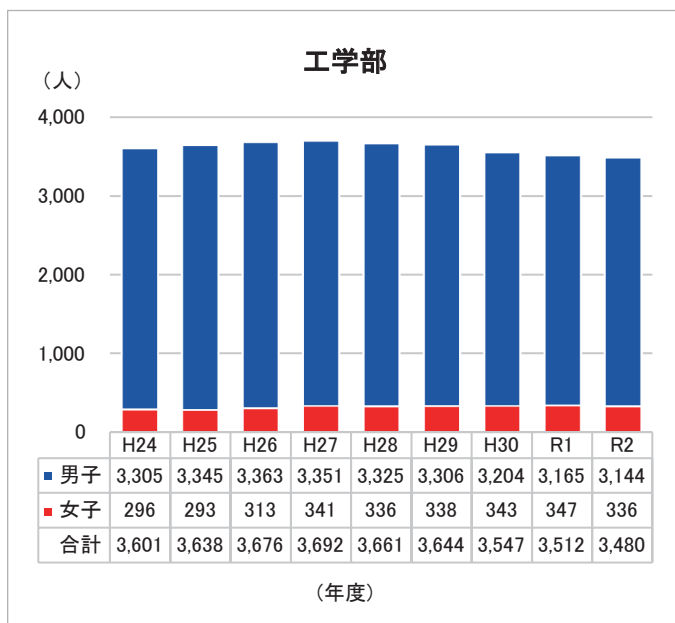
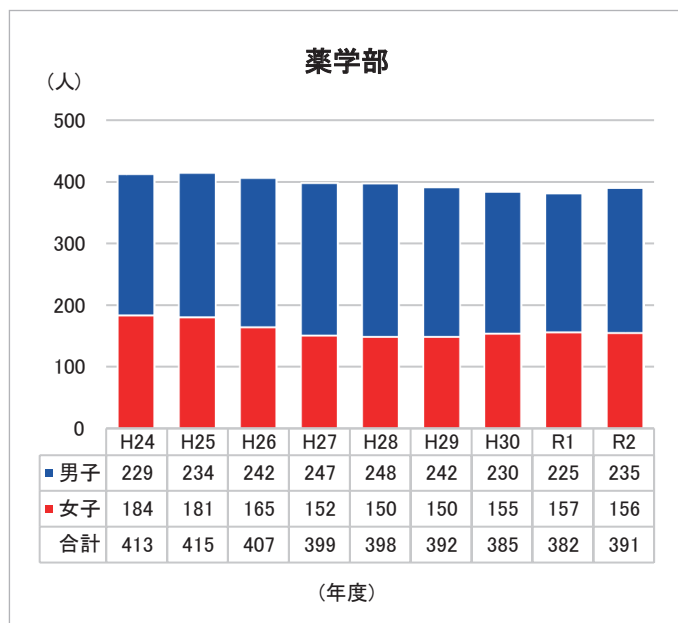
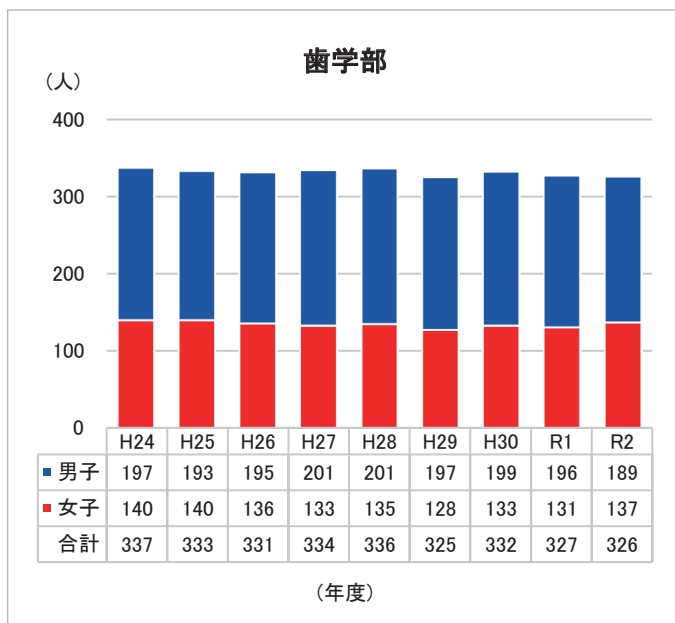
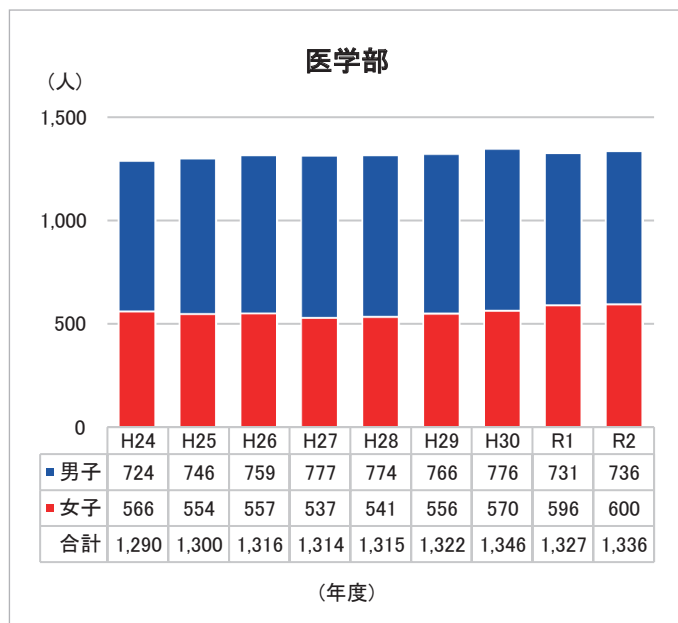
出典:文部科学省 文部科学統計要覧

3-1-2. 学部 (学部別・在籍学生数)



出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-1-2. 学部（学部別・在籍学生数）（つづき）



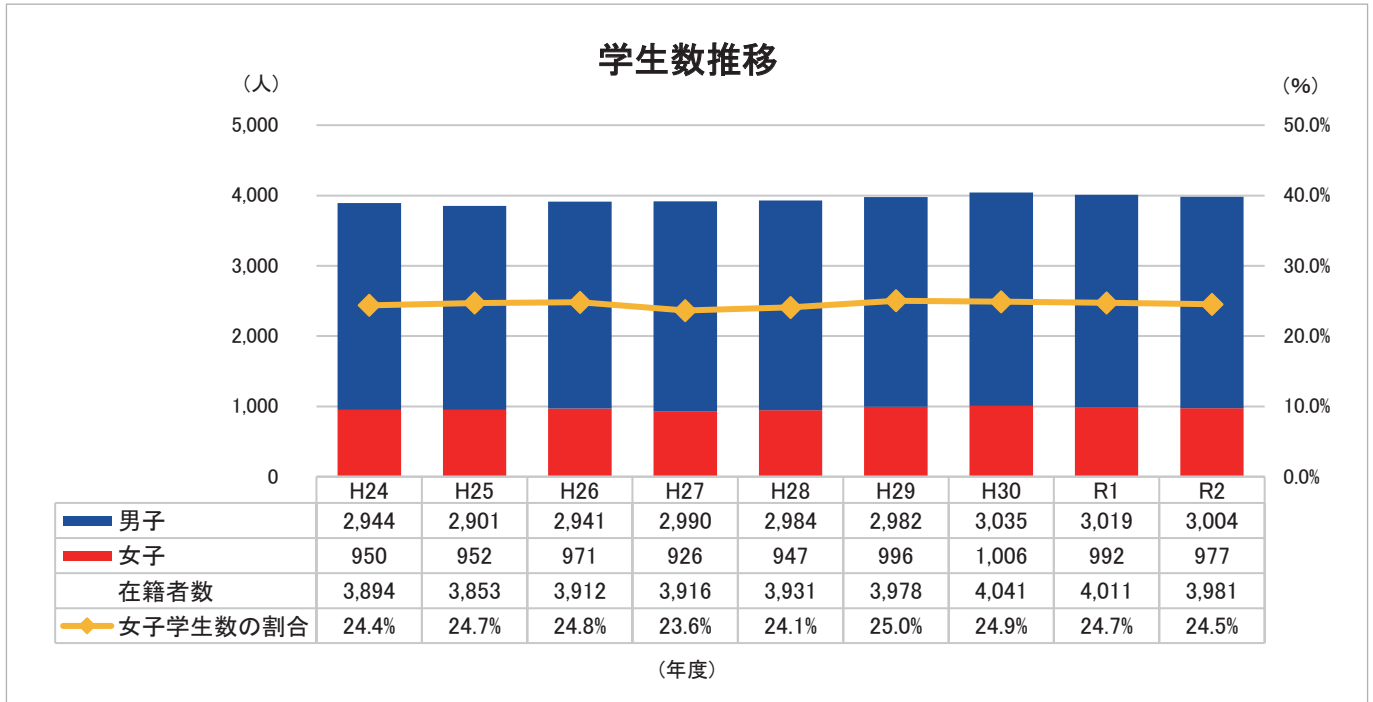
出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

3-2. 修士課程

3-2-1. 修士課程(全体)

全国的にみると、女子学生の割合は年々増加傾向にある。
本学では、在籍者数、女子学生数の割合はともに横ばいである。

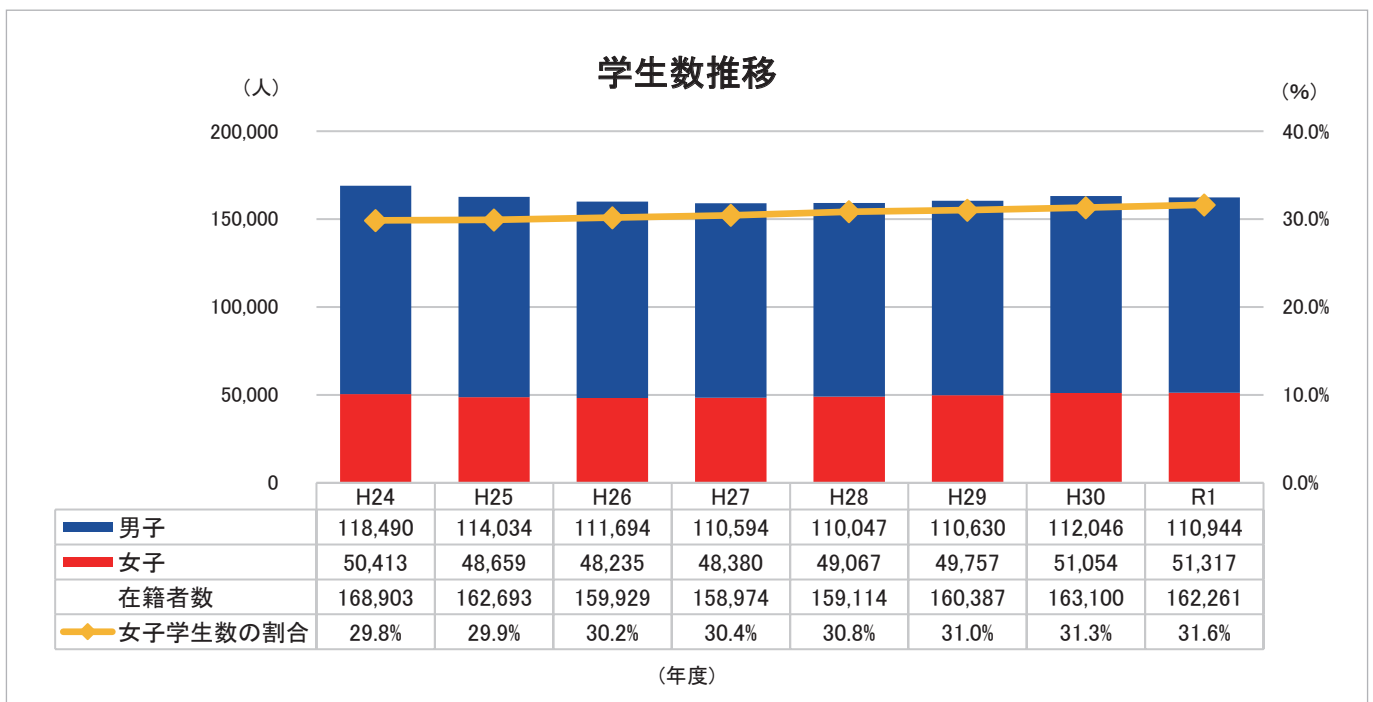
◆九州大学◆



・学生数には、休学者を含む(以下同様)。

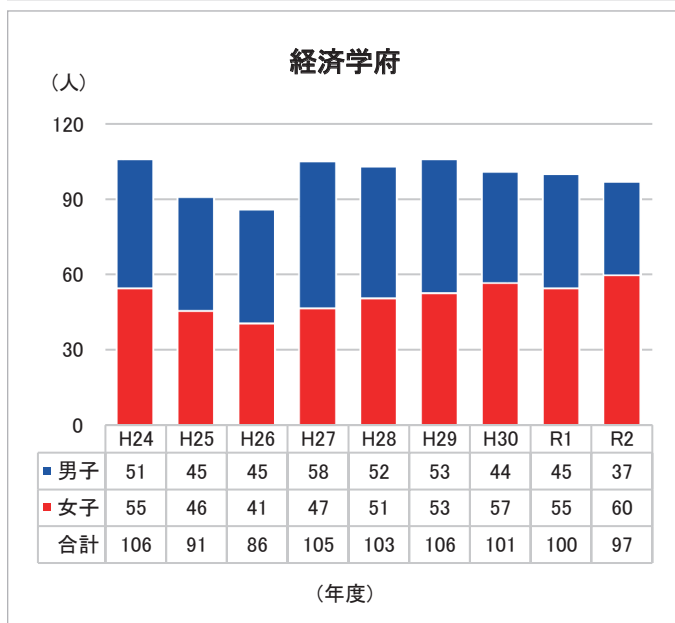
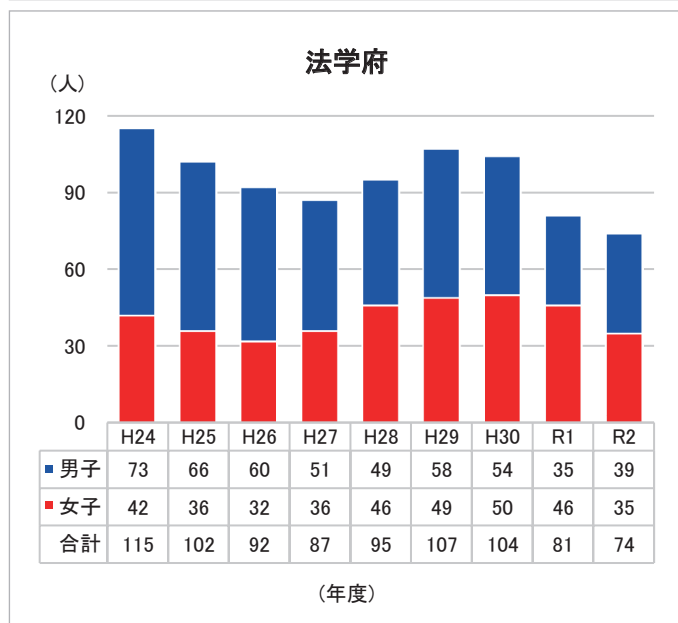
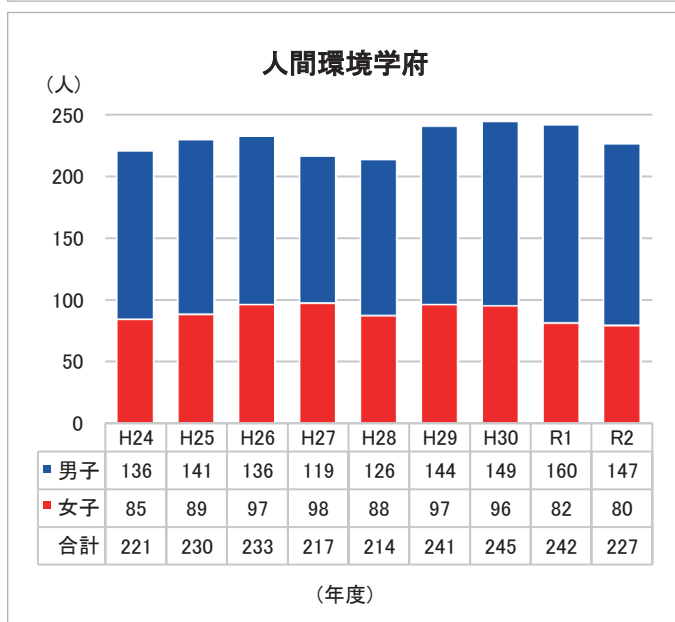
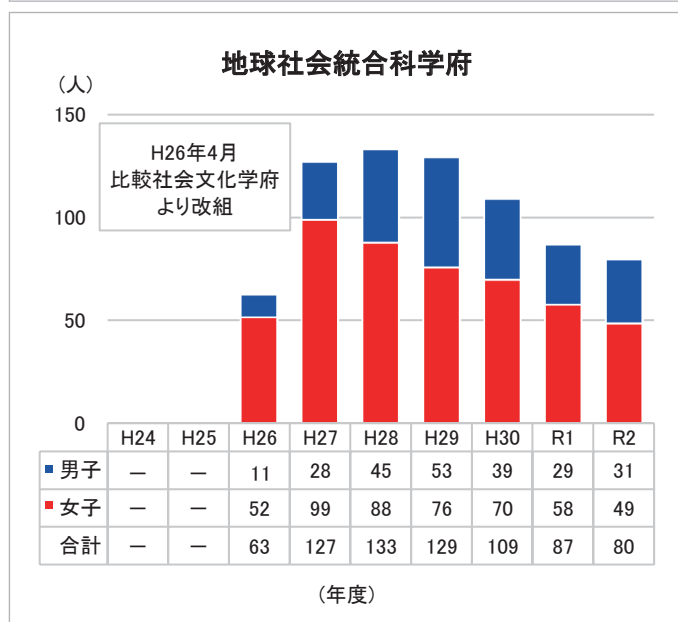
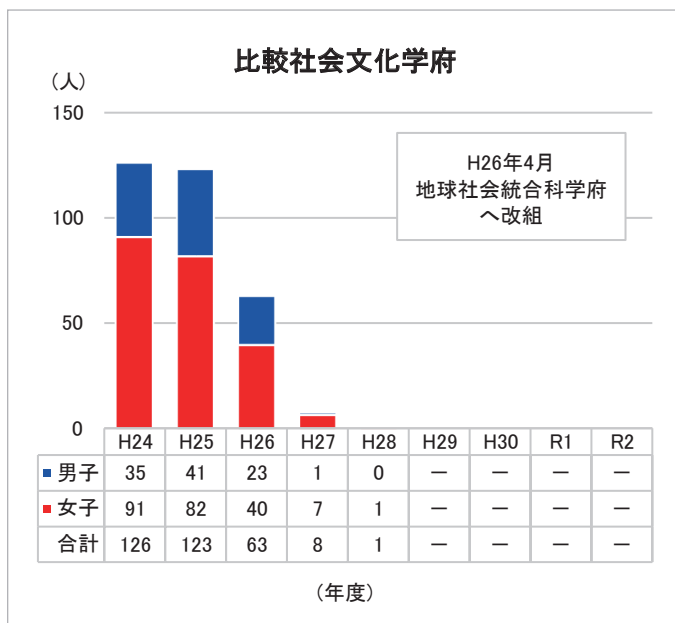
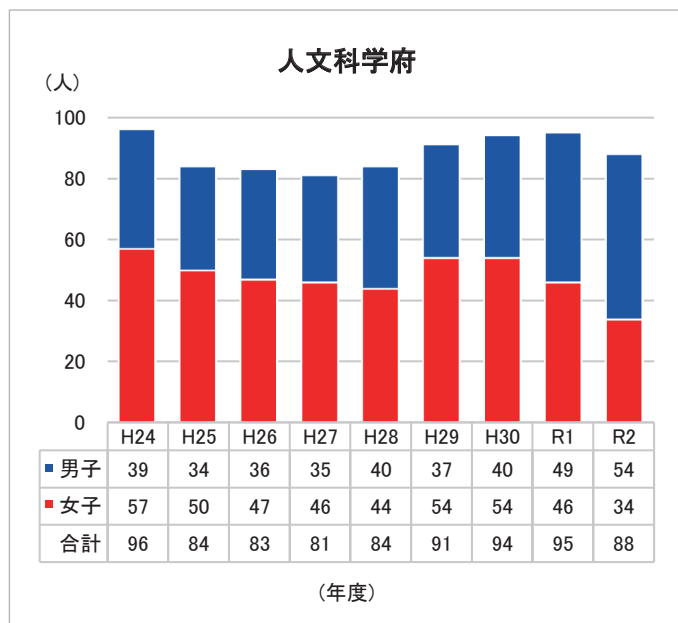
出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆



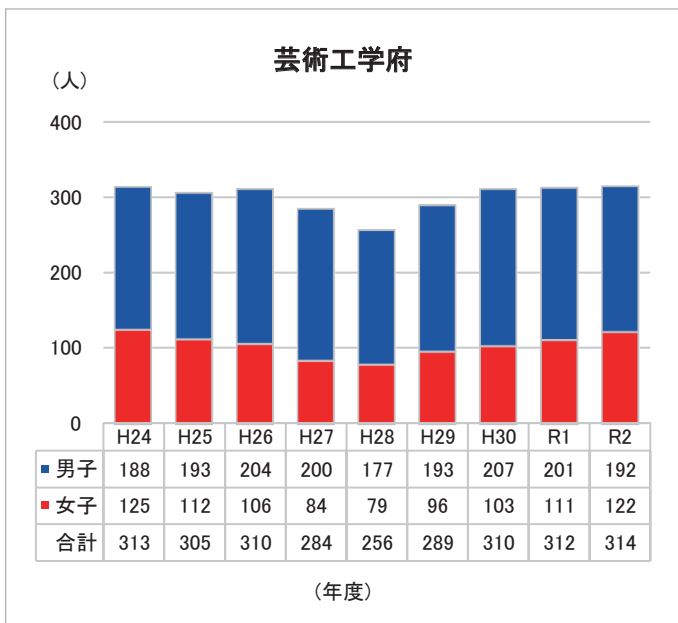
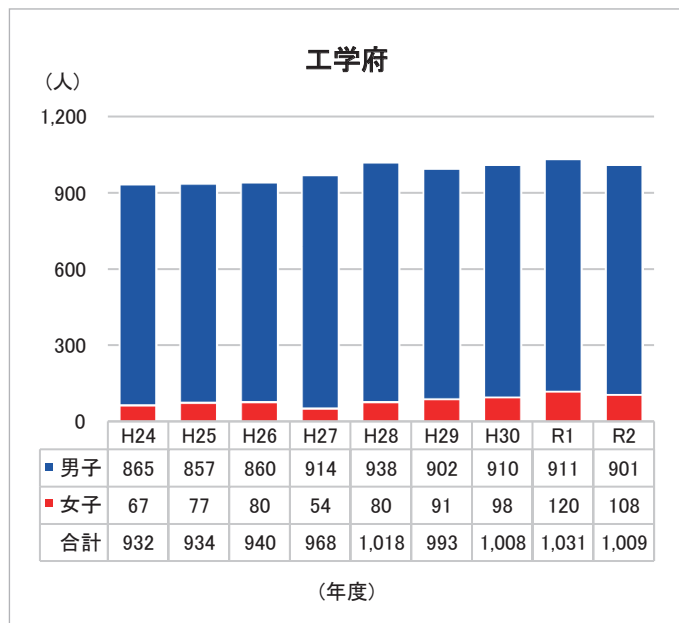
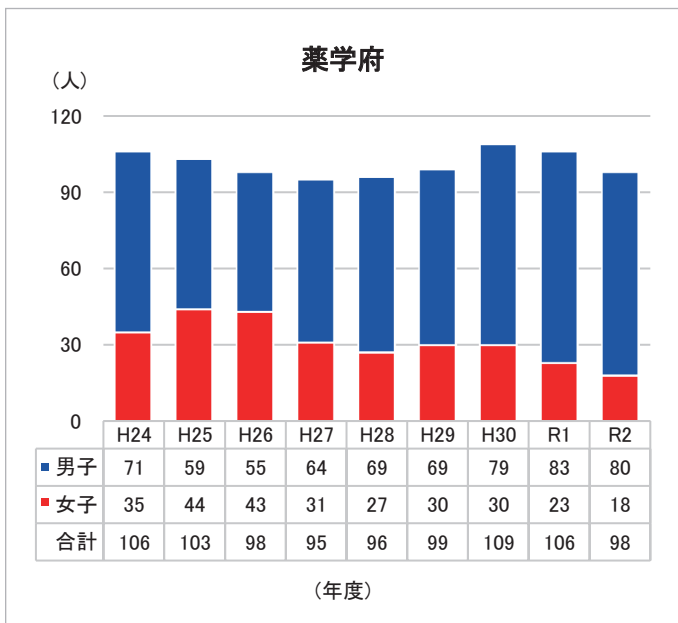
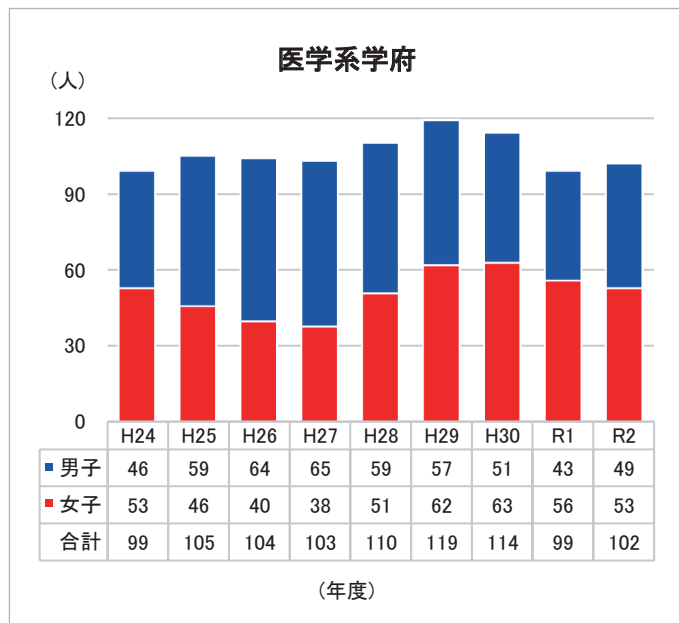
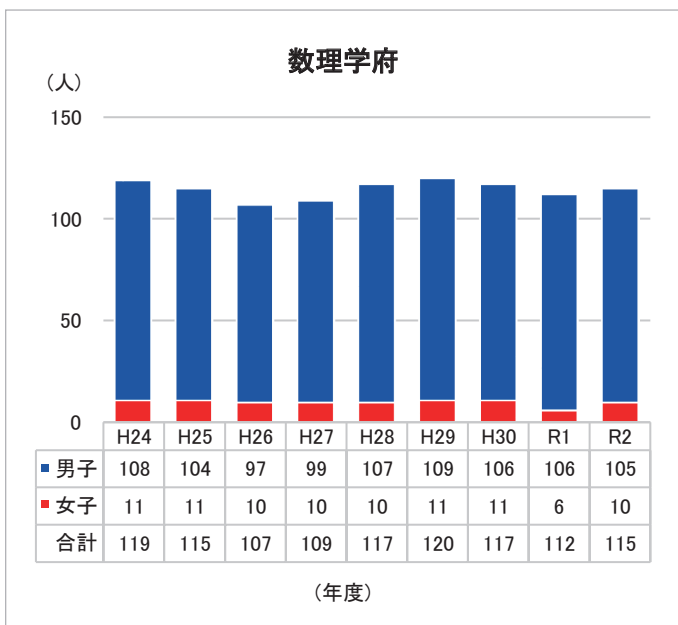
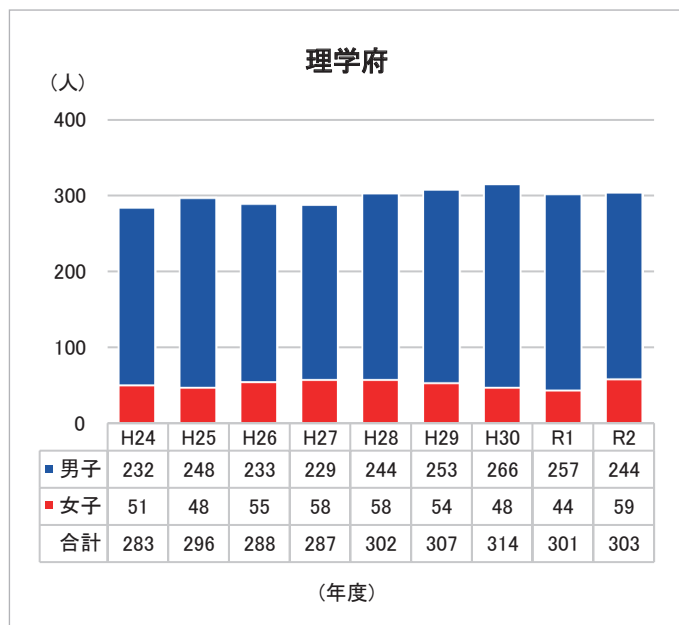
出典:文部科学省 文部科学統計要覧

3-2-2. 修士課程(学府別・在籍学生数)



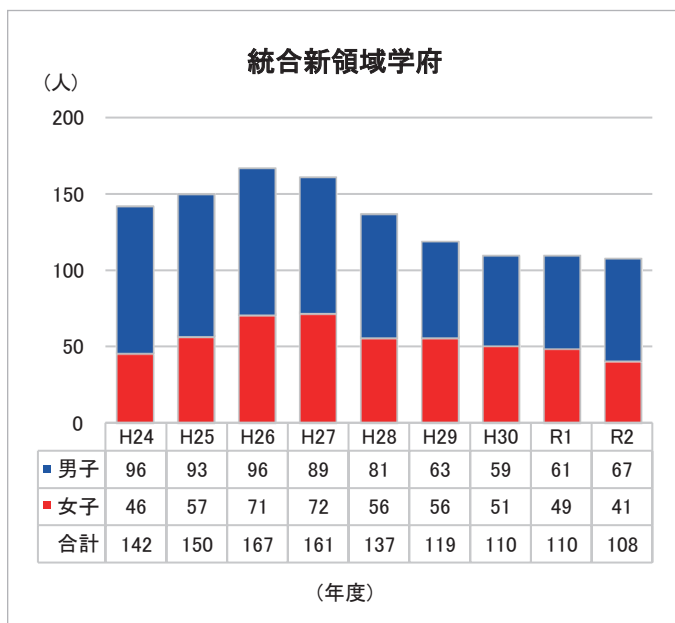
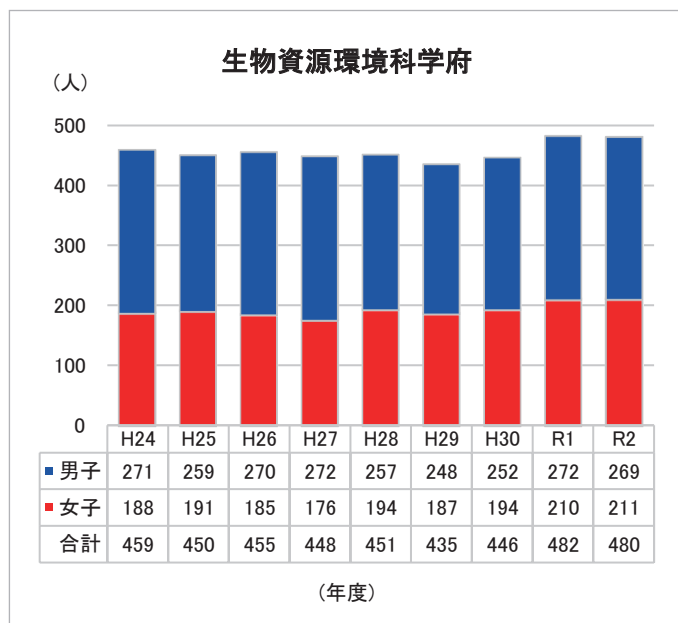
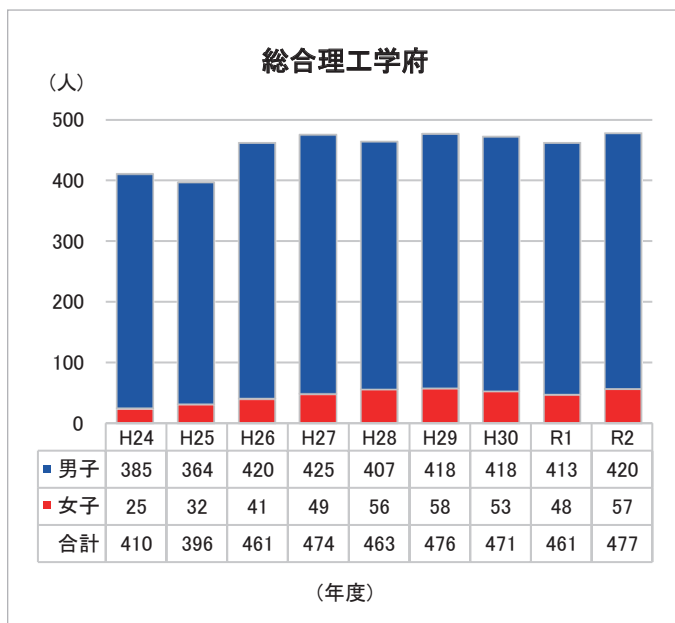
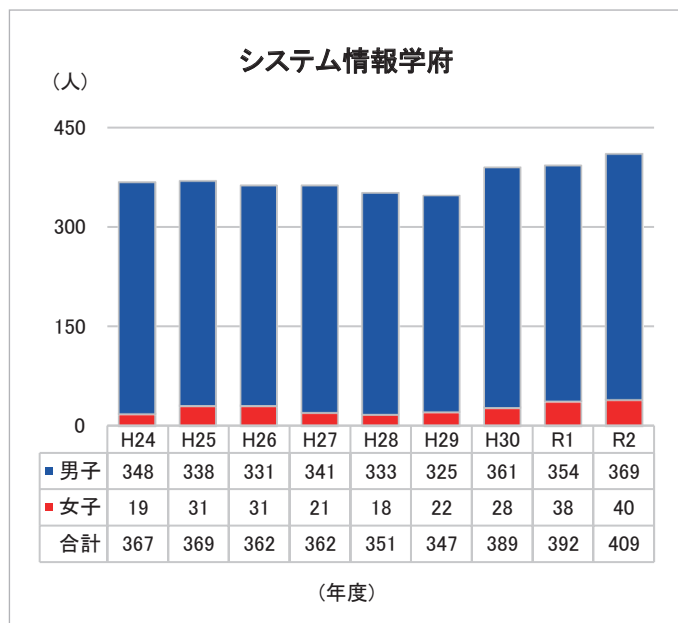
出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-2-2. 修士課程（学府別・在籍学生数）（つづき）



出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

3-2-2. 修士課程（学府別・在籍学生数）（つづき）



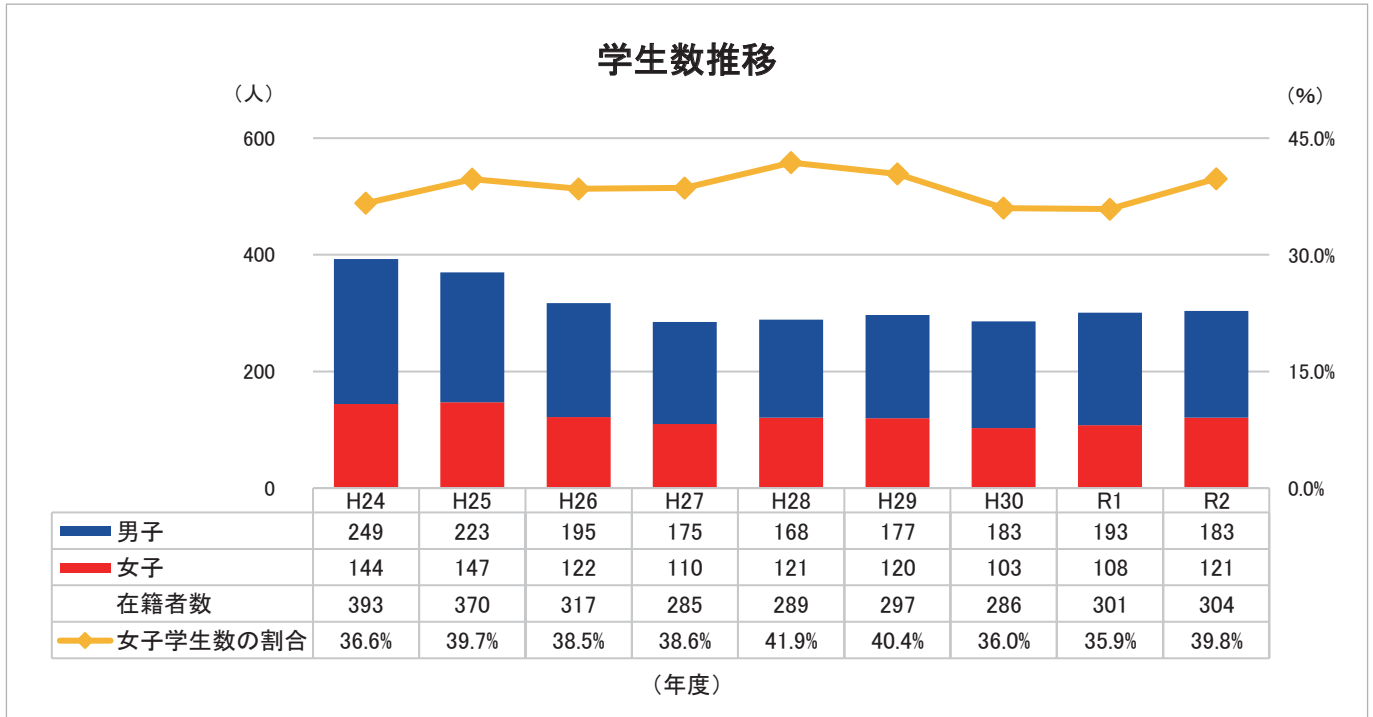
出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

3-3. 専門職学位課程

3-3-1. 専門職学位課程（全体）

全国的にみると、在籍者数は減少傾向にあったが、令和元年度は増加している。また、女子学生の割合は年々増加傾向である。本学は、全国と比べて女子学生数の割合が高い。

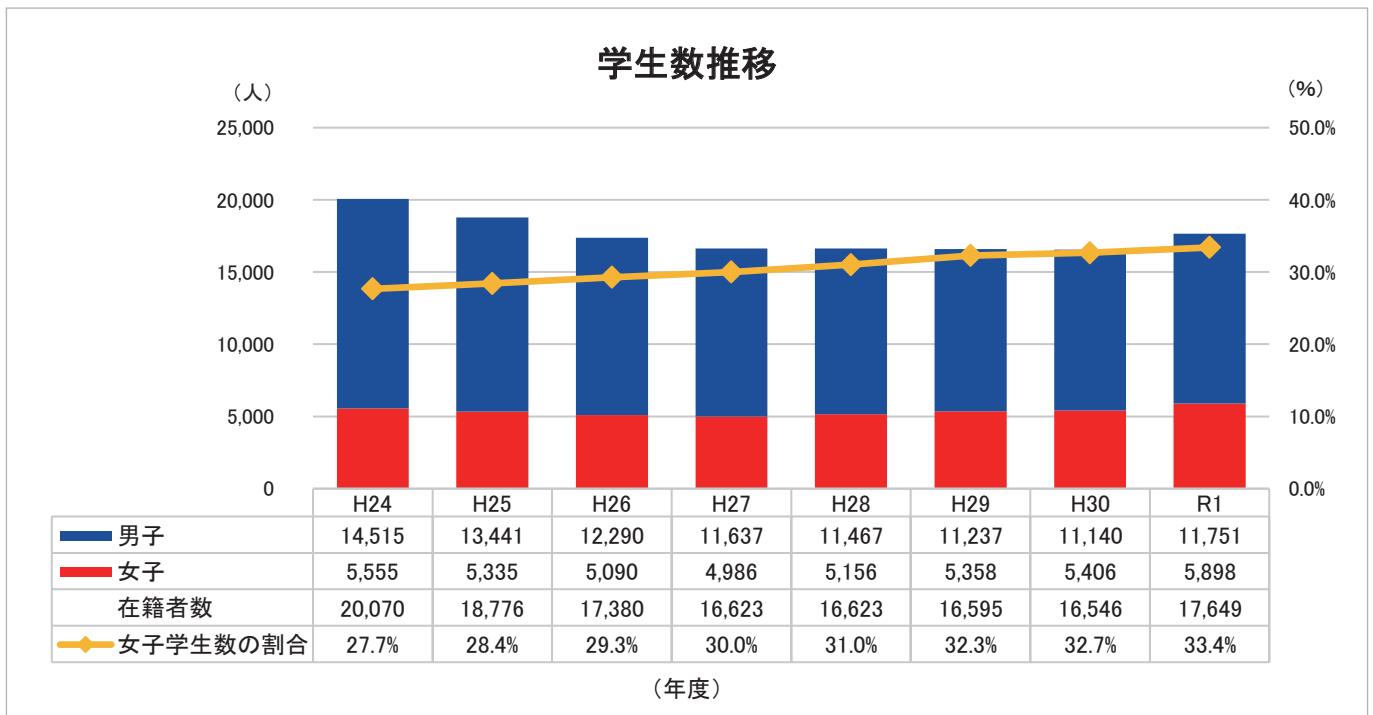
◆九州大学◆



・学生数には、休学者を含む（以下同様）。

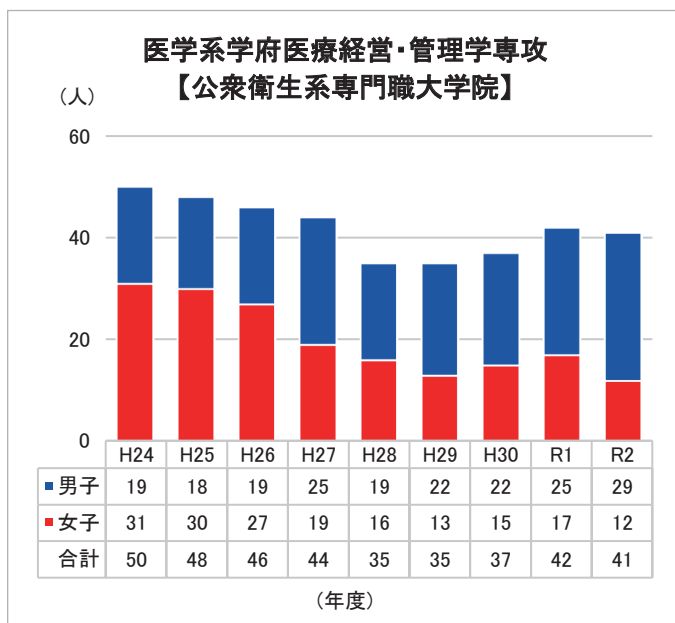
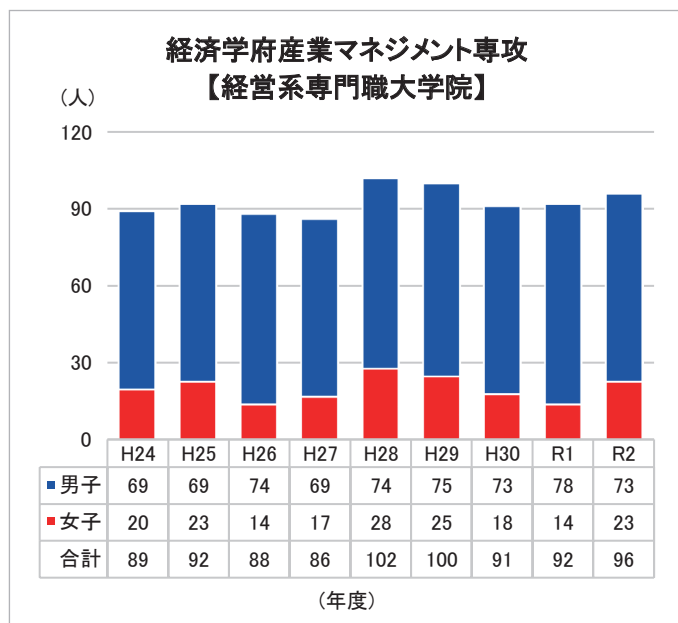
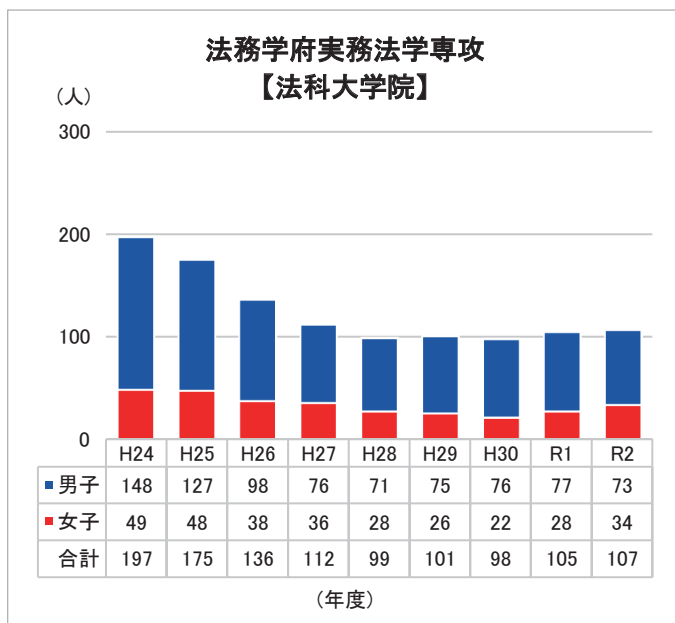
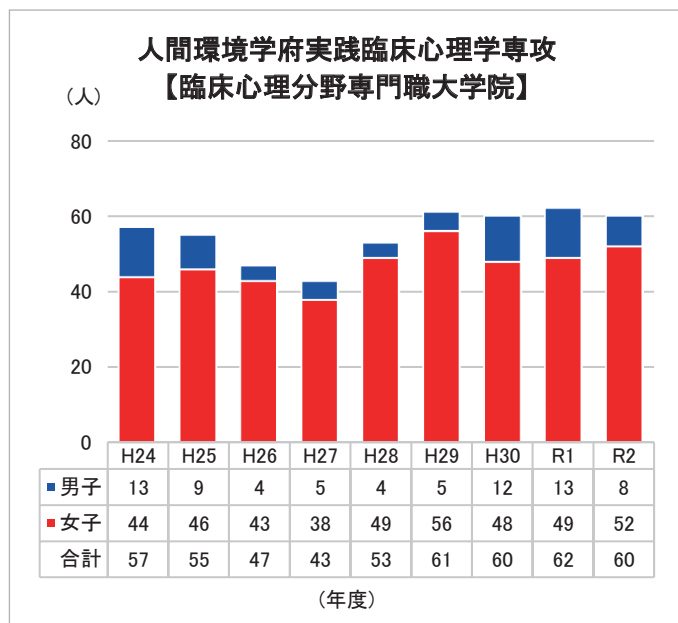
出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

◆全国 国公立大学◆



出典：文部科学省 文部科学統計要覧

3-3-2. 専門職学位課程（学府別・在籍学生数）



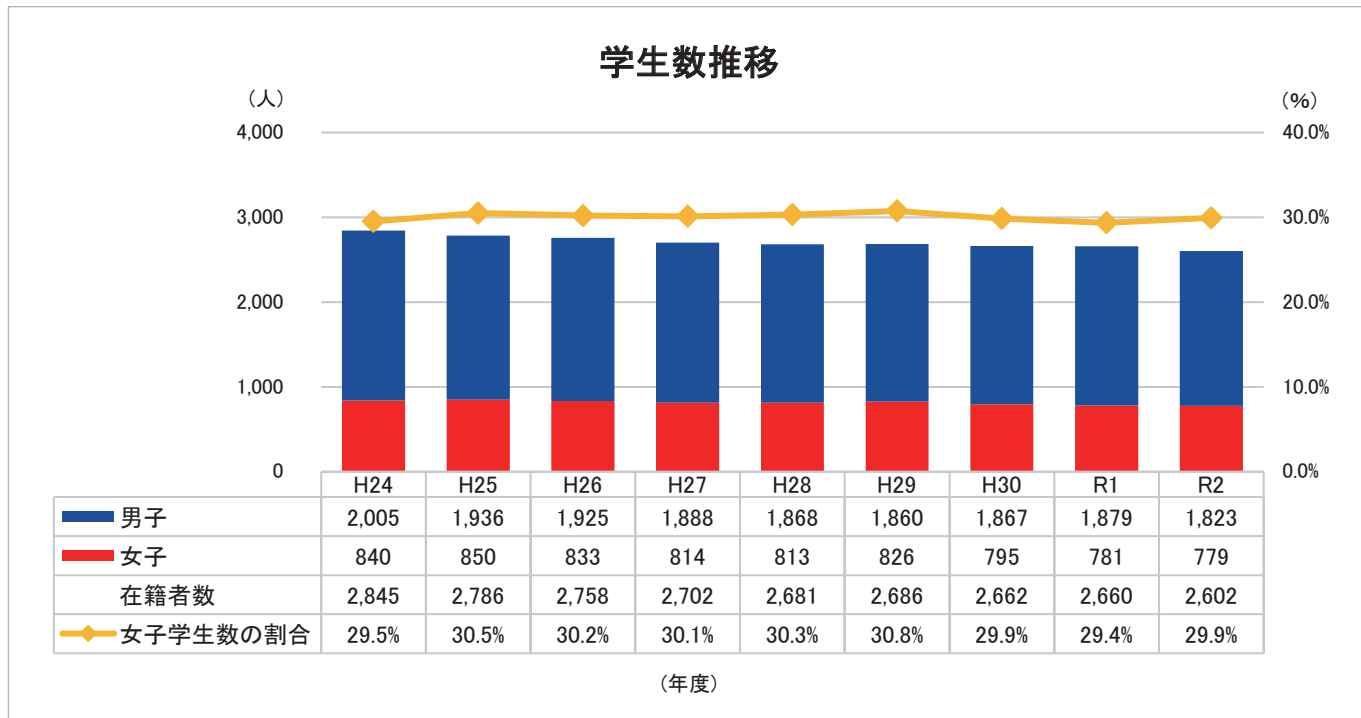
出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

3-4. 博士後期課程

3-4-1. 博士後期課程(全体)

全国、本学ともに男子学生数及び女子学生数は横ばい傾向である。

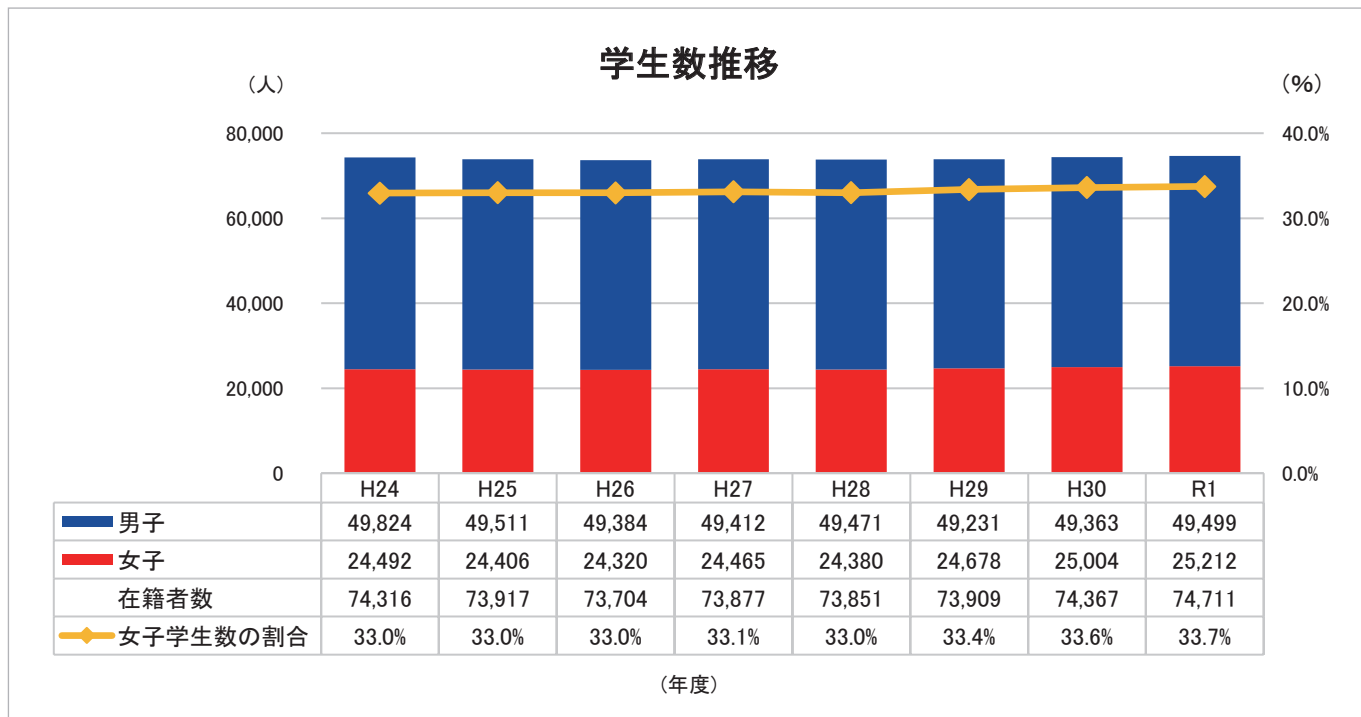
◆九州大学◆



・学生数には、休学者を含む(以下同様)。

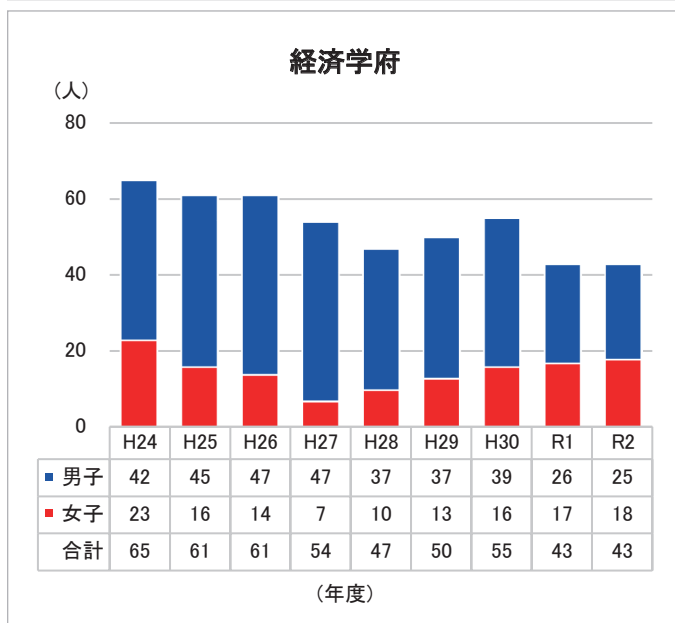
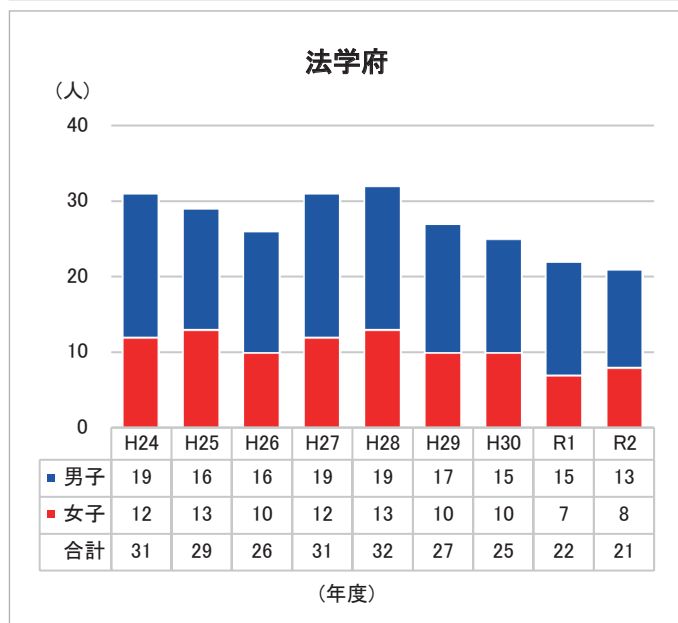
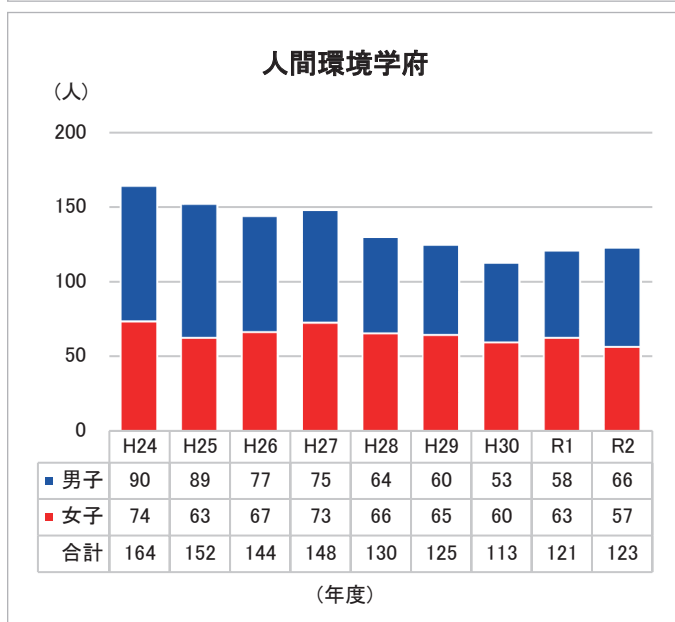
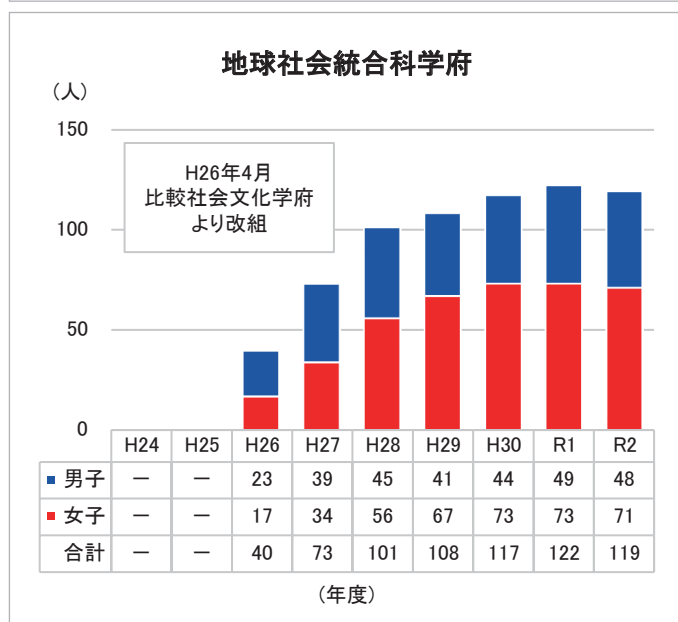
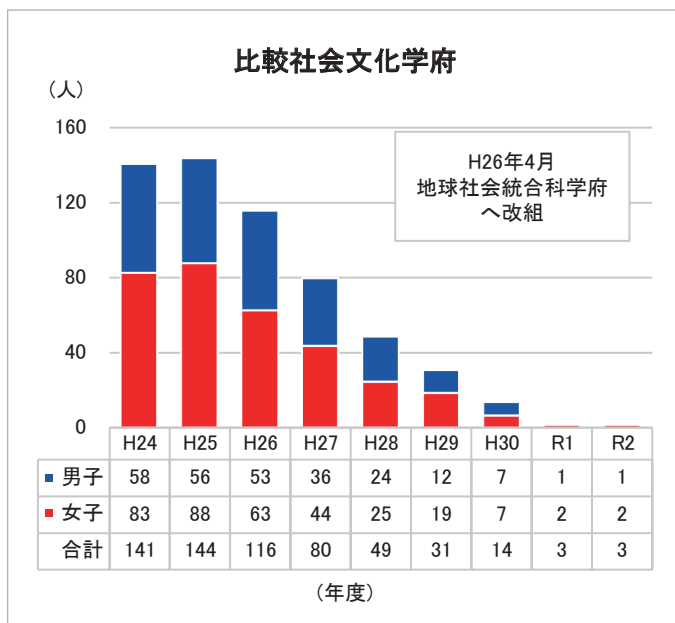
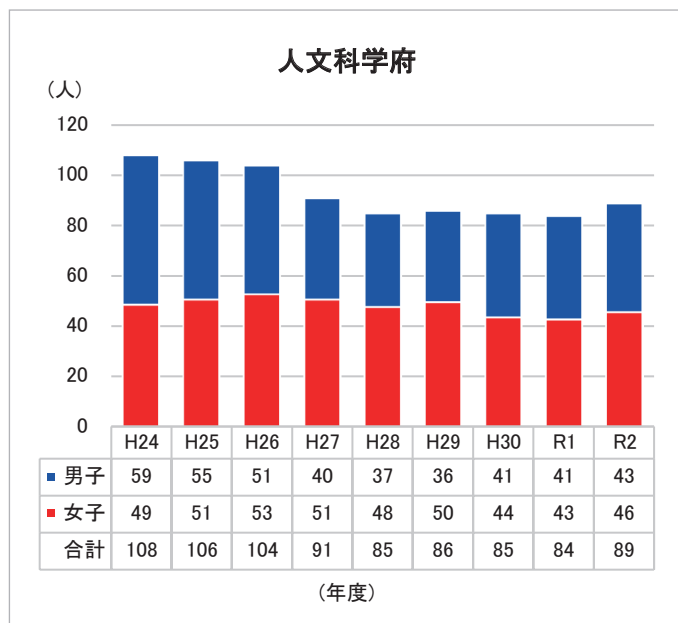
出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国公立大学◆



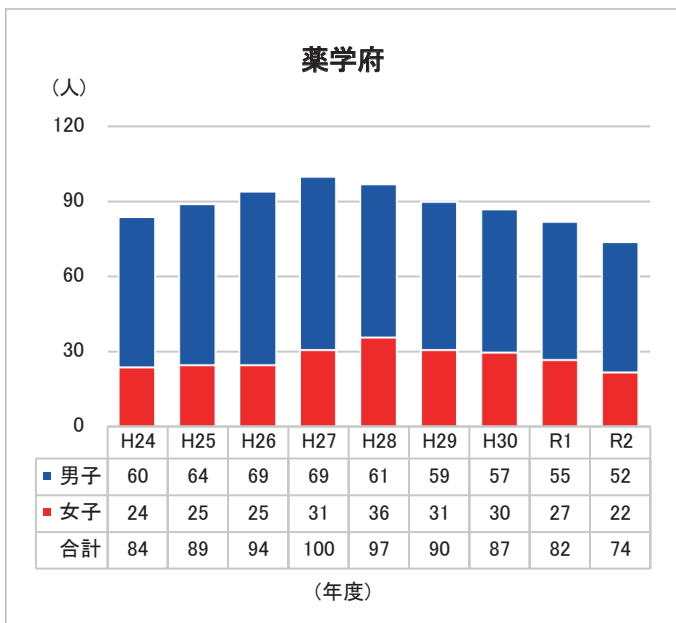
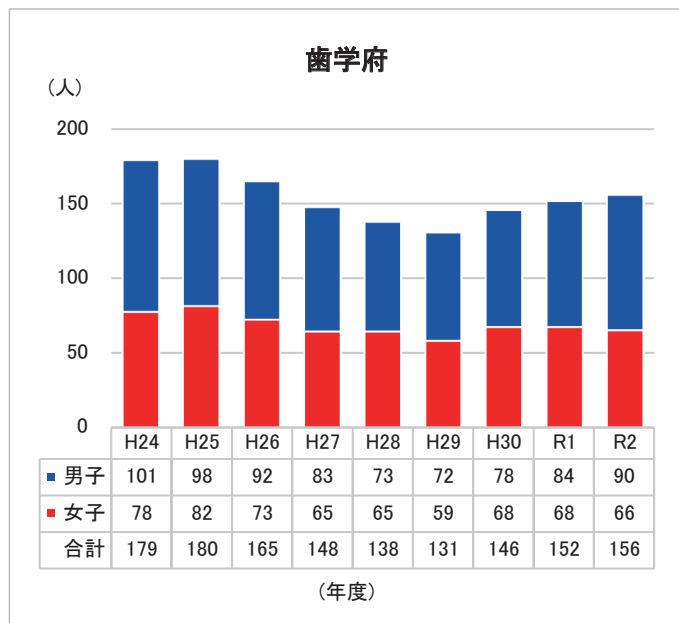
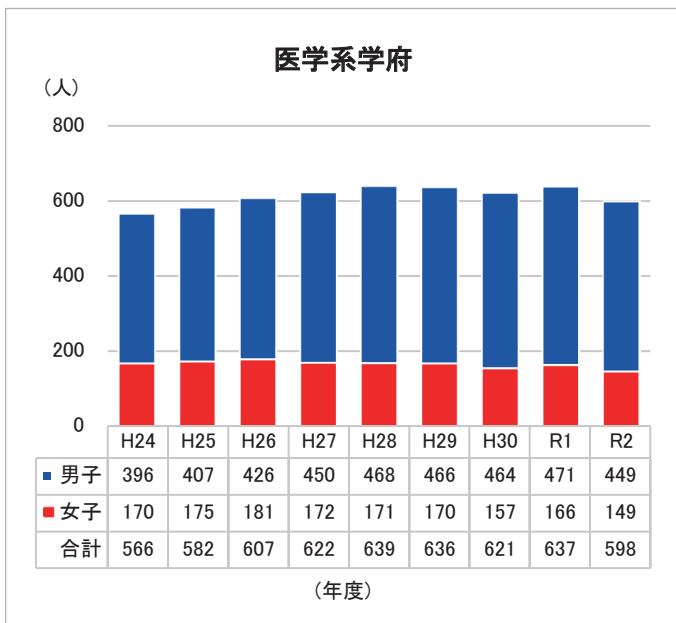
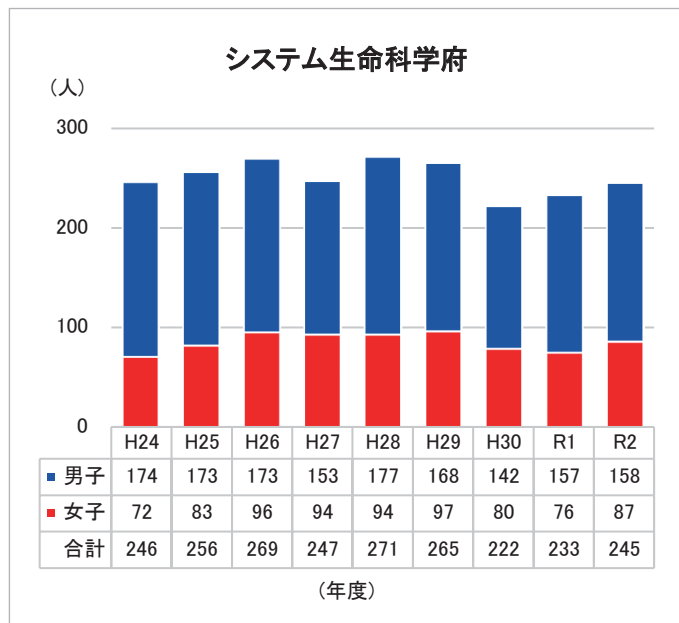
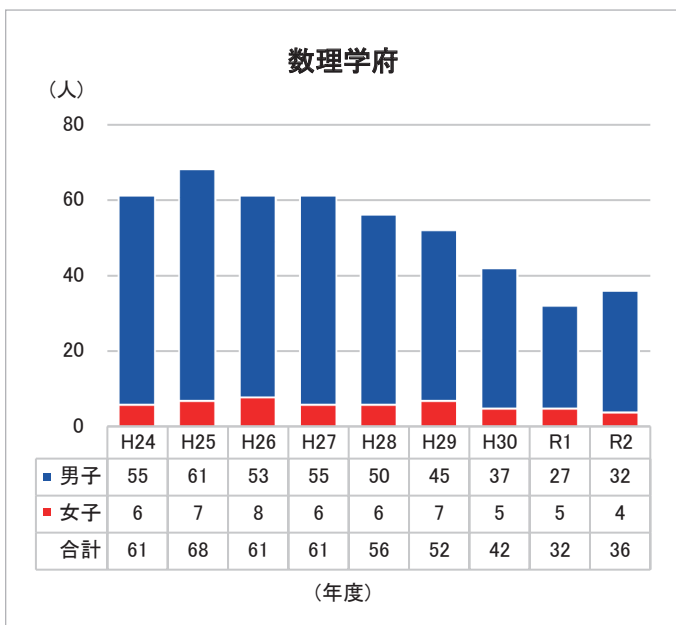
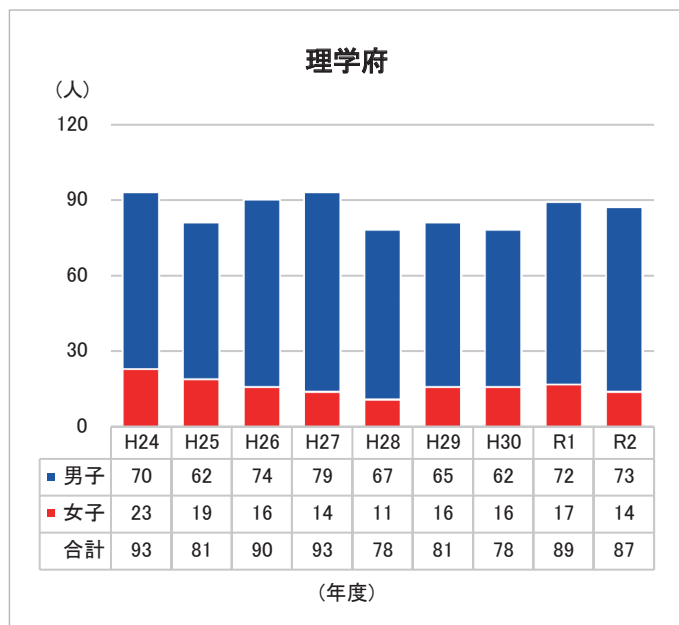
出典:文部科学省 文部科学統計要覧

3-4-2. 博士後期課程(学府別・在籍学生数)



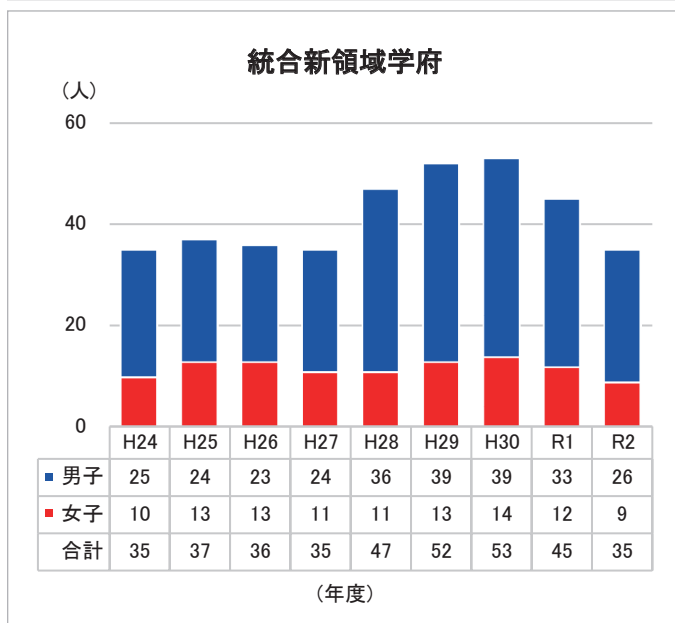
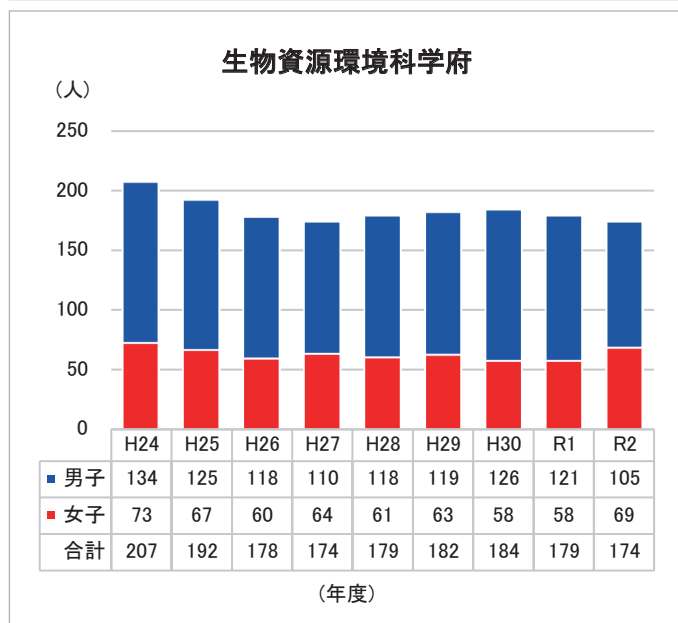
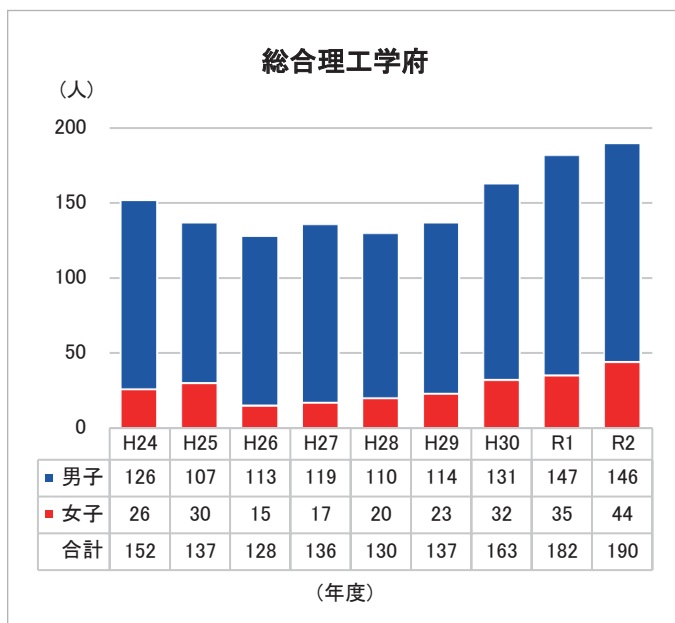
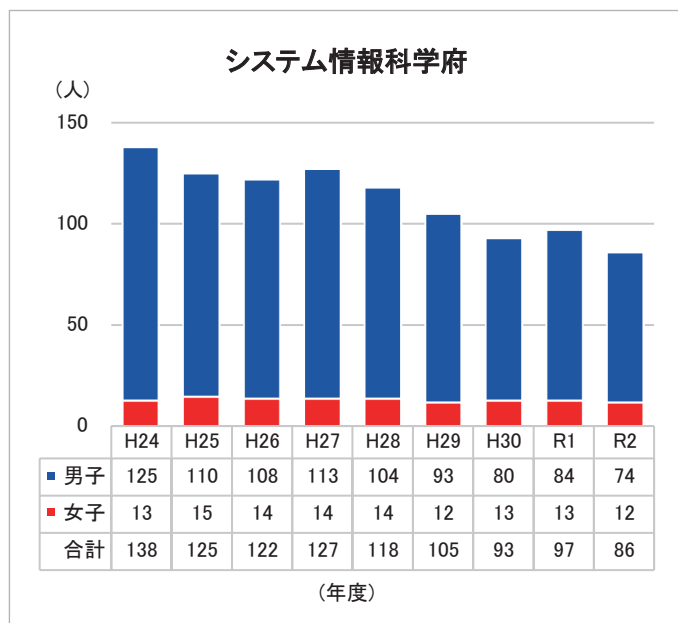
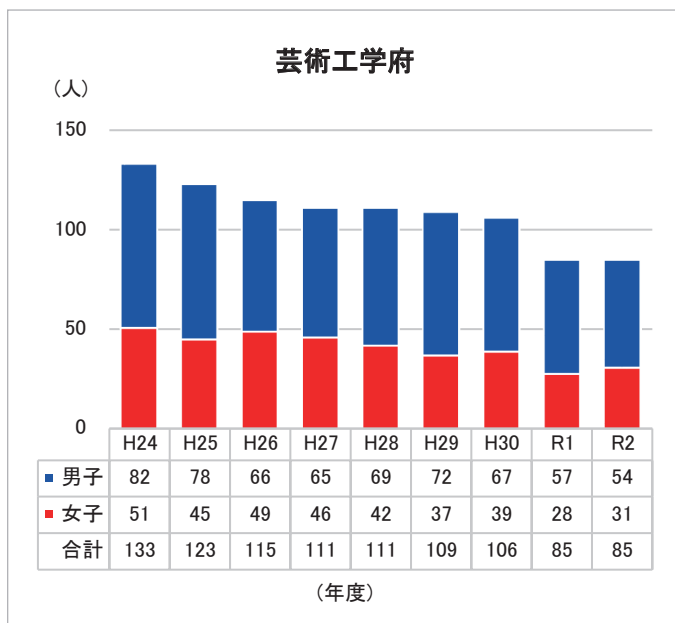
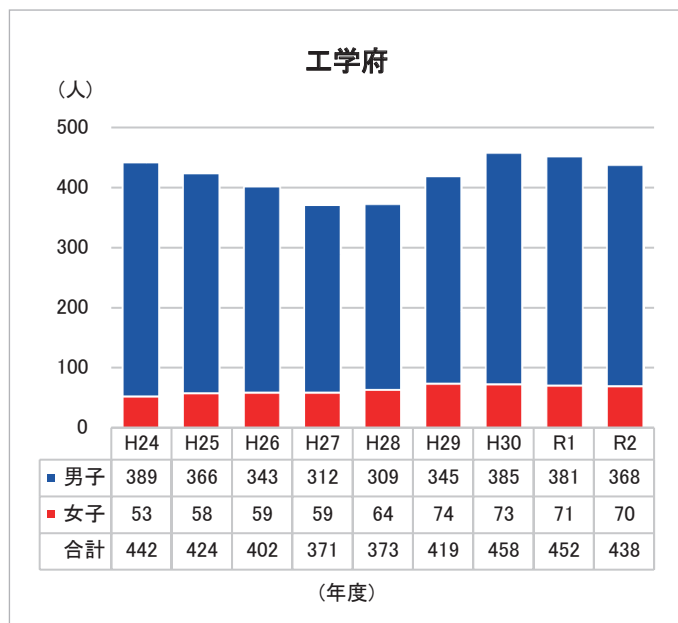
出典:九州大学概要(各年度5月1日現在)

3-4-2. 博士後期課程（学府別・在籍学生数）（つづき）



出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

3-4-2. 博士後期課程（学府別・在籍学生数）（つづき）



出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

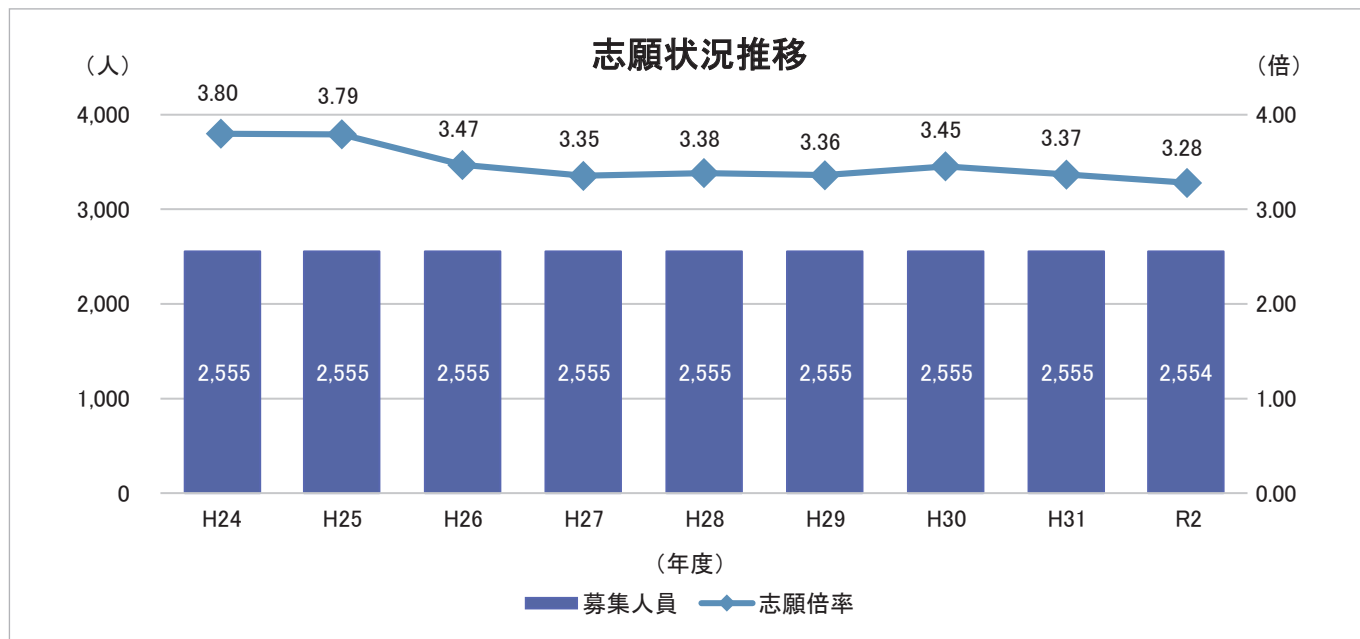
4. 志願状況 (各年度4月1日)

4-1. 志願状況 (学部)

4-1-1. 志願状況推移 (学部)

本学の学部入学者選抜の志願倍率は約 3.2 ~ 3.8 倍を推移している。令和 2 年度入試において志願倍率は 3.28 倍と最も低い。全国の国立大学の志願倍率は減少傾向にある。

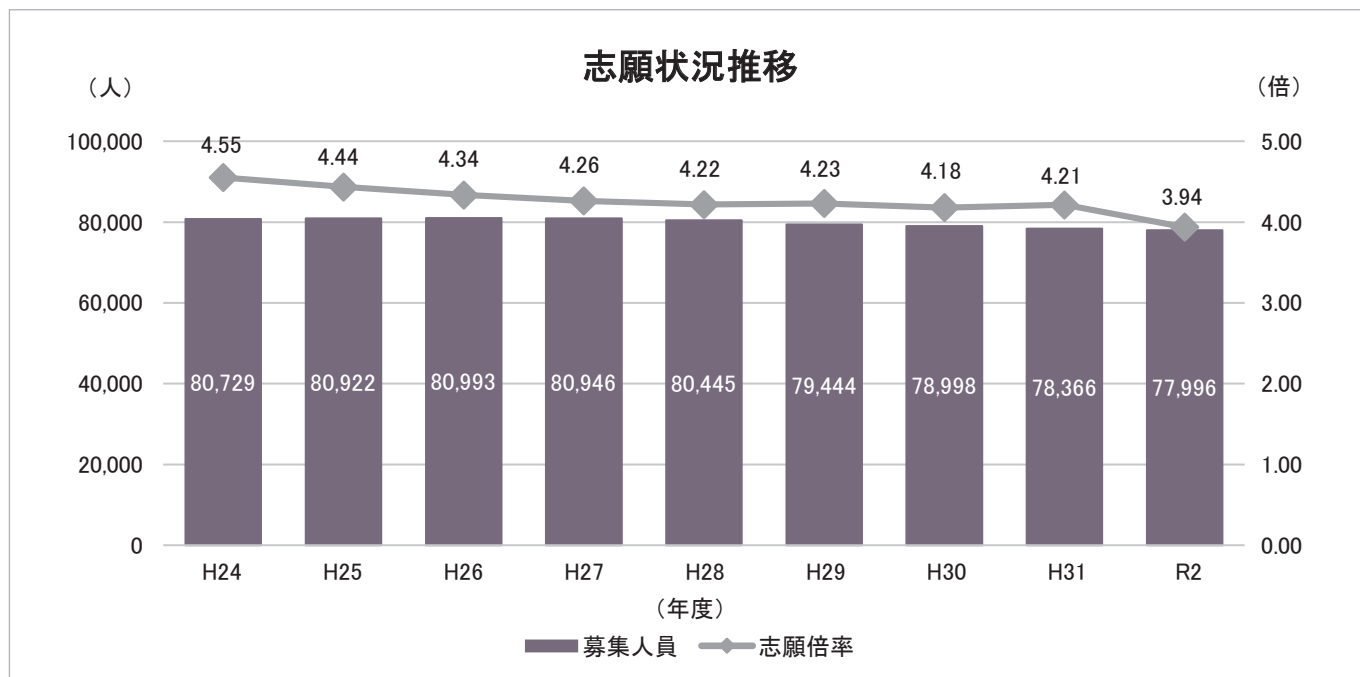
◆九州大学◆



- ・前期日程、後期日程、AO入試、帰国子女入試、社会人入試、外国人留学生入試(4月入学)(国費等含む)を含む。
- ・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

出典: 九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

◆全国 国立大学◆



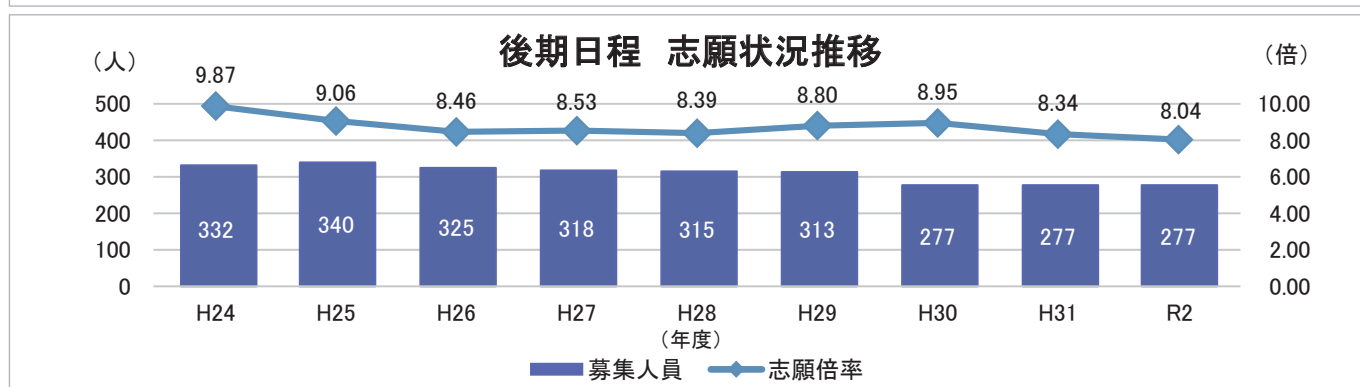
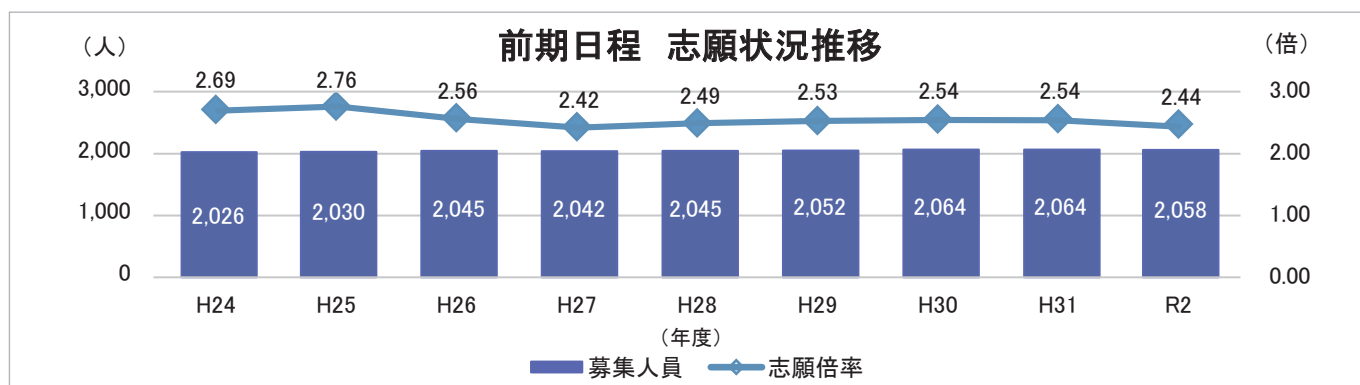
- ・募集人員、志願者数については、一般入試に係るものである。
- ・志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

出典: 文部科学省「国公立大学入学者選抜確定志願状況」

4-1-2. 志願状況推移(学部・一般選抜)

本学は、前期日程は約 2.4 ～ 2.7 倍、後期日程は約 8.0 倍～ 9.9 倍の志願倍率を推移しており、安定して入学者を確保している。全国の国立大学では、募集人員が減少傾向にある。

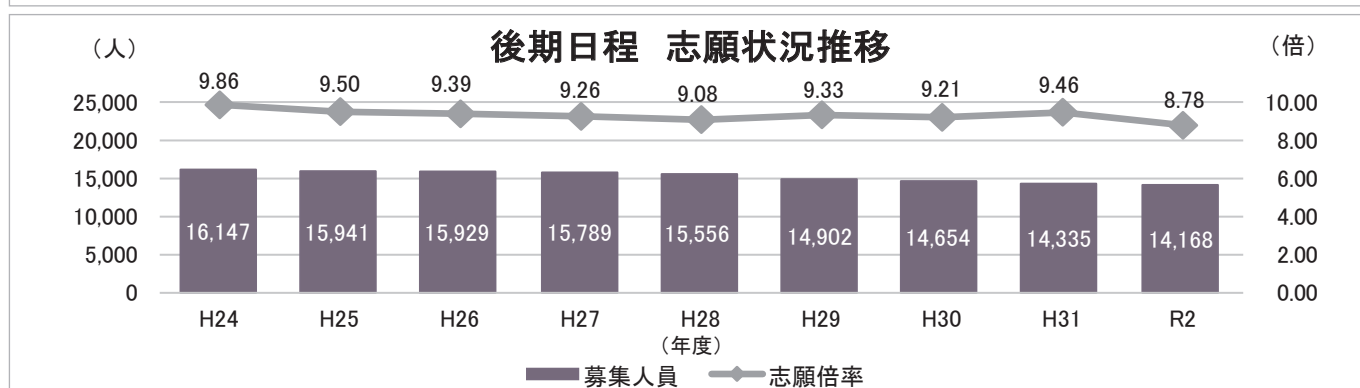
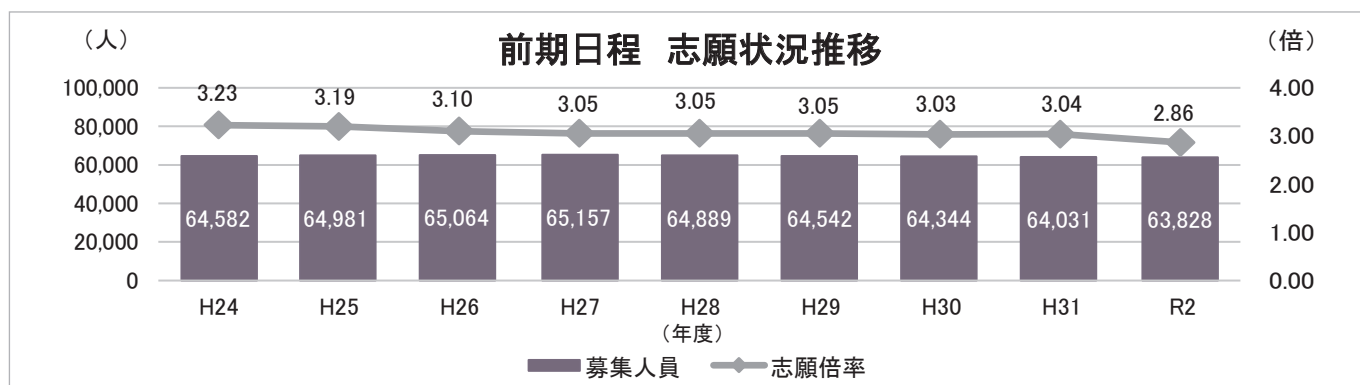
◆九州大学◆



・志願倍率については、志願者数／募集人員より算出。

出典：九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

◆全国 国立大学◆



・志願倍率については、志願者数／募集人員より算出。

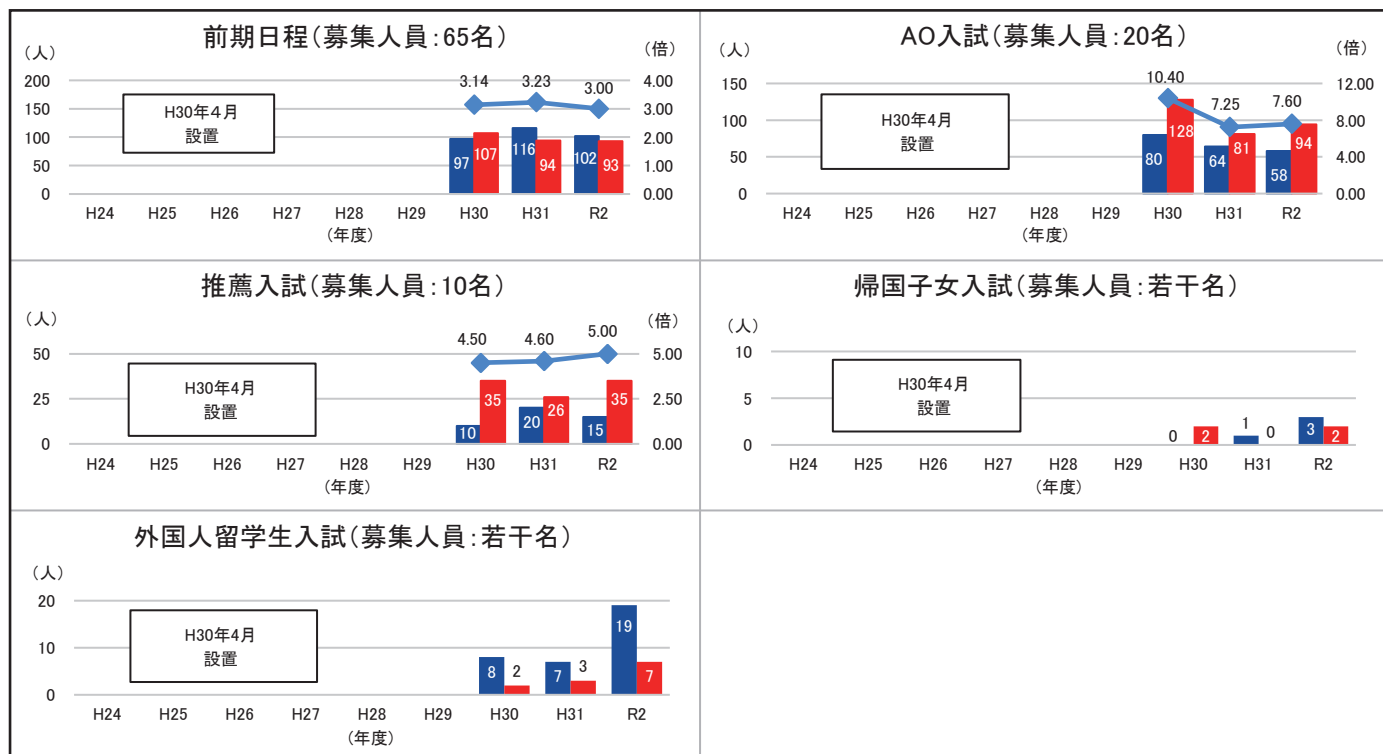
出典：文部科学省「国立大学入学者選抜確定志願状況」

4-1-3. 志願状況推移(学部別)

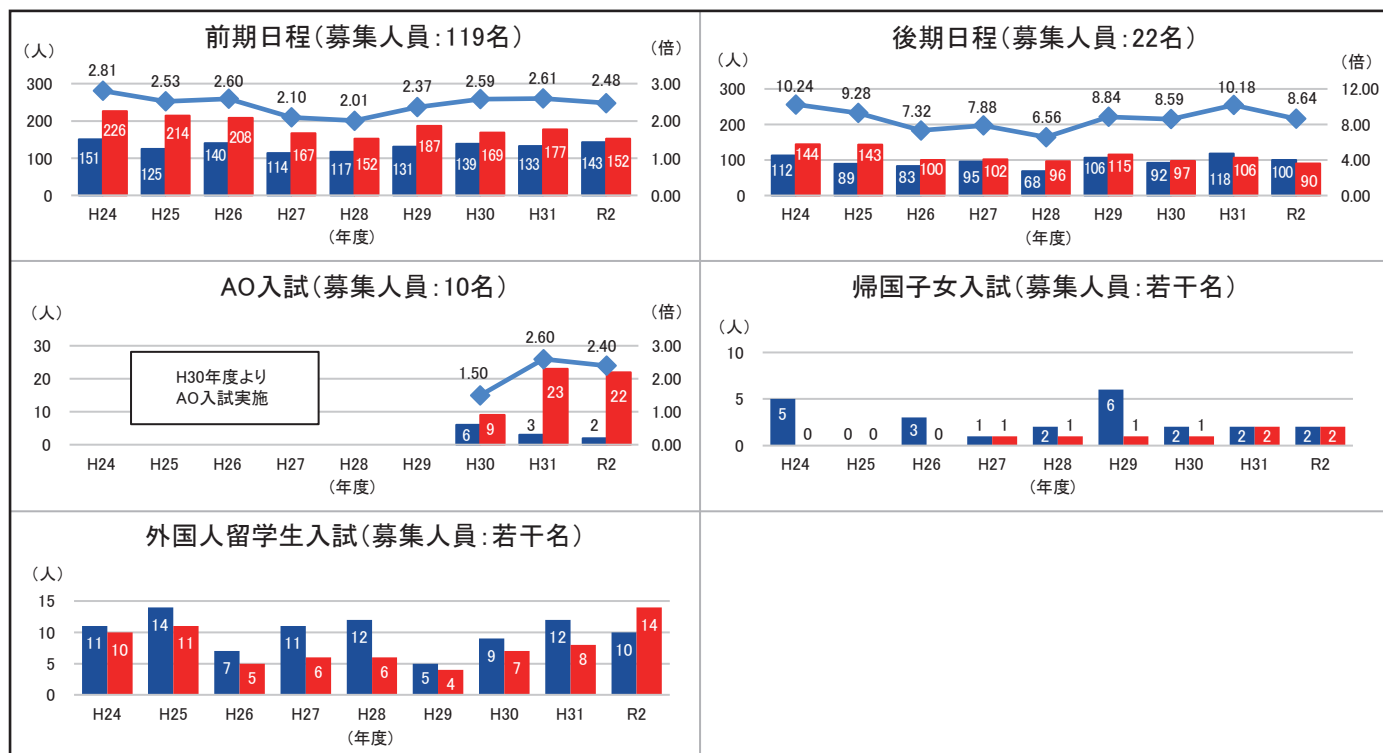
前期日程は約1.8～4.0倍、後期日程は約5.8倍～20.0倍、AO入試は約0.8～10.4倍の志願倍率を推移している。

【共創学部】

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【文学部】



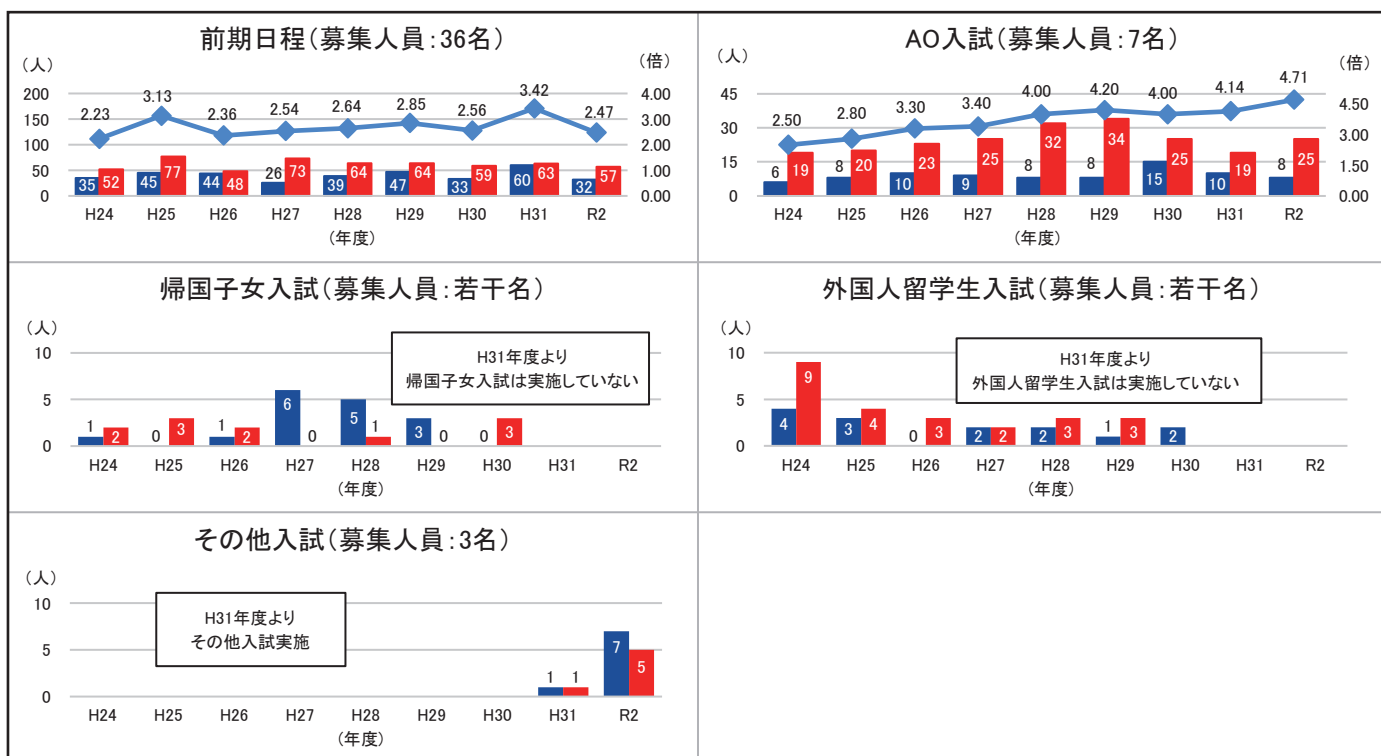
- ・ 推薦入試を実施しているのは共創学部のみである
- ・ その他入試を実施しているのは教育学部のみである
- ・ 志願倍率については、志願者数÷募集人員より算出。

出典:九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

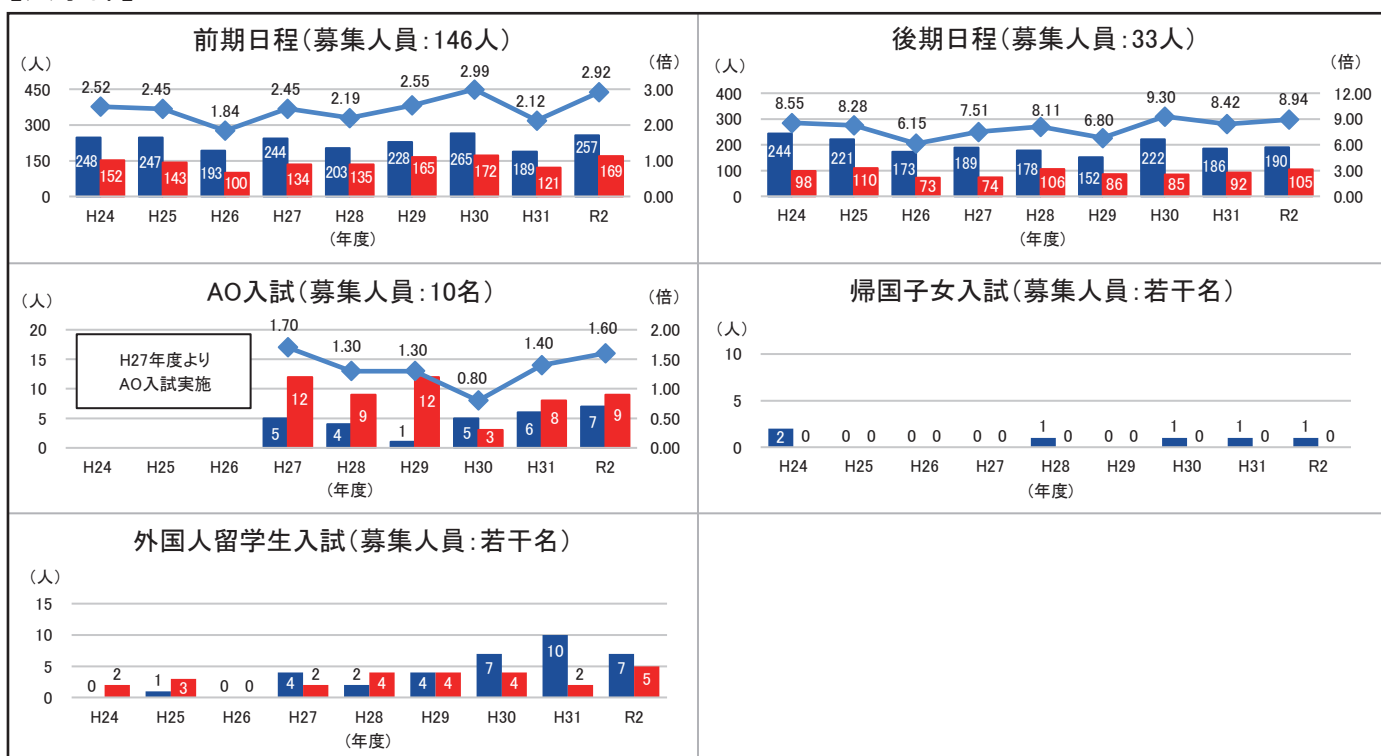
4-1-3. 志願状況推移（学部別）（つづき）

【教育学部】

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【法学部】



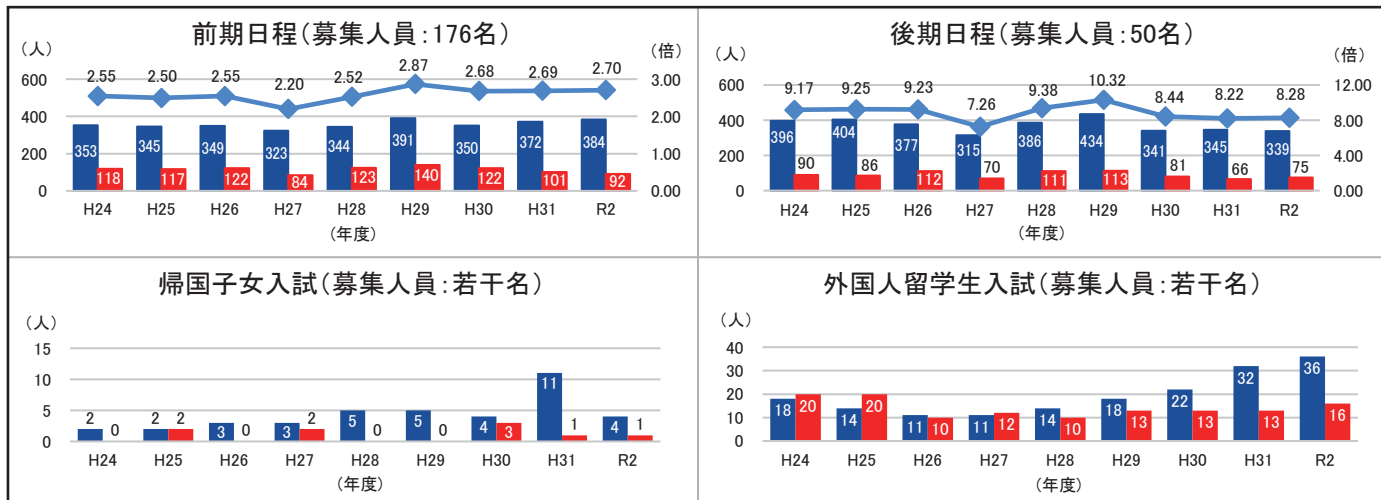
- ・ 推薦入試を実施しているのは共創学部のみである
- ・ その他入試を実施しているのは教育学部のみである
- ・ 志願倍率については、志願者数÷募集人員より算出。

出典：九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

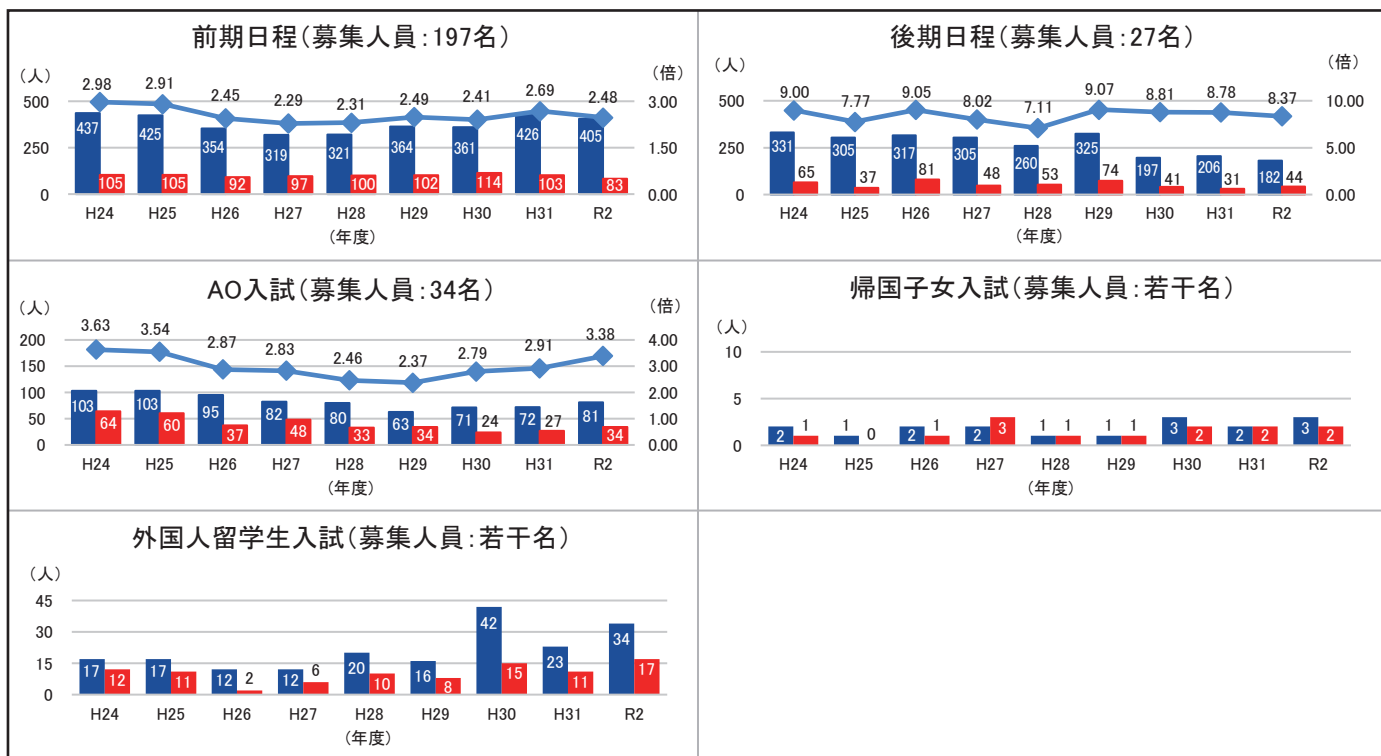
4-1-3. 志願状況推移 (学部別) (つづき)

【経済学部】

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【理学部】



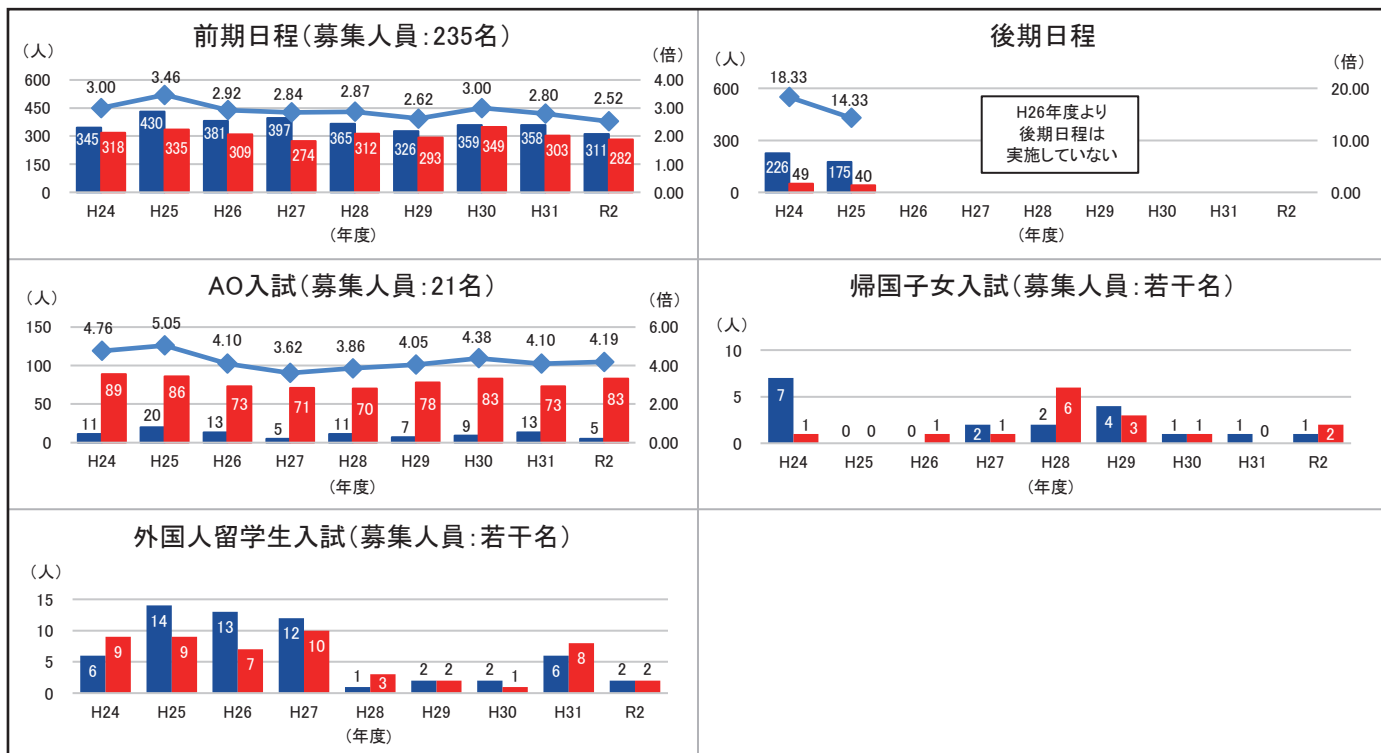
- ・ 推薦入試を実施しているのは共創学部のみである
- ・ その他入試を実施しているのは教育学部のみである
- ・ 志願倍率については、志願者数÷募集人員より算出。

出典: 九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

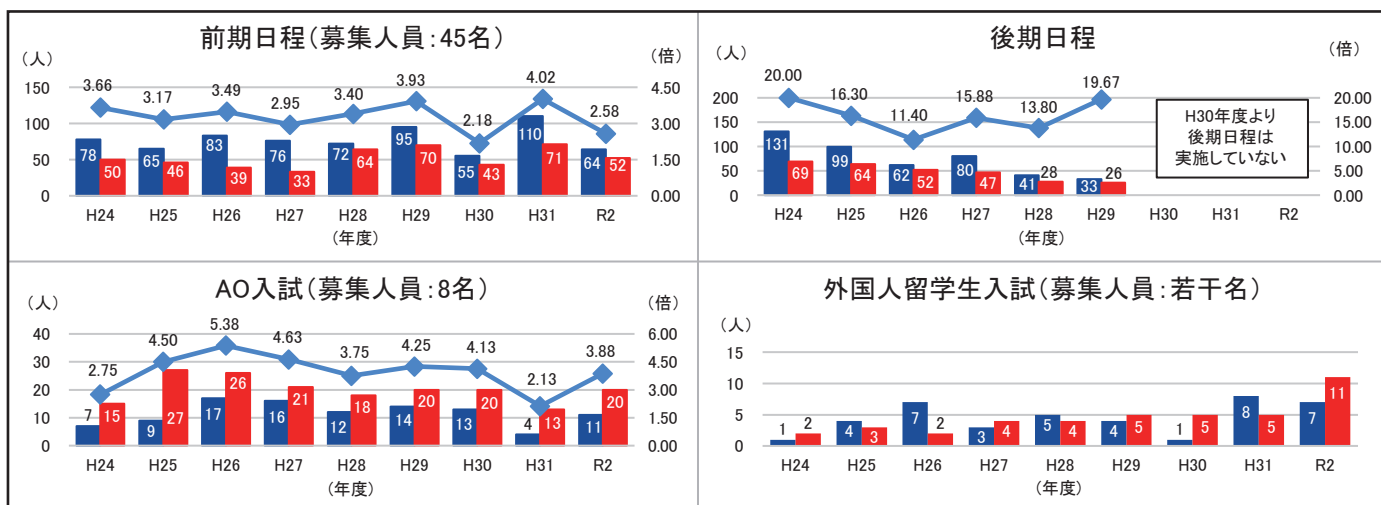
4-1-3. 志願状況推移（学部別）（つづき）

【医学部】

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【歯学部】



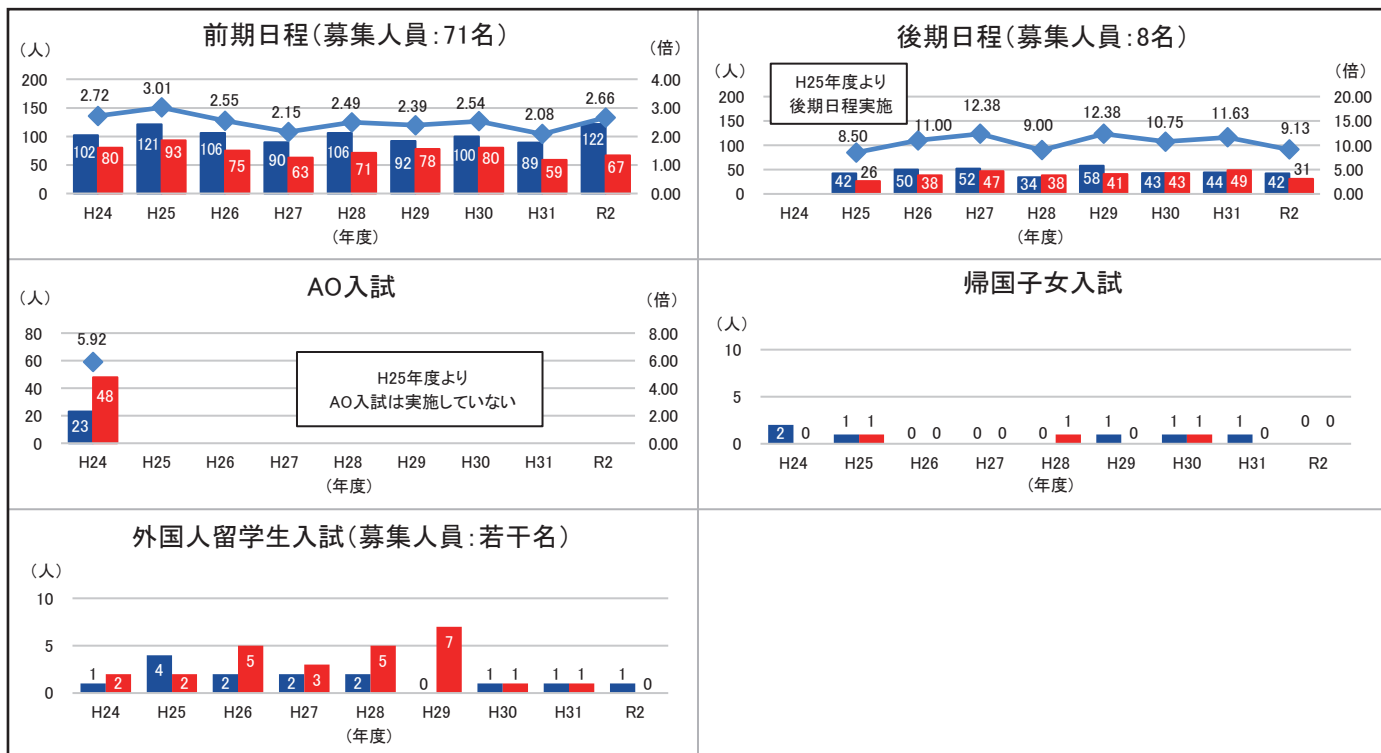
- ・ 推薦入試を実施しているのは共創学部のみである
- ・ その他入試を実施しているのは教育学部のみである
- ・ 志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

出典：九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

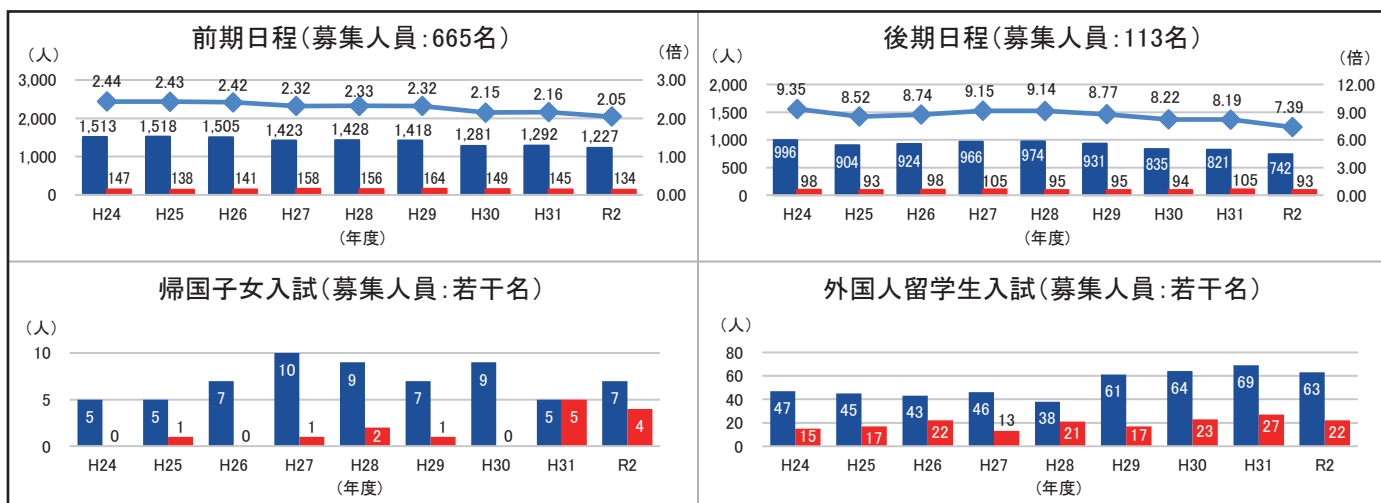
4-1-3. 志願状況推移（学部別）（つづき）

【薬学部】

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【工学部】



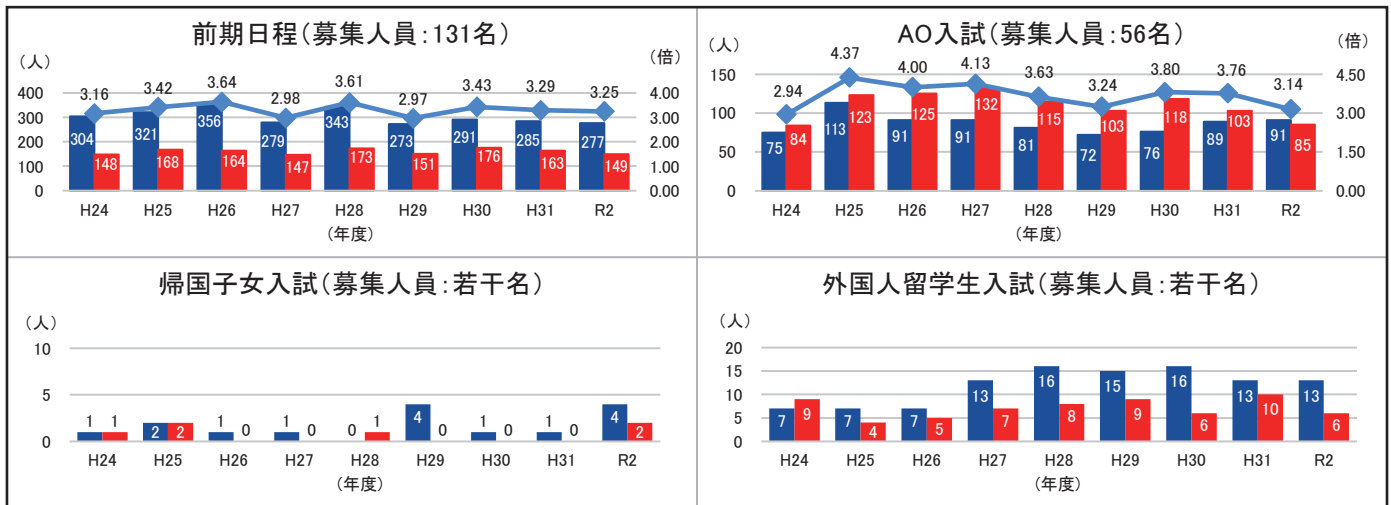
- ・ 推薦入試を実施しているのは共創学部のみである
- ・ その他入試を実施しているのは教育学部のみである
- ・ 志願倍率については、志願者数÷募集人員より算出。

出典：九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

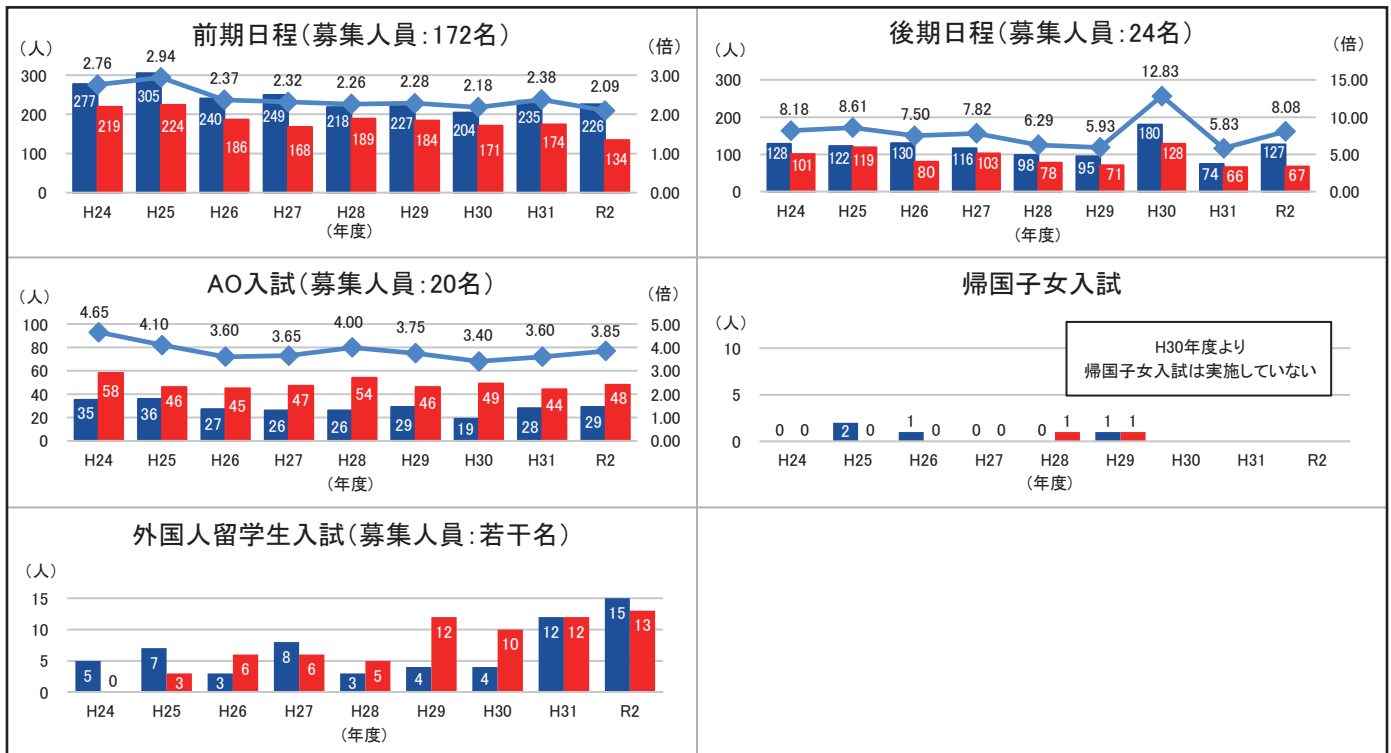
4-1-3. 志願状況推移 (学部別) (つづき)

【芸術工学部】

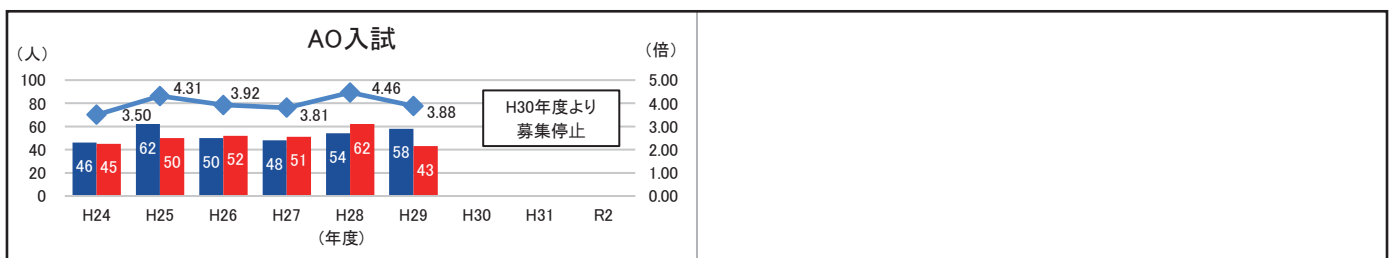
■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ◆ 志願倍率



【農学部】



【21世紀プログラム】



- ・ 推薦入試を実施しているのは共創学部のみである
- ・ その他入試を実施しているのは教育学部のみである
- ・ 志願倍率については、志願者数/募集人員より算出。

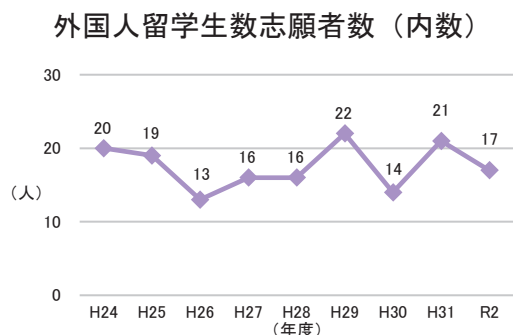
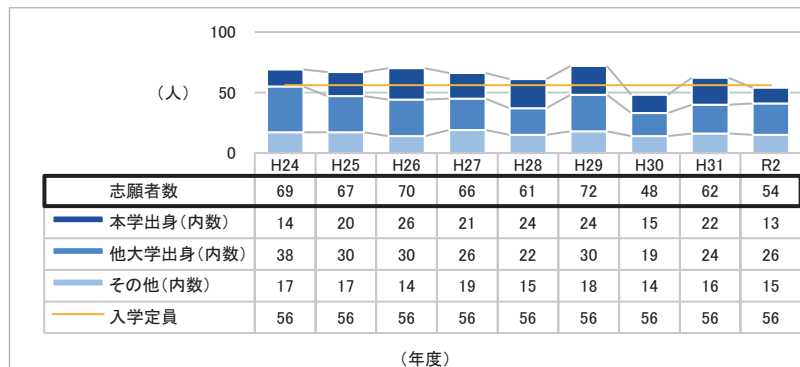
出典：九州大学学務部入試課保有データ「試験別志願者数等調」

4-2. 志願状況 (大学院)

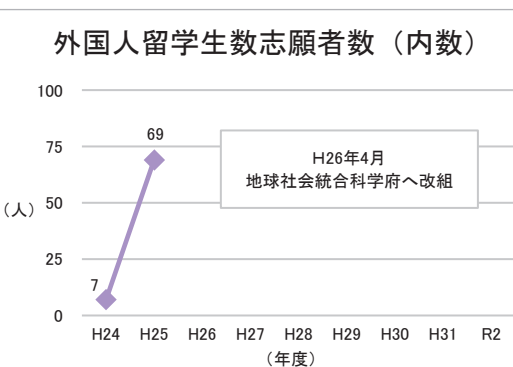
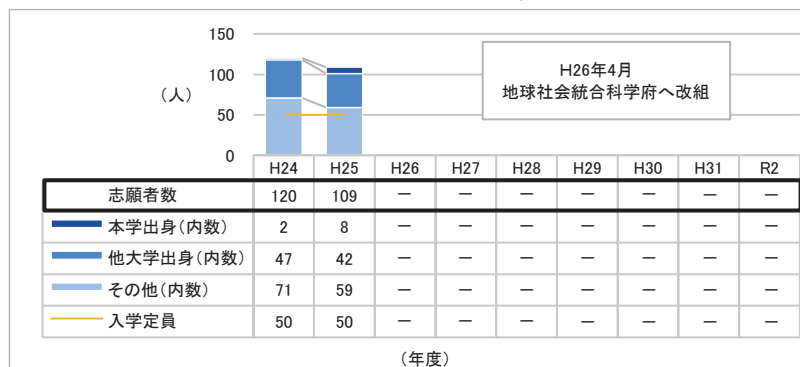
4-2-1. 志願状況推移 (大学院__修士課程)

学府別にみると状況は異なるものの、ほとんどの学府は外国人留学生の志願者を確保できている。

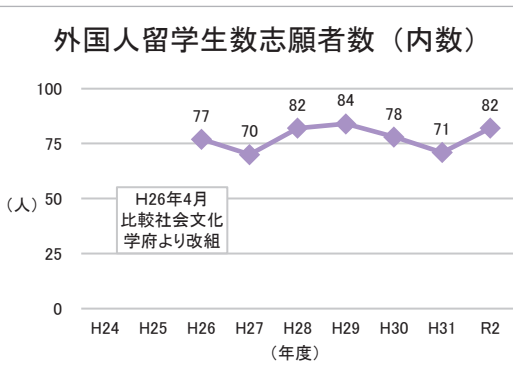
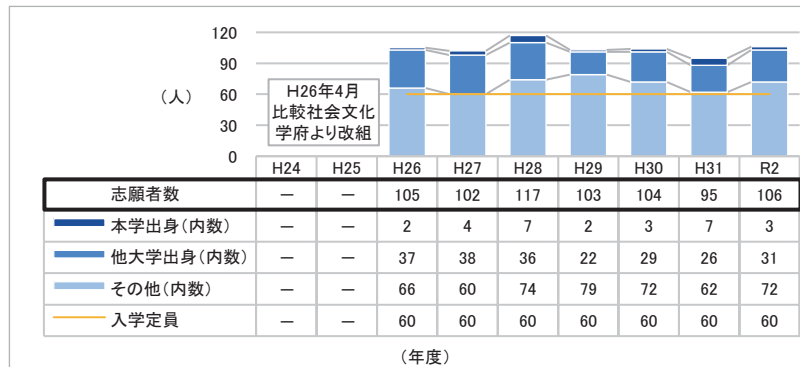
【人文科学府】



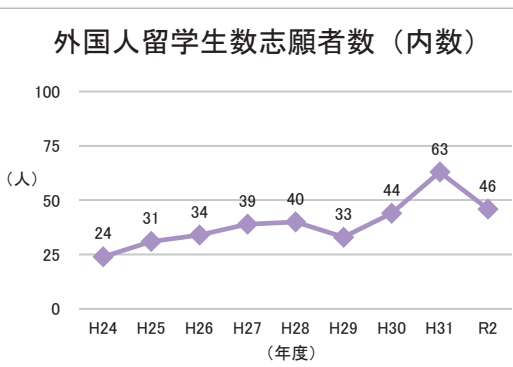
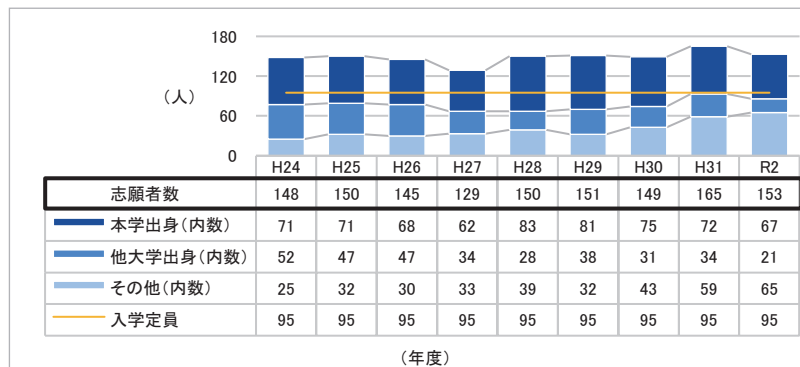
【比較社会文化学府】※H26年度より募集停止



【地球社会統合科学府】



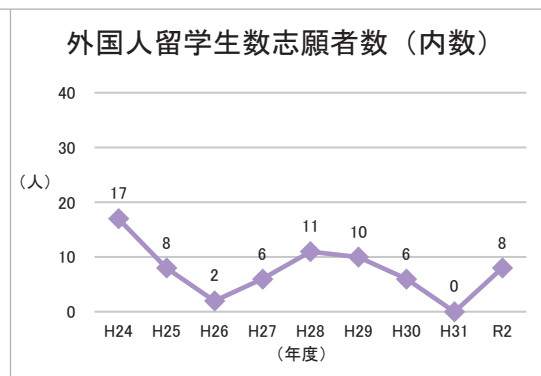
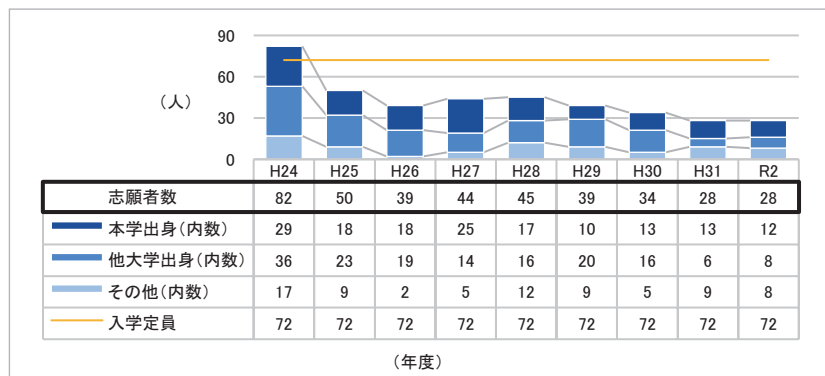
【人間環境学府】



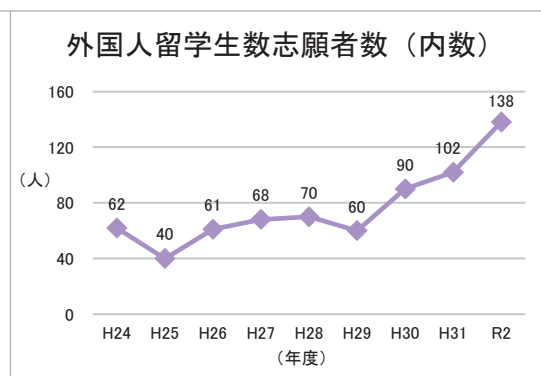
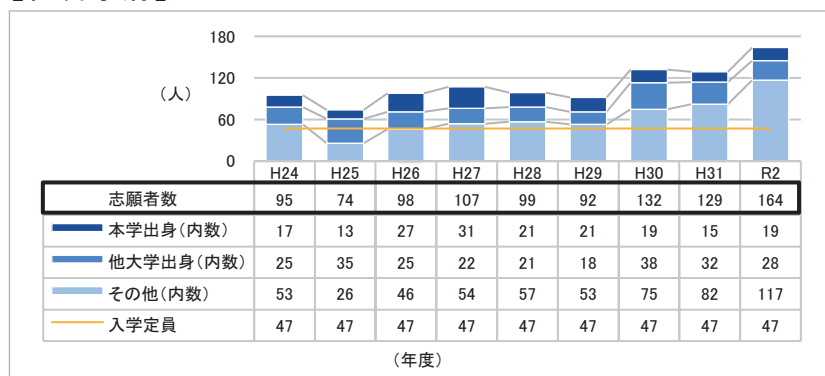
出典: 九州大学概要 (各年度4月1日現在)

4-2-1. 志願状況推移（大学院_修士課程）（つづき）

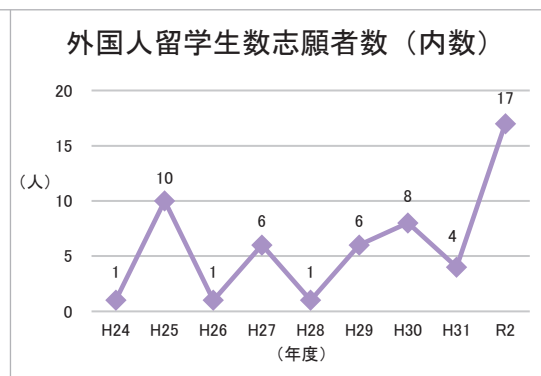
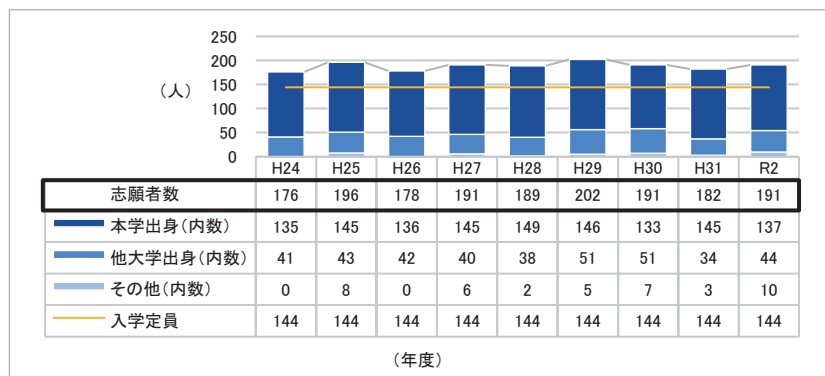
【法学府】



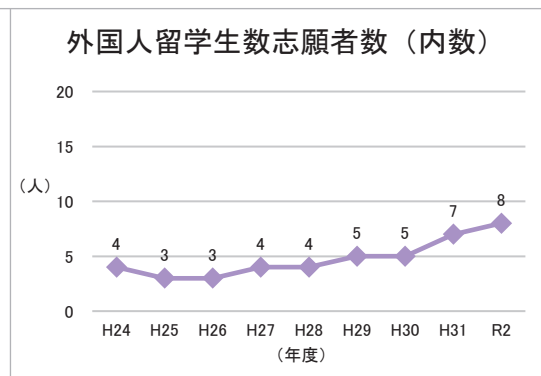
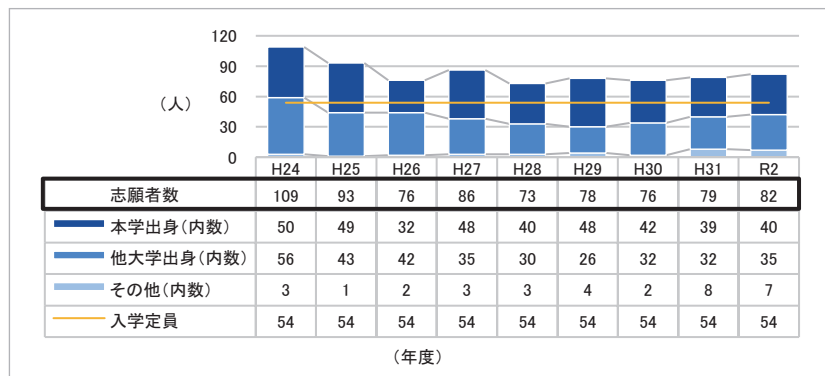
【経済学府】



【理学府】



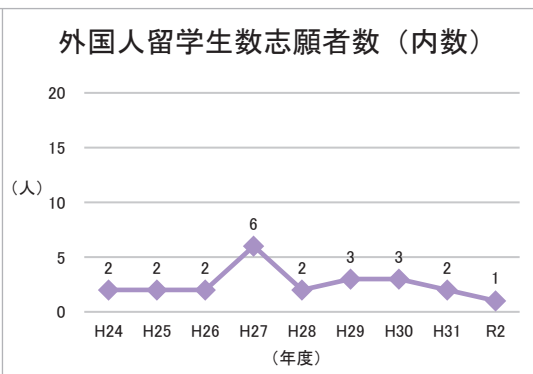
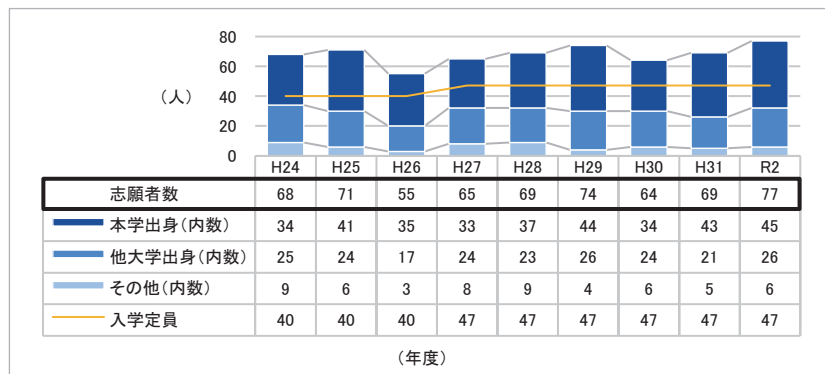
【数理学府】



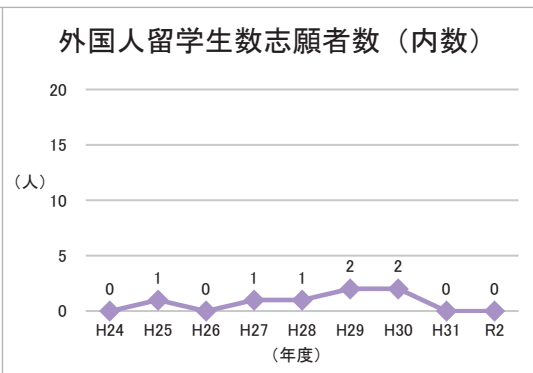
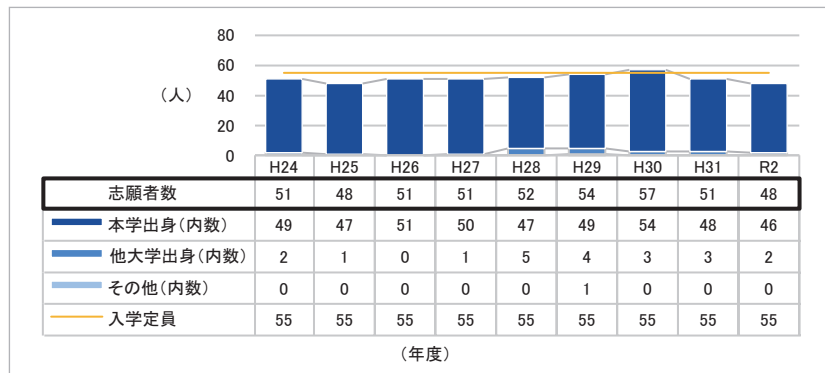
出典：九州大学概要（各年度4月1日現在）

4-2-1. 志願状況推移（大学院_修士課程）（つづき）

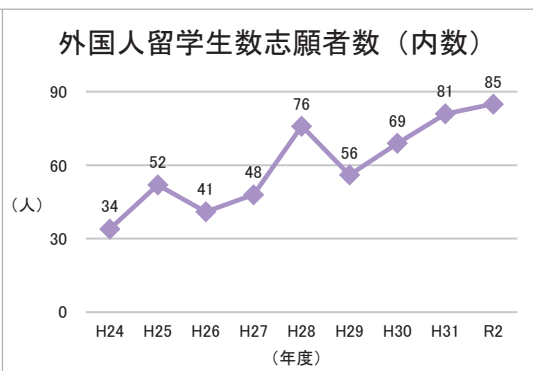
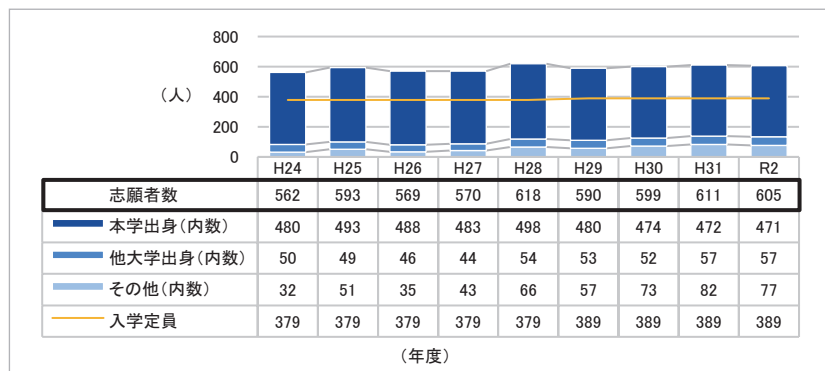
【医学系学府】



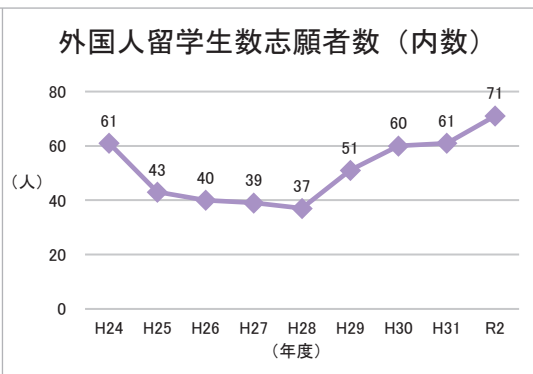
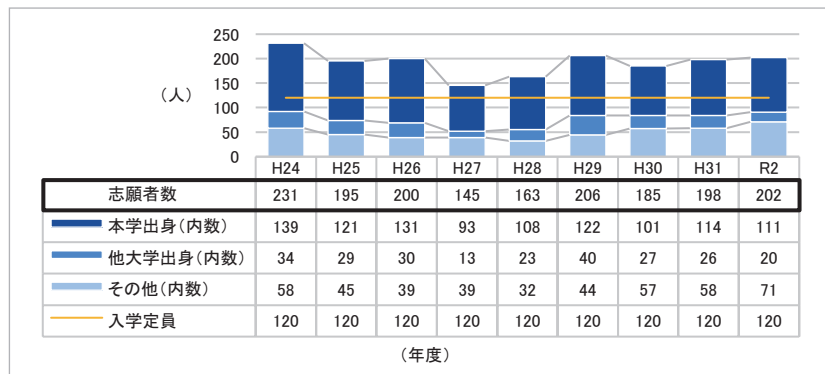
【薬学府】



【工学府】



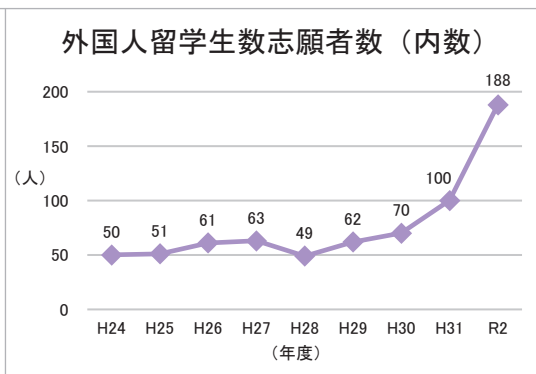
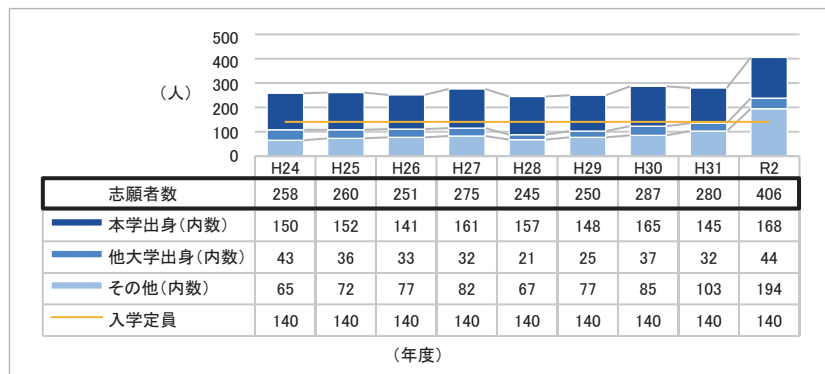
【芸術工学府】



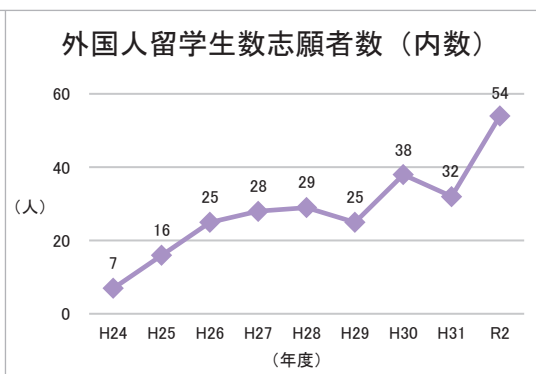
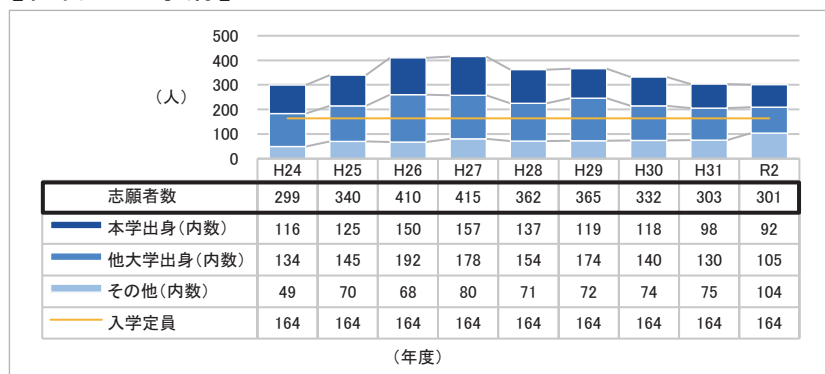
出典：九州大学概要（各年度4月1日現在）

4-2-1. 志願状況推移 (大学院_修士課程) (つづき)

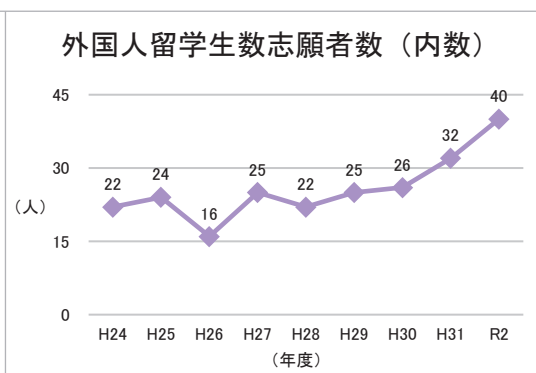
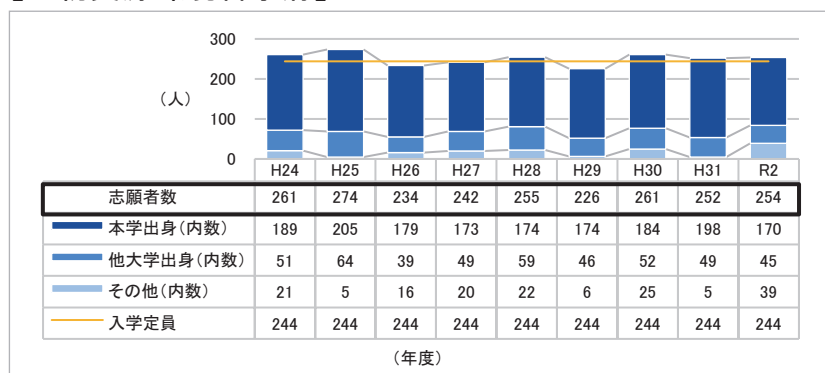
【システム情報科学府】



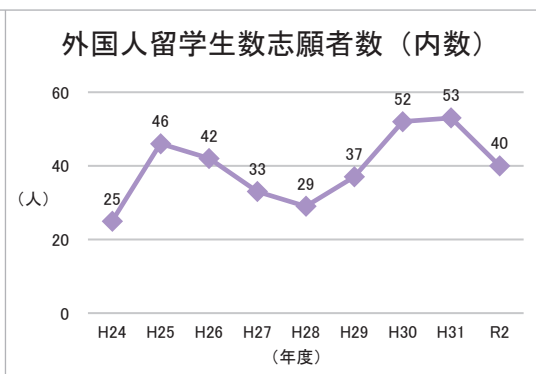
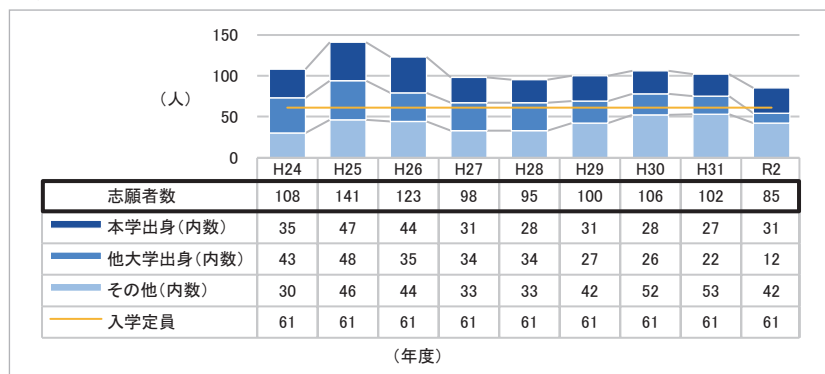
【総合理工学府】



【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】

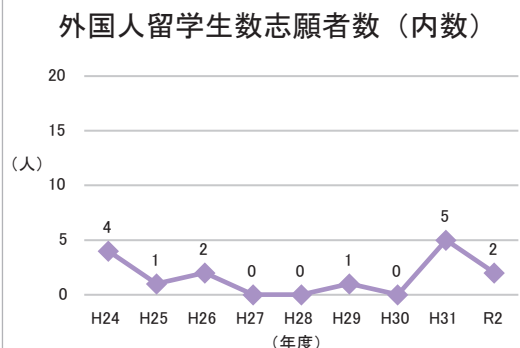
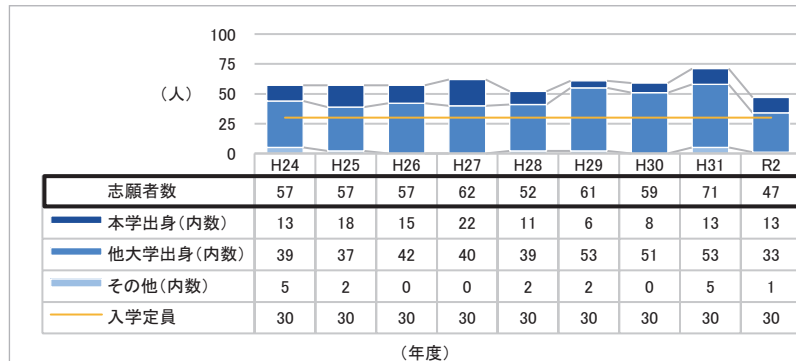


出典: 九州大学概要 (各年度4月1日現在)

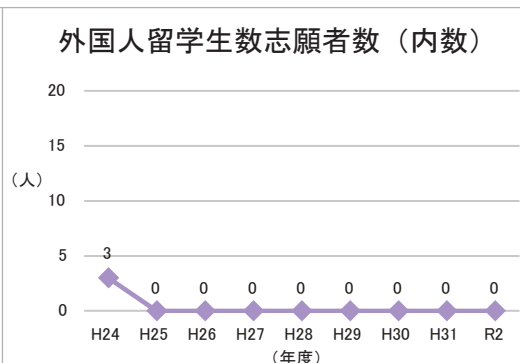
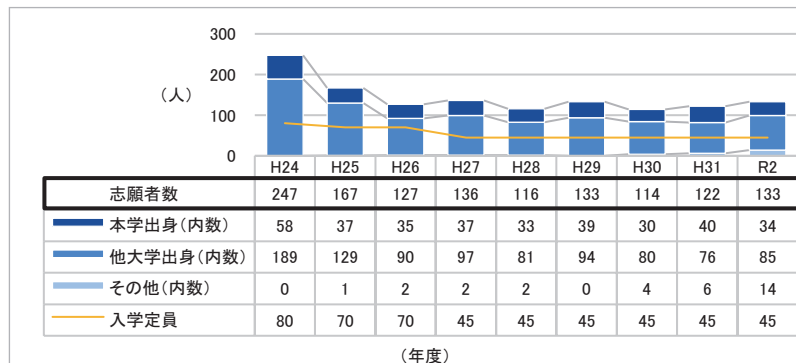
4-2-2. 志願状況推移 (大学院_専門職学位課程)

本年度の志願者数を専門職大学院別にみると、法務学府実務法学専攻と医学系学府医療経営・管理学専攻は前年度より増加しているが、経済学府産業マネジメント専攻では若干減少、人間環境学府実践臨床心理学専攻では大幅減少している。

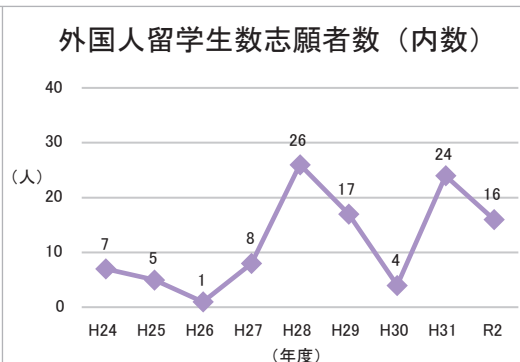
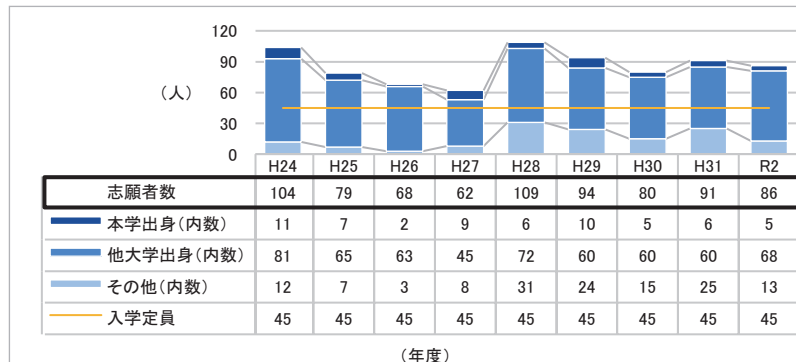
人間環境学府実践臨床心理学専攻 【臨床心理分野専門職大学院】



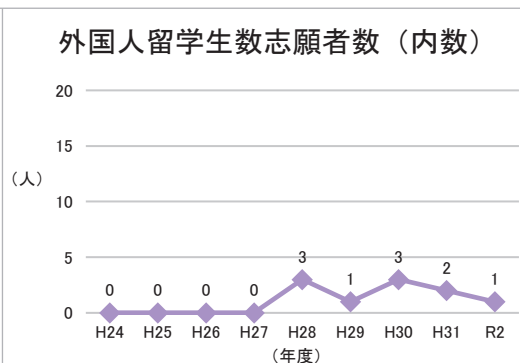
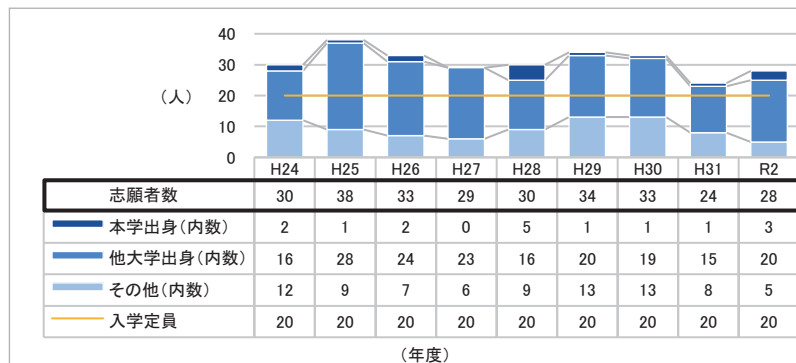
法務学府実務法学専攻 【法科大学院】



経済学府産業マネジメント専攻 【経営系専門職大学院】



医学系学府医療経営・管理学専攻 【公衆衛生系専門職大学院】

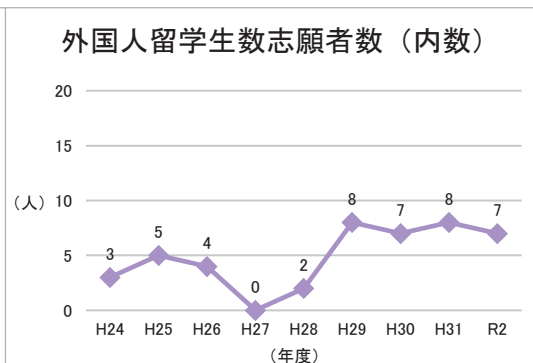
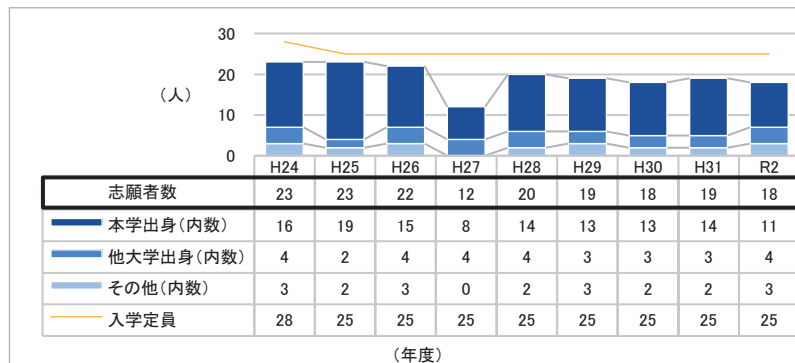


出典: 九州大学概要 (各年度4月1日現在)

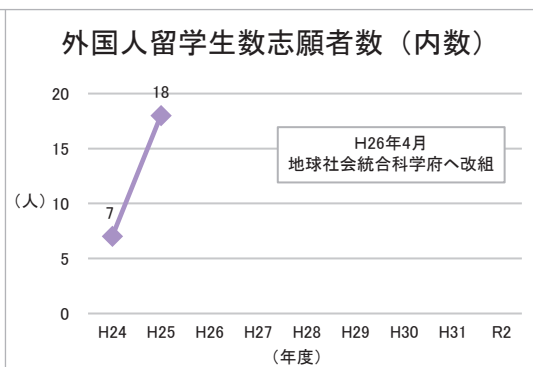
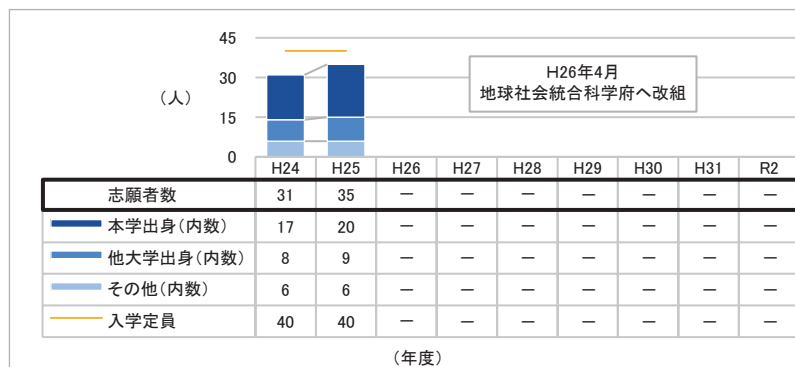
4-2-3. 志願状況推移 (大学院_博士後期課程)

学府別にみると、システム生命科学府と医学系学府の志願者数は全ての年度において入学定員を超えている。全体的にみると、各学府の状況は異なるものの、本学出身の志願者が多い傾向がある。

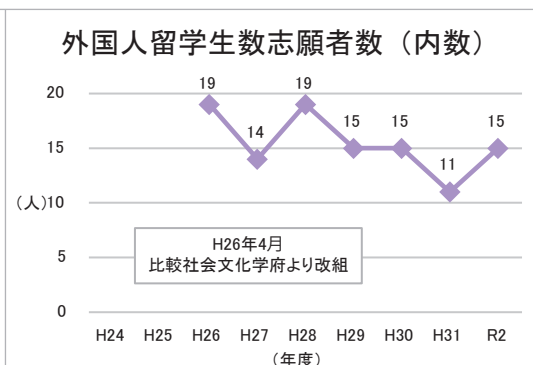
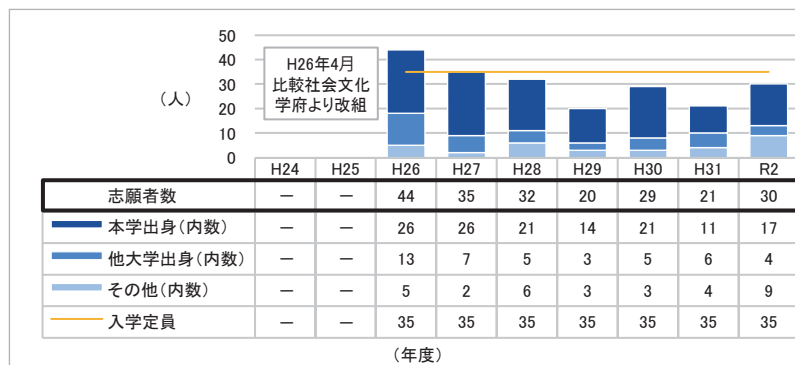
【人文科学府】



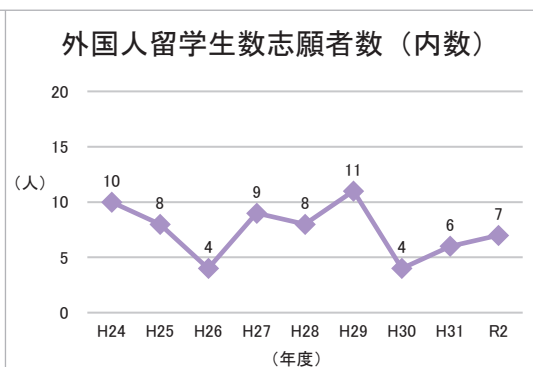
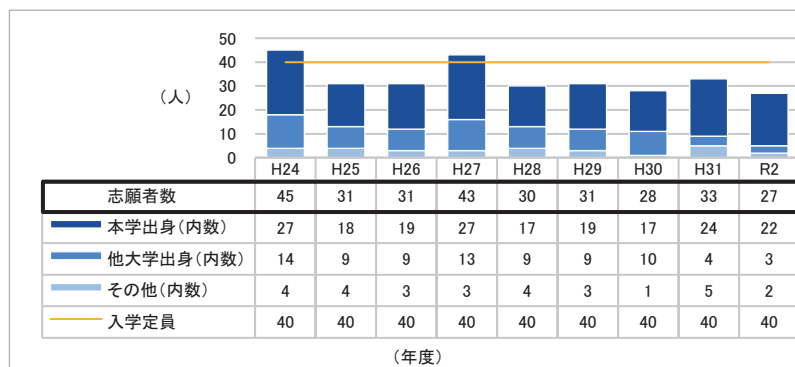
【比較社会文化学府】



【地球社会統合科学府】



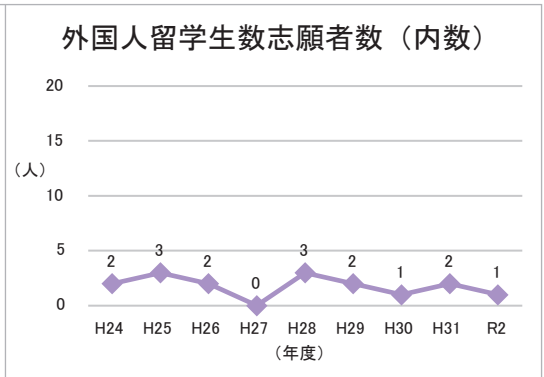
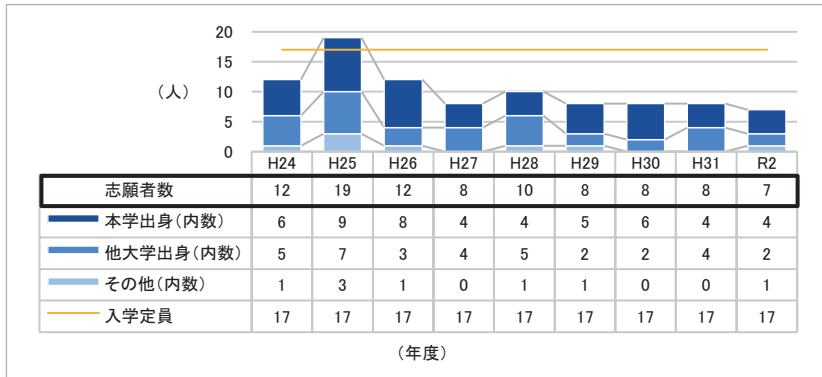
【人間環境学府】



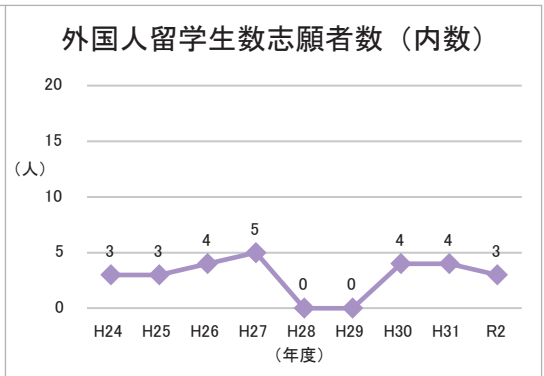
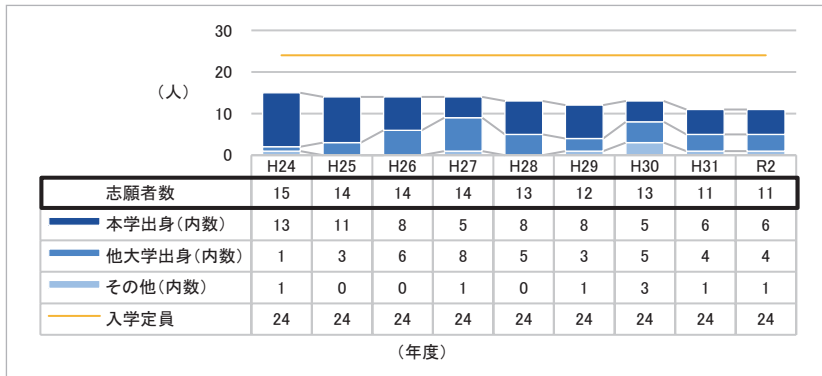
出典: 九州大学概要 (各年度4月1日現在)

4-2-3. 志願状況推移（大学院_博士後期課程）（つづき）

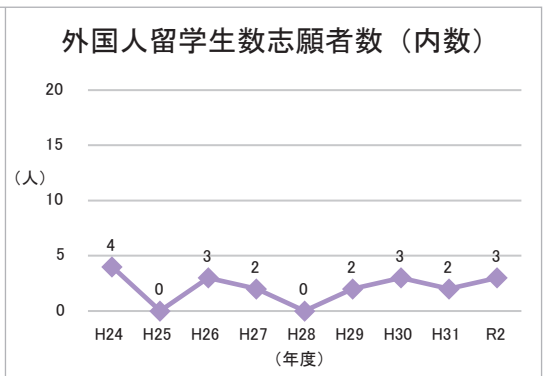
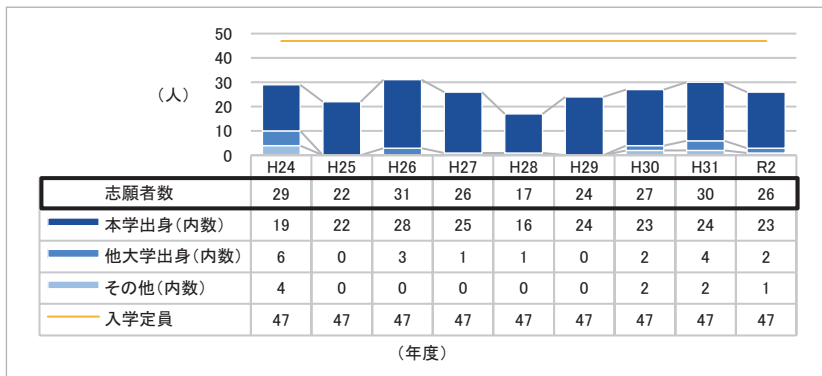
【法学府】



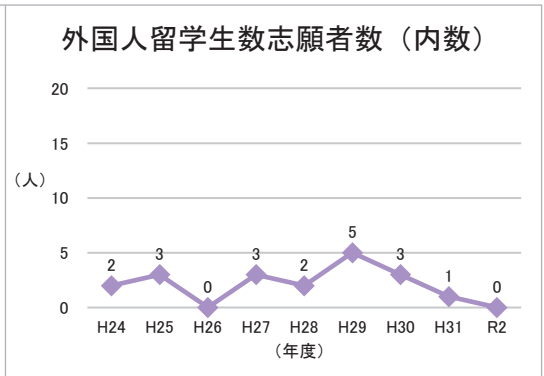
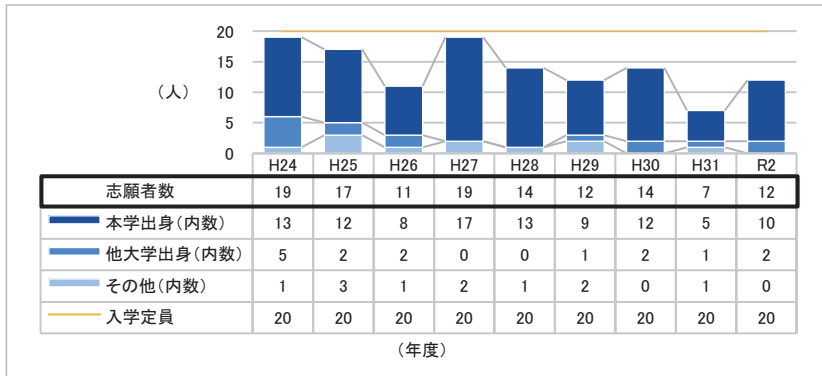
【経済学府】



【理学府】



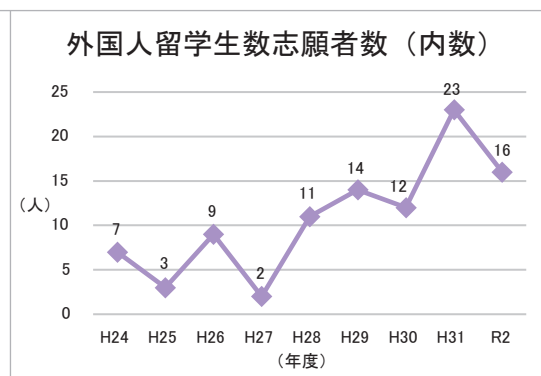
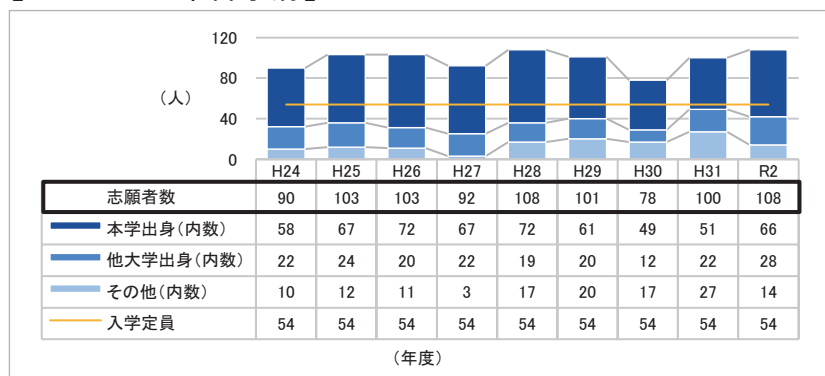
【数理学府】



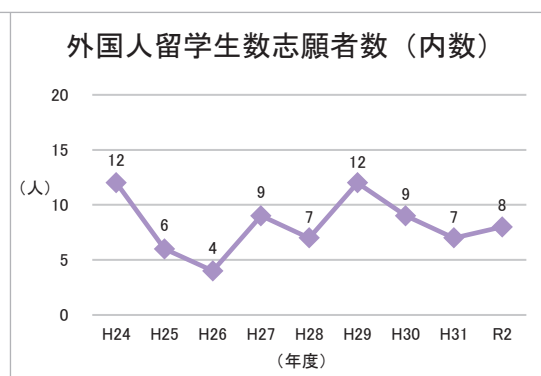
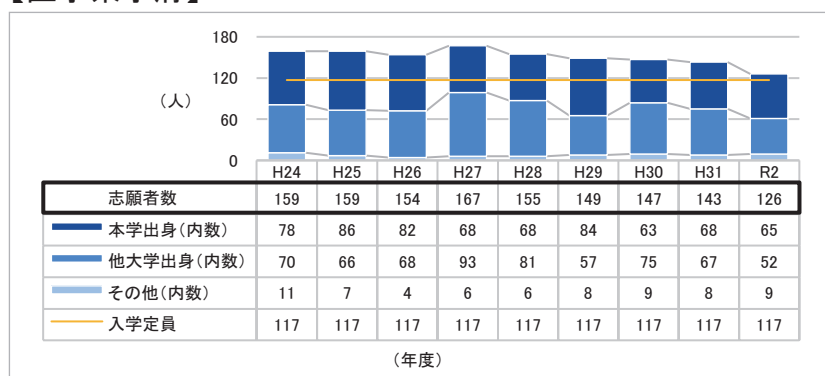
出典：九州大学概要（各年度4月1日現在）

4-2-3. 志願状況推移（大学院_博士後期課程）（つづき）

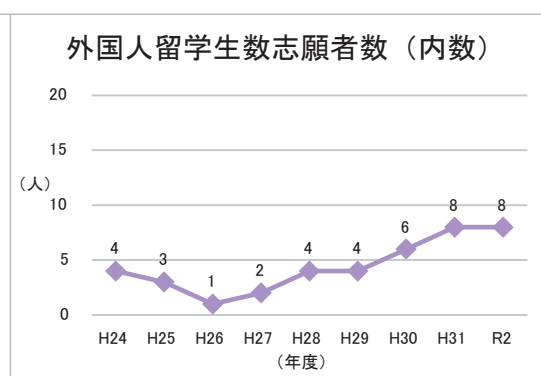
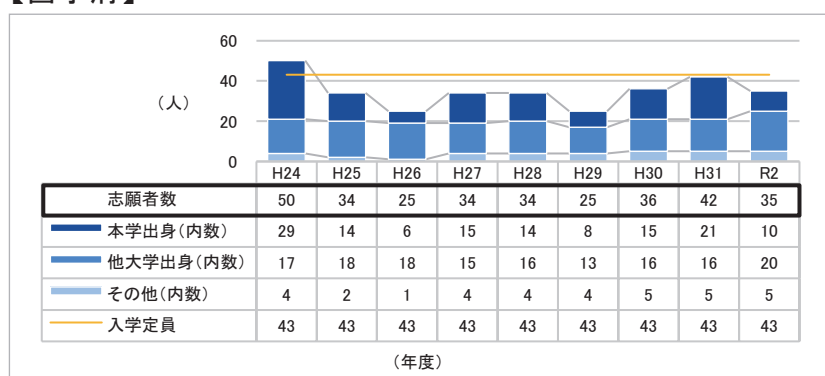
【システム生命科学府】



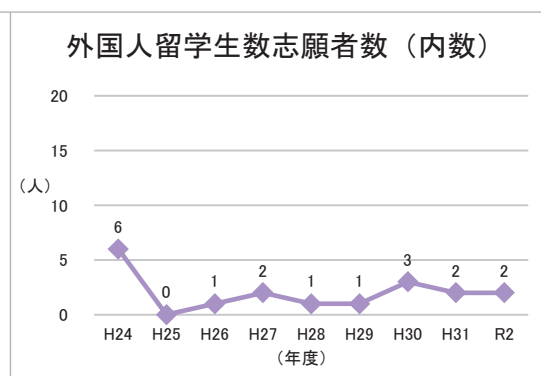
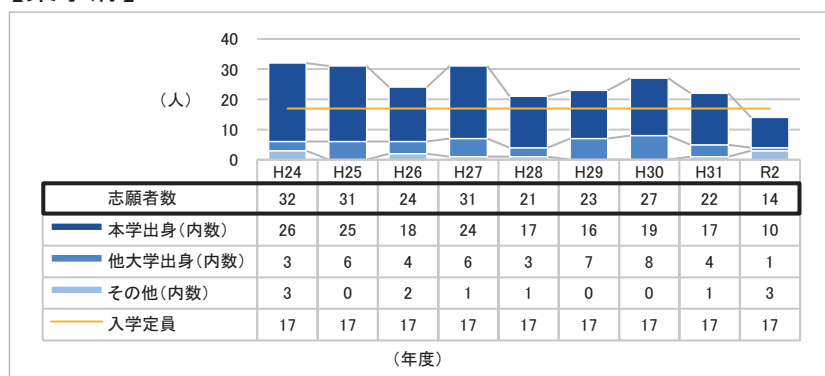
【医学系学府】



【歯学府】



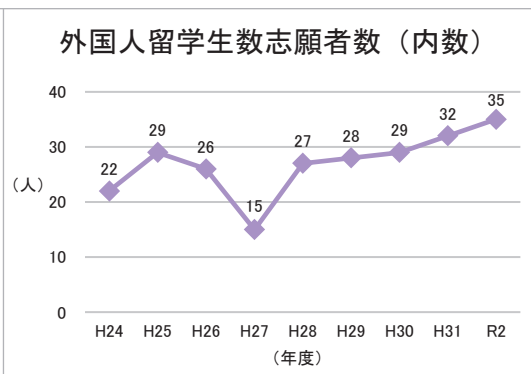
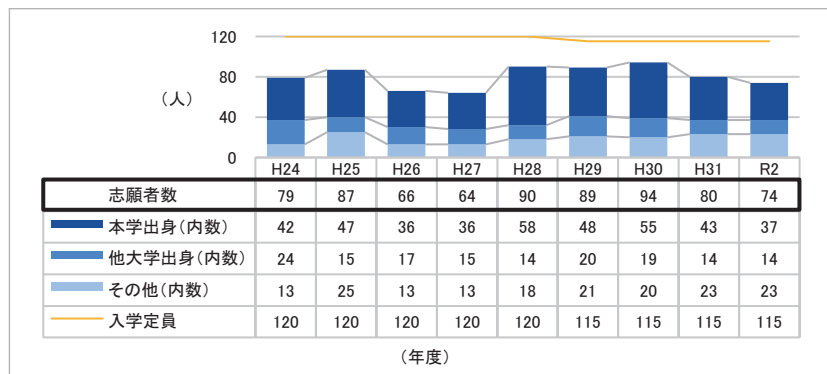
【薬学府】



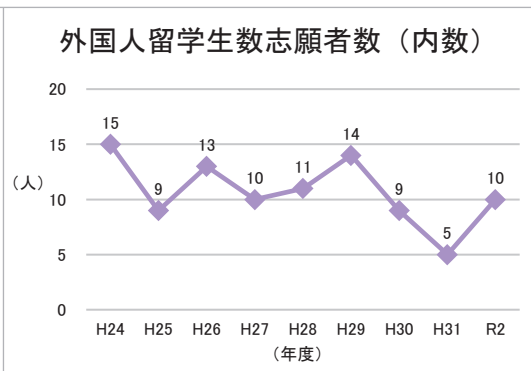
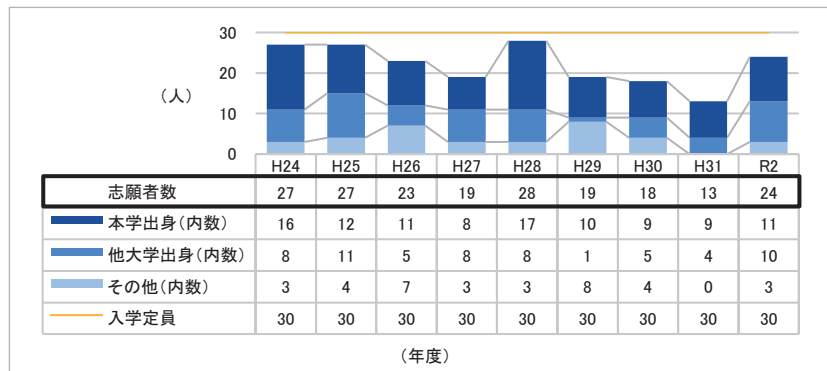
出典：九州大学概要（各年度4月1日現在）

4-2-3. 志願状況推移（大学院_博士後期課程）（つづき）

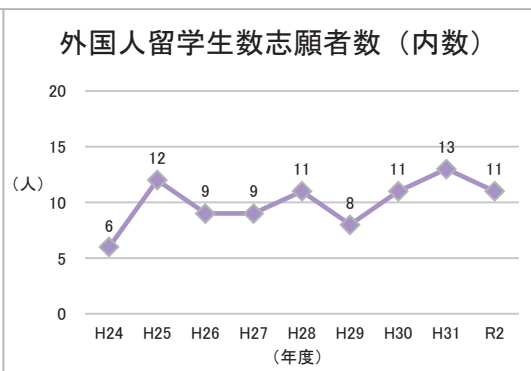
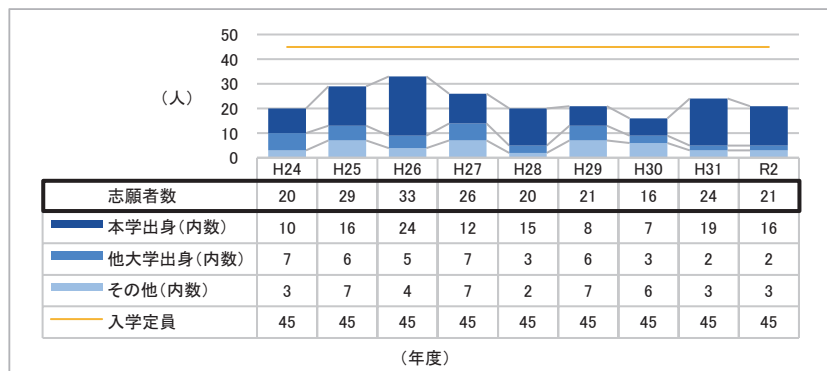
【工学府】



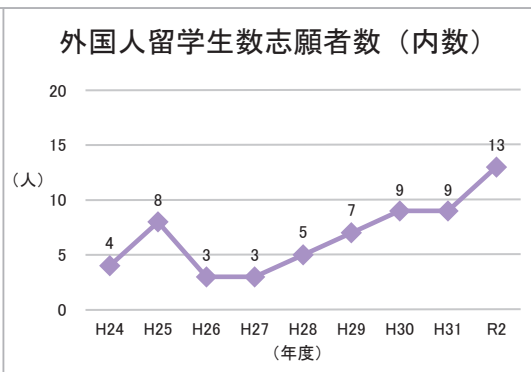
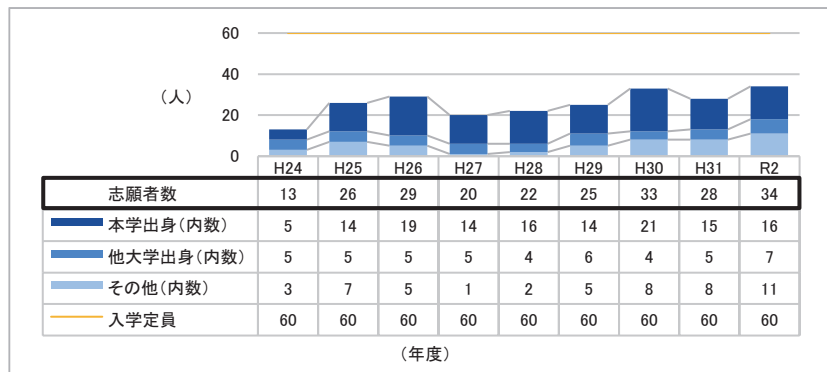
【芸術工学府】



【システム情報科学府】



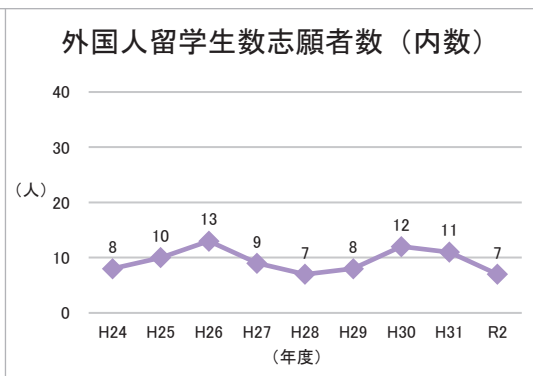
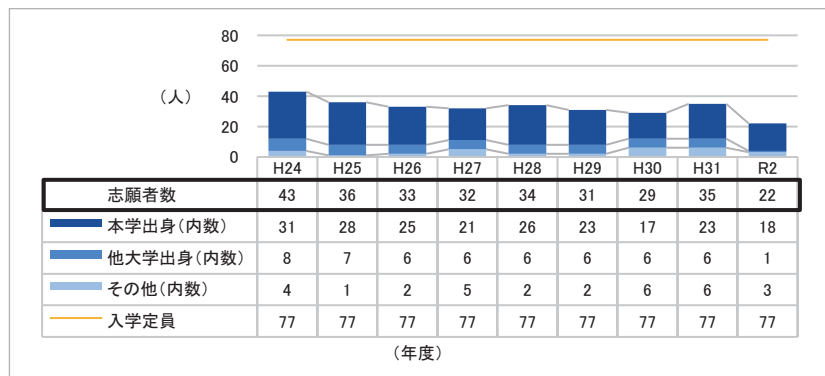
【総合理工学府】



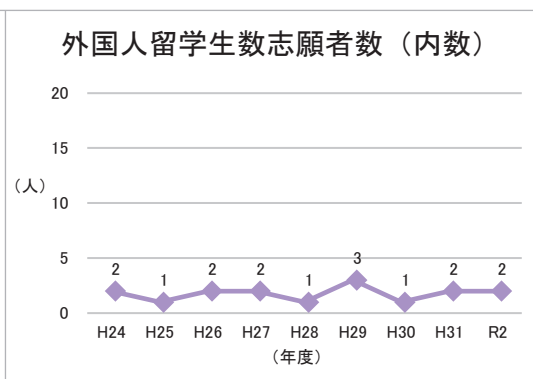
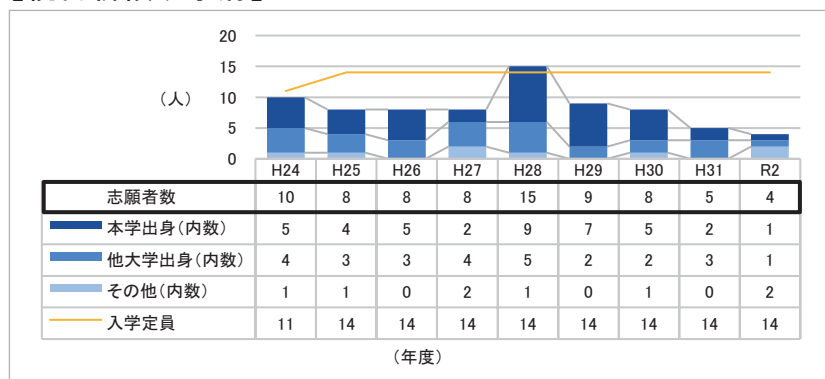
出典：九州大学概要（各年度4月1日現在）

4-2-3. 志願状況推移（大学院_博士後期課程）（つづき）

【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



出典：九州大学概要（各年度4月1日現在）

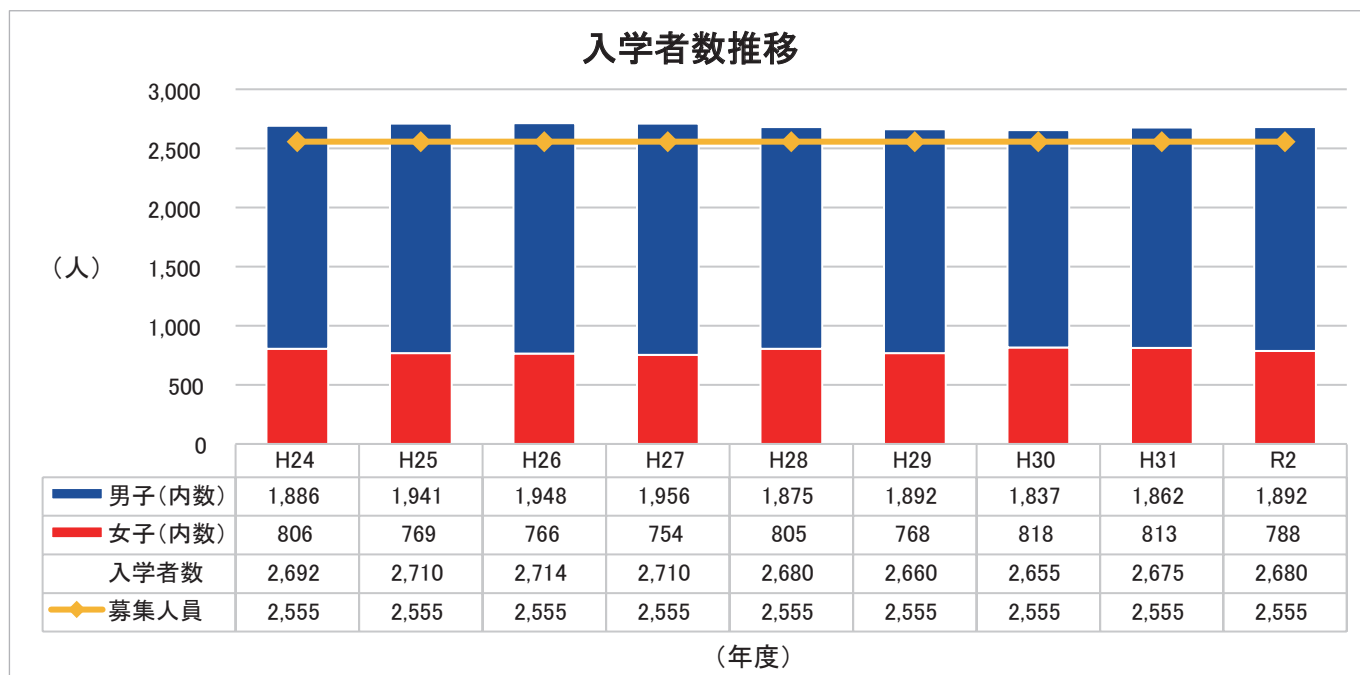
5. 入学状況

5-1. 入学状況(学部)

5-1-1. 入学者数推移(全体)

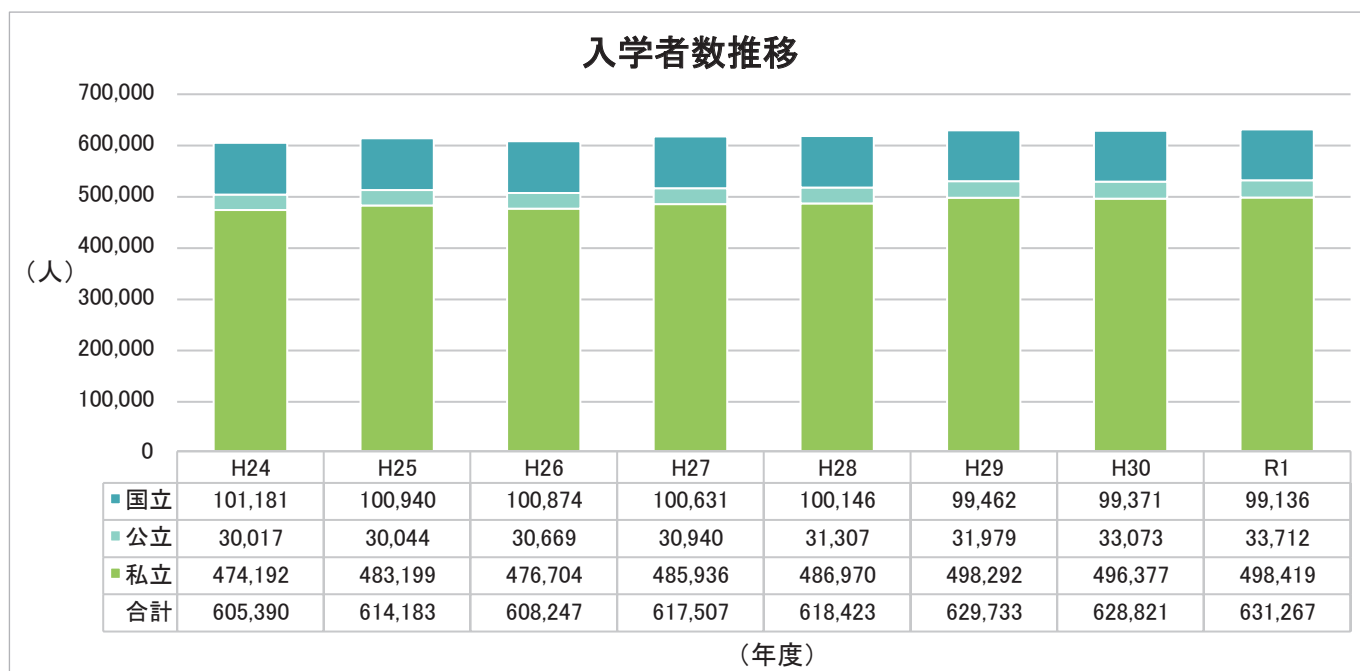
入学者数は、本学では募集人員以上の人数を毎年確保できている。

◆九州大学◆



出典: 4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
: 10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

◆全国 国公立大学◆

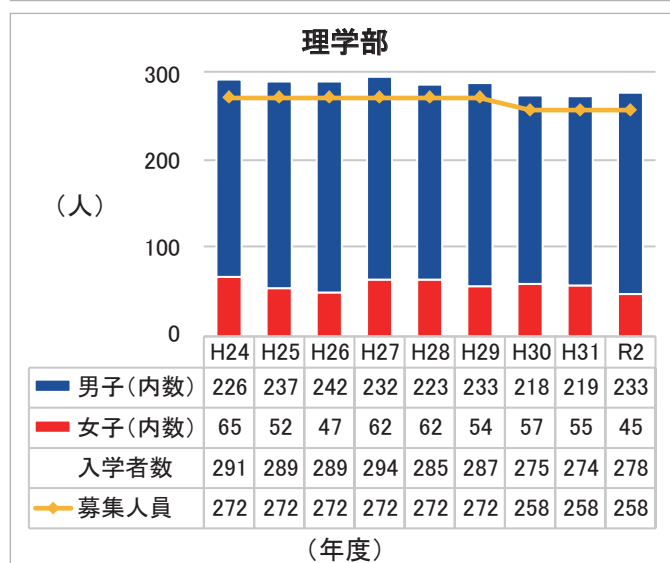
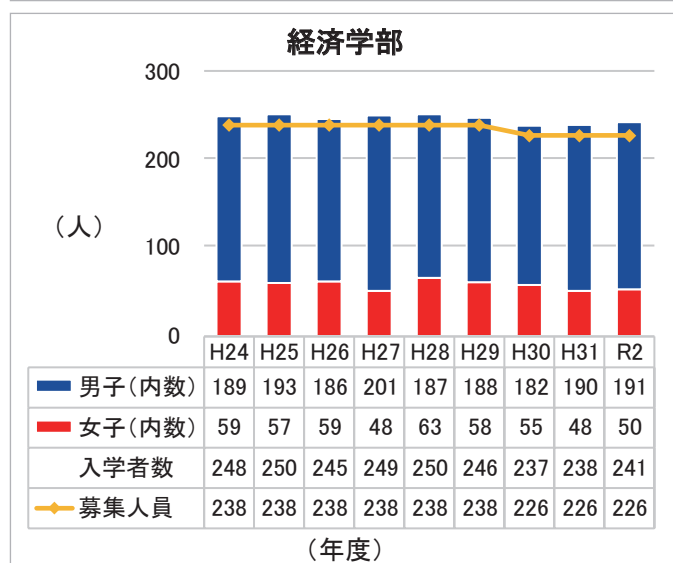
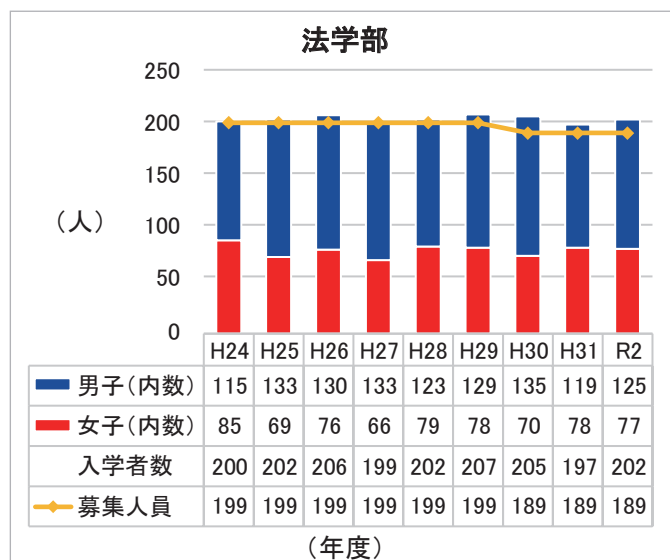
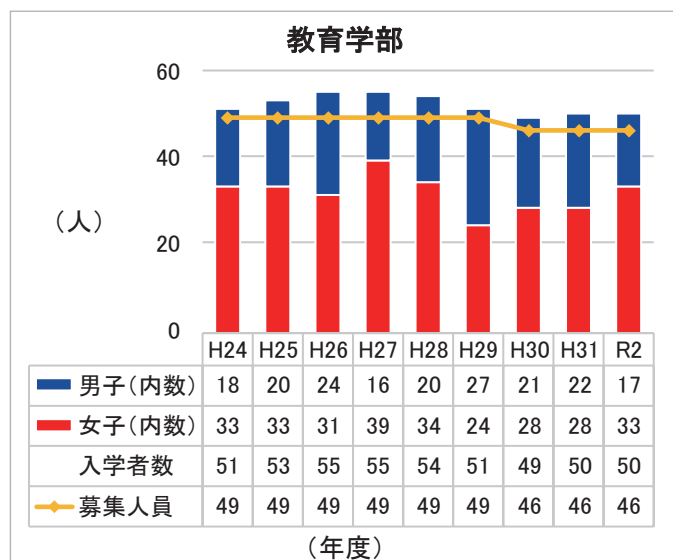
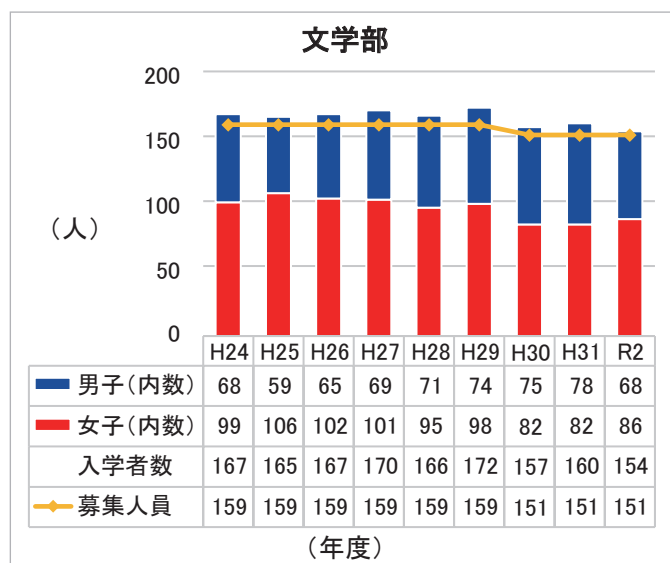
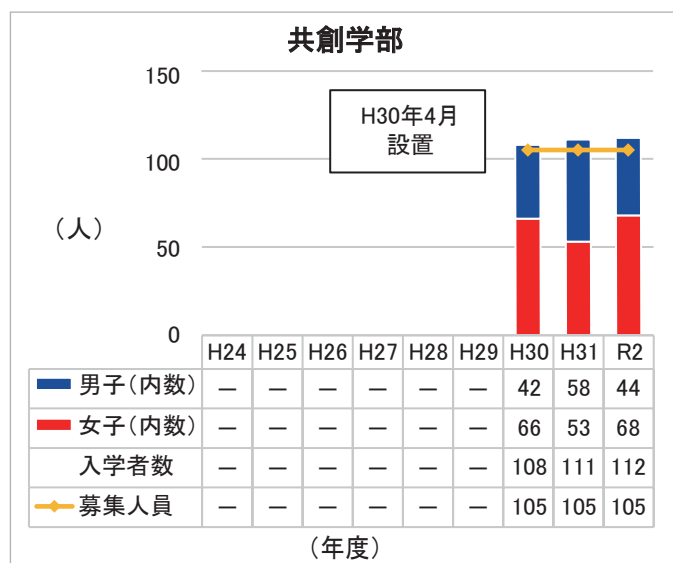


・入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可のため掲載なし。

出典: 文部科学省 学校基本調査「入学者数」

5-1-2. 入学者数推移(学部別)

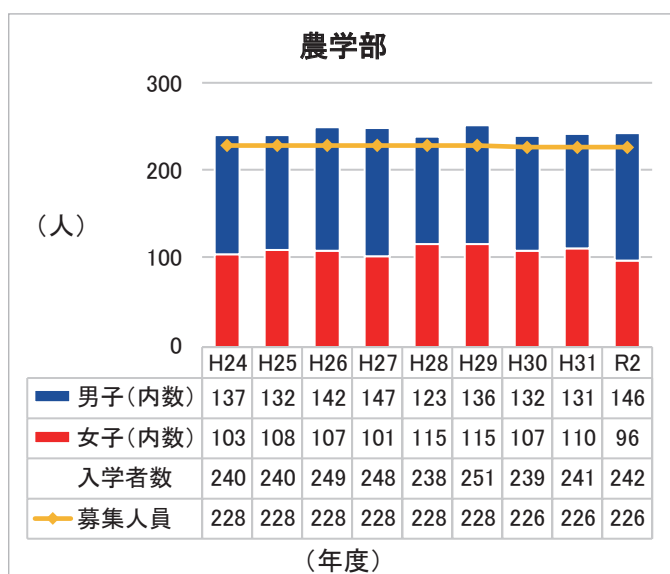
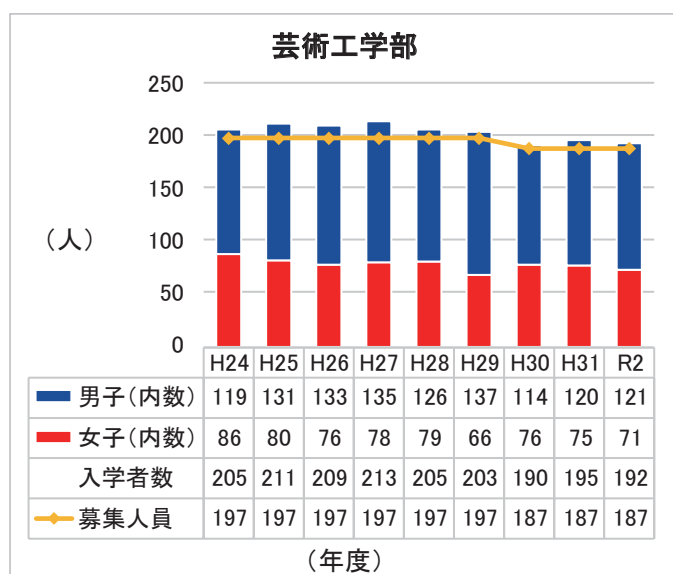
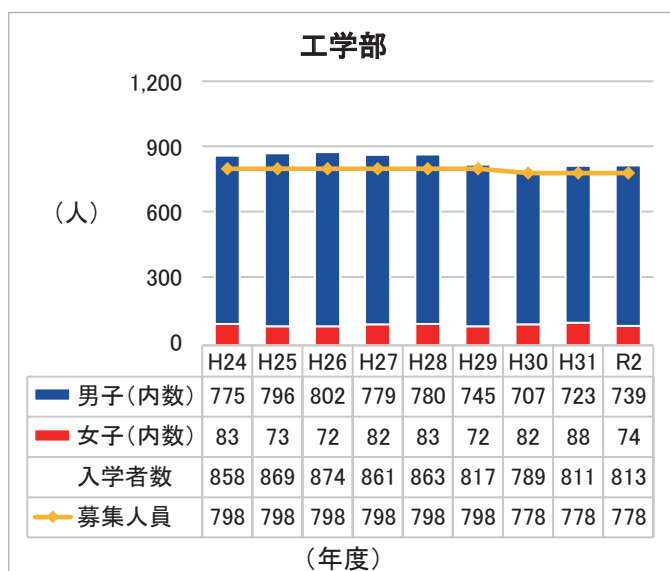
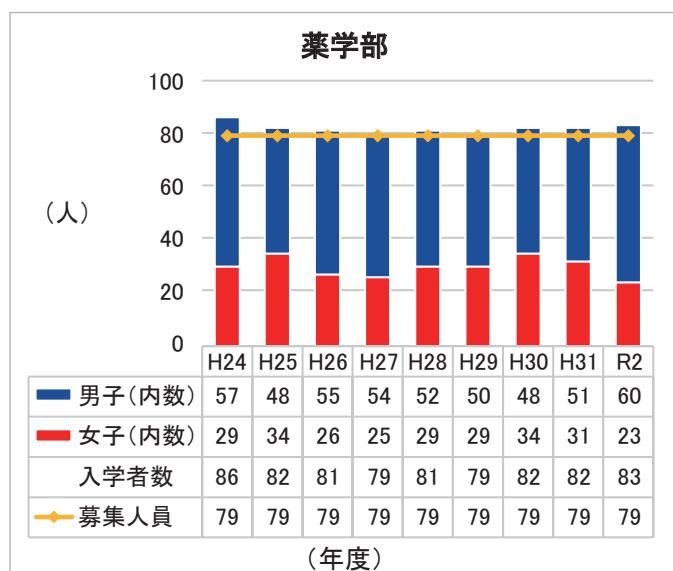
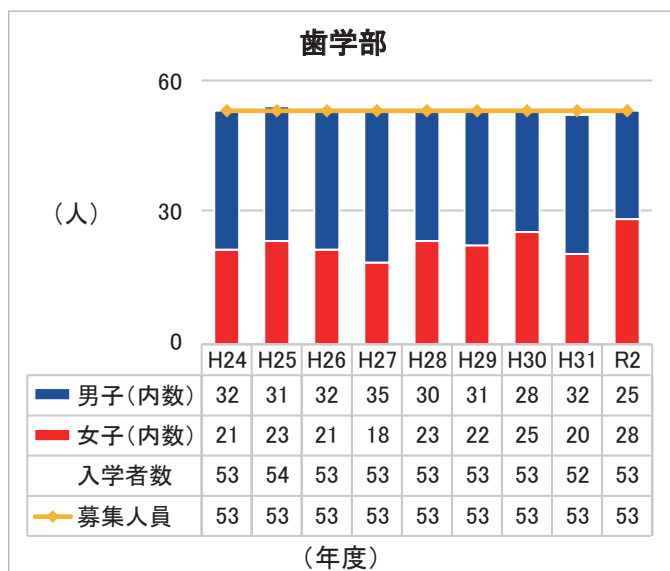
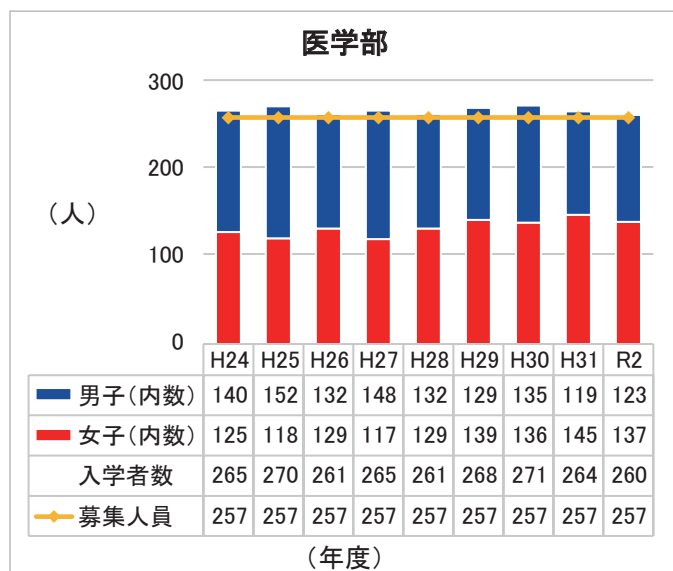
各学部とも、大幅な増減なく入学者数を確保できている。



・国費、政府派遣、日韓共同留学生含む。

出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-1-2. 入学者数推移（学部別）（つづき）

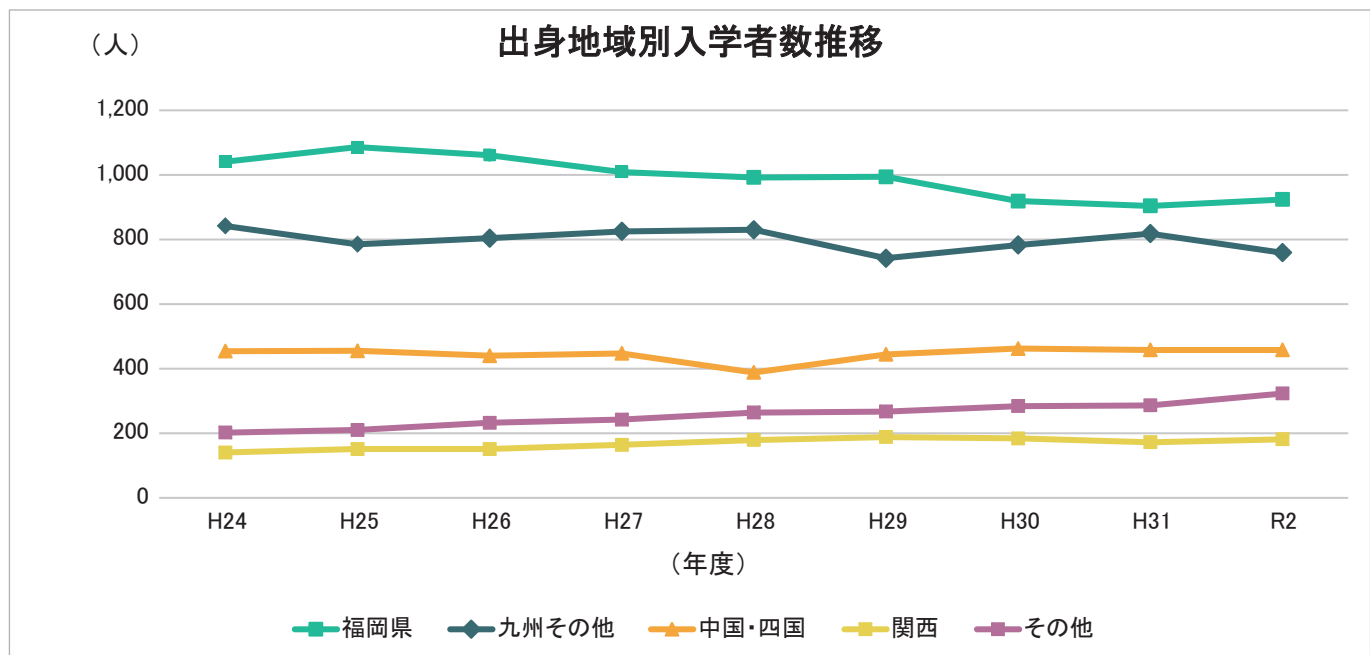


・国費、政府派遣、日韓共同留学生含む。

出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-1-3. 出身地域別入学者数推移

入学者の出身地域に大きな変化は見られないが、九州以外の出身者が若干増加傾向である。



出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

【参考】◆他大学との比較◆

【自分の子どもに入学してほしい】

順位	大学名	ポイント
1	東京大	1,093
2	京都大	855
3	早稲田大	472
4	慶應義塾大	358
5	大阪大	251
6	東北大	164
7	九州大	139
8	北海道大	116
9	名古屋大	115
10	神戸大	104

(2019)

【一般入試合格者のうち入学者の比率(国立大学)】

順位	大学名	%
1	京都大	99.7
2	東京芸術大	99.6
3	東京大	99.5
3	一橋大	99.5
5	滋賀医科大	99.2
6	大阪大	98.6
7	京都教育大	98.1
8	東京工業大	98.0
⋮		
19	九州大	95.5

(2019)

●ランキングの見方（出典より引用）「自分の子供に入学してほしい」

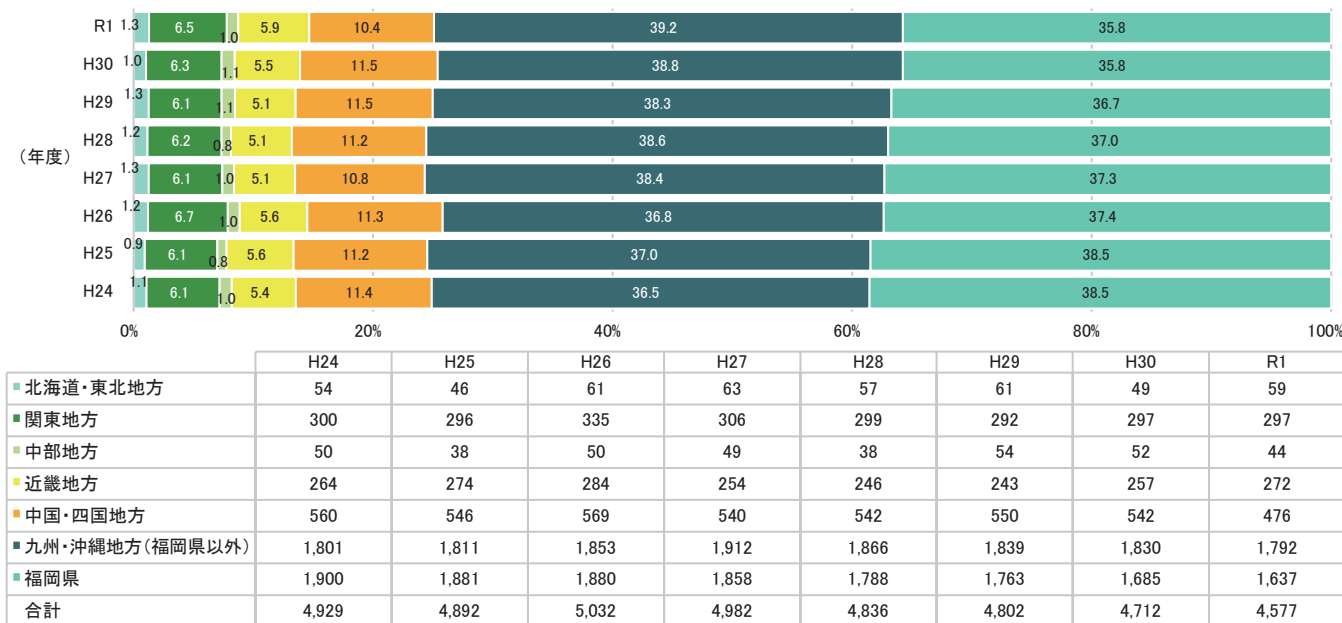
大学通信調べ、全国の社会人を対象としたインターネット調査を実施し、項目別に大学ランキングをまとめた。調査期間は2019年。回答者数は1,000人で、大学卒の会社員または公務員が調査対象となる。地域が偏ることなく調査を実施、男女比もほぼ1対1となっている。質問項目に対し、「全国にある大学の中から3大学」と「あなたの住むエリアおよび近隣にある大学から3大学」の最大6校を回答してもらい、回答順にそれぞれ3ポイント、2ポイント、1ポイントとして集計した。

出典：朝日新聞出版「大学ランキング2021年度版」

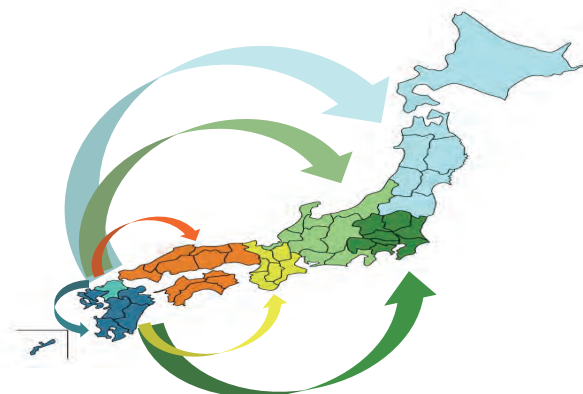
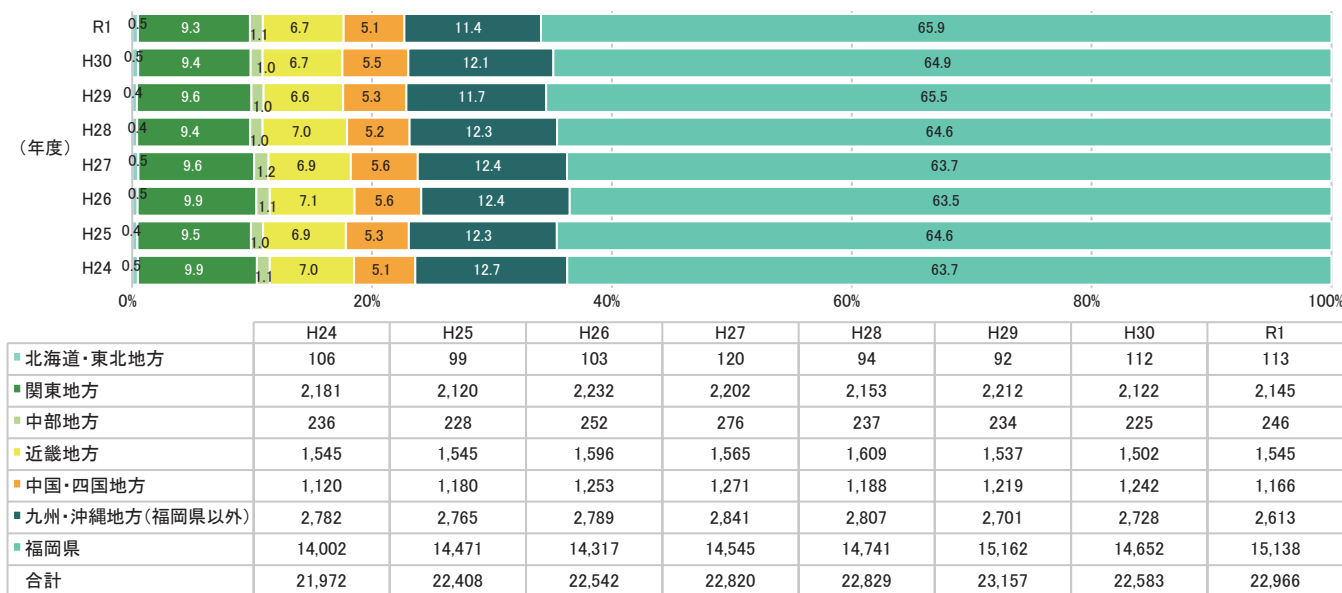
【参考】所在地域・県別の国公私立大学入学者数

福岡県の高校卒業者の大学進学先について、地域別にまとめたものである。
国立大学では、福岡県を含めた九州・沖縄地方の大学への入学者が多いことが分かる。国公私立大学で見ると、福岡県内の大学への進学が6割を超えている。

◆国立大学◆



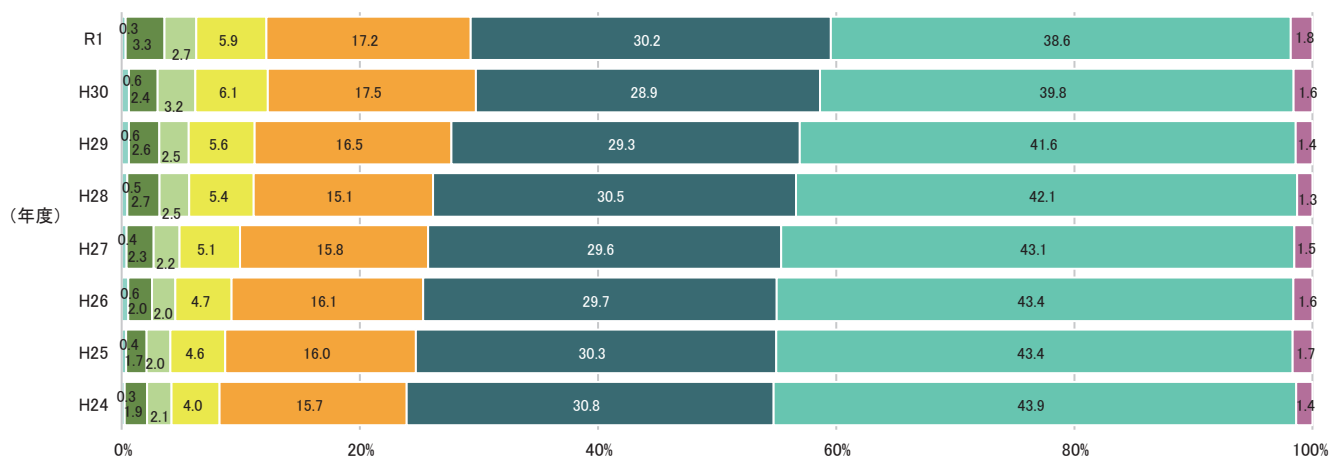
◆国公私立大学◆



出典: 文部科学省 学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」

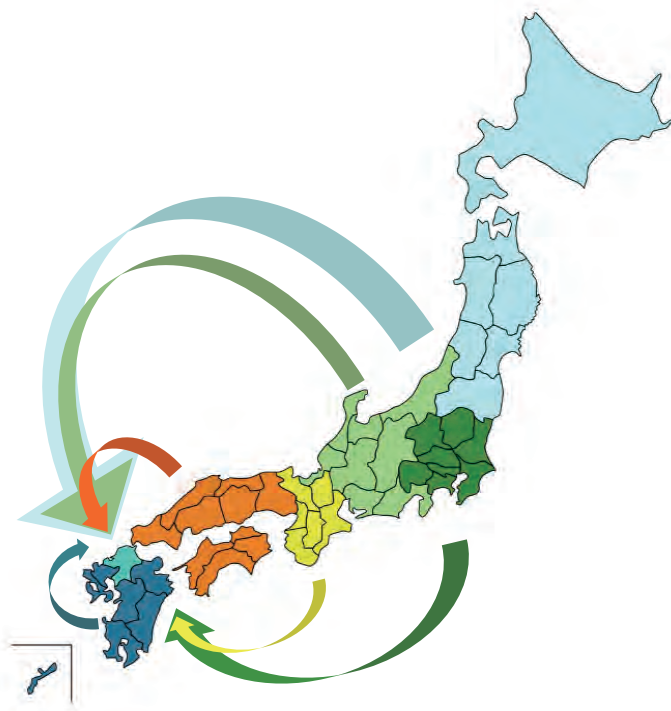
【参考】福岡県の国立大学入学者数

福岡県の国立大学に全国の高校卒業者が入学した人数をまとめたものである。
 福岡県の大学に入学する高校卒業者の多くは九州・沖縄地方出身である。
 また、九州・沖縄地方以外の出身者は年々増加傾向にあったが、令和元年度は減少している。



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
■北海道・東北地方	11	16	24	18	20	26	26	14
■関東地方	81	75	86	98	115	108	102	138
■中部地方	89	86	85	93	106	104	134	113
■近畿地方	175	200	205	219	230	235	258	250
■中国・四国地方	680	694	697	681	640	699	740	727
■九州・沖縄地方(福岡県以外)	1,334	1,312	1,286	1,278	1,295	1,239	1,224	1,281
■福岡県	1,900	1,881	1,880	1,858	1,788	1,763	1,685	1,637
■その他	59	72	70	66	55	60	67	77
合計	4,356	4,329	4,336	4,333	4,311	4,249	4,234	4,236

(単位:人)



- ・入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。
- ・大学の所在地は、入学した学部所在地による。
- ・「その他」とは、「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」「専修学校高等課程の修了者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である(学校教育法施行規則第150条)

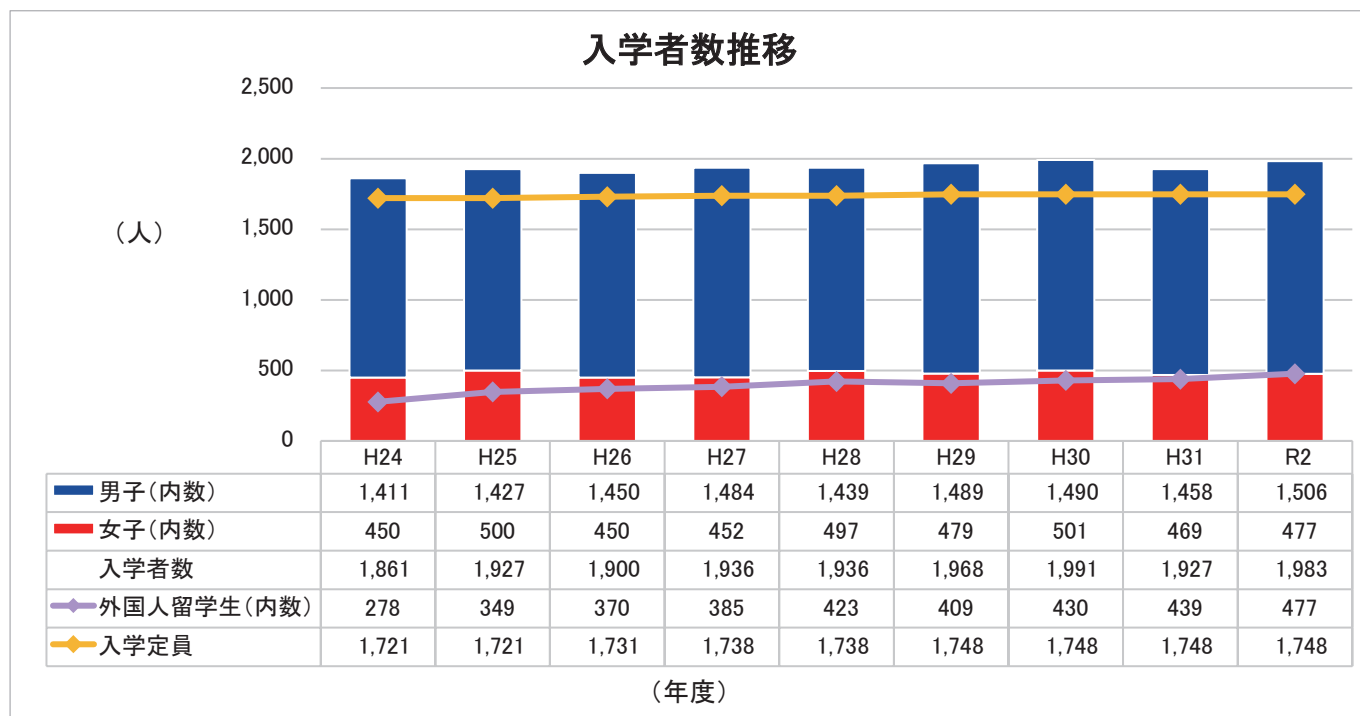
出典: 文部科学省 学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」

5-2. 入学状況（修士課程）

5-2-1. 入学者数推移（全体）

本学は入学定員を超える一定の入学者数を確保できている。

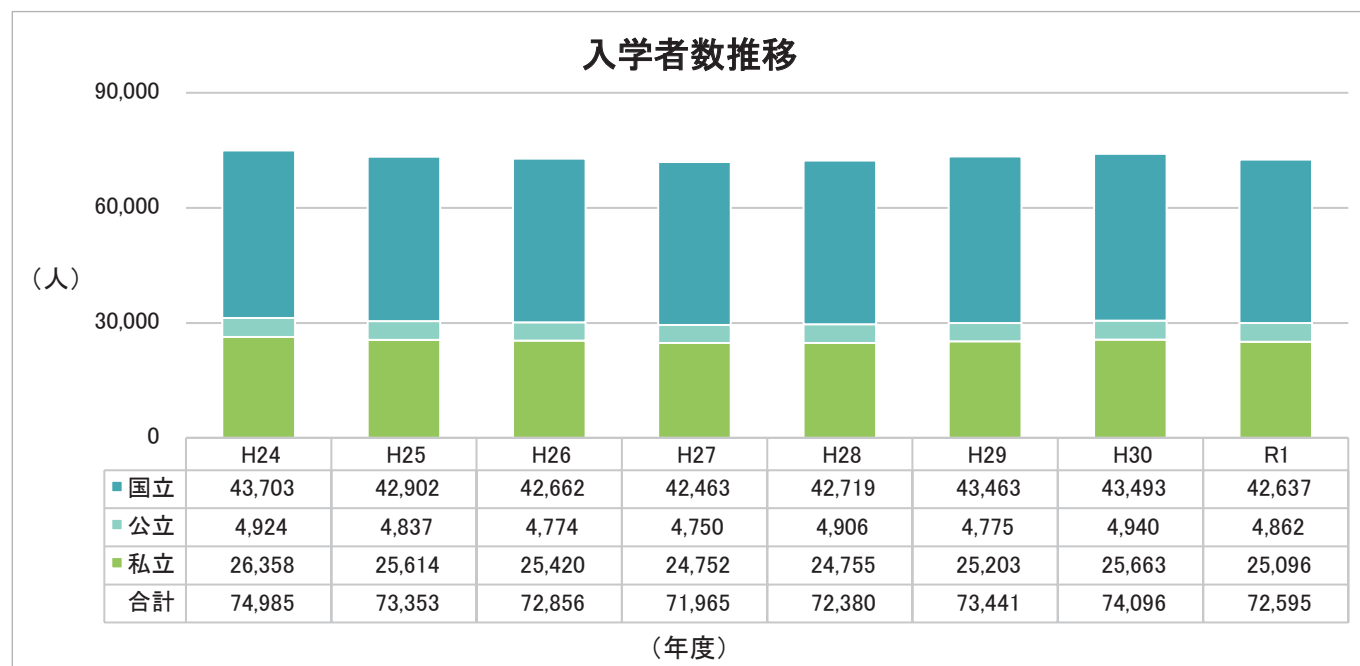
◆九州大学◆



・専門職学位課程は含まない。

出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

◆全国 国公立大学◆



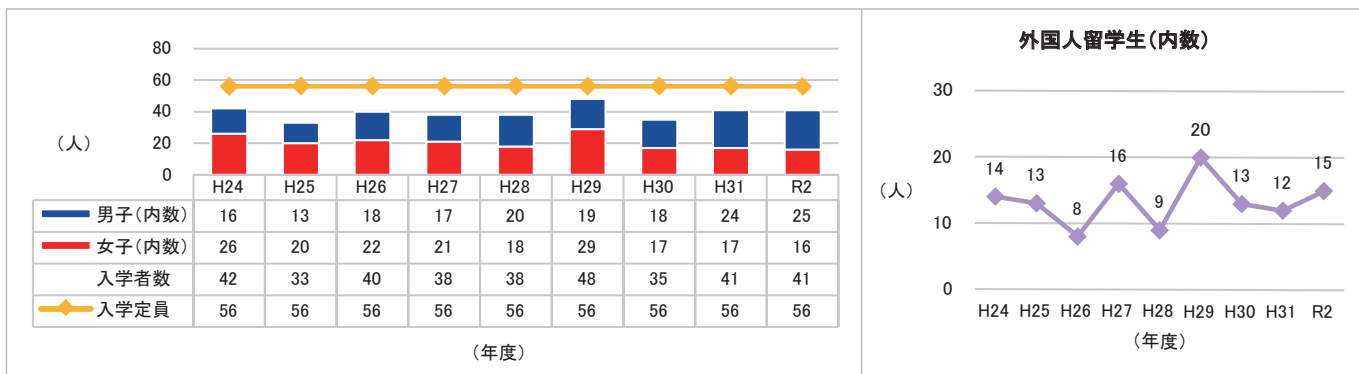
・入学者数には、5月1日現在在籍しない者は含まない。
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典：文部科学省 学校基本調査「大学院の専攻分野別入学状況」

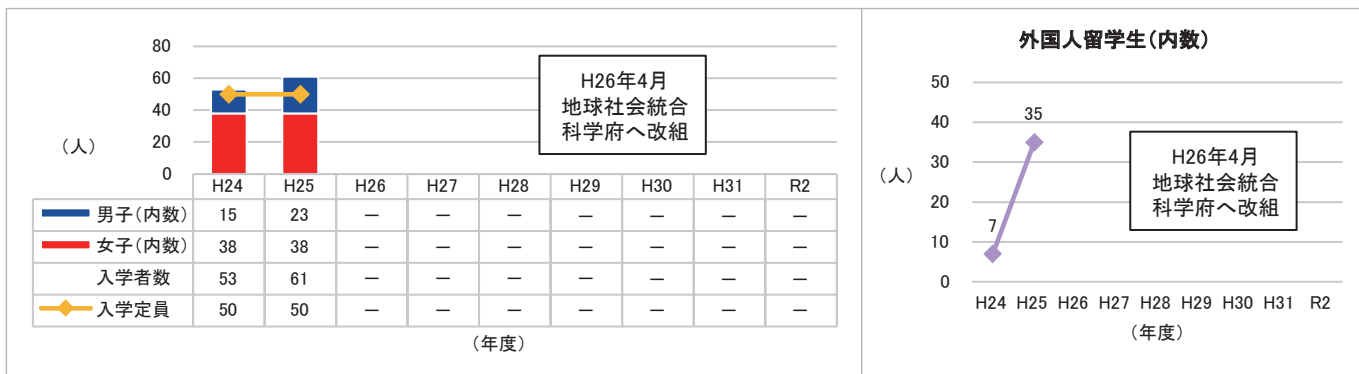
5-2-2. 入学者数推移(学府別)

学府別にみると、理学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府および生物資源環境科学府の外国人留学生の入学者数が、ここ数年増加していることがわかる。

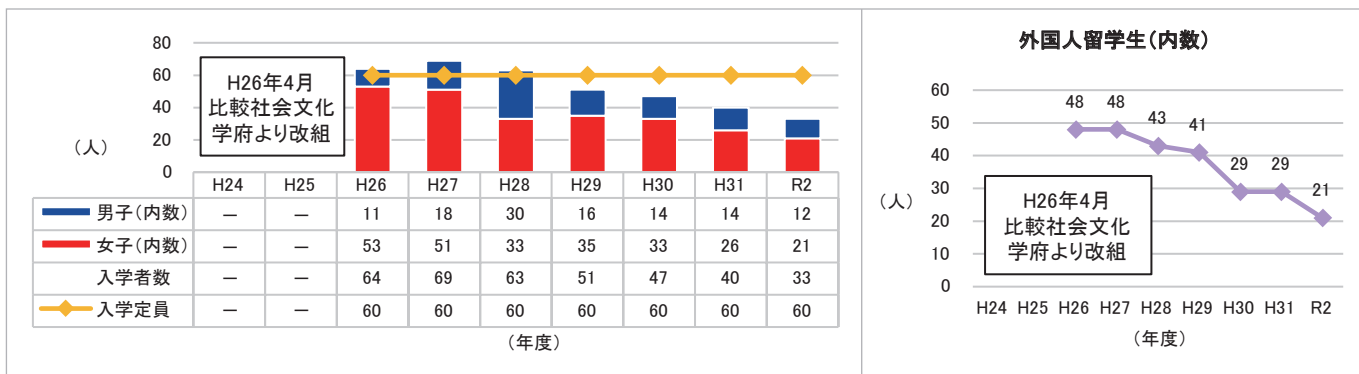
【人文科学府】



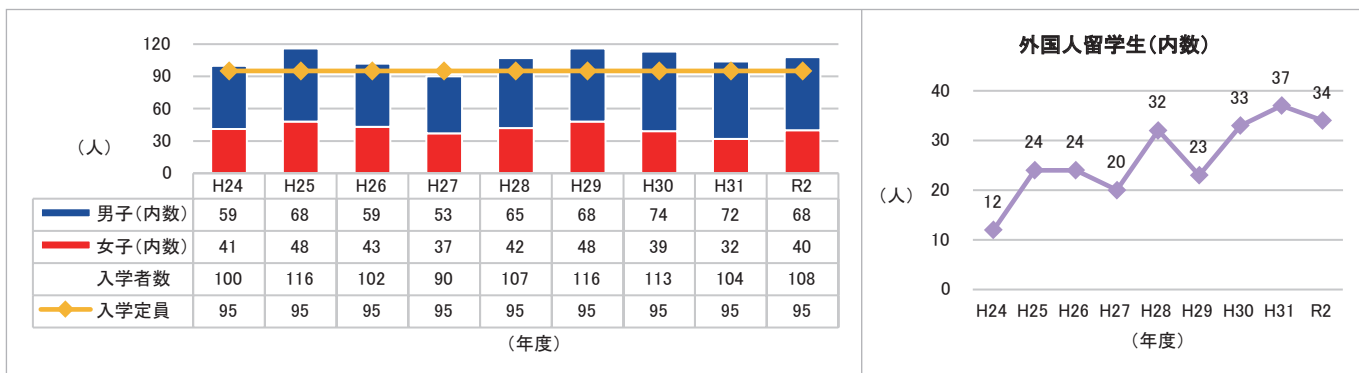
【比較社会文化学府】



【地球社会統合科学府】



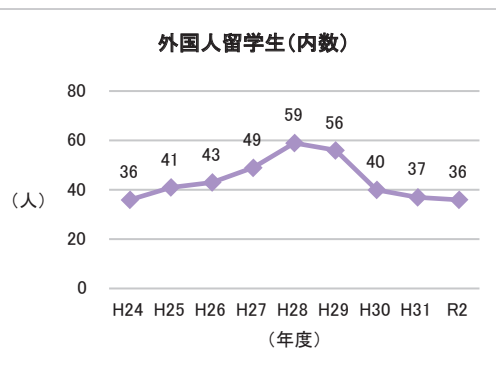
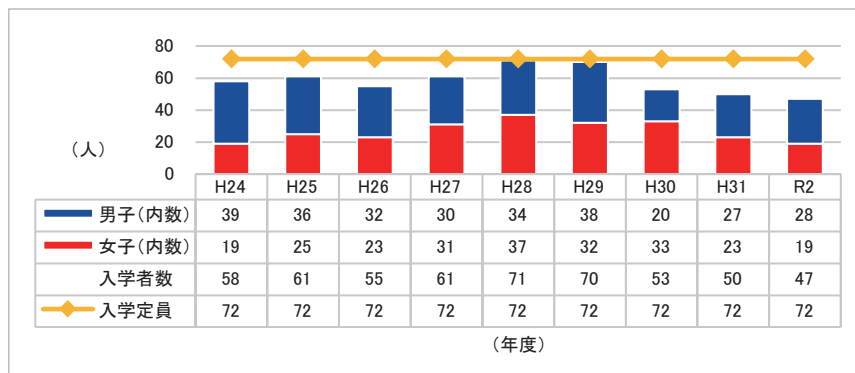
【人間環境学府】



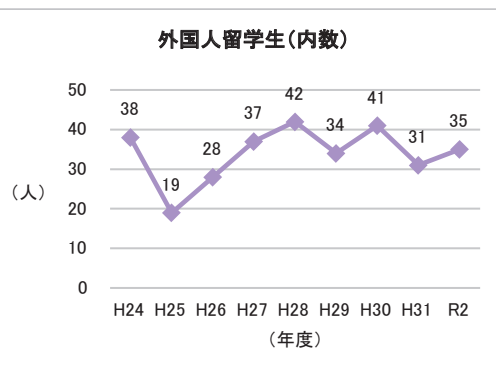
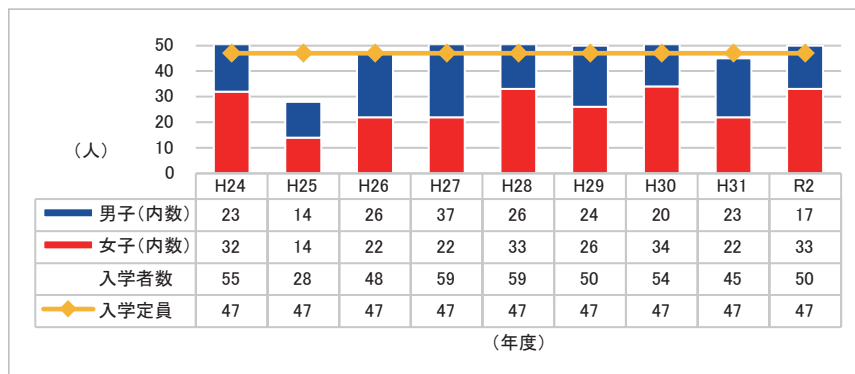
出典: 4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

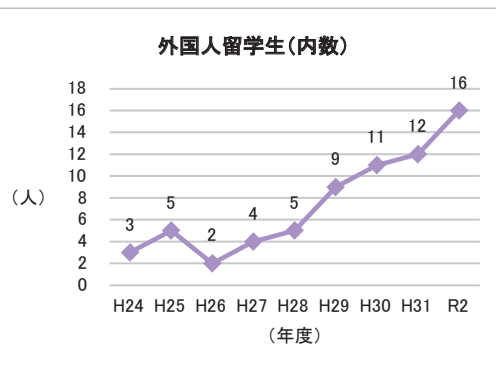
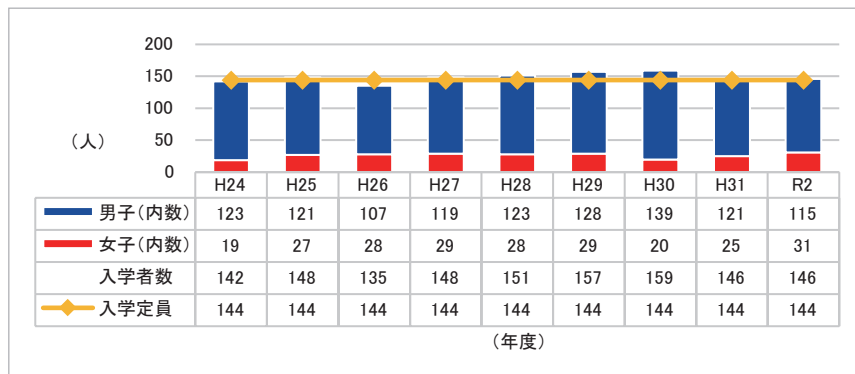
【法学府】



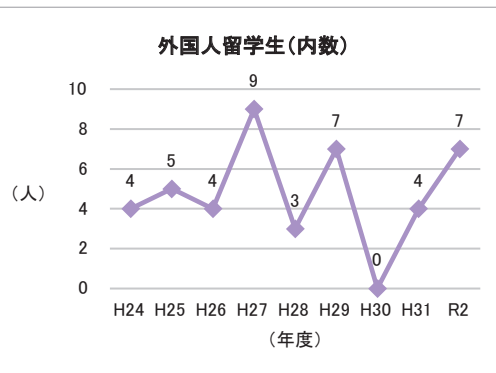
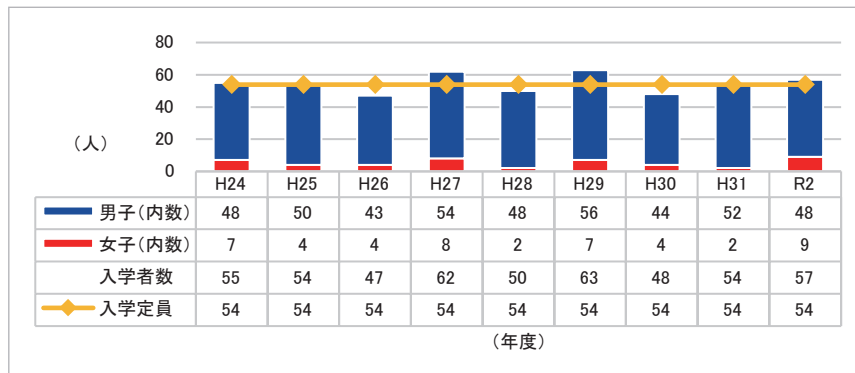
【経済学府】



【理学府】



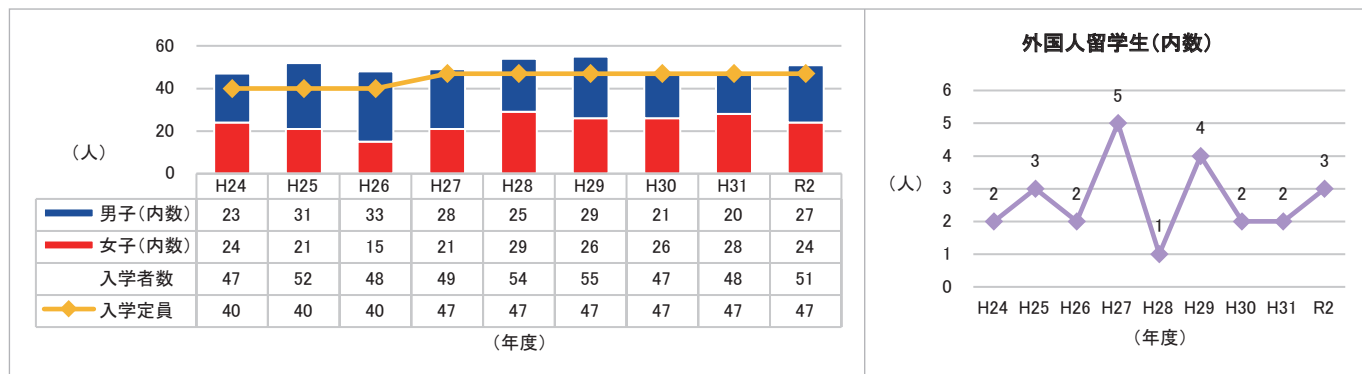
【数理学府】



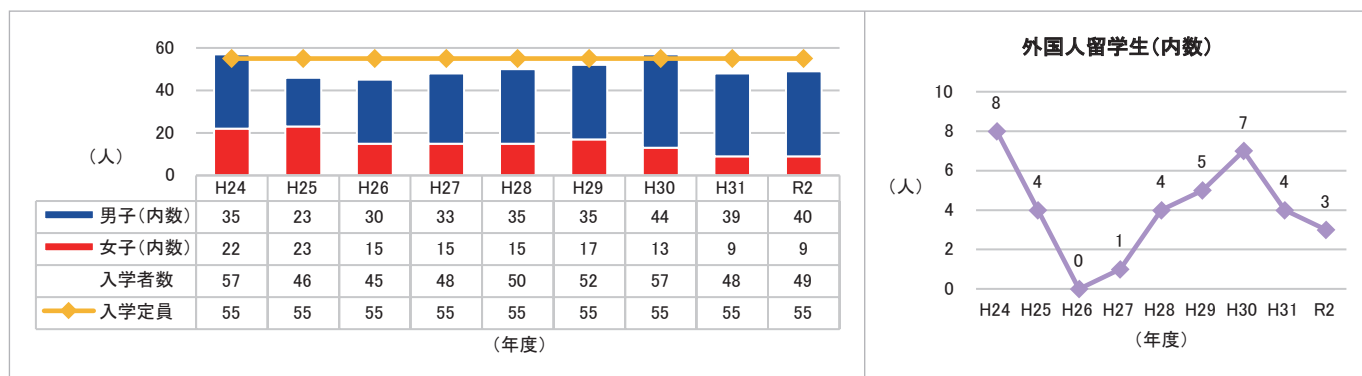
出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

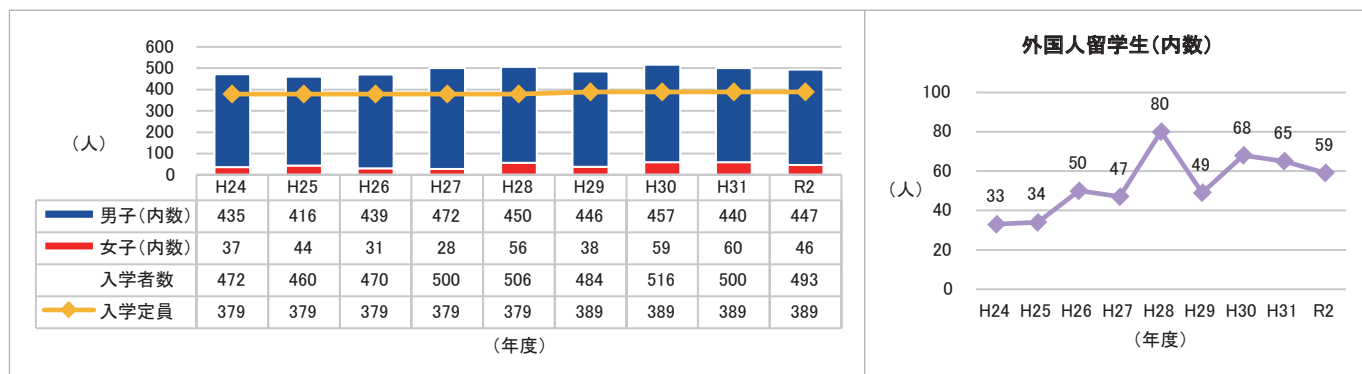
【医学系学府】



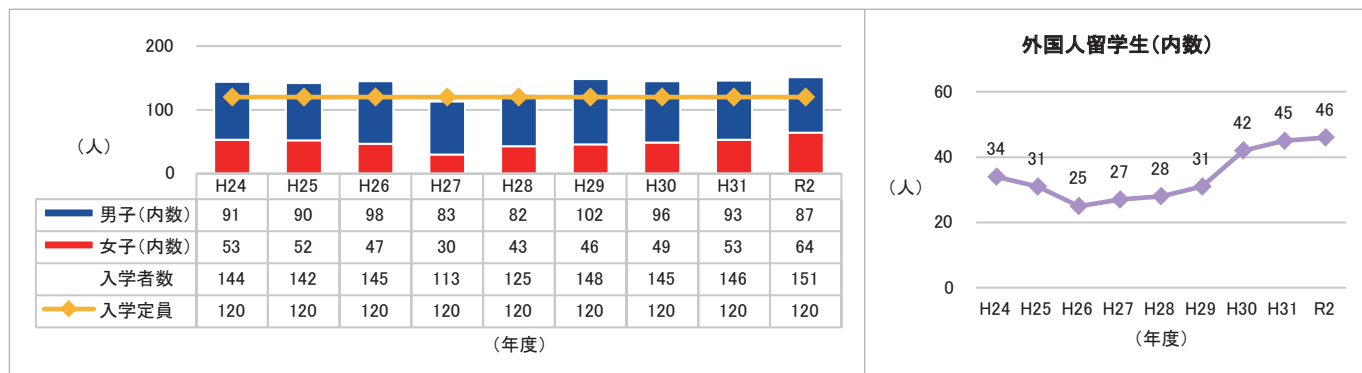
【薬学府】



【工学府】



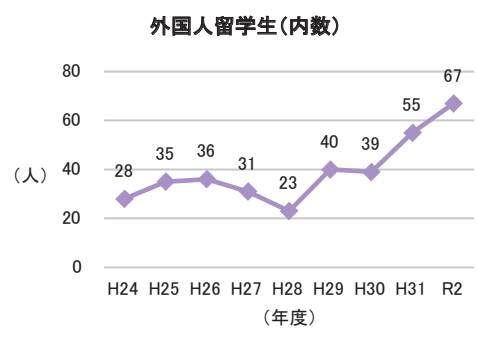
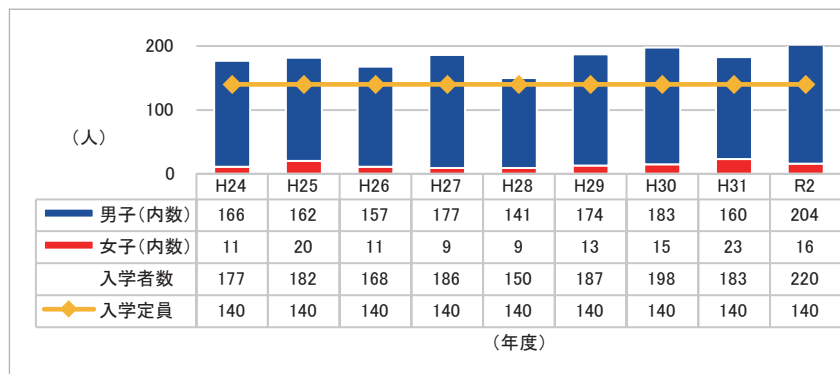
【芸術工学府】



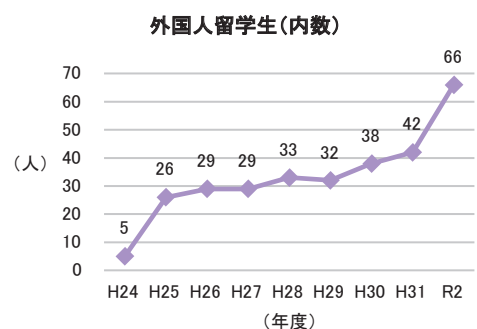
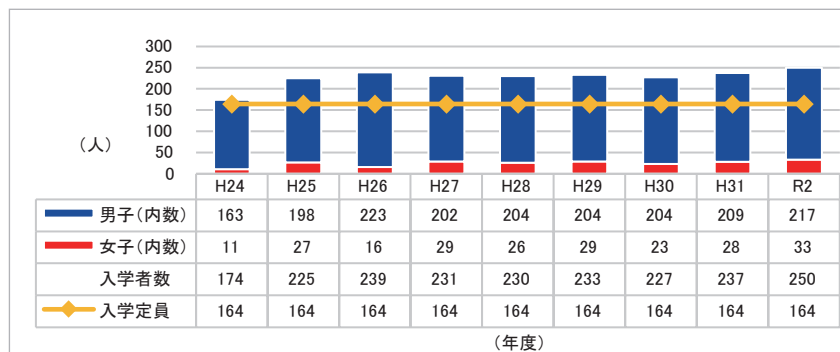
出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
 10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-2-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

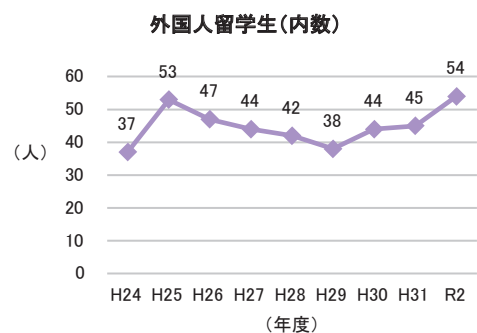
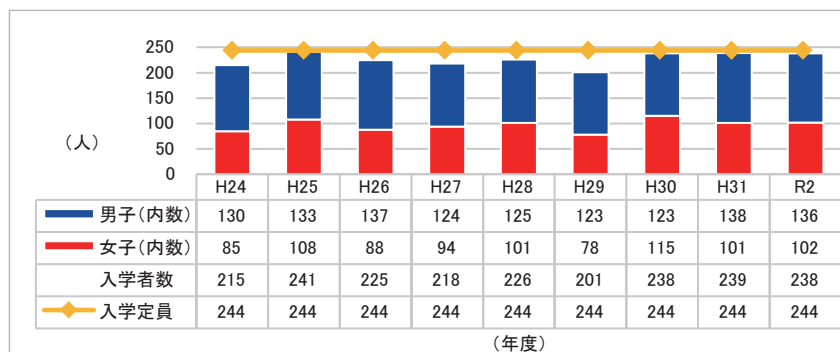
【システム情報科学府】



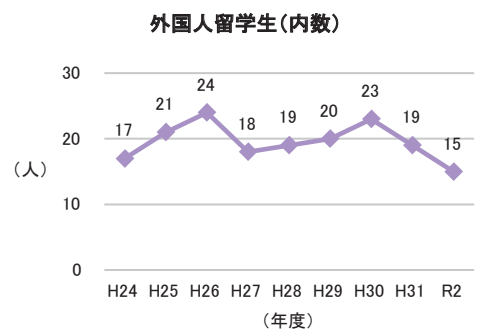
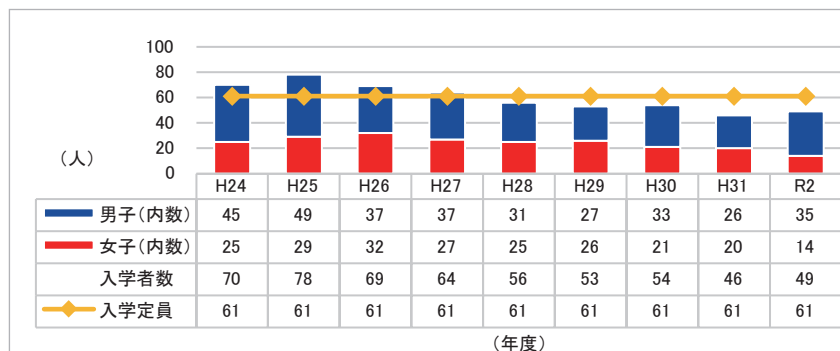
【総合理工学府】



【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



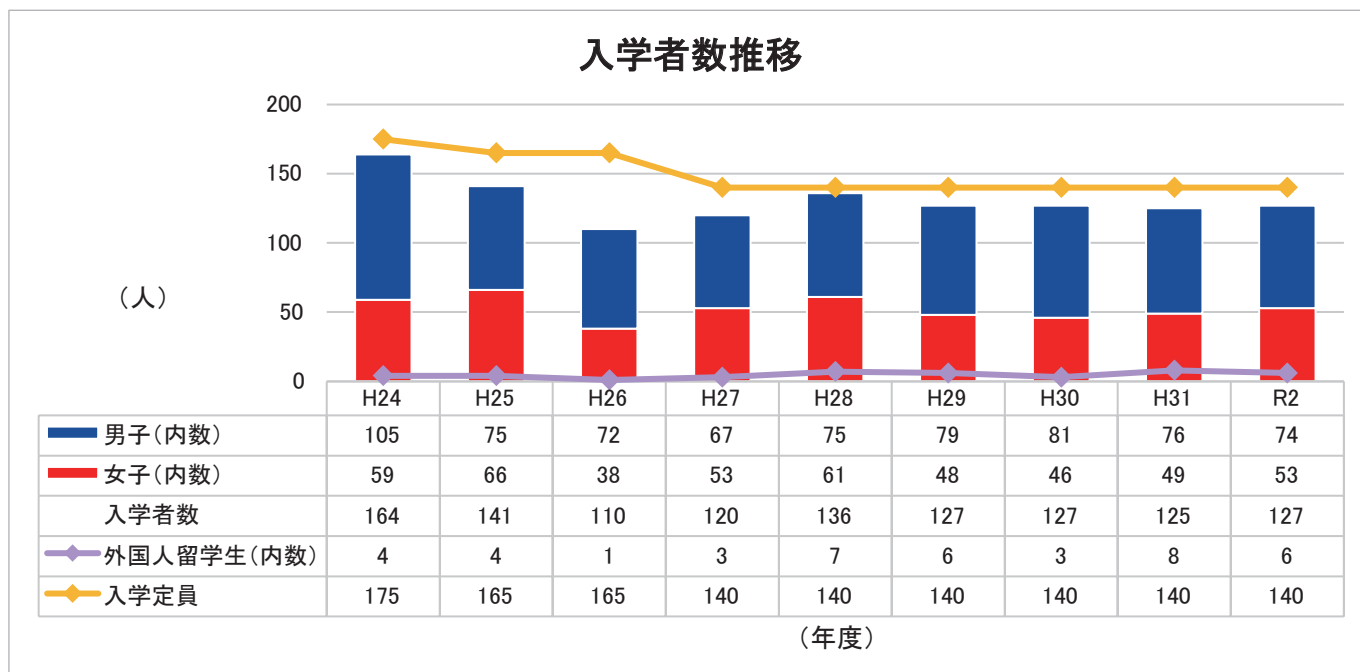
出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-3. 入学状況（専門職学位課程）

5-3-1. 入学者数推移（全体）

本学の入学者数は減少傾向からここ数年横ばいに転じてきている。

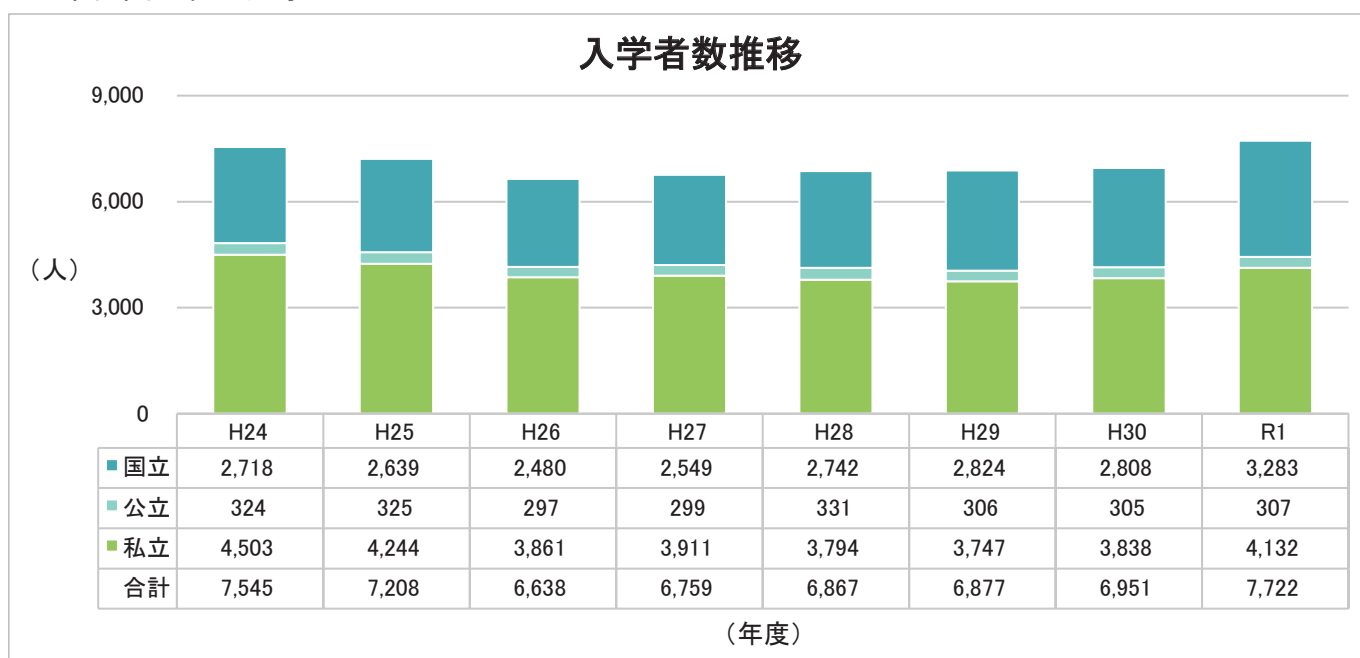
◆九州大学◆



- ・ 専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】
法務学府実務法学専攻【法科大学院】
経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】
医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

出典：九州大学概要(各年度4月1日現在)

◆全国 国公立大学◆



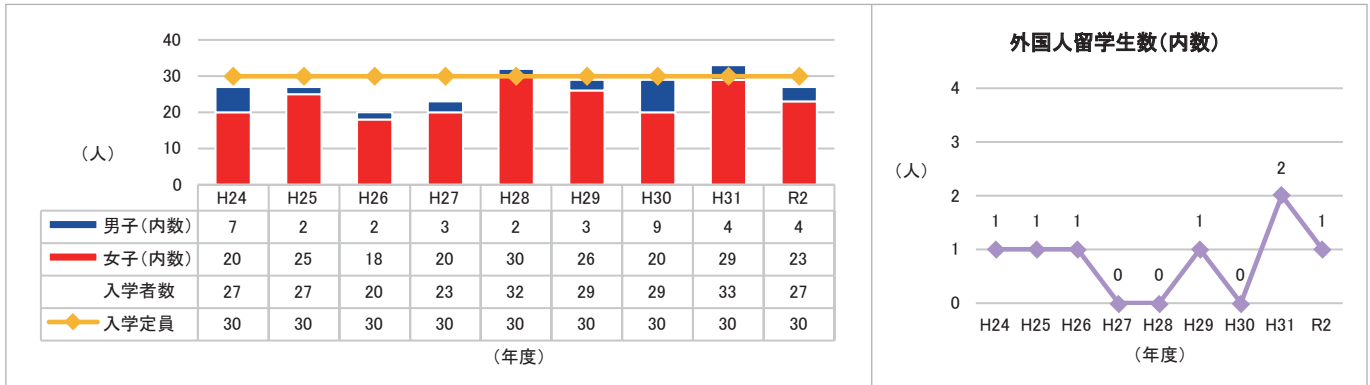
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典：文部科学省 学校基本調査「大学院の専攻分野別入学状況」

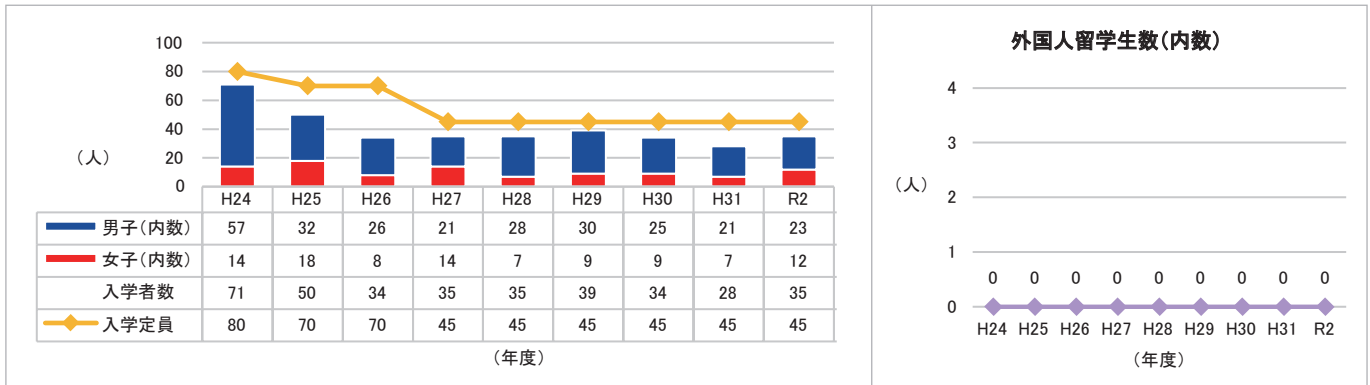
5-3-2. 入学者数推移(学府別)

入学者数の男女比が学府別に大きく異なる。

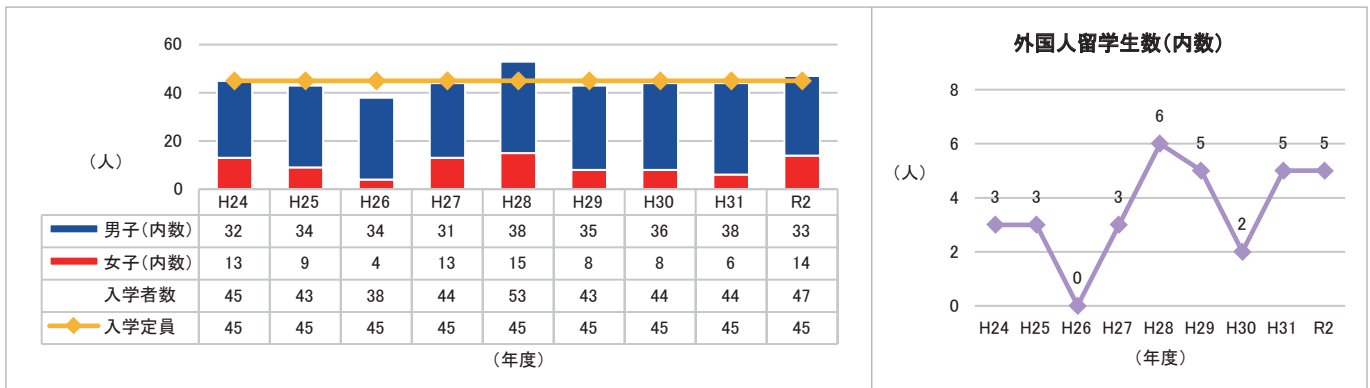
人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】



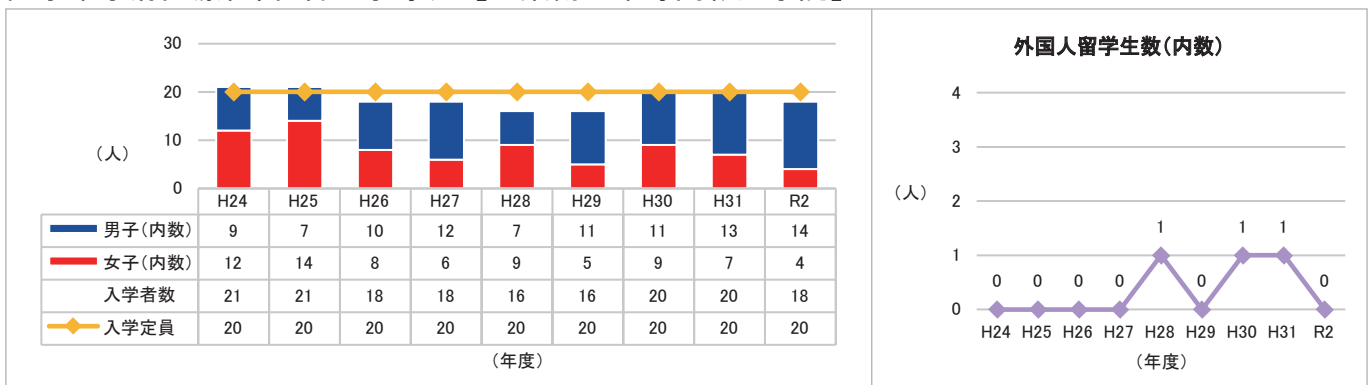
法務学府実務法学専攻【法科大学院】



経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】



医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】



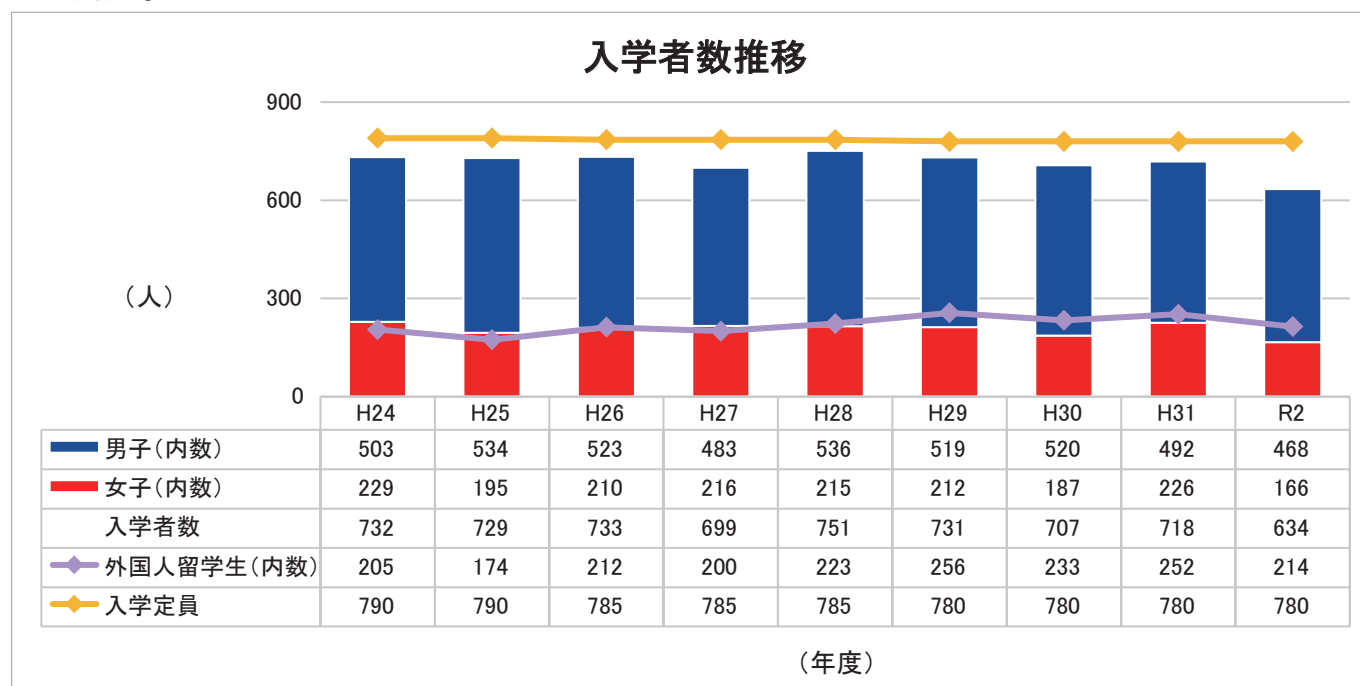
出典: 九州大学概要(各年度4月1日現在)

5-4. 入学状況（博士後期課程）

5-4-1. 入学者数推移（全体）

本学は、入学者数が定員に達していない。

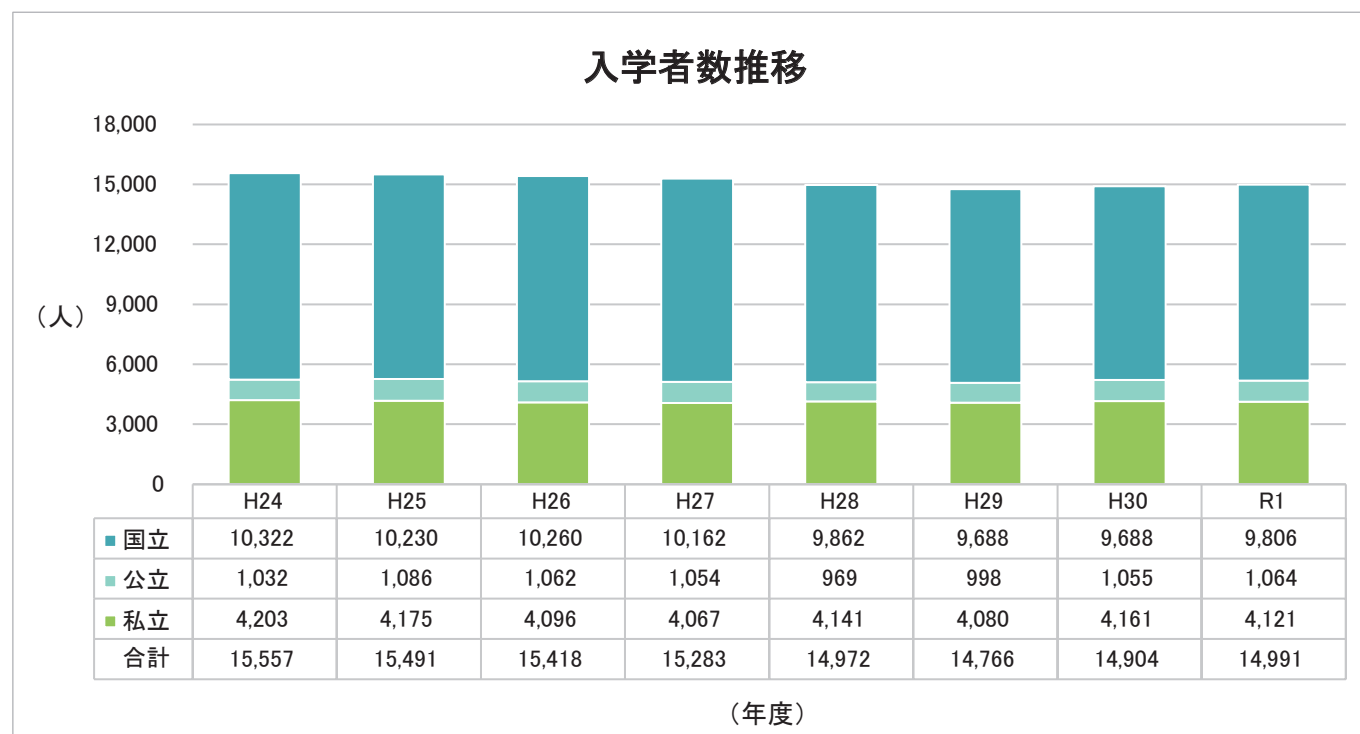
◆九州大学◆



・専門職学位課程は含まない。

出典：4月入学者数 九州大学概要（各年度4月1日現在）
10月入学者数 学務部保有データ（各年度10月1日現在）

◆全国 国公立大学◆



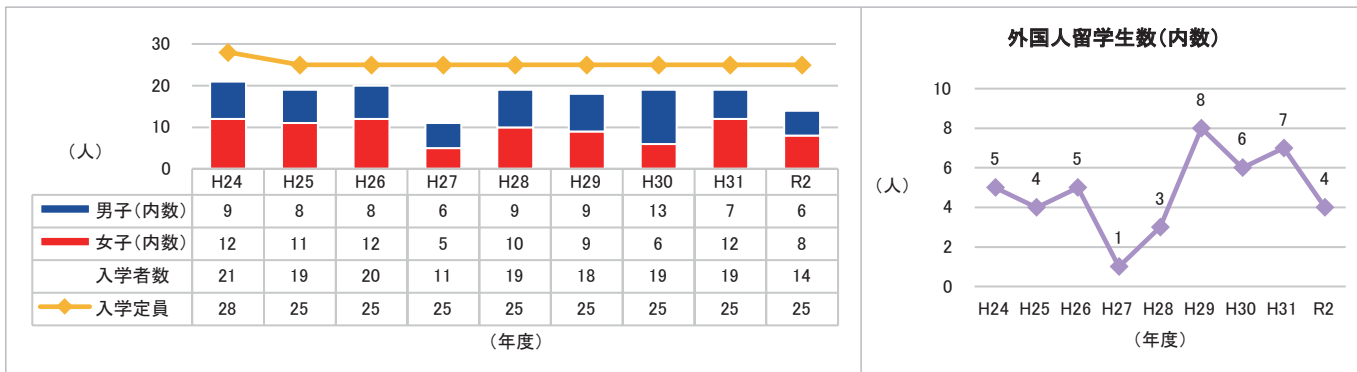
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、R2年度データ取得不可なため掲載なし。

出典：文部科学省 学校基本調査「入学者数」

5-4-2. 入学者数推移(学府別)

入学定員に満たない学府が多い中、システム生命科学府及び薬学府は定員以上の入学者数を確保し続けている。また、外国人留学生の入学者数は、学府・年度により増減の変化が大きい。

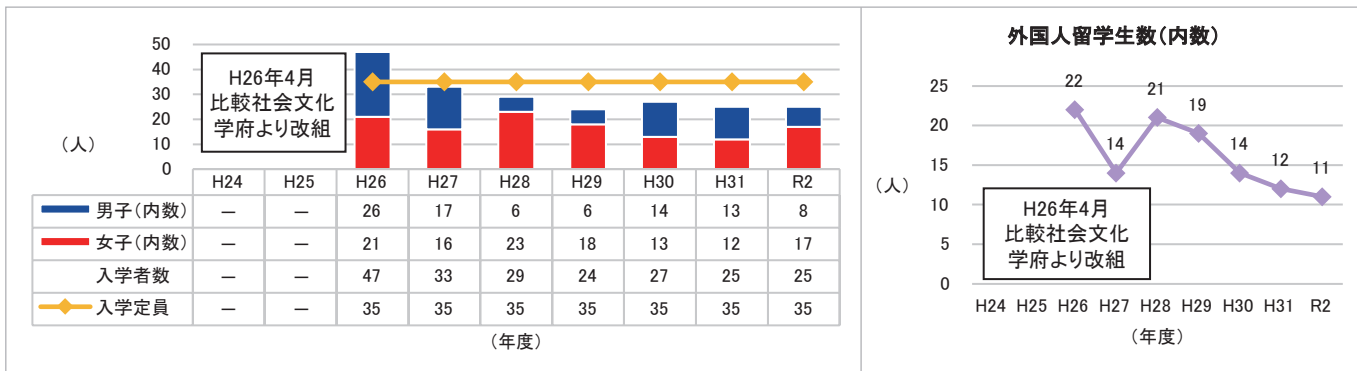
【人文科学府】



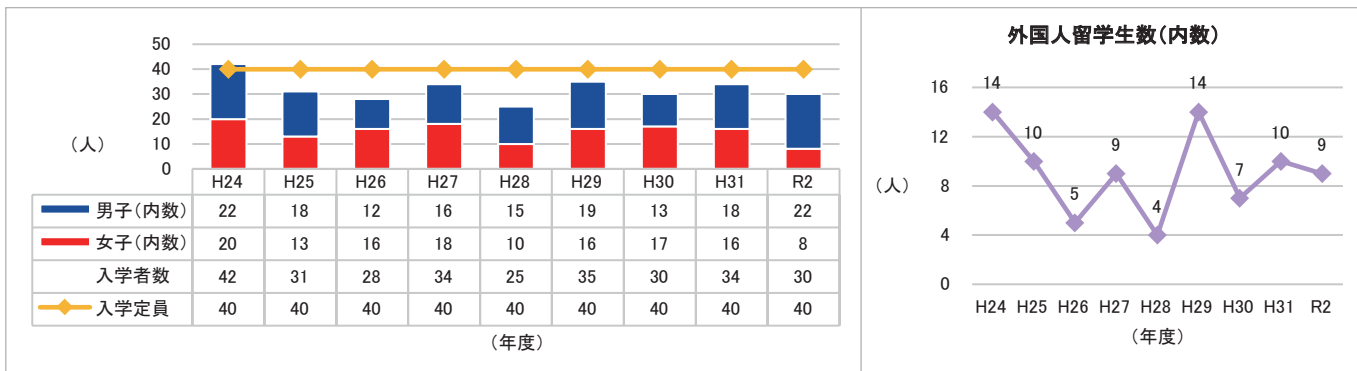
【比較社会文化学府】



【地球社会統合科学府】



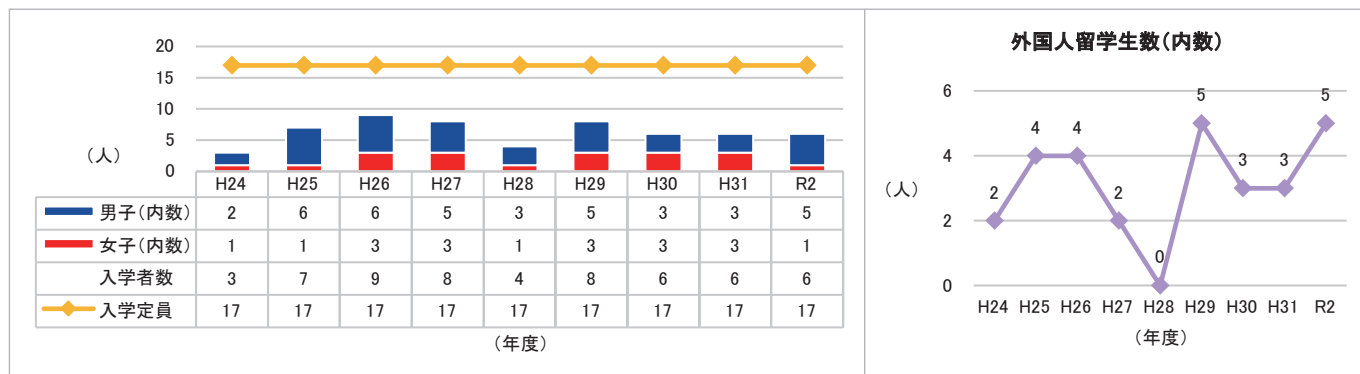
【人間環境学府】



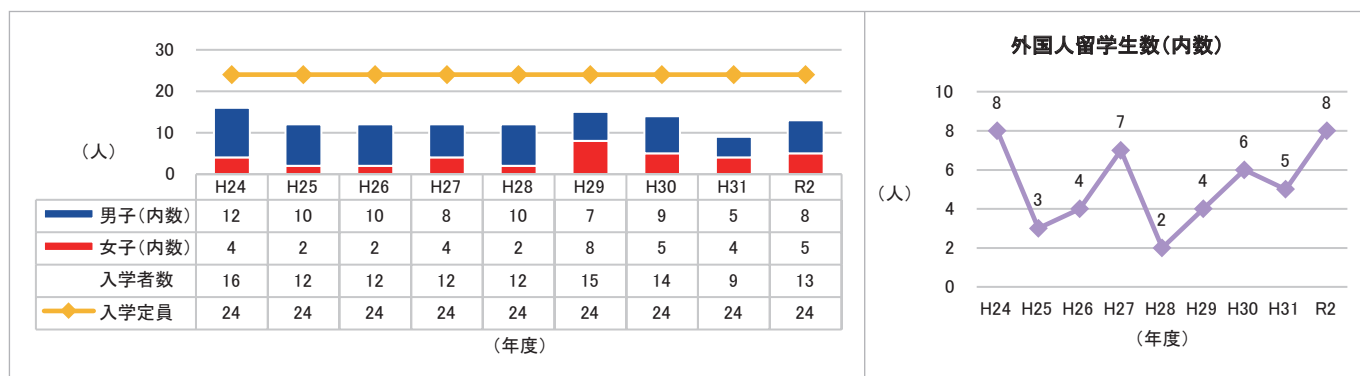
出典: 4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

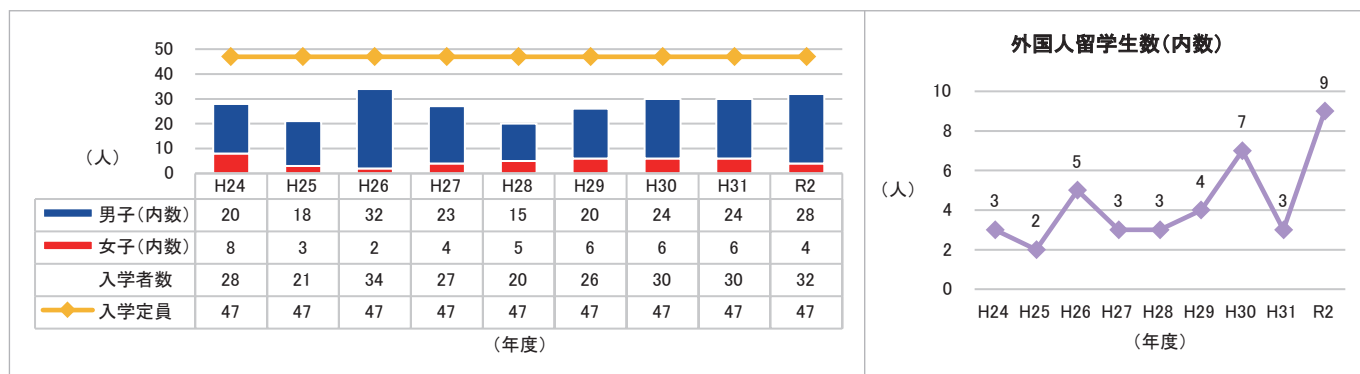
【法学府】



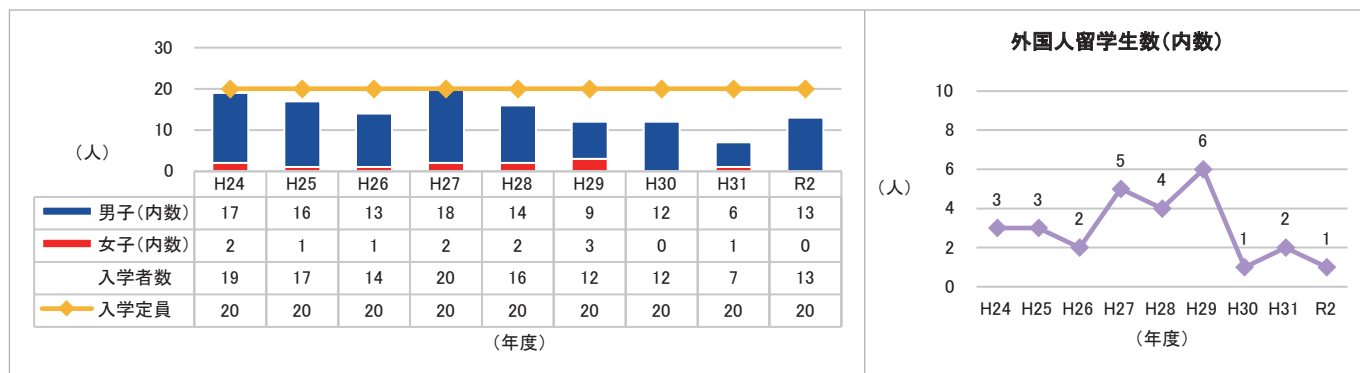
【経済学府】



【理学府】



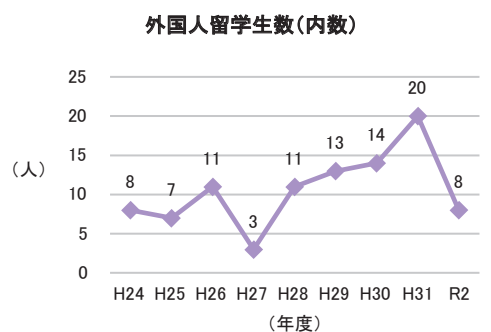
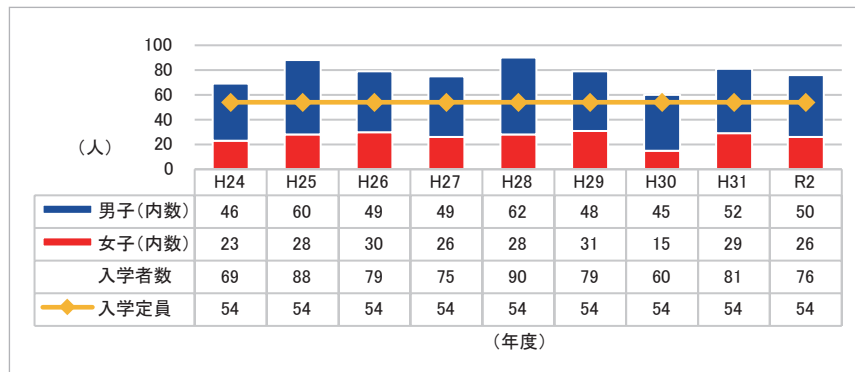
【数理学府】



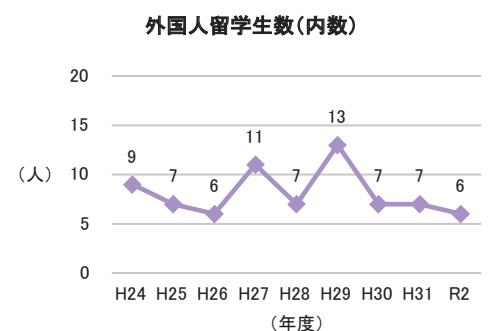
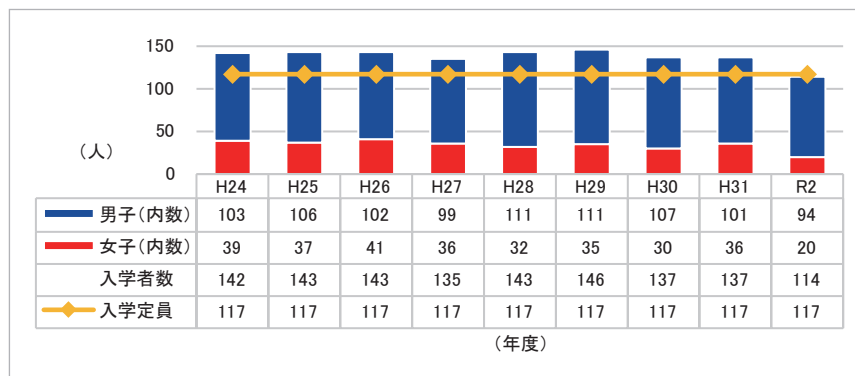
出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
 10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

5-4-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

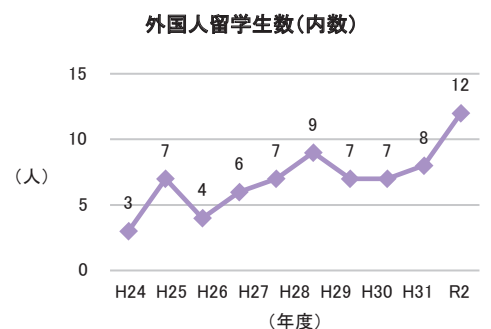
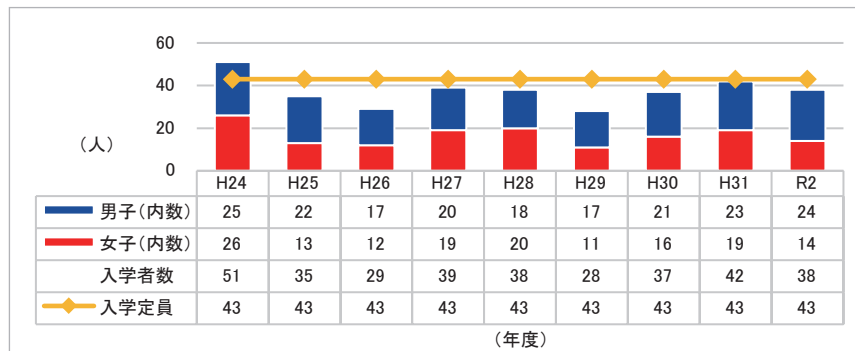
【システム生命科学府】



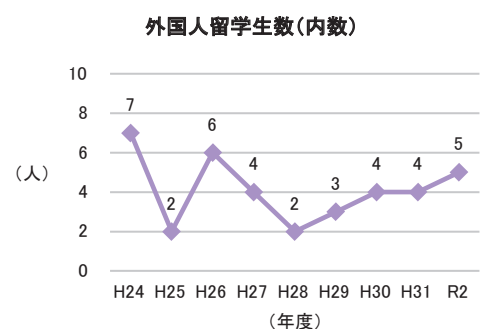
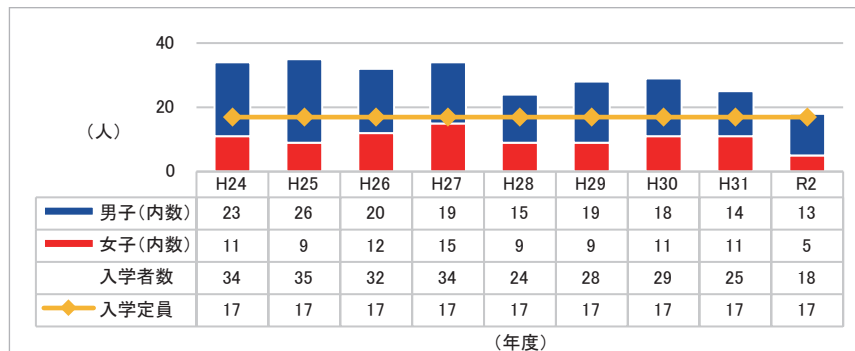
【医学系学府】



【歯学府】



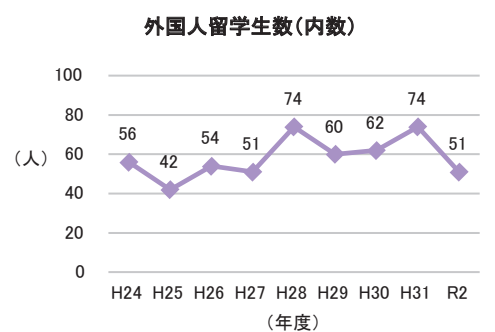
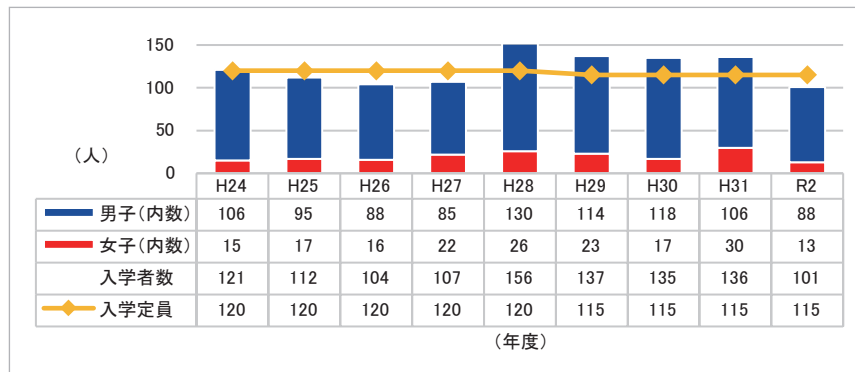
【薬学府】



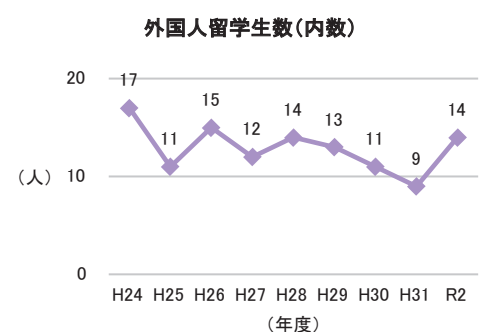
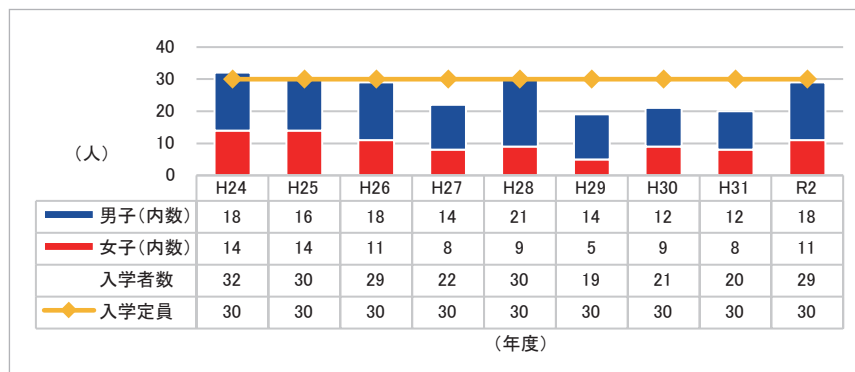
出典：4月入学者数 九州大学概要（各年度4月1日現在）
10月入学者数 学務部保有データ（各年度10月1日現在）

5-4-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

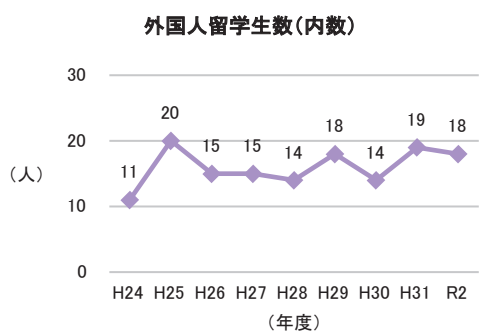
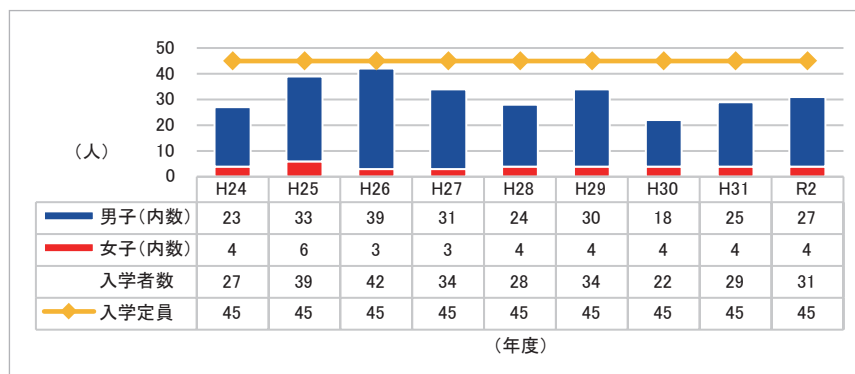
【工学府】



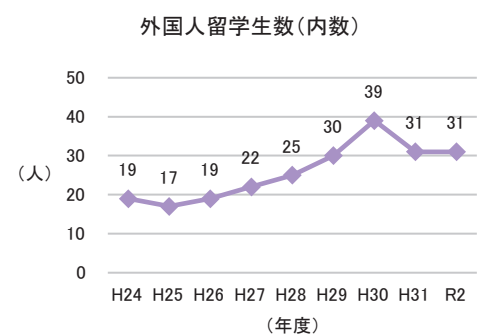
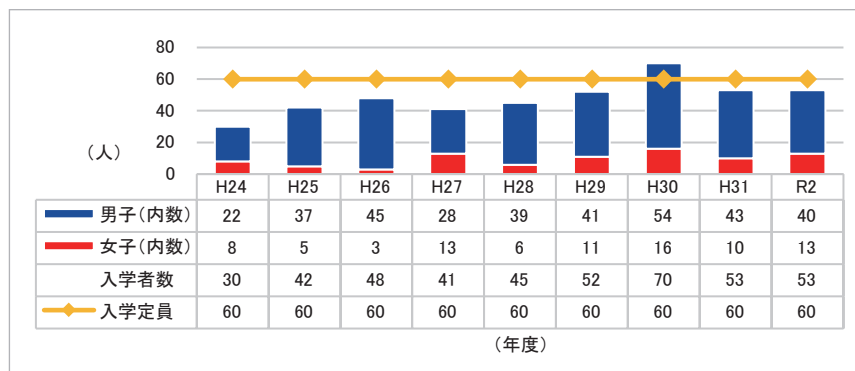
【芸術工学府】



【システム情報科学府】



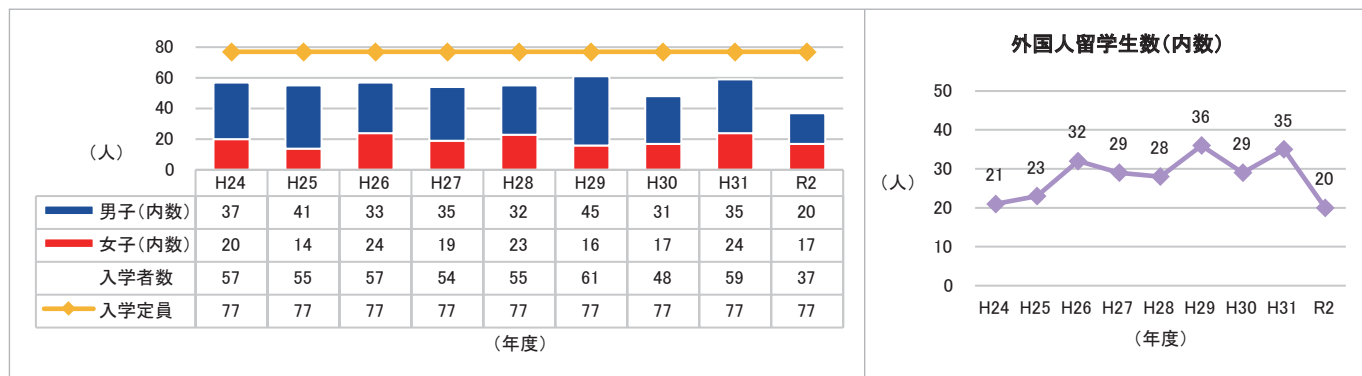
【総合理工学府】



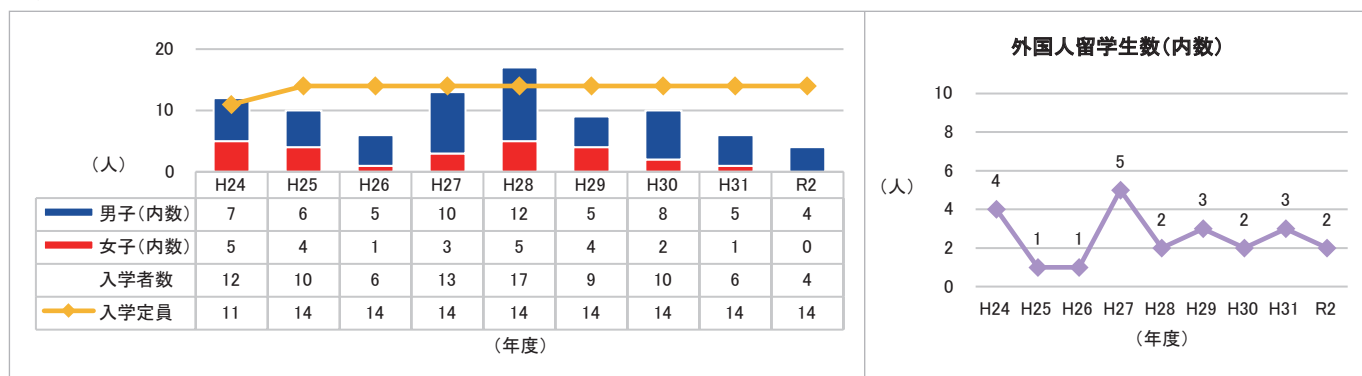
出典：4月入学者数 九州大学概要（各年度4月1日現在）
10月入学者数 学務部保有データ（各年度10月1日現在）

5-4-2. 入学者数推移（学府別）（つづき）

【生物資源環境科学府】



【統合新領域学府】



出典：4月入学者数 九州大学概要(各年度4月1日現在)
10月入学者数 学務部保有データ(各年度10月1日現在)

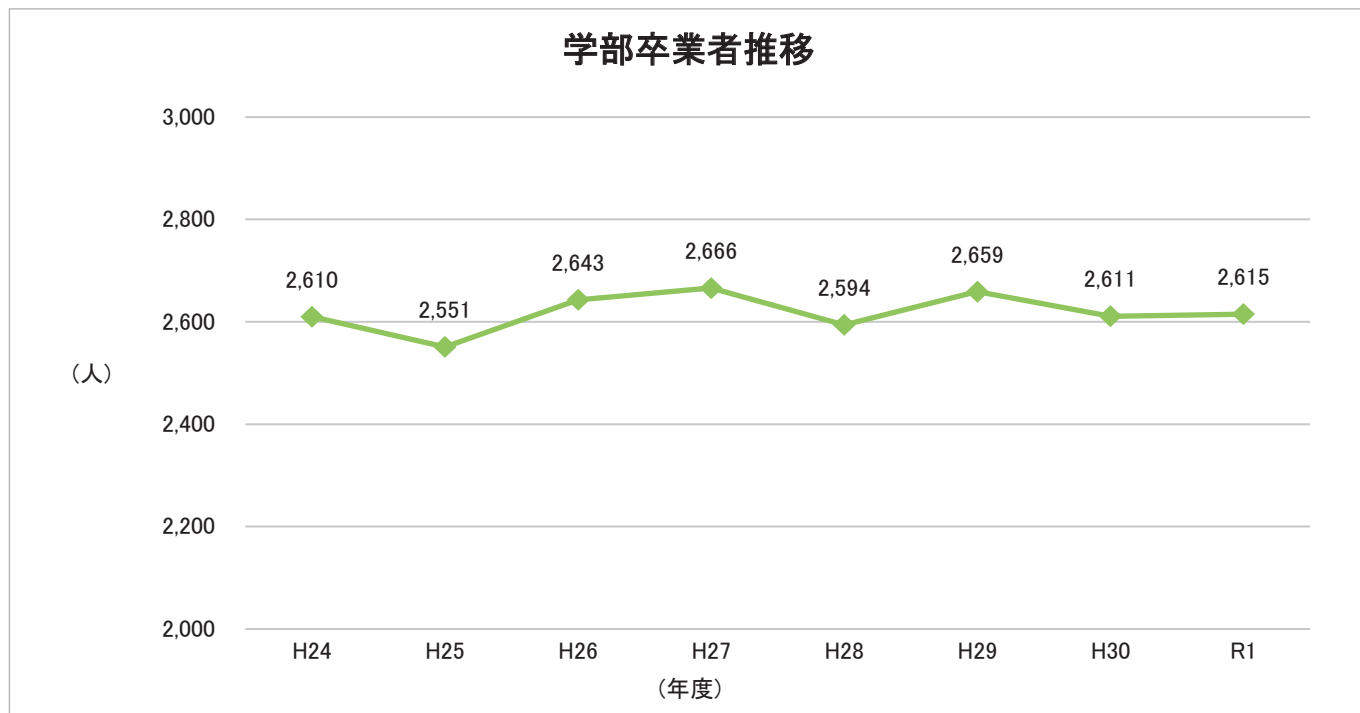
6. 学位取得状況 (各年度4月1日)

6-1. 学部卒業者状況

6-1-1. 学部卒業者状況 (全体)

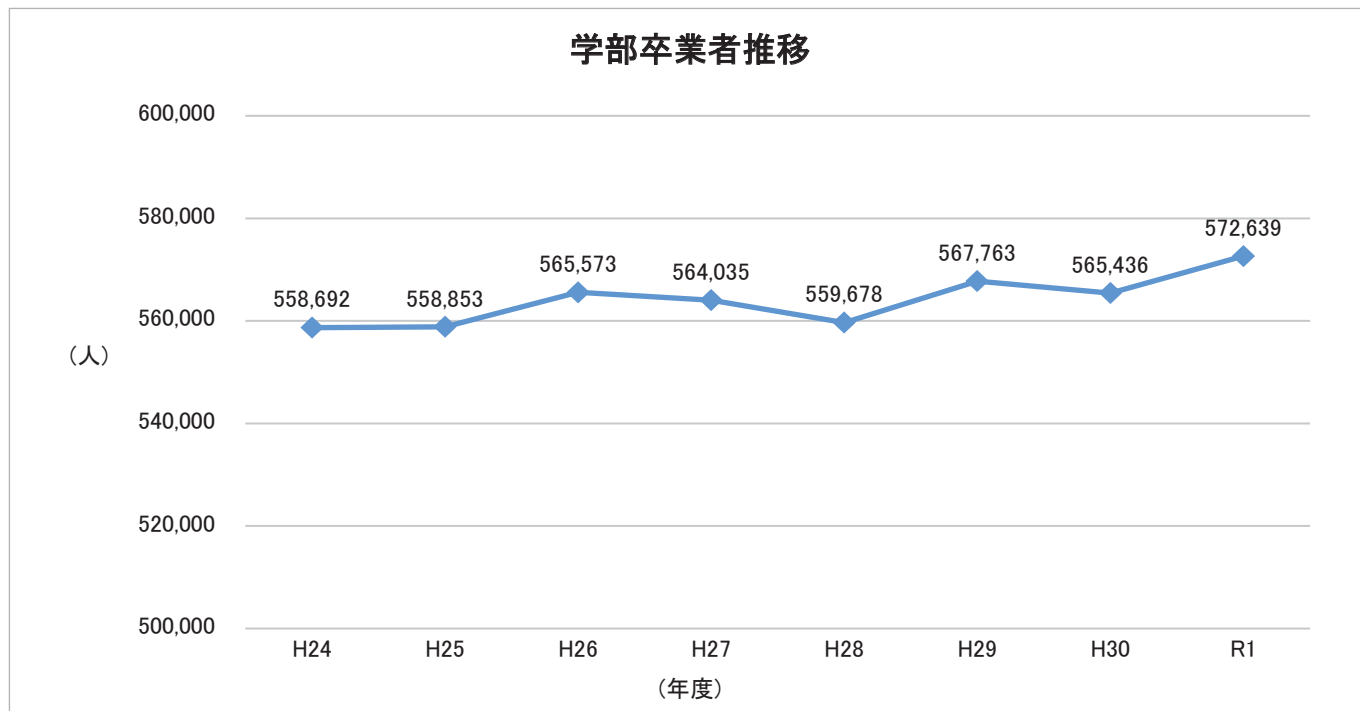
学部卒業者数について、全国的には緩やかな増加傾向にあるのに対して、本学では横ばい傾向である。学部別に見ても、単年では増減がみられるものの長期的には横ばい傾向である。

◆九州大学◆



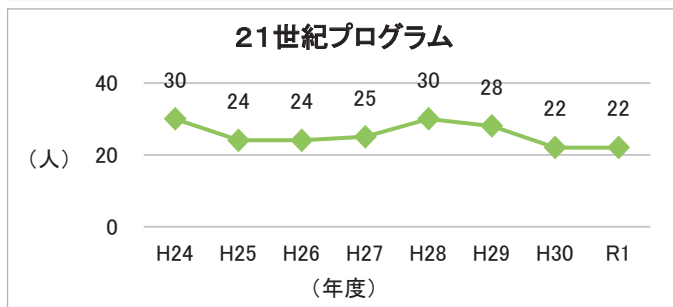
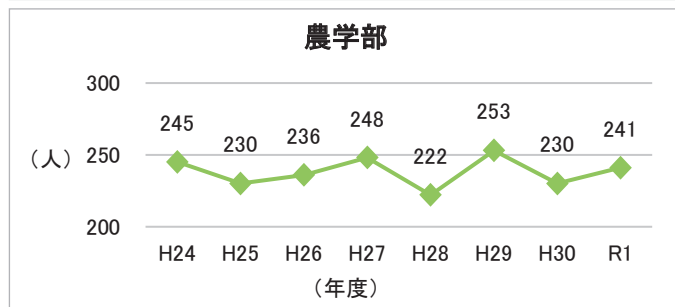
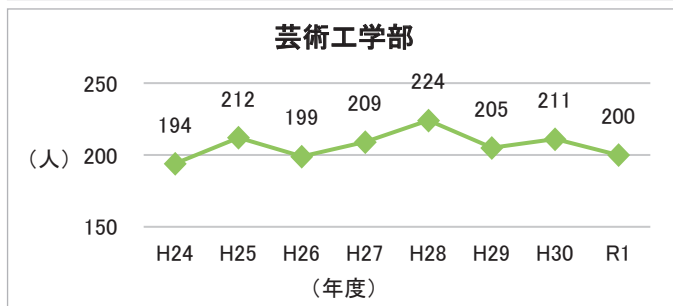
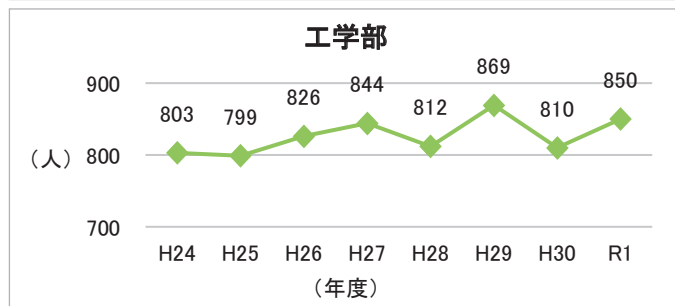
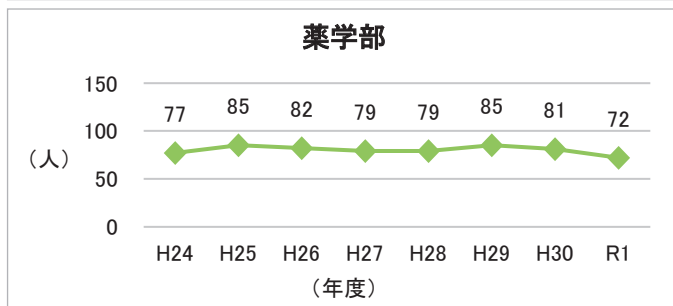
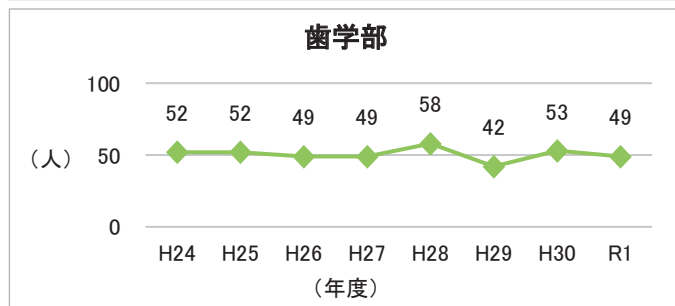
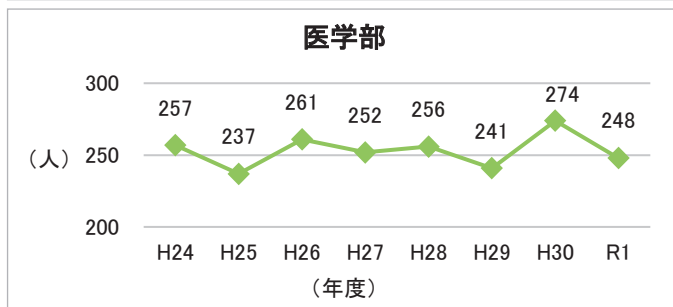
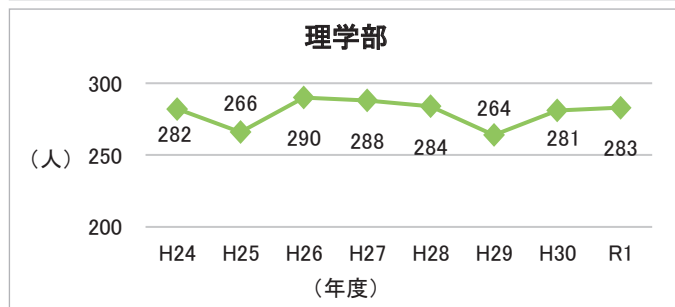
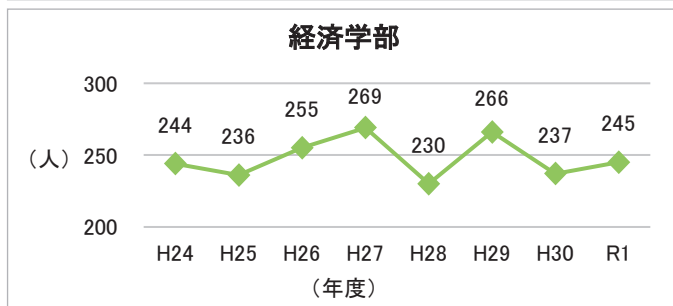
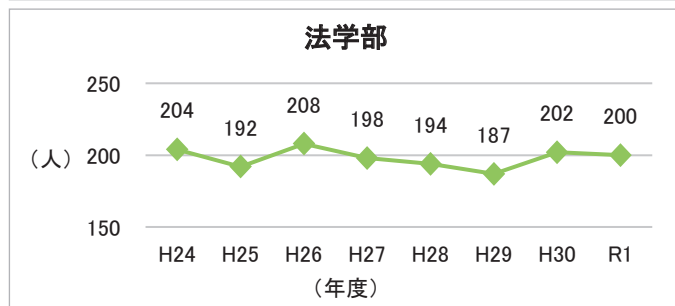
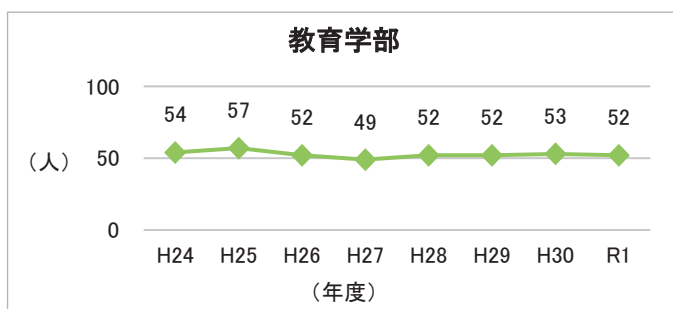
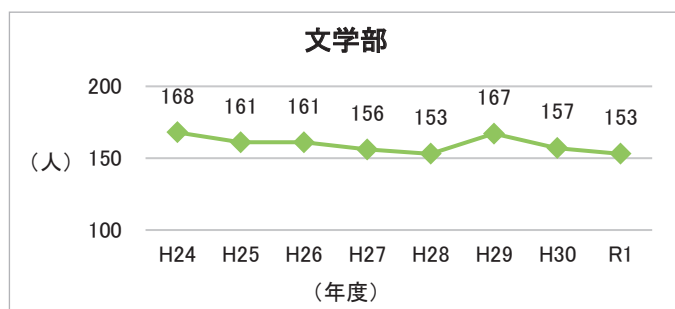
出典: 九州大学概要

◆全国 国公立大学◆



出典: 文部科学省 文部科学統計要覧「卒業者数」

6-1-2. 学部卒業生状況(学部別)



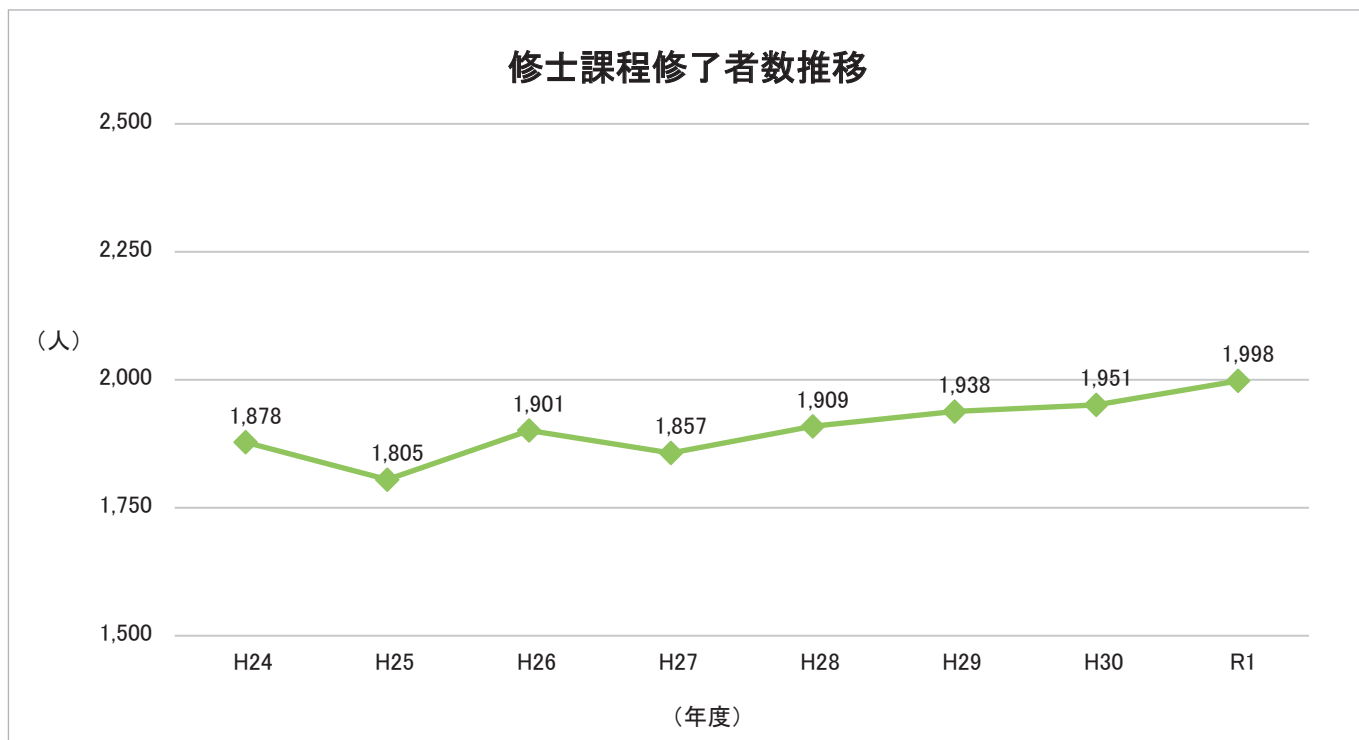
出典: 九州大学概要

6-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況

6-2-1. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況（全体）

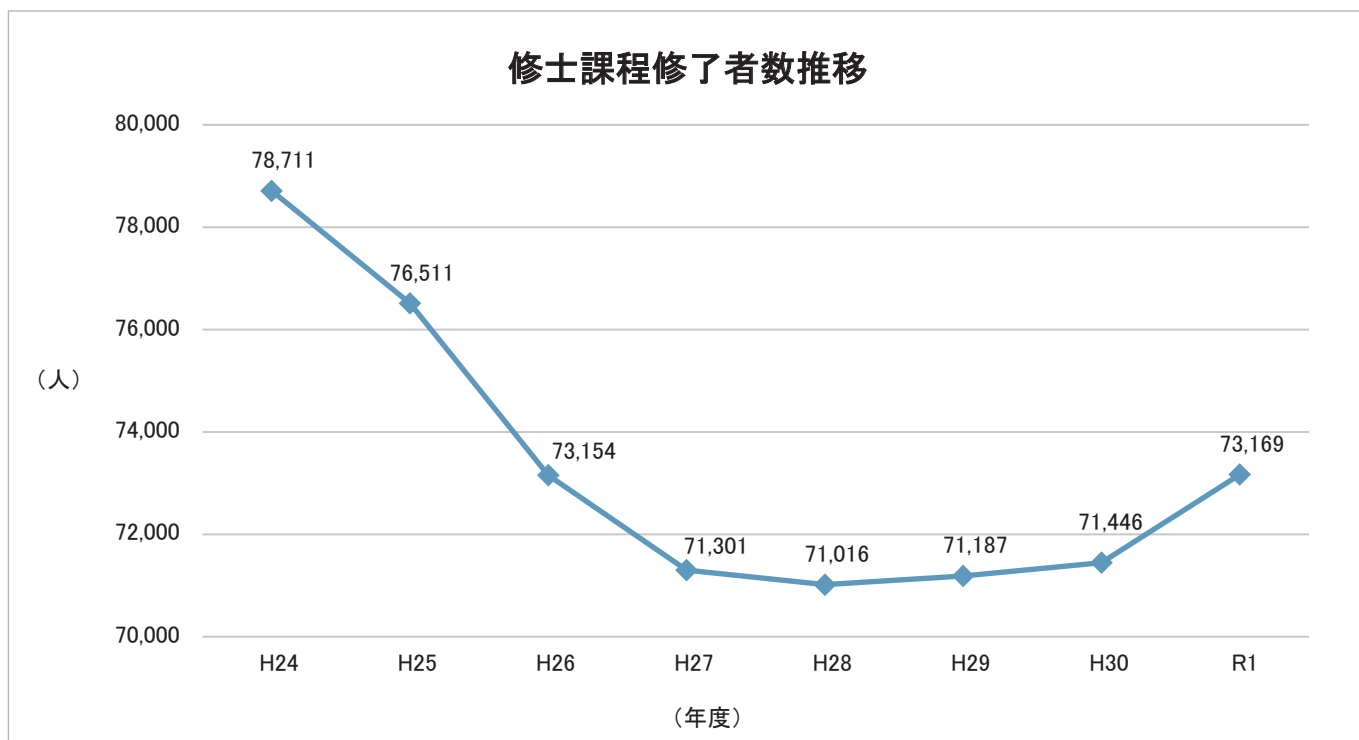
本学では本学出身の志願者を安定的に確保できていることも影響し、増加傾向である。全国的にみると、平成 28 年度を起点に、減少傾向から増加傾向に転じている。

◆九州大学◆



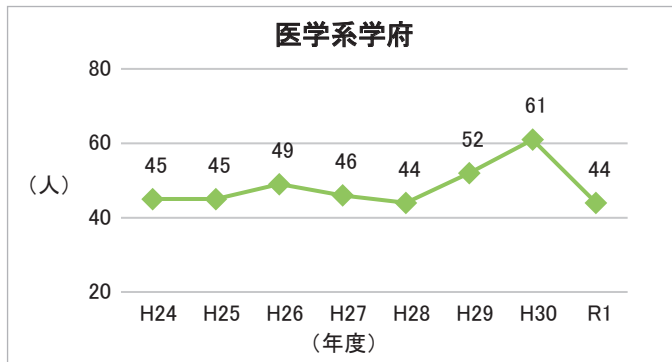
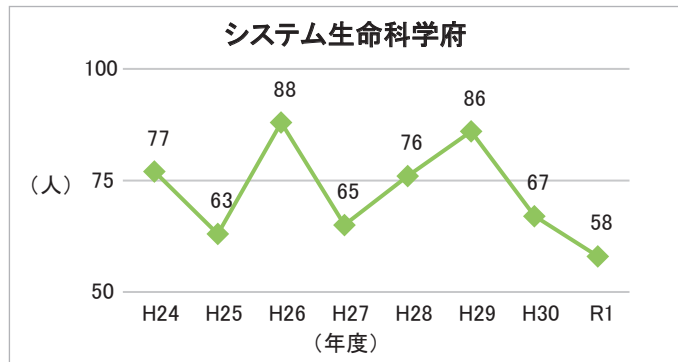
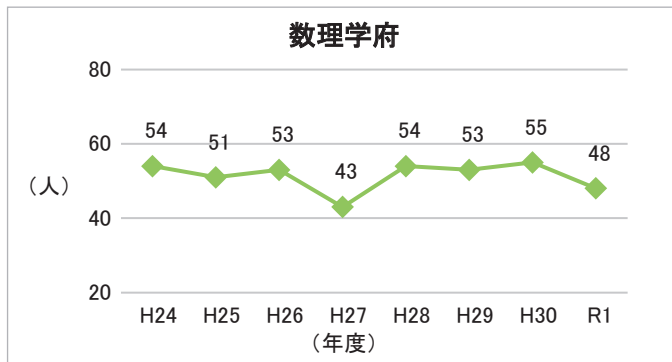
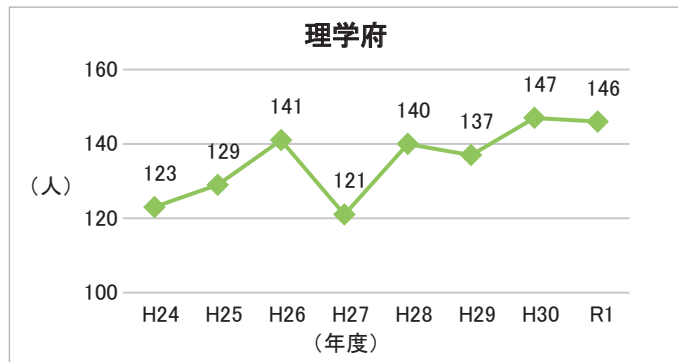
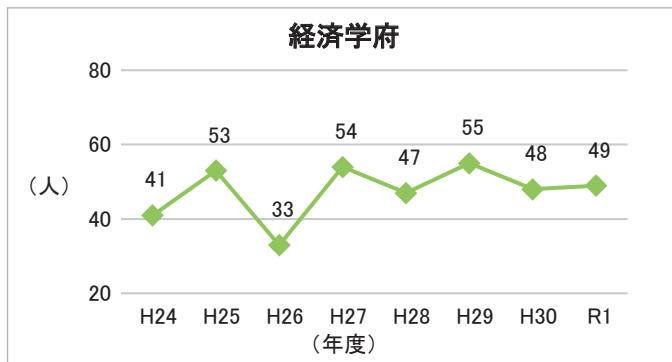
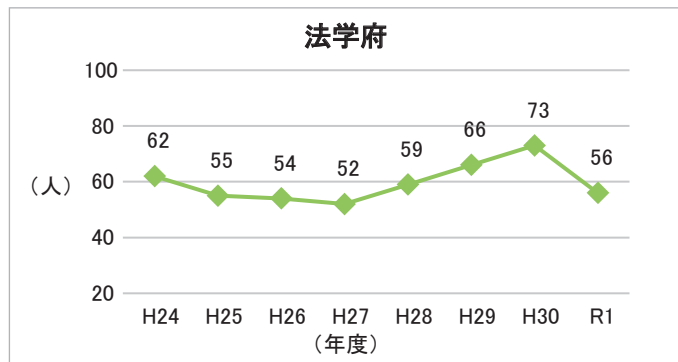
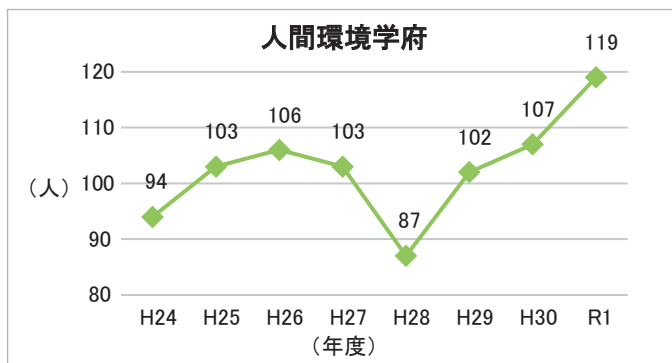
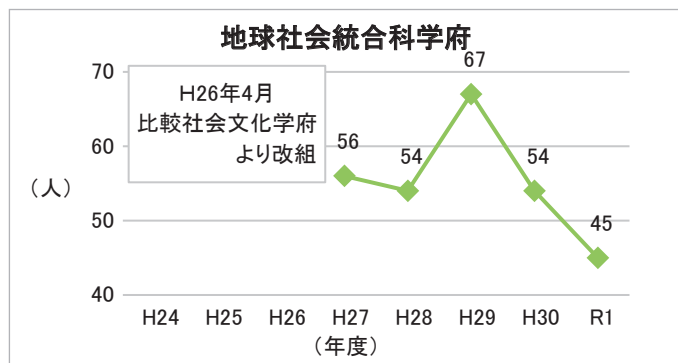
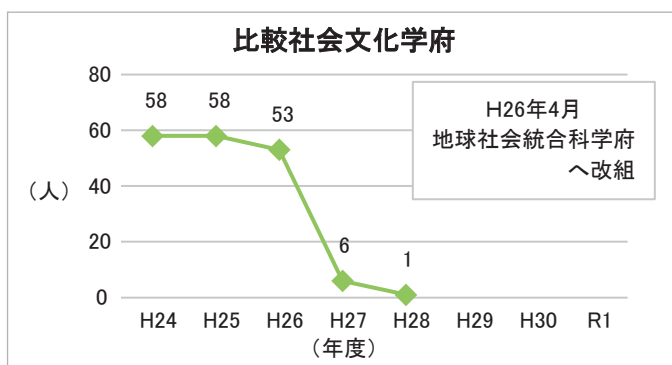
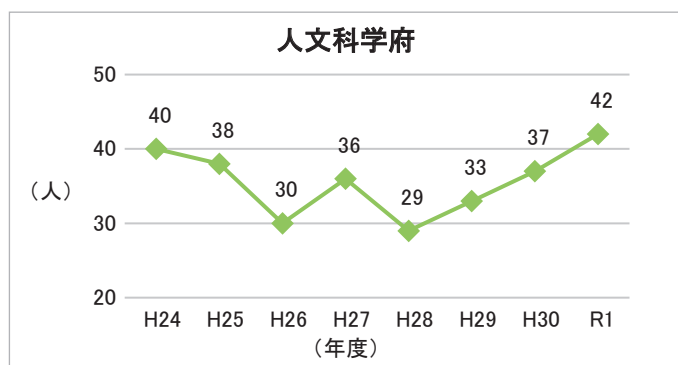
出典：九州大学概要

◆全国 国公立大学◆



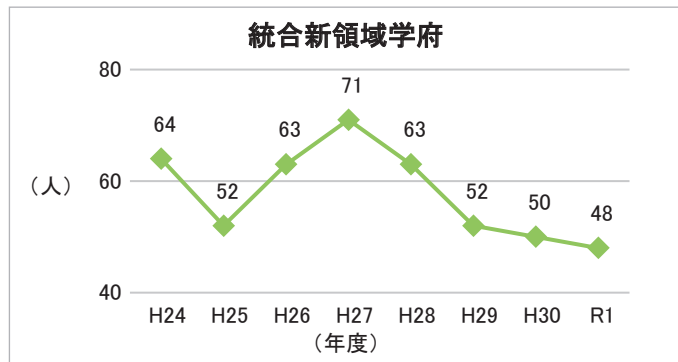
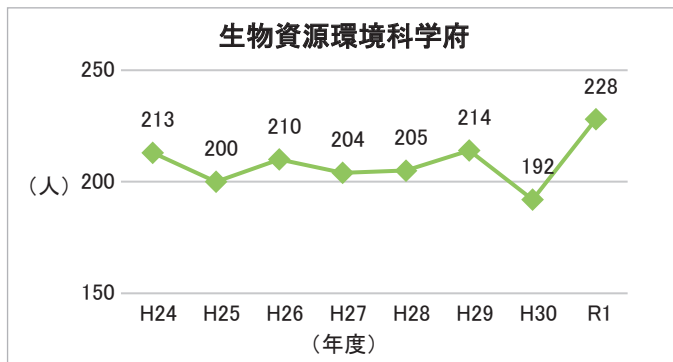
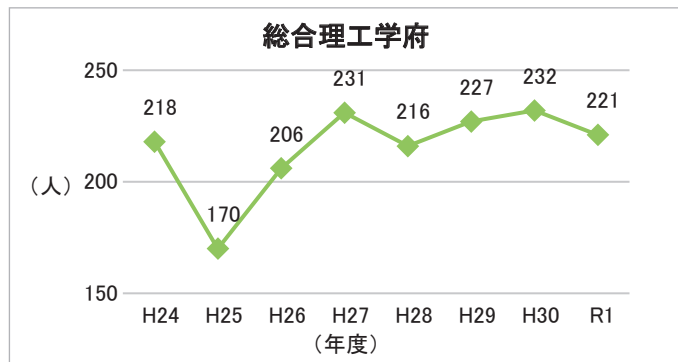
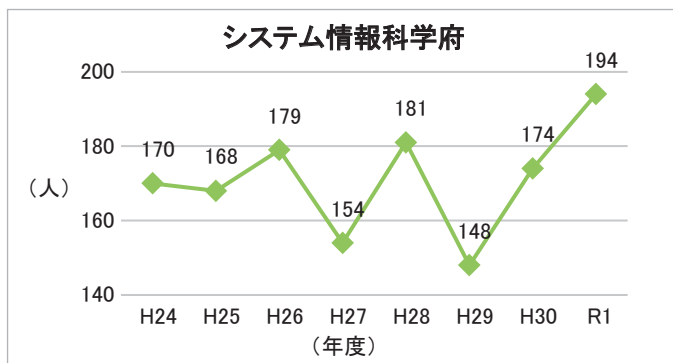
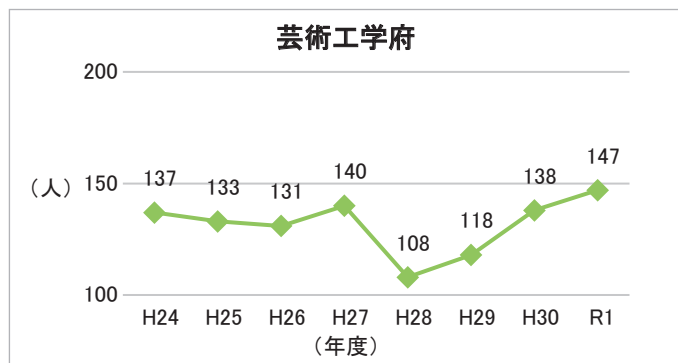
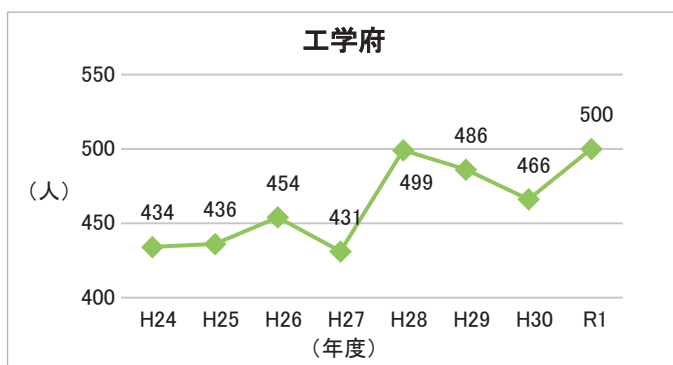
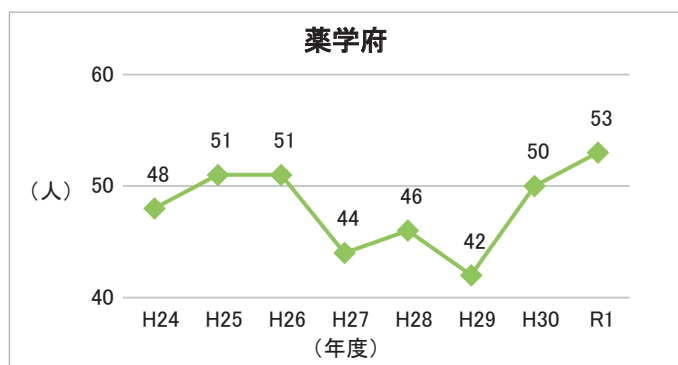
出典：文部科学省 文部科学統計要覧「卒業生数」

6-2-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況(学府別)



出典: 九州大学概要

6-2-2. 修士課程修了者数及び修士の学位取得状況（学府別）（つづき）



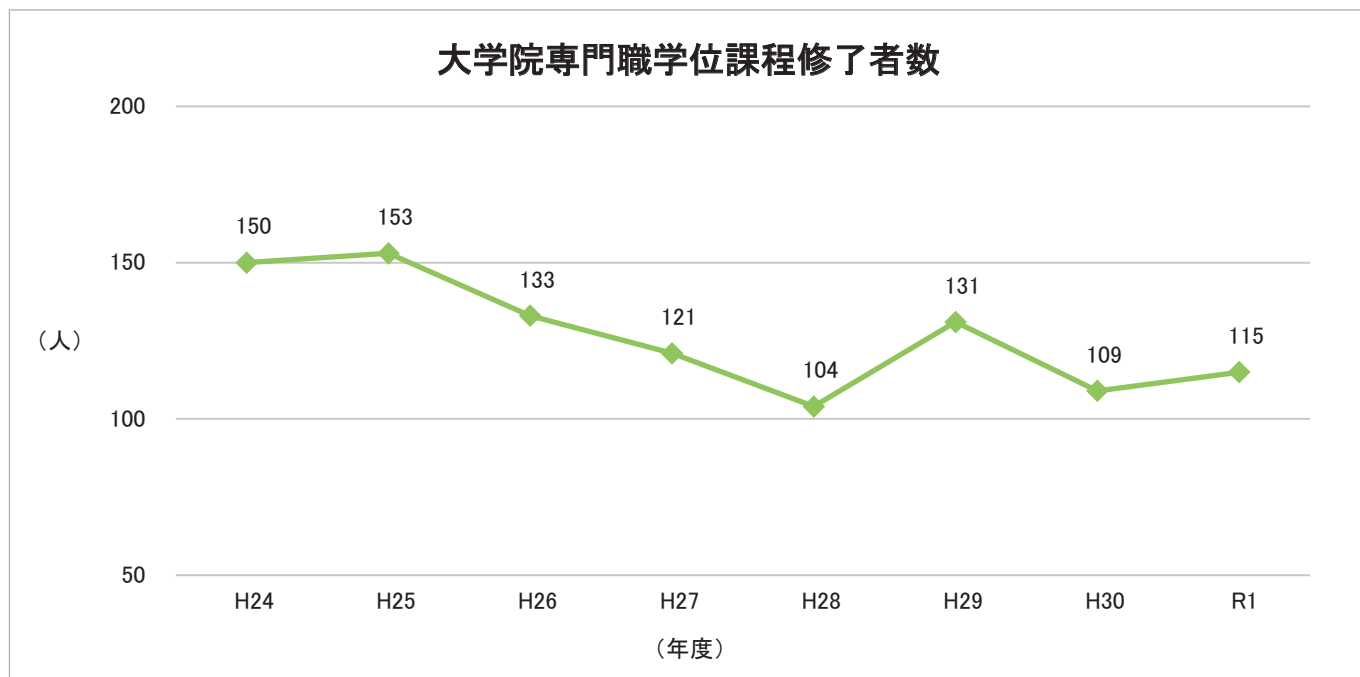
出典：九州大学概要

6-3. 専門職学位課程修了者状況

6-3-1. 専門職学位課程修了者状況(全体)

全国、本学ともに、修了者は長期的に見ると平成28年度まで年々減少傾向にある。
学府別にみると、法務学府は平成27年度に入学定員が減少したため、他学府と比べて長期的に減少傾向にある。

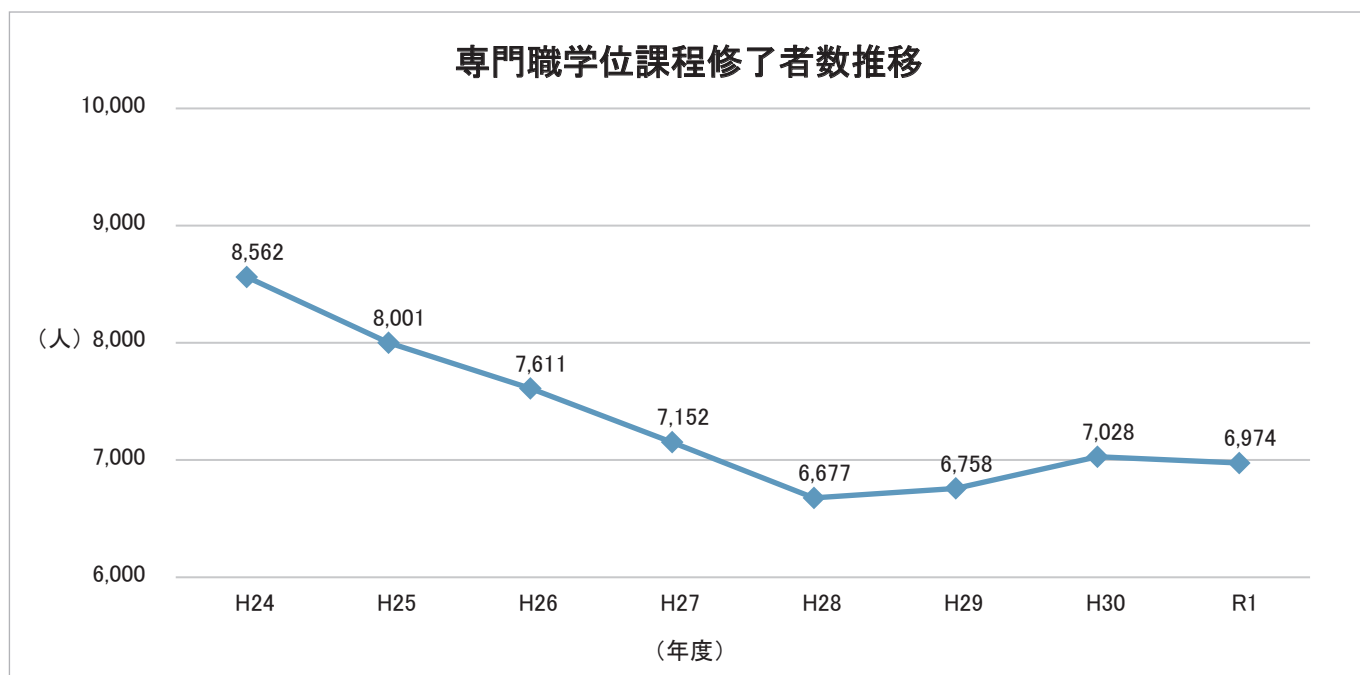
◆九州大学◆



- ・専門職学位課程：人間環境学府実践臨床心理学専攻【臨床心理分野専門職大学院】
法務学府実務法学専攻【法科大学院】
経済学府産業マネジメント専攻【経営系専門職大学院】
医学系学府医療経営・管理学専攻【公衆衛生系専門職大学院】

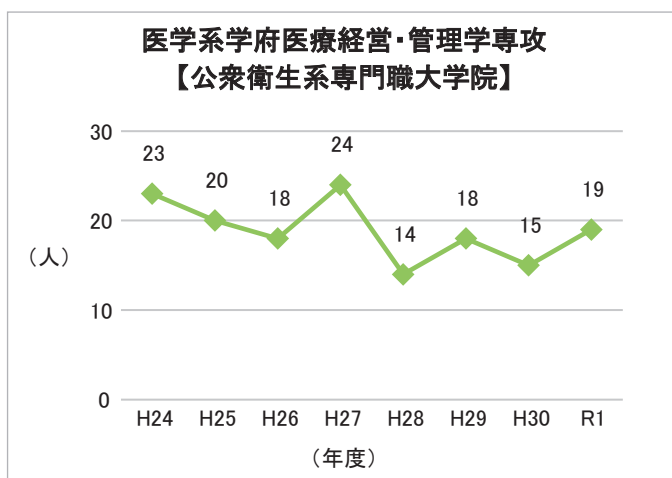
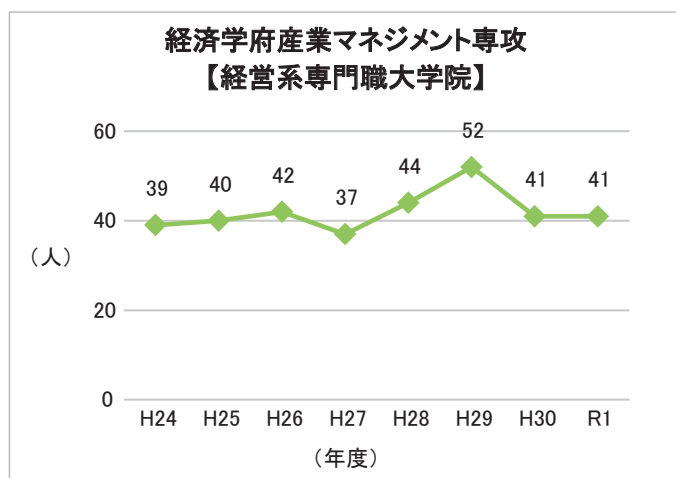
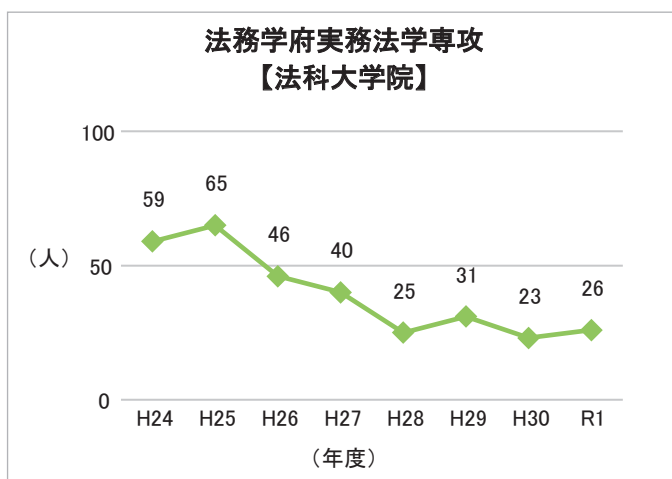
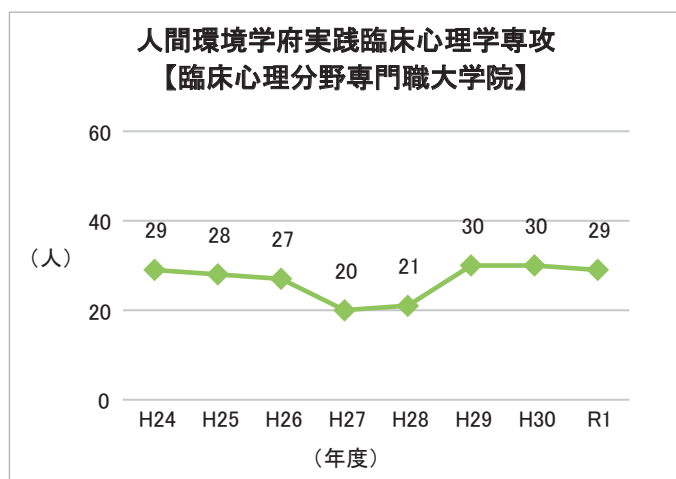
出典：九州大学概要

◆全国 国公立大学◆



出典：文部科学省 文部科学統計要覧「卒業生数」

6-3-2. 専門職学位課程修了者状況(学府別)



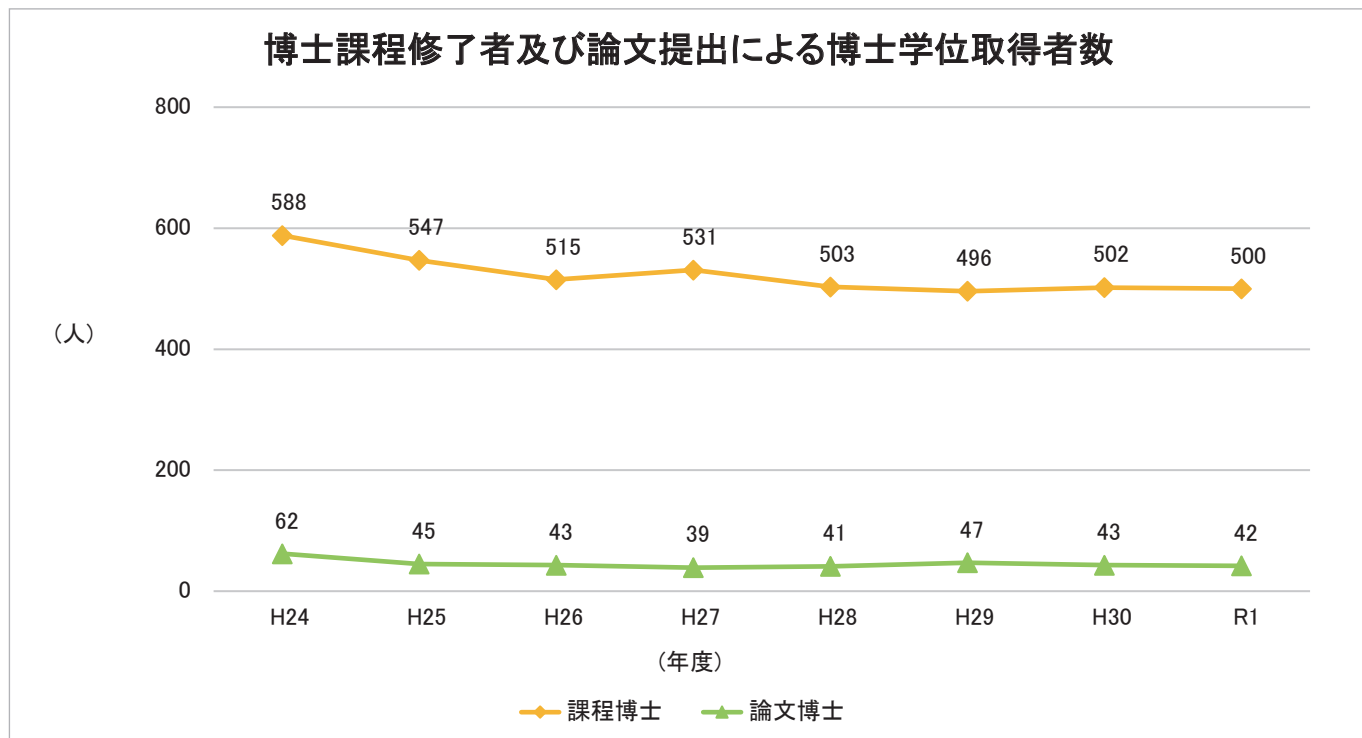
出典:九州大学概要

6-4. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況

6-4-1. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(全体)

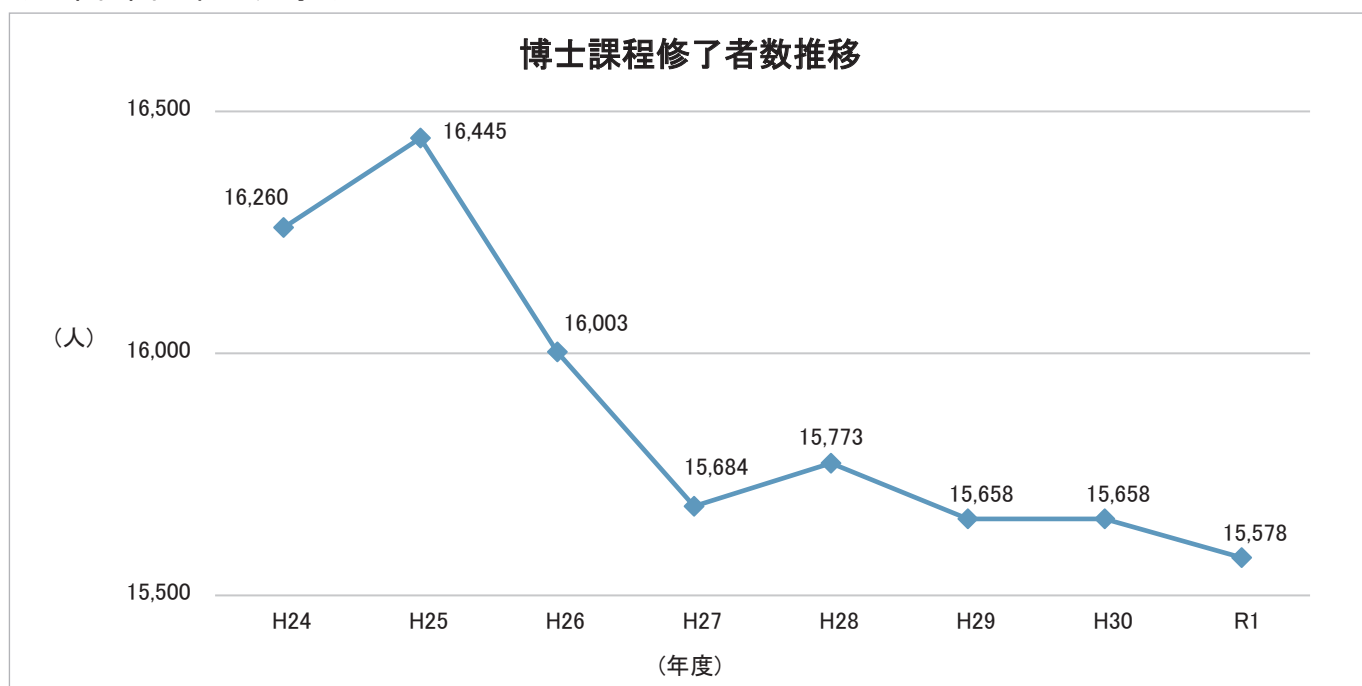
本学では大きな変化は見られないが、全国的にみると博士課程修了者数は平成25年度以降減少傾向にある。

◆九州大学◆



出典:九州大学概要

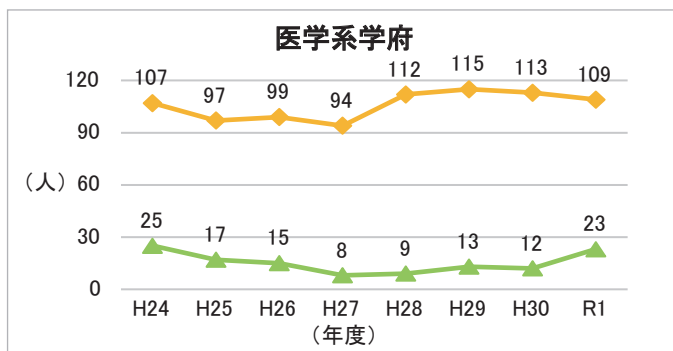
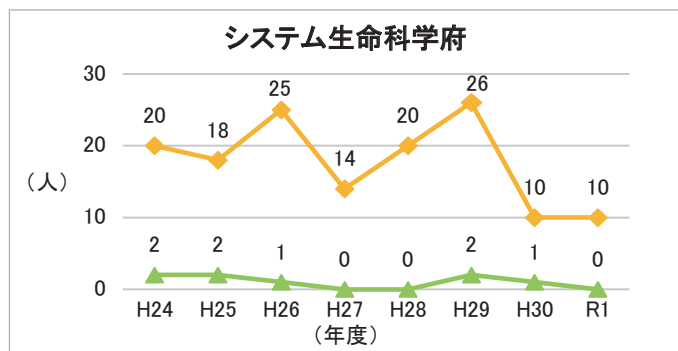
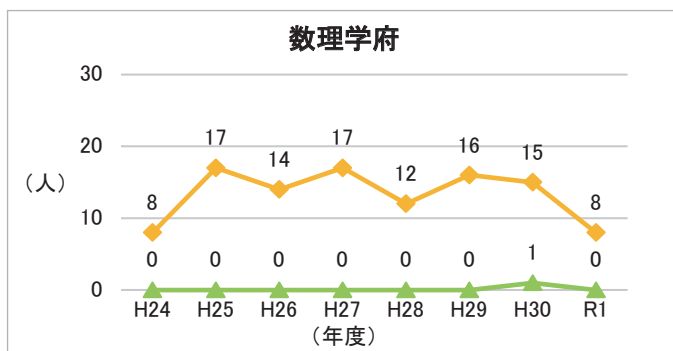
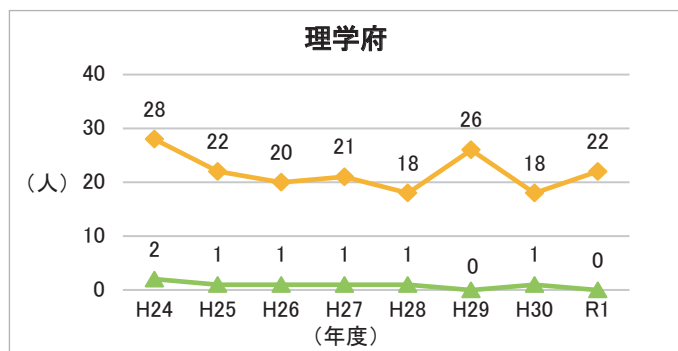
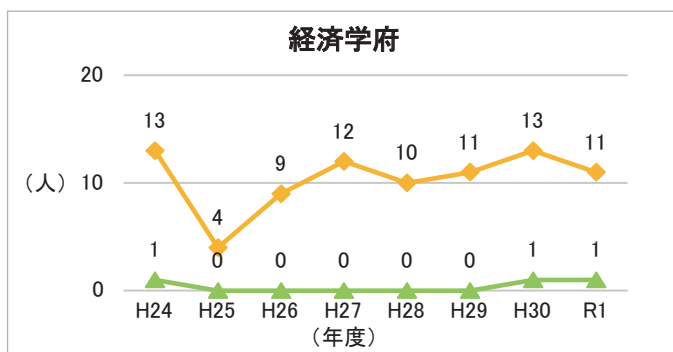
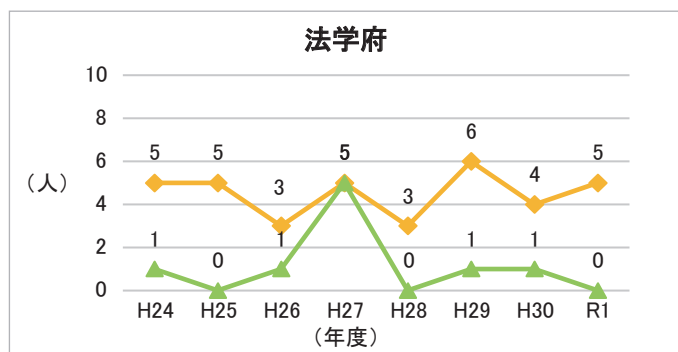
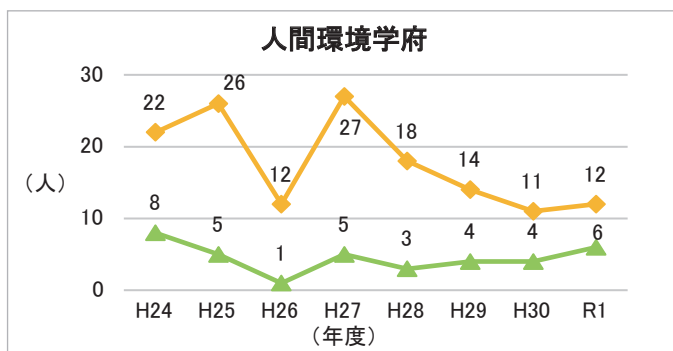
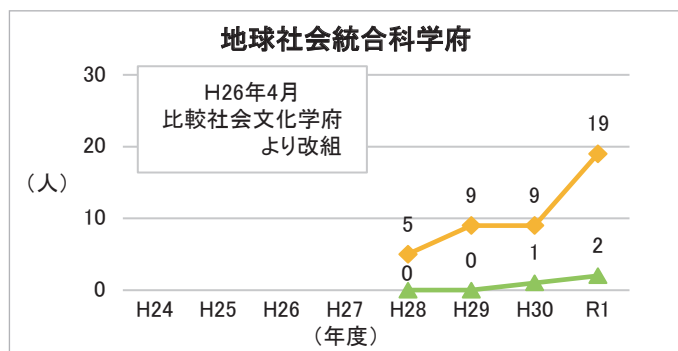
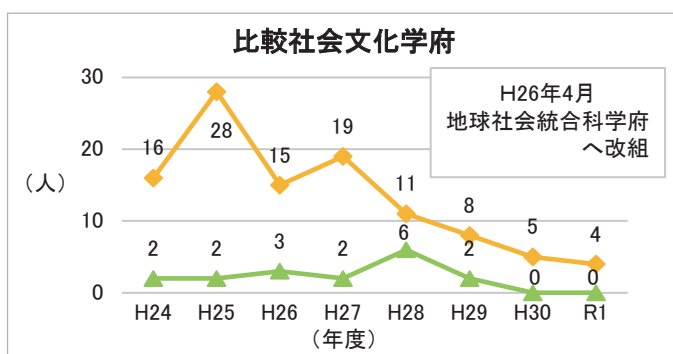
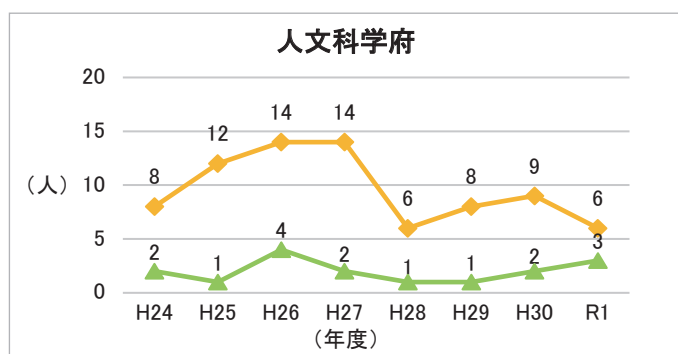
◆全国 国公立大学◆



出典:文部科学省 文部科学統計要覧「卒業者数」

6-4-2. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況(学府別)

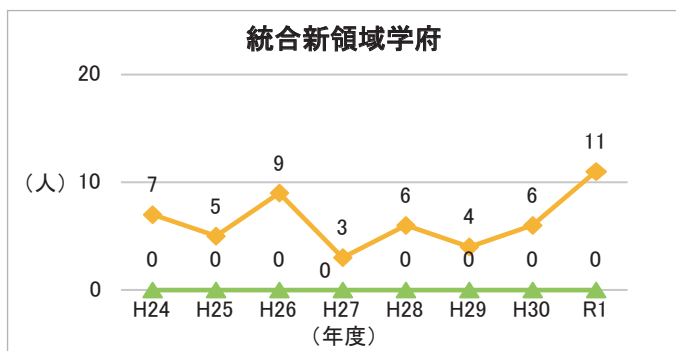
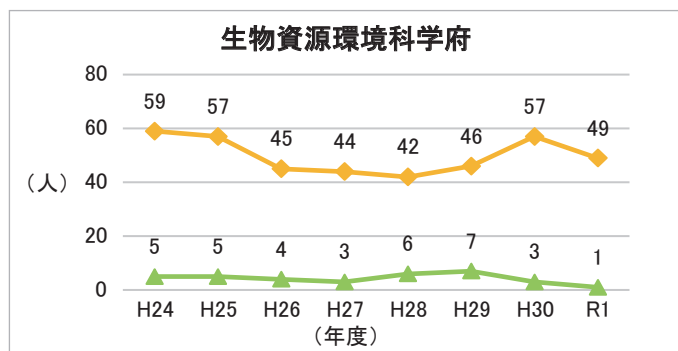
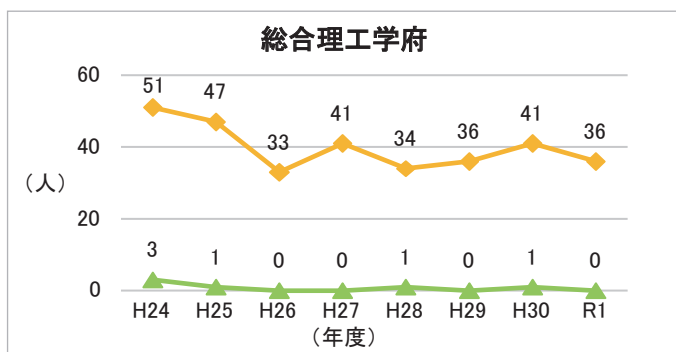
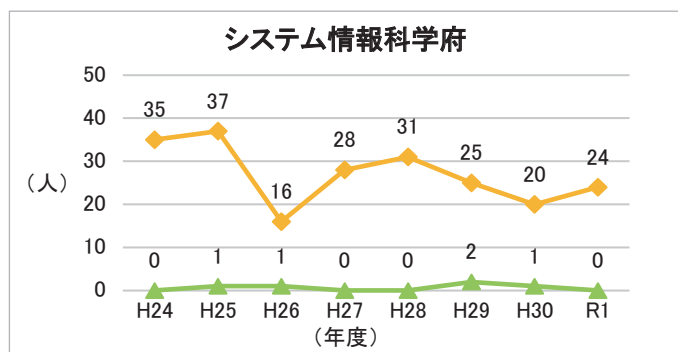
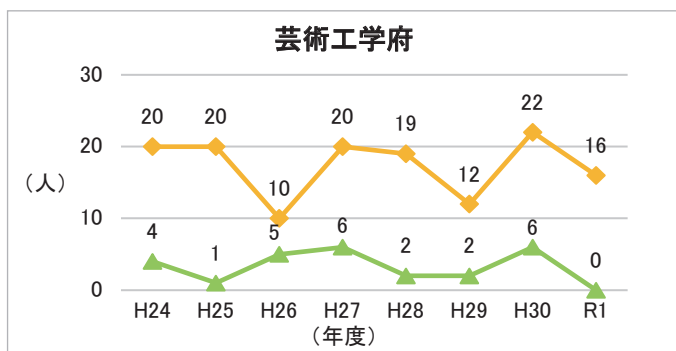
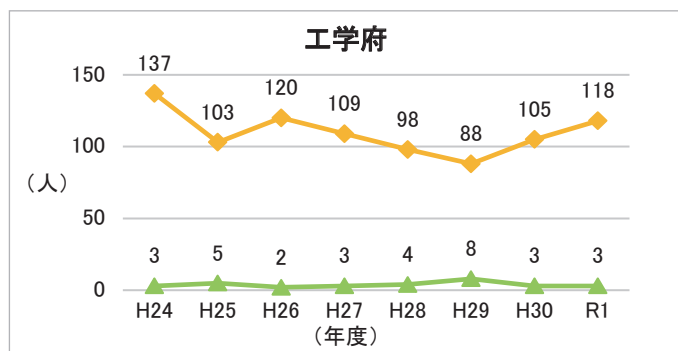
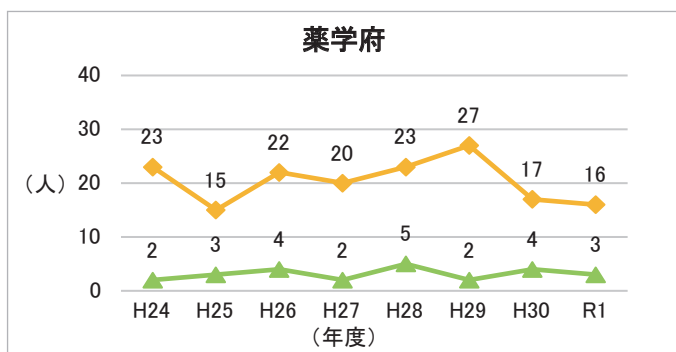
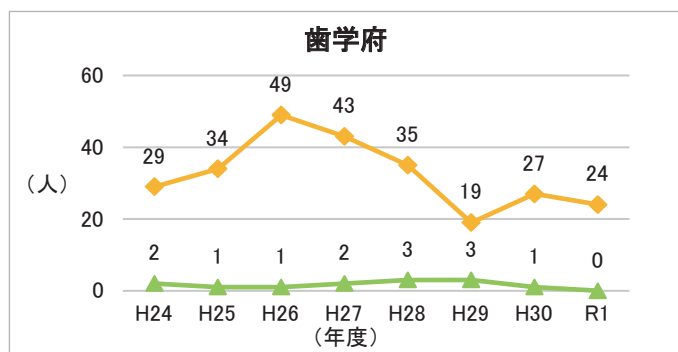
—●— 課程博士 —▲— 論文博士



出典: 九州大学概要

6-4-2. 博士課程修了者数及び論文提出による博士学位取得状況（学部別）（つづき）

— 課程博士 — 論文博士



出典：九州大学概要

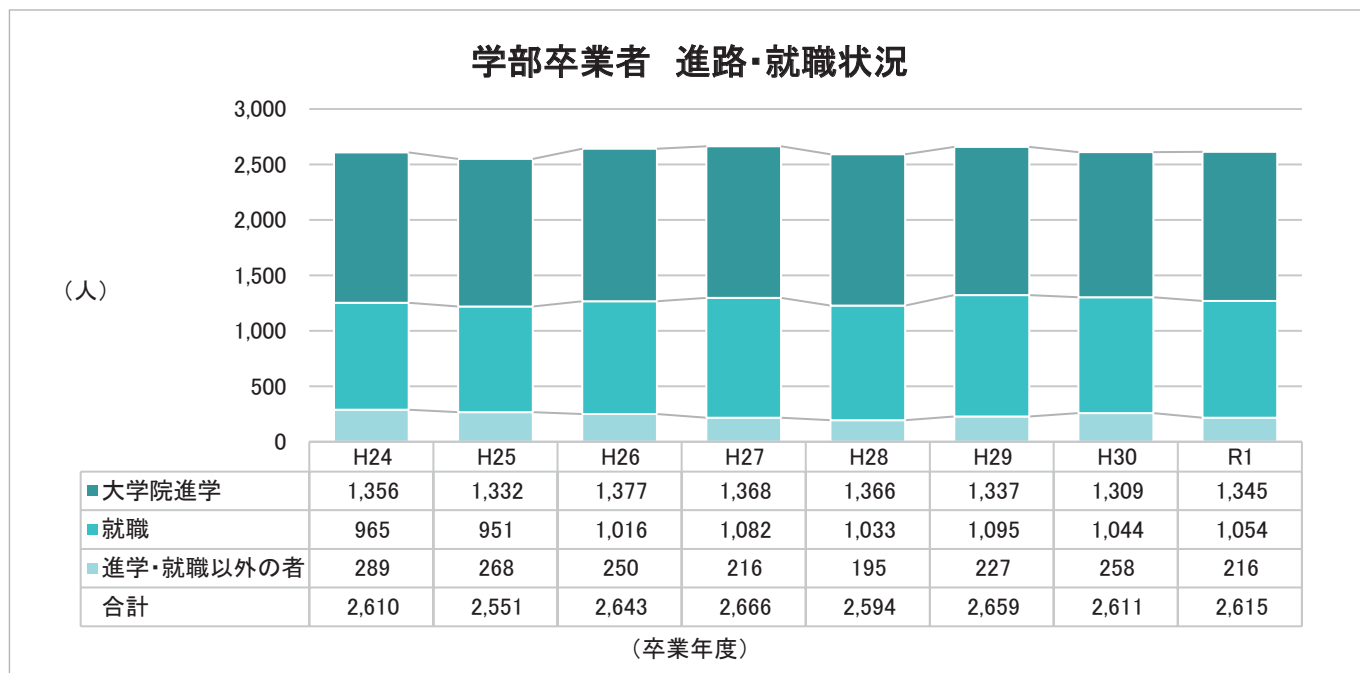
7. 進路・就職状況 (各年度5月1日現在)

7-1. 学部卒業者の進路・就職状況

7-1-1. 学部卒業者の進路・就職状況(全体)

全国的にみると、就職者の割合が最も高くなっているが、本学では、大学院進学割合がやや高い。

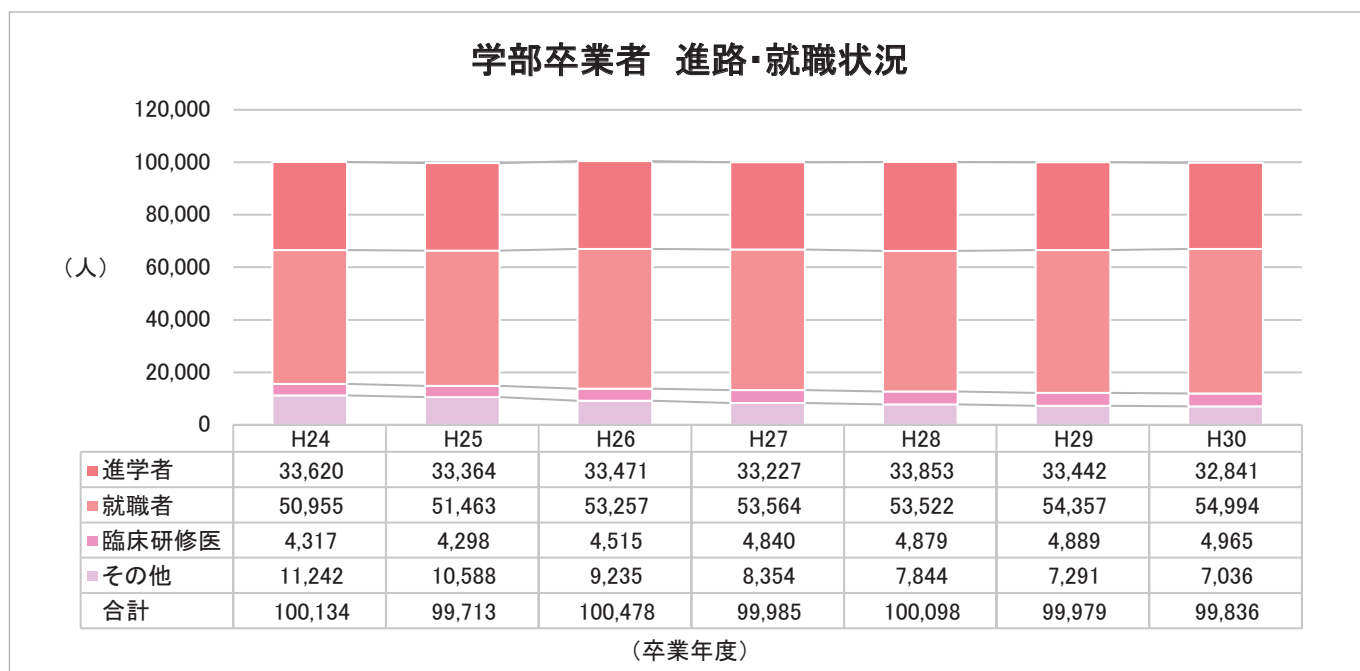
◆九州大学◆



- ・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

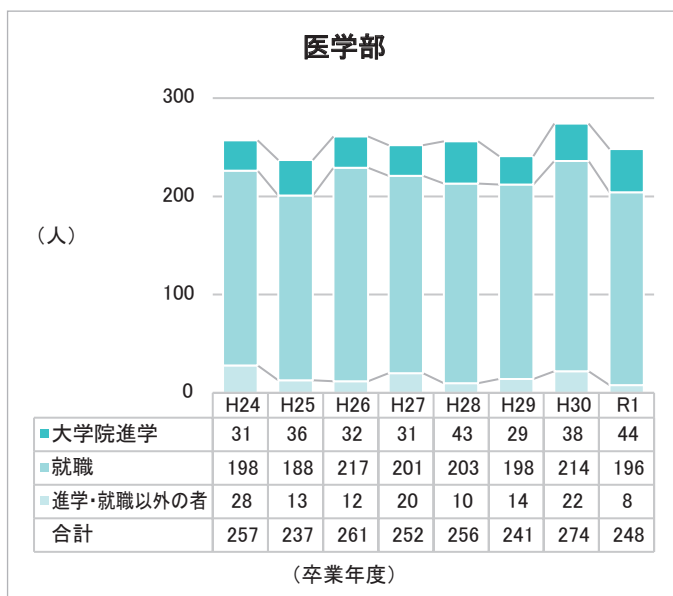
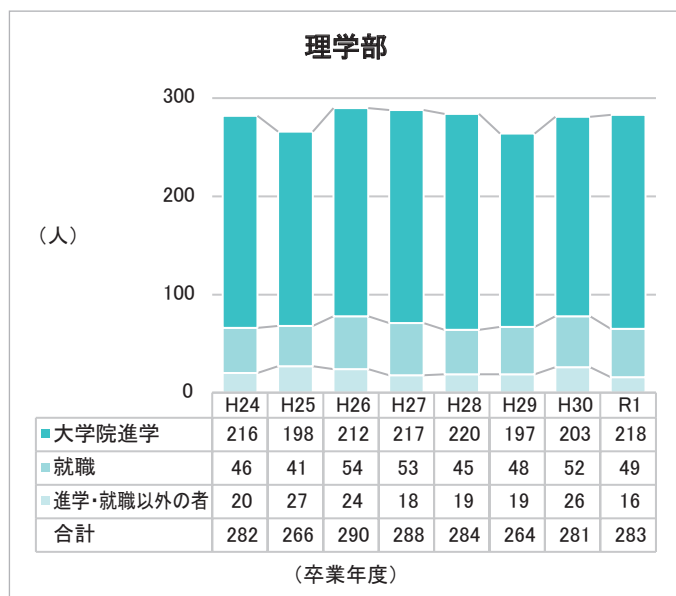
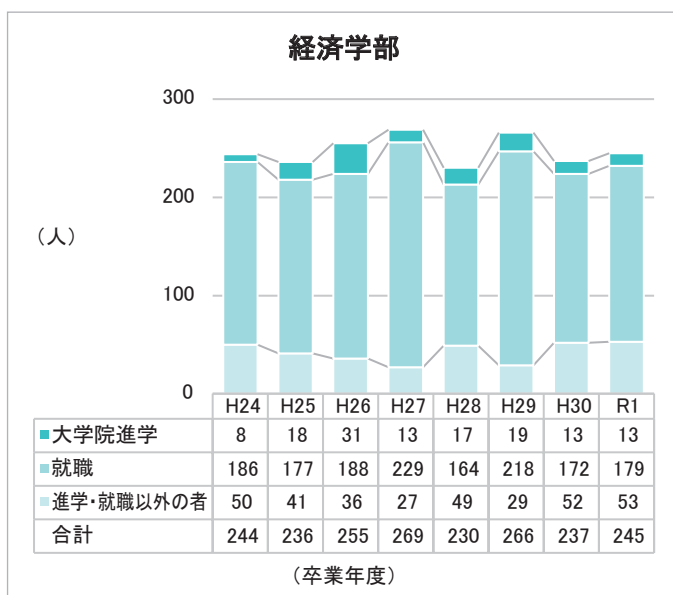
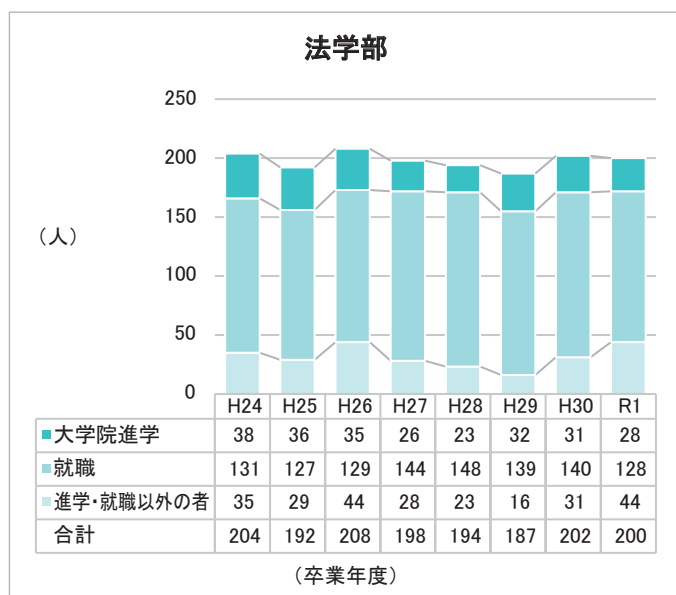
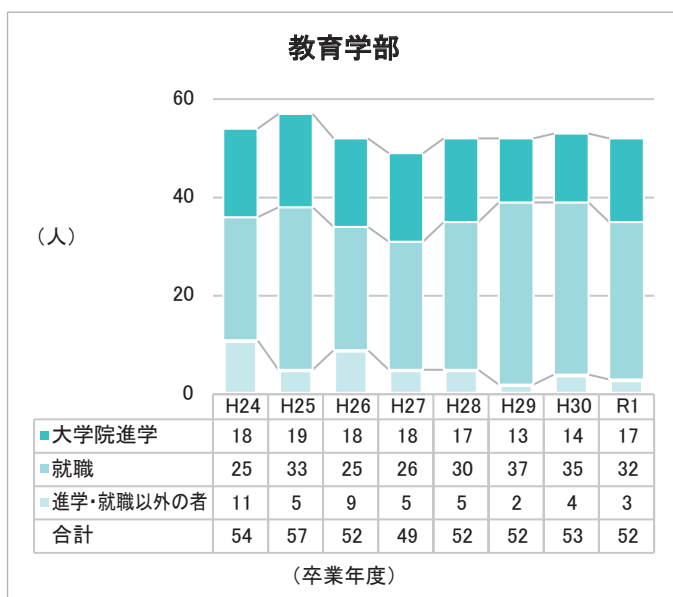
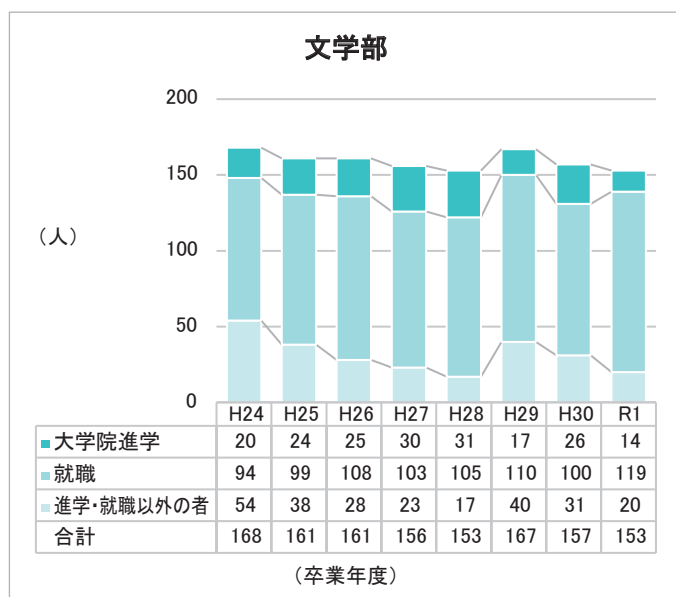
◆全国 国立大学◆



- ・「その他」は、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

出典：文部科学省 学校基本調査 卒業後の状況調査 大学「関係学科別 状況別 卒業者数」

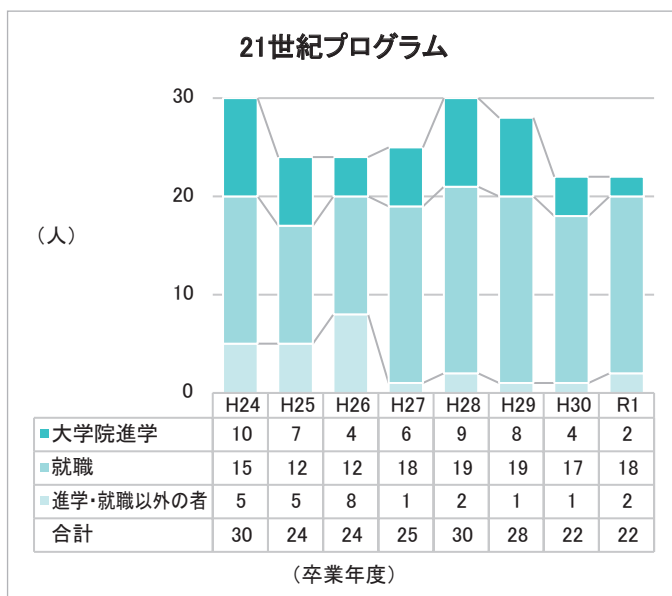
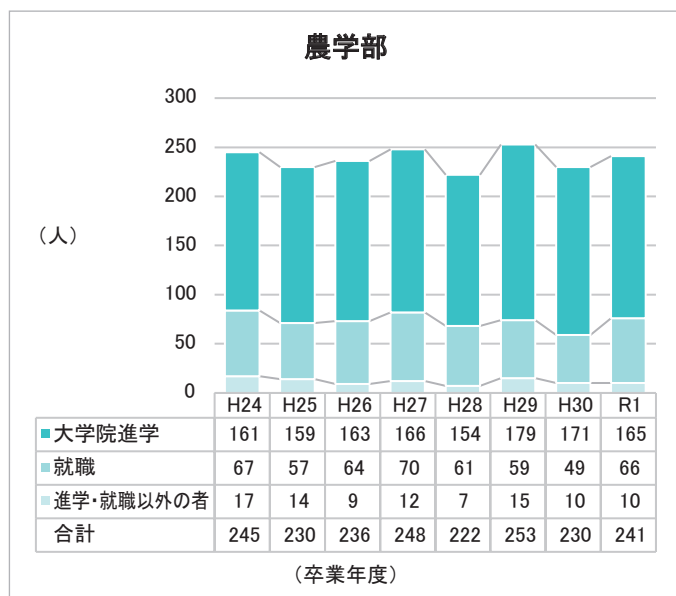
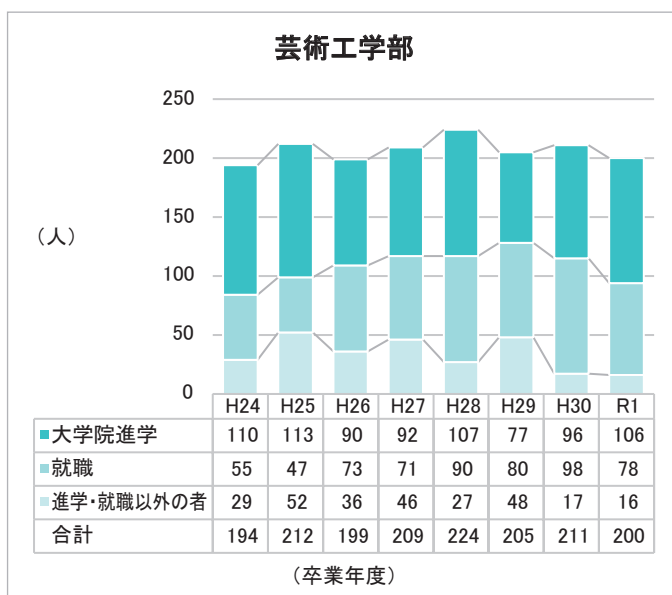
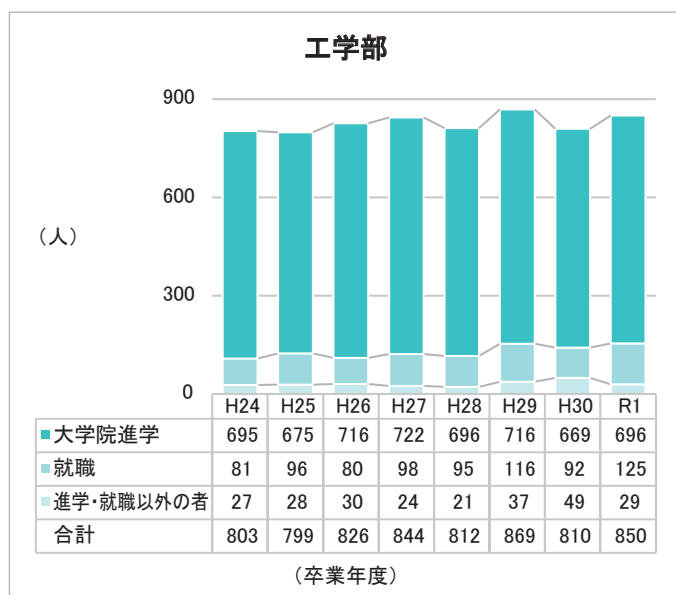
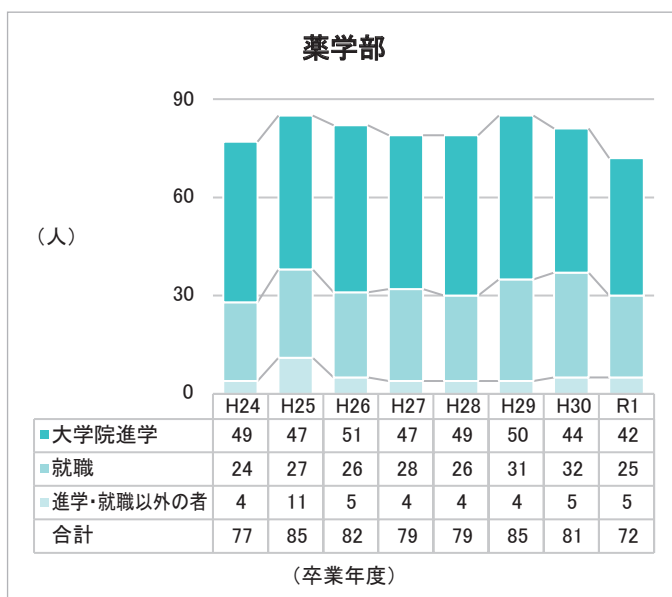
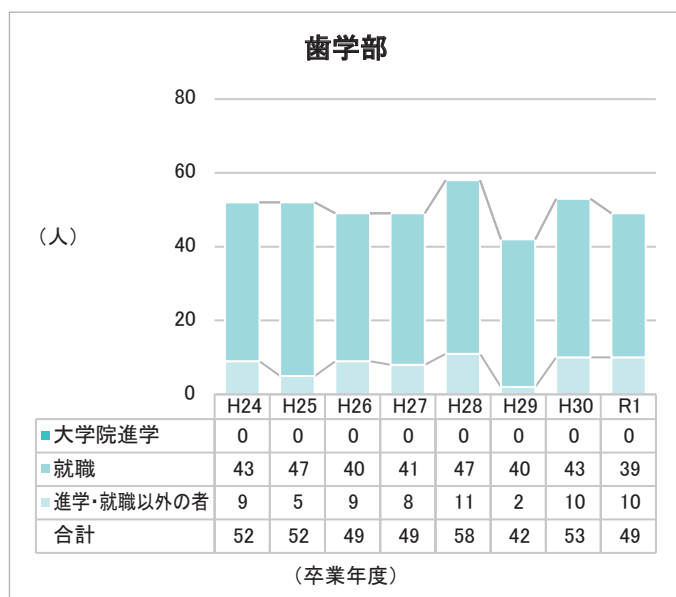
7-1-2. 学部卒業者の進路・就職状況(学部別)



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

7-1-2. 学部卒業者の進路・就職状況（学部別）（つづき）



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

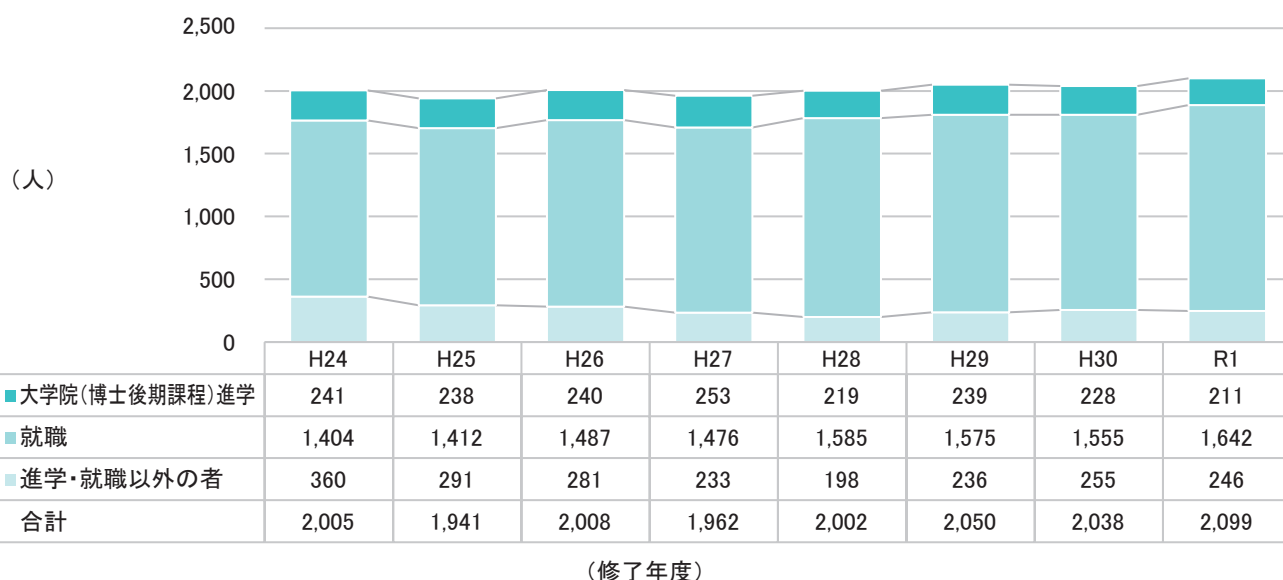
7-2. 修士課程修了者の進路・就職状況

7-2-1. 修士課程修了者の進路・就職状況(全体)

本学、全国ともに、全体的に横ばい傾向であり、就職者の割合が最も高くなっている。

◆九州大学◆

修士課程修了者 進路・就職状況

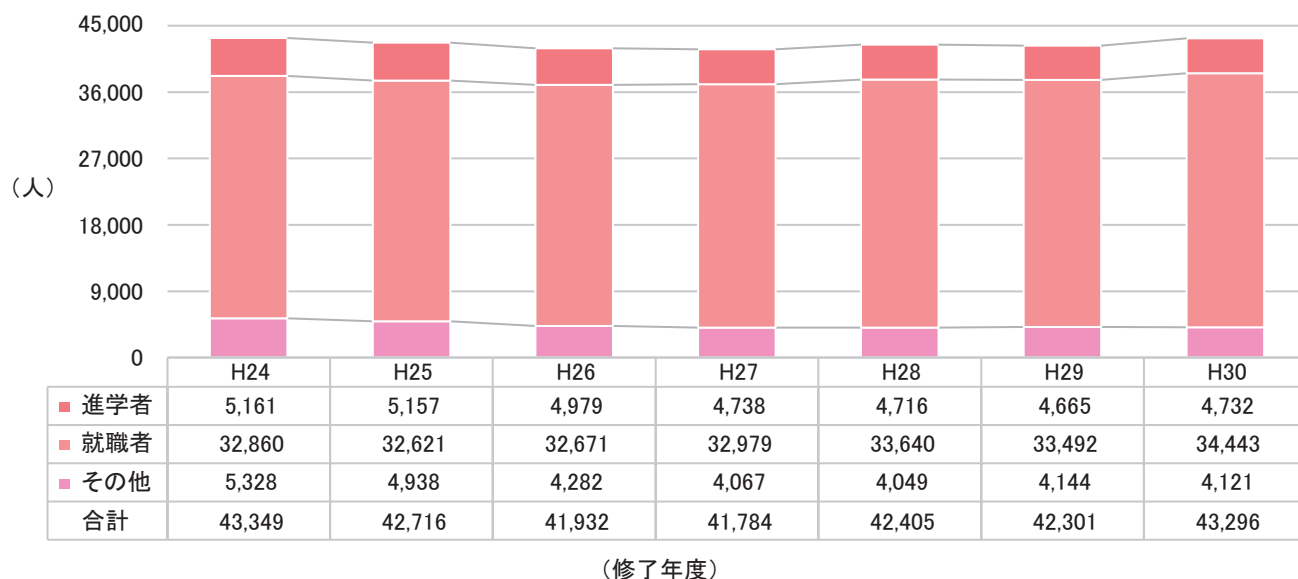


- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等、司法試験等国家試験準備(法務学府)を含む。

出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

◆全国 国立大学◆

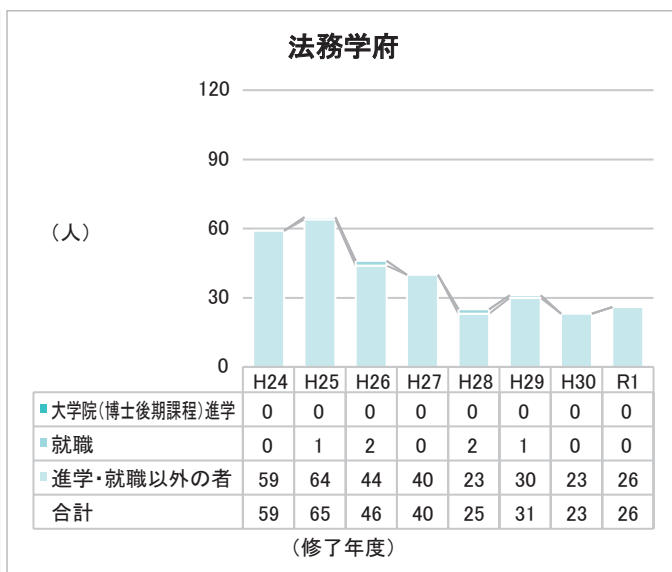
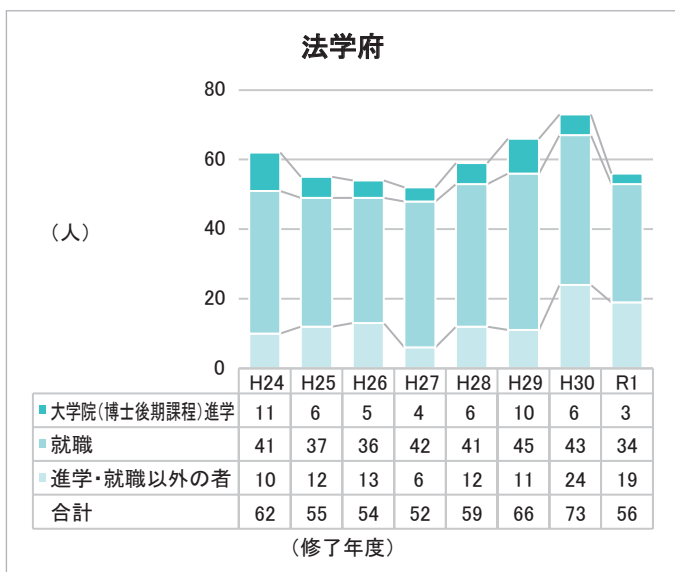
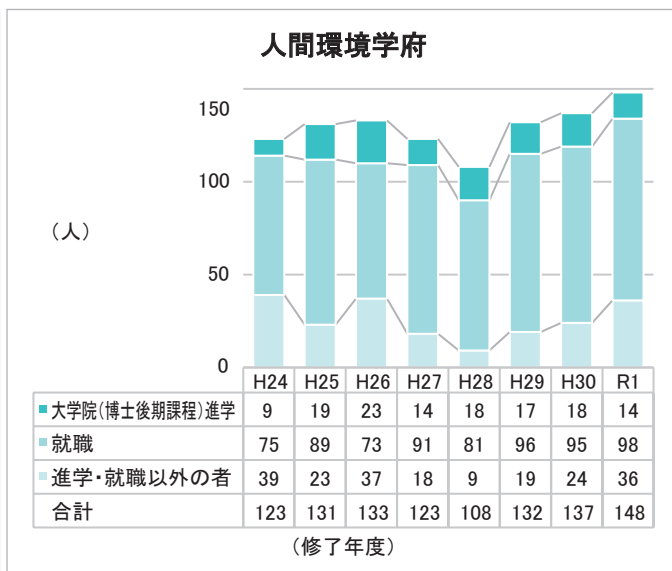
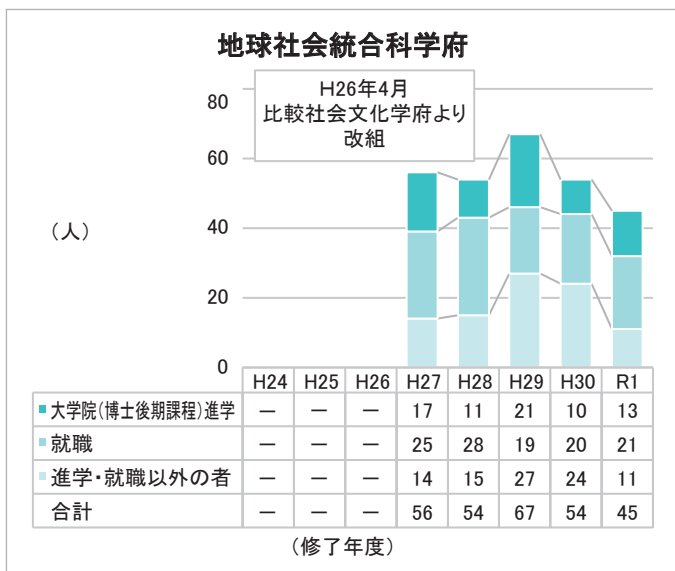
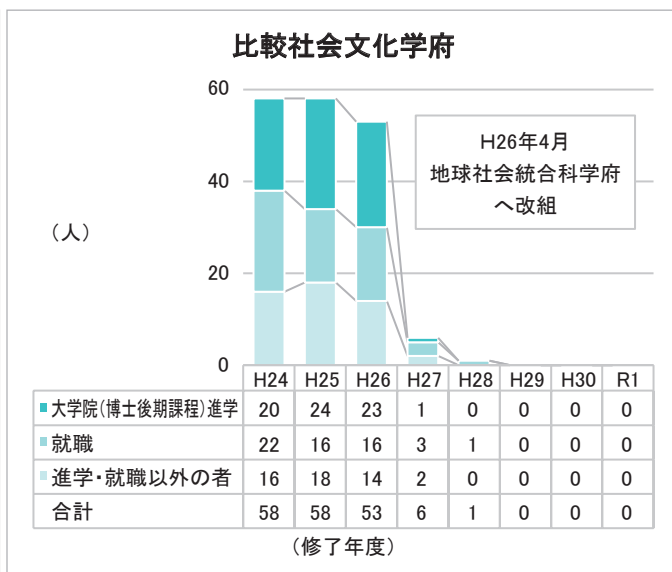
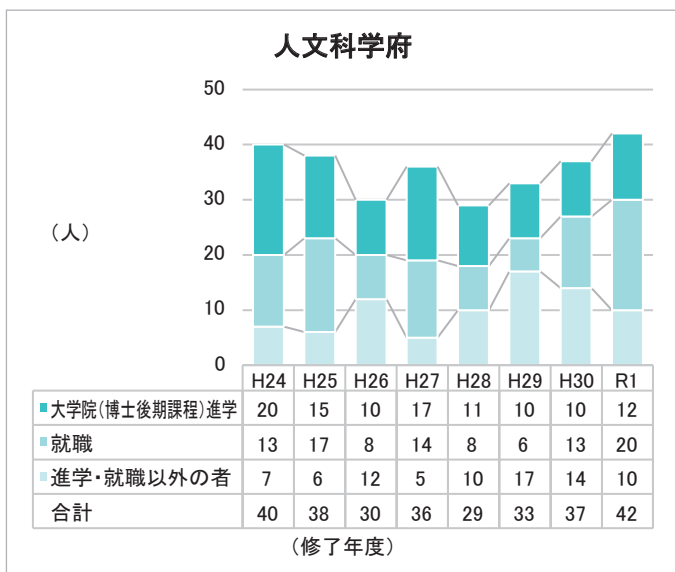
修士課程状況別修了者 進路・就職状況



- ・「その他」は、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

出典：文部科学省 学校基本調査 卒業後の状況調査 大学院「修了課程の状況別 卒業者数」

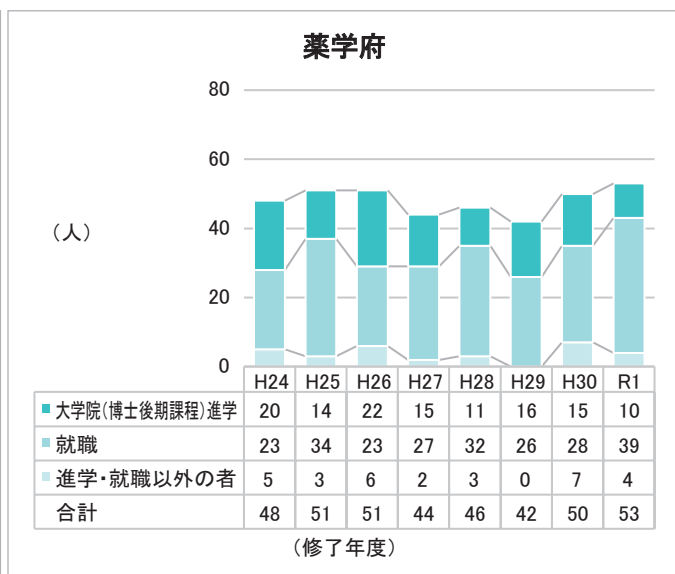
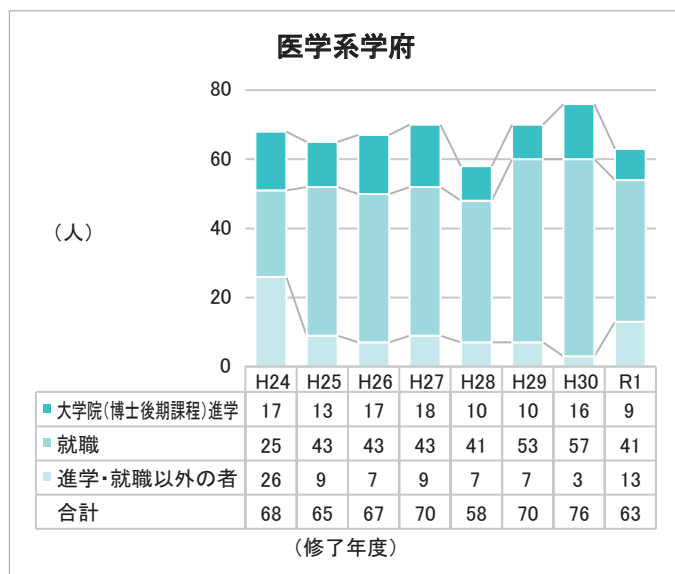
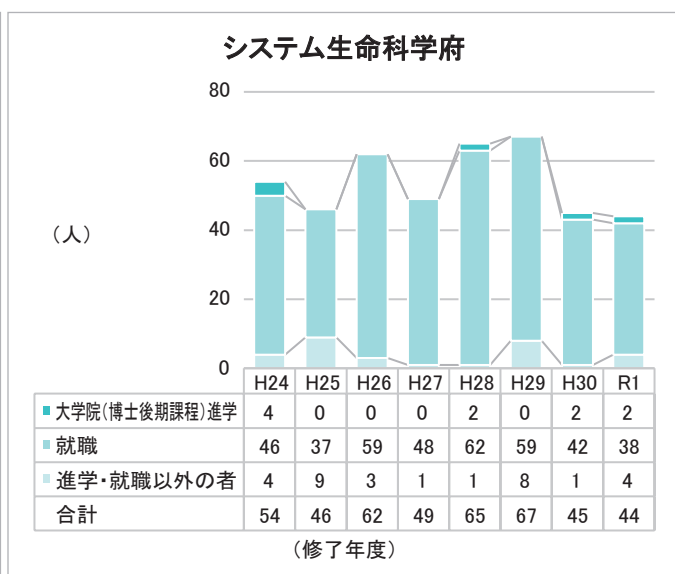
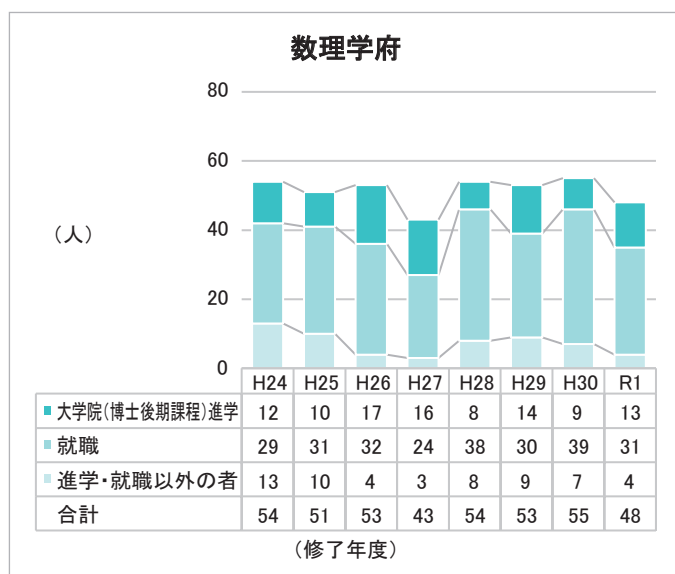
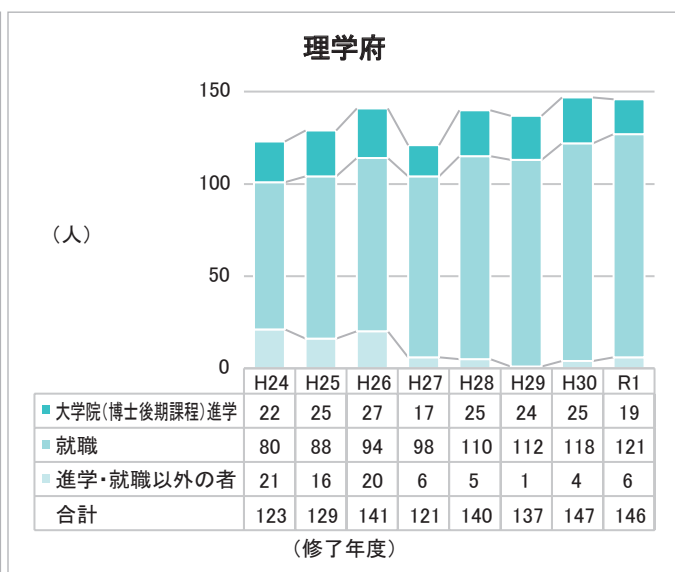
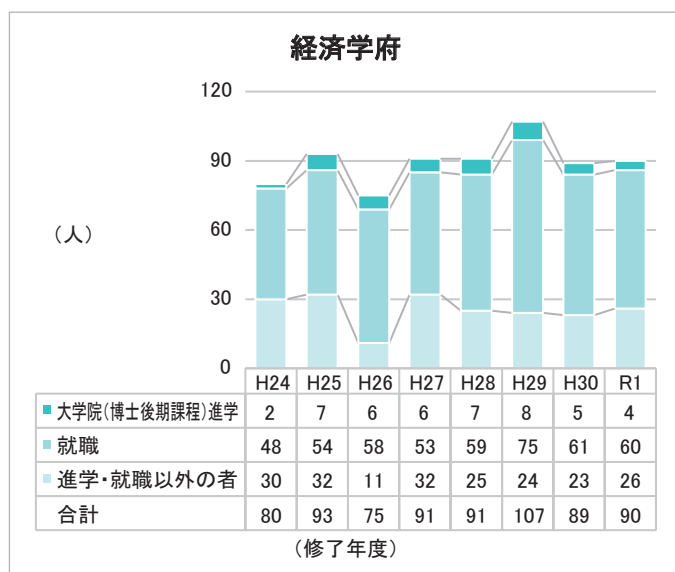
7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況(学府別)



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。
- ・法務学府の「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備を含む。

出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

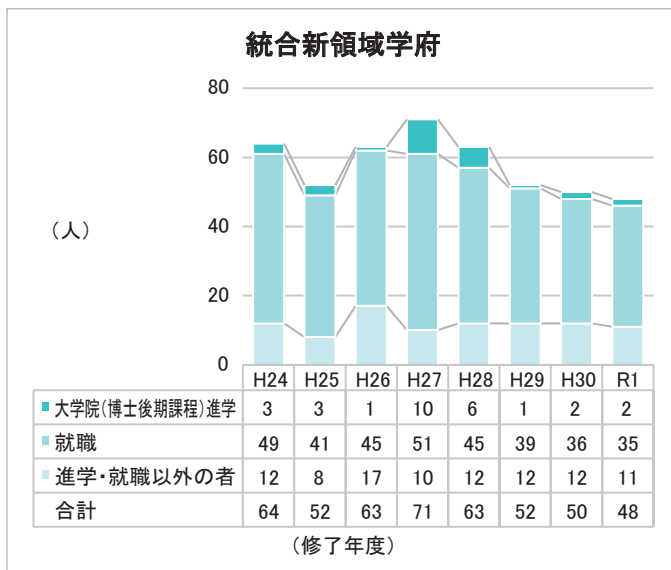
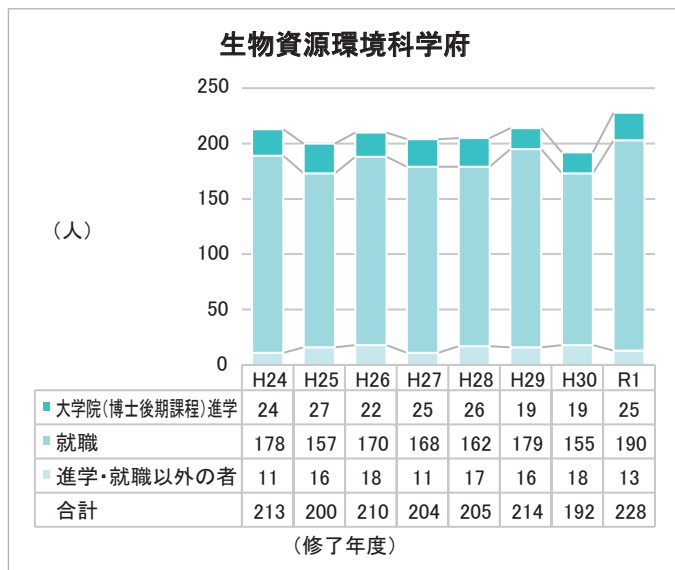
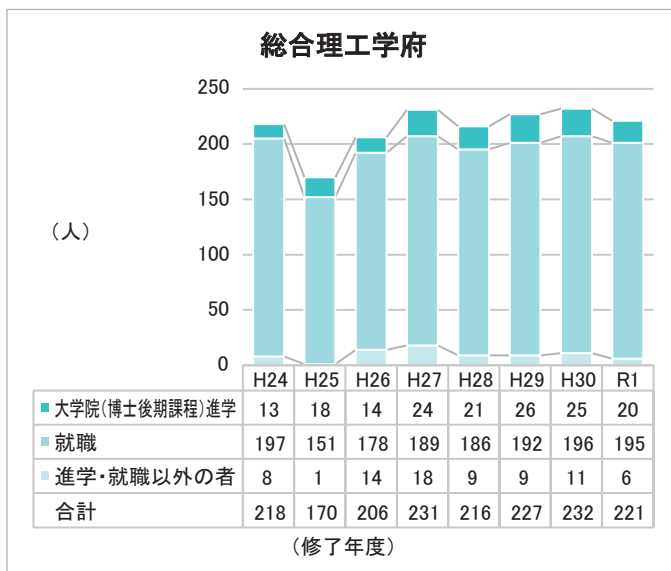
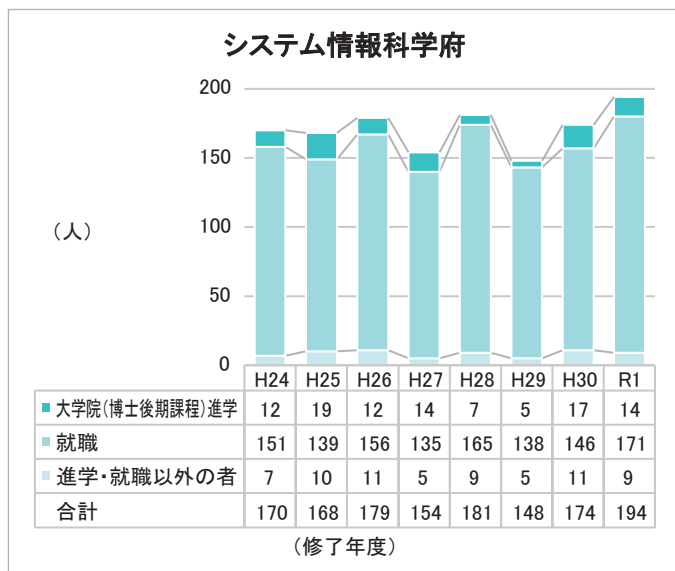
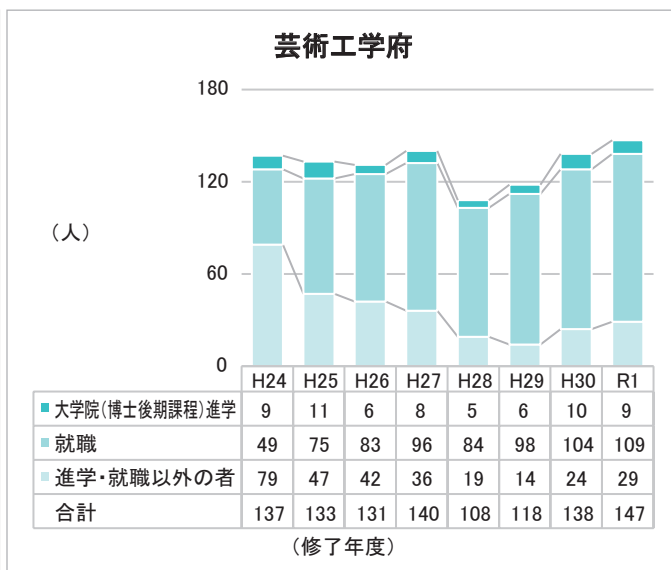
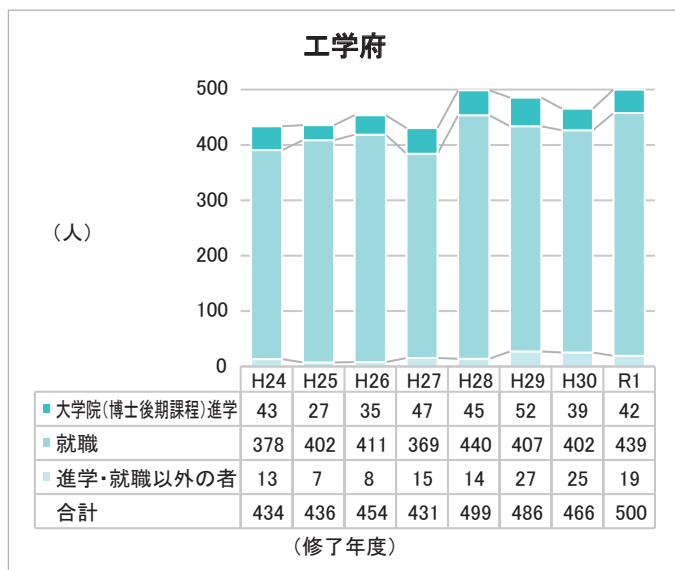
7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況（学部別）（つづき）



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。
- ・法務学部の「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備を含む。

出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

7-2-2. 修士課程修了者の進路・就職状況（学部別）（つづき）



- ・専門職学位課程を含む。
- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「進学・就職以外の者」は研究生、無給の訪問研究員等を含む。
- ・法務学府の「進学・就職以外の者」は司法試験等国家試験準備を含む。

出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

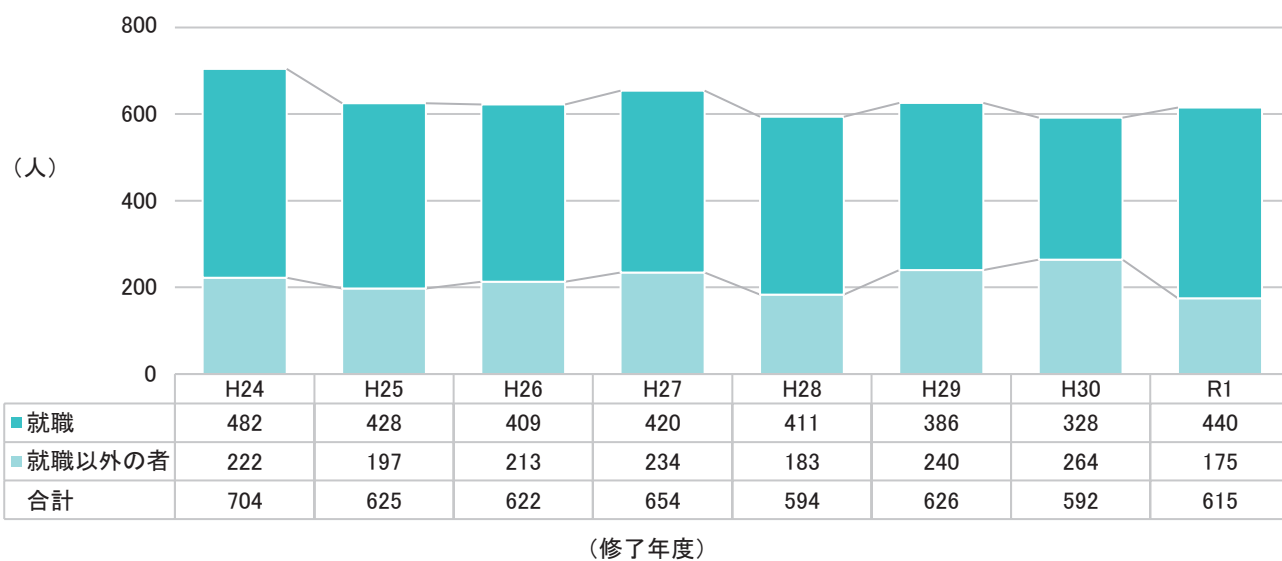
7-3. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況

7-3-1. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（全体）

本学では、令和元年度は近年と比べ就職者数が増加している。全国的に見ると、就職者の割合が最も高く、博士課程終了者数は長期的には減少傾向にある。

◆九州大学◆

博士後期課程修了者及び単位取得退学者 進路状況推移

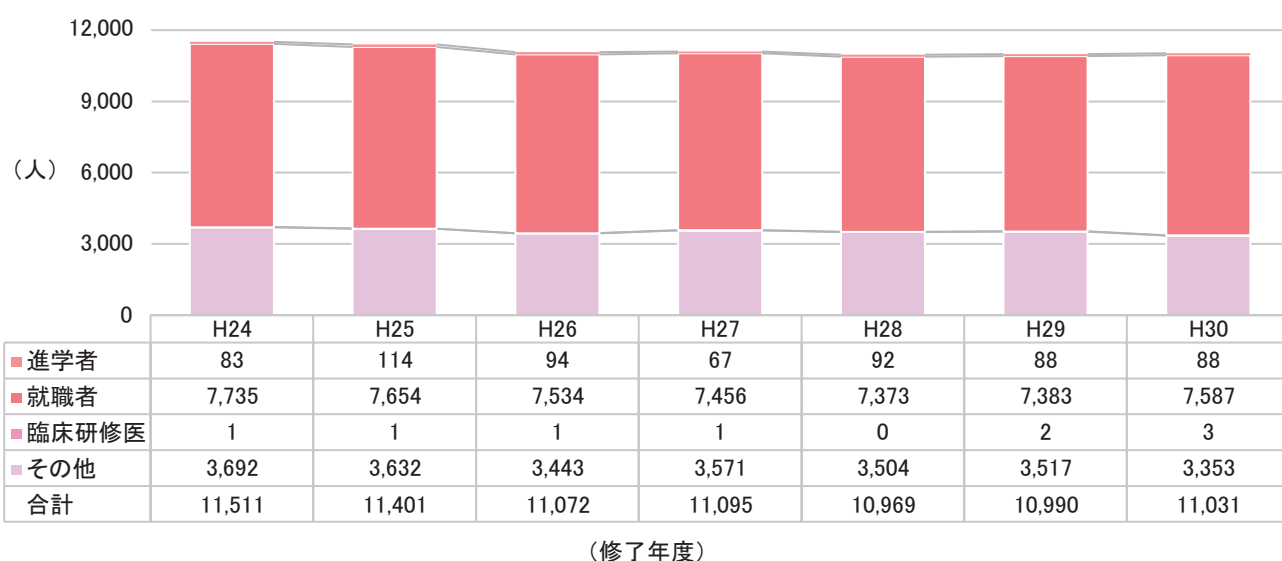


- ・「就職」は企業等、教員、公務員、その他を含む。
- ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

◆全国 国立大学◆

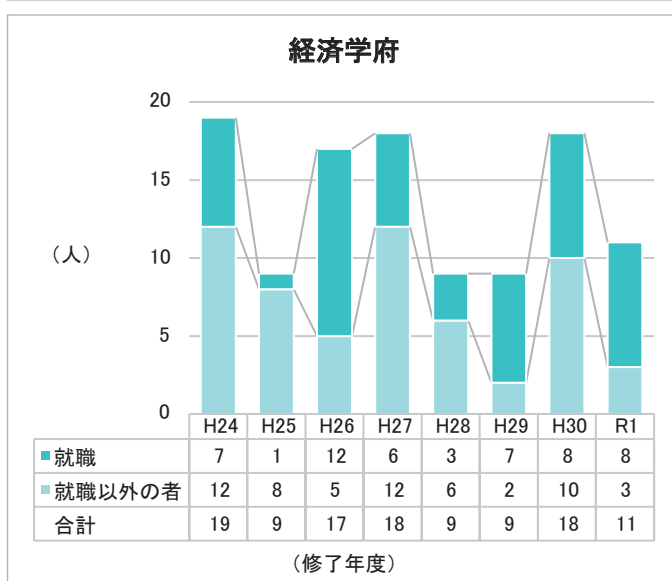
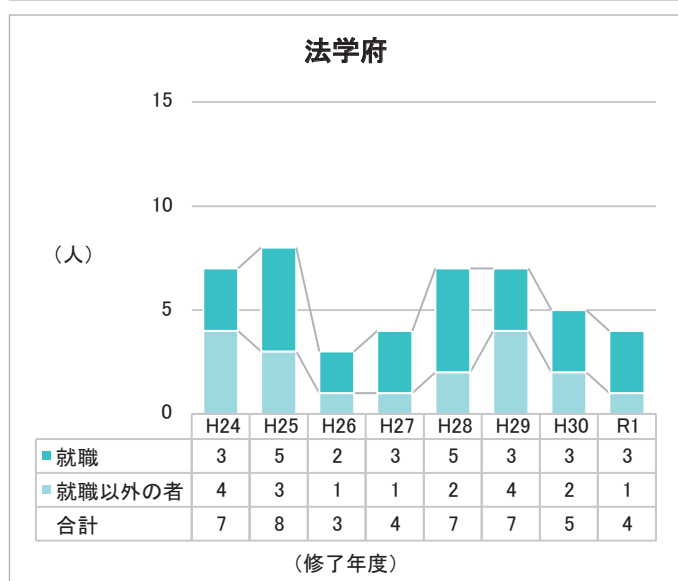
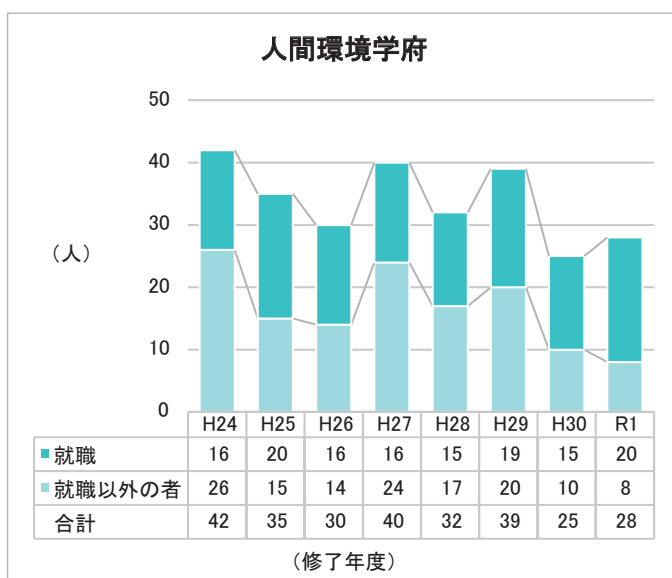
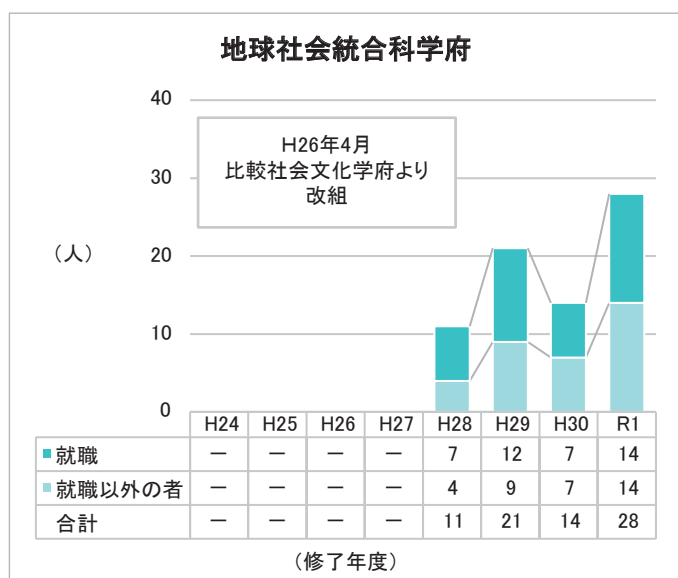
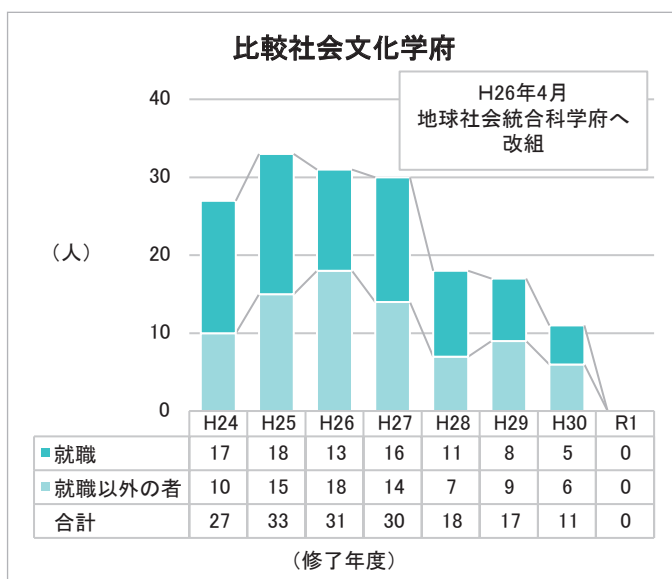
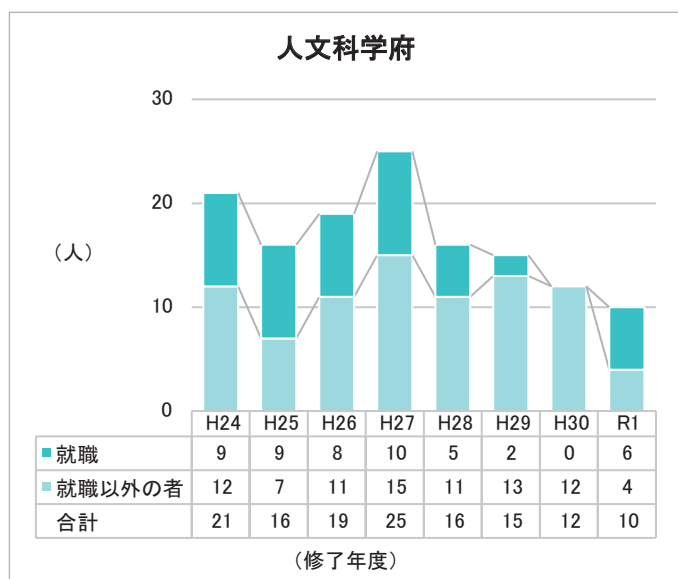
博士後期課程状況別修了者 進路・就職状況



- ・「その他」は、専修学校・外国の学校等への入学者、一時的な仕事に就いた者、不詳・死亡の者等を含む。

出典：文部科学省 学校基本調査 卒業後の状況調査 大学院「博士課程の状況別 卒業生数」

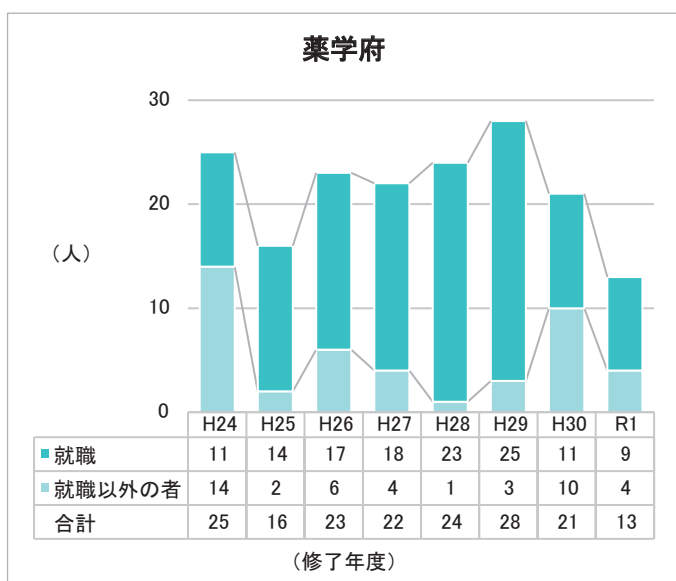
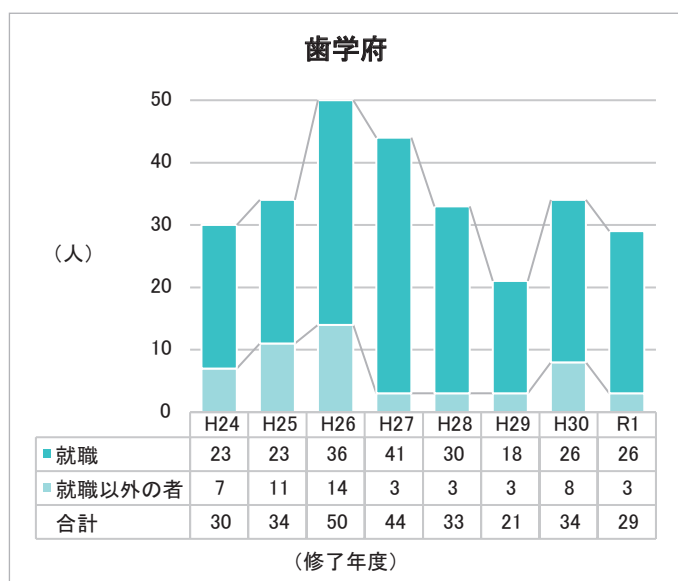
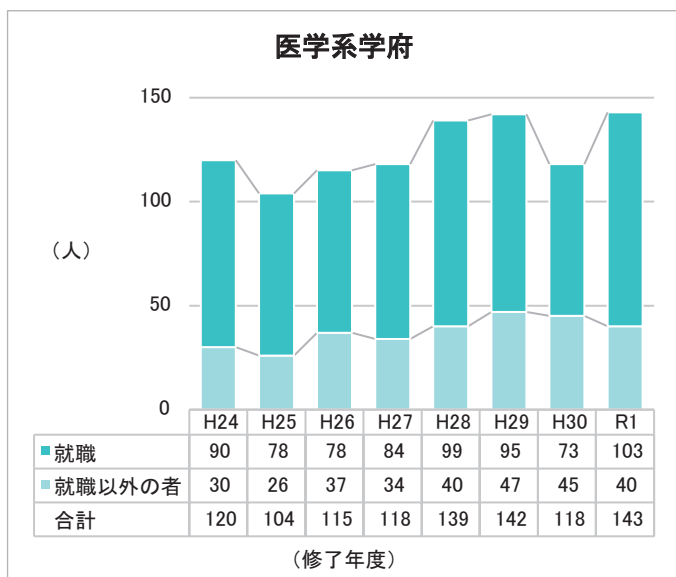
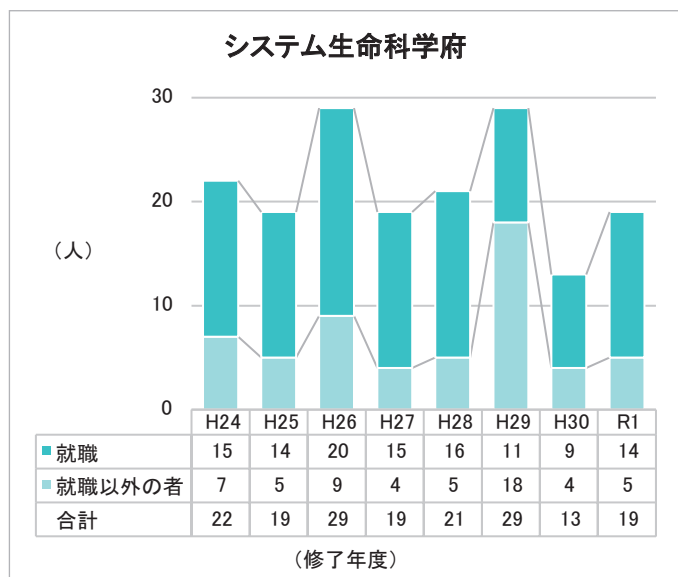
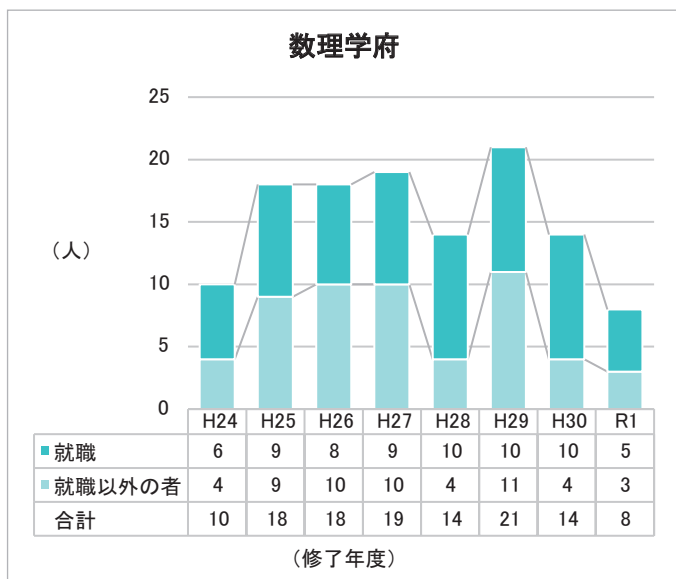
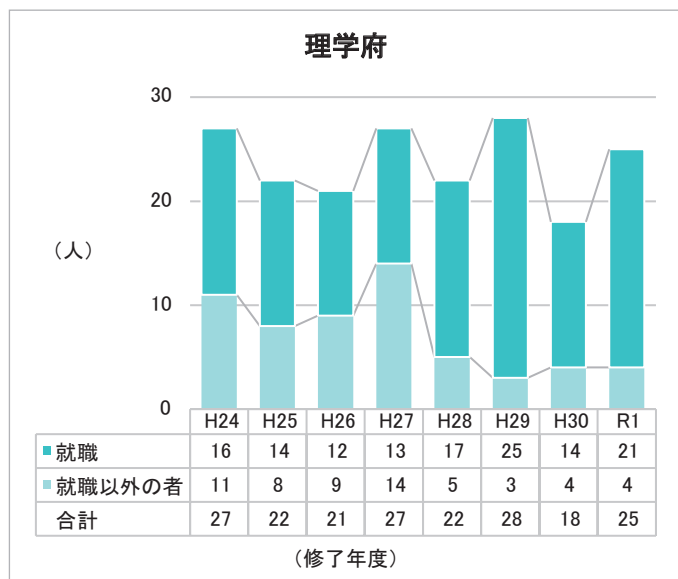
7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況(学府別)



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

出典：九州大学概要(各年度5月1日現在)

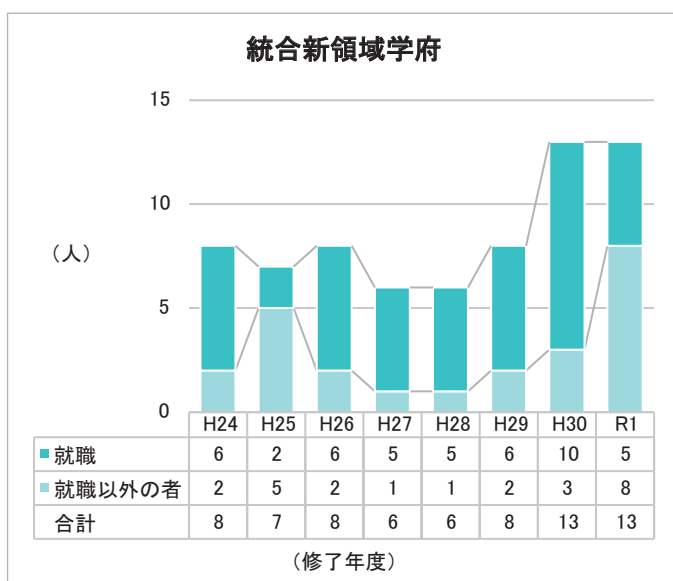
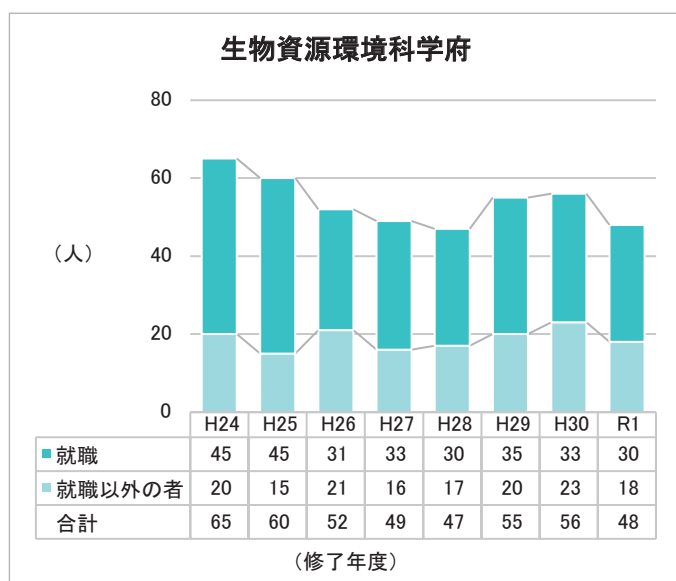
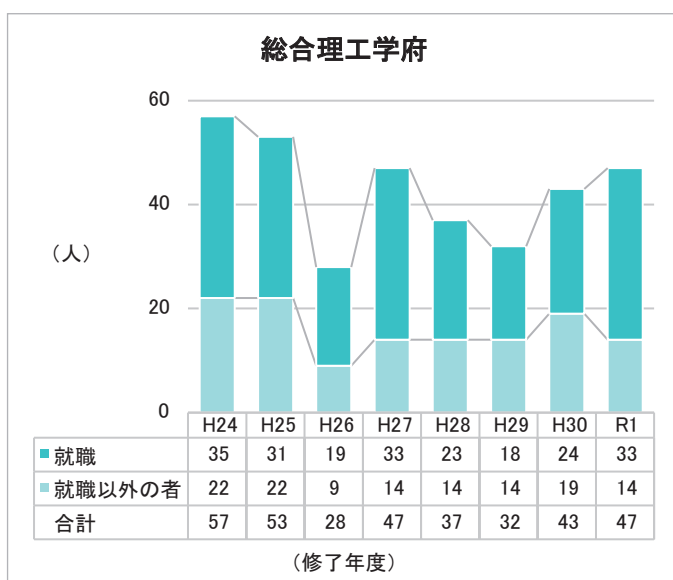
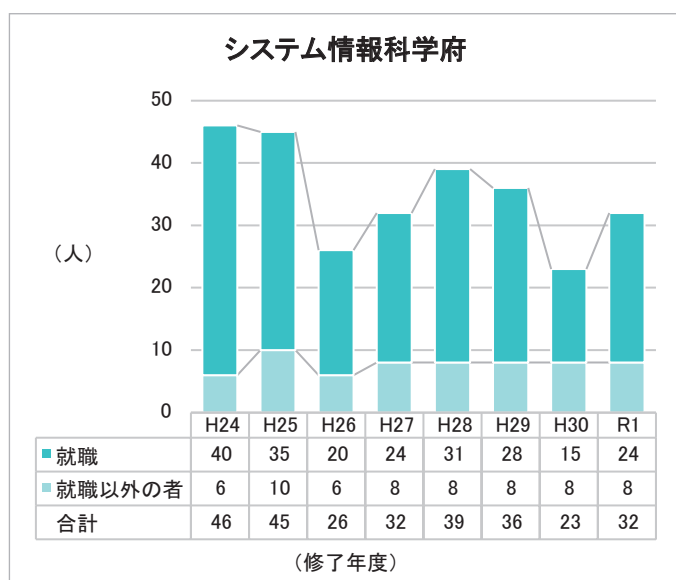
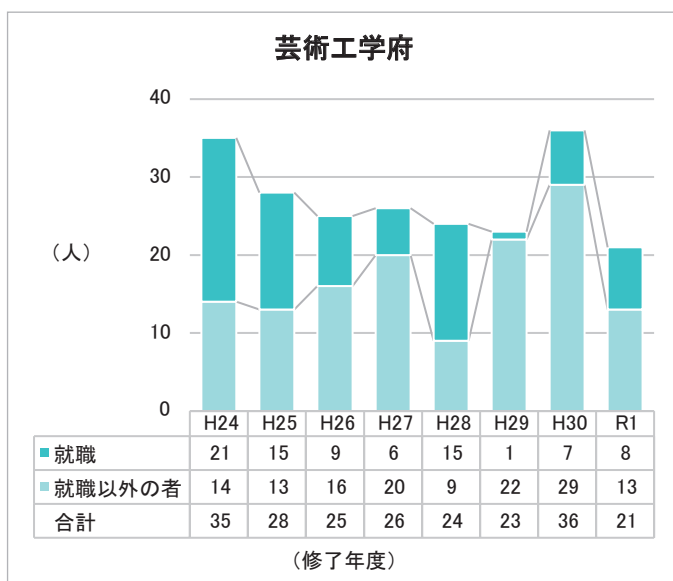
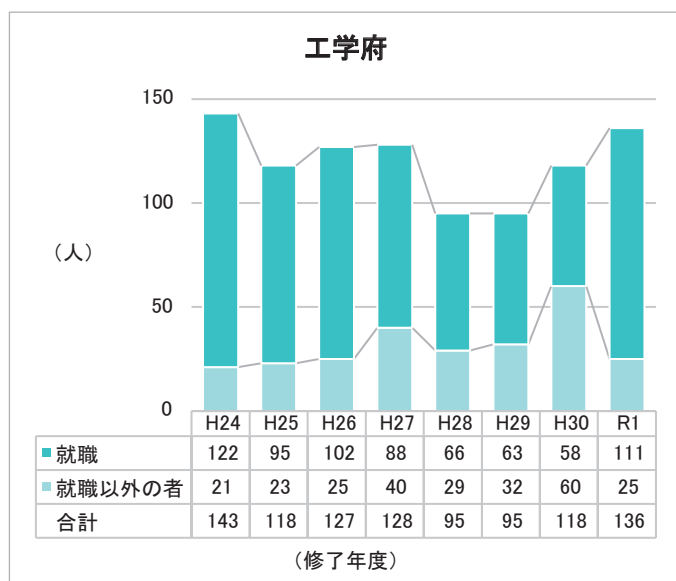
7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（学府別）（つづき）



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

7-3-2. 博士後期課程修了者及び単位取得退学者の進路・就職状況（学府別）（つづき）



・「就職」は企業等、教員、公務員、研修医、その他を含む。
 ・「就職以外の者」は日本学術振興会の特別研究員、無給の訪問研究員、研究生等を含む。

出典：九州大学概要（各年度5月1日現在）

8. 資格試験等合格状況

8-1. 司法試験合格状況

全体的に昨年度より、合格率が上がっている。



・()内は(九大の順位/全体数)である。

出典: 法務省HP 司法試験の結果について 法科大学院等別合格者数等

8-1. 司法試験合格状況（つづき）

◆合格者数ランキング（上位20大学）◆

H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)	大学名	合格者(順位)
中央大	202(1)	慶應義塾大	201(1)	早稲田大	172(1)	中央大	170(1)	慶應義塾大	155(1)	慶應義塾大	144(1)	京都大	128(1)	慶應義塾大	152(1)
東京大	194(2)	東京大	197(2)	中央大	164(2)	慶應義塾大	158(2)	早稲田大	152(2)	東京大	134(2)	東京大	121(2)	東京大	134(2)
慶應義塾大	186(3)	早稲田大	184(3)	東京大	158(3)	東京大	149(3)	東京大	137(3)	中央大	119(3)	慶應義塾大	118(3)	京都大	126(3)
早稲田大	155(4)	中央大	177(4)	慶應義塾大	150(4)	早稲田大	145(4)	中央大	136(4)	京都大	111(4)	早稲田大	110(4)	中央大	109(4)
京都大	152(5)	京都大	129(5)	京都大	130(5)	京都大	128(5)	京都大	105(5)	早稲田大	102(5)	中央大	101(5)	早稲田大	106(5)
明治大	82(6)	一橋大	67(6)	一橋大	64(6)	一橋大	79(6)	一橋大	63(6)	大阪大	66(6)	一橋大	72(6)	一橋大	67(6)
一橋大	77(7)	明治大	65(7)	明治大	63(7)	神戸大	72(7)	大阪大	42(7)	一橋大	60(7)	神戸大	51(7)	大阪大	46(7)
大阪大	74(8)	大阪大	51(8)	大阪大	55(8)	明治大	53(8)	神戸大	41(8)	神戸大	55(8)	大阪大	50(8)	神戸大	44(8)
神戸大	60(9)	北海道大	50(9)	神戸大	44(9)	大阪大	48(9)	九州大	36(9)	首都大東京	31(9)	九州大	29(9)	明治大	26(9)
北海道大	54(10)	神戸大	46(10)	東北大	42(10)	北海道大	42(10)	明治大	36(9)	明治大	30(10)	名古屋大	29(9)	名古屋大	25(10)
九州大	53(11)	上智大	46(10)	北海道大	41(11)	九州大	40(11)	名古屋大	34(11)	北海道大	29(11)	明治大	25(11)	北海道大	25(10)
同志社大	44(12)	同志社大	42(12)	九州大	37(12)	名古屋大	37(12)	北海道大	30(12)	名古屋大	28(12)	同志社大	24(12)	立命館大	24(12)
名古屋大	44(12)	名古屋大	40(13)	立命館大	33(13)	東北大	35(13)	立命館大	29(13)	立命館大	21(13)	首都大東京	23(13)	首都大東京	22(13)
立命館大	43(14)	立命館大	40(13)	上智大	31(14)	同志社大	33(14)	首都大東京	25(14)	同志社大	20(14)	北海道大	23(13)	九州大	20(14)
首都大東京	40(15)	九州大	39(15)	名古屋大	30(15)	上智大	29(15)	東北大	23(15)	東北大	18(15)	上智大	18(15)	東北大	20(14)
上智大	38(16)	首都大東京	39(15)	千葉大	26(16)	法政大	29(15)	上智大	19(16)	関西学院大	18(15)	法政大	17(16)	筑波大	18(16)
東北大	38(16)	東北大	39(15)	同志社大	26(16)	立命館大	27(17)	千葉大	17(17)	九州大	17(17)	学習院大	16(17)	創価大	16(17)
関西学院大	27(18)	大阪市立大	35(18)	首都大東京	22(18)	首都大東京	26(18)	同志社大	17(17)	上智大	16(18)	東北大	15(18)	広島大	14(18)
関西大	22(19)	関西学院大	34(19)	日本大	22(18)	大阪市立大	22(19)	関西大	15(19)	創価大	13(19)	立命館大	15(18)	日本大	14(18)
日本大	22(19)	法政大	30(20)	法政大	21(20)	関西大	22(19)	関西学院大	15(19)	大阪市立大	13(19)	創価大	13(20)	千葉大	12(20)
									広島大	15(19)			関西学院大	12(20)	
									法政大	15(19)			関西大	12(20)	

◆合格率ランキング（上位20大学）◆

H24年度		H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)	大学名	合格率(順位)
一橋大	57.04%(1)	慶應義塾大	56.78%(1)	京都大	53.06%(1)	一橋大	55.63%(1)	一橋大	49.61%(1)	京都大	50.00%(1)	東北学院大	60.00%(1)	京都大	62.69%(1)
京都大	54.29%(2)	東京大	55.18%(2)	東京大	51.97%(2)	京都大	53.33%(2)	東京大	48.07%(2)	一橋大	49.59%(2)	一橋大	59.50%(2)	一橋大	59.82%(2)
慶應義塾大	53.60%(3)	一橋大	54.47%(3)	一橋大	47.06%(3)	東京大	48.85%(3)	京都大	47.30%(3)	東京大	49.45%(3)	京都大	59.26%(3)	東京大	56.30%(3)
東京大	51.19%(4)	京都大	52.44%(4)	慶應義塾大	44.64%(4)	神戸大	48.32%(4)	慶應義塾大	44.29%(4)	慶應義塾大	45.43%(4)	東京大	48.02%(4)	慶應義塾大	50.67%(4)
神戸大	45.80%(5)	愛知大	42.86%(5)	大阪大	40.15%(5)	慶應義塾大	45.53%(5)	早稲田大	35.85%(5)	大阪大	40.74%(5)	神戸大	39.53%(5)	愛知学院大	42.86%(5)
大阪大	41.81%(6)	首都大東京	40.63%(6)	早稲田大	35.17%(6)	愛知大	36.36%(6)	神戸大	32.28%(6)	神戸大	38.73%(6)	慶應義塾大	39.20%(6)	早稲田大	42.06%(6)
中央大	41.31%(7)	中央大	40.05%(7)	中央大	34.53%(7)	中央大	35.79%(7)	中央大	29.44%(7)	愛知大	30.77%(7)	大阪大	37.59%(7)	大阪大	41.07%(7)
首都大東京	39.60%(8)	早稲田大	38.41%(8)	千葉大	30.95%(8)	早稲田大	30.79%(8)	九州大	28.80%(8)	早稲田大	29.39%(8)	早稲田大	36.54%(8)	東北大	38.46%(8)
愛知大	37.84%(9)	千葉大	36.92%(9)	神戸大	30.77%(9)	大阪大	29.09%(9)	大阪大	26.75%(9)	首都大東京	26.96%(9)	九州大	33.33%(9)	名古屋大	37.31%(9)
北海道大	33.96%(10)	神戸大	36.80%(10)	東北大	26.42%(10)	北海道大	28.57%(10)	愛知大	26.67%(10)	中央大	26.15%(10)	名古屋大	30.53%(10)	広島大	35.90%(10)
早稲田大	32.84%(11)	大阪大	36.43%(11)	愛知大	25.93%(11)	九州大	26.14%(11)	名古屋大	25.00%(11)	東北大	26.09%(11)	白鷗大	28.57%(11)	九州大	33.90%(11)
名古屋大	32.59%(12)	名古屋大	33.33%(12)	創価大	25.71%(12)	東北大	25.74%(12)	東北大	23.96%(12)	北海道大	24.58%(12)	東北大	27.27%(12)	神戸大	33.85%(12)
千葉大	31.82%(13)	北海道大	33.33%(12)	北海道大	25.47%(13)	名古屋大	25.00%(13)	北海道大	23.44%(13)	名古屋大	23.73%(13)	香川大	25.00%(13)	東海大	28.57%(13)
九州大	26.24%(14)	大阪市立大	33.02%(14)	首都大東京	22.92%(14)	首都大東京	23.01%(14)	広島大	20.27%(14)	鹿児島大	20.00%(14)	広島大	25.00%(13)	中央大	28.39%(13)
近畿大	24.32%(15)	上智大	26.44%(15)	九州大	22.84%(15)	神奈川大	22.86%(15)	千葉大	19.77%(15)	熊本大	20.00%(14)	中央大	23.22%(15)	創価大	24.62%(15)
東北大	21.97%(16)	創価大	25.00%(16)	名古屋大	22.56%(16)	大阪市立大	18.64%(16)	首都大東京	19.53%(16)	神戸学院大	20.00%(14)	愛知大	23.08%(16)	北海道大	24.04%(16)
広島大	20.88%(17)	岡山大	24.29%(17)	上智大	19.62%(17)	岡山大	18.46%(17)	創価大	19.40%(17)	創価大	19.40%(17)	信州大	22.73%(17)	筑波大	23.38%(17)
上智大	20.77%(18)	九州大	24.07%(18)	横浜国立大	19.35%(18)	熊本大	18.42%(18)	岡山大	18.03%(18)	琉球大	19.35%(18)	首都大東京	22.33%(18)	首都大東京	22.92%(18)
明治大	20.45%(19)	東北大	22.54%(19)	岡山大	18.06%(19)	創価大	17.95%(19)	静岡大	16.67%(19)	九州大	19.32%(19)	岡山大	21.57%(19)	大宮法科大学院大	22.22%(19)
中京大	19.51%(20)	同志社大	22.11%(20)	大阪市立大	17.43%(20)	同志社大	17.46%(20)	神戸学院大	15.38%(20)	関西学院大	18.37%(20)	創価大	21.31%(20)	神奈川大	22.22%(19)
平均	24.62%	平均	25.77%	平均	22.58%	平均	21.57%	平均	20.68%	平均	22.51%	平均	24.75%	平均	29.09%

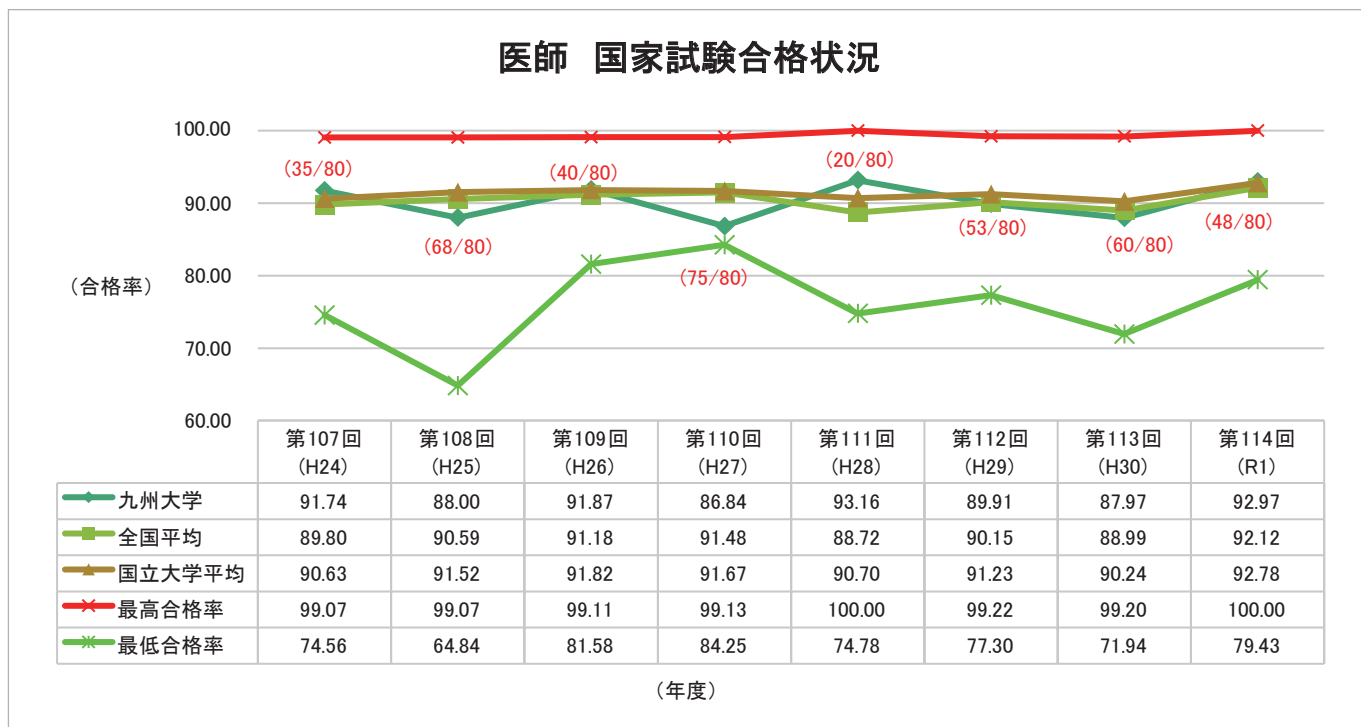
・司法試験法科大学院等別合格者数等(予備試験合格者については含めていない)

出典: 法務省HP 司法試験の結果について 法科大学院等別合格者数等

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況

医師国家資格については、国立大学平均合格率は安定しているものの、本学は受験年度により大きく変動している。

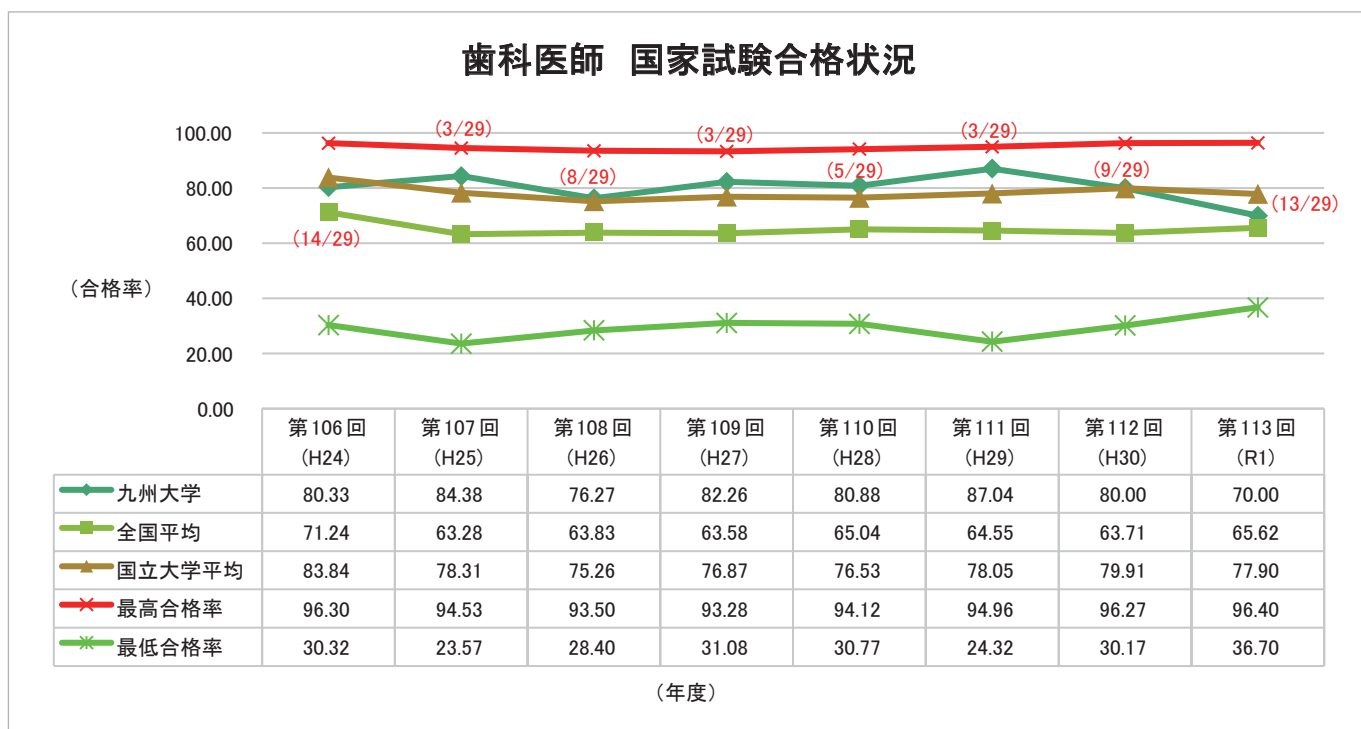
【医師国家資格（合格率）】



・ 数値は、新卒及び既卒の合格者数を受験者数で除した率である。
 ・ ()内は(九大の順位/全体数)である。

出典: 医師国家試験対策予備校「テコム」ホームページ (<https://www2.tecomgroup.jp/igaku/topics/kokushi/114result/>)

【歯科医師国家資格（合格率）】

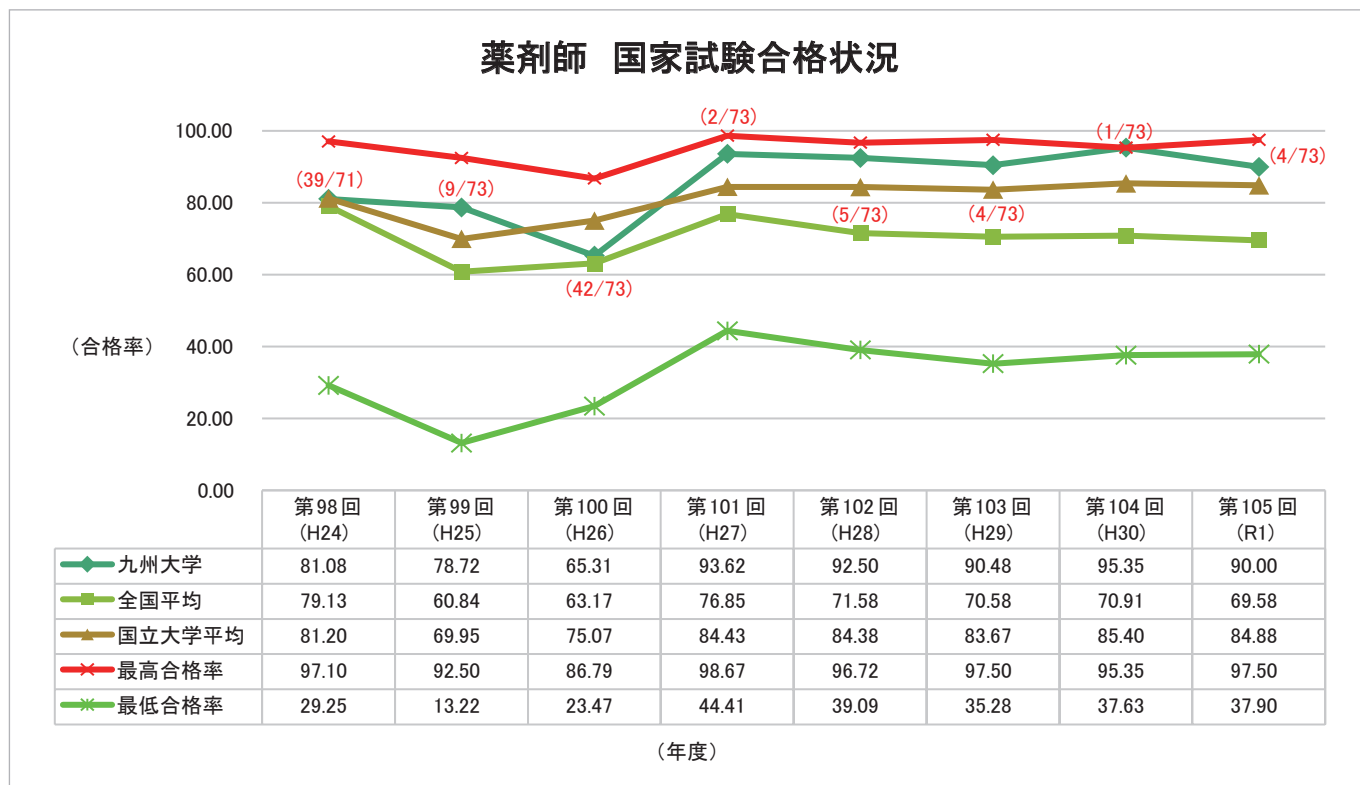


・ 数値は、新卒及び既卒の合格者数を受験者数で除した率である。
 ・ ()は(九大の順位/全体数)である。

出典: 厚生労働省 HP 歯科医師国家試験の学校別合格者状況 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000606931.pdf>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況（つづき）

【薬剤師国家資格（合格率）】

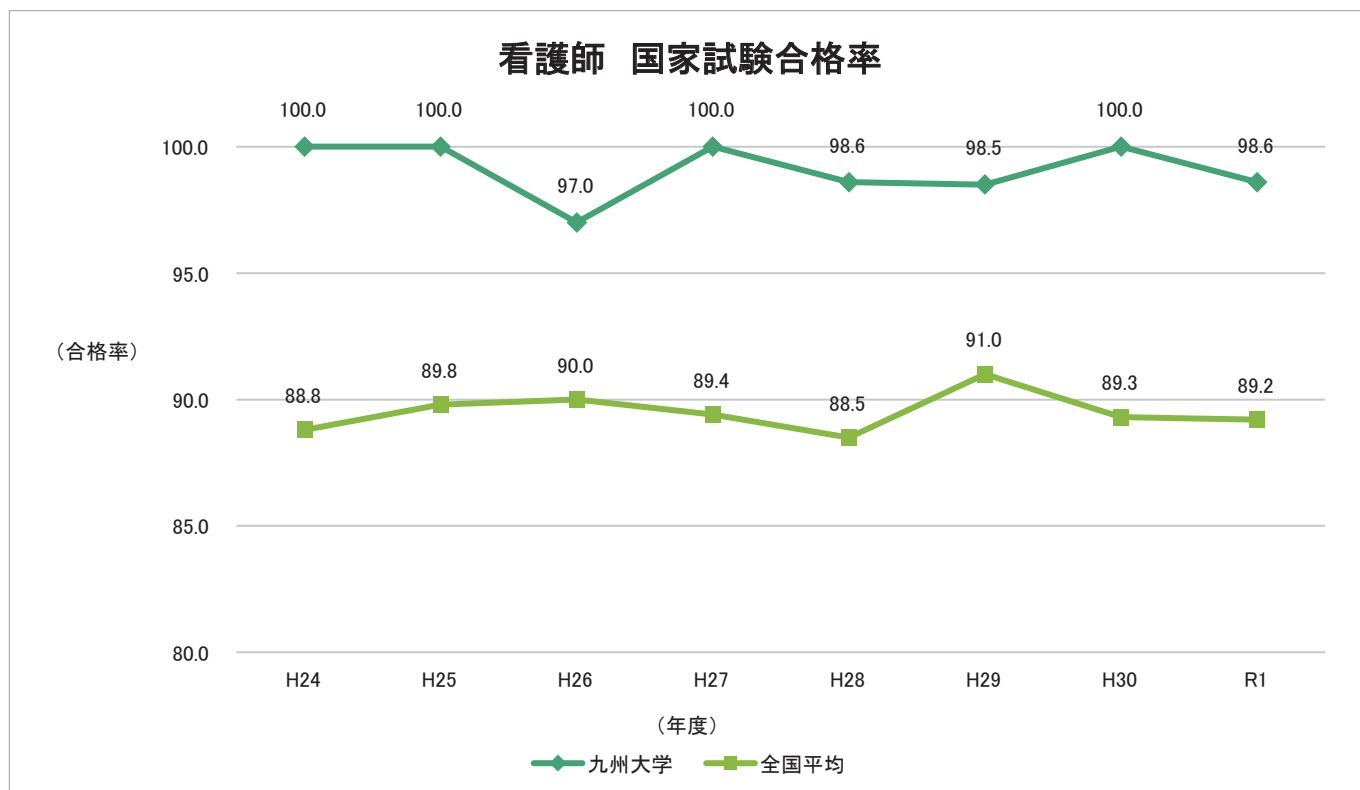


・ 数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

・ ()内は、(九大の順位/全体数)である。

出典：厚生労働省HP 薬剤師国家試験 大学別合格者数 (<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000490577.pdf>)

【看護師国家資格（合格率）】



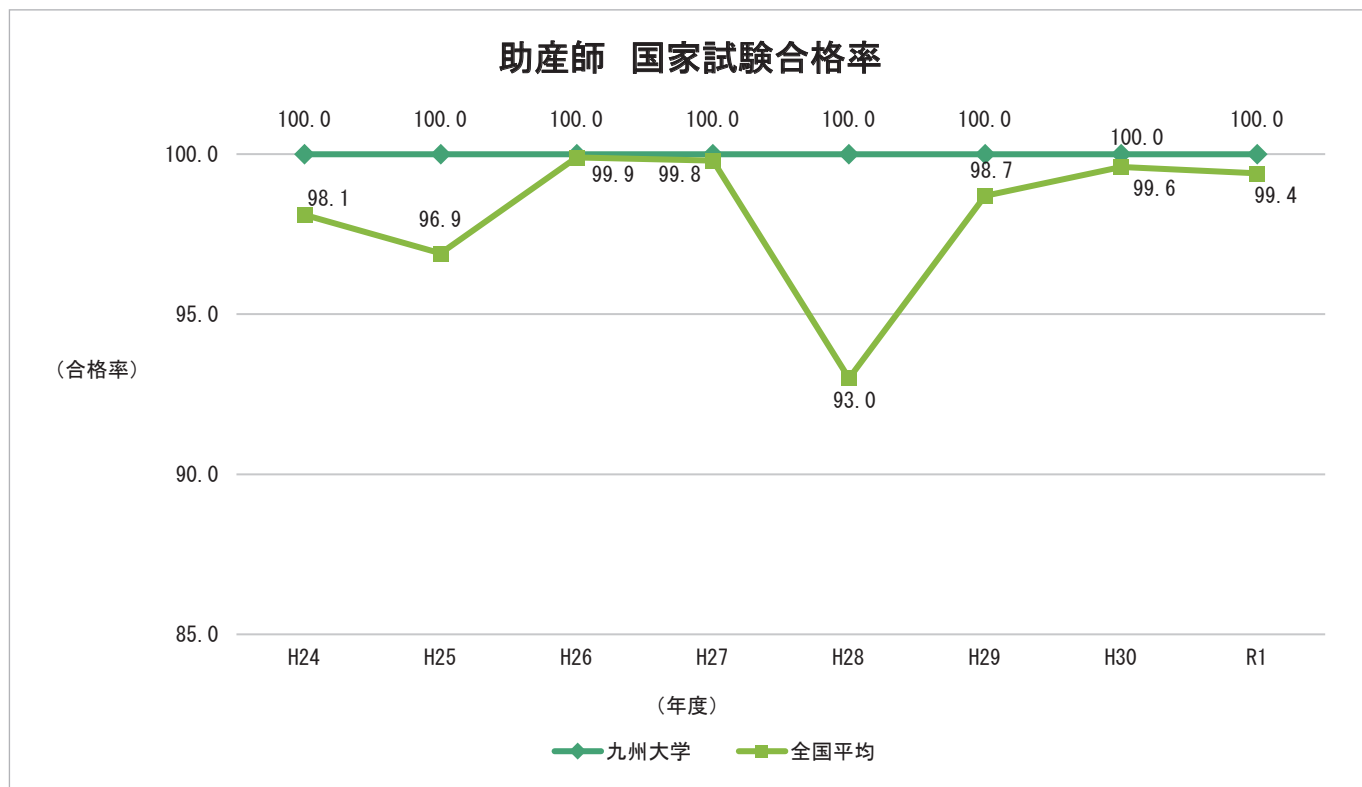
・ 九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。

・ 全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

出典：「看護医療進学ネット」 (<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況（つづき）

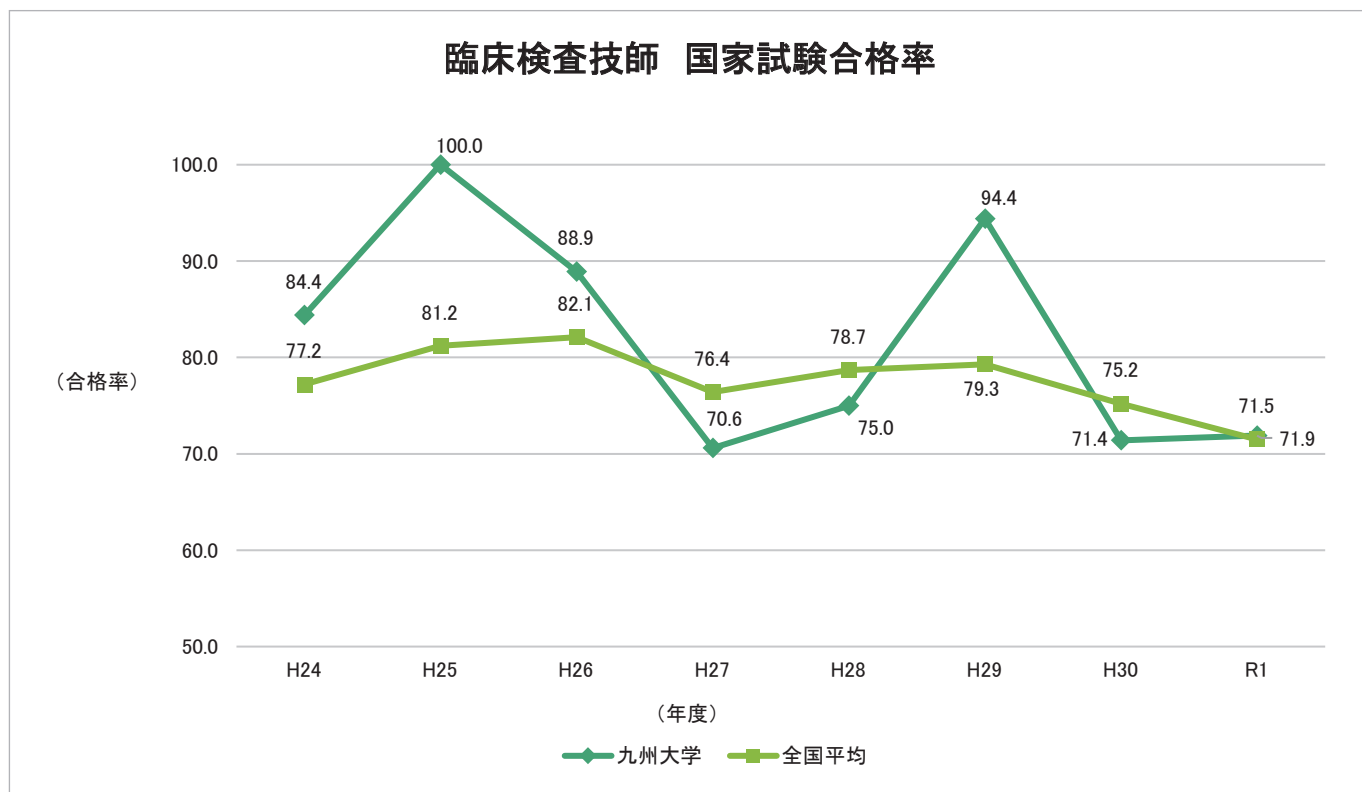
【助産師国家資格（合格率）】



- ・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
- ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

【臨床検査技師国家資格（合格率）】

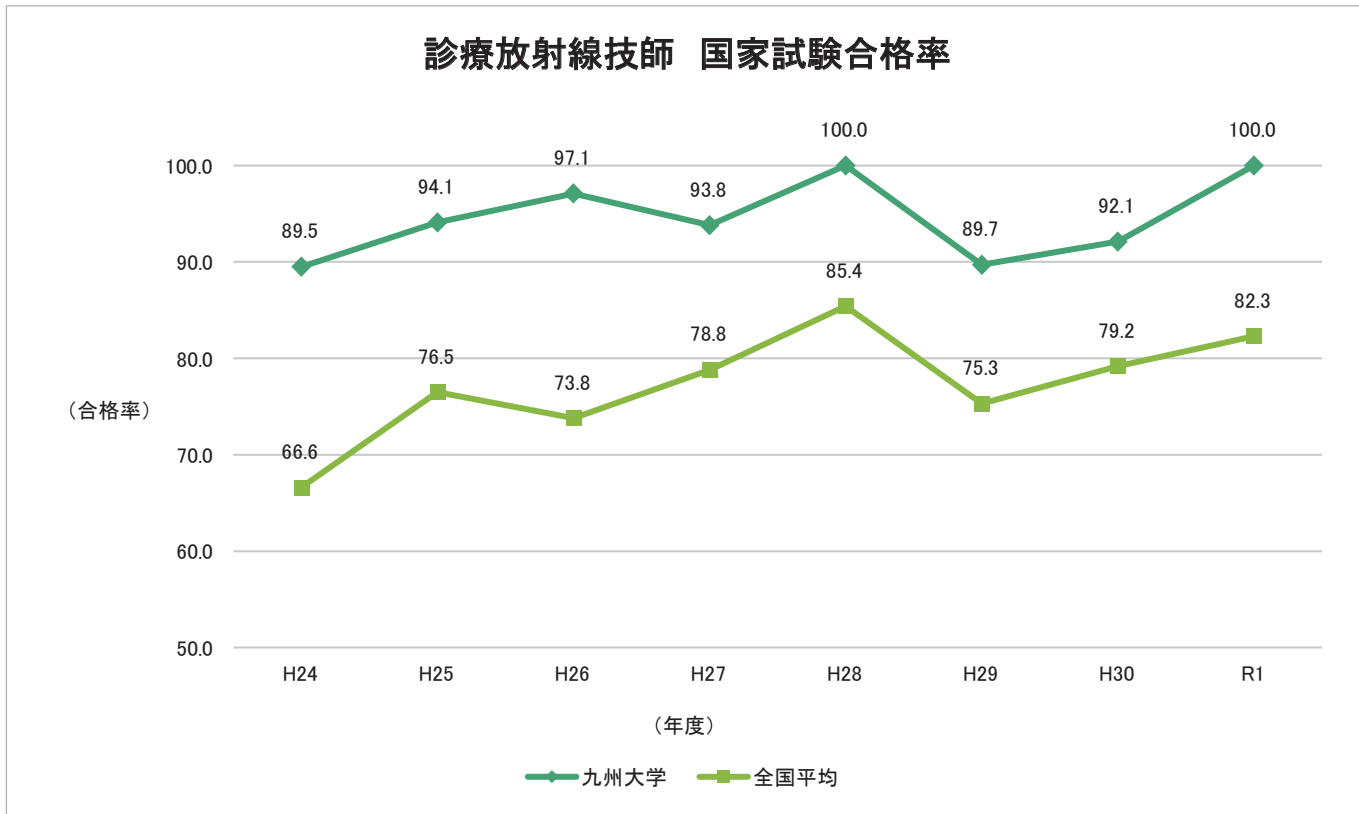


- ・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
- ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況（つづき）

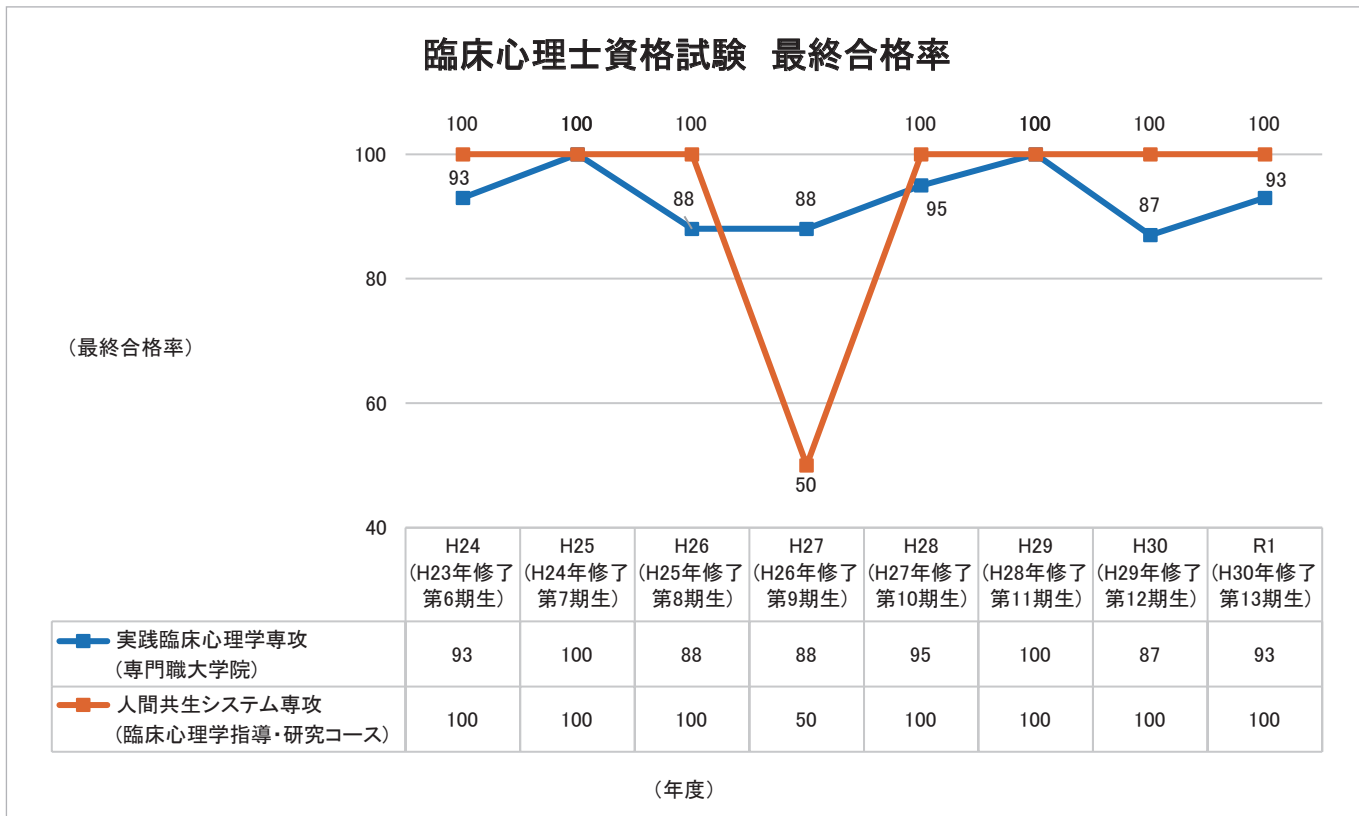
【診療放射線技師国家資格（合格率）】



・九州大学合格率の数値は、新卒のみの合格者数を受験者数で除した率である。
 ・全国平均の数値は、新卒及び既卒等の合格者数を受験者数で除した率である。

出典:「看護医療進学ネット」(<http://www.ishin.jp/support/kokka/>)

【臨床心理士資格試験（最終合格率）】



出典:九州大学大学院人間環境学府 臨床心理士・公認心理師養成大学院HP(<http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/~ccphd/graduate/index.php/career/>)

8-2. 各種資格試験・採用試験合格状況（つづき）

◆公務員試験合格◆

【国家公務員総合職】

順位	大学名	人
1	東京大	307
2	京都大	126
3	早稲田大	97
4	北海道大	81
5	東北大	75
5	慶應義塾大	75
7	九州大	66
8	中央大	59
9	大阪大	58
10	岡山大	55

(2019)

【国家公務員一般職】

順位	大学名	人
1	岡山大	245
2	中央大	199
3	立命館大	188
4	広島大	174
5	早稲田大	170
6	琉球大	169
7	明治大	165
8	同志社大	153
9	日本大	151
10	九州大	143

(2019)

・国家公務員総合職及び一般職は、大学調査をもとに集計した。

◆国家資格合格◆

【技術士】

順位	大学名	人
1	京都大	112
2	東京大	92
3	九州大	91
4	北海道大	85
5	日本大	70
6	大阪大	68
7	東北大	64
8	東京工業大	59
9	早稲田大	56
10	名古屋大	48

(2019)

【一級建築士】

順位	大学名	人
1	日本大	192
2	芝浦工業大	110
3	東京理科大	95
4	早稲田大	88
5	近畿大	66
6	法政大	60
6	明治大	60
8	工学院大	57
9	九州大	53
10	千葉大	49

(2019)

・技術士は公益社団法人日本技術士会からの資料。一級建築士試験は、公益財団法人建築技術教育普及センターによるものである。

出典：朝日新聞出版「大学ランキング2021年版」

9. 研究

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向

九州大学では、医学、工学、物理学・天文学、生化学・遺伝学・分子生物学、材料科学分野のジャーナルに掲載された論文の割合が高い。
また、九州大学のトップ10%補正論文、トップ10%ジャーナル掲載論文、国際共著論文、産学共著論文の割合は、全て日本全体の平均よりも高い値である。

Kyushu University ★
九州大学

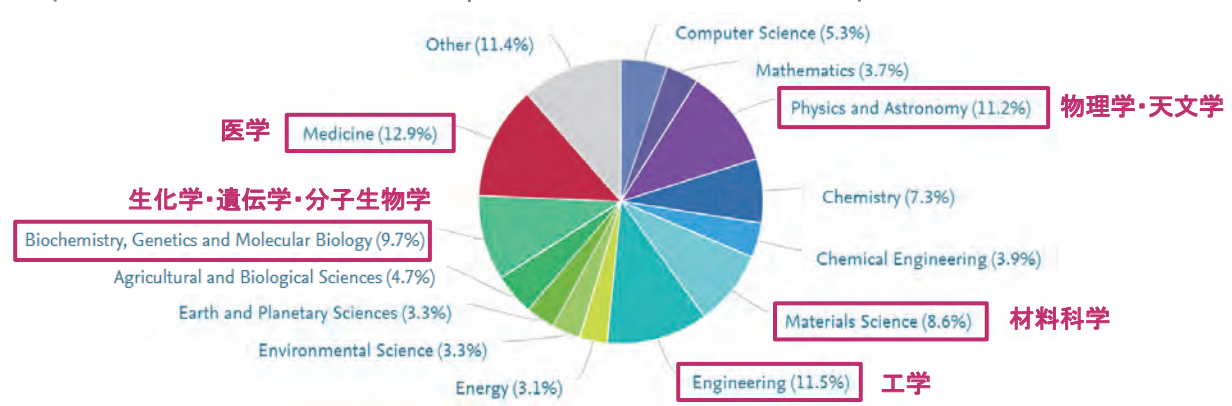
※ 円グラフは、2015年から2019年の間に九州大学所属の研究者によって出された論文のScopusジャーナル分野別割合を示す。

132nd (QS) · 401-500 (THE) · 201-300 (ARWU) | Japan | More details on this Institution

2015 to 2019 | No subject area filter selected | ASJC

Overall research performance

25,283 ▲ 論文数 Scholarly Output	13,853 ▼ 著者数 Authors	1.13 FWCI (※1) Field-Weighted Citation Impact
223,832 被引用数 Citation Count	8.9 一論文当たりの被引用数 Citations per Publication	112 h5-index



Performance indicators

Outputs in Top Citation Percentiles Publications in top 10% most cited worldwide Show as field-weighted トップ10%補正論文 Kyushu University: 10.5% Japan: 8.4%	Publications in Top Journal Percentiles Publications in top 10% journals by CiteScore Percentile トップ10%ジャーナル掲載論文 Kyushu University: 30.7% Japan: 25.2%
International Collaboration Publications co-authored with Institutions in other countries/regions 国際共著論文 Kyushu University: 32.5% Japan: 28.2%	Academic-Corporate Collaboration Publications with both academic and corporate affiliations 産学共著論文 Kyushu University: 6.1% Japan: 5.4%

(※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact)
当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

出典: Elsevier 社製「SciVal」より (2020年9月現在)

9-1. ジャーナル分類分野に基づいた本学全体の傾向(つづき)

■トピックプロミネンスー論文の引用関係に基づいた大学の強み研究分析ー

SciValのTopic Prominence機能によると、2015年から2019年の間に出版された九州大学の論文のうち、9,213の研究分野が注目度の高いTopicとして出現している。下図はTop1%の注目度に該当する研究分野のTopicを示したものである。物理学・天文学、化学、化学工学、材料科学、工学、エネルギー科学、医学の分野にTopicが集中している。中でも、①トプクオーク ②有機EL(OLED) ③水素脆化 ④ECAP法 ⑤水素吸蔵 ⑥吸熱 ⑦燃料電池 ⑧オートファゴソーム ⑨ミトコンドリア動態 ⑩クリプトクロムに関するTopicは、本学の影響力が強いKey Topic(※1)とされている。これらのTopicは、世界における本学の論文数シェア率、被引用数シェア率が高い傾向にあり、本学の中でも活発な研究分野と言える。

プロミネンス上位1%のトピック (2015-2019)

①

トプクオーク・パートン・ヒッグス粒子
プロミネンス値 99.950
九州大学の論文数 332、論文数シェア率 13.53%
九州大学の被引用数 10,344、被引用数シェア率 30.95%

⑩

クリプトクロム・概日リズム・視交叉上核
プロミネンス値 99.644
九州大学の論文数 29、論文数シェア率 1.38%
九州大学の被引用数 298、被引用数シェア率 1.09%

⑨

ミトコンドリア動態・常染色体優性視神経萎縮症
プロミネンス値 99.682
九州大学の論文数 21、論文数シェア率 1.28%
九州大学の被引用数 854、被引用数シェア率 2.64%

⑧

オートファゴソーム・マイトファジー・オートファジー関連タンパク質
プロミネンス値 99.825
九州大学の論文数 10、論文数シェア率 0.40%
九州大学の被引用数 2,872、被引用数シェア率 6.03%

②

有機EL(OLED)・1H-フェナントロ(9,10-d)イミダゾール・トリス(2-フェニルピリジナト)イリジウム(III)
プロミネンス値 99.926
九州大学の論文数 139、論文数シェア率 4.07%
九州大学の被引用数 6,322、被引用数シェア率 10.27%

③

水素脆化・疲労き裂進展・マルテンサイト系ステンレス鋼
プロミネンス値 99.048
九州大学の論文数 168、論文数シェア率 9.99%
九州大学の被引用数 2,118、被引用数シェア率 17.75%

④

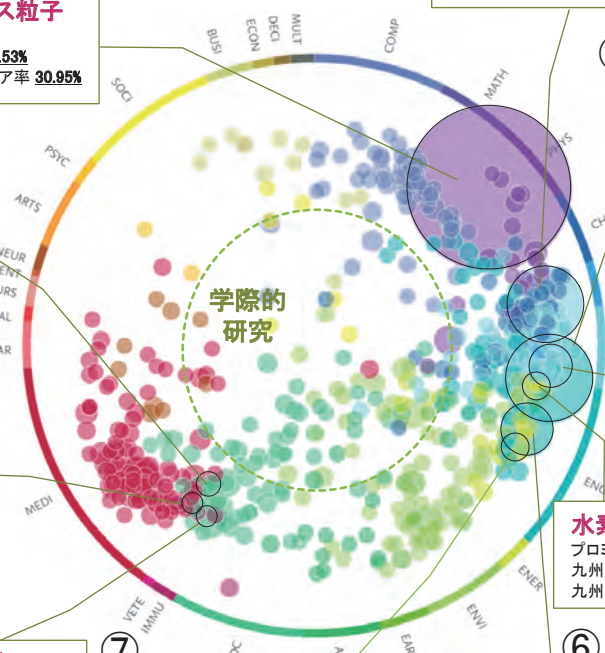
ECAP法・超塑性・結晶粒微細化
プロミネンス値 99.373
九州大学の論文数 63、論文数シェア率 2.96%
九州大学の被引用数 1,286、被引用数シェア率 9.24%

⑤

水素吸蔵・水素化物・脱水素化
プロミネンス値 99.096
九州大学の論文数 24、論文数シェア率 2.12%
九州大学の被引用数 634、被引用数シェア率 4.82%

⑥

吸熱・冷凍・冷却システム
プロミネンス値 99.210
九州大学の論文数 82、論文数シェア率 6.37%
九州大学の被引用数 1,015、被引用数シェア率 7.86%



COMP	コンピュータ化学	ENER	エネルギー科学	MEDI	医学	PSYC	心理学
MATH	数学	ENVI	環境科学	PHAR	薬理学・毒性学・薬学	SOCI	社会科学
PHYS	物理学・天文学	EART	地球科学・惑星学	HEAL	健康衛生学	BUSI	ビジネス・経営学・会計学
CHEM	化学	AGRI	農学及び生物科学	NURS	看護学	ECON	経済学・計量経済学・金融
CENG	化学工学	BIOC	生化学・遺伝学・分子生物学	DENT	歯科学	DECI	意思決定科学
MATE	材料科学	IMMU	免疫学・微生物学	NEUR	神経科学	MULT	学際分野
ENGI	工学	VETE	獣医学	ARTS	人文学		

・ Topic Prominence 機能の概要

Scopusの文献を引用リンクに基づいて約97,000のトピックにクラスタリングし、Prominenceによってランク付けしたものです。新指標Prominenceは、直近の文献の被引用数、表示回数、注目度を示します。Prominenceは、助成金と相関関係があり、研究者と研究管理者が助成金が増える可能性が高いトピックを特定するのを支援します。円の中心にあるトピックほど、学際的なトピックと言えます。(「Elsevier社「クイックレファレンスガイド」2018年1月」より抜粋)

(※1)Key Topic

本学の論文数が最多機関の1/3以上もしくは被引用数が最多機関1/3以上あるトピックは、SciValでKey Topicとして定められている。論文数や被引用数シェア率が高く、本学が影響力を持つトピックと言える。

◆見方◆

- ・ 小さい円：各トピック。
- ・ 外側の円周：Scopusで用いられている研究分野(ASJCの27中分類)を色別に表示。
- ・ 小さい円の大きさ：各トピックを構成する論文の数を表す。
- ・ 小さい円の色：トピックを構成する論文の分野のうち、割合が最も大きい分野を円周上の分野の色で示したものです。
- ・ 小さい円の位置：トピックを構成する論文の分野の割合に基づいて配置されている。学際的なものは中心に位置する傾向にある。

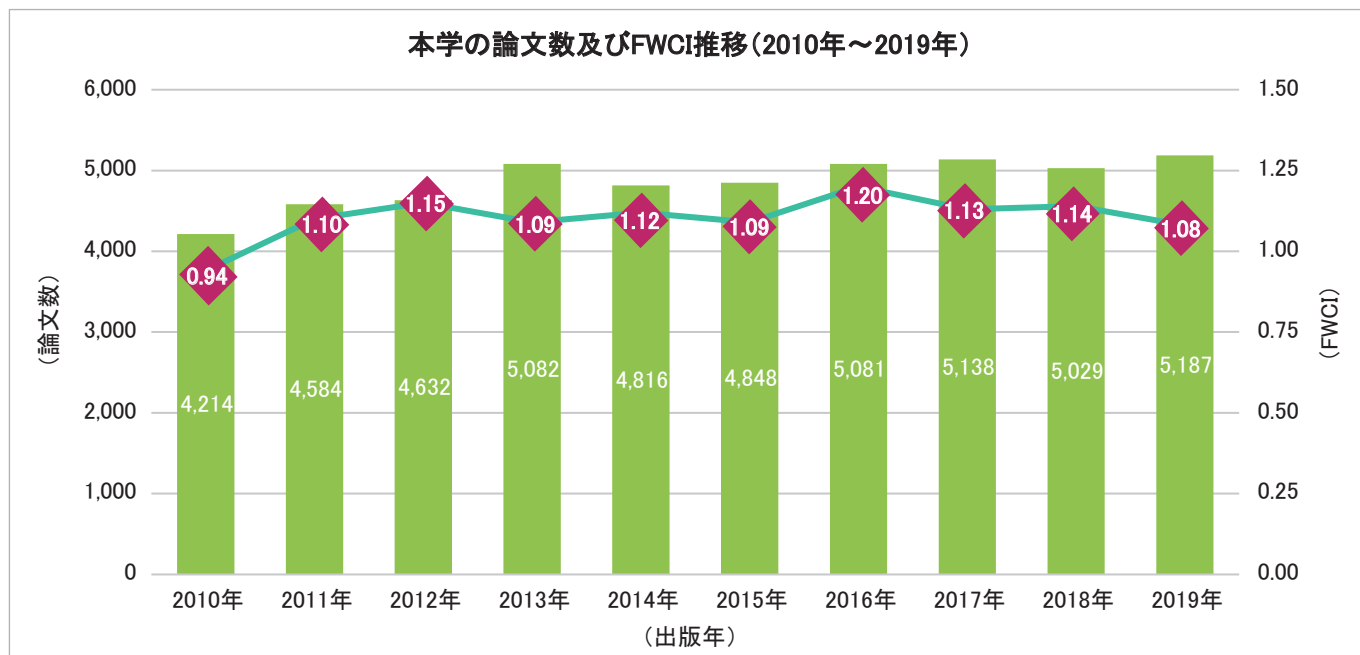
出典：Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較

■論文数及びFWCIの推移

本学の論文数は2013年に5,000本を初めて超え、それ以降は5,000本前後を維持し推移している。FWCI(※1)は、2011年に世界平均値の1.0を超え、2016年に1.2という高い値を出したが、2016年以降はFWCIの値は減少傾向にある。

◆九州大学◆



◆他大学との比較◆

【Scholarly Output (論文数)】

順位	大学名	本数
1	東京大	61,058
2	京都大	41,624
3	東北大	31,465
4	大阪大	29,651
5	九州大	25,283
6	名古屋大	24,763
7	北海道大	21,984
8	東京工業大	19,414
9	筑波大	17,255
10	慶應義塾大	16,718

(2015～2019)

【Citation Count (被引用回数)】

順位	大学名	被引用回数	論文あたりの平均被引用数
1	東京大	650,786	10.7
2	京都大	460,852	11.1
3	東北大	280,863	8.9
4	大阪大	272,971	9.2
5	名古屋大	233,680	9.4
6	九州大	223,832	8.9
7	北海道大	183,752	8.4
8	東京工業大	172,350	8.9
9	筑波大	154,584	9.0
10	慶應義塾大	137,158	8.2

(2015～2019)

【FWCI (論文のインパクト)】

順位	大学名	被引用回数
1	京都大	1.36
2	東京大	1.33
3	筑波大	1.19
4	名古屋大	1.18
5	東京工業大	1.14
6	九州大	1.13
6	大阪大	1.13
8	慶應義塾大	1.11
9	早稲田大	1.10
9	東北大	1.10

(2015～2019)

・RU11 (学術研究懇談会)

国立・私立大学の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

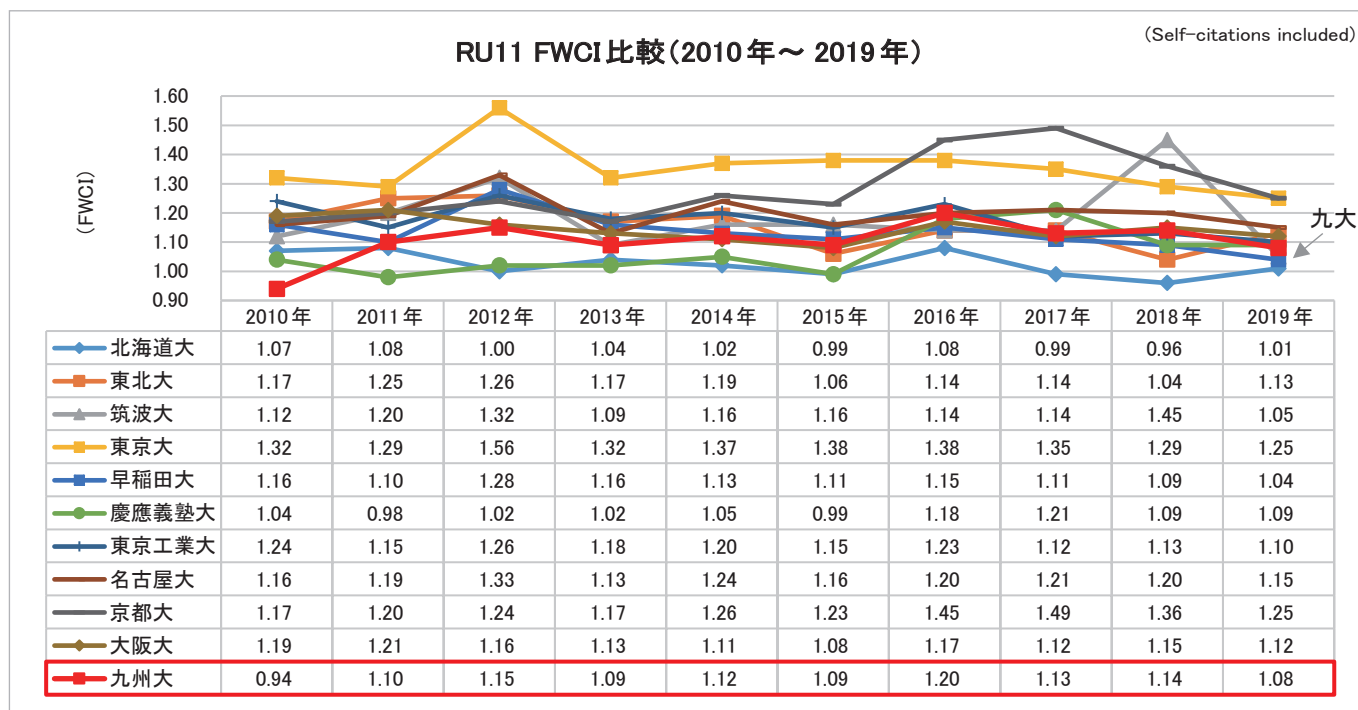
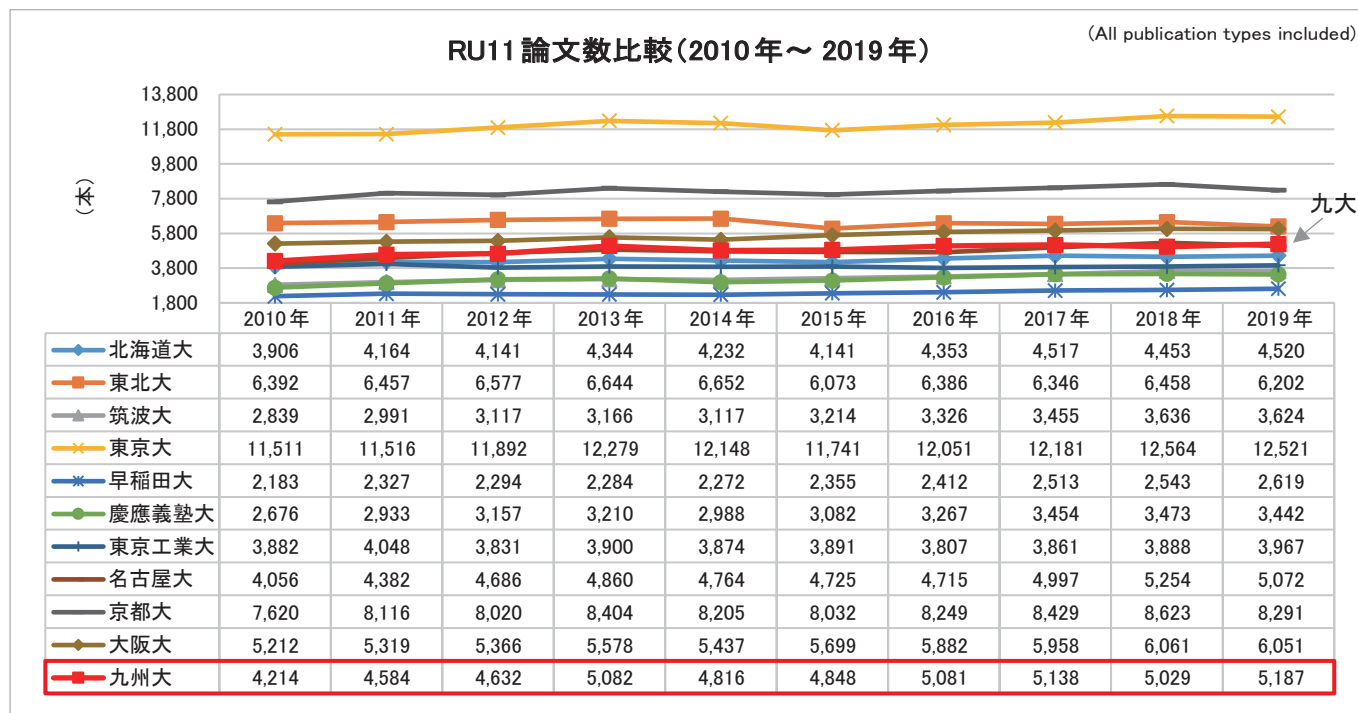
FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということ意味する。

出典: 論文数、被引用数、論文のインパクト Elsevier社「Scival」(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

RU11(※1)の各大学について、直近10年間の論文数の推移を比較した。本学の論文数は10年間で年間4,200本程度から5,000本以上に増加しているものの、RU11内の順位は5位付近で変化していない。FWCI(※2)に関しては、本学は2011年以降世界平均値の1.0より高くなっている。

◆RU11での比較◆



(※1)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※2)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを示す。

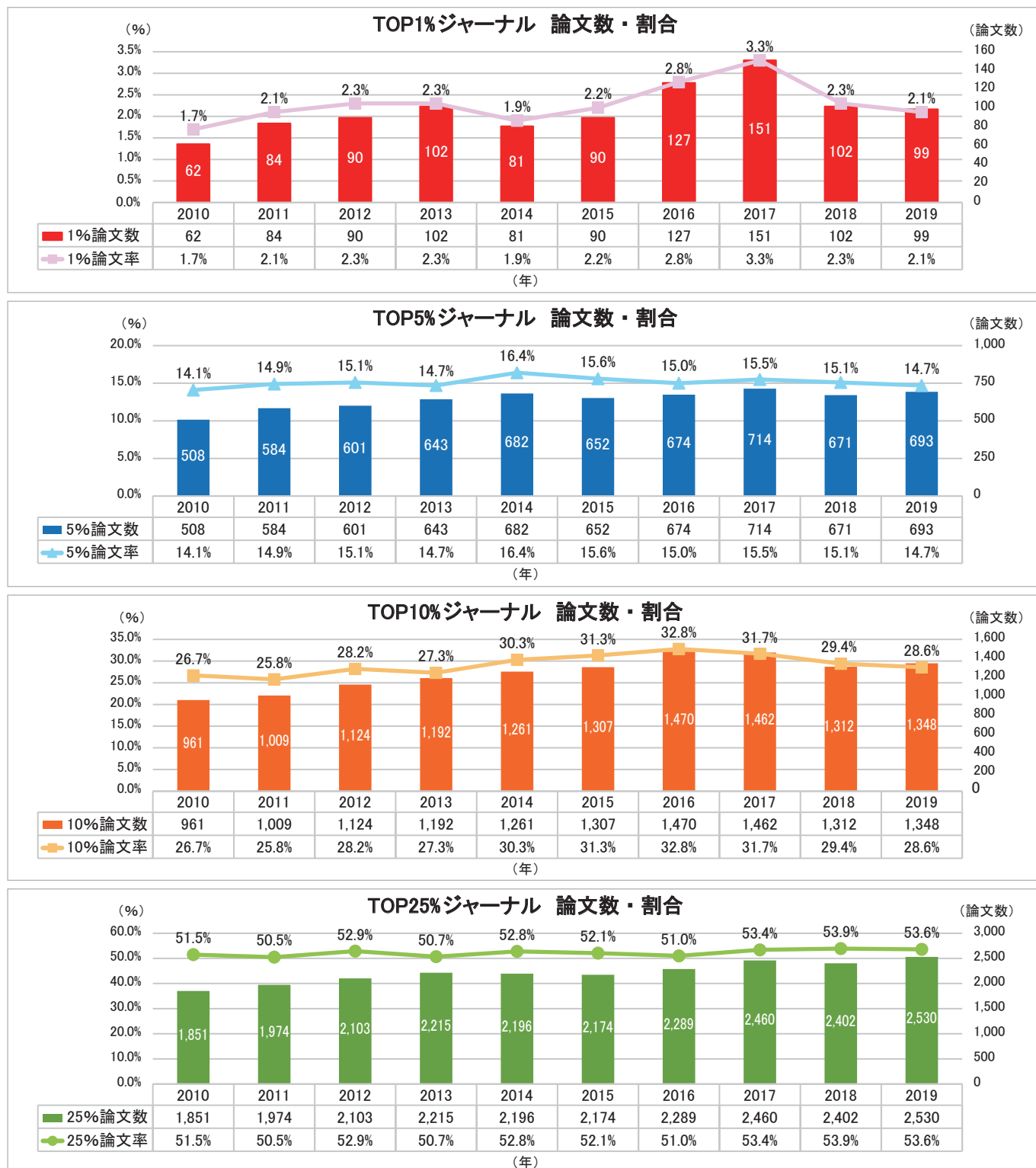
出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

■世界トップのジャーナルに掲載された論文数と割合推移

TOP5・10・25%ジャーナル論文数は長期的に増加傾向にある。TOP25%ジャーナル論文の割合は50%以上を保っており、本学の半数以上の論文が影響力のある雑誌に投稿されている。

◆RU11 での比較◆



・トップ x %ジャーナルに掲載された論文数と割合とは・・・

被引用数ベースで世界トップ%ジャーナルに掲載された論文数と割合。Scopusにおける各年の被引用数を元に、上位1%、5%、10%、25%に含まれるジャーナルに掲載された論文数・割合を示すもの。

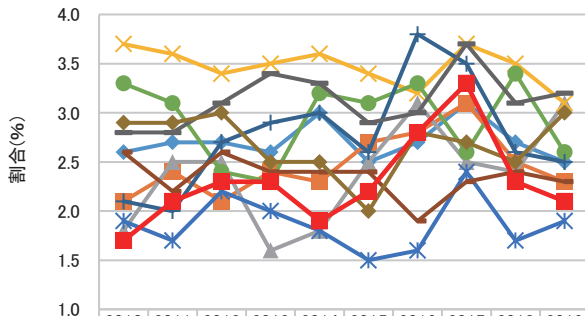
出典：Elsevier 社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較 (つづき)

RU11(※1)の各大学について、TOPジャーナル論文率の推移を比較した。本学は特にTOP10%ジャーナル論文率が、2016年までは増加傾向にあったが、以降減少に転じている。

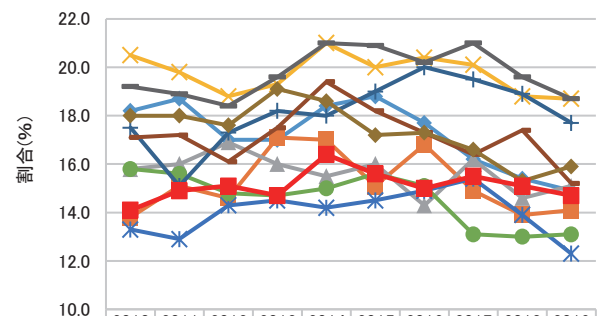
◆RU11での比較◆

TOP 1% ジャーナルに含まれる論文の割合



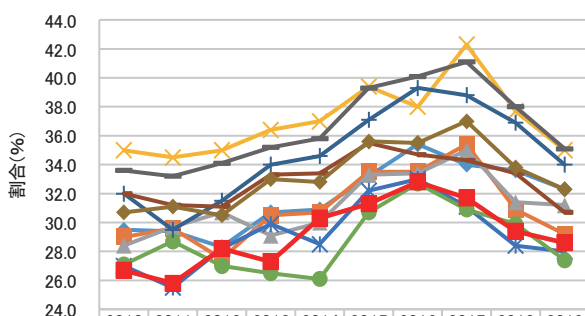
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道大	2.6	2.7	2.7	2.6	3.0	2.5	2.7	3.1	2.7	2.5
東北大	2.1	2.4	2.1	2.4	2.3	2.7	2.8	3.1	2.5	2.3
筑波大	1.8	2.5	2.5	1.6	1.8	2.5	3.1	2.5	2.4	3.1
東京大	3.7	3.6	3.4	3.5	3.6	3.4	3.2	3.7	3.5	3.1
早稲田大	1.9	1.7	2.2	2.0	1.8	1.5	1.6	2.4	1.7	1.9
慶應義塾大	3.3	3.1	2.4	2.3	3.2	3.1	3.3	2.6	3.4	2.6
東京工業大	2.1	2.0	2.7	2.9	3.0	2.6	3.8	3.5	2.6	2.5
名古屋大	2.6	2.2	2.6	2.4	2.4	2.4	1.9	2.3	2.4	2.3
京都大	2.8	2.8	3.1	3.4	3.3	2.9	3.0	3.7	3.1	3.2
大阪大	2.9	2.9	3.0	2.5	2.5	2.0	2.8	2.7	2.5	3.0
九州大	1.7	2.1	2.3	2.3	1.9	2.2	2.8	3.3	2.3	2.1

TOP 5% ジャーナルに含まれる論文の割合



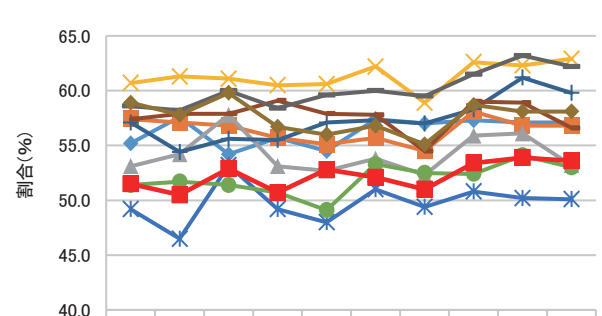
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道大	18.2	18.7	17.0	17.0	18.4	18.8	17.7	16.2	15.4	14.9
東北大	13.8	15.1	14.6	17.1	17.0	15.1	16.8	14.9	13.9	14.1
筑波大	15.8	16.0	16.9	16.0	15.5	16.0	14.3	16.2	14.6	15.1
東京大	20.5	19.8	18.8	19.3	21.0	20.0	20.4	20.1	18.8	18.7
早稲田大	13.3	12.9	14.3	14.5	14.2	14.5	14.9	15.4	13.9	12.3
慶應義塾大	15.8	15.6	14.8	14.7	15.0	15.6	15.1	13.1	13.0	13.1
東京工業大	17.5	15.1	17.3	18.2	18.0	19.0	20.0	19.5	18.9	17.7
名古屋大	17.1	17.2	16.1	17.5	19.4	18.2	17.3	16.4	17.4	15.2
京都大	19.2	18.9	18.4	19.6	21.0	20.9	20.2	21.0	19.6	18.7
大阪大	18.0	18.0	17.6	19.1	18.6	17.2	17.3	16.6	15.3	15.9
九州大	14.1	14.9	15.1	14.7	16.4	15.6	15.0	15.5	15.1	14.7

TOP 10% ジャーナルに含まれる論文の割合



	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道大	29.5	29.4	28.3	30.7	30.9	33.2	35.4	34.0	33.6	32.3
東北大	29.0	29.6	27.5	30.5	30.7	33.5	33.5	35.4	30.9	29.2
筑波大	28.4	29.7	30.7	29.1	30.0	33.3	33.4	35.0	31.4	31.2
東京大	35.0	34.5	35.0	36.4	37.0	39.4	38.0	42.3	37.7	35.0
早稲田大	27.0	25.5	28.2	29.9	28.5	32.2	33.0	31.1	28.4	28.0
慶應義塾大	27.1	28.7	27.0	26.5	26.1	30.7	32.7	30.9	29.9	27.4
東京工業大	32.0	29.5	31.5	34.0	34.6	37.1	39.3	38.8	36.9	34.0
名古屋大	32.0	31.2	31.1	33.3	33.4	35.5	34.7	34.3	33.4	30.7
京都大	33.6	33.2	34.1	35.2	35.8	39.3	40.1	41.1	38.0	35.1
大阪大	30.7	31.1	30.5	33.0	32.8	35.6	35.5	37.0	33.8	32.3
九州大	26.7	25.8	28.2	27.3	30.3	31.3	32.8	31.7	29.4	28.6

TOP 25% ジャーナルに含まれる論文の割合



	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道大	55.2	57.6	54.2	55.7	54.5	57.4	57.0	57.3	57.1	57.1
東北大	57.4	57.1	56.8	55.7	55.1	55.7	54.5	58.1	56.8	56.8
筑波大	53.1	54.2	57.8	53.1	52.7	53.8	52.3	55.9	56.1	53.2
東京大	60.7	61.3	61.1	60.5	60.6	62.2	58.9	62.6	62.3	62.9
早稲田大	49.2	46.5	53.2	49.2	48.0	51.0	49.4	50.8	50.2	50.1
慶應義塾大	51.4	51.7	51.4	50.7	49.1	53.3	52.5	52.4	54.1	53.0
東京工業大	57.1	54.4	55.6	55.5	57.1	57.3	57.0	58.3	61.2	59.8
名古屋大	57.4	57.9	57.9	59.1	57.9	57.8	54.5	59.0	58.9	56.6
京都大	58.6	58.2	60.0	58.4	59.6	60.0	59.5	61.5	63.2	62.2
大阪大	58.9	57.8	59.8	56.7	56.0	56.8	55.1	58.7	58.1	58.1
九州大	51.5	50.5	52.9	50.7	52.8	52.1	51.0	53.4	53.9	53.6

(※1)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

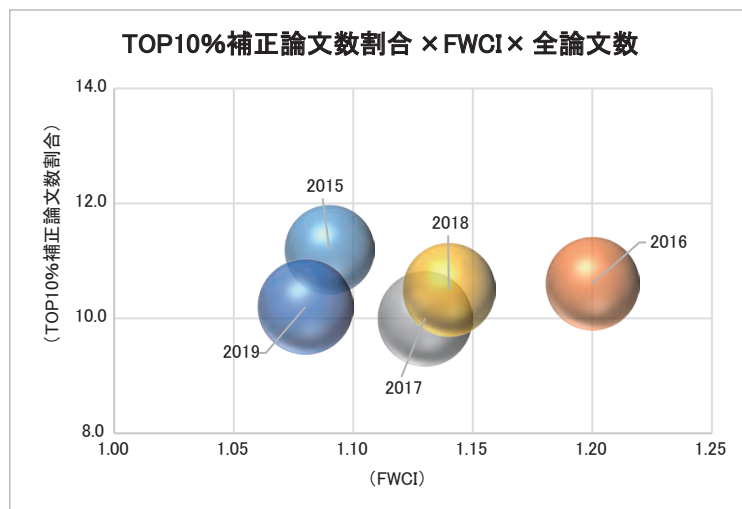
■論文の量と質の総合比較

下記散布図は、右上にいくほど、論文の質が高いと言える。論文数は5,000本前後を推移しており、TOP10%補正論文数割合(※1)は10%程度で推移している。また、RU11(※2)で比較するとTOP10%補正論文8位である。ただし、論文数5位、FWCI(※3)値は6位であり、RU11の中で論文の量と質については本学は中央に位置している。

◆九州大学◆(2015年～2019年)

本学のTOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(横軸)×全論文数(バブル大きさ)

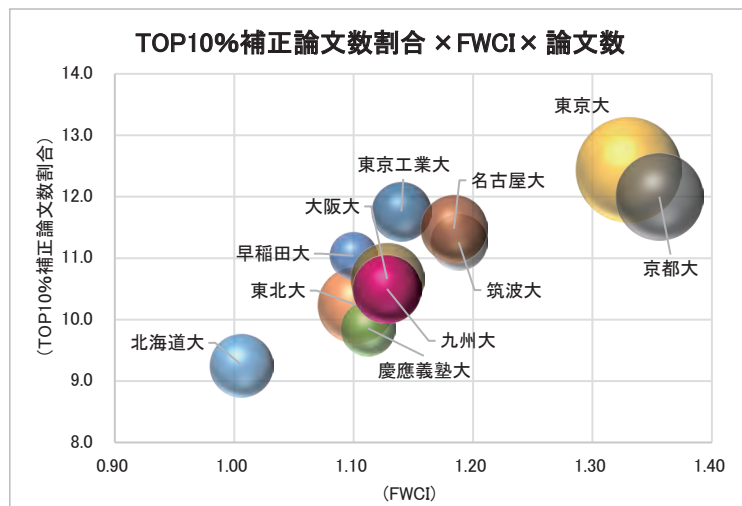
年	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
2015	11.2	1.09	4,848
2016	10.6	1.20	5,081
2017	10.0	1.13	5,138
2018	10.5	1.14	5,029
2019	10.2	1.08	5,187
平均	10.5	1.13	5,057



◆RU11での比較◆(2015年～2019年の平均)

TOP10%補正論文数割合(縦軸)×FWCI(横軸)×論文数(バブル大きさ)

大学名	TOP10%補正論文数割合	FWCI	論文数
北海道大	9.3	1.01	4,397
東北大	10.2	1.10	6,293
筑波大	11.3	1.19	3,451
東京大	12.4	1.33	12,212
早稲田大	11.0	1.10	2,488
慶應義塾大	9.9	1.11	3,344
東京工業大	11.8	1.14	3,883
名古屋大	11.5	1.18	4,953
京都大	12.0	1.36	8,325
大阪大	10.7	1.13	5,930
九州大	10.5	1.13	5,057



(※1)TOP10%補正論文数割合

被引用ベースで世界トップに入る論文数(分野補正した値)の割合。Scopusにおける各年の被引用数をもとに上位10%に含まれる論文数の割合を示すもの。

(※2)RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

(※3)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

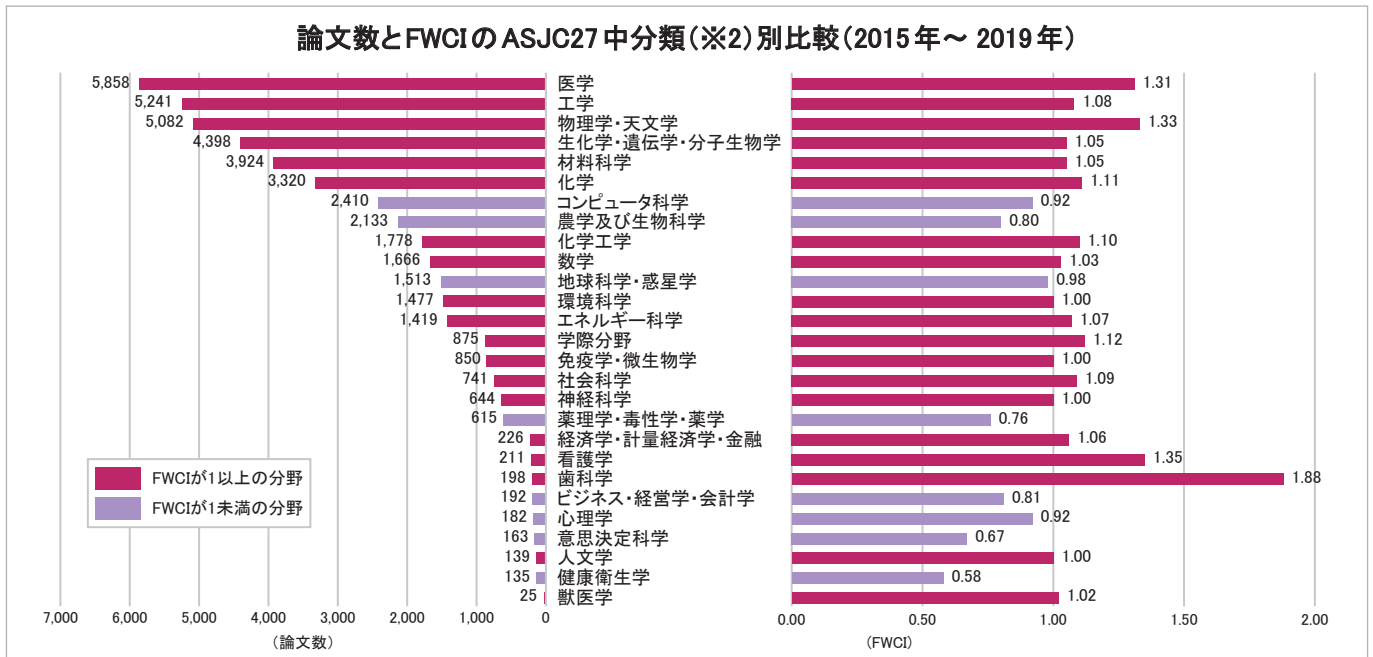
出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

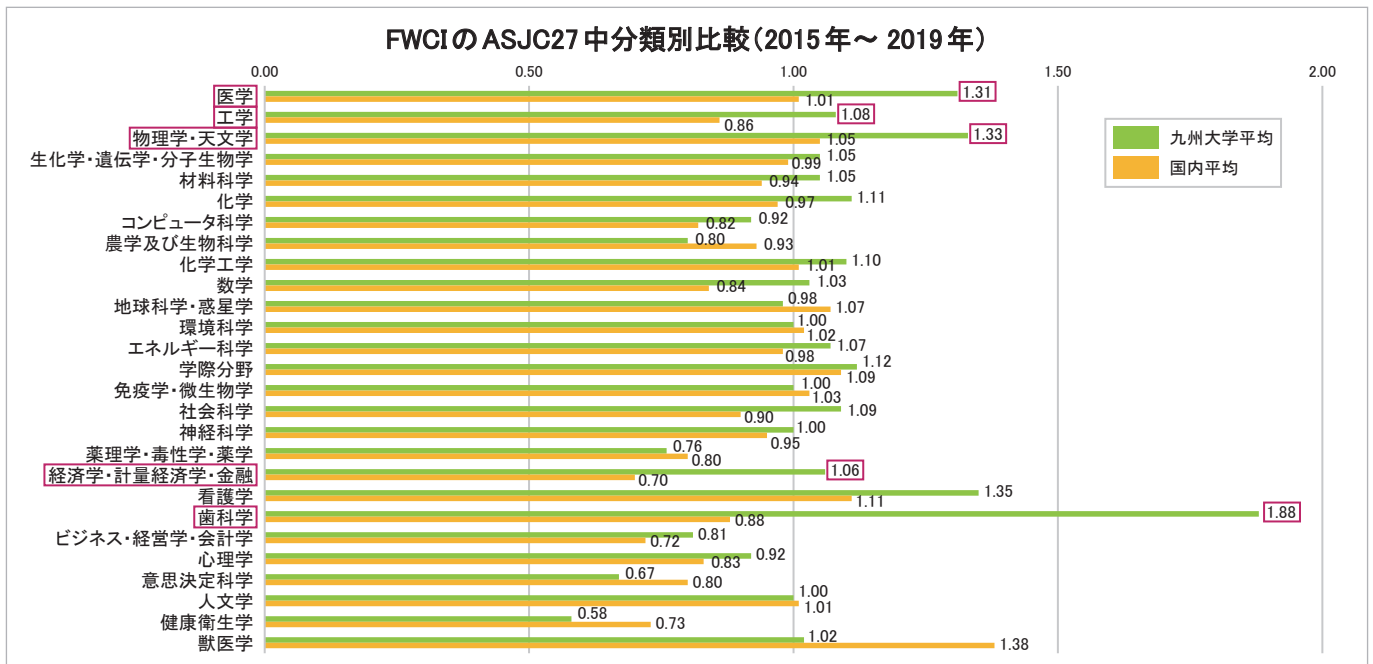
■ 本学と国内平均の比較 (ASJC27 中分類別) - FWCI -

FWCI(※1)が世界平均の1以上である分野は、27分野中19分野である。中でも、国内平均と比較してFWCI値が特に高い上位5分野は、歯科学、経済学・計量経済学・金融、医学、物理学・天文学、工学分野である。論文数が多くFWCIが高いほど研究力に厚みがあること(大学の強み)を表す。また、論文数が少なくFWCIが高い場合は、研究力の高い特定の教員の存在を示す場合が多い。なお、特定の教員が巨大な研究者コミュニティに所属する場合は、論文数・FWCI共に値が高くなる場合が多い。

◆ 九州大学 ◆



◆ 国内平均と九州大学との比較 ◆



(※1)FWCI(Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを意味する。

(※2)ASJC27中分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類。

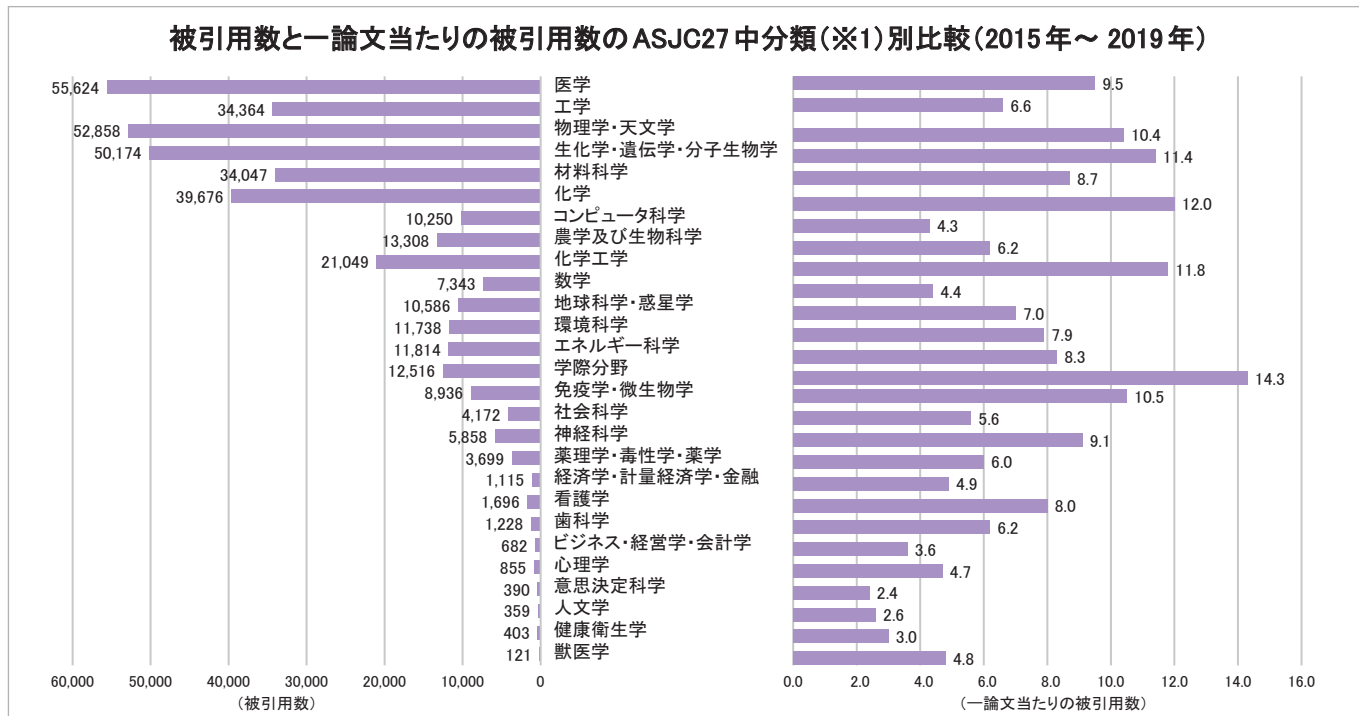
出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

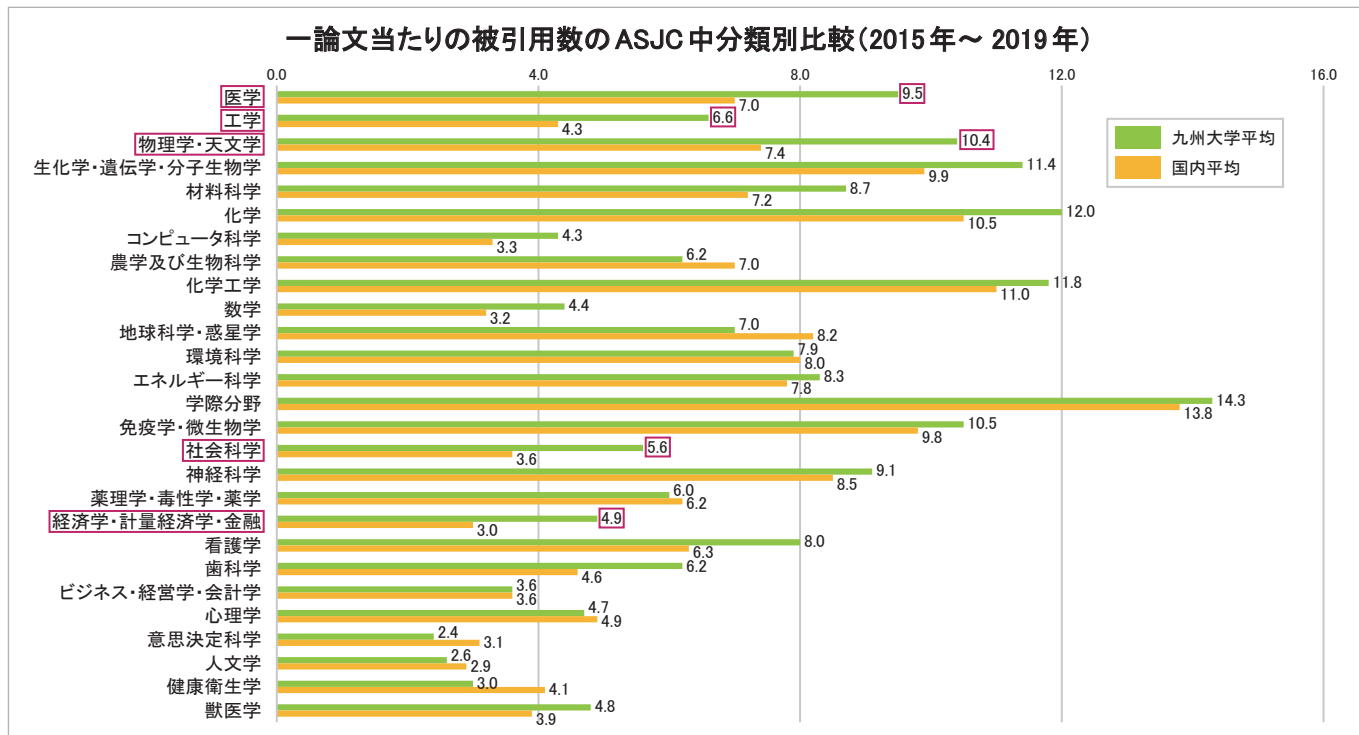
■本学と国内平均の比較(ASJC27中分類別) — 論文当たりの被引用数 —

一論文当たりの被引用数が、国内平均を超えている分野は、27分野中18分野である。その中でも、国内平均と比較して一論文当たりの被引用数が特に高い上位5分野は物理学・天文学、医学、社会科学、工学、経済学・計量経済学・金融分野である。

◆九州大学◆



◆国内平均と九州大学との比較◆



(※1) ASJC27中分類

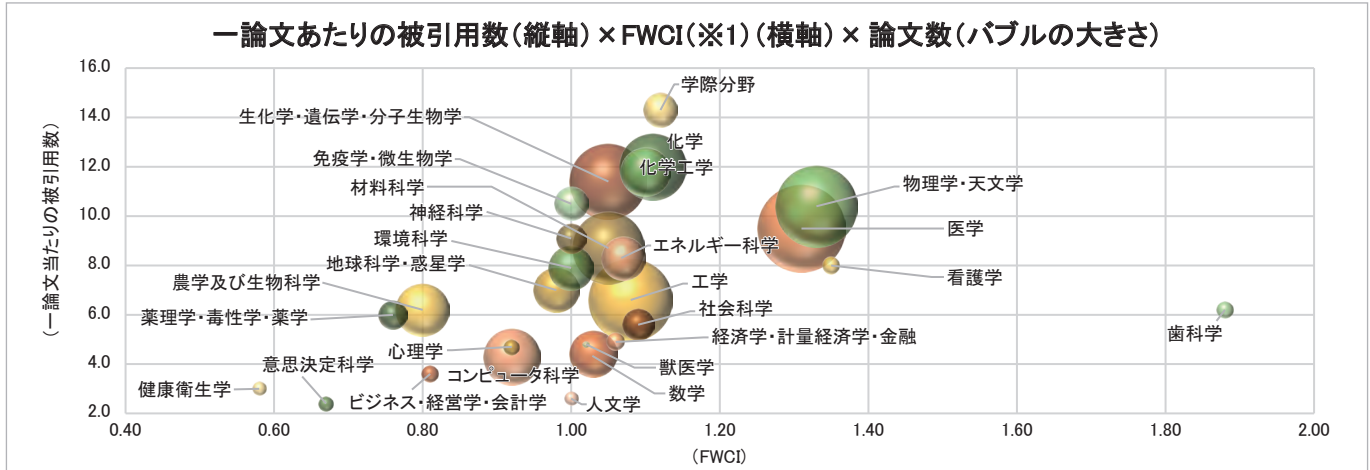
Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類。

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-2. 論文の量と質についての比較(つづき)

■本学の論文の研究分野についての比較(ASJC27中分類別)(2015年~2019年)

右方にある分野ほどFWCI(※1)が高く、上方にある分野ほど一論文当たりの被引用数が高くなり、論文の質が高いことを示す。特に、歯科学、看護学、物理学・天文学、医学、学際分野の論文の質が高い。(学際分野とは、「Nature」や「Science」のような総合学術雑誌に掲載された論文を示す。)



■本学の論文の研究分野についての比較(ASJC334小分類別)(2015年~2019年)

FWCIが世界平均1.0を超えている小分野は、334分野中133分野である。その中でも特にFWCIの高い上位10の小分野を下記に示す。FWCIが高く論文数が少ない分野は、研究力の高い特定の教員が存在する可能性がある。FWCIが高く論文数も多い分野は、研究力に厚みがあること(大学の強み)を示す。

FWCI順位	ASJC27中分類(※2)	ASJC334小分類(※2)	FWCI	論文数
1	Nursing (看護学)	Psychiatric Mental Health (精神医学的メンタルヘルス)	15.36	5
2	Medicine (医学)	General Medicine (医学(全般))	4.76	318
3	Engineering (工学)	Engineering (miscellaneous) (工学(その他))(※3)	3.63	229
4	Physics and Astronomy (物理学、天文学)	Physics and Astronomy (miscellaneous) (物理学、天文学(その他))(※4)	3.17	422
5	Business, Management and Accounting (ビジネス、経営学、会計学)	Business and International Management (ビジネス・国際経営)	2.83	20
6	Dentistry (歯科学)	General Dentistry (歯科学(全般))	2.51	118
7	Veterinary (獣医学)	Equine (馬獣医学)	2.46	1
7	Veterinary (獣医学)	Small Animals (小型動物)	2.46	1
9	Nursing (看護学)	Advanced and Specialized Nursing (高度・特殊看護)	2.31	19
10	Health Professions (健康衛生学)	Occupational Therapy (作業療法)	2.29	1

(※1) FWCI (Field-weighted Citation Impact)

当該文献の被引用数を、同じ出版年・同じ分野・同じ文献タイプの文献の世界平均で割ったもの。

FWCIが1以上ということは、平均インパクトが世界平均以上ということを示す。

(※2) ASJC27中分類、ASJC334小分類

Scopusのジャーナル分類(ASJC: All Scopus Science Journal Classification)に基づく27の中分類と334の小分類。

翻訳協力: 大学改革支援・学位授与機構。(中分類の翻訳はエルゼビア社による。)

(※3) 工学(その他): 次の項目以外の分野

航空宇宙工学、自動車工学、生体医工学、土木・構造工学、計算力学、制御・システム工学、電気電子工学、管理工学・生産工学、機械工学、材料力学、海洋工学、安全・リスク・信頼性・品質管理、メディア工学、建設工学、建築学

(※4) 物理学・天文学(その他): 次の項目以外の分野

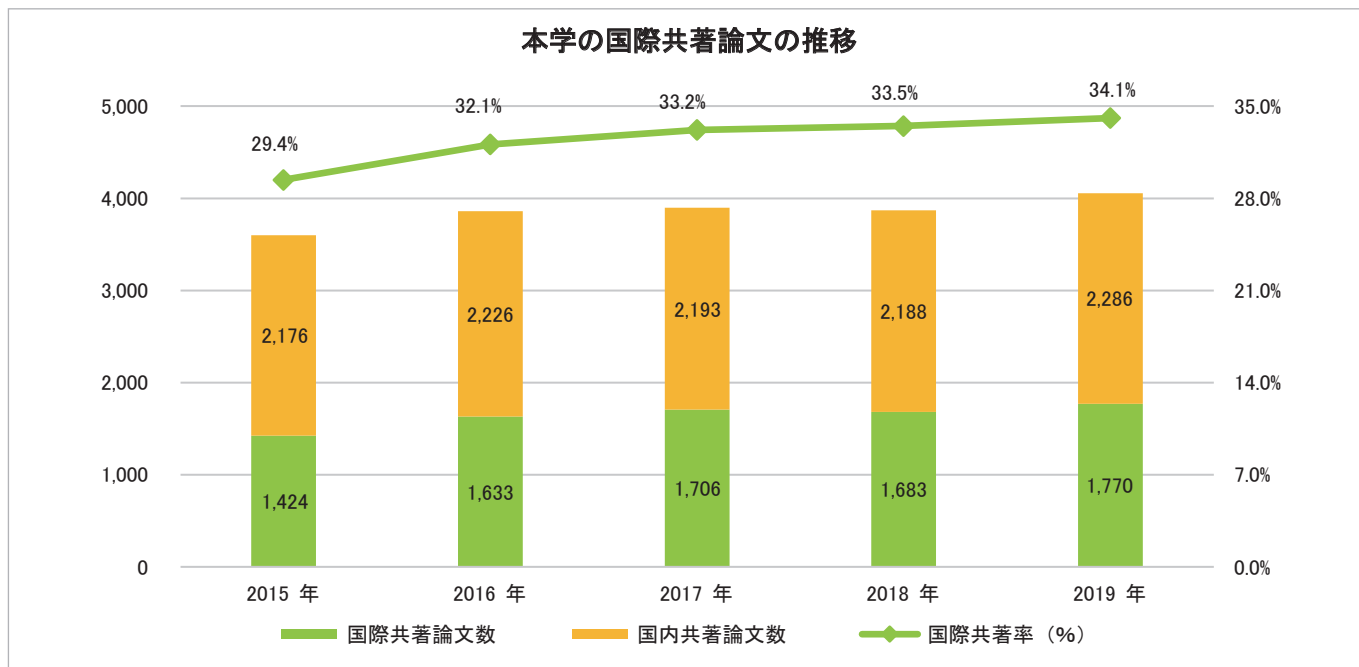
音響学及び超音波学、天文学及び宇宙物理学、凝縮系物理学、計測機器、核物理学・高エネルギー物理学、原子分子物理学及び光学、放射線、統計物理学及び非線形物理学、表面・界面

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-3. 国際共著論文

本学でみると、国際共著論文数・国際共著論文比率はともに増加している。国際共著論文数は2010年から2019年で2倍以上に増加しており、さらに国際共著論文比率も2010年と2019年を比較すると21.0%から34.1%へ上昇している。増加率はRU11(※1)の中で最も大きい。

◆九州大学◆



◆研究院別◆ (2015年～2019年)

順位	研究院	国際共著論文数(合計)(本)	国際共著論文比率(平均)(%)
1	工学研究院	1,311	29.1
2	理学研究院	1,241	55.7
3	農学研究院	728	39.7
4	システム情報科学研究院	696	30.4
5	医学研究院	615	12.8
6	総合理工学研究院	430	37.2
7	薬学研究院	157	24.5
8	歯学研究院	149	20.9
9	比較社会文化研究院	86	43.9
10	芸術工学研究院	76	19.5
11	人間環境学研究院	56	32.4
12	経済学研究院	55	37.4
13	数理学研究院	36	19.4
14	法学研究院	21	53.9
15	言語文化研究院	3	7.5
16	人文科学研究院	0	0.0

(※1) RU11(学術研究懇談会)

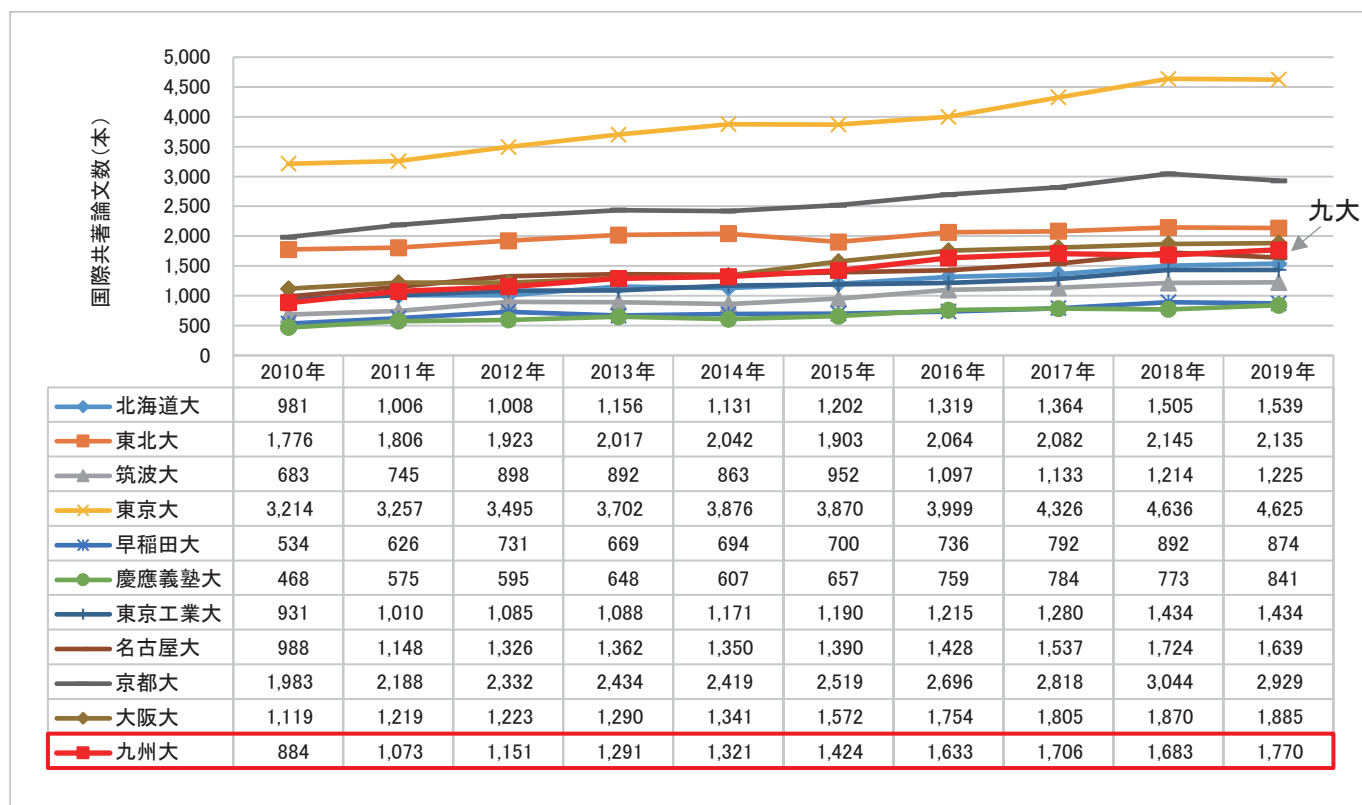
国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

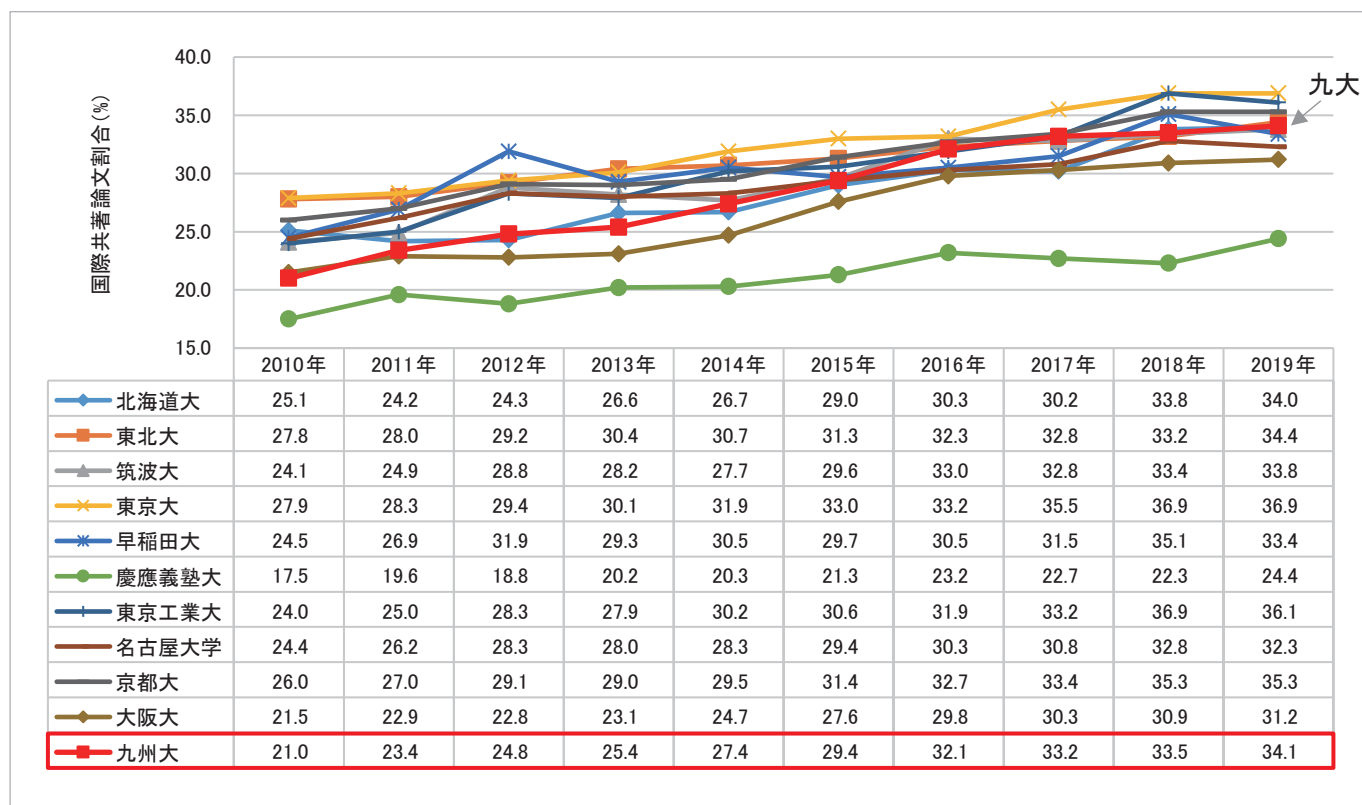
9-3. 国際共著論文(つづき)

◆RU11での比較◆ (2010年～2019年)

国際共著論文数



国際共著論文比率



・RU11(学術研究懇談会)

国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都市大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典: Elsevier社製「SciVal」より(2020年9月現在)

9-3. 国際共著論文(つづき)

■ 世界各機関との国際共著状況(2015~2019年)

北アメリカ

654機関、2,832本の共著論文



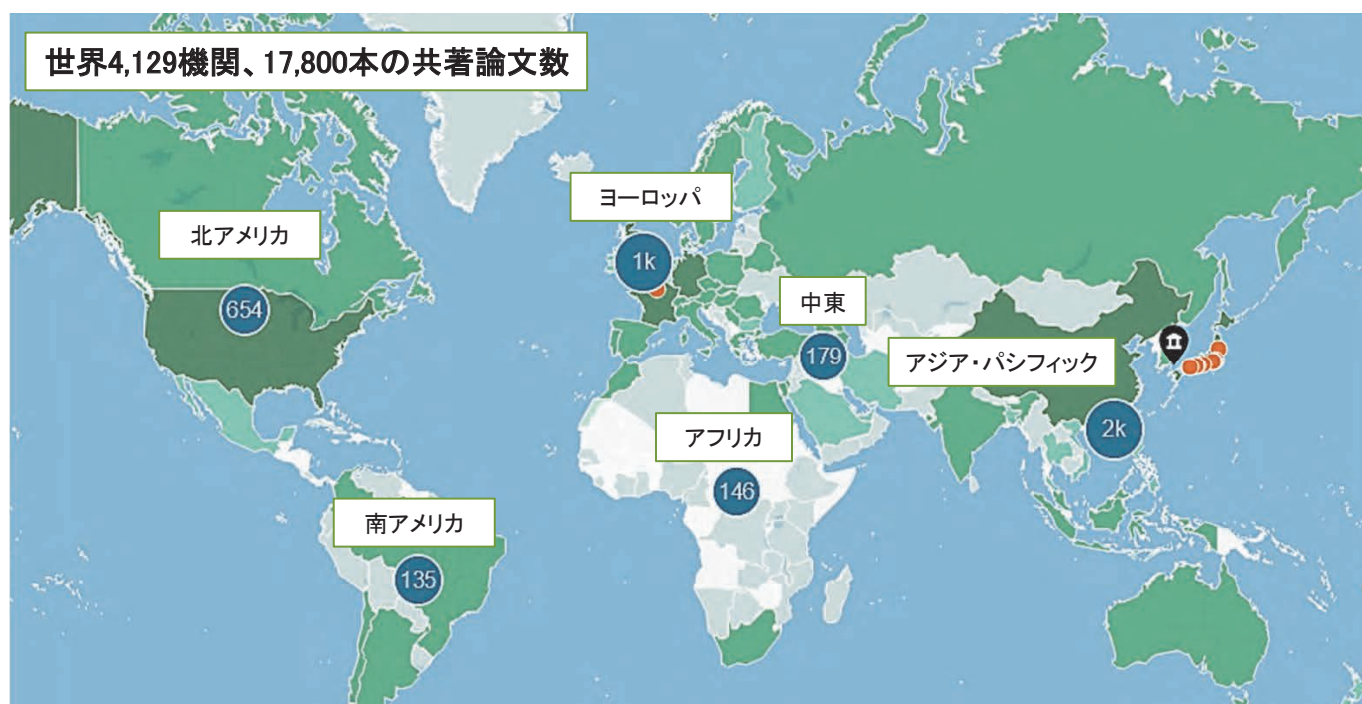
ヨーロッパ

1,311機関、2,810本の共著論文



アジア・パシフィック

1,704機関、15,824本の共著論文



南アメリカ

135機関、695本の共著論文



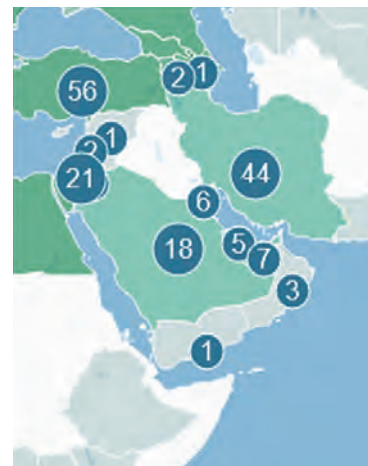
アフリカ

146機関、1,148本の共著論文



中東

179機関、872本の共著論文



・各地図上の数字は、機関数を表すものである。
・詳細は <https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/en/global-engagements>

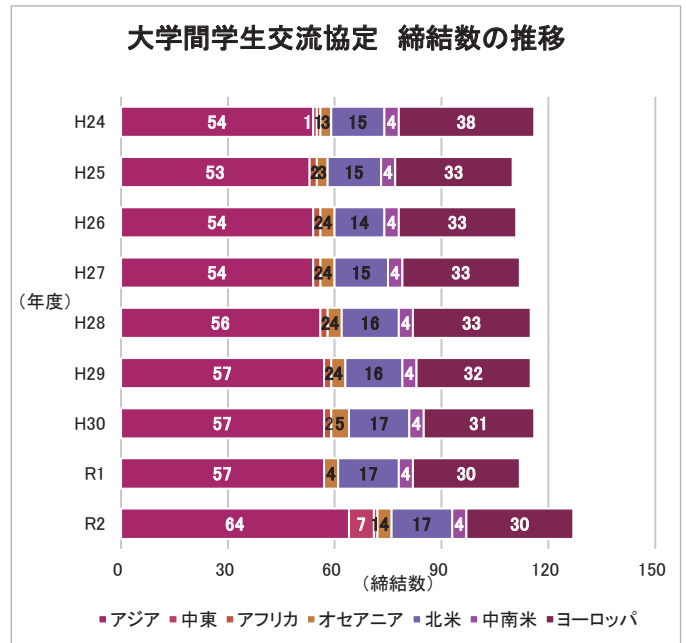
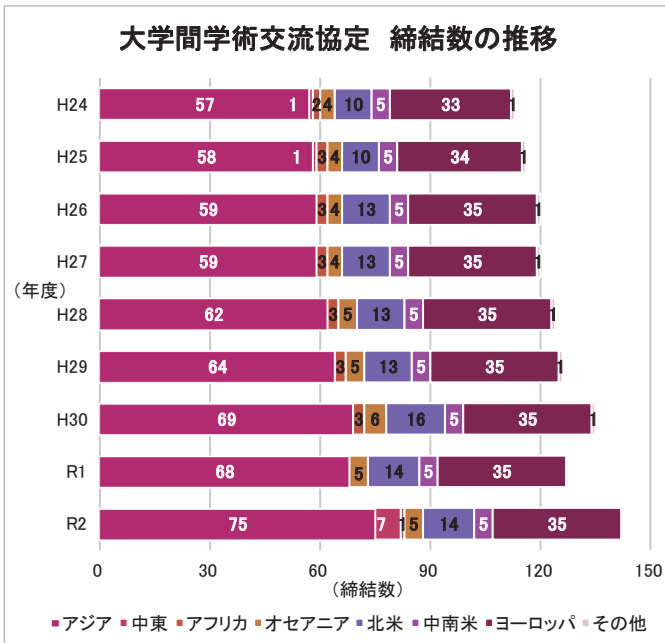
出典: Elsevier 社製「SciVal」より(2020年9月現在)

10. 国際 (各年度5月1日)

10-1. 海外大学との交流状況

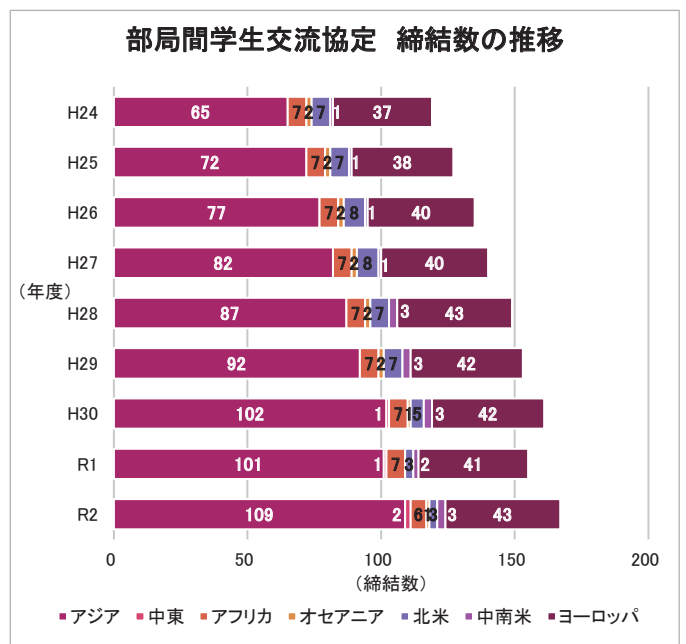
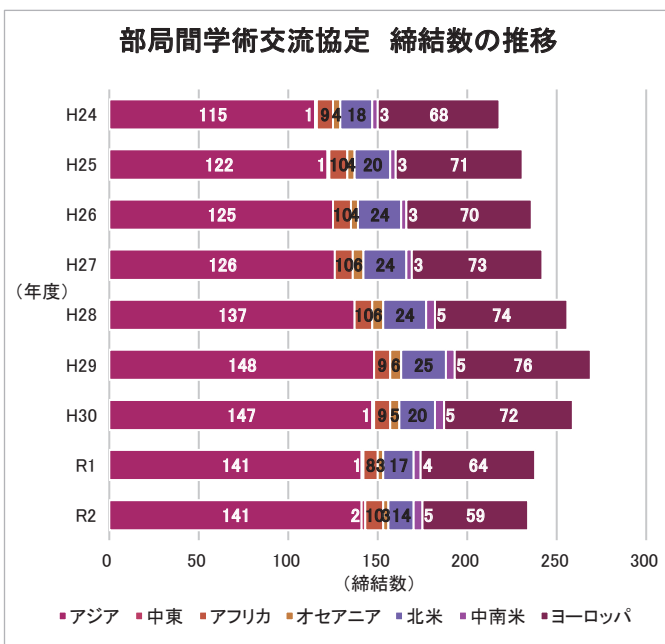
10-1-1. 海外大学との交流状況 (大学間交流協定)

大学間学術交流協定及び学生交流協定の締結数は、令和2年度が最も締結数が多い。
締結地域を見ると、アジア、ヨーロッパとの締結数の割合が高い。



10-1-2. 海外大学との交流状況 (部局間交流協定)

近年では、部局間学術交流協定の締結数は減少傾向にある。部局間学生交流協定数の締結数は近年 150 機関以上を推移しており、令和2年度は最も締結数が多い。



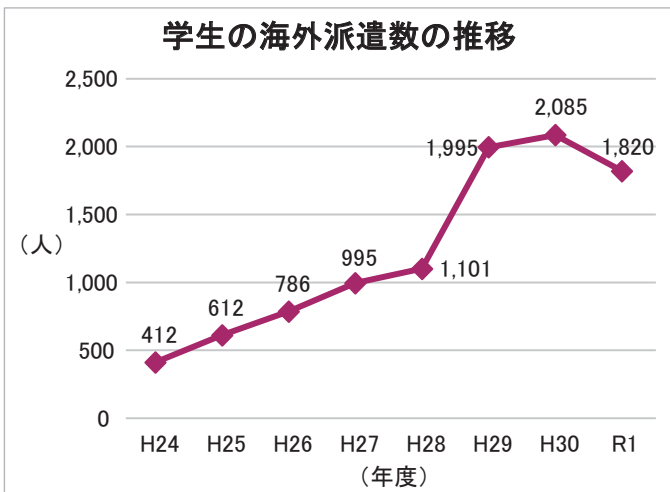
出典: 九州大学概要

10-2. 本学学生の海外留学状況

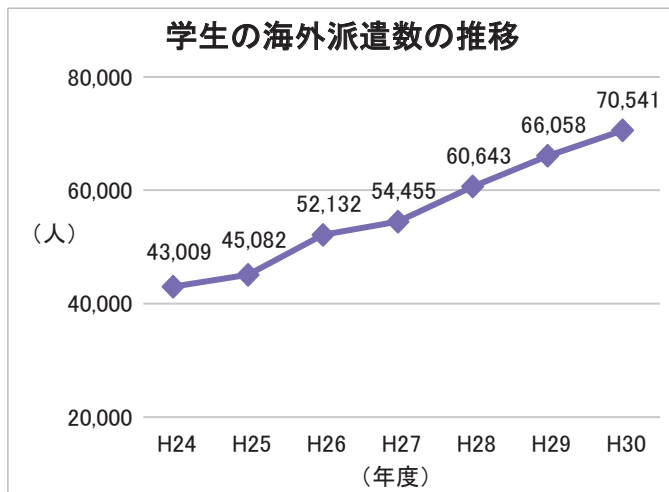
10-2-1. 本学学生の海外留学状況(全体)

海外へ留学している学生数は、全国的に増加傾向にある。本学では近年長期的増加傾向にあったが、令和元年度に減少した。

◆九州大学◆

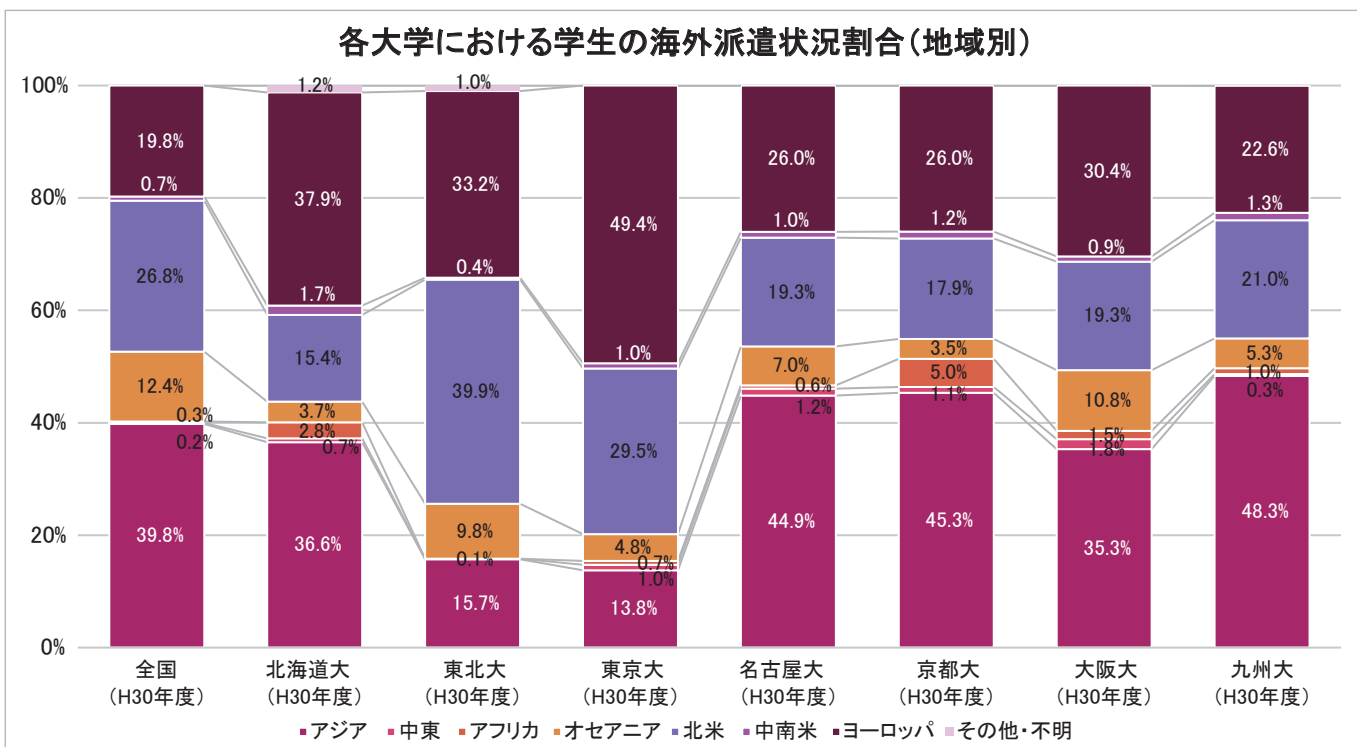


◆全国◆



出典 本学：九州大学概要
全国：JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」

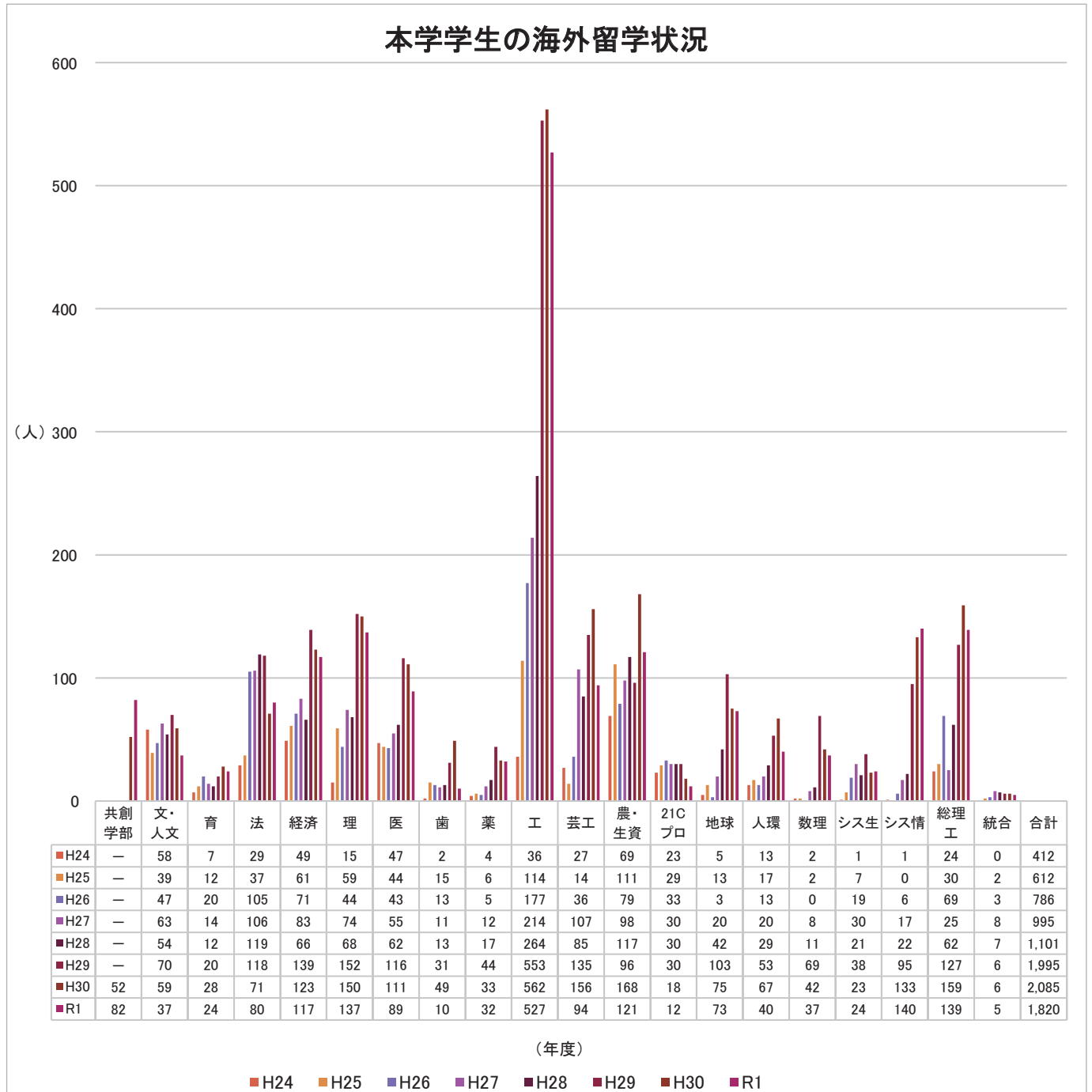
◆各大学における学生の海外派遣状況割合(地域別)◆



出典 全国：JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」
 北海道大：北海道大学ファクトブック(H30年5月1日現在)日本人学生の海外派遣状況(地域別)
 東北大：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「大学ポートレート「入力データ集」(H30年度)
 東京大：大学概要(H30年5月1日現在)外国へ留学等している学生数
 名古屋大：大学プロフィール資料編(H30年度)海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等
 京都大：大学概要(H30年度)外国へ渡航した学生数。
 平成30年度中に出発した渡航のうち、観光・帰省等の学修を伴わない私事渡航を除いた数。
 大阪大：大学概要(H30年度)定義等の記載なし
 九州大：大学概要(H30年5月1日現在)過年度に留学を開始
 ・上記のとおり、大学によって定義等が異なるため、単純比較ができないことに留意。

10-2-2. 本学学生の海外留学状況（部局等別）

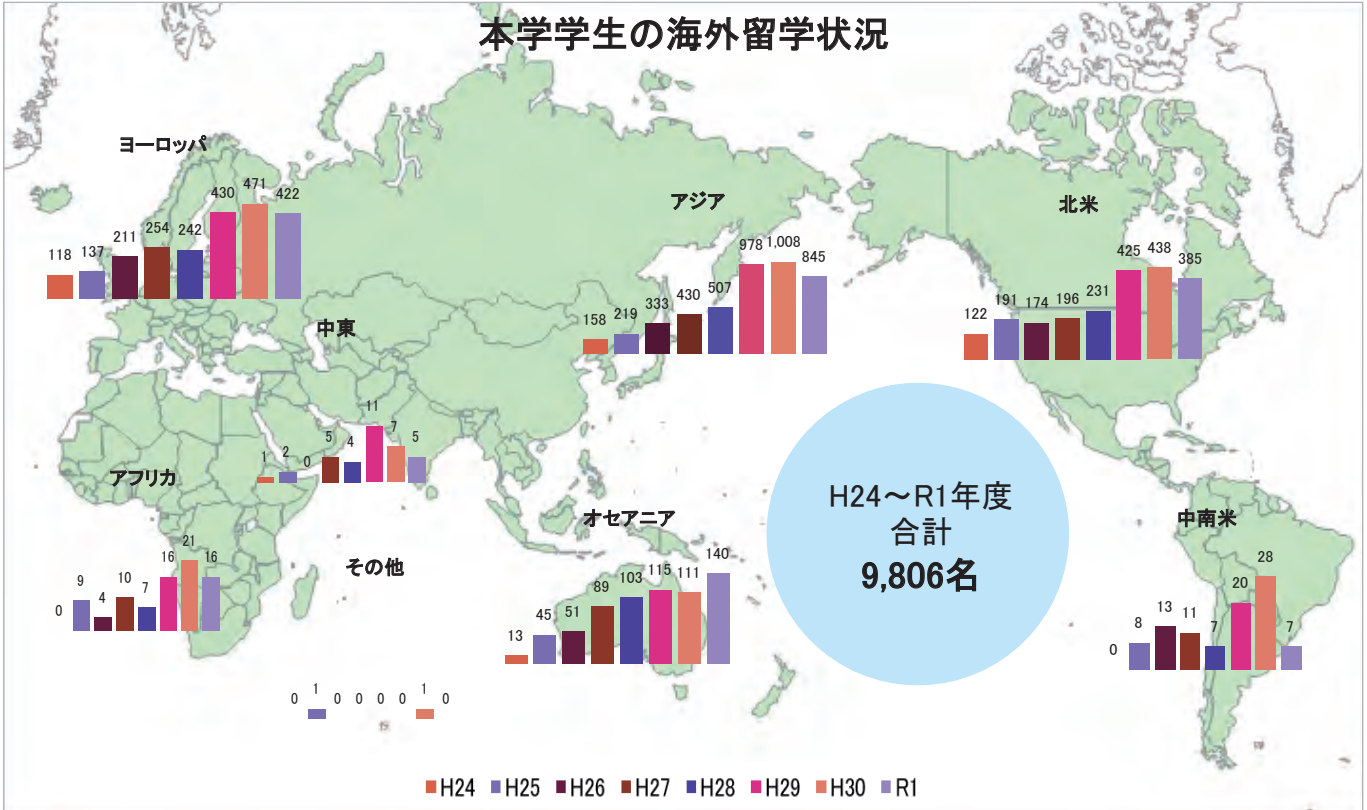
本学学生の海外留学者数は増加傾向であったが、令和元年度は減少している。留学先としては、海外オフィスを設置していることも影響しており、アジアが最も多く、次にヨーロッパ、北米が近年増加傾向である。学部別に見ると、工学部の学生数が最も多く、特に平成 29 年度に大きく増加している。



出典：九州大学概要

10-2-3. 本学学生の海外留学状況(地域別)

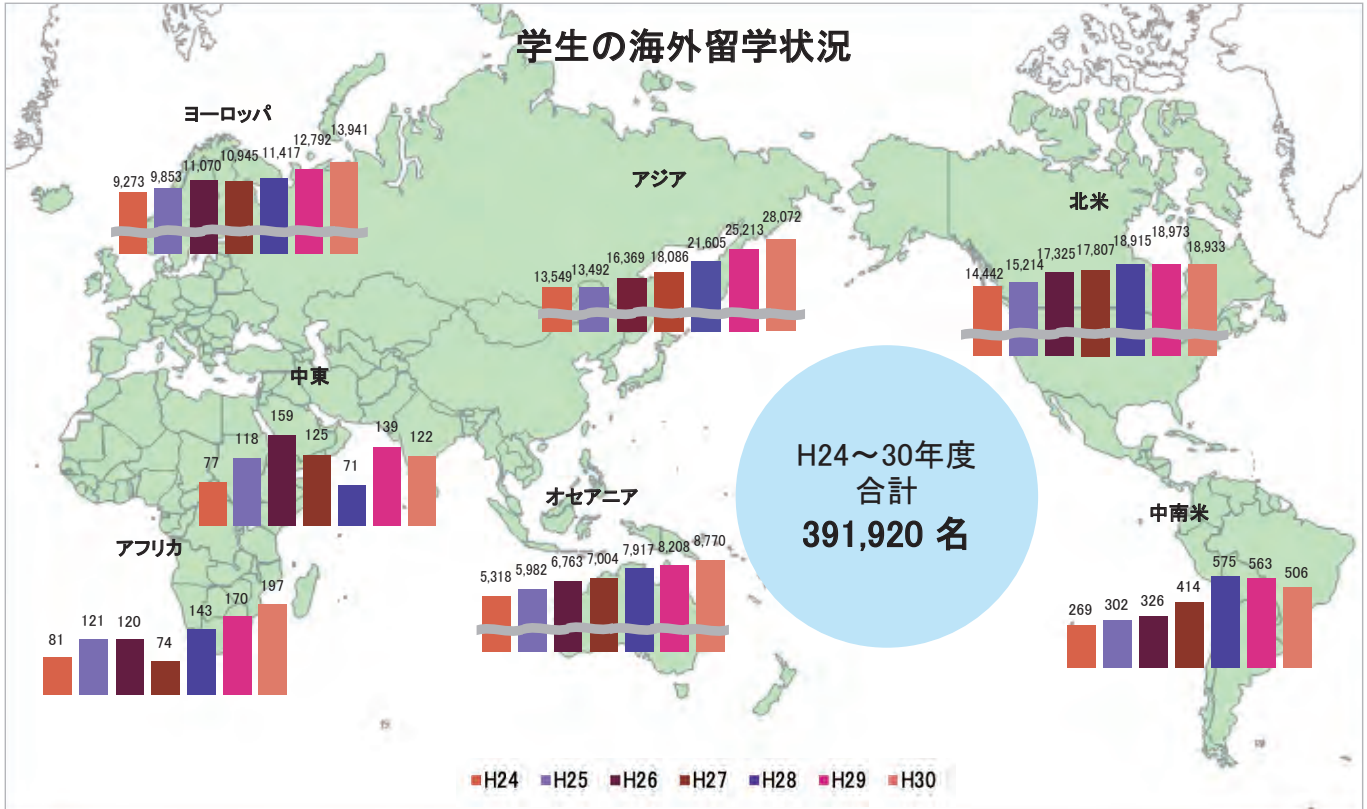
◆九州大学◆



- ・ 過年度に留学を開始した者を含む(H24-30)
- ・ 外国人留学生を含む総数(R1)

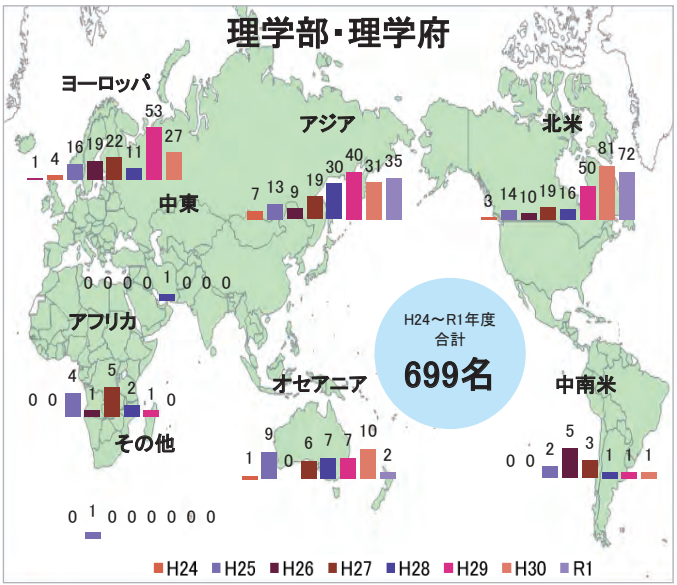
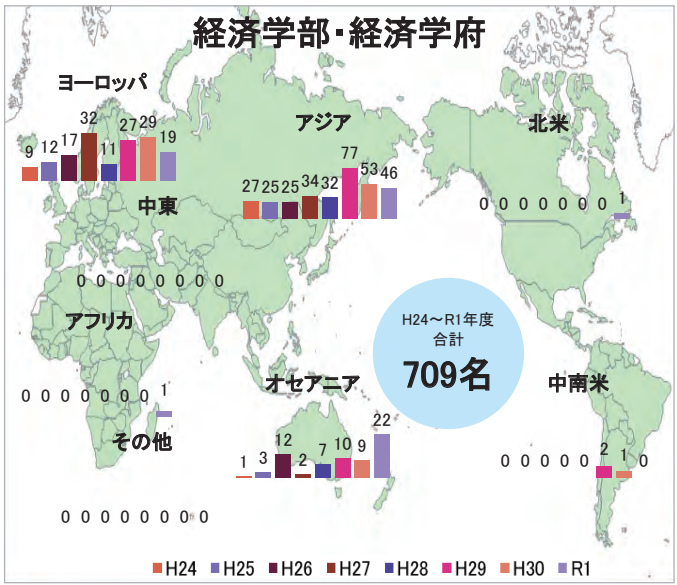
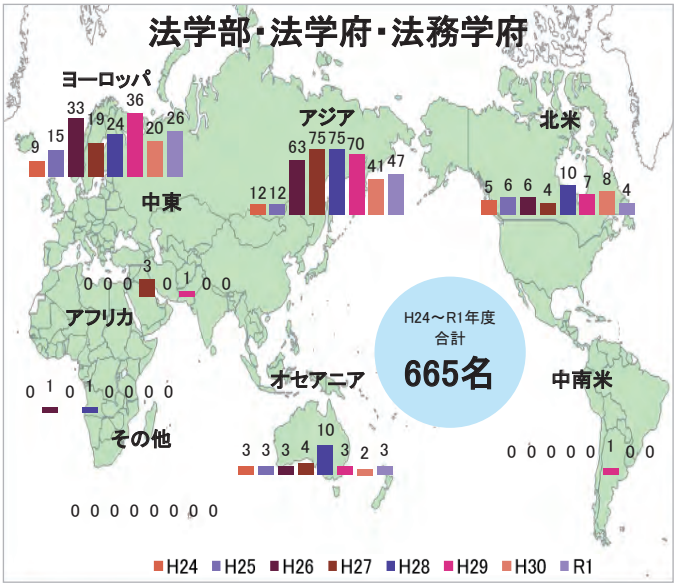
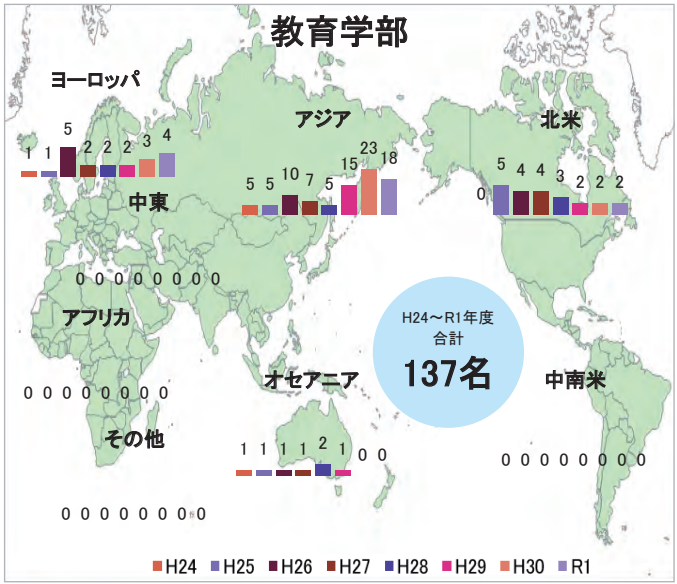
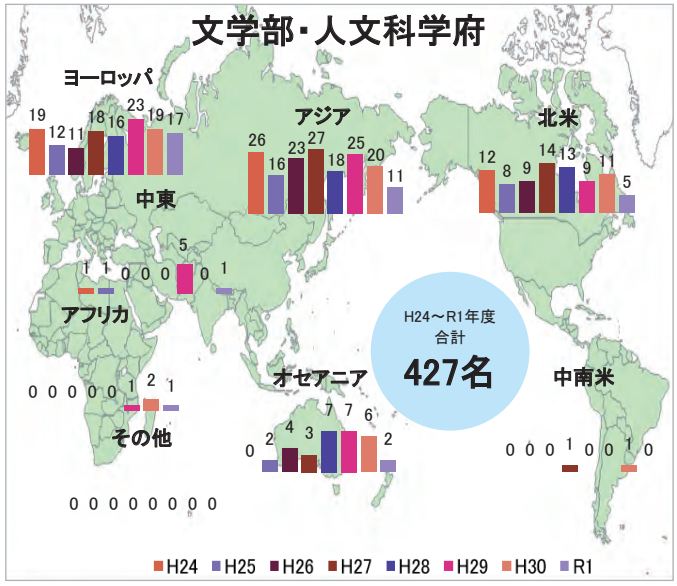
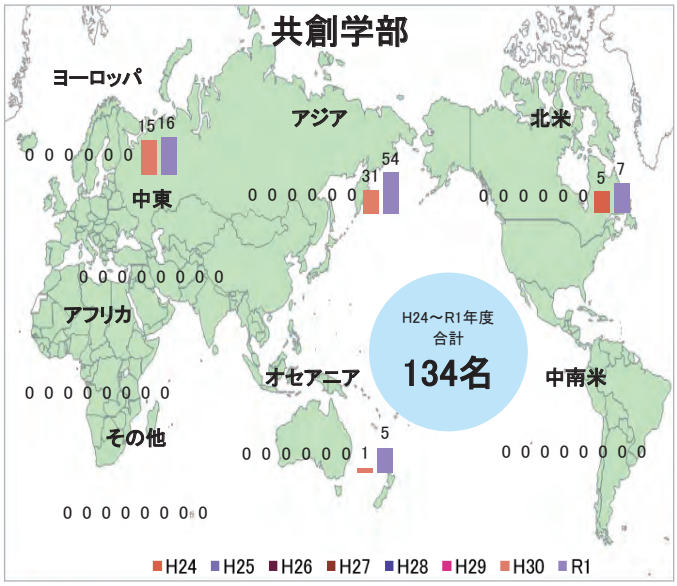
出典: 九州大学概要

◆全国◆



出典: JASSO「協定に基づく日本人留学生状況調査」

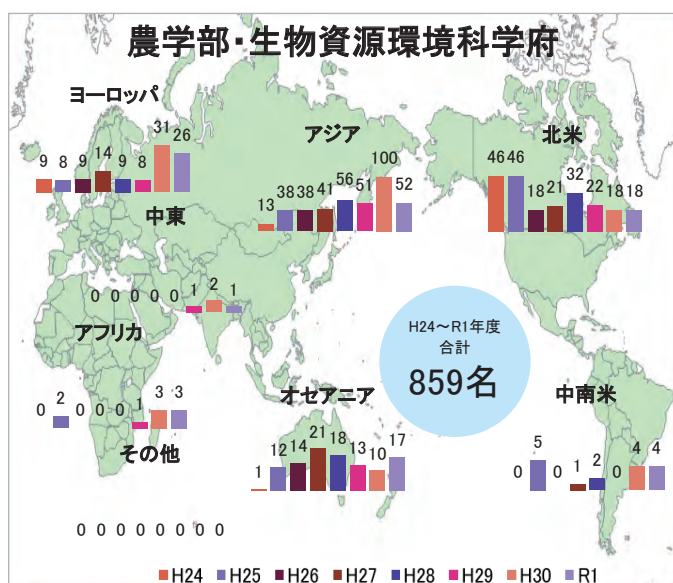
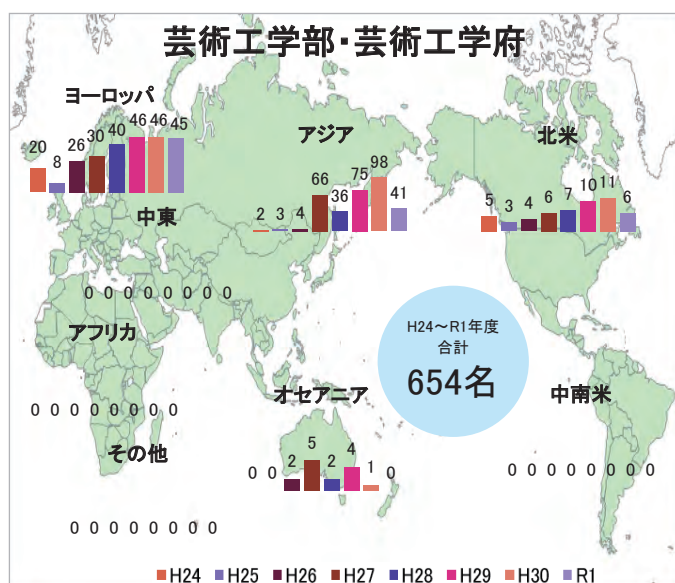
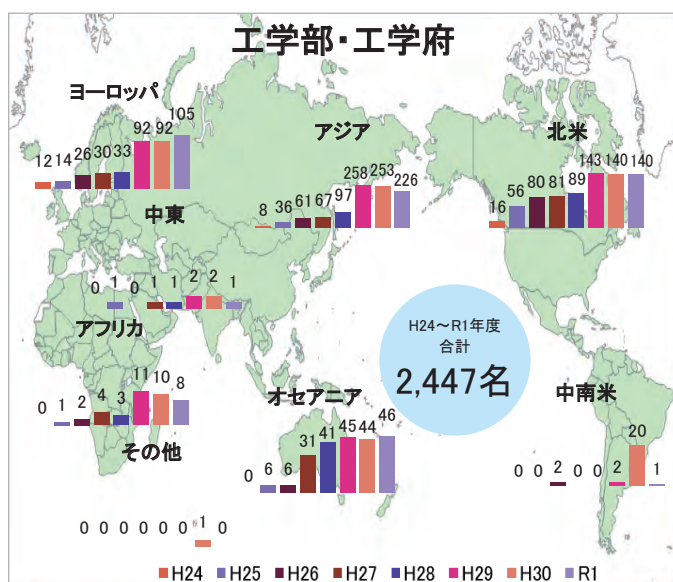
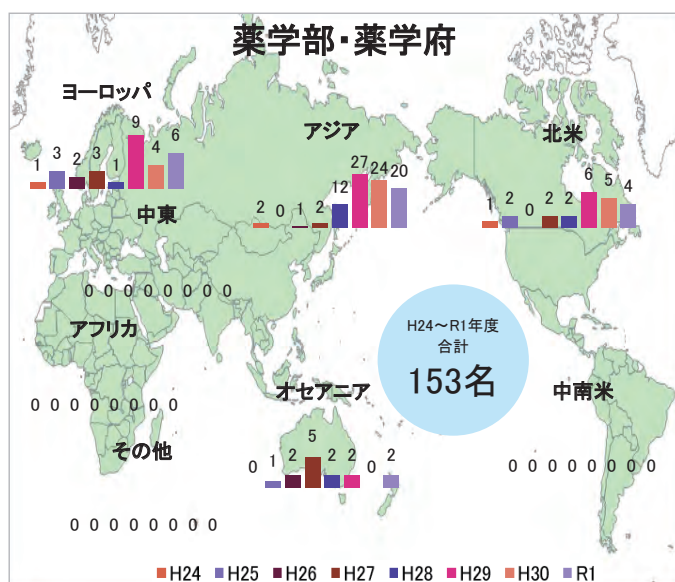
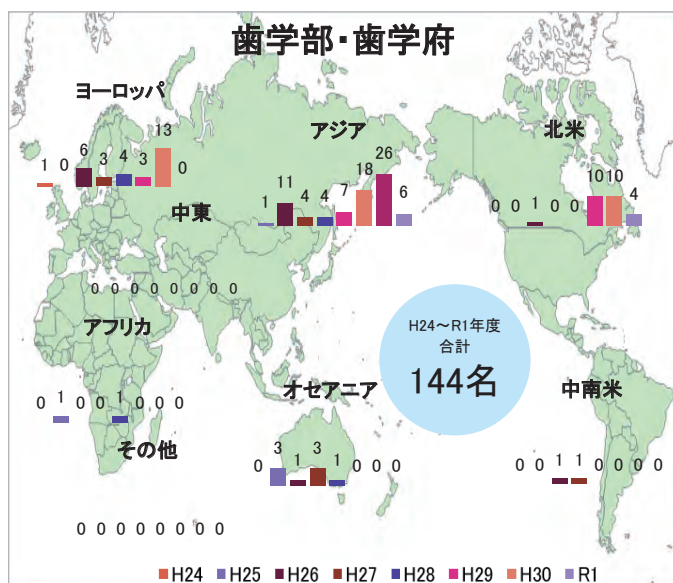
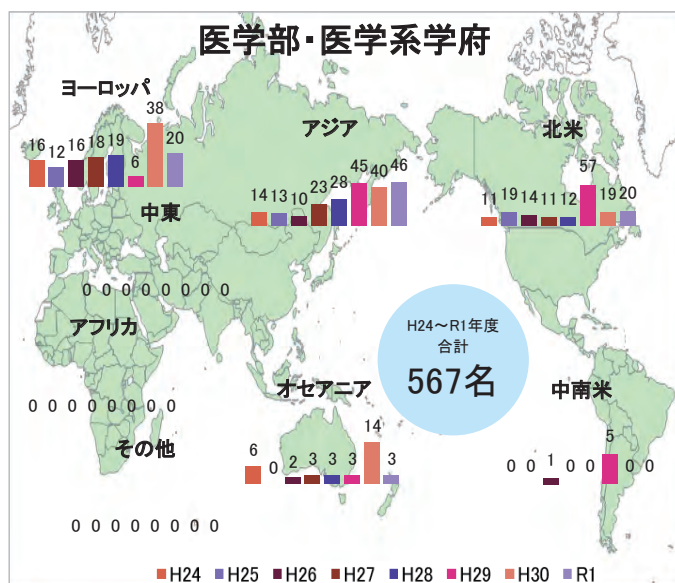
10-2-4. 本学学生の海外留学状況(部局等別・地域別)



・過年度に留学を開始した者を含む(H24-30)
 ・外国人留学生を含む総数(R1)

出典: 九州大学概要

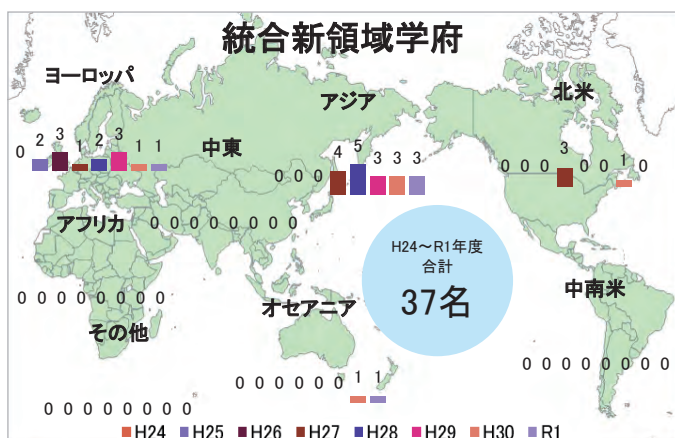
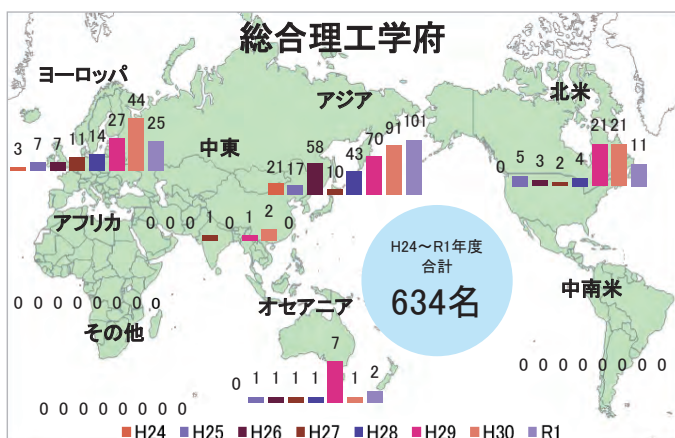
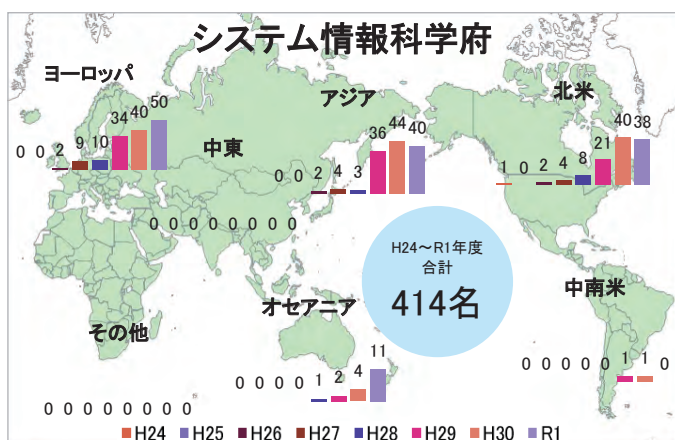
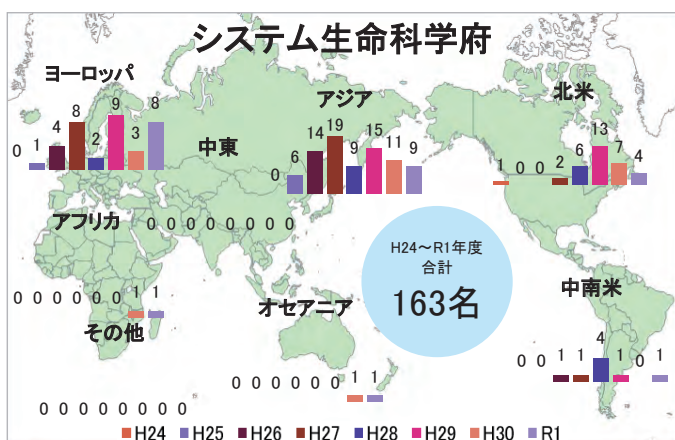
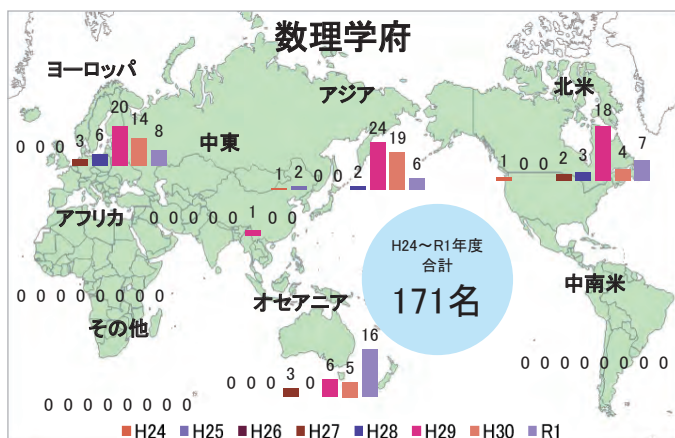
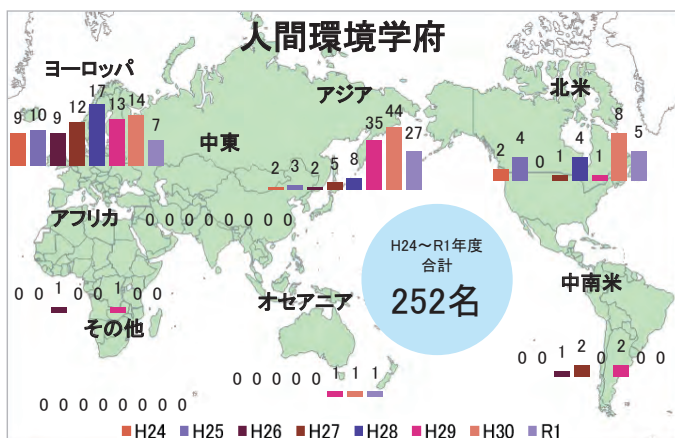
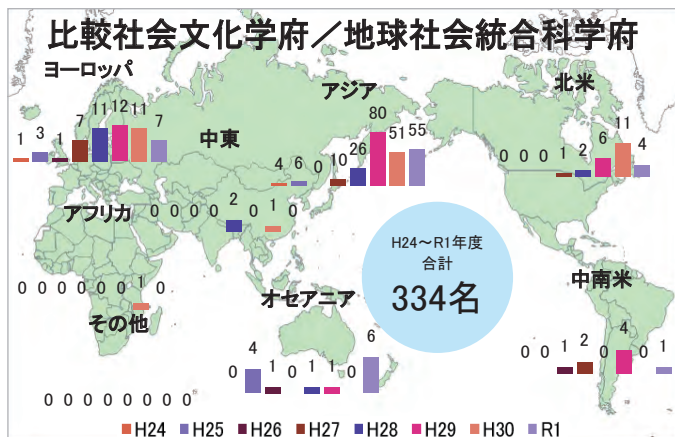
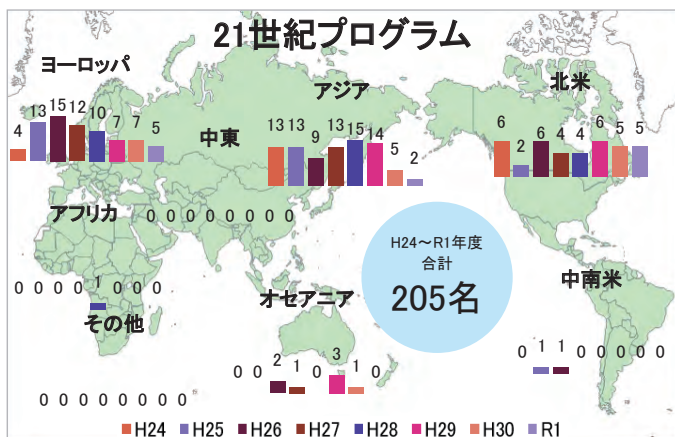
10-2-4. 本学学生の海外留学状況（部局等別・地域別）（つづき）



- ・ 過年度に留学を開始した者を含む(H24-30)
- ・ 外国人留学生を含む総数(R1)

出典：九州大学概要

10-2-4. 本学学生の海外留学状況（部局等別・地域別）（つづき）



・過年度に留学を開始した者を含む（H24～30）
 ・外国人留学生を含む総数（R1）

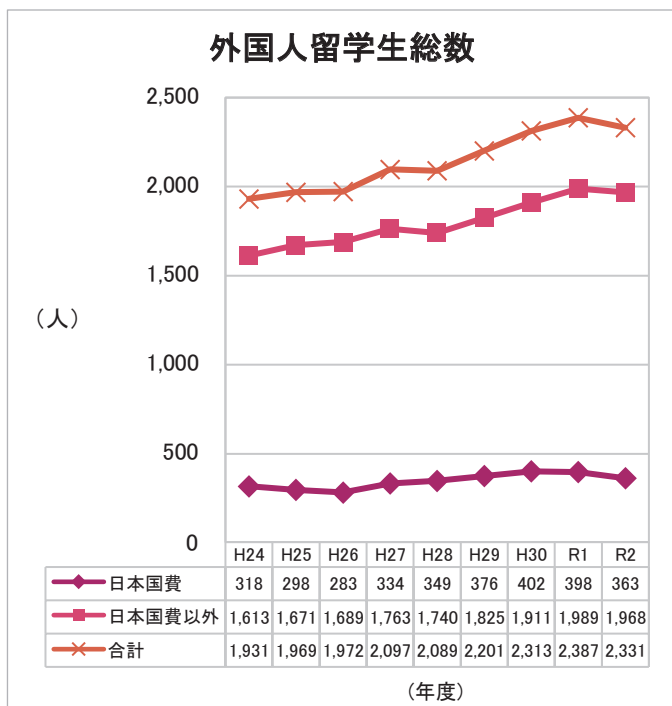
出典：九州大学概要

10-3. 外国人留学生の受入状況

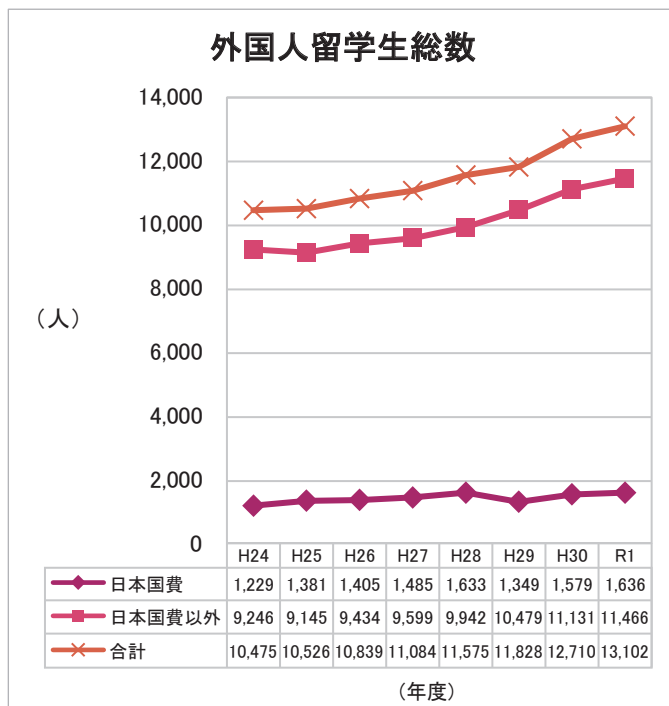
10-3-1. 外国人留学生の受入状況(全体)

本学の留学生は年々増加傾向にあったが、令和2年度は減少している。在籍学生数に占める外国人留学生数の比率について、全国と比較すると本学は大きく上回り、近年増加傾向にある。

◆九州大学◆



◆全国 国立大学◆



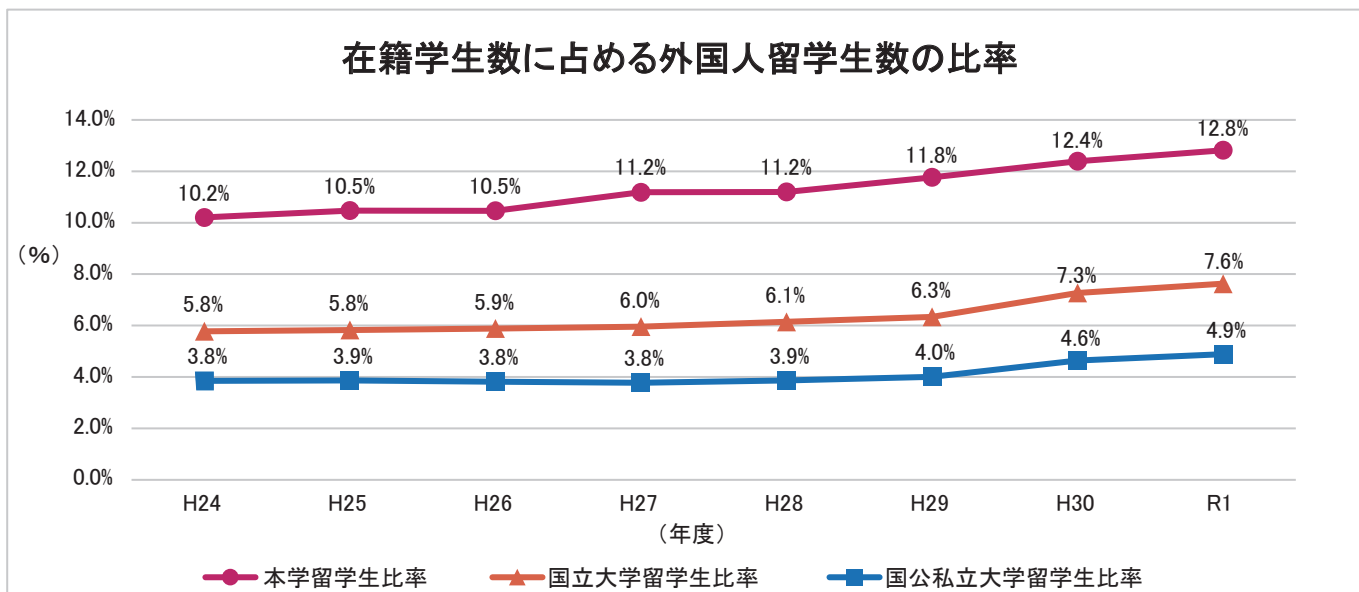
- ・日本国費：留学の在留資格をもって日本に在留し、日本の国費により大学等に在学して学習又は研究を行う外国の国籍を有するもの。
- ・日本国費以外：上記以外、自費による留学生（JICA 関連事業留学生含む）、あるいは諸外国政府の経費負担により派遣されている留学生（中国政府「国家建設高水準大学公派研究生項目」を含む）。（国費外国人留学生制度実施要項第二条参照）

出典

本学：九州大学概要

全国：文部科学省「学校基本調査」関係学科別 外国人学生数

◆在籍学生数に占める外国人留学生数の比率◆

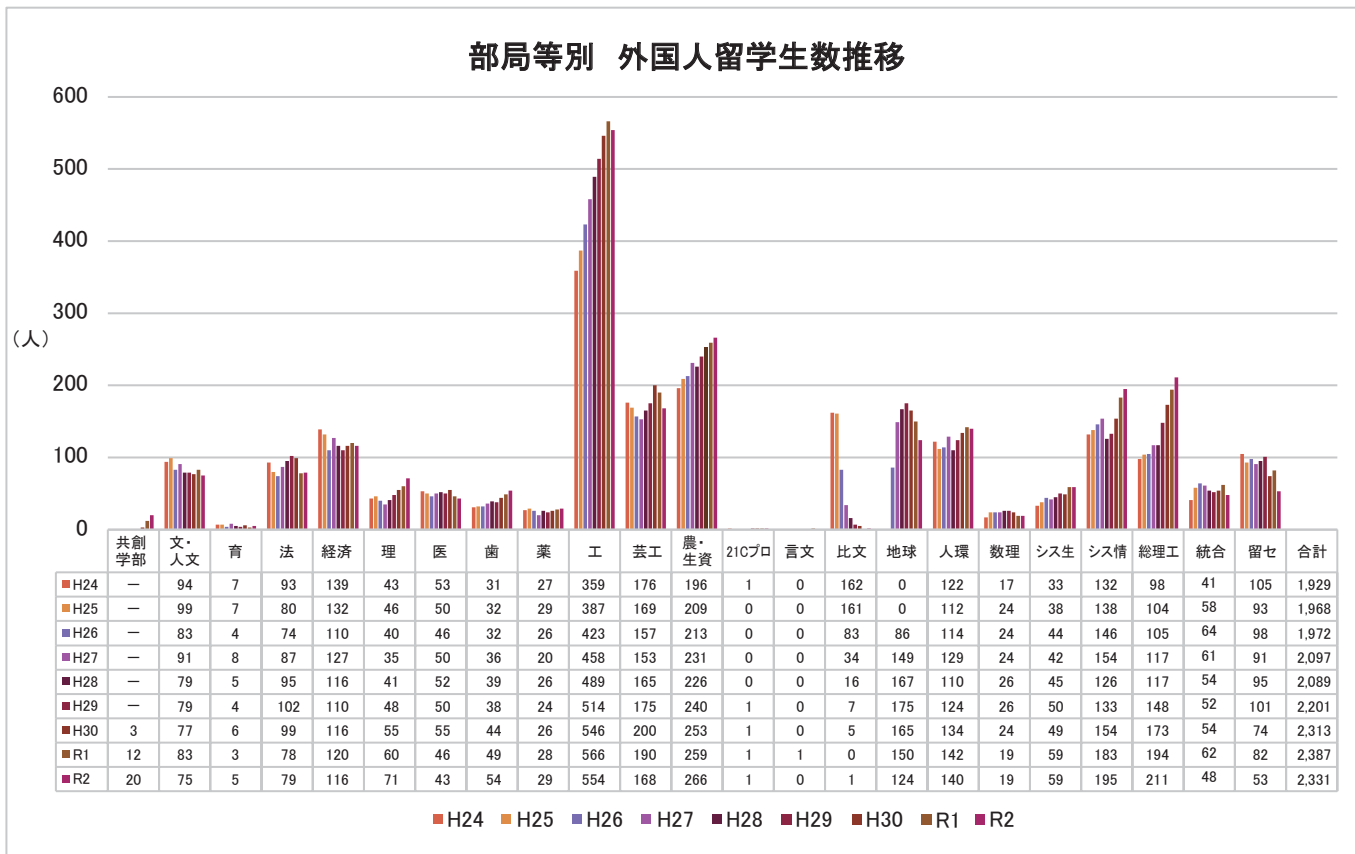


出典

本学：九州大学概要

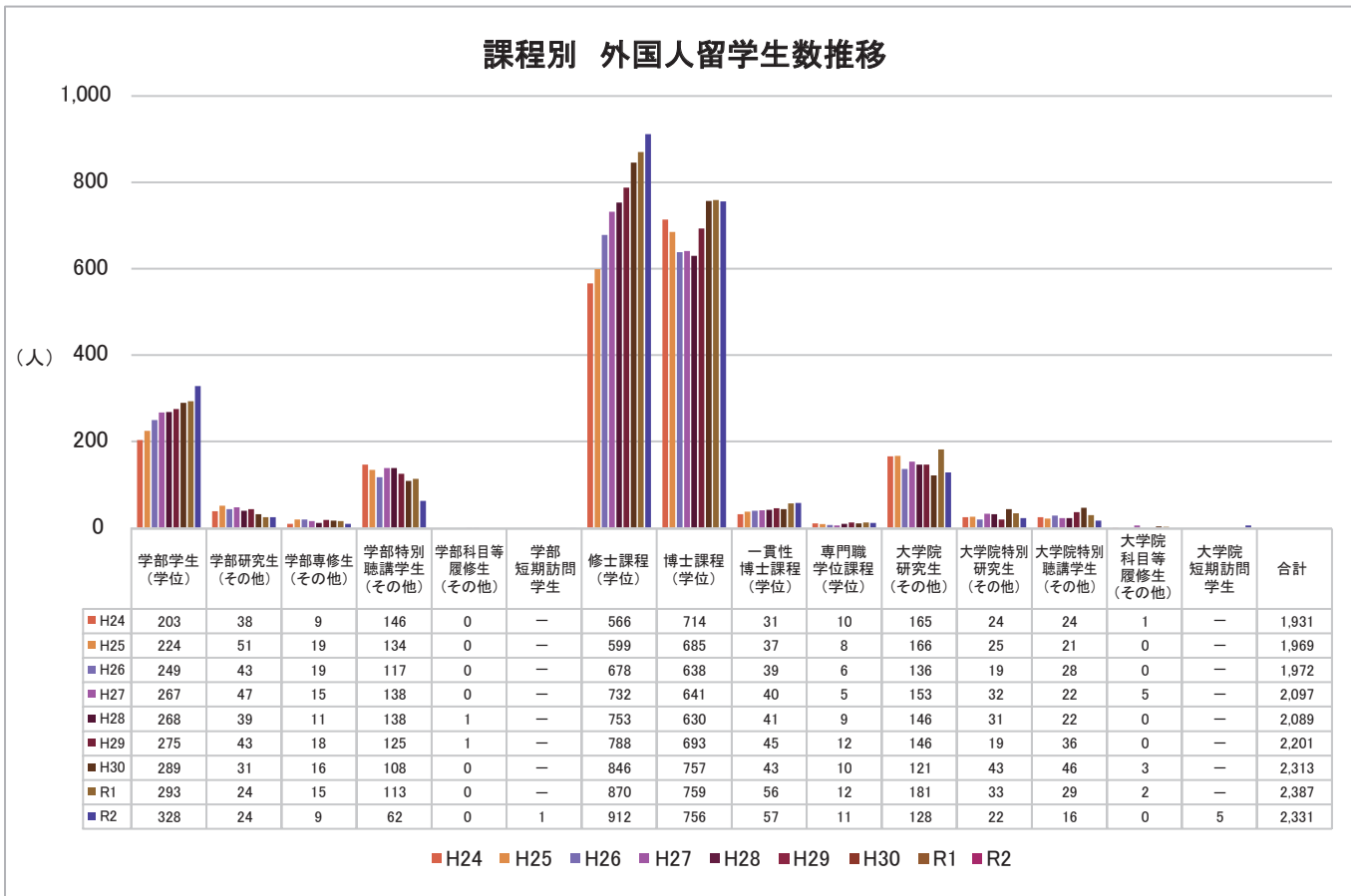
全国：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」及び文部科学省「学校基本調査」

10-3-2. 外国人留学生の受入状況（部局等別）



出典：九州大学概要

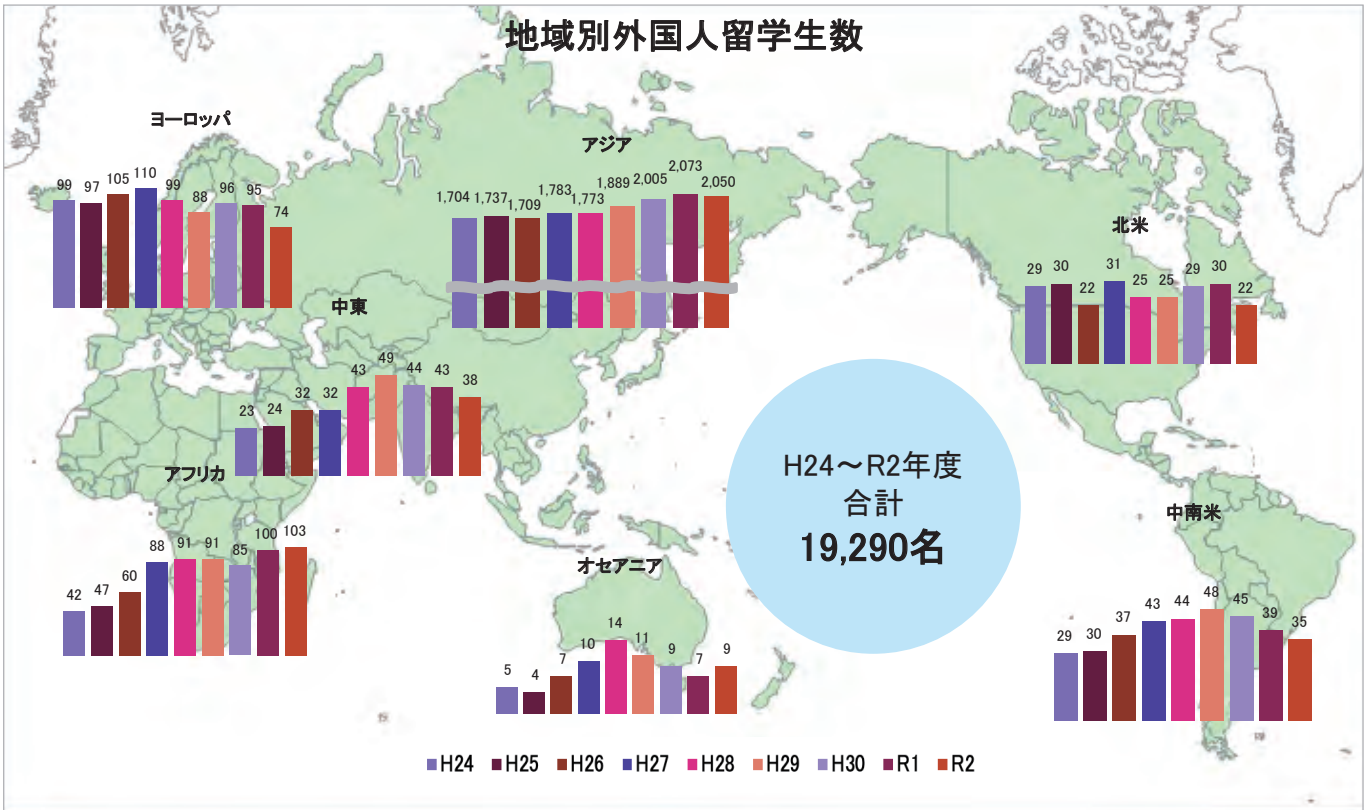
10-3-3. 外国人留学生の受入状況（課程別）



出典：国際部保有データ 課程別外国人留学生数(H24-H30), R1年度より九州大学概要

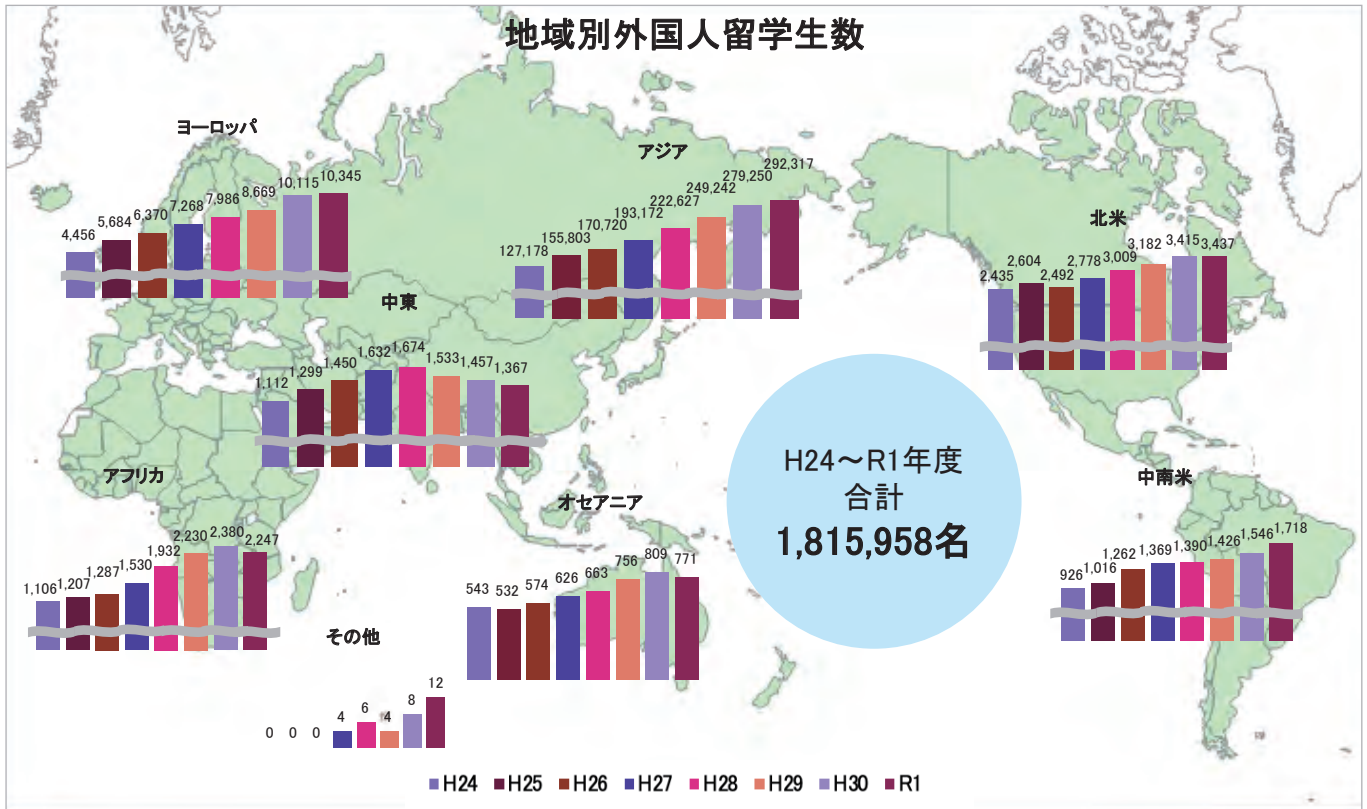
10-3-4. 外国人留学生の受入状況(出身地域別)

◆九州大学◆



出典: 九州大学概要

◆全国◆



・ H27年度よりその他(無国籍者)を含む。

出典: JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

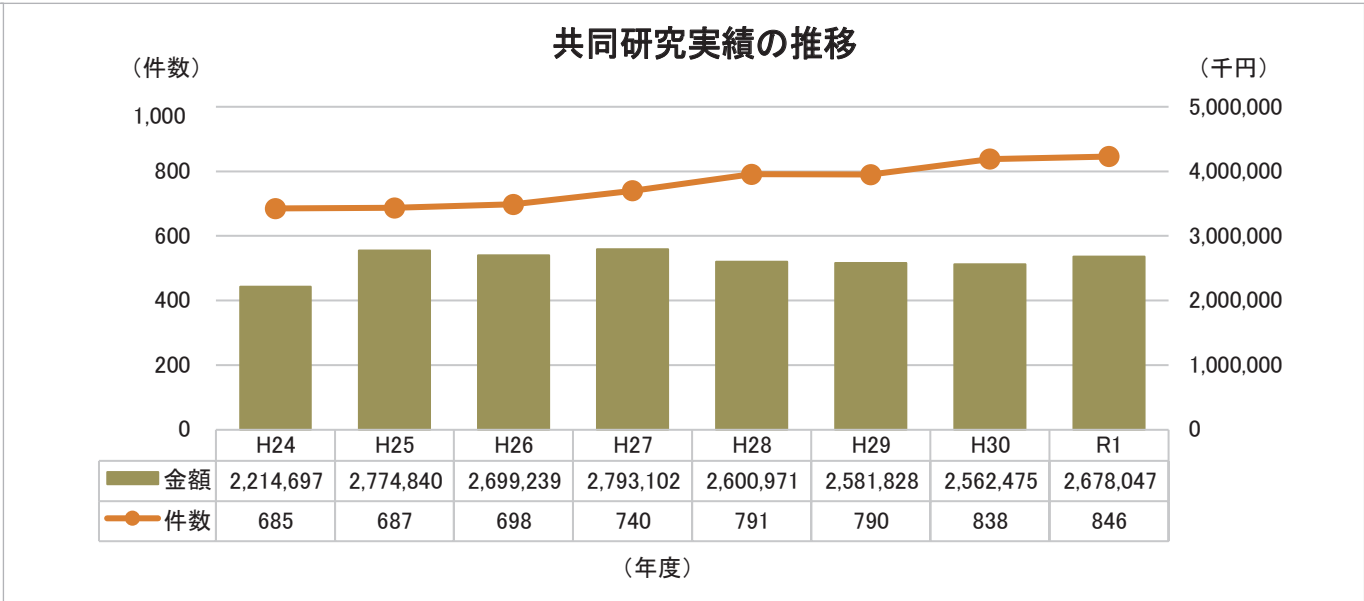
11. 産学官連携

11-1. 共同研究の状況

11-1-1. 共同研究実績の推移

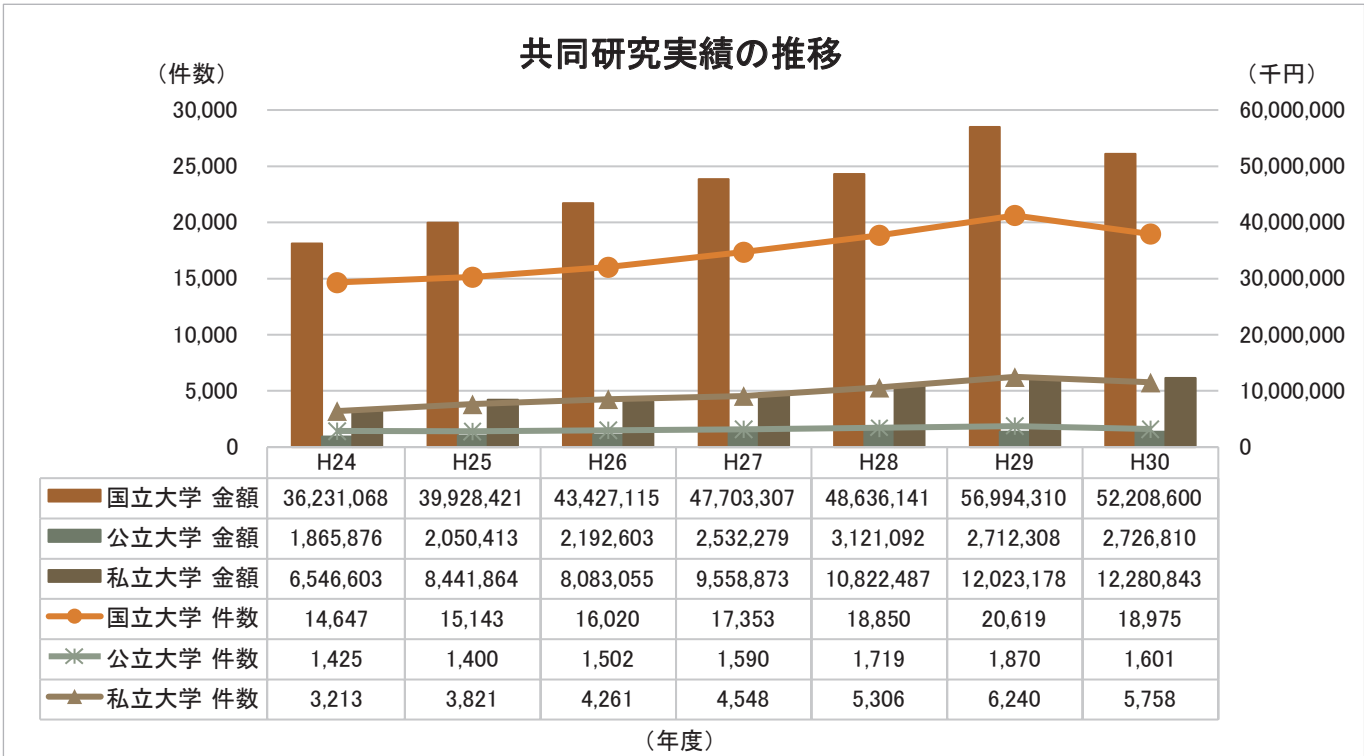
全国では平成 30 年度に金額・件数の両方で減少した。本学は、近年横ばい傾向である。

◆九州大学◆



出典：九州大学概要

◆全国◆



・短大、専門学校、高専、研究機関等含まない。

出典：文部科学省 大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)

11-1-1. 共同研究の実績の推移 (つづき)

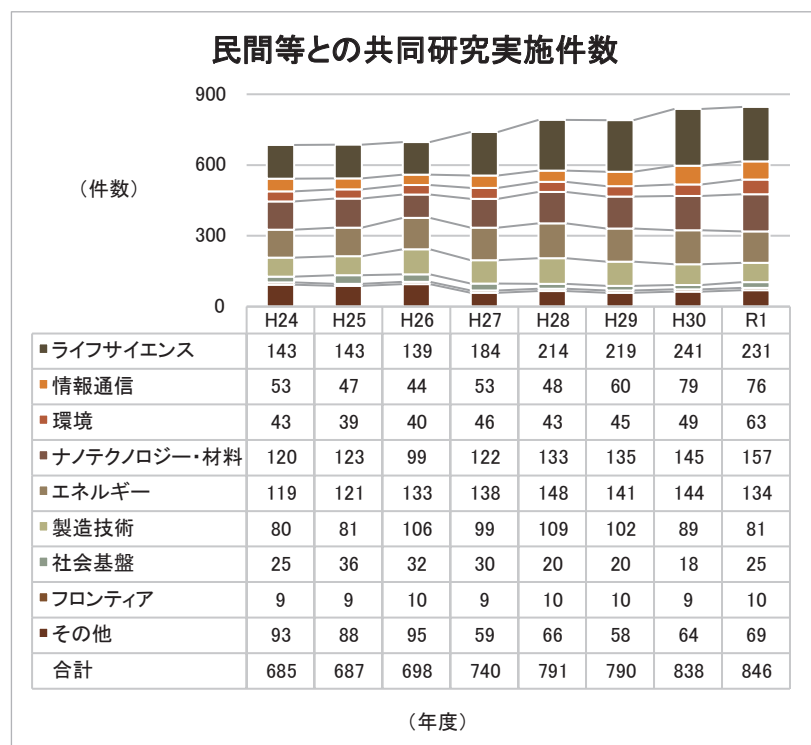
◆他大学との比較◆

【民間企業との共同研究実施件数 (全国 国公立大学間)】 【民間企業との共同研究費受入額 (全国 国公立大学間)】 【民間企業との共同研究に伴う一件当たりの研究費受入額 (全国 国公立大学間)】
(単位:千円) (単位:千円)

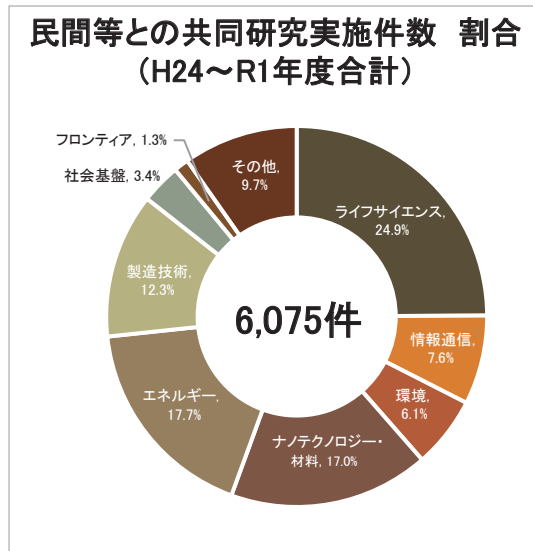
順位	大学名	件数	順位	大学名	受入額	順位	大学名	一件当たりの受入額	件数
1	東京大	1,797	1	大阪大	7,476,569	1	聖マリアンナ医科大	10,526	19
2	大阪大	1,243	2	東京大	7,218,749	2	国際医療福祉大	8,595	20
3	東北大	1,201	3	京都大	4,784,233	3	大阪大	6,015	1,243
4	京都大	1,098	4	東北大	4,114,448	4	藤田医科大	5,698	13
5	九州大	739	5	慶應義塾大	2,968,226	5	順天堂大	5,667	120
6	東京工業大	679	6	名古屋大	2,875,910	6	慶應義塾大	4,552	652
7	名古屋大	666	7	東京工業大	2,540,448	7	京都大	4,357	1,098
8	慶應義塾大	652	8	九州大	2,076,935	8	名古屋大	4,318	666
9	北海道大	644	9	北海道大	1,914,997	9	奈良県立医科大	4,037	36
10	神戸大	518	10	筑波大	1,716,137	10	東京大	4,017	1,797
		(2018)			(2018)	⋮			
						29	九州大	2,810	739

出典: 文部科学省 平成30年度大学等における産学連携実施状況について

11-1-2. 共同研究実績の推移 (分野別)



◆九州大学◆



・本調査における共同研究とは、大学等と民間企業等とが共同で研究開発を行い、かつ、大学等が要する経費を民間企業等が負担しているものを指す。

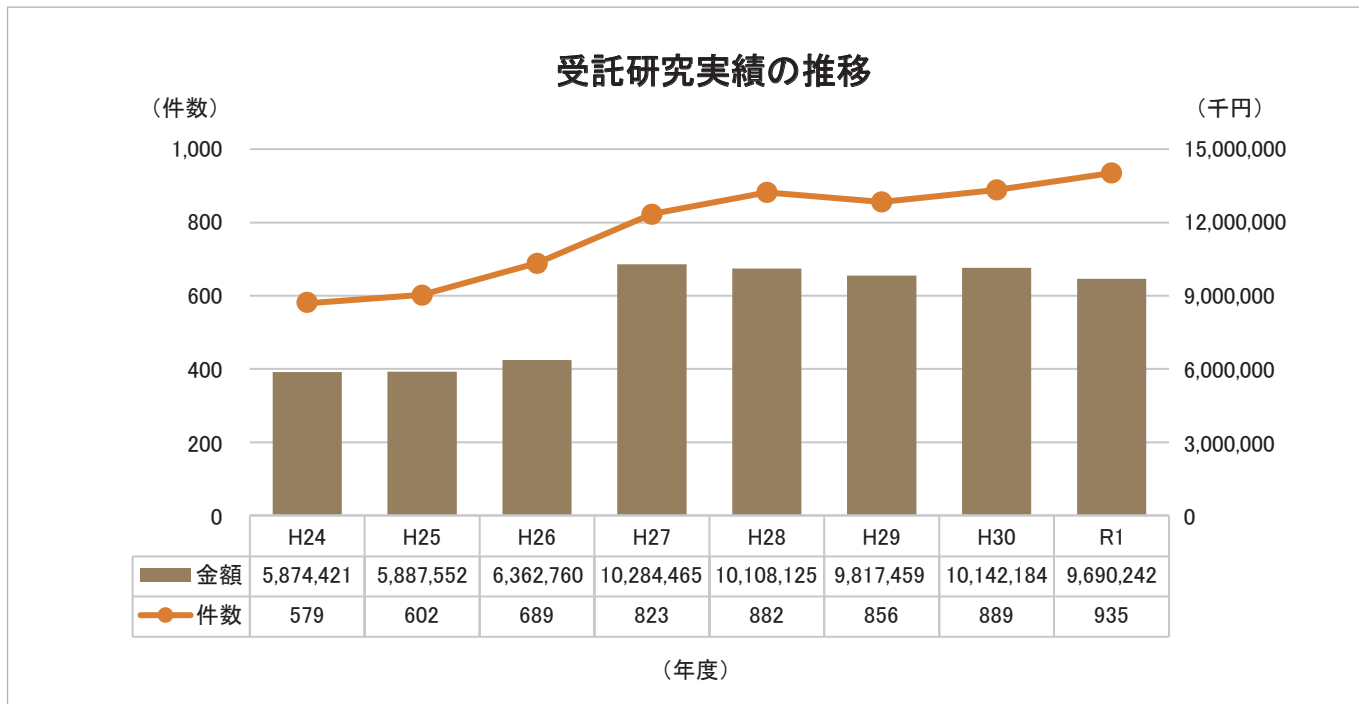
出典: 九州大学概要

11-2. 受託研究の状況

11-2-1. 受託研究実績の推移

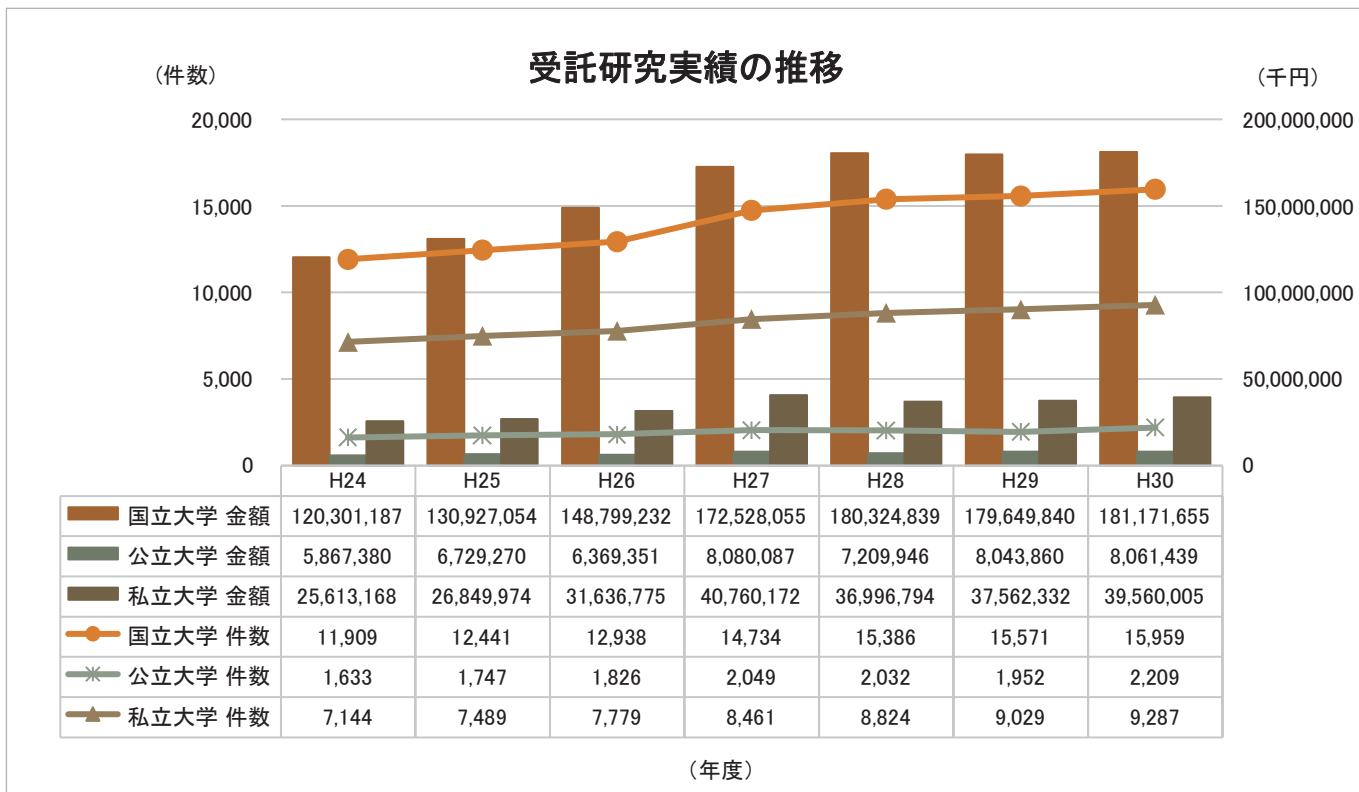
本学は件数が増加傾向にある。

◆九州大学◆



出典：九州大学概要

◆全国◆



・短大、専門学校、高専、研究機関等含まない。

出典：文部科学省 大学における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)

11-2-1. 受託研究実績の推移 (つづき)

◆他大学との比較◆

【民間企業からの受託研究実施件数 (全国 国公立大学間)】
【民間企業からの受託研究費受入額 (全国 国公立大学間)】
(単位:千円)

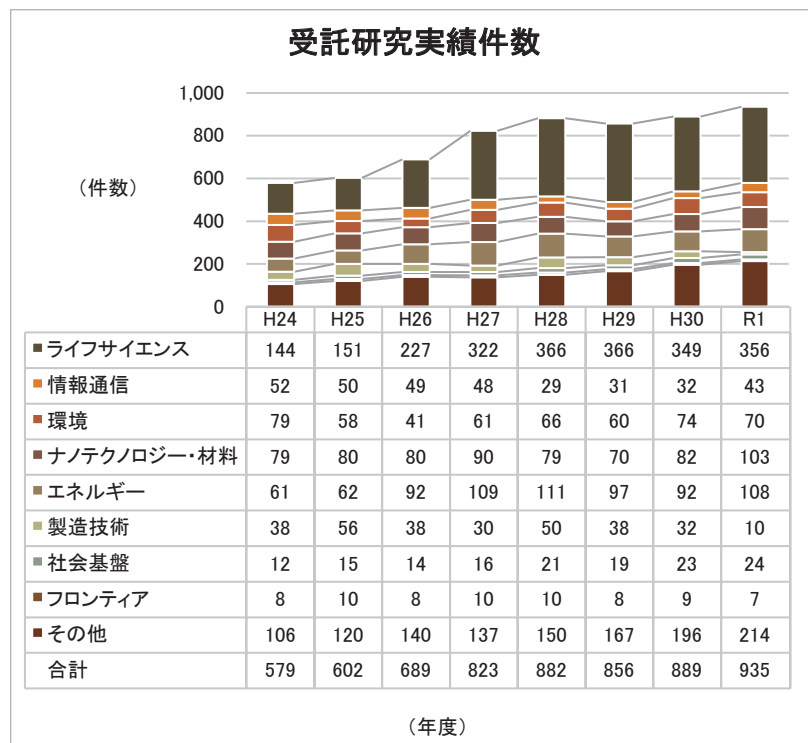
【民間企業からの受託研究に伴う一件当たりの研究費受入額(全国 国公立大学間)】
(単位:千円)

順位	大学名	件数	順位	大学名	受入額
1	近畿大	353	1	慶應義塾大	805,284
2	慶應義塾大	247	2	早稲田大	606,029
3	立命館大	236	3	東京大	321,507
4	日本大	207	4	九州大	320,588
5	早稲田大	199	5	立命館大	283,165
6	大阪大	164	6	京都大	259,492
7	山形大	160	7	大阪大	251,864
8	拓殖大	160	8	東京工業大	247,906
9	東京大	149	9	近畿大	236,189
10	東京都市大	149	10	横浜市立大	190,735
⋮ (2018)					
12	九州大	114			

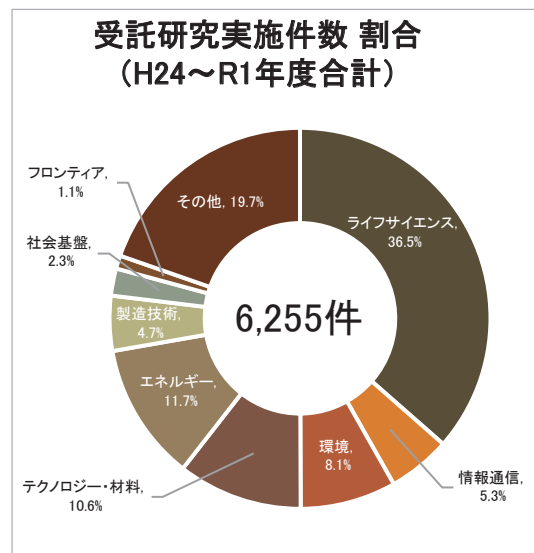
順位	大学名	一件当たりの受入額	件数
1	東北医科薬科大	35,372	1
2	事業構想大学院大	25,920	1
3	豊田工業大	20,647	9
4	政策研究大学院大	19,084	1
5	国際大	14,567	9
6	北海道情報大	7,790	8
7	中央大	6,755	20
8	愛知県立芸術大	6,385	1
9	関西学院大	6,240	7
10	北里大	5,816	49
⋮			
27	九州大	3,545	114

出典: 文部科学省 平成30年度大学等における産学連携実施状況について

11-2-2. 受託研究実績の推移 (分野別)



◆九州大学◆



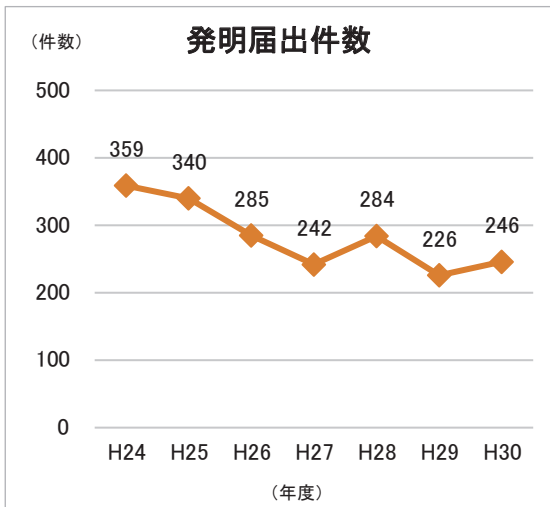
・本調査における「受託研究」とは、大学等が民間企業等からの委託により、主として大学等のみが研究開発を行い、そのための経費が民間企業等から支弁されているものを指す。

出典: 九州大学概要

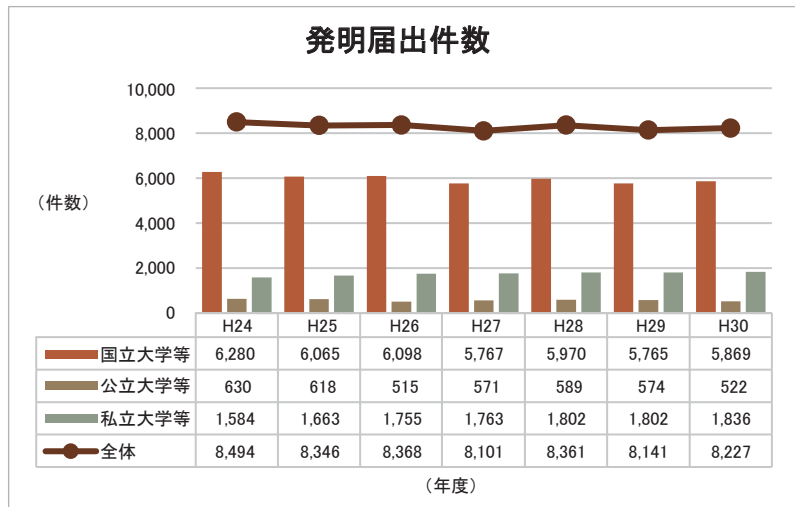
11-3. 知的財産関連

本学の特許出願件数は近年減少傾向であったが、平成30年度は微増となった。特許権保有件数は安定的に増加している。

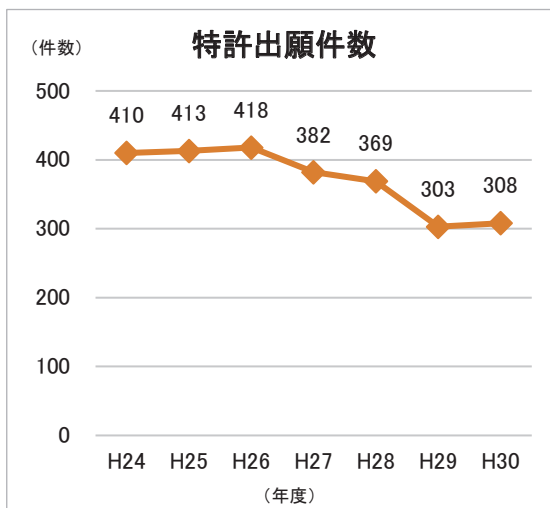
◆九州大学◆



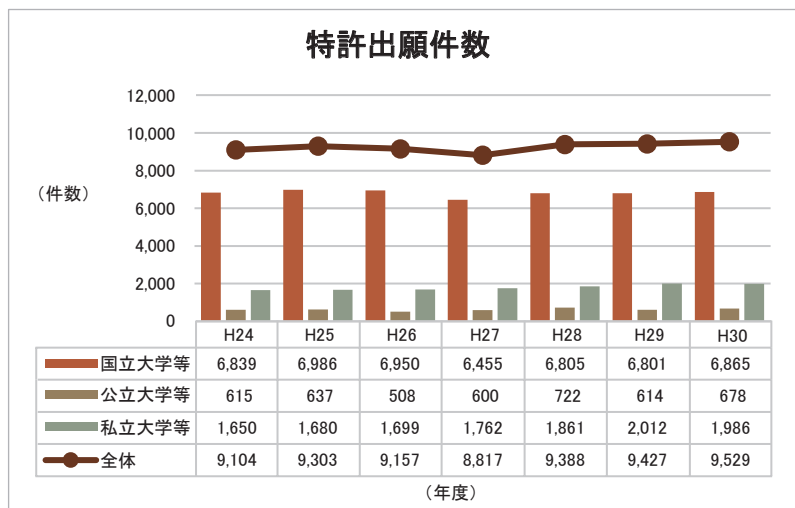
◆全国◆



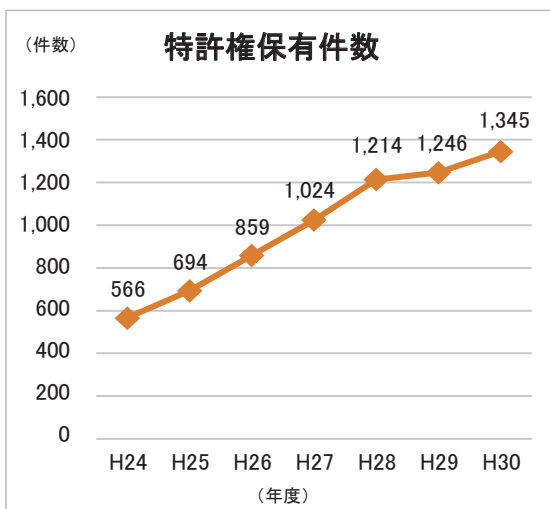
◆九州大学◆



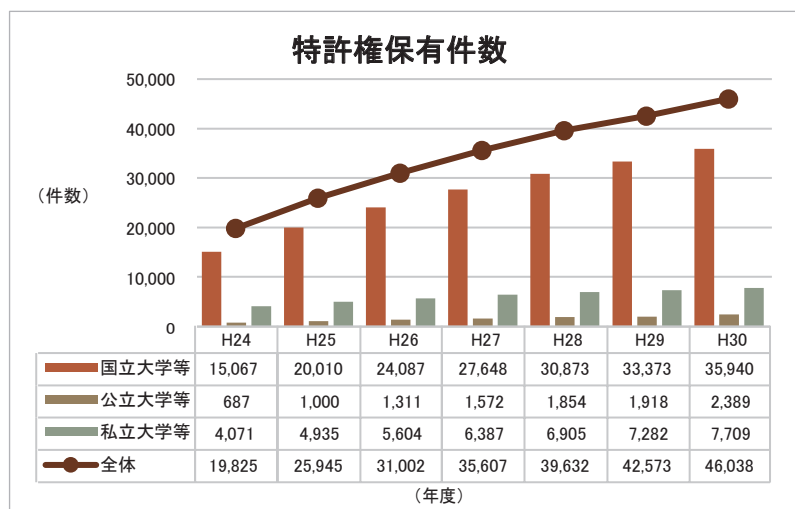
◆全国◆



◆九州大学◆



◆全国◆

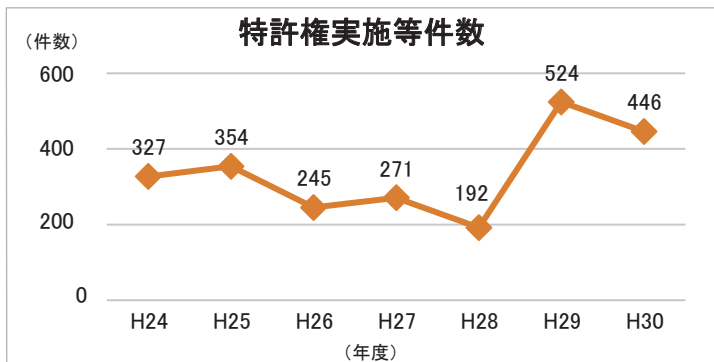


出典：文部科学省 大学等における産学連携等実施状況 特許関係実績（機関別）
（発明届出件数：九州大学WEBサイト>AiRiMaQ学術研究・産学連携本部HP>実績・規則・様式>産学官連携実績）

11-3. 知的財産関連 (つづき)

全国的に特許権実施等件数・収入、大学発ベンチャーの創出件数は近年増加傾向にある。本学では特許権実施等収入が平成 27 年度に、特許権実施件数が平成 29 年度に大きく飛躍した。

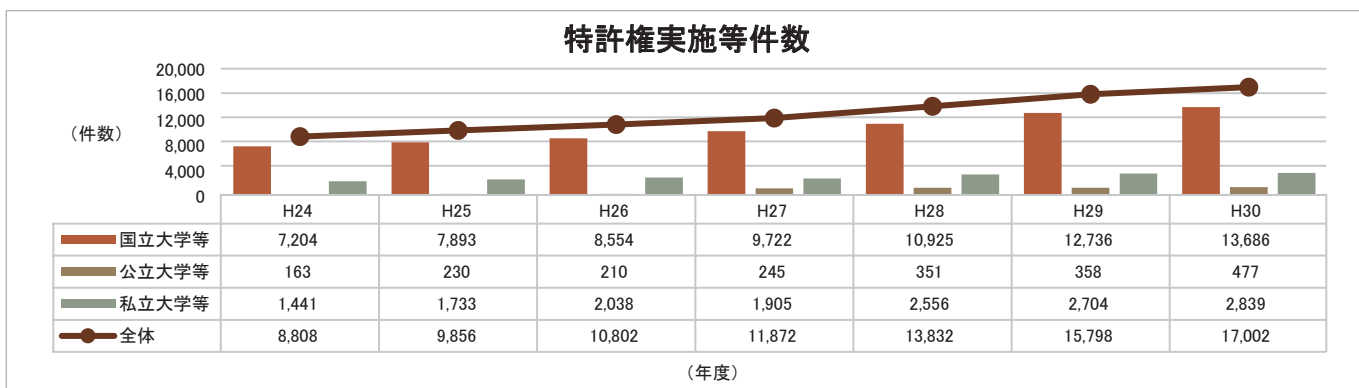
◆九州大学◆



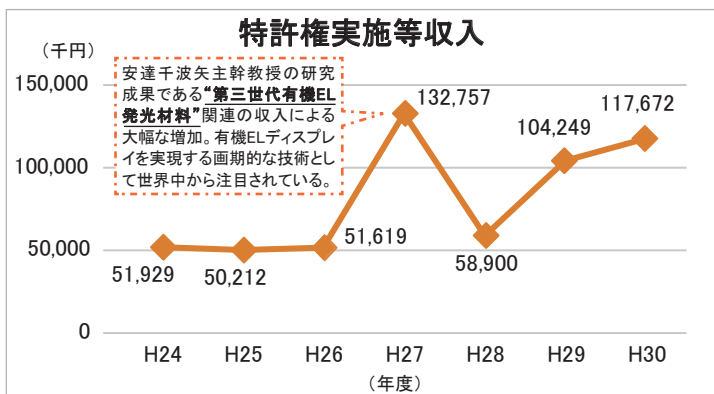
【特許権実施等件数(外国分を含む)】

順位	大学名	件数
1	東京大	3,725
2	京都大	1,695
3	関東学院大	1,084
4	大阪大	852
5	北海道大	754
6	東京工業大	649
7	名古屋大	615
8	東北大	573
9	九州大	446
10	信州大	346

◆全国◆



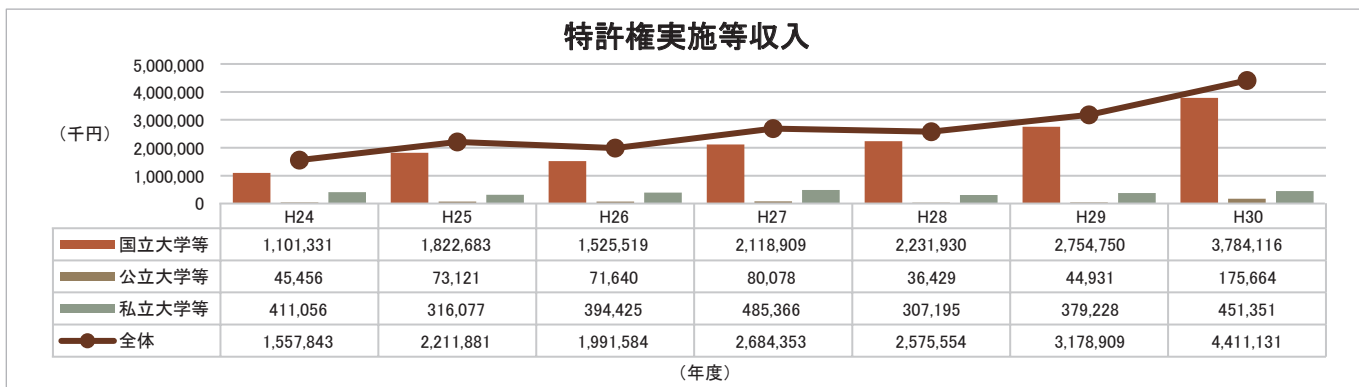
◆九州大学◆



【特許権実施等収入(外国分を含む)】

順位	大学名	収入額
1	東京大	1,107,467
2	京都大	617,243
3	大阪大	392,559
4	名古屋大	309,421
5	東京工業大	220,407
6	信州大	139,908
7	横浜市立大	119,658
8	九州大	117,672
9	三重大	109,046
10	東北大	99,257

◆全国◆

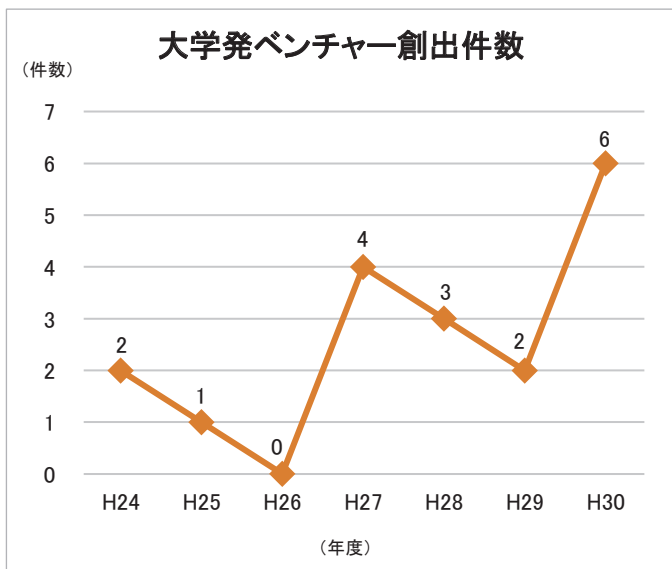


・本調査において、「特許権実施等件数」、「特許権実施等収入額」とは、実施許諾又は譲渡した特許権(「特許を受ける権利」)の段階のものも含む。)の数、収入額を指す。

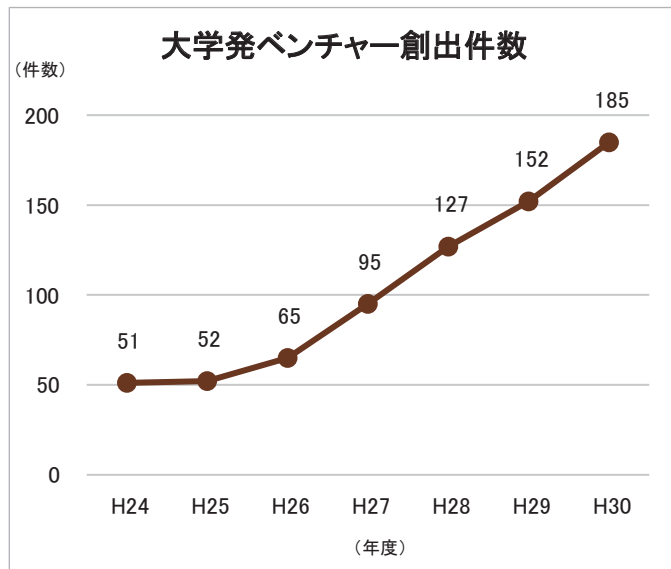
出典: 文部科学省 大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)

11-3. 知的財産関連（つづき）

◆九州大学◆



◆全国◆



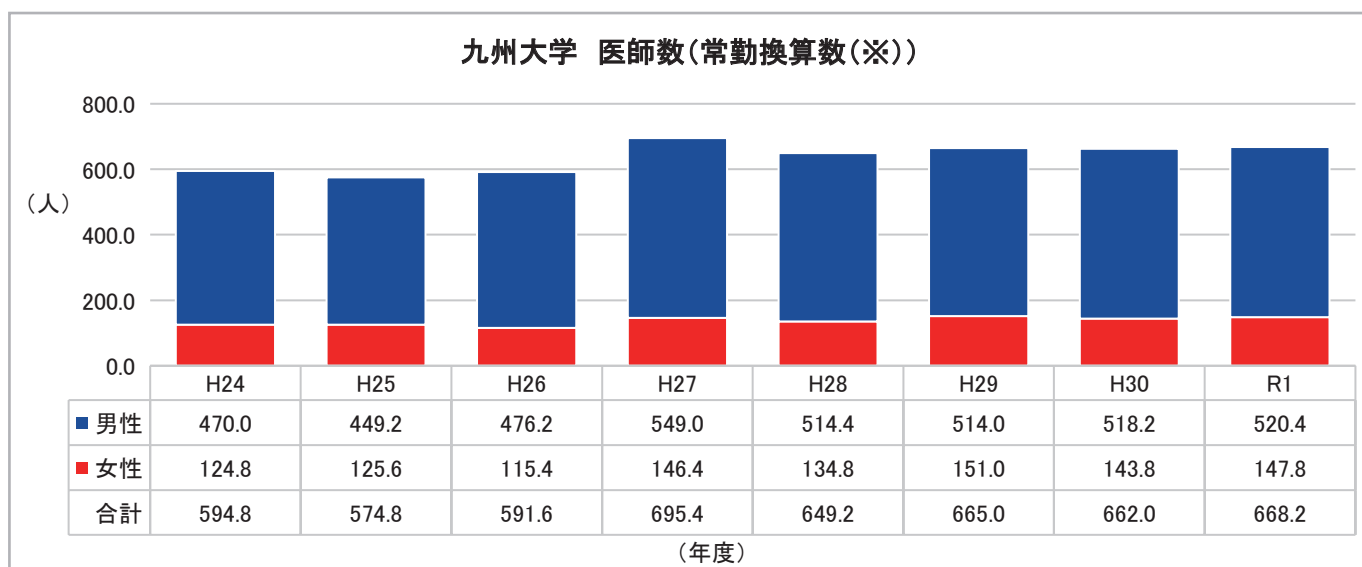
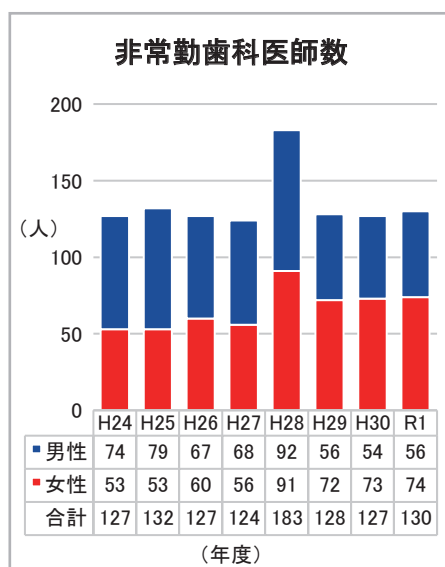
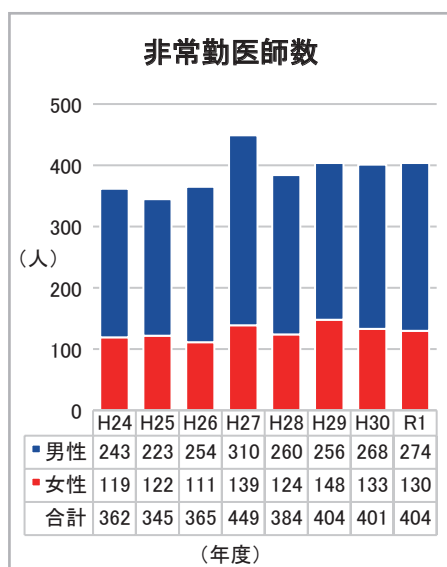
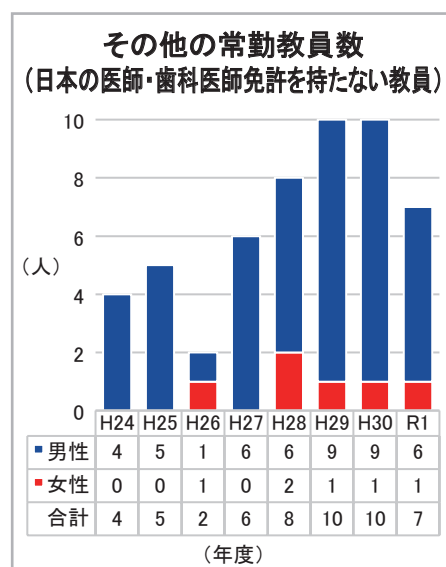
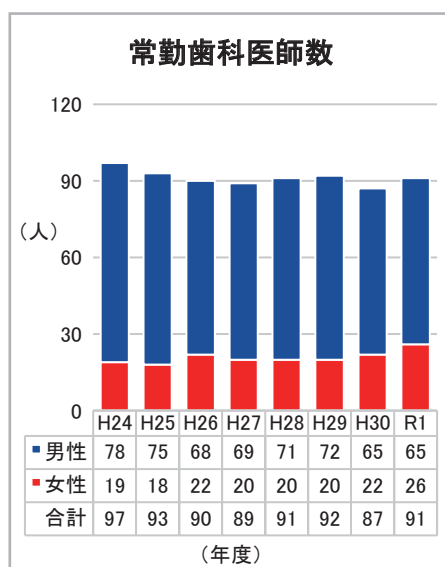
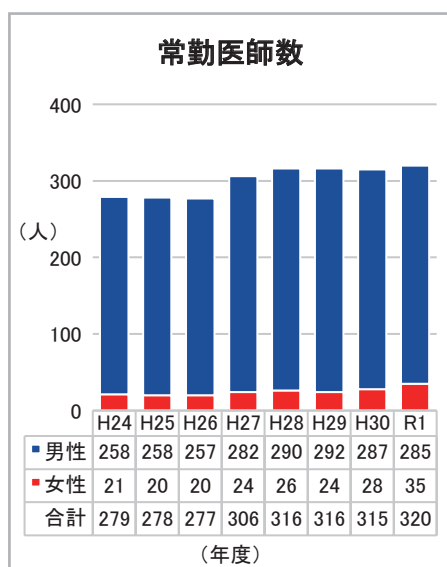
出典

本学：九州大学研究戦略データ集 2020

全国：文部科学省 大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績(機関別)

12. 附属病院

12-1. 医師数等



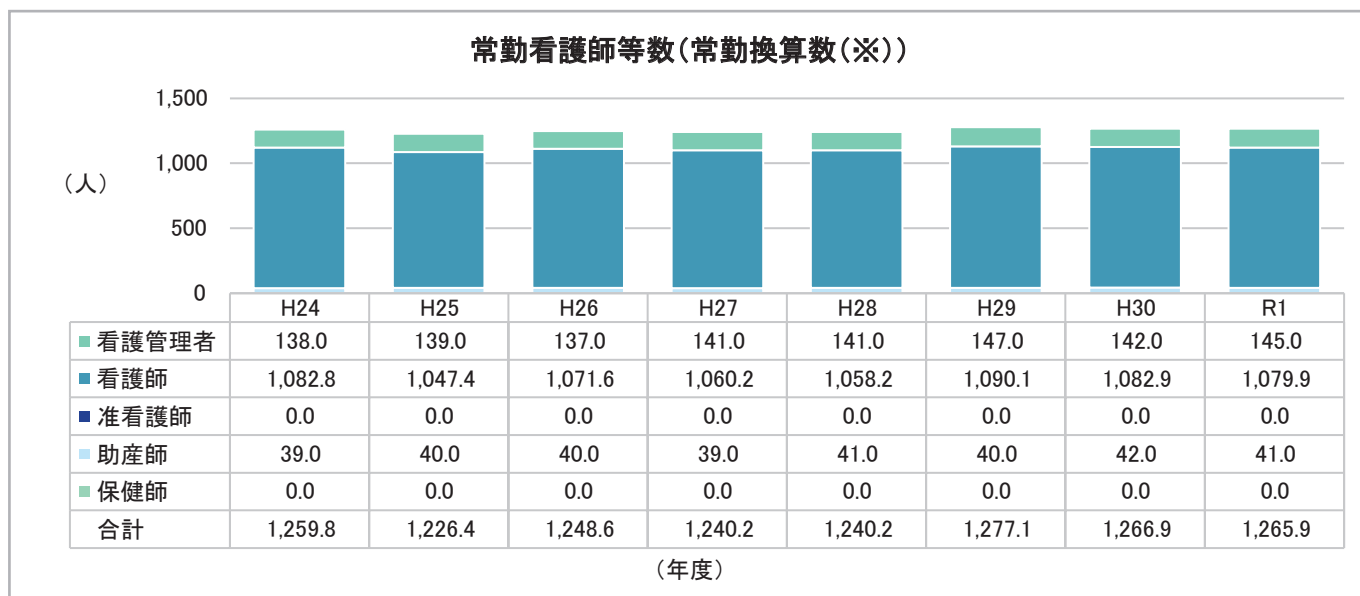
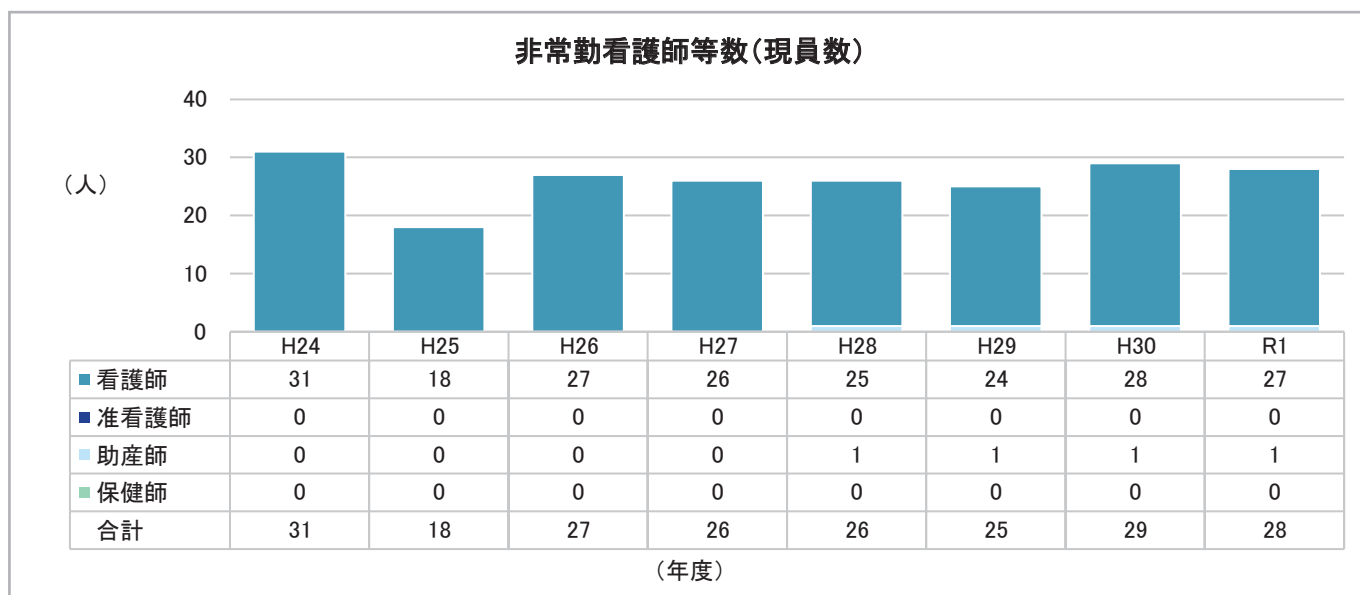
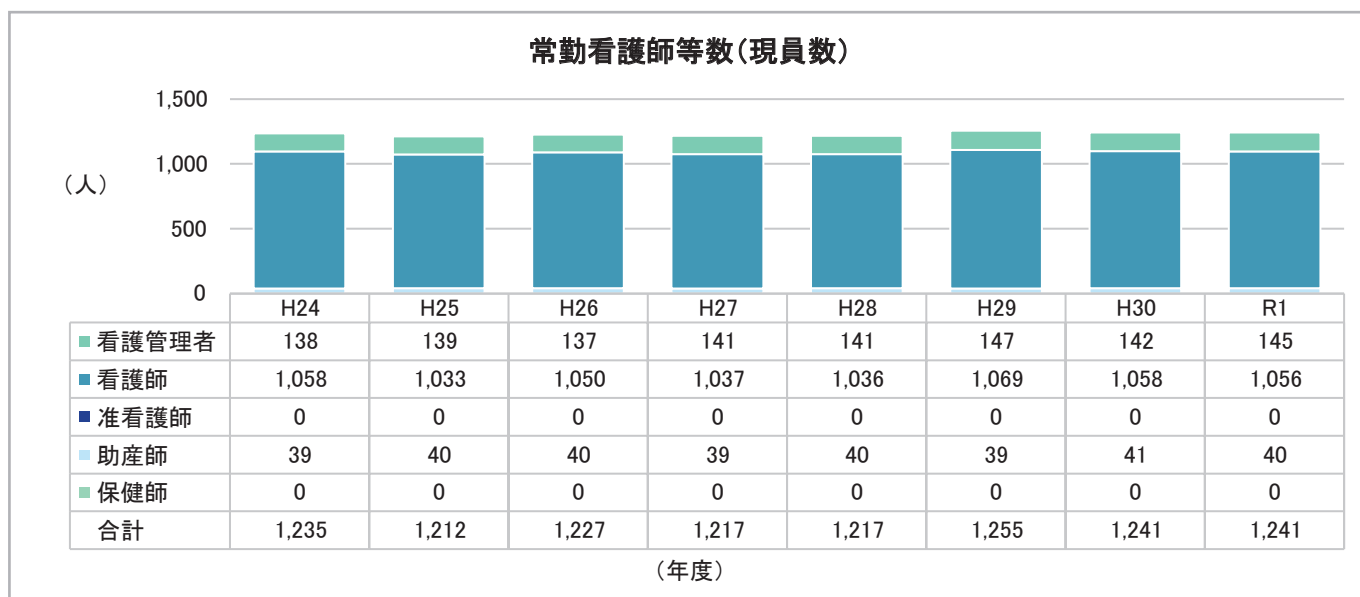
・学部帰属及び病院帰属、任期なし及び任期ありの全てを含む。

・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。

常勤換算数(※)=常勤職員の人数+(非常勤職員の勤務時間/常勤職員が勤務すべき時間)*非常勤職員の人数

出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

12-2. 看護職員等



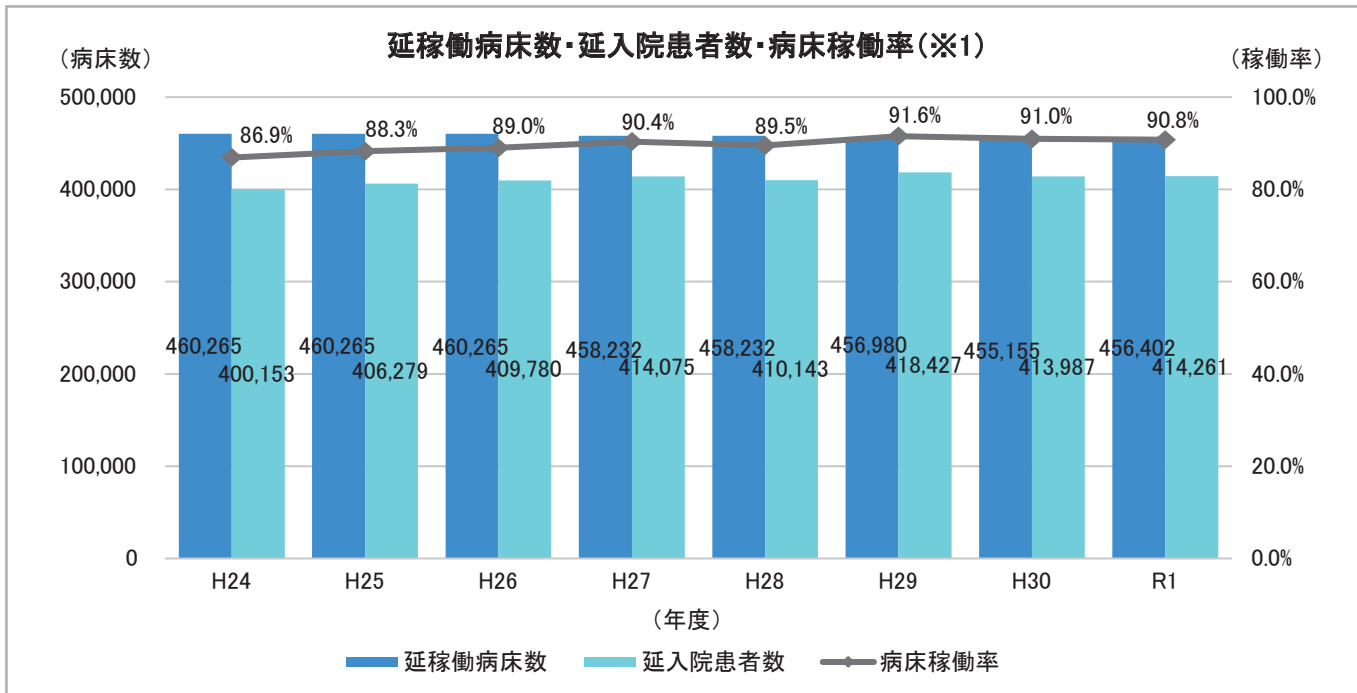
・非常勤職員は常勤職員に換算した数字である。

常勤換算数(※)=常勤職員の人数+(非常勤職員の勤務時間/常勤職員が勤務すべき時間)*非常勤職員の人数

出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

12-3. 病床稼働率

◆九州大学◆

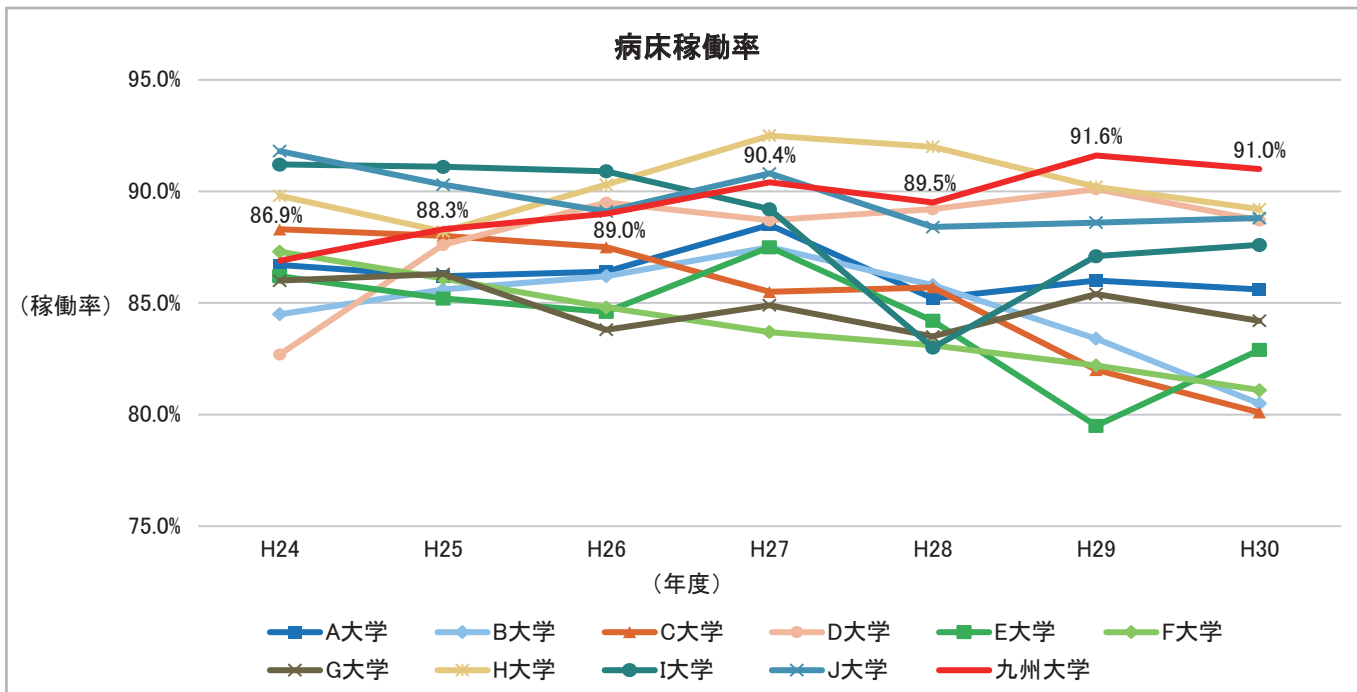


(※1) 床稼働率=延入院患者数 / 延稼働病床数 * 100

病床稼働率とは、病院の病床(ベッド)がどの程度効率的に稼働しているかを示す指標である。100%に近いほど空き病床が無い状態で利用されていることになり、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。

出典: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)

◆他大学病院◆



・ 本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・ 国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

(※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

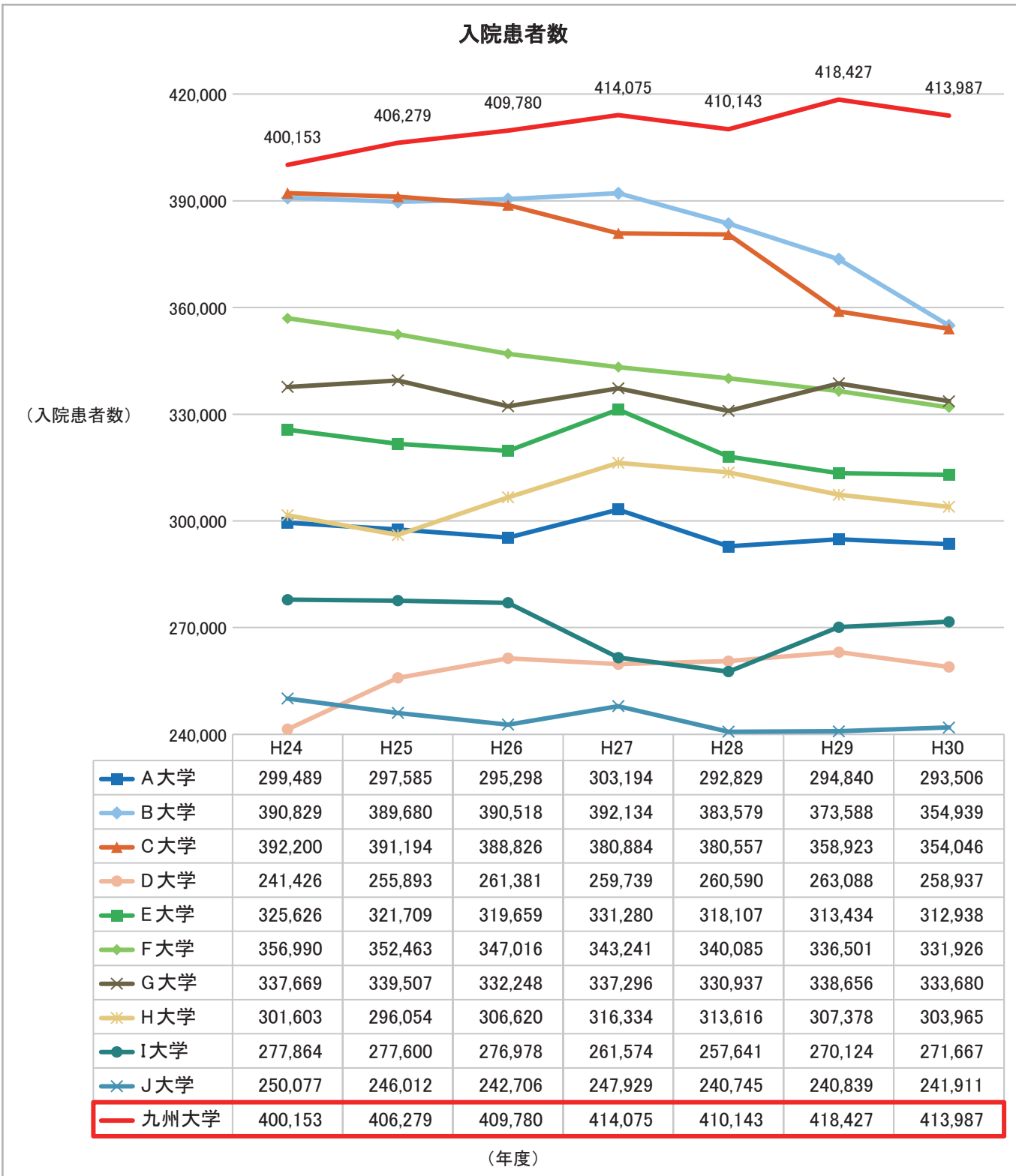
(※2)RU11(学術研究懇談会): 国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典: 本学: 病院資料(診療組織)調査票より(別府病院を含まない)
 他大学: 国立大学病院資料(H24-30年度)

12-4. 患者数と手術件数の推移

12-4-1. 患者数の推移(入院患者数)

◆九州大学・他大学病院◆



・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

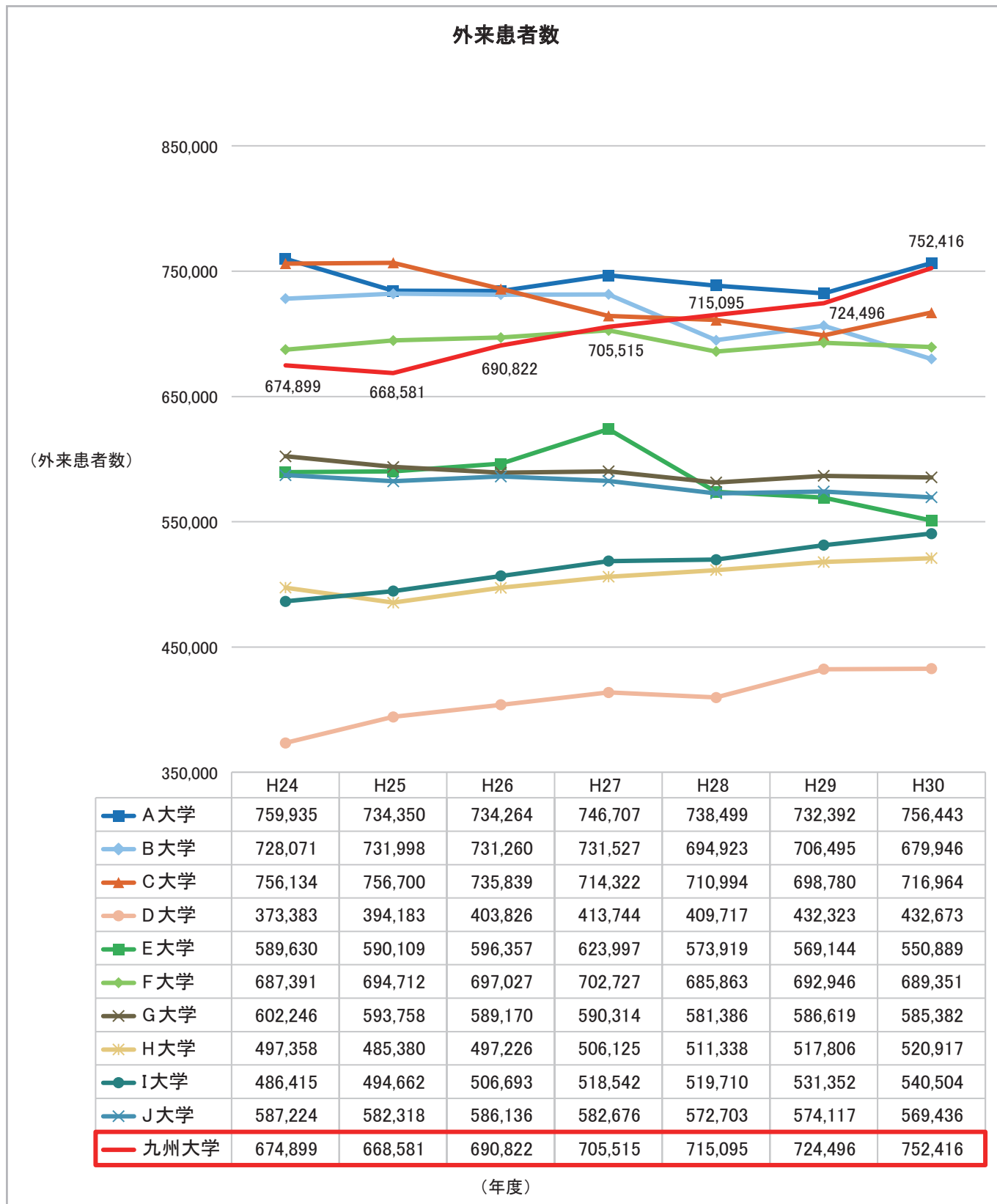
(※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

12-4-2. 患者数の推移(外来患者数)

◆九州大学・他大学病院◆



・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。

・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。

(※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

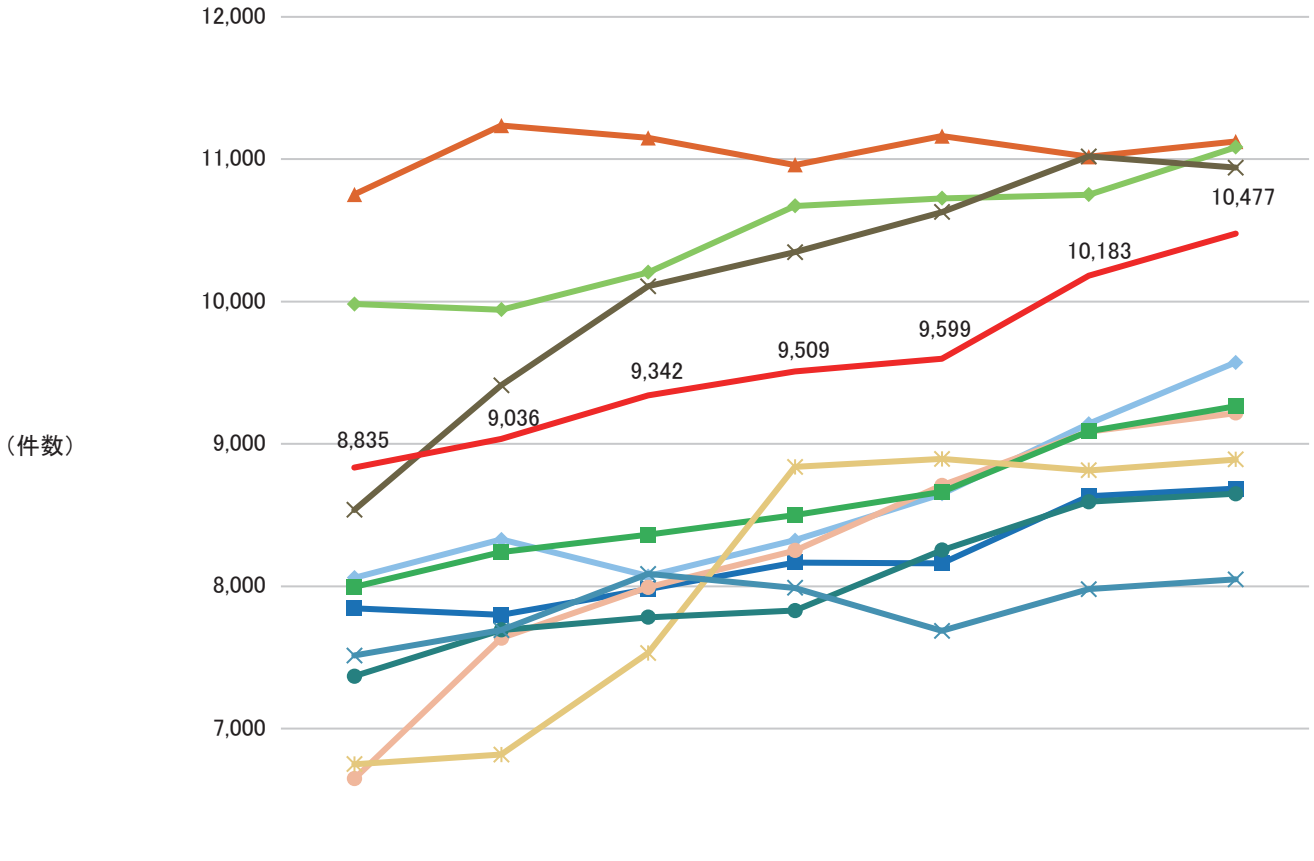
(※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

12-4-3. 手術件数の推移

◆九州大学・他大学病院◆

手術件数



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
■ A 大学	7,846	7,798	7,981	8,167	8,160	8,632	8,685
▲ B 大学	8,060	8,328	8,071	8,323	8,648	9,141	9,572
▲ C 大学	10,752	11,236	11,150	10,960	11,162	11,017	11,124
● D 大学	6,648	7,635	7,992	8,251	8,708	9,087	9,217
■ E 大学	7,995	8,241	8,362	8,499	8,664	9,088	9,265
◆ F 大学	9,982	9,943	10,205	10,672	10,725	10,751	11,084
× G 大学	8,536	9,412	10,107	10,347	10,628	11,019	10,940
✳ H 大学	6,750	6,818	7,531	8,838	8,894	8,814	8,890
● I 大学	7,368	7,693	7,782	7,829	8,253	8,593	8,649
× J 大学	7,513	7,691	8,087	7,988	7,687	7,980	8,048
— 九州大学	8,835	9,036	9,342	9,509	9,599	10,183	10,477

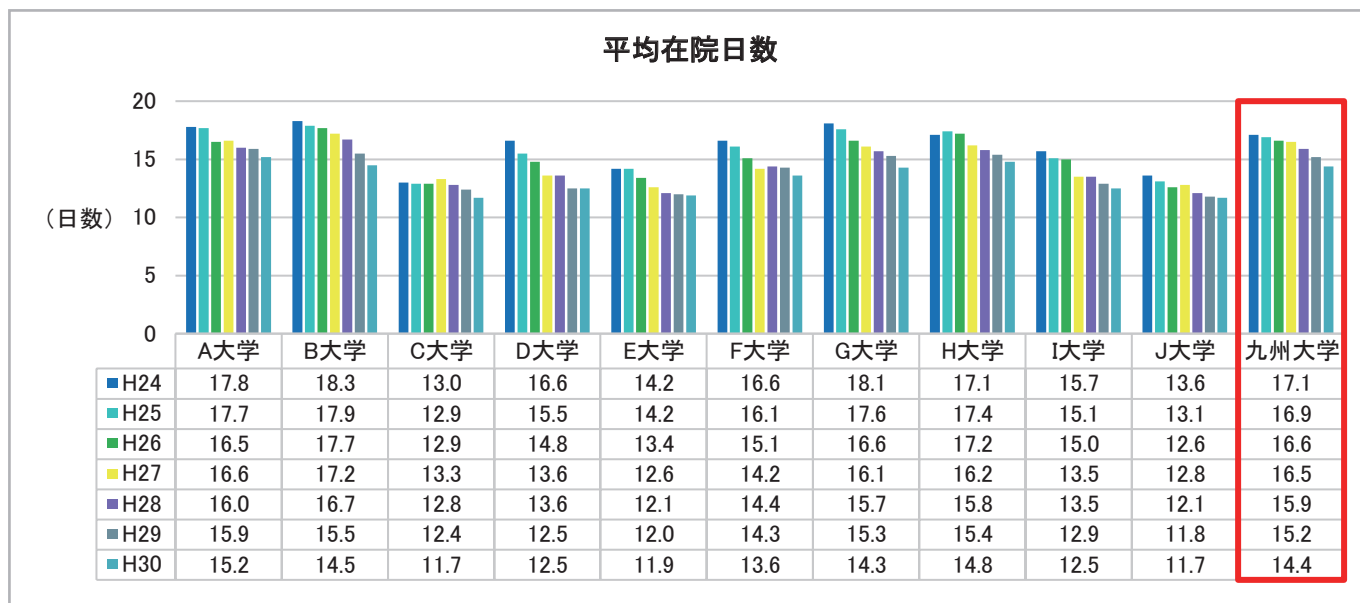
(年度)

- ・ 本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・ 国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
(※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
(※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

12-5. 平均在院日数の推移

◆九州大学・他大学病院◆

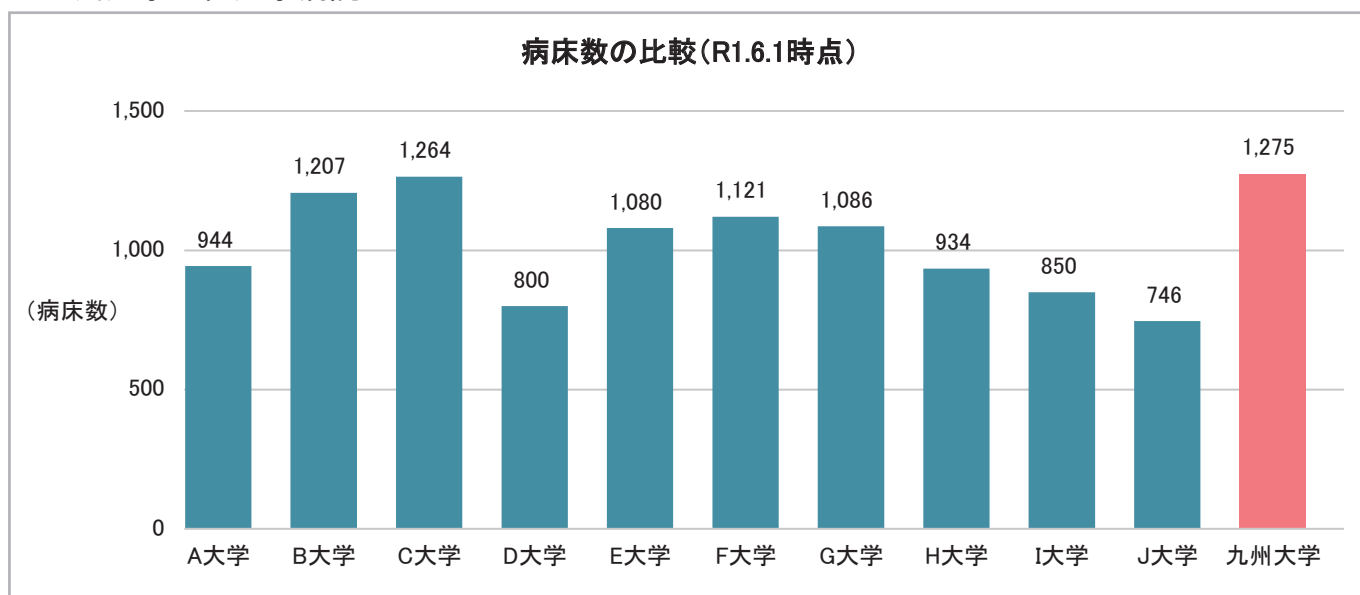


- ・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
 (※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。
- ・平均在院日数とは、病院全体で一人一人の患者が何日間入院しているかを示す指標である。質の保証と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるため、病院経営の質を示す指標のひとつとして活用されているものである。患者の重症度や疾病により入院日数は異なるため、単純比較できないことに留意。

出典：国立大学病院資料 診療データ(H24-30年度)

12-6. 病床数の比較

◆九州大学・他大学病院◆



- ・本院(センターや研究所附属病院は含まない)のみの比較。
- ・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」において(※1)Aグループ<13大学>及び(※2)RU11(学術研究懇談会)を構成する国立大学を「14大」と定義し、そのうち附属病院を有する11大学(本学を含む)間で比較。
 (※1)Aグループ：学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)
 (※2)RU11(学術研究懇談会)：国立・私立の設置形態を超えた11の大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大)による学術の発展を目的としたコンソーシアムである。

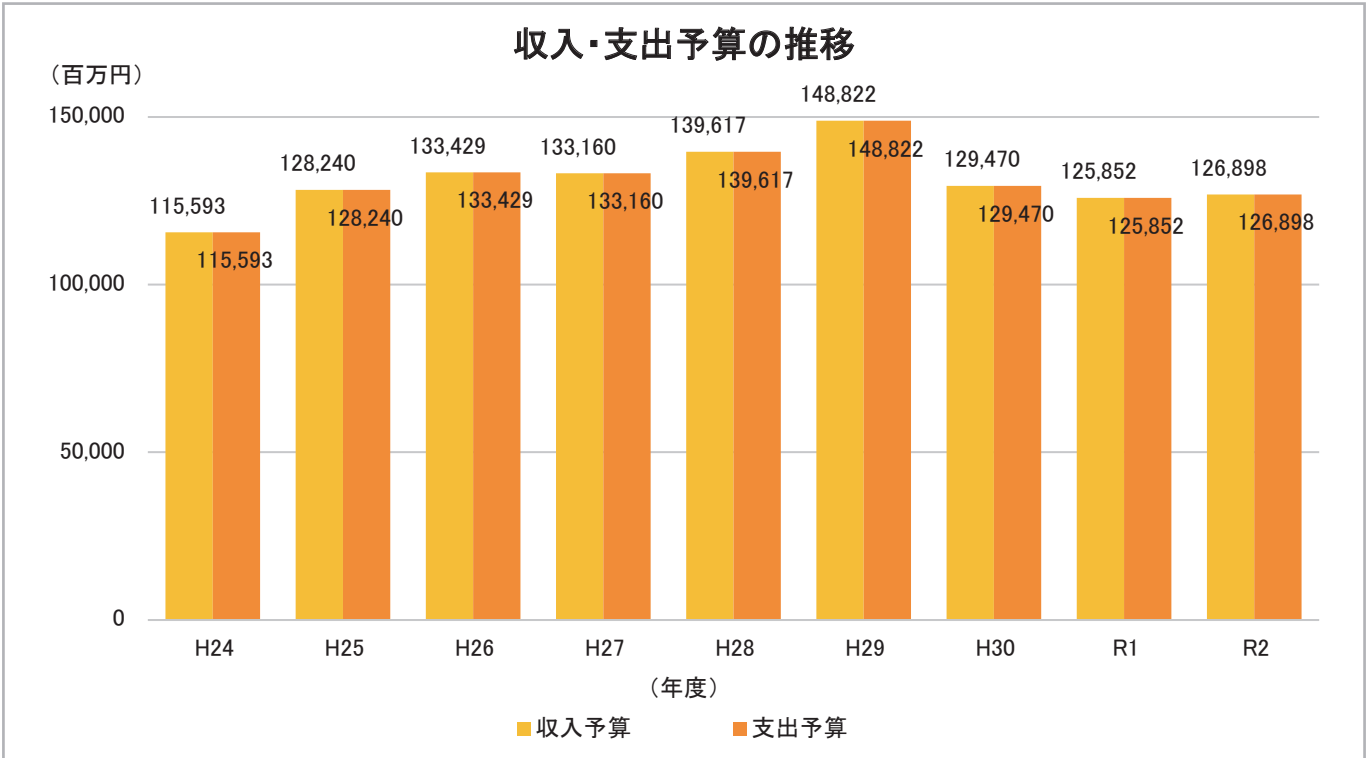
出典：国立大学病院資料 診療データ

13. 収入・支出

13-1. 収入・支出予算

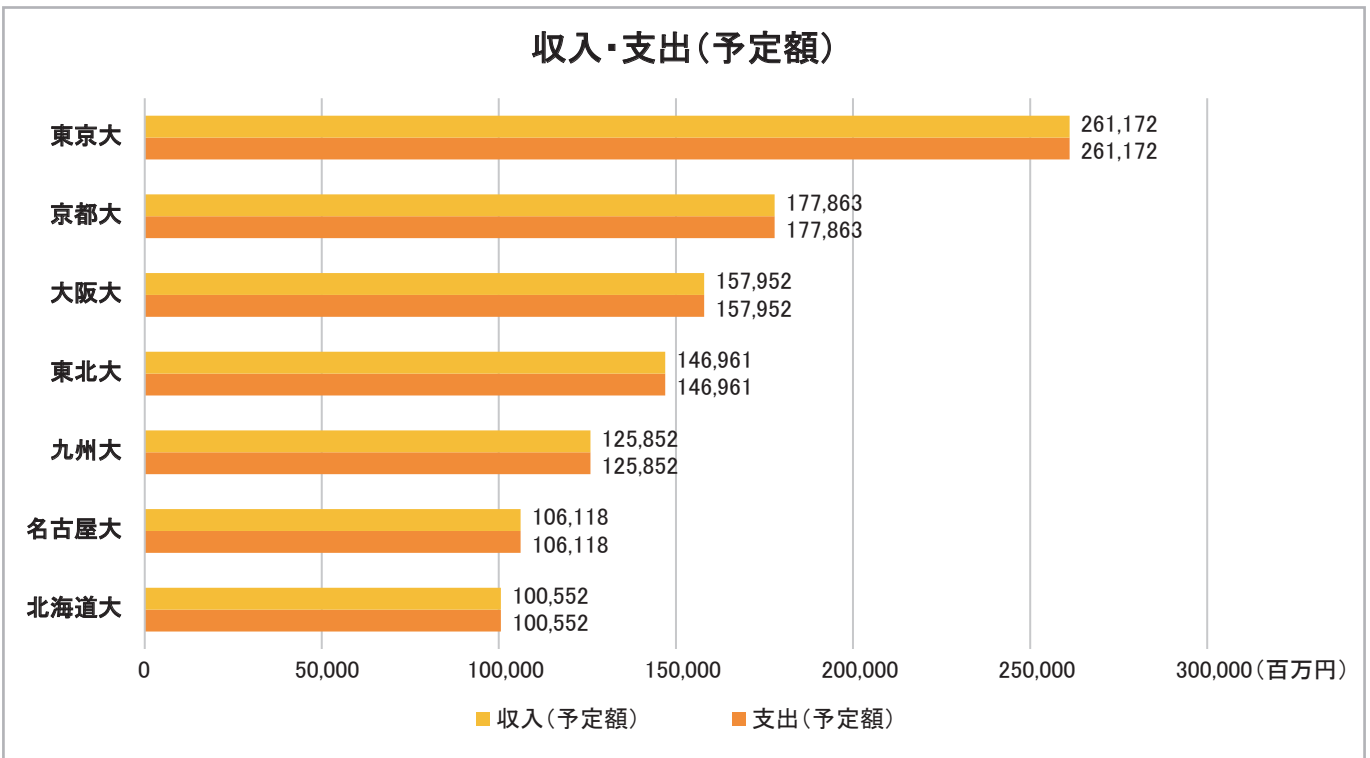
本学では、収入及び支出予算額は、キャンパス移転が完了した平成 30 年度から減少傾向にある。

◆九州大学◆



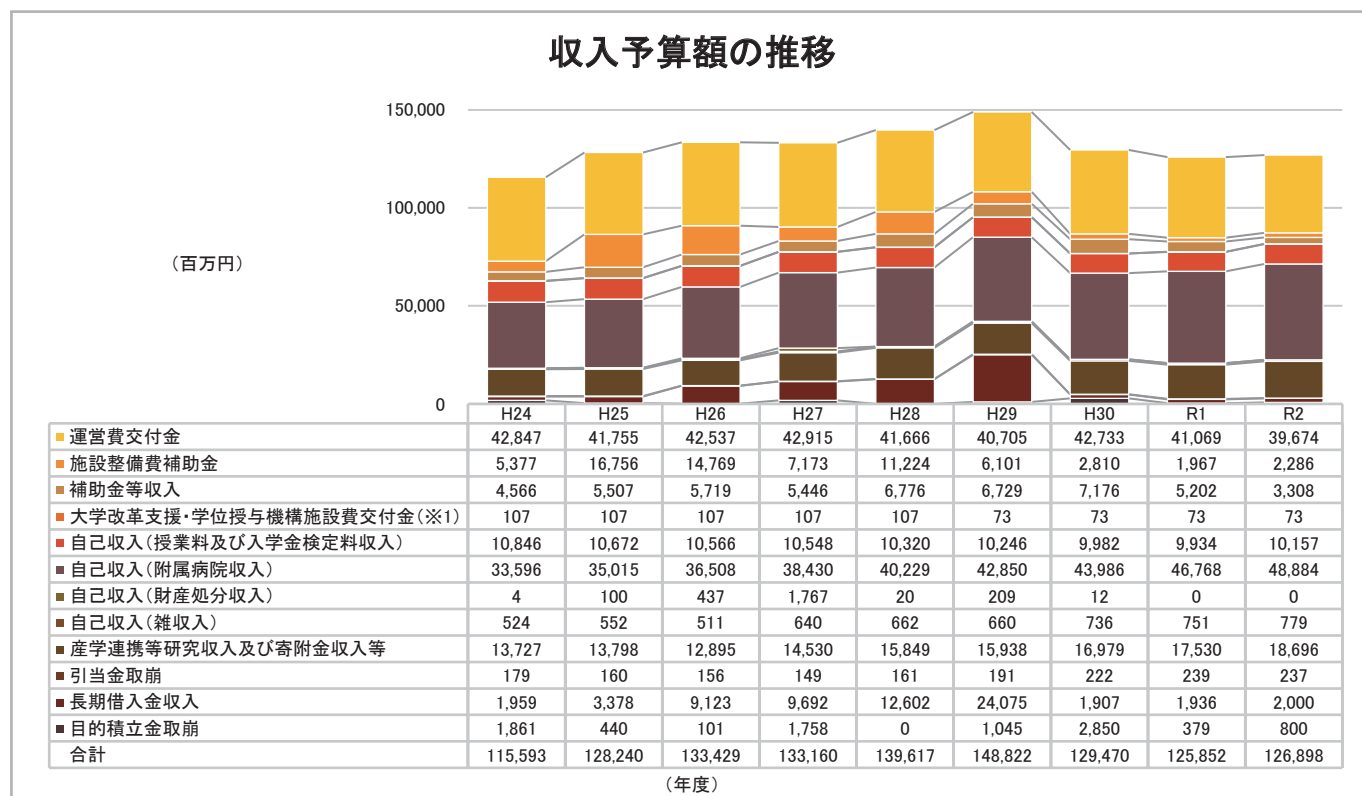
出典: 九州大学概要

◆他大学（令和元年度）◆



出典: 各大学HP及び大学概要

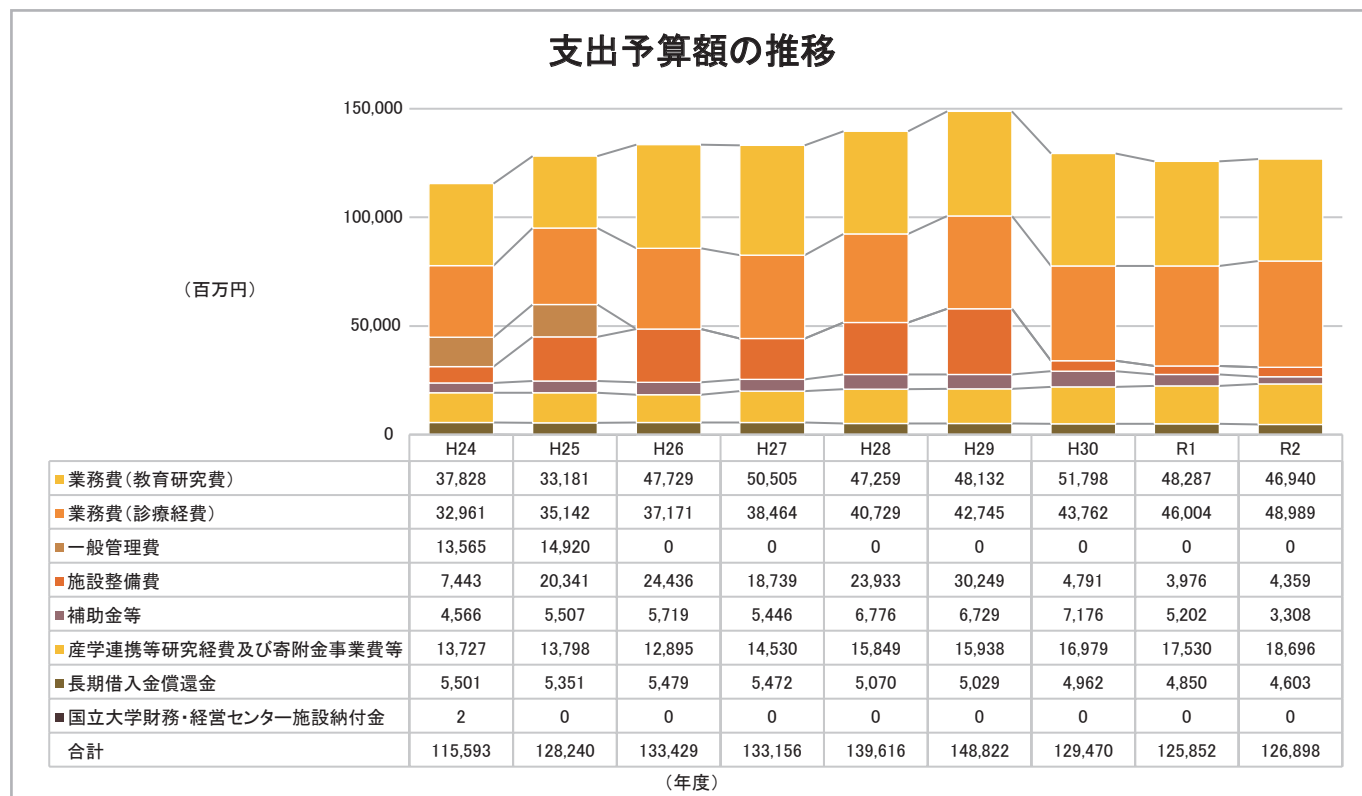
13-2. 収入予算額の推移



・百万円未満は切り捨てのため、合計額は不一致となる場合あり。
 (※1)平成28年度より「国立大学財務・経営センター」は「大学改革支援・学位授与機構」へ名称変更

出典:九州大学概要

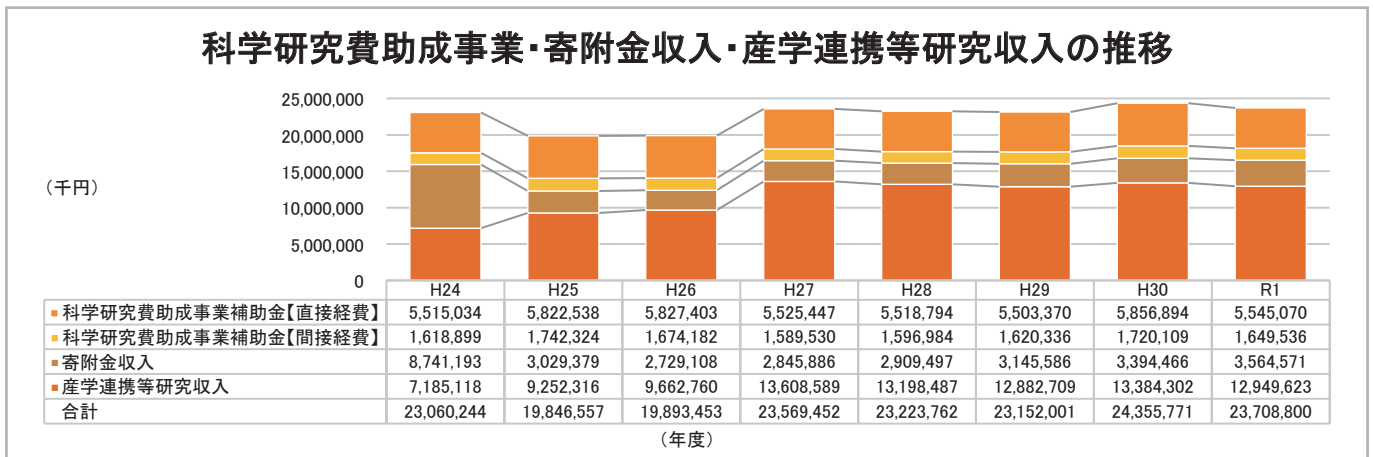
13-3. 支出予算額の推移



・百万円未満は切り捨てのため、合計額は不一致

出典:九州大学概要

13-4. 科学研究費助成事業・寄附金収入・産学連携等研究収入の推移



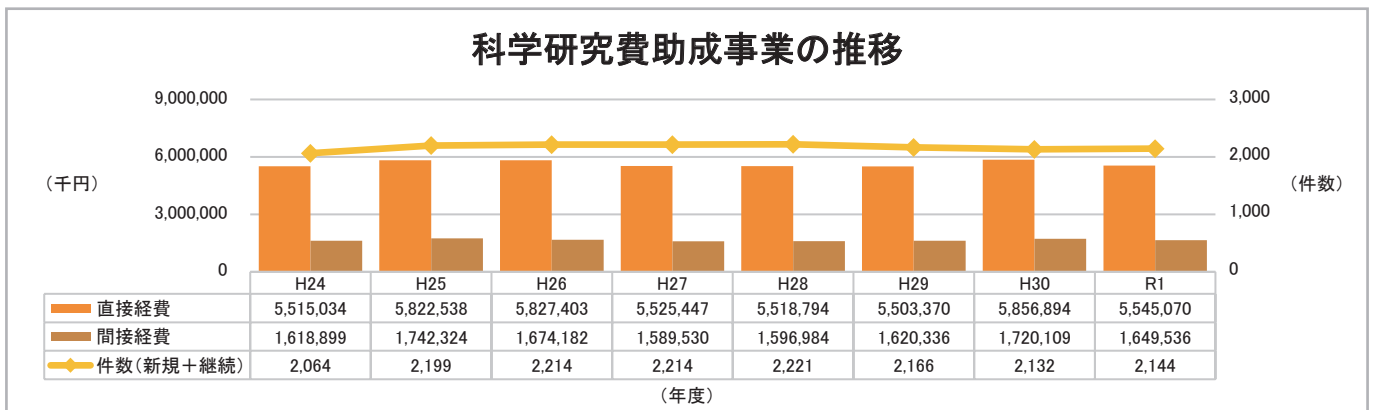
- ・科学研究費助成事業補助金は、本学から配分機関に対して行った実績報告基準。研究成果公開促進費を除く。
- ・寄附金収入は、各年度寄附講座分を含む。

出典：九州大学概要

13-5. 科学研究費助成事業

13-5-1. 科学研究費助成事業の推移

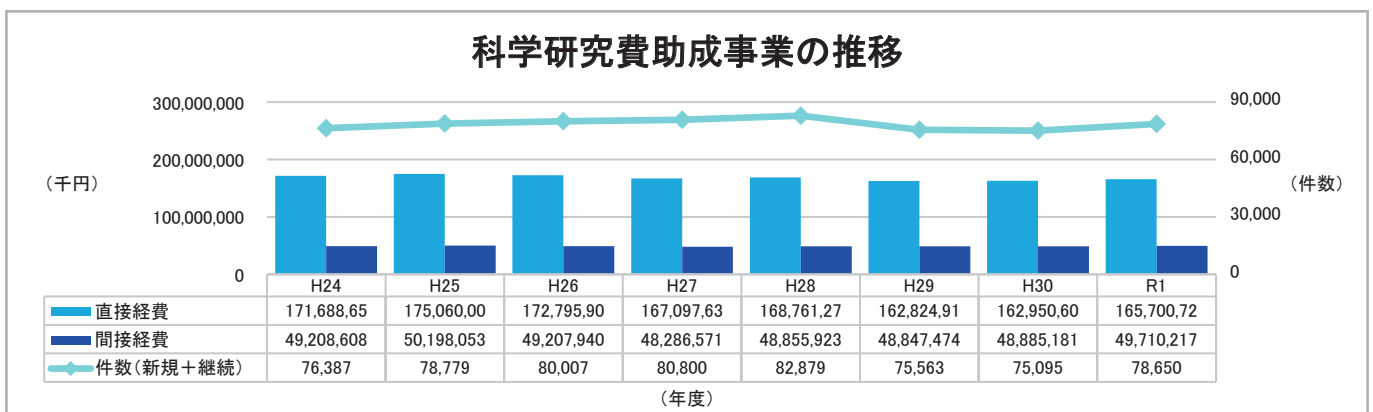
◆九州大学◆



- ・本学から配分機関に対して行った実績報告基準。
- ・研究成果公開促進費は除く。

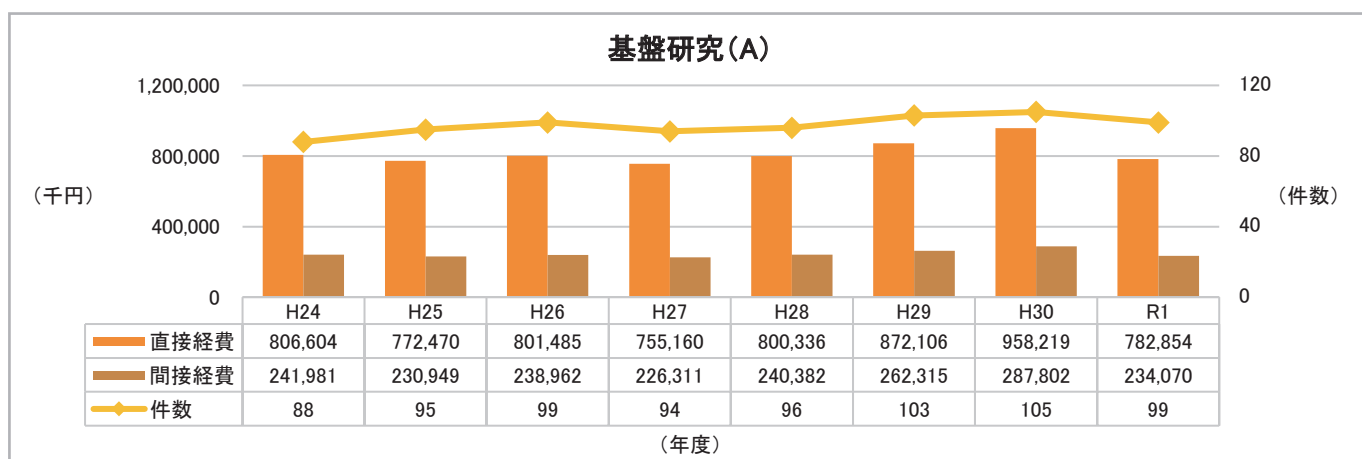
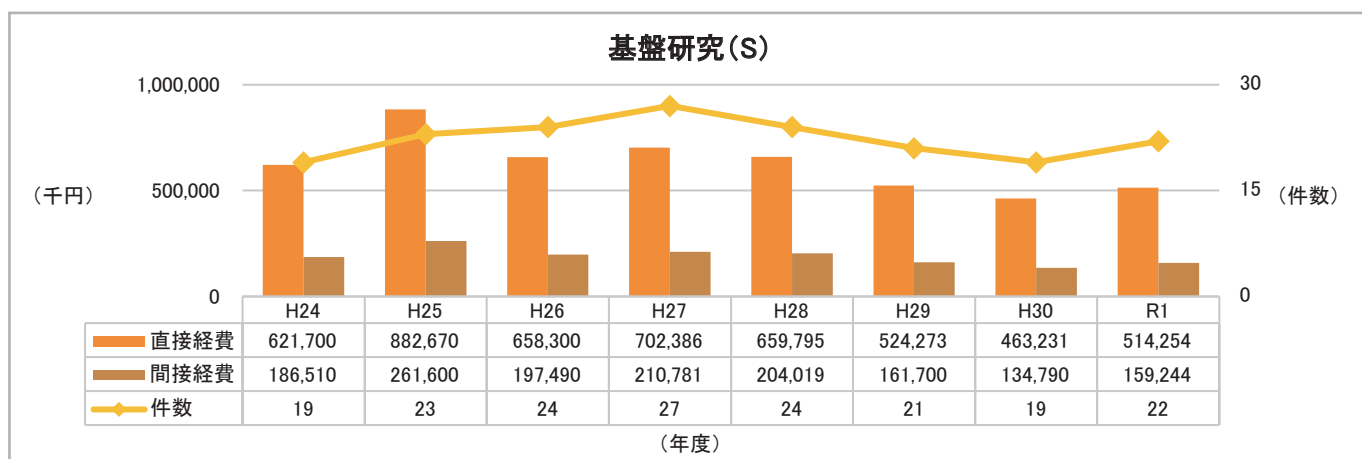
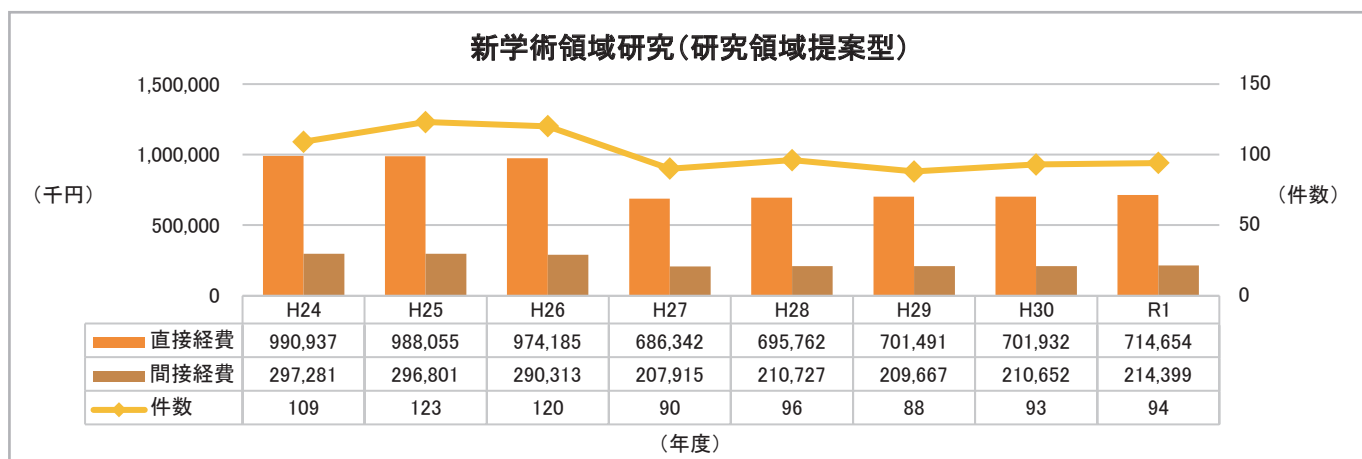
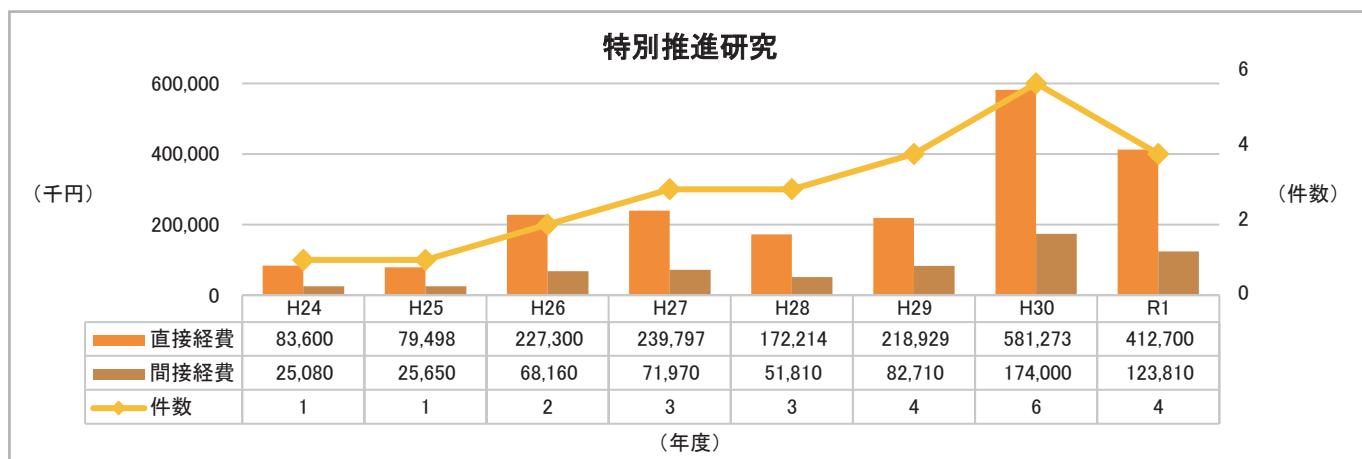
出典：九州大学概要

◆全国◆



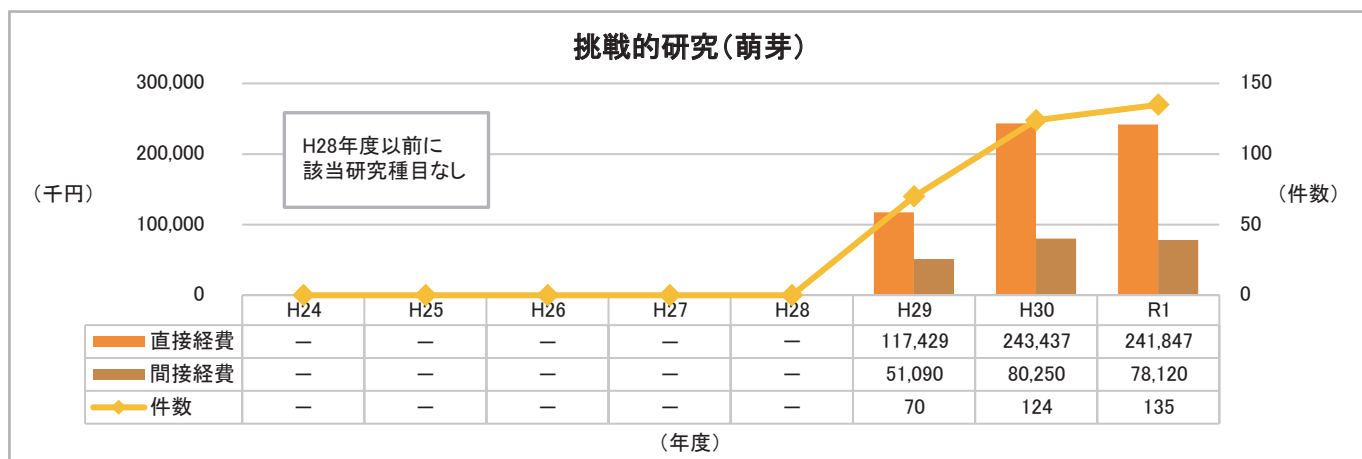
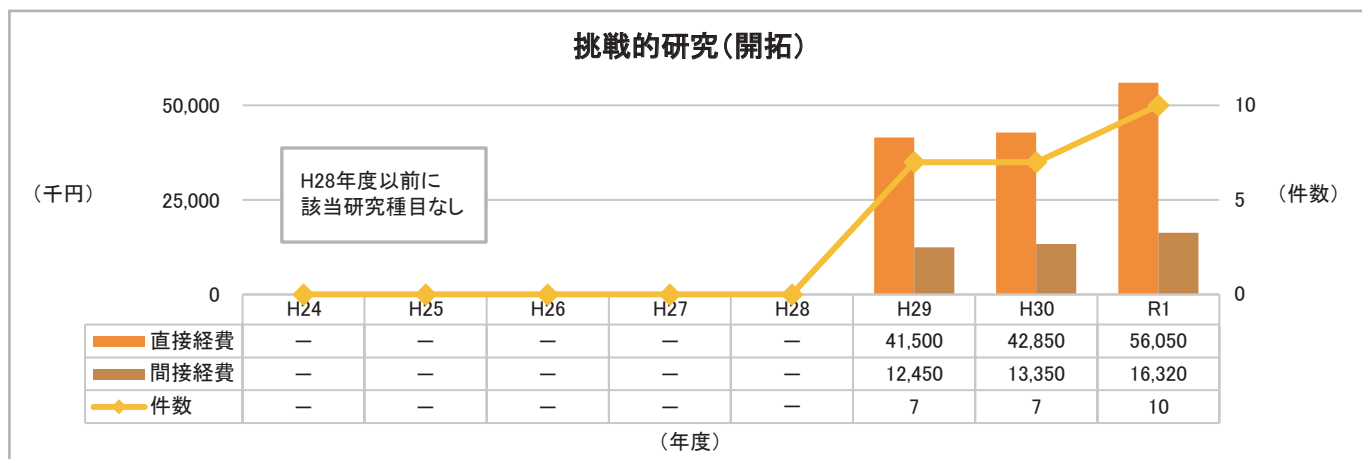
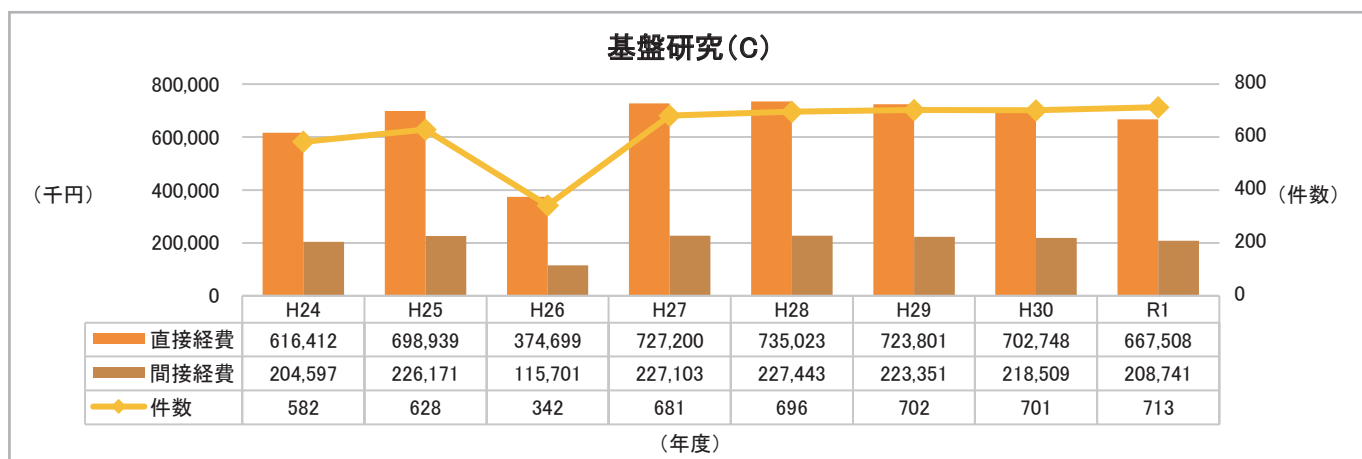
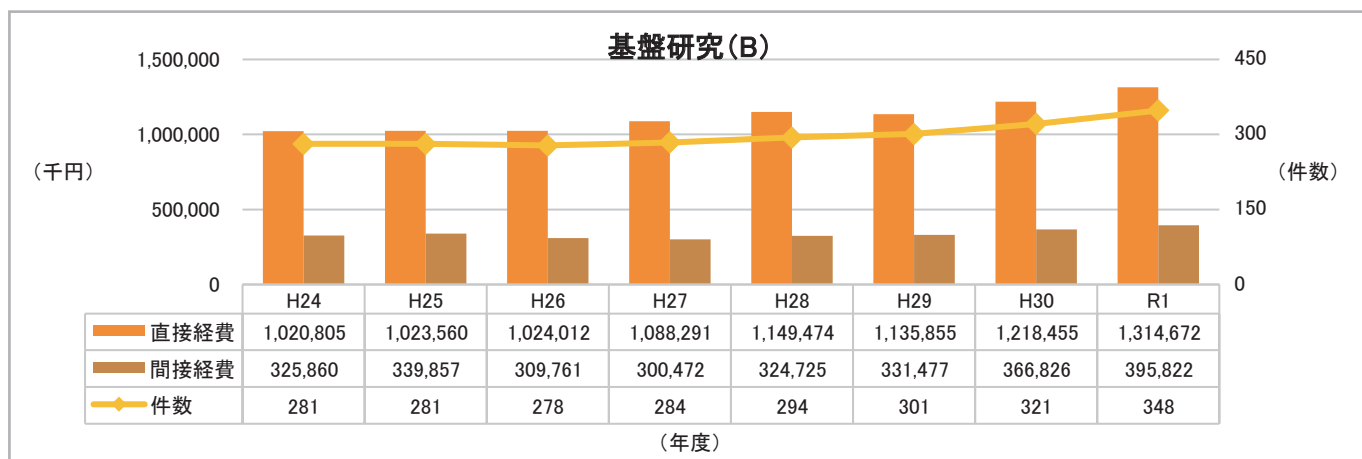
出典：日本学術振興会 科研費データ「科研費の配分状況」

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移（研究種目別）



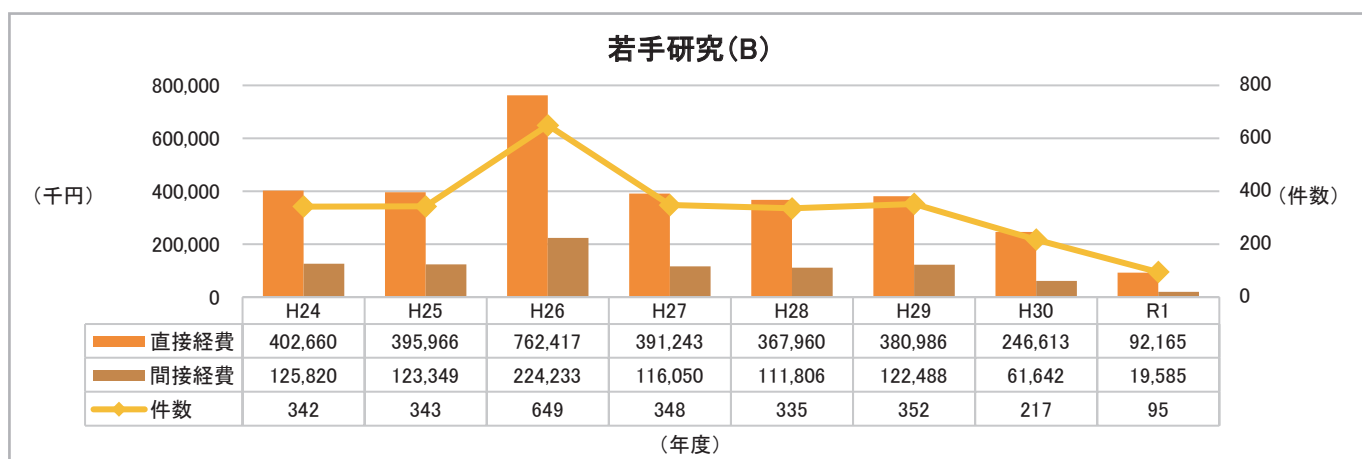
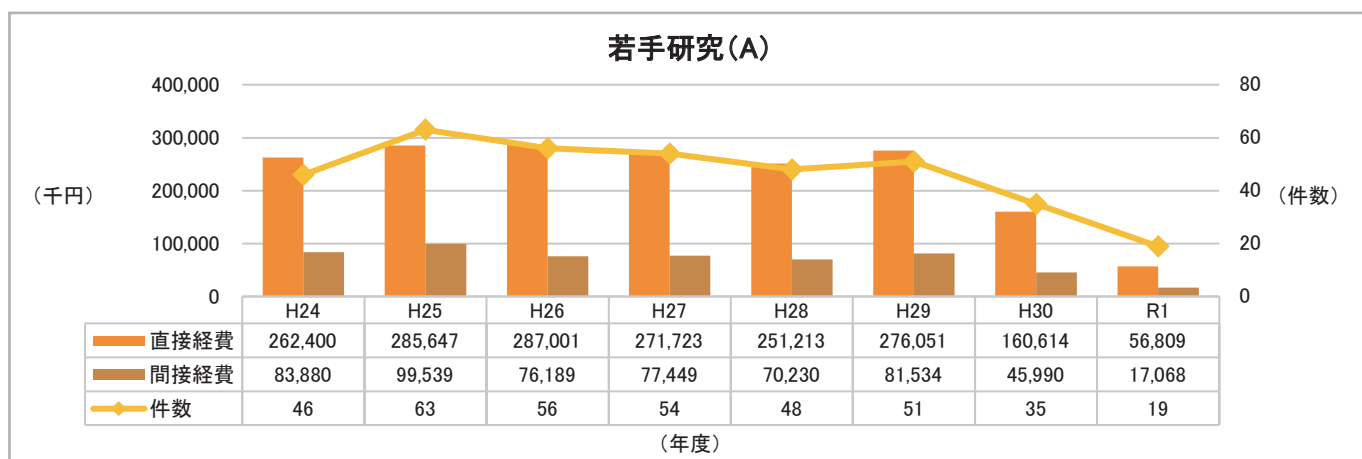
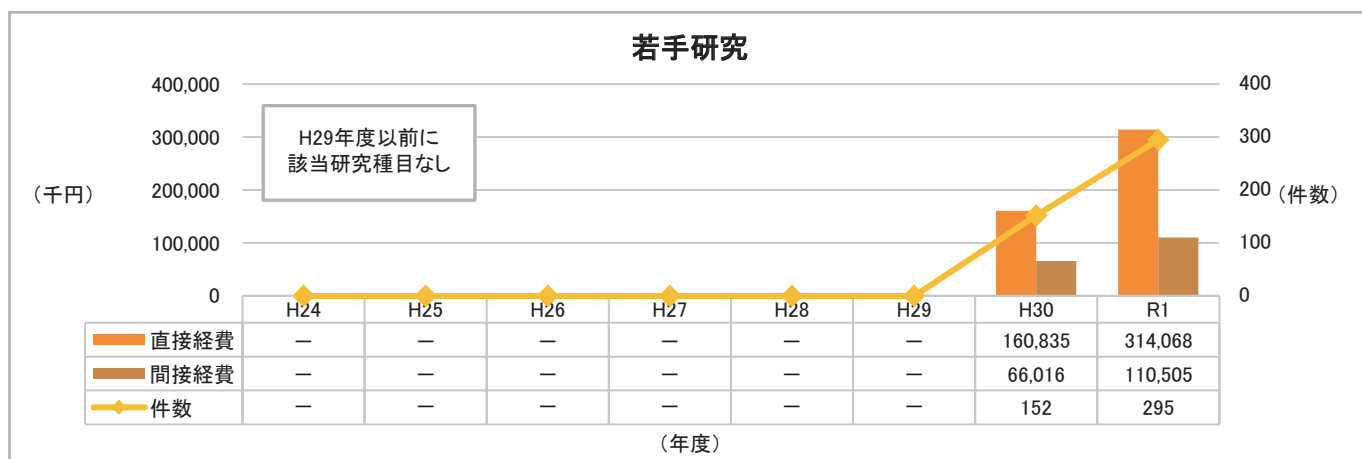
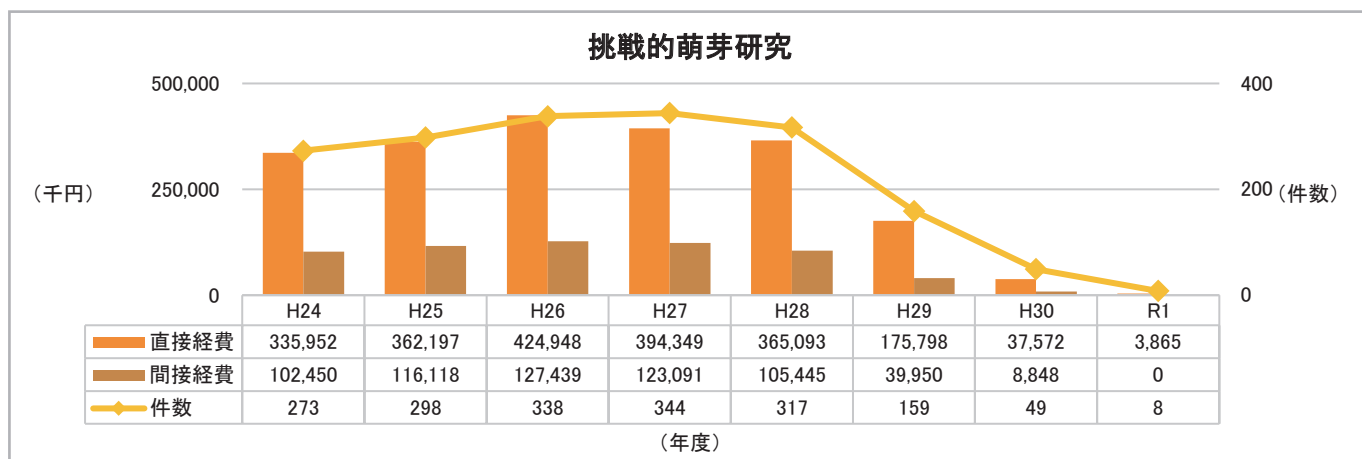
出典：九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移（研究種目別）（つづき）



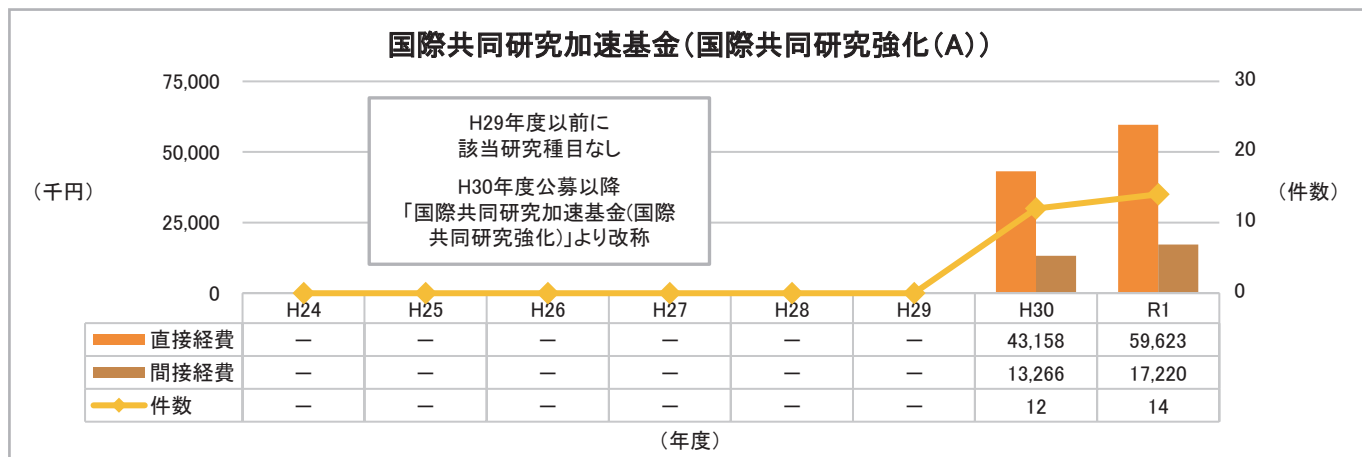
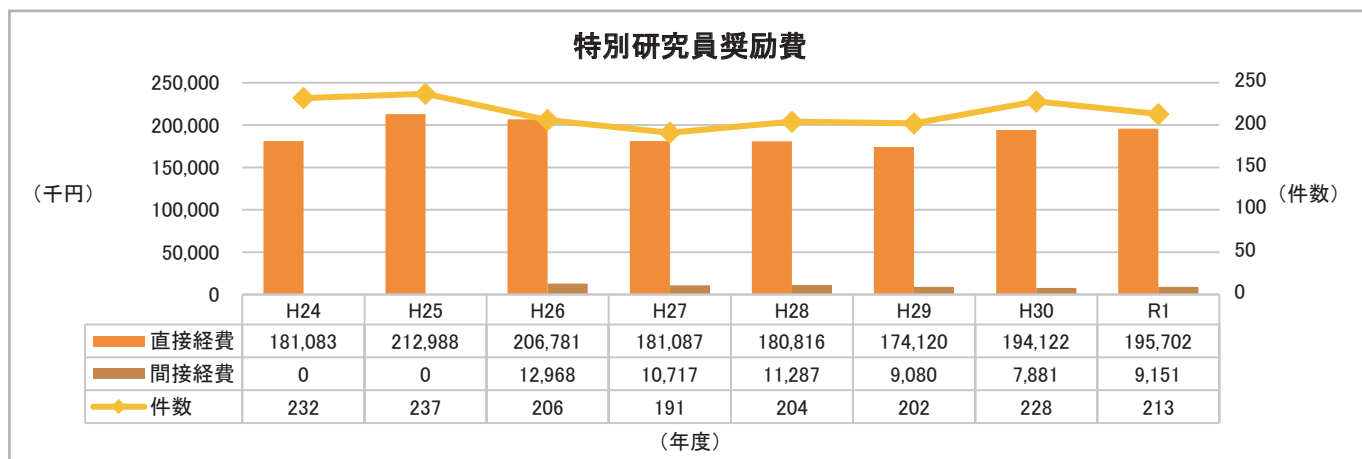
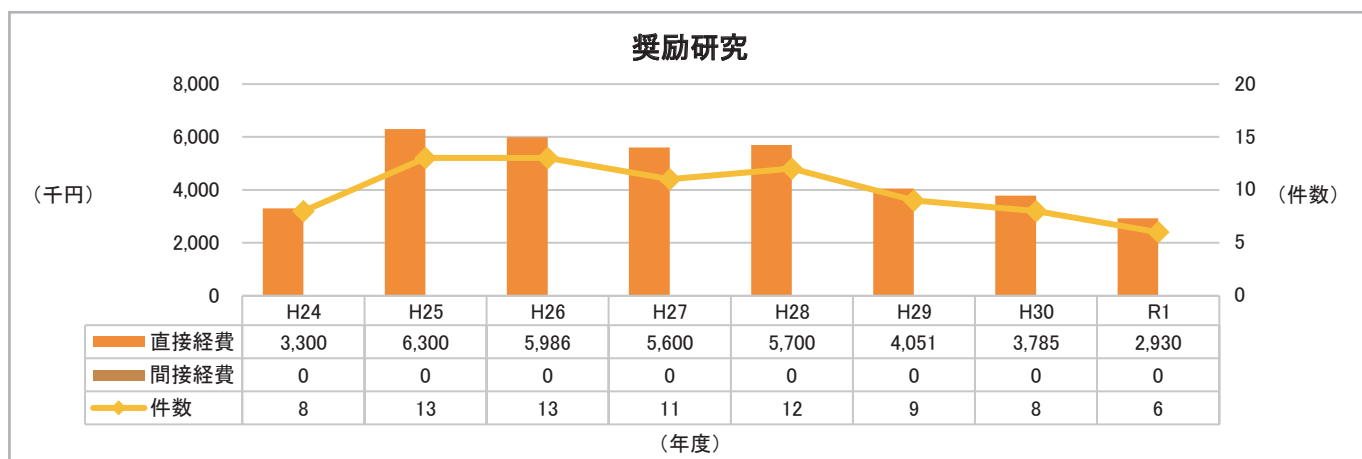
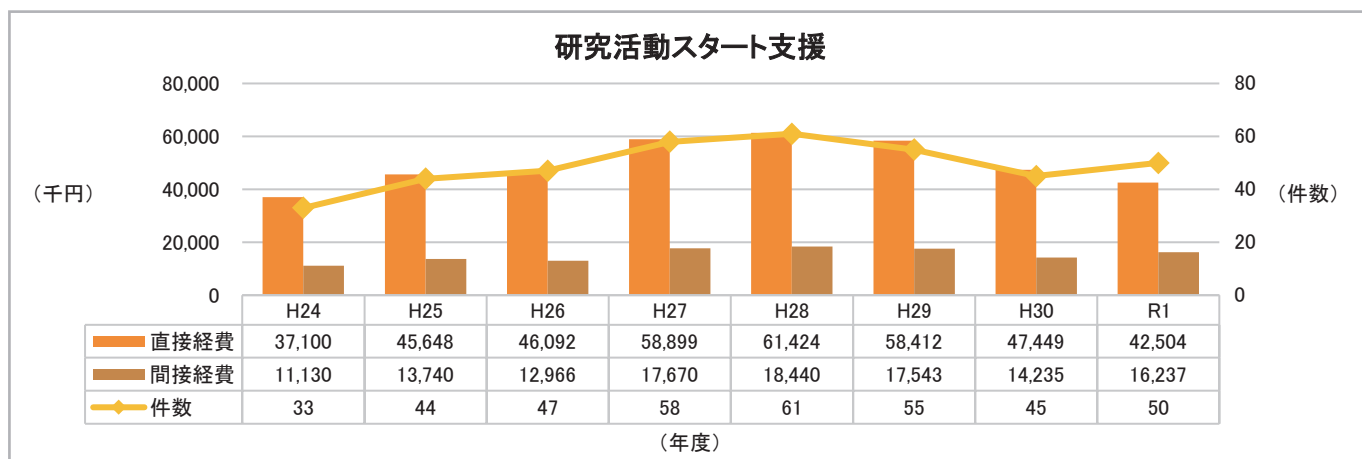
出典：九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移（研究種目別）（つづき）



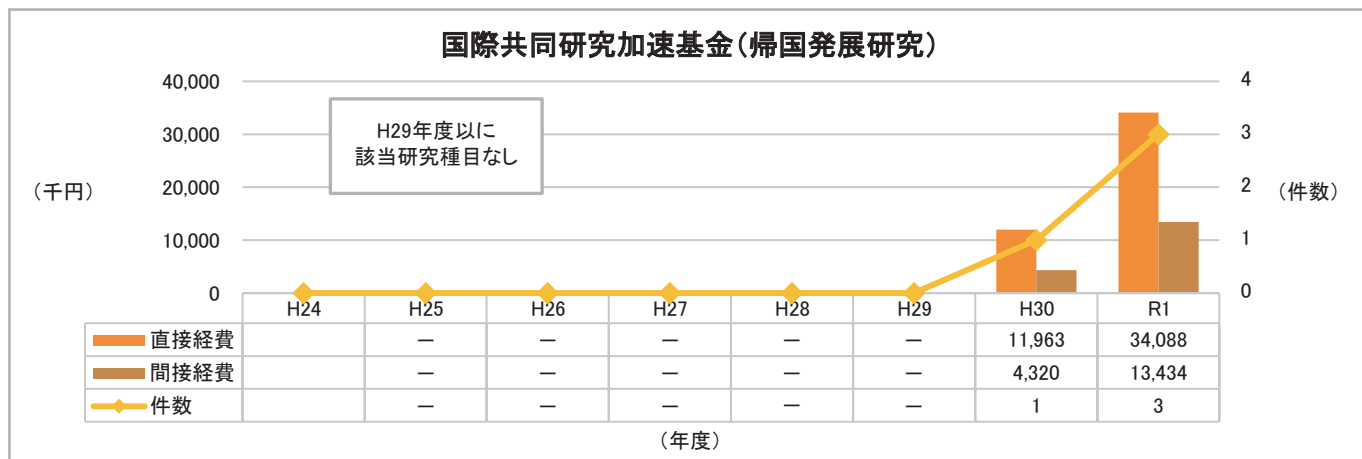
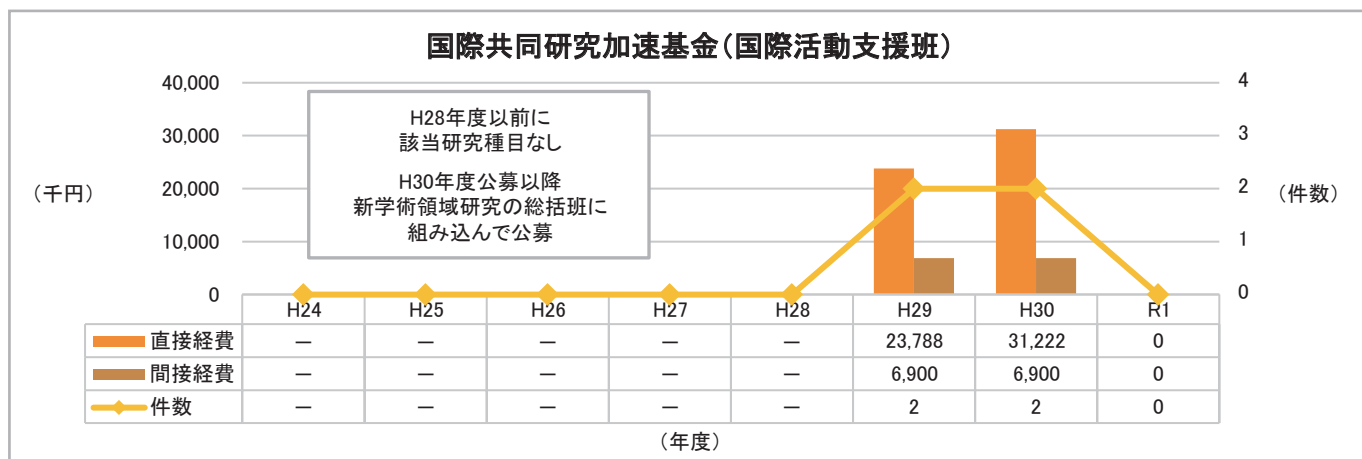
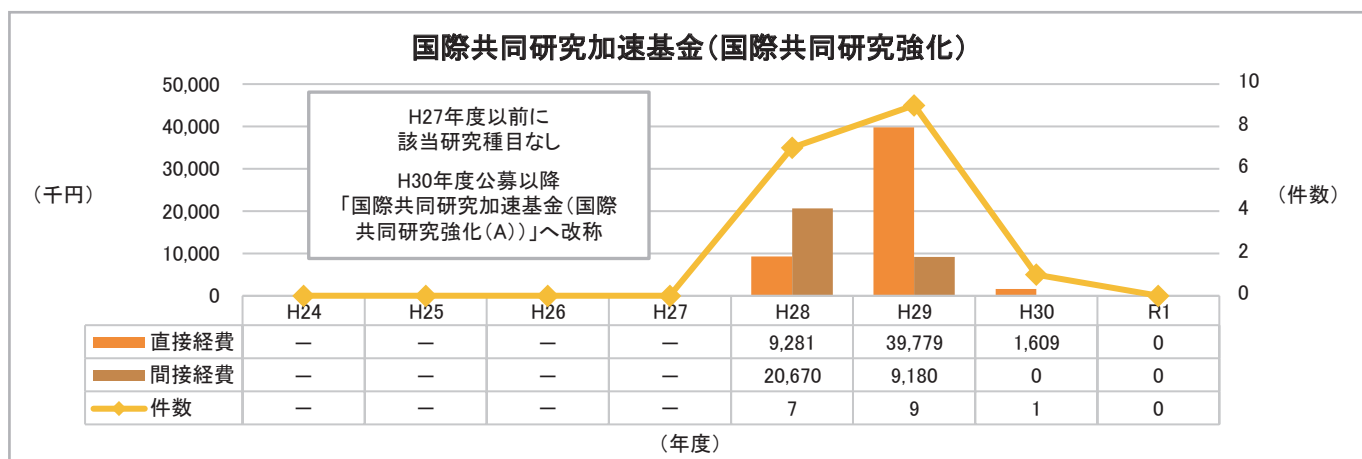
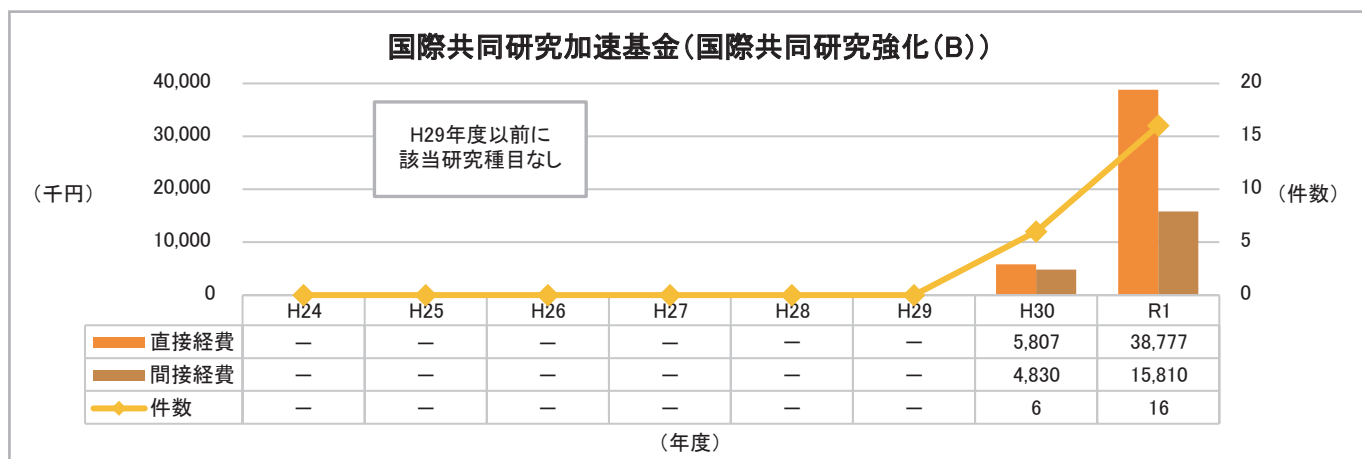
出典：九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移（研究種目別）（つづき）



出典：九州大学概要

13-5-2. 科学研究費助成事業の推移（研究種目別）（つづき）



出典：九州大学概要

13-5-3. 科学研究費助成事業の比較（各大学）

令和元年度科学研究費採択について、採択機関 1,353 機関中、採択件数の多い 10 機関で各項目の順位付けを行った。

◆新規＋継続◆

【採択件数】

順位	機関名	件数
1	東京大	3,995
2	京都大	2,898
3	大阪大	2,591
4	東北大	2,480
5	九州大	1,865
6	名古屋大	1,796
7	北海道大	1,694
8	筑波大	1,273
9	神戸大	1,144
10	広島大	1,135

【女性比率】

順位	機関名	比率 (%)
1	広島大	19.7%
2	筑波大	19.4%
3	神戸大	17.8%
4	名古屋大	16.9%
5	東京大	15.4%
6	大阪大	14.9%
7	九州大	14.7%
8	東北大	13.9%
9	北海道大	13.8%
10	京都大	13.0%

【若手比率】

順位	機関名	比率 (%)
1	東京大	38.6%
2	東北大	34.0%
3	大阪大	33.0%
4	九州大	31.5%
5	京都大	29.6%
6	名古屋大	29.5%
7	筑波大	28.8%
8	北海道大	28.7%
9	広島大	25.6%
10	神戸大	25.5%

【配分額】

順位	機関名	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	合計 (千円)
1	東京大	16,931,624	5,079,487	22,011,111
2	京都大	9,904,350	2,971,305	12,875,655
3	大阪大	8,373,674	2,512,102	10,885,776
4	東北大	7,439,150	2,231,745	9,670,895
5	名古屋大	6,318,980	1,895,694	8,214,674
6	九州大	5,261,657	1,578,497	6,840,155
7	北海道大	4,866,700	1,460,010	6,326,710
8	筑波大	3,232,500	969,750	4,202,250
9	神戸大	2,463,800	739,140	3,202,940
10	広島大	2,035,070	610,521	2,645,591

◆新規◆

【採択件数】

順位	機関名	件数
1	東京大	1,466
2	京都大	1,046
3	大阪大	987
4	東北大	959
5	名古屋大	671
6	九州大	669
7	北海道大	651
8	筑波大	481
9	広島大	408
10	神戸大	384

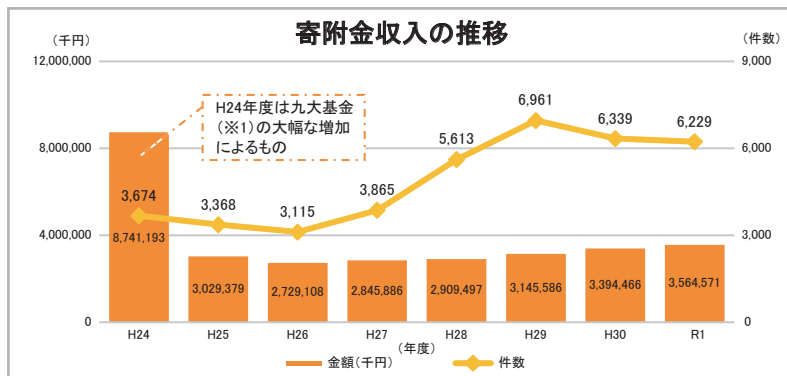
【採択率】

順位	機関名	採択率 (%)
1	京都大	40.1%
2	東京大	40.0%
3	大阪大	36.4%
4	北海道大	35.7%
5	東北大	35.6%
6	名古屋大	34.7%
7	筑波大	32.9%
8	神戸大	32.3%
9	広島大	29.9%
10	九州大	29.2%

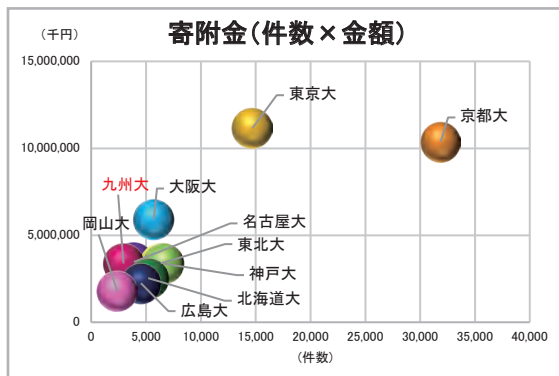
出典：日本学術振興会WEBサイト 研究機関別採択件数・配分額一覧「令和元年度科学研究費助成事業の配分について」

13-6. 寄附金収入の推移

◆九州大学◆



◆他大学(平成30年度)◆



・各年度寄附講座分を含む。

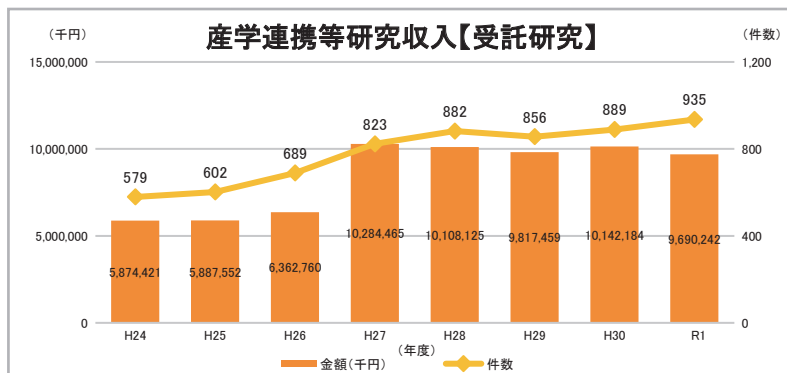
(※1)九大基金

百周年記念事業募金でご寄附いただいたご厚志を柱として創設したもの。本基金は、九州大学が、世界そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、本学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的としている。九大基金HP：<http://kikin.kyushu-u.ac.jp/index.php>

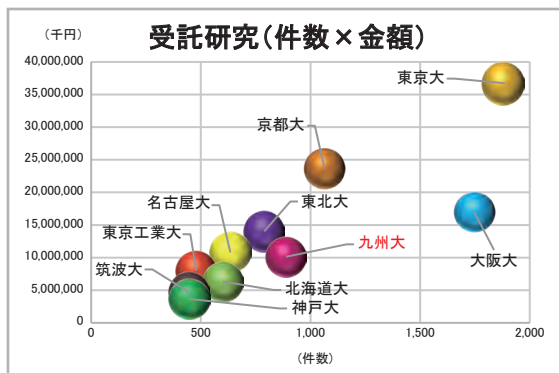
13-7. 産学連携研究収入の推移

13-7-1. 産学連携研究収入の推移(受託研究)

◆九州大学◆

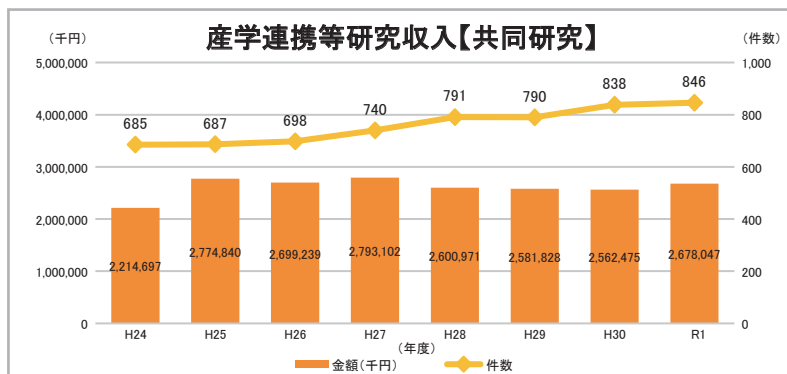


◆他大学(平成30年度)◆

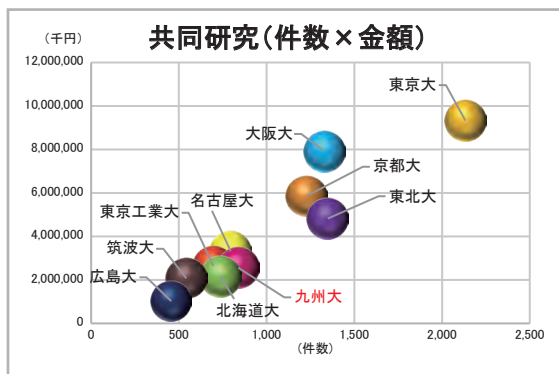


13-7-2. 産学連携研究収入の推移(共同研究)

◆九州大学◆



◆他大学(平成30年度)◆



・国立大学法人評価委員会「国立大学法人の財務分析上の分類」においてAグループ<13大学>(※1)及びRU11(学術研究懇談会)(※2)を構成する国立大学を「14大」と定義し、うち上位10大学間で比較を行った。

※14大…北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、新潟大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岡山県大、広島大、九州大(大学番号順)

(※1)Aグループ: 学生収容定員1万人以上、学部等数概ね10学部以上の国立大学法人(学群、学類制などの場合は、学生収容定員のみ)

(※2)RU11: 研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けてきている大学(Research University)による国立私立の設置形態を超えたコンソーシアム

出典: 本学 九州大学概要
他大学 各大学 大学概要

14. 研究プログラム及び教育プログラムの採択状況

14-1. 研究プログラム採択状況

【平成24年度新規採択分】

■橋渡し研究加速ネットワークプログラム

研究領域	研究総括	期間
創造的次世代医療実現化を担うAROの構築	医学研究院教授 中西 洋一	平成24年度～平成28年度

■研究拠点形成費等補助金(若手研究者養成費)

事業名	実施責任者	期間
卓越した大学院拠点形成費補助金	理事・副学長 藤木 幸夫	平成24年度～平成25年度

■研究支援体制整備事業費補助金

事業名	機構長	期間
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	理事・副学長 藤木 幸夫	平成24年度～平成26年度

【平成25年度新規採択分】

■科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(ERATO型研究)

プロジェクト名	研究総括	期間
安達分子エキシトン工学プロジェクト	最先端有機光エレクトロニクス研究センター長 安達 千波矢	平成25年度～令和元年度

■研究大学強化促進費補助金

事業名	総括責任者	期間
研究大学強化促進事業	総長 久保 千春	平成25年度～令和4年度

■革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)

拠点名	拠点長	期間(予定)
持続的共進化地域創成拠点	安浦 寛人	平成25年度～令和3年度

【平成26年度新規採択分】

■グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)

プログラム名	総括責任者	期間
九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業	ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター 特命教授 谷川 徹	平成26年度～平成28年度

・平成24年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

出典:九州大学概要

14-1. 研究プログラム採択状況（つづき）

【平成27年度新規採択分】

■研究支援体制整備事業費補助金

事業名	機構長	期間
リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備 (リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)	理事・副学長 若山 正人	平成27年度～平成28年度 (平成24年度～平成26年度)

■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ	総長 久保 千春	平成27年度～令和2年度

【平成28年度新規採択分】

■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
卓越研究員事業	総長 久保 千春	平成28年度～令和5年度

【平成29年度新規採択分】

■橋渡し研究戦略的推進プログラム

事業課題名	事業担当者名	期間
地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発	医学研究院 教授 馬場 英司	平成29年度～令和3年度

■科学技術人材育成費補助金

プログラム名	総括責任者	期間
次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT) 多様性と創造的協働に基づくアントレプレナー育成プログラム (IDEA : Innovation x Diversity x Entrepreneurship Education Alliance)	経済学研究院 産業マネジメント部門 教授 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・ センター長 高田 仁	平成29年度～令和3年度

【平成30年度新規採択分】

なし

【令和元年度新規採択分】

■科学技術人材育成費補助金

事業課題名	事業担当者名	期間
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (先端型)	総長 久保 千春	令和元年度～令和6年度

【令和2年度新規採択分】

■世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) アカデミー国際頭脳循環の加速・拡大事業

事業課題名	事業担当者名	期間 (予定)
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所	PETROS SOFRONIS	令和2年度～

・平成24年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

出典: 九州大学概要

14-2. 教育プログラム採択状況

【平成23年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
政策立案人材育成等 拠点形成事業費補助事業	科学技術イノベーション政策教育研究センター	科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点整備事業	平成23年度～令和7年度

【平成24年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
次世代科学者育成プログラム	理学部	エクセレント・スチューデント・イン・サイエンス育成プロジェクト(ESSP)－九州大学理学部次世代科学者育成プログラム－	平成24年度
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	医学系学府、薬学府	九州がんプロ養成基盤推進プラン	平成24年度～平成28年度
医学部・大学病院の教育研究活性化及び地域・へき地医療人材の確保	病院	九州大学医学部・大学病院の教育研究活性化及び地域・へき地医療人材の確保事業	平成24年度～平成28年度
大学の世界展開力強化事業	工学府	地球資源工学グローバル人材育成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム	平成24年度～平成28年度
大学の世界展開力強化事業	法学府	スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して	平成24年度～平成28年度
大学間連携共同教育推進事業	システム情報科学府	未来像を自ら描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成	平成24年度～平成28年度
経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援	農学部	国際的視野を持ったアグリバイオリダーの育成プログラム	平成24年度～平成28年度
博士課程教育リーディングプログラム	総合理工学府、工学府	グリーンアジア国際戦略プログラム	平成24年度～平成30年度
博士課程教育リーディングプログラム	工学府、理学府、システム情報科学府	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	平成24年度～平成30年度
国立大学改革推進事業(総合支援型)	全学	基幹教育の構築による新たな学士課程教育モデルの提起	平成24年度～平成29年度

【平成25年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
国際原子力人材育成イニシアティブ事業「機関横断的な人材育成事業」	工学府	「総合的原子力人材育成カリキュラムの開発～計算機シミュレーションを活用した実証的原子力実験・演習プログラムの整備～」	平成25年度～平成27年度
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業	人間環境学研究院	中核的専門人材育成のためのグローバル・コンソーシアム等	平成25年度～平成27年度
先進的医療イノベーション人材養成事業(未来医療研究人材養成拠点形成事業)	医学研究院	イノベーションを推進する国際的人材の育成	平成25年度～平成29年度
先進的医療イノベーション人材養成事業(未来医療研究人材養成拠点形成事業)	病院	地域包括医療に邁進する総合診療医育成	平成25年度～平成29年度
博士課程教育リーディングプログラム	全学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	平成25年度～令和元年度

・平成24年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

出典：九州大学概要

14-2. 教育プログラム採択状況（つづき）

【平成26年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
グローバルサイエンスキャンパス	理学部、工学部、 芸術工学部、農学部	世界に羽ばたく未来創成科学者育成プロジェクト	平成26年度～平成29年度
課題解決型高度医療人材養成プログラム	医学部	実践能力強化型チーム医療加速プログラム	平成26年度～平成30年度
スーパーグローバル大学創成支援	全学	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル 研究・教育拠点創成 (SHARE-Q)	平成26年度～令和5年度

【平成27年度新規採択分】

なし

【平成28年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
大学の世界展開力強化事業	総合理工学府	エネルギー環境理工学グローバル人材育成の ための大学院協働教育プログラム -ダブルディ グリープログラムの高度化と定着・恒常化-	平成28年度～令和2年度
大学の世界展開力強化事業	人間環境学府	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引 する人材育成のための協働教育プログラム	平成28年度～令和2年度

【平成29年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
先進的医療イノベーション人材養成事業	医学系学府、薬学府	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン	平成29年度～令和3年度
原子力人材育成等推進事業	工学研究院	多角的思考力の養成と規制を加味した九州大 学原子力カリキュラムの充実	平成29年度～令和3年度

【平成30年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
超スマート社会の実現に向けたデータサイ エンティスト育成事業	システム情報科学府	九州コンソーシアムによる副専攻型高度データ サイエンス教育プログラム	平成30年度～令和4年度

【令和元年度新規採択分】

プログラム名称	責任部局名	取組名称	取組期間
教育関係共同利用拠点	基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点	令和元年度～令和5年度

・平成24年度以降新規採択分を掲載。なお、それ以前のプログラムについては継続中のものを掲載。

出典：九州大学概要

謝辞

「KYUSHU UNIVERSITY FACT BOOK 2020」の作成に当たり、九州大学各部署及び学外機関の皆様より、貴重なデータを提供していただきました。また、本書発行に当たっては、ご助言及びご助力を多数の関係者の皆様に頂戴しました。ご協力に心より感謝いたします。

本書の完成は、ご協力いただいた皆様方の並々ならぬご尽力の賜物であり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

令和2年11月 国立大学法人九州大学 企画部企画課分析係・IR室

国立大学法人九州大学企画部企画課
分析係・IR(インスティテューショナル・リサーチ)室
〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2145
<https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/>



2020年11月
発行



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学

KYUSHU UNIVERSITY